

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

— 畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

# 城久遺跡群

## 山田半田遺跡

（山田半田A遺跡・山田半田B遺跡）



2009年3月

喜界町教育委員会



卷頭カラー



土坑墓2号副葬品



## 序 文

この報告書は、平成14・16・17・19・20年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本遺跡は畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴い発掘調査を実施し、掘立柱建物跡113棟、土坑墓7基などを検出しました。建物跡の中には面積が150㎡を越える大型のものもあり、建物跡の数や規模は南西諸島では他に類を見ないもので、本遺跡が城久遺跡群の中でも中核的な役割を果たしていた可能性が指摘されました。このことは、これまでの山田中西遺跡の調査成果や文献史学の研究とも重なり城久遺跡群が全国の考古学・文献史学研究者の注目を集めるきっかけとなりました。また、出土遺物は、中世の様相を示すものが多く出土しましたが、中には、越州窯系青磁・初期高麗青磁・灰釉陶器など、当時では役所などのごく限られたところでしか出土していないとされる中国・朝鮮半島・東美濃地方の高価な焼き物なども出土しています。

また、土師器・須恵器・布目圧痕土器・白磁・滑石製石鍋・カムイヤキなど、島外産の遺物が多く見られ、日本本土を含む他地域との活発な交流があったことをうかがわせます。

今回の発掘調査報告書によって、喜界町民はもとより、多くの方々が山田半田遺跡について御理解いただくとともに、今後とも広く文化財の保護に御理解と御協力をいただくことができましたら幸いです。

おわりに、発掘調査に従事していただいた町民の皆様はじめ、発掘調査から報告書作成にいたるまで、御指導・御協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センター、その他関係機関の方々に対し、深く感謝の意を表しますとともにお礼申し上げます。

平成21年3月

喜界町教育委員会  
教育長 晴水 清道

## 報告書抄録

ふりがな	やまだはんたいせき							
書名	山田半田遺跡							
副書名	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	10							
編集者名	澄田直敏 野崎拓司 後藤法宜							
編集機関	喜界町教育委員会							
所在地	〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746							
発行年月日	西暦2009年 3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまだはんたいせき 山田半田遺跡 (旧山田半田A 遺跡・山田半 田B遺跡)	かごしまけんおきなわしまてん 鹿児島県大島郡 喜界町大字山田 あまやまだはんたい 字山田半田	469251	90-69・	28° 18' 20"	129° 58' 00"	2002.5.13 ～ 2002.5.29	確認調査 150	畑地帯総合整備事業(担い手育成型) 城久地区
			90-128			2004.2.6 ～ 2004.2.19	確認調査 230	
						2004.5.6 ～ 2005.8.20	本調査 4,000	
						2005.5.9 ～ 2006.3.24	本調査 17,000 ( <sup>6</sup> 8,000は 塵土保存に 変更)	
						2007.5.8 ～ 2008.3.19	本調査 800	
						2008.6.2 ～ 2008.10.2	本調査 900	
							計23,080	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
山田半田遺跡	集落跡	古代・中世	掘立柱建物跡113棟、土坑墓7基、焼土跡5基、土坑17基、焼土を伴う土坑15基、焼土土坑1基、溝状遺構4条、柱穴約5,000基	土師器、須恵器、兼久式土器、越州窯系青磁、布目瓦痕土器、灰釉陶器、白磁、初期高麗青磁、朝鮮系無釉陶器、カムイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、青磁、鉄製品、鉄製品、鉄、ガラス玉、刀子、籬の羽口、鉄滓、粘土塊、磨製石斧、白石、磨石、砥石、軽石製品など		調査後の遺跡については消滅しているが、遺構の集中区域(8,000m <sup>2</sup> )については町有地化や盛り土による保存が図られた。		
要約	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴い調査された当遺跡は、海岸段丘上に立地する古代～中世の集落跡である。集落跡は掘立柱建物跡を中心に構成され、その数は100棟を超える。また、建物跡に隣接するように土坑墓が検出されている。土坑墓には火葬骨と共に白磁碗・カムイヤキ小壺・ガラス玉や白磁合子・銅製品・鉄製品などが副葬されているものなどがある。遺物では、中国や朝鮮半島産の陶磁器の他、本土系の土師器や須恵器、東濃産の灰釉陶器、長崎産の滑石製石鍋、徳之島伊仙町で生産されたカムイヤキなど島外産の占める割合が非常に高いという特徴がある。中でもこれまでの出土事例の南限を下げた越州窯系青磁や南九州で出土事例の少ない灰釉陶器・初期高麗青磁・朝鮮系無釉陶器の出土は大きな注目を集めている。							



## 例 言

- 1 本報告書は、畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う山田半田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成14・16・17・19・20年度に喜界町教育委員会が、鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係）の受託事業として、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもとに実施した。
- 3 報告書作成は、喜界町教育委員会が平成20年度事業として鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもとに実施した。
- 4 本書の遺跡名を山田半田遺跡としているが、これはもともと離れて立地していた山田半田A遺跡と山田半田B遺跡が発掘調査を実施していくうちに範囲が広がり隣接することが分かり、また、時期的にもほぼ同時期と考えられることから一つの遺跡と捉え山田半田遺跡としたためである。
- 5 本書に用いたレベル数値は、海拔絶対高による。
- 6 遺物番号は全て通し番号とし、本文及び挿図、図版番号とも一致する。
- 7 遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。遺構は20分の1もしくは60分の1、遺物は3分の1を基本とする。
- 8 発掘調査については文化庁記念物課主任調査官坂井秀弥氏、熊本大学教授甲元眞之氏、同准教授杉井健氏、琉球大学教授池田榮史氏、鹿児島女子短期大学准教授竹中正巳氏などの指導を受けた。第VI章自然化学分析については、鹿児島女子短期大学准教授竹中正巳氏、札幌大学教授高宮広土氏、大谷大学広岡公夫氏・井上裕香氏、富山大学吉原新氏・金井友理氏、鹿児島県立埋蔵文化財センター内山伸明氏に玉稿いただいた。またバリノ・サーヴェイ株式会社に炭化物の放射性炭素年代測定及び樹種同定、土壌のプラントオパール・花粉分析を委託した。
- 8 本書の執筆、編集は野崎、澄田、後藤が担当した。
- 9 出土した遺物は喜界町教育委員会で保管し、展示・活用する計画である。なお、本遺跡の遺物注記の略号は「山半B」・「山半」・「山半07」・「山半08」である。

# 目 次

巻頭カラー  
序文  
報告書抄録  
例言

## 第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過と遺跡名の変更	3

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5

## 第Ⅲ章 城久遺跡群の調査概要

第1節 調査の進捗状況	8
第2節 調査の成果	8

## 第Ⅳ章 調査の概要

第1節 発掘調査の方法	12
第2節 発見された遺構・遺物	12
第3節 層位	12

## 第Ⅴ章 発掘調査の成果

第1節 遺構	14
1 A地区 (1・2)	19
2 A地区 (3)	26
3 A地区 (4)	32
4 B地区 (1・2)	39
5 C地区 (1)	56
6 C地区 (2)	73
7 D地区 (1)	90
8 D地区 (2)	105
9 D地区 (3)	106
10 D地区 (4)	116
11 E地区 (1)	117
12 E地区 (2)	129
13 F地区	137

第2節 遺物	141
1 縄文土器 (第1740図 51-53)	141
2 兼久式土器 (第1750図 54-57)	141
3 黒色土器 (第1760図 58-62)	141
4 土師器 (第177-1790図 63-95)	141
5 須恵器 (第180-1830図 96-144)	141
6 越州窯系青磁 (第1840図145-152)	147
7 布目瓦甍土器 (第1850図 153-160)	148
8 白磁 (第1860図 161-204)	148
9 初瀬系黒磁青磁 (第1870図 205-210)	149
10 朝野系黒磁陶器 (第1880図 211-228)	149
11 コムイナキ (第189-1920図 229-297)	150
12 滑石製品 (第193-1970図 298-358)	154
13 滑石混入土器 (第1980図 359-369)	156
14 青磁 (第1990図 370-374)	161
15 陶器 (第2000図 375-391)	161
16 ガラス玉・金属製品・鉄滓 (第201-2020図 392-426)	161
17 鑄の引口 (第2030図 427-435)	163
18 土製品・粘土塊 (第2040図 436-443)	163
19 軽石製品 (第2050図 444-446)	163
20 石器 (第206-2080図 447-462)	163

## 第Ⅵ章 自然科学分析

第1節 山田平田遺跡出土の人骨	169
第2節 山田平田遺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定(AMS法)及び 樹種同定	171
第3節 山田平田遺跡土壌のプラントオパール・花粉分析	174
第4節 山田平田遺跡より出土した植物遺体	177
第5節 山田平田遺跡出土のガラス玉の分析	183
第6節 山田平田遺跡の考古地誌学的研究	185

## 第Ⅶ章 基礎資料

## 第Ⅷ章 総括

写真図版

227

# 表 目 次

第 1 表	主交通內道路地名表	6	第64表	擬立柱建物52号計測表	73
第 2 表	城久道路群架保調査一覧	9	第65表	擬立柱建物53号計測表	74
第 3 表	擬立柱建物1号計測表	17	第66表	擬立柱建物54号計測表	74
第 4 表	擬立柱建物2号計測表	19	第67表	擬立柱建物55号計測表	74
第 5 表	擬立柱建物3号計測表	19	第68表	擬立柱建物56号計測表	77
第 6 表	擬立柱建物4号計測表	19	第69表	擬立柱建物57号計測表	77
第 7 表	擬立柱建物5号計測表	20	第70表	擬立柱建物58号計測表	78
第 8 表	擬立柱建物6号計測表	21	第71表	擬立柱建物59号計測表	81
第 9 表	擬立柱建物7号計測表	22	第72表	擬立柱建物60号計測表	81
第10表	擬立柱建物8号計測表	22	第73表	擬立柱建物61号計測表	81
第11表	擬立柱建物9号計測表	23	第74表	擬立柱建物62号計測表	83
第12表	溝状遺構出土遺物観察表 (1)	24	第75表	擬立柱建物63号計測表	83
第13表	溝状遺構出土遺物観察表 (2)	24	第76表	擬立柱建物64号計測表	83
第14表	擬立柱建物10号計測表	26	第77表	擬立柱建物65号計測表	84
第15表	擬立柱建物11号計測表	30	第78表	擬立柱建物66号計測表	84
第16表	擬立柱建物12号計測表	30	第79表	C地区土坑出土遺物観察表	88
第17表	擬立柱建物13号計測表	30	第80表	擬立柱建物67号計測表	91
第18表	擬立柱建物14号計測表	32	第81表	擬立柱建物68号計測表	92
第19表	擬立柱建物15号計測表	32	第82表	擬立柱建物69号計測表	92
第20表	擬立柱建物16号計測表	32	第83表	擬立柱建物70号計測表	94
第21表	擬立柱建物17号計測表	37	第84表	擬立柱建物71号計測表	94
第22表	擬立柱建物18号計測表	37	第85表	擬立柱建物72号計測表	94
第23表	擬立柱建物19号計測表	37	第86表	擬立柱建物73号計測表	96
第24表	擬立柱建物20号計測表	37	第87表	擬立柱建物74号計測表	96
第25表	擬立柱建物21号計測表	39	第88表	擬立柱建物75号計測表	96
第26表	擬立柱建物22号計測表	41	第89表	擬立柱建物76号計測表	98
第27表	擬立柱建物23号計測表	41	第90表	擬立柱建物77号計測表	101
第28表	擬立柱建物24号計測表	41	第91表	擬立柱建物78号計測表	101
第29表	擬立柱建物25号計測表	42	第92表	D地区土坑出土遺物観察表 (1)	102
第30表	擬立柱建物26号計測表	43	第93表	擬立柱建物79号計測表	104
第31表	擬立柱建物27号計測表	45	第94表	擬立柱建物80号計測表	104
第32表	擬立柱建物28号計測表	45	第95表	擬立柱建物81号計測表	104
第33表	擬立柱建物29号計測表	45	第96表	擬立柱建物82号計測表	104
第34表	擬立柱建物30号計測表	46	第97表	擬立柱建物83号計測表	107
第35表	擬立柱建物31号計測表	47	第98表	擬立柱建物84号計測表	108
第36表	擬立柱建物32号計測表	47	第99表	擬立柱建物85号計測表	109
第37表	擬立柱建物33号計測表	49	第100表	擬立柱建物86号計測表	110
第38表	擬立柱建物34号計測表	49	第101表	擬立柱建物87号計測表	111
第39表	擬立柱建物35号計測表	49	第102表	擬立柱建物88号計測表	111
第40表	擬立柱建物36号計測表	50	第103表	D地区土坑出土遺物観察表 (2)	113
第41表	B地区土坑出土遺物観察表 (1)	52	第104表	土坑第 5 号出土遺物観察表	114
第42表	B地区土坑出土遺物観察表 (2)	52	第105表	擬立柱建物89号計測表	116
第43表	擬立柱建物37号計測表	55	第106表	擬立柱建物90号計測表	116
第44表	擬立柱建物38号計測表	55	第107表	擬立柱建物91号計測表	117
第45表	擬立柱建物39号計測表	56	第108表	擬立柱建物92号計測表	118
第46表	擬立柱建物40号計測表	60	第109表	擬立柱建物93号計測表	119
第47表	擬立柱建物41号計測表	60	第110表	擬立柱建物94号計測表	120
第48表	擬立柱建物42号計測表	63	第111表	擬立柱建物95号計測表	125
第49表	擬立柱建物43号計測表	66	第112表	擬立柱建物96号計測表	125
第50表	擬立柱建物44号計測表	66	第113表	擬立柱建物97号計測表	125
第51表	擬立柱建物45号計測表	66	第114表	擬立柱建物98号計測表	127
第52表	擬立柱建物46号計測表	66	第115表	擬立柱建物99号計測表	127
第53表	擬立柱建物47号計測表	66	第116表	擬立柱建物100号計測表	127
第54表	擬立柱建物48号計測表	68	第117表	擬立柱建物101号計測表	127
第55表	擬立柱建物49号計測表	68	第118表	擬立柱建物102号計測表	127
第56表	土坑第 1 号出土遺物観察表 (1)	68	第119表	土坑第 6 号出土遺物観察表 (1)	128
第57表	土坑第 1 号出土遺物観察表 (2)	68	第120表	土坑第 6 号出土遺物観察表 (2)	128
第58表	土坑第 2 号出土遺物観察表 (1)	68	第121表	土坑第 6 号出土遺物観察表 (3)	128
第59表	土坑第 2 号出土遺物観察表 (2)	68	第122表	擬立柱建物103号計測表	131
第60表	土坑第 3 号出土遺物観察表 (1)	70	第123表	擬立柱建物104号計測表	131
第61表	土坑第 3 号出土遺物観察表 (2)	70	第124表	擬立柱建物105号計測表	132
第62表	擬立柱建物50号計測表	73	第125表	擬立柱建物106号計測表	133
第63表	擬立柱建物51号計測表	73	第126表	擬立柱建物107号計測表	133

第127表	掘立柱建物跡108号計測表	133	第192表	焼土域を伴う11号の7.5mT消磁後の磁化測定結果	190
第128表	掘立柱建物跡109号計測表	135	第193表	焼土域を伴う土坑11号の10.0mT消磁後の磁化測定結果	190
第129表	掘立柱建物跡110号計測表	136	第194表	焼土跡2号のNRMの磁化測定結果	190
第130表	掘立柱建物跡111号計測表	137	第195表	焼土跡2号の2.5mT消磁後の磁化測定結果	190
第131表	掘立柱建物跡112号計測表	137	第196表	焼土跡2号の5.0mT消磁後の磁化測定結果	190
第132表	掘立柱建物跡113号計測表	137	第197表	焼土跡2号の7.5mT消磁後の磁化測定結果	190
第133表	E地区土坑出土土器観察表(1)	138	第198表	焼土跡2号の10.0mT消磁後の磁化測定結果	191
第134表	E地区土坑出土土器観察表(2)	139	第199表	山田平田遺跡焼土土坑の考古地磁気測定結果	191
第135表	E地区土坑出土土器観察表(3)	140	第200表	ビッド内出土遺物一覧表(1)	193
第136表	F地区溝状遺構出土土器観察表	140	第201表	ビッド内出土遺物一覧表(2)	193
第137表	縄文土器観察表	141	第202表	ビッド内出土遺物一覧表(3)	194
第138表	兼入式土器観察表	141	第203表	ビッド内出土遺物一覧表(4)	194
第139表	黒色土器観察表	141	第204表	ビッド内出土遺物一覧表(5)	195
第140表	土器器観察表(1)	142	第205表	ビッド内出土遺物一覧表(6)	195
第141表	土器器観察表(2)	143	第206表	ビッド内出土遺物一覧表(7)	196
第142表	須恵器観察表(1)	145	第207表	ビッド内出土遺物一覧表(8)	196
第143表	須恵器観察表(2)	146	第208表	ビッド内出土遺物一覧表(9)	197
第144表	須恵器観察表(3)	147	第209表	ビッド内出土遺物一覧表(10)	197
第145表	越州窯系青磁観察表	147	第210表	ビッド内出土遺物一覧表(11)	198
第146表	春日瓦直土器観察表	147	第211表	ビッド内出土遺物一覧表(12)	198
第147表	白磁観察表	149	第212表	ビッド内出土遺物一覧表(13)	199
第148表	初期高麗青磁観察表	149	第213表	ビッド内出土遺物一覧表(14)	199
第149表	朝鮮系無釉陶器観察表	150	第214表	ビッド内出土遺物一覧表(15)	200
第150表	カムイヤキ観察表(1)	151	第215表	ビッド内出土遺物一覧表(16)	200
第151表	カムイヤキ観察表(2)	153	第216表	ビッド内出土遺物一覧表(17)	201
第152表	カムイヤキ観察表(3)	154	第217表	ビッド内出土遺物一覧表(18)	201
第153表	滑石製品観察表(1)	156	第218表	ビッド内出土遺物一覧表(19)	202
第154表	滑石製品観察表(2)	157	第219表	ビッド内出土遺物一覧表(20)	202
第155表	滑石製品観察表(3)	159	第220表	ビッド内出土遺物一覧表(21)	203
第156表	滑石混入土器観察表	160	第221表	ビッド内出土遺物一覧表(22)	203
第157表	龍泉窯系青磁観察表	161	第222表	A地区遺物組成表	205
第158表	陶器観察表	162	第223表	B地区遺物組成表	206
第159表	ガラス玉観察表	163	第224表	C地区遺物組成表	206
第160表	鉄製品観察表	164	第225表	D地区遺物組成表	207
第161表	鉄滓観察表	164	第226表	E地区遺物組成表	208
第162表	輪の引口観察表	164	第227表	F地区遺物組成表	208
第163表	土製品観察表	165			
第164表	軽石製品観察表	165			
第165表	石器観察表	167			
第166表	放射性炭素年代測定結果	171			
第167表	暦年校正結果	173			
第168表	花粉分析結果	174			
第169表	植物性炭素含量	175			
第170表	山田平田遺跡道路より回収された植物遺体	178			
第171表	焼土関連遺構より回収された植物遺体	178			
第172表	土坑およびビッドより回収された植物遺体	178			
第173表	土坑より回収された植物遺体	179			
第174表	イネのサイズ	179			
第175表	コムギのサイズ	179			
第176表	オオムギのサイズ	179			
第177表	アワのサイズ	179			
第178表	山田平田遺跡焼土土坑から採取した考古地磁気試料個数と試料番号	188			
第179表	土坑10号のNRMの磁化測定結果	188			
第180表	土坑10号の2.5mT消磁後の磁化測定結果	188			
第181表	土坑10号の5.0mT消磁後の磁化測定結果	188			
第182表	土坑10号の7.5mT消磁後の磁化測定結果	189			
第183表	土坑10号の10.0mT消磁後の磁化測定結果	189			
第184表	焼土域を伴う土坑10号のNRMの磁化測定結果	189			
第185表	焼土域を伴う土坑10号の2.5mT消磁後の磁化測定結果	189			
第186表	焼土域を伴う土坑10号の5.0mT消磁後の磁化測定結果	189			
第187表	焼土域を伴う土坑10号の7.5mT消磁後の磁化測定結果	189			
第188表	焼土域を伴う土坑10号の10.0mT消磁後の磁化測定結果	189			
第189表	焼土域を伴う土坑11号のNRMの磁化測定結果	189			
第190表	焼土域を伴う土坑11号の2.5mT消磁後の磁化測定結果	190			
第191表	焼土域を伴う土坑11号の5.0mT消磁後の磁化測定結果	190			

# 图版目录

第1图 立交岛内道路位置图	7	第64图 C地区道横配置图	57
第2图 城久道路群道路位置图	7	第65图 C地区详细道横配置图(1)	58
第3图 山田平田道路全体道横配置图	11	第66图 孤立柱建物40号(1)	59
		第67图 孤立柱建物40号(2)	60
第5图 全体道横配置图	14	第68图 孤立柱建物41号(1)	61
第6图 A地区道横配置图	15	第69图 孤立柱建物41号(2)	62
第7图 A地区详细道横配置图(1)	16	第70图 孤立柱建物42号	63
第8图 A地区详细道横配置图(2)	16	第71图 孤立柱建物43号	64
第9图 A地区土坑(1)	17	第72图 孤立柱建物44号	64
第10图 孤立柱建物1号	17	第73图 孤立柱建物45号	65
第11图 孤立柱建物2号	18	第74图 孤立柱建物46号	66
第12图 孤立柱建物3号	18	第75图 孤立柱建物47号	67
第13图 孤立柱建物4号	19	第76图 孤立柱建物48号	67
第14图 孤立柱建物5号	20	第77图 孤立柱建物49号	68
第15图 孤立柱建物6号	21	第78图 土坑第1号、2号(1)	69
第16图 孤立柱建物7号	22	第79图 土坑第1号、2号(2)	70
第17图 孤立柱建物8号	23	第80图 土坑第3号	70
第18图 孤立柱建物9号	23	第81图 C地区详细道横配置图(2)	71
第19图 洪状道横	24	第82图 孤立柱建物50号	72
第20图 A地区土坑(2)	25	第83图 孤立柱建物51号	72
第21图 A地区详细道横配置图(3)	26	第84图 孤立柱建物52号	73
第22图 孤立柱建物10号	27	第85图 孤立柱建物53号	74
第23图 A地区土坑(3)	28	第86图 孤立柱建物54号	75
第24图 A地区详细道横配置图(4)	28	第87图 孤立柱建物55号	75
第25图 孤立柱建物11号	29	第88图 孤立柱建物56号	76
第26图 孤立柱建物12号	29	第89图 孤立柱建物57号	76
第27图 孤立柱建物13号	30	第90图 孤立柱建物58号(1)	77
第28图 孤立柱建物14号	31	第91图 孤立柱建物58号(2)	78
第29图 孤立柱建物15号	31	第92图 孤立柱建物58号(3)	79
第30图 孤立柱建物16号	32	第93图 孤立柱建物58号(4)	79
第31图 B地区道横配置图	33	第94图 孤立柱建物59号	80
第32图 B地区详细道横配置图(1)	33	第95图 孤立柱建物60号	80
第33图 B地区详细道横配置图(2)	34	第96图 孤立柱建物61号	81
第34图 孤立柱建物17号(1)	35	第97图 孤立柱建物62号	82
第35图 孤立柱建物17号(2)	35	第98图 孤立柱建物63号	82
第36图 孤立柱建物18号	36	第99图 孤立柱建物64号	83
第37图 孤立柱建物19号	36	第100图 孤立柱建物65号	84
第38图 孤立柱建物20号	37	第101图 孤立柱建物66号(1)	85
第39图 孤立柱建物21号(1)	38	第102图 孤立柱建物66号(2)	86
第40图 孤立柱建物21号(2)	39	第103图 土坑第4号	87
第41图 孤立柱建物22号	40	第104图 C地区土坑等实测图(1)	87
第42图 孤立柱建物23号	40	第105图 C地区土坑等实测图(2)	88
第43图 孤立柱建物24号	41	第106图 D地区道横配置图	89
第44图 孤立柱建物25号	42	第107图 D地区详细道横配置图(1)	90
第45图 孤立柱建物26号	43	第108图 孤立柱建物67号	91
第46图 孤立柱建物27号	44	第109图 孤立柱建物68号	92
第47图 孤立柱建物28号	44	第110图 孤立柱建物69号	93
第48图 孤立柱建物29号	45	第111图 孤立柱建物70号	93
第49图 孤立柱建物30号	46	第112图 孤立柱建物71号	94
第50图 孤立柱建物31号	46	第113图 孤立柱建物72号	95
第51图 孤立柱建物32号	47	第114图 孤立柱建物73号	96
第52图 孤立柱建物33号	48	第115图 孤立柱建物74号	97
第53图 孤立柱建物34号	48	第116图 孤立柱建物75号	97
第54图 孤立柱建物35号	49	第117图 孤立柱建物76号(1)	98
第55图 孤立柱建物36号	50	第118图 孤立柱建物76号(2)	99
第56图 B地区土坑(1)	51	第119图 孤立柱建物77号	100
第57图 B地区土坑(2)	52	第120图 孤立柱建物78号	101
第58图 B地区土坑(3)	53	第121图 D地区土坑等实测图(1)	102
第59图 B地区详细道横配置图(3)	53	第122图 D地区详细道横配置图(2)	102
第60图 孤立柱建物37号(1)	54	第123图 孤立柱建物79号	103
第61图 孤立柱建物37号(2)	55	第124图 孤立柱建物80号	103
第62图 孤立柱建物38号	55	第125图 孤立柱建物81号	104
第63图 孤立柱建物39号	56	第126图 孤立柱建物82号	105

第12718	D地区土坑等実測図(2)	105	第19308	滑石製石函(1)	155
第12808	山田半田道路D地区詳細道構配置図(3)	106	第19416	滑石製石函(2)	156
第12908	掘立柱建物跡83号	107	第19508	滑石製石函(3)	157
第13008	掘立柱建物跡84号	108	第19608	滑石製二次加工品(1)	158
第13116	掘立柱建物跡85号	109	第19716	滑石製二次加工品(2)	159
第13216	掘立柱建物跡86号	110	第19808	滑石混入土器(1)	160
第13316	掘立柱建物跡87号	111	第19908	龍泉窯系青磁	161
第13416	掘立柱建物跡88号	112	第20008	陶器	161
第13508	D地区土坑等実測図(3)	113	第20116	ガラス玉・金属製品	162
第13608	土坑第5号	114	第20208	鉄洋	162
第13716	D地区詳細道構配置図(4)	115	第20308	輪の須口	163
第13808	掘立柱建物跡89号	115	第20408	土製品・粘土塊	164
第13908	掘立柱建物跡90号	116	第20508	軽石製品	165
第14008	掘立柱建物跡91号	117	第20608	石器(1)	166
第14116	掘立柱建物跡92号	118	第20716	石器(2)	167
第14216	掘立柱建物跡93号	119	第20808	石器(3)	168
第14316	掘立柱建物跡94号	120	第20908	植物性炭体含量の層位的变化	175
第14416	E地区道構配置図	121	第21008	各地の地球磁場(地磁気ベクトル)を決定地磁気3要素	185
第14508	E地区詳細道構配置図(1)	121	第21116	過去2000年間の西内日本の考古地磁気年変化曲線	186
第14616	掘立柱建物跡95号	122	第21216	北陸版考古地磁気年変化曲線	186
第14716	掘立柱建物跡96号	122	第21316	東海版考古地磁気年変化曲線	187
第14808	掘立柱建物跡97号	123	第21416	奄美地方の仮想地磁気変動曲線と 山田半田日道跡出土遺物の考古地磁気測定結果	187
第14908	掘立柱建物跡98号	123	第21516	山田半田日道跡地区区分図	204
第15008	掘立柱建物跡99号	124	第21616	ビッド内遺物出土状況図(1)	209
第15116	掘立柱建物跡100号	125	第21716	ビッド内遺物出土状況図(2)	210
第15216	掘立柱建物跡101号	126	第21816	ビッド内遺物出土状況図(3)	211
第15316	掘立柱建物跡102号	126	第21916	ビッド内遺物出土状況図(4)	212
第15416	土坑第6号	127	第22016	ビッド内遺物出土状況図(5)	213
第15508	土坑第7号	128	第22116	ビッド内遺物出土状況図(6)	214
第15608	E地区土坑等実測図(1)	128	第22216	ビッド内遺物出土状況図(7)	215
第15716	E地区土坑等実測図(2)	129	第22316	ビッド内遺物出土状況図(8)	216
第15808	E地区詳細道構配置図(2)	130	第22416	ビッド内遺物出土状況図(9)	217
第15908	掘立柱建物跡103号	130	第22516	ビッド内遺物出土状況図(10)	218
第16008	掘立柱建物跡104号	131	第22616	ビッド内遺物出土状況図(11)	219
第16116	掘立柱建物跡105号	132	第22716	ビッド内遺物出土状況図(12)	220
第16216	掘立柱建物跡106号	133	第22816	ビッド内遺物出土状況図(13)	221
第16316	掘立柱建物跡107号	134	第22916	ビッド内遺物出土状況図(14)	222
第16416	掘立柱建物跡108号	134	第23016	ビッド内遺物出土状況図(15)	223
第16516	掘立柱建物跡109号	135	第23116	ビッド内遺物出土状況図(16)	224
第16616	掘立柱建物跡110号	135	第23216	ビッド内遺物出土状況図(17)	225
第16716	掘立柱建物跡111号	136	第23316	ビッド内遺物出土状況図(18)	226
第16816	掘立柱建物跡112号	136			
第16916	掘立柱建物跡113号	137			
第17008	E地区土坑等実測図(3)	138			
第17116	E地区土坑等実測図(4)	139			
第17216	F地区詳細道構配置図	140			
第17316	F地区遺状道構実測図	140			
第17416	縄文土器	141			
第17516	象入土器	141			
第17616	黒色土器	141			
第17716	土師器(1)	142			
第17816	土師器(2)	142			
第17916	土師器(3)	143			
第18016	須恵器(1)	144			
第18116	須恵器(2)	145			
第18216	須恵器(3)	146			
第18316	須恵器(4)	146			
第18416	越州窯系青磁	147			
第18516	春日匠直土器	147			
第18616	白磁	148			
第18716	初期高麗青磁	149			
第18816	朝鮮系無釉陶器	150			
第18916	カムイヤキ(1)	151			
第19016	カムイヤキ(2)	152			
第19116	カムイヤキ(3)	153			
第19216	カムイヤキ(4)	154			

## 写真図版目次

図版1 道路周辺風景	図版10 土坑墓1号 土坑墓2号 土坑墓3号（カミイヤキ） 土坑墓3号（白磁・ガラス玉） 土坑墓5号（カミイヤキ） 土坑墓6号（古銭・鉄滓・ガラス玉） 土坑11号（カミイヤキ） ガラス玉
図版2 A地区調査風景 A地区（4）柱穴検出状況 掘立柱建物跡10号検出状況 土層断面 焼土城を伴う土坑2号検出状況 焼土跡1号検出状況	図版11 土坑・溝状遺構 土師器類 土師器・黑色土器
図版3 溝状遺構検出状況 溝状遺構完掘状況 柱穴遺物出土状況（1） 柱穴遺物出土状況（2） L-18区付近遺構検出状況 掘立柱建物跡17号検出状況	図版12 須恵器
図版4 土坑4号検出状況 土坑4号完掘状況 土坑5号完掘状況（1） 土坑5号検出状況（2） 土坑1号半截状況 土坑2号検出状況 土坑2号半截状況	図版13 越州窯系青磁（1） 越州窯系青磁（2） 春日庄土器 初期高麗青磁 白磁
図版5 C地区掘立柱建物跡検出状況 掘立柱建物跡41号検出状況 掘立柱建物跡58号検出状況	図版14 カミイヤキ（1）
図版6 掘立柱建物跡43号検出状況 土坑墓3号検出状況 土坑墓3号副葬品出土状況 土坑墓1号検出状況 土坑墓2号副葬品出土状況（1） 土坑墓2号副葬品出土状況（2） 土坑墓2号半截状況	図版15 カミイヤキ（2） 朝鮮系無釉陶器 滑石混入土器
図版7 土坑9号検出状況 土坑9号堆積状況 土坑6号検出状況 土坑7号半截状況 土坑墓5号検出状況 土坑墓5号副葬品出土状況 D地区柱穴検出状況	図版16 滑石製石罎（1） 滑石製石罎（2）
図版8 土坑墓12号遺物出土状況 焼土跡3号半截状況 柱穴内遺物出土状況 土坑墓6号副葬品出土状況 土坑墓6号人骨出土状況（1） 土坑15号検出状況 土坑15号完掘状況	図版17 滑石製二次加工品 灰輪陶器
図版9 土坑17号検出状況（1） 土坑17号検出状況（2） F地区遺構検出状況 F地区土層断面 平成18年調査 2トレンチ検出状況 平成18年調査 2トレンチ土層断面 文化庁坂井調査官 現地指導 熊本大学平元先生 現地指導	図版18 輪の沿口 鉄製品 鉄滓 土製品 粘土塊 兼久式土器 縄文土器
	図版19 石器

## 第 I 章 調査の経過

### 第 1 節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所土地改良課、以下県農政部）は、大島郡喜界町山田・城久地内において、県営畑地帯総合整備（城久地区）事業を計画し事業区域内の埋蔵文化財の有無について、喜界町教育委員会（以下、町教育委員会）に照会した。

これを受けて、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、県埋蔵文化財センター）と町教育委員会が平成11年に分布調査を実施したところ、事業区域内に複数の遺物散布地（山田中西遺跡、山田半田A・B遺跡、半田口遺跡など）が確認された。（以下、山田半田A遺跡を旧山半A遺跡、山田半田B遺跡を旧山半B遺跡とする）

この分布調査の結果をもとに、県農政部、鹿児島県教育庁文化財課（以下、県文化財課）、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行った結果、旧山半B遺跡などについて事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施することとなった。確認調査は、町教育委員会が調査主体となり、平成14年5月13日から同年5月29日まで実施した。調査の結果、旧山半B遺跡で約3,600㎡の範囲で古代末から中世の時期のものと考えられる遺構・遺物を確認した。

この結果をもとに、再度県農政部、県文化財課、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行い、遺跡の現状保存が困難であることから記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

発掘調査は、町教育委員会が調査主体となり、県埋蔵文化財センターの支援を受け、平成16年5月6日から同年8月20日まで実施した。

調査では、当初の想定よりも遺構・遺物が大幅に増えたため、一部を翌年度の調査へと繰り越した。

翌、平成17年度は旧山半B遺跡の昨年度からの繰り越し分と旧山半A遺跡の一部を5月9日から平成18年3月24日まで実施した。調査面積は当初14,000㎡の予定であったが、発掘調査を進める段階で掘立柱建物跡が集中して検出され、更には南西諸島ではこれまでに例のない大型建物跡も確認され、この部分が城久遺跡群の中核部分にあたる重要な区域であるという可能性が出てきた。このような状況から県農政部、喜界町産業振興課、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行った結果、この建物跡が集中する約8,000㎡は町有地化や盛土工法で対応することとなった。

平成19年度は旧山半A遺跡の一部分を平成19年5月8日から平成20年3月19日まで、平成20年度は旧山半A遺跡の一部を平成20年6月2日から平成20年10月2日まで実施した。

### 第 2 節 調査の組織

#### 平成14年度 確認調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所土地改良課）		
調査主体者	喜界町教育委員会		
企画・調整	喜界町教育委員会社会教育課		
調査責任者	喜界町教育委員会教育長	平	義哉
調査企画者	喜界町教育委員会社会教育課長	福岡	功彦
	＊ 課長補佐	益	一幸
	＊ 派遣社会教育主事	上原	一宏
調査・事務担当者	喜界町教育委員会社会教育課主事 澄田 直敏		
調査指導者	鹿児島県教育庁文化財課文化財主事 堂込 秀人		

#### 平成15年度 確認調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所土地改良課）		
調査主体者	喜界町教育委員会		
企画・調整	喜界町教育委員会社会教育課		
調査責任者	喜界町教育委員会教育長	平	義哉
調査企画者	喜界町教育委員会社会教育課長	福岡	功彦
	＊ 課長補佐	益	一幸
	＊ 派遣社会教育主事	上原	一宏
調査・事務担当者	喜界町教育委員会社会教育課主査 澄田 直敏		
調査指導者	鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財研究員 黒川 忠広		

#### 平成16年度 本調査・整理

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所土地改良課）		
調査等主体者	喜界町教育委員会		
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課		
調査等責任者	喜界町教育委員会教育長	平	義哉
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長	嘉	重久
	＊ 課長補佐	福井	長次郎
	＊ 係長	岩松	利和
	＊ 派遣社会教育主事	中尾	葵
調査・事務等担当者	喜界町教育委員会中央公民館主査 澄田 直敏		
調査等指導者	熊本大学教授 甲元 眞之		
	熊本大学助教授 杉井 健		

琉球大学教授	池田 榮史	調査等担当者	
鹿児島県立埋蔵文化財センター		喜界町教育委員会生涯学習課	
文化財研究員	横手浩二郎	埋蔵文化財係長	澄田 直敏
		喜界町教育委員会生涯学習課主事	野崎 拓司
<b>平成17年度 本調査</b>		事務担当者	
事業主体者	鹿児島県農政部長地整備課（大島支庁喜界事務所土地改良課）	喜界町教育委員会生涯学習課主査	竹内 功
調査主体者	喜界町教育委員会	調査等指導者	
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課	文化庁記念物課主任調査官	坂井 秀弥
調査責任者	喜界町教育委員会教育長	東京大学史料編纂所教授	石上 英一
調査企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長	熊本大学教授	甲元 眞之
	＊ 課長補佐	熊本大学教授	木下 尚子
	＊ 係長	ラ・サール高等学校教諭	水山 修一
	＊ 派遣社会教育主事	琉球大学教授	池田 榮史
調査担当者		鹿児島女子短期大学准教授	竹中 正巳
喜界町教育委員会中央公民館主査	澄田 直敏	太宰府市教育委員会文化財課主任主査	中島恒次郎
＊ 埋蔵文化財調査員	野崎 拓司	福岡市教育委員会埋蔵文化財課調査員	田中 克子
事務担当者		伊仙町教育委員会社会教育課学芸員	新里 亮人
喜界町教育委員会中央公民館主査	澄田 直敏	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
調査指導者		次長	新東 晃一
文化庁記念物課主任調査官	坂井 秀弥	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
鹿児島女子短期大学助教授	竹中 正巳	文化財研究員	西園 勝彦
琉球大学教授	池田 榮史	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
愛媛大学助教授	村上 恭通	文化財研究員	馬籠 亮道
鹿児島県教育庁文化財課埋蔵文化財係長	青崎 和憲		
鹿児島県教育庁文化財課文化財主事	堂込 秀人	<b>平成20年度 本調査・報告書作成</b>	
鹿児島県教育庁文化財課文化財研究員	横手浩二郎	事業主体者	鹿児島県農政部長地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係）
鹿児島県立埋蔵文化財センター		調査等主体者	喜界町教育委員会
主任文化財主事	中村 耕治	企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
鹿児島県立埋蔵文化財センター		調査等責任者	喜界町教育委員会教育長
文化財主事	中村 和美	調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長
鹿児島県立埋蔵文化財センター		＊ 課長補佐	益 一幸
文化財主事	寺原 徹	＊ 主査	岩松 利和
鹿児島県立埋蔵文化財センター		調査等担当者	竹内 功
文化財主事	國師 洋之	喜界町教育委員会生涯学習課	
鹿児島県立埋蔵文化財センター		埋蔵文化財係長	澄田 直敏
文化財研究員	川口 雅之	喜界町教育委員会生涯学習課学芸員	野崎 拓司
		喜界町教育委員会埋蔵文化財発掘調査員	後藤 法宣
<b>平成19年度 本調査・整理作業</b>		事務担当者	
事業主体者	鹿児島県農政部長地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係）	喜界町教育委員会生涯学習課主査	竹内 功
調査等主体者	喜界町教育委員会	調査等指導者	
企画・調整	喜界町教育委員会	文化庁記念物課主任調査官	坂井 秀弥
調査等責任者	喜界町教育委員会教育長	東京大学大学院情報学環教授	石上 英一
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長	ラ・サール高等学校教諭	水山 修一
＊ 課長補佐	益 一幸	琉球大学教授	池田 榮史
＊ 係長	岩松 利和	鹿児島女子短期大学准教授	竹中 正巳
＊ 主査	竹内 功	札幌大学教授	高宮 広土

鹿児島県教育庁文化財課文化財研究員 川口 雅之  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
第一調査係長 長野 眞一  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
文化財研究員 馬龍 亮道

い・注記・写真整理などの作業を行った。

#### 4 本調査(平成17年度)

平成15年度の確認調査の結果を受けて、本調査を平成17年5月12日から平成18年3月22日まで実施した。

調査では、まず調査区域内に10m×10mのグリッドを設定し実施した。グリッドは平成16年度のグリッドを延長するかたちで設定した(東側から西側方向にA、B・・・、それに直行する南側から北側方向へ1、2・・・)。平成19年度以降も同様。

以下、調査の経過については日誌抄にて記載する。

5月～7月 調査開始。環境整備。

重機による表土剥ぎ、調査区に水まき・シート敷き・機材搬入等を行う。遺構検出、遺構検出状況平板実測などを行う。ビット・土坑を多数検出。E-15区Ⅲ層で土坑墓を検出。

8月～10月 ビット・土坑などの掘り下げ、遺物取り上げ、1/20遺構配置図作成などを行う。8月1日、2日文化庁記念物課坂井主任調査官ほか現地指導。8月9日鹿児島県立大島北高校考古学クラブ発掘体験。9月16日愛媛大学村上恭通助教授現地指導。

11月～1月 遺物包含層の掘り下げ、ビット・土坑などの掘り下げ、1/20遺構配置図作成などを行う。11月26日に発掘調査現地説明会を実施する。

2月～3月 ビット・土坑などの掘り下げ、遺構検出、1/20の遺構配置図作成、遺構のレベル実測などを行う。機材撤収・プレハブ撤去。

#### 5 本調査・整理作業(平成19年度)

平成15年度の確認調査の結果を受けて、本調査を平成19年5月8日から平成20年3月19日まで実施した。

以下、調査の経過については日誌抄にて記載する。

5月～8月 調査開始。環境整備。

重機による表土剥ぎ、調査区に水まき・シート敷き・機材搬入等を行う。遺構検出・包含層の掘り下げ、ビット・土坑などの掘り下げ、1/20遺構配置図作成などを行う。

2月・3月 土坑などの掘り下げ、1/20遺構配置図作成、遺構のレベル実測などを行う。2月24日に発掘調査現地説明会を実施する。3月17日、18日鹿児島女子短期大学竹中正巳准教授現地指導。機材撤収・プレハブ撤去。

整理作業は平成19年5月～平成20年3月に行った。遺物の水洗い・注記・接合・実測・拓本などの作業を行った。

#### 6 本調査・報告書刊行(平成20年度)

平成15年度の確認調査の結果などを受けて、本調査を平成20年6月2日から平成20年10月2日まで実施した。

### 第3節 調査の経過と遺跡名の変更

#### 1 確認調査(平成14年度)

第1節の発掘調査の経緯でも記したように、平成14年5月13日～29日まで喜界町教育委員会が調査主体となって確認調査を実施した。調査は2m×5mのトレンチを基本として6か所実施した。その結果、中世の遺構・遺物を確認し、遺構・遺物の出土状況から約3,600㎡の範囲に遺跡が残存していると判断した。

#### 2 確認調査(平成15年度)

平成16年2月6日～19日まで喜界町教育委員会が調査主体となって確認調査を実施した。調査は2m×5mのトレンチを基本として12か所実施した。その結果、中世の遺構・遺物を確認し、遺構・遺物の出土状況から約17,000㎡の範囲に遺跡が残存していると判断した。

#### 3 本調査・整理(平成16年度)

平成14年度の確認調査の結果を受けて、本調査を平成16年5月6日から8月20日まで実施した。

調査では、まず調査区域内に10m×10mのグリッドを設定し実施した。グリッドは東側から西側方向にA～Eとし、それに直行する南側から北側方向へ1～12と呼称した。

発掘調査は、確認調査で得られた資料をもとに、遺構検出面直上まで(一部の遺物包含層が残る部分はその直上まで)は表土を重機により除去し、その後、作業員を投入して遺物及び遺構の検出作業を行った。(平成17年度以降も同様)

以下、調査の経過については日誌抄にて記載する。

5月 調査開始。環境整備。

重機による表土剥ぎ、機材を搬入、環境整備。グリッド設定、レベル移動を行う。

調査区に水まき・シート敷き後、遺構検出作業、遺構検出状況写真撮影、遺構検出状況平板実測、ビット・土坑の掘り下げなどを行う。

6月・7月 包含層の掘り下げ、Ⅲ層の遺構検出作業、ビット・土坑の掘り下げなどを行う。1～6区Ⅲ層土坑墓検出。7月13日・14日、熊本大学甲元教授・杉井助教授による現地指導。

8月 ビット・土坑の掘り下げ、D-5区Ⅲ層の土坑墓の実測、人骨の取り上げ、遺構レベル実測などを行う。機材撤収・プレハブ撤去。

整理作業は平成16年11月～平成17年1月に遺物の水洗

以下、調査の経過については日誌抄にて記載する。

#### 6月 調査開始。環境整備

重機による表土剥ぎ、調査区に水まき・シート敷き・機材搬入等を行う。遺構検出、遺構検出状況平板実測などを行う。ピット・土坑を検出。

7月～10月 ピット・土坑などの掘り下げ、遺物取り上げ、1/20遺構配置図作成、遺構のレベル実測などを行う。11月22日には同年実施している平田口遺跡を含めての発掘調査現地説明会を実施。

整理作業は平成20年5月～平成21年3月に行った。実測・図面整理・トレースなどの作業を行い、報告書を発行した。

#### 7 遺跡の名称変更について

これまで山田半田A遺跡と山田半田B遺跡は離れて存在していると考えられていた。ところが平成17年度に実施された山田半田B遺跡の調査で両遺跡は連続する遺跡であると確認されたことから、統合し「山田半田遺跡」とした。



発掘調査現地説明会

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

喜界島は鹿児島県本土から南へ約380km、奄美大島から東へ約25kmの北緯28度19分、東経130度線上の太平洋と東シナ海の洋上に浮かぶ島である。現在でも約2mmずつ隆起し、学術的にも非常に貴重な島といわれている。1島で1町をなし、南東に長く14km、北東部から南西部にかけて次第に幅を広げており、周囲48.6km、面積56.9km<sup>2</sup>である。

概して平坦な隆起珊瑚礁の島で、海岸段丘で形成されている。島内での最高所は島の中央東側にある百之台で標高は211mある。この百之台を中心に北西側へは緩やかに傾斜し、広い段丘地形が見られる。これに対して南東部は急崖となり、海岸線にそってわずかな平地地が見られるだけである。こうした地形のために、河川の発達は乏しく、用水のほとんどは地下水や湧水に依存している。

海岸線は単調で裾崖からなっているため、港として利用できる場所は限られている。代表的な港としては湾、早町、志戸桶、小野津があり、各集落では港を背に必ず砂丘が形成されている。砂丘上では、縄文時代から近世までの遺物が採取でき、古くから人々の生活が営まれていたことをうかがい知ることができる。

気候は亜熱帯性気候で年平均気温22.2℃と、年間を通じて温暖である。年間の降水量は3,000mmに達し、全島がガジュマルなどの常緑樹に覆われている。本島の基盤をなしているのは、新生代第三紀鮮新世の島尻層で、琉球石灰岩、志戸桶層、隆起珊瑚石灰岩、砂丘が上層を形成している。マージと呼ばれる暗赤褐色土壌が島の大部分を覆っている。

山田半田遺跡は、島内で最も標高の高い城久集落を取り巻く8遺跡の総称である城久遺跡群の1つである。遺跡群は、喜界島の中央部の標高90m～160mの海岸段丘上に立地している。島内の段丘は、巨視的に見て4段あり、遺跡群は2番目に標高の高い中位段丘の縁部に展開しており、天気の良い日には奄美大島が眺望できる。山田半田遺跡の標高は150m程である。遺跡周辺に河川はないが、湧水点がいくつか点在する。また、滝川集落内には、島内でも有数の湧水量を誇る滝川の泉がある。これらの湧水は崖下にあることが多く、島尻層と琉球石灰岩の不整合面から湧出するといわれている。

### 第2節 歴史的環境

喜界島における考古学的研究は、戦前は昭和6年の重野豊吉による荒木貝塚の発見に始まり、三宅宗悦による湾貝塚・手久津久貝塚の報告がある。

戦後においては、昭和30年代に九学会奄美大島共同調査委員会考古学班による分布調査が行われ、荒木農道遺跡、荒木小学校遺跡、湾天貝塚、伊実久殿神社貝塚、七城などが紹介されている。

中世においては源氏や平家にまつわる伝承や地名が数多く

残っていることも1つの特徴である。

#### 1 縄文時代

島内で最も古い縄文時代の遺跡は、平成13年に発見された総合グラウンド遺跡である。そこで発見された土器のひとつに、地表7m付近で土器の内部に獣骨が入ったものがある。これまでに類例はないが、沖永良部島などの出土資料との比較や、土器に付着していた煤の放射性炭素年代値がBP6998±32yという数値であることから、沖縄貝塚時代早期に相当する可能性が指摘されている。

昭和27年に県立喜界高等学校校庭拡張工事に伴って出土した土器は、赤土系土器と名付けられ、縄文時代前期といわれている。昭和61年には熊本大学によるハンタ遺跡の発掘調査が実施され、宇宙上層式期の住居跡群やかまど遺構が確認された。遺物は、面縄西洞式・喜念I式・宇宙上層式などの土器、石斧・敲石・クガニシなどの石器が出土している。平成16年には、喜界町役場新庁舎工事に伴い見付山遺跡の発掘調査が行われ、石簾や黒曜石が本町で初めて発見されている。遺跡の時期は縄文時代晩期頃と考えられている。

#### 2 弥生時代～古墳時代併行期

弥生時代の遺跡は発掘調査は行われてはいないが分布調査などで荒木小学校遺跡などの数遺跡が確認されている。

古墳時代並行期の遺跡は、昭和61年に喜界町教育委員会による先山遺跡の発掘調査が実施され、兼久式土器や貝弁などが報告されている。その他には中里貝塚など約20遺跡が確認されている。

#### 3 古代・中世

古代・中世の遺跡は昭和63年に島中B遺跡、平成4年にオン畑・巻畑B・巻畑C遺跡、平成5年に前や遺跡、平成6年に提り遺跡などの発掘調査が実施されている。本書で報告する山田半田遺跡を含む城久遺跡群も古代末から中世前期の遺跡である。また、平成18年度に調査された和早地遺跡は、奄美群島全域を見渡しても調査事例はほとんど知られていない中世後期の遺跡で城久遺跡群のその後を知る上で重要である。

#### (参考・引用文献)

喜界町 2000「喜界町誌」

喜界町教育委員会 1987「先山遺跡」喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

喜界町教育委員会 1987「ハンタ遺跡」喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

澄田直敏・堂込秀人・池畑耕一 2003「喜界町総合グラウンド遺跡(弓道場)出土の土器」『鹿児島県考古』第37号 鹿児島県考古学会

第1表 主な島内遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地 形	時 代	主な遺構・遺物	備 考
1	城久道跡群	喜界町城久ほか	海岸段丘	古代～中世	竪立柱建物跡、土器墓、卒跡、土師器、須恵器、越州産系青磁、布目仕立土器、灰輪陶器、白磁、初期高麗青磁・朝鮮系無釉陶器、カミイヤキ、滑石製石鏡、青磁、銅製品、鉄製品、輪の引口、ガラス玉ほか	平成14・15・17・18・19・20年度発掘調査 平成14・15・16・17・18・19・20年度本調査
2	赤連	喜界町赤連	海岸段丘	縄文	赤連式土器	現喜界高校
3	湧天神	喜界町湧	海岸段丘	縄文	土器、石器、貝製品、磁管	
4	総合グラウンド	喜界町湧	砂丘	縄文	土器、石器、貝、磁管	
5	平ヶ	喜界町湧	海岸段丘			削平により消失した可能性
6	荒木貝塚	喜界町荒木	低地	縄文	石器、貝	
7	先山	喜界町浦原	海岸段丘	縄文～近世	面縄形短式・兼久式土器、石器、貝、磁管	昭和61年度調査
8	平家森	喜界町早町	山頂	中世	規模・形状：200×200 竃部	
9	後田	喜界町塩通	海岸段丘			削平により消失した可能性
10	水口	喜界町塩通	海岸段丘			削平により消失した可能性
11	鬼り	喜界町塩通	海岸段丘	古代～中世	須恵器、カミイヤキ、白磁、青磁、滑石製石鏡、石器、磁管	平成6年度調査
12	七城	喜界町志戸地	台地	中世	規模・形状：200×200 竃部	
13	オン畑	喜界町小野津	海岸段丘	古代～近世	竪立柱建物跡、卒跡、溝状遺構、カミイヤキ、鉄滓	平成4年度調査
14	色畑C	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、カミイヤキ、滑石製石鏡	平成4年度調査
15	色畑B	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、須恵器、滑石製石鏡、輪の引口、鉄滓	平成4年度調査
16	ハンタ	喜界町西口	海岸段丘	縄文	住居跡群、かまど状遺構、宇留土層式土器、土製品、石器、カミイヤキ、青磁	昭和61年度調査
17	前ヤ	喜界町島中	海岸段丘	古墳～中世	青磁、カミイヤキ	平成5年度調査
18	ウ川田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カミイヤキ、滑石製石鏡、染付	平成5年度調査
19	上田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	柱穴、土器、青磁、カミイヤキ	平成5年度調査
20	向田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カミイヤキ、滑石製石鏡、染付	平成5年度調査
21	島中B	喜界町島中	海岸段丘	古代～近世	土器、内黒土師器、須恵器、白磁、青磁、輪の引口、鉄滓、石器、染付	昭和63年度調査
22	和早地	喜界町荒木	海岸段丘	縄文～近代	面縄形短式、壱世式、能登原系青磁、白磁、鉄器、輪の引口、鉄滓、石器、磁管、磁管、染付、炭筆塊	平成18年度調査



第1図 主な島内遺跡位置図

## 第三章 城久遺跡群の調査概要

### 第1節 調査の進捗状況

城久遺跡群の発掘調査は、平成14年度の山田中西遺跡・山田半田遺跡を皮切りに本調査と確認調査を並行して行っている。本調査は山田中西遺跡を平成15・16年度に実施し、平成16・17年度と平成19年度に山田半田遺跡、平成18年度に小ハネ・前畑・半田遺跡、平成19年度と平成20年度に山田半田・半田口・大ウフ遺跡の本調査を行っている。

平成15年度以降に数次にわたって実施した確認調査を実施した。これらの調査によって、小ハネ・前畑・大ウフ・半田遺跡で古代末～中世の遺構・遺物を確認し、赤連遺跡を含む8遺跡全体の総面積が130,000㎡に及ぶことが明らかとなった。これにより、現在の城久集落を中心に展開するそれぞれの遺跡を城久遺跡群として位置づけ、一連のものとしてとらえるとともに、本調査を実施している山田中西・山田半田遺跡などで南西諸島では初見となる重要な遺構・遺物が検出されることから、遺跡の取り扱いについては保存も視野に入れた開発との調整を行っていく必要が生じてきた。

このため、町教育委員会では平成17年7月と平成18年2月への確認調査を実施したが、保存する地区とそれ以外の地区を分けるにはさらなる情報の蓄積が必要という結果であった。このような状況の中、平成18年～平成20年にかけて、城久遺跡群の詳細な内容把握と範囲確認のために文化庁の国庫補助事業を活用し、さらなる情報収集に努めている。

このように度重なる確認調査で一定の成果も上がってきている。それは城久遺跡群のうち山田半田遺跡の掘立建物跡集中箇所や前畑遺跡の石敷遺構が確認された箇所などより重要な遺構などが確認された箇所を開発部局や地元農家の理解が得られ工法を盛土工法に変更し現状保存の対策がとれた箇所も出てきている。その面積は、約50,000㎡である。

### 第2節 調査の成果

これまでの発掘調査では、古代～中世の遺構・遺物が多数確認され、南西諸島では他に類を見ない大規模な集落跡であることがわかってきていると同時に、出土した遺物群は非在地的な様相が強いという特徴がある。最も古い遺物は、山田半田遺跡で出土した8世紀代の須恵器の蓋であるが、出土数が少ない上に同時期の遺物は他になく、その様相は判然としない。

山田中西・山田半田・半田口・小ハネ・前畑・大ウフ遺跡からは9・10世紀頃の遺物と11世紀後半～12世紀頃の遺物、13・14世紀頃の遺物が出土しているが、中でも11世紀後半～12世紀頃の遺物が圧倒的多数を占める。ただし、城久遺跡群の中でもっとも標高の低い半田遺跡では11世紀後半～14世紀頃に位置づけられる遺物が確認されているが、その中でも13・14世紀頃の遺物も出土量が多い傾向にある。遺跡群全体を見ると出土した遺物からは9世紀頃～14世紀頃までの時

間幅が与えられるが、9・10世紀頃と11世紀後半～12世紀頃、13・14世紀頃の3時期にピークがあると思われる。

以下、各遺跡について概略を述べる。

#### (1) 山田中西遺跡

平成14年度に確認調査、平成15・16年度に本調査を実施した。調査面積は約6,000㎡である。掘立建物跡を約41棟を復元し、土坑墓10基、炉跡3基、土坑3基、溝状遺構2条などを検出している。出土遺物は土師器・須恵器・越州窯系青磁・布目瓦直土器・白磁・初期高麗青磁・朝鮮系無釉陶器・カムイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・青磁・刀子・籾の羽口・鉄斧・石器などが出土しているが、中世の傾向を示すものが多い傾向にある。

#### (2) 山田半田遺跡

平成14・15年度に確認調査、平成16・17・19年度に本調査を実施し、平成20年度も一部調査を実施した。調査面積は約23,000㎡である。掘立建物跡は約110棟復元し、土坑墓8基、炉跡3基、土坑10基、焼土を伴う土坑20基、溝状遺構2条、柱穴5,000基などの遺構のほか、土師器・須恵器・兼久式土器・越州窯系青磁・布目瓦直土器・灰輪陶器・白磁・青磁・初期高麗青磁・朝鮮系無釉陶器・カムイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・鉄製品・籾の羽口・石器などが出土している。建物には奄美地域特有の1間×1間、1間×2間の掘立建物跡も多く見られる。前者には柱穴直径が1.2mと大きく、しかもその四方を30本の柱穴によって囲む特殊な構造のものが1棟確認されている。さらに、柱穴直径が50cmを超える2間×2間の総柱の建物跡や2間×3間の掘立建物跡の四方に計34本の柱穴を配置する大型の建物がある。

#### (3) 半田口遺跡

平成15～18年度に確認調査が実施されている。平成19年度は約10,000㎡の本調査を実施し、今年度は約10,000㎡を調査した。掘立建物跡は約20棟復元し、土坑墓・溝状遺構・土坑などの遺構のほか、土師器・須恵器・越州窯系青磁・白磁・青磁・カムイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・カムイヤキ・籾の羽口・石器などの遺物が出土している。

#### (4) 小ハネ遺跡

平成17年度に確認調査が実施し、平成18年度に本調査を実施している。調査面積は7,000㎡。掘立建物跡を約10棟復元し、土坑墓は火葬墓3基、土葬墓2基を検出している。また、炉跡10基などの遺構のほか、土師器・須恵器・越州窯系青磁・布目瓦直土器・白磁・青磁・初期高麗青

磁・カミイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・輪の羽口・石器などの遺物が出土している。

#### (5) 前畑遺跡

平成17年度に確認調査を実施し、平成18年度に本調査を実施している。調査面積は7,000㎡である。柱穴跡約4,000基を検出し、掘立柱建物跡を約20棟復元している。土坑墓では、火葬墓2基・土葬墓6基を検出している。また、炉跡4基、溝状遺構2条、柱穴列2列、石敷遺構を確認している。遺物としては土師器・須恵器・越州窯系青磁・布目庄痕土器・兼久式土器・白磁・青磁・初期高麗青磁・朝鮮系無釉陶器・カミイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・輪の羽口・砂鉄・石器などが出土している。なお、砂鉄は包含層中から出土している。

#### (6) 大ウフ遺跡

平成16・17年度に確認調査を実施し、平成19年度は2,000㎡の本調査を実施し、今年度は約4,000㎡の本調査を実施した。掘立柱建物跡を約20棟復元しており、土坑墓、

柱穴列、溝状遺構などのほか、焼土跡が約30基と多くそのうち約20基は鍛冶炉跡と考えられる。土師器・須恵器・越州窯系青磁・白磁・カミイヤキ・滑石製石鍋・龍泉窯系青磁・輪の羽口・砂鉄・鉄滓などの遺物が出土している。また、砂鉄を集積したピット状の土坑を検出している。その他、磁器と考えられる須恵器を伴う土坑墓や木棺墓と思われる土坑墓など城久遺跡群で初見となる事例が確認されている。

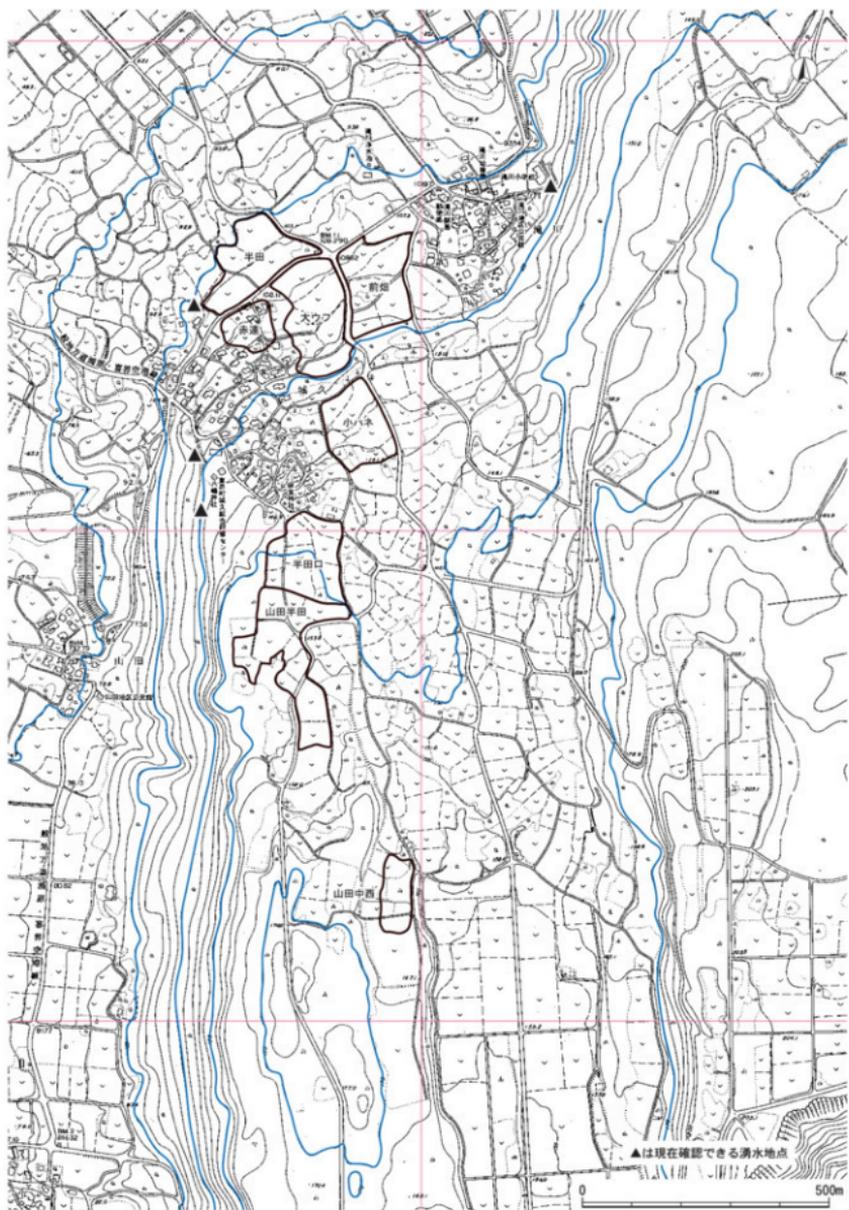
#### (7) 半田遺跡

平成16・17・18年度に確認調査などを実施し、古代末から中世の土坑墓・溝状遺構・土坑・柱穴などの遺構を検出している。土坑墓は6基検出し、取り上げた人骨は9体を数える（男性3名・女性3名・乳児1名・性別不明2名）。越州窯系青磁・兼久式土器・白磁・カミイヤキ・滑石製石鍋・龍泉窯系青磁・ガラスなどの遺物が出土した。

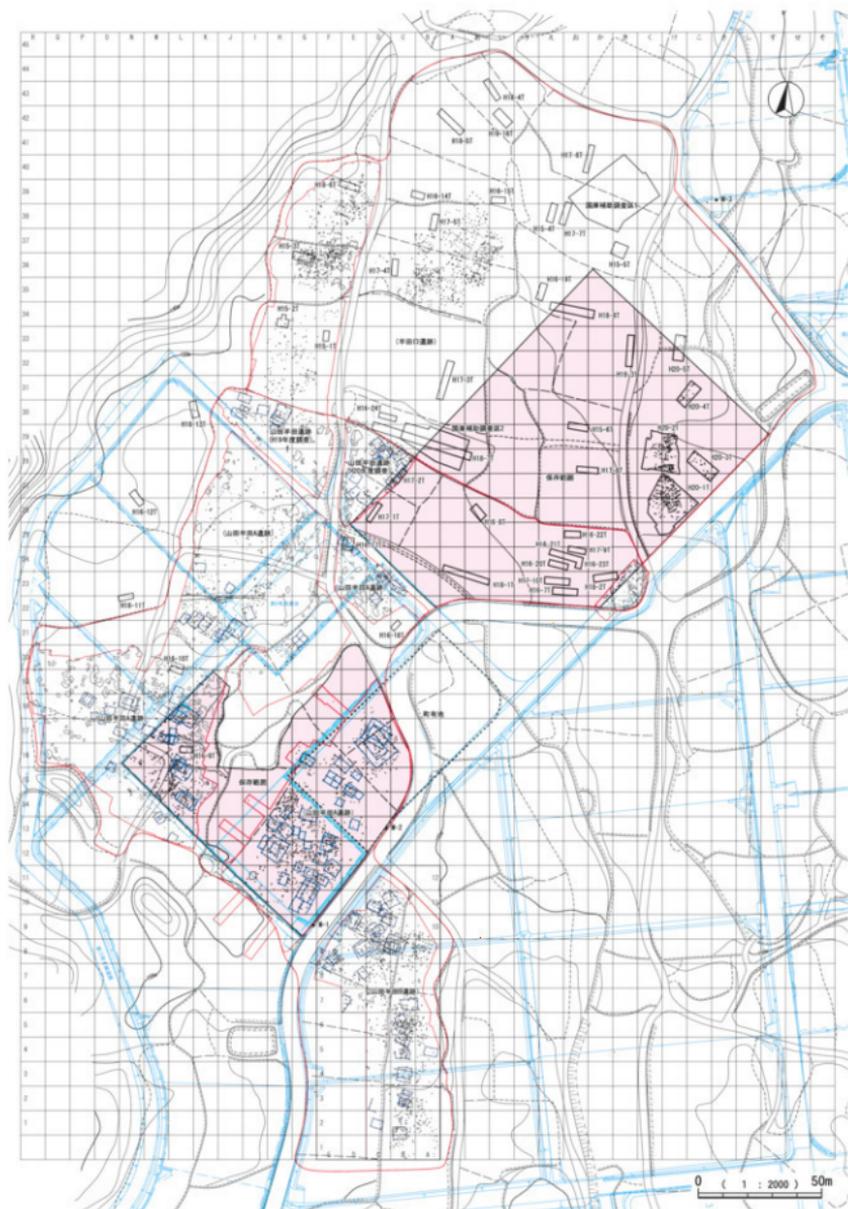
土坑墓の形状は、基本的な方形である。全て土葬で、屈葬の状態で見出している。いずれも明瞭な副葬品は確認できていない。

第2表 城久遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	調査の種類	調査期間	調査面積	時代	遺構	遺物	調査主体
山田中西	本調査 (掘)	平成15年5月～8月	5900㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(41)、土坑墓(10)、炉跡(3)、土坑(3)、焼土跡(3)、溝状遺構(2)、柱穴列(7)	土師器、須恵器、越州窯系青磁、布目庄痕土器、白磁、初期高麗青磁、朝鮮系無釉陶器、カミイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、輪の羽口ほか	町教育委員会
	本調査 (掘)	平成16年10月～12月					国文化財団、町教育委員会
山田平田	本調査	平成16年5月～8月	22,700㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(13)、土坑墓(8)、炉跡(3)、土坑(10)、焼土を伴う土坑(20)、焼土土坑(1)、溝状遺構(2)	土師器、須恵器、兼久式土器、越州窯系青磁、布目庄痕土器、白磁、初期高麗青磁、朝鮮系無釉陶器、カミイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、青磁、陶製品、鉄製品、銭、ガラス土、輪の羽口、鉄滓、石炭ほか	町教育委員会
	本調査	平成17年4月～平成18年3月					町教育委員会
	本調査	平成19年5月～平成20年3月					
半田口	本調査	平成20年6月～平成20年10月	2500㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(24)、土坑墓(3)、柱穴列(2)、土坑ほか	土師器、須恵器、越州窯系青磁、布目庄痕土器、白磁、初期高麗青磁、朝鮮系無釉陶器、カミイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、輪の羽口ほか	町教育委員会
	確認調査 (掘)	平成15年2月、平成16年2月、平成17年7月、平成18年2月					町教育委員会
	本調査	平成18年7月					
	本調査	平成19年4月～平成20年3月					
小ハネ	本調査	平成20年4月～平成21年3月	20100㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(11)、土坑墓(6)、炉跡(10)ほか	土師器、須恵器、越州窯系青磁、布目庄痕土器、白磁、初期高麗青磁、カミイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、輪の羽口ほか	町教育委員会
	本調査	平成18年4月～平成19年3月	7000㎡				町教育委員会
前畑	本調査	平成18年4月～平成19年3月	7000㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(19)、土坑墓(8)、炉跡(4)、溝状遺構(2)、石敷遺構ほか	土師器、須恵器、越州窯系青磁、布目庄痕土器、兼久式土器、白磁、初期高麗青磁、カミイヤキ、滑石製石鍋、滑石混入土器、輪の羽口、鉄滓、砂鉄ほか	町教育委員会
	確認調査	平成16年2月～3月、平成17年7月、平成18年2月	500㎡	古代末～中世	掘立柱建物跡(20)、土坑墓(2)、炉跡(30)、柱穴列、溝状遺構ほか	土師器、須恵器、越州窯系青磁、白磁、朝鮮系無釉陶器、カミイヤキ、滑石製石鍋、青磁、輪の羽口、砂鉄ほか	町教育委員会
確認調査 (掘)	平成18年7月	700㎡	町教育委員会				
本調査	平成19年8月	1000㎡					
本調査	平成19年4月～10月	6000㎡					
半田	確認調査	平成20年12月～平成21年3月	3000㎡	古代末～中世	柱穴、土坑墓(5)、溝状遺構、土坑ほか	越州窯系青磁、兼久式土器、白磁、カミイヤキ、滑石製石鍋、龍泉窯系青磁、ガラス土ほか	町教育委員会
	確認調査 (掘)	平成17年2月～3月、4月～5月、7月、平成18年2月、10月	3000㎡				町教育委員会
	確認調査	平成18年7月	200㎡				
水邊	確認調査 (掘)	平成20年7月	50㎡	中世	柱穴	青磁	町教育委員会



第2図 城久遺跡群遺跡位置図



第3図 山田半田遺跡全体遺構配置図

## 第IV章 調査の概要

### 第1節 発掘調査の方法

平成16年度からの本調査は、東から西方向にA・B・C、南から北方向に1・2・3とする10m間隔の調査用グリッドを設定して実施した。各年度とも伐採などの環境整備を実施した後、重機によって表土を除去し、遺物包含層であるⅡ層を人力で掘り下げ、Ⅲ層上面で遺構検出を行った。検出した遺構については、掘り下げを行い、写真撮影や50分の1や20分の1の遺構配置図、10分の1の個別図の作成などを行った。なお、掘立柱建物跡の復元は、調査現場と整理作業の段階で図上復元の両方で行った。発掘調査終了後は、プレハブなどの撤収を終え鹿児島県農政課農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備課）へ調査現場を引き渡した。

### 第2節 発見された遺構・遺物

調査では、古代末～中世（9世紀～14世紀）の遺構・遺物が発見された。遺構は、掘立柱建物跡113棟、土坑墓8基、炉跡3基、土坑10基、焼土を伴う土坑20基、焼土土坑1基、溝状遺構2条、柱穴約5,000基を検出した。遺物は土師器・須恵器・兼久式土器・越州窯系青磁・布目瓦痕土器・灰輪陶器・白磁・初期高麗青磁・朝鮮系無軸陶器・カムイヤキ・滑石製石鍋・滑石混入土器・青磁・ガラス玉・銭・銅製品・鉄

製品・籾の羽口・鉄滓・石器などが出土した。調査成果の詳細については、第V章でふれることとする。なお、陶磁器の分類は太宰府分類を参考としている。

### 第3節 層位

遺跡の土層は大きく4層に分けることができる。石灰岩の風化土壌であるために堆積は薄く、表土から基盤層までの深度は40cm程である。

- I層 — 灰褐色粘質土で、サトウキビ畑の耕作土として利用されている。
- II層 — 硬質の黒褐色粘質土で古代・中世の遺物包含層である。削平されている地点も多い。鉄製品と人骨の保存状態は比較的良好であるが、土師器の残りは非常に悪い。層厚は10～30cmで、炭化物・焼土を多く含んでいる。
- III層 — 赤褐色粘質土で一般にマーヅと呼ばれる遺跡の基盤層である。（一部、細分化できる箇所もある）
- IV層 — 隆起増塩帯である。調査区の至る所に露頭がみられる。

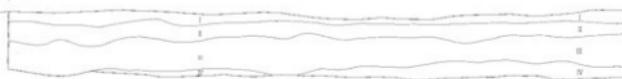


発掘作業員



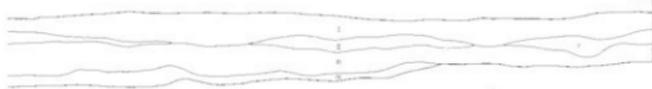
整理作業員

H-25 | I-25



—L=156.4

I-25 J-25

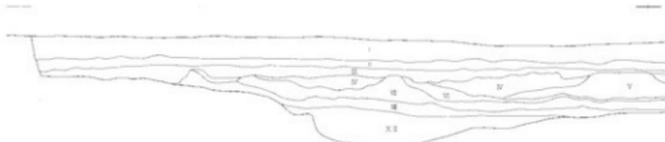


I-25.26区境界

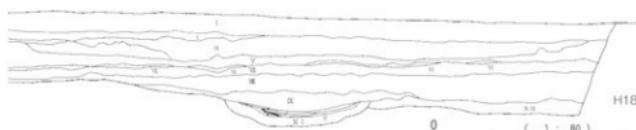
0 ( 1 : 80 ) 4m

I-25.26区境界

I層	暗褐色土、赤土、やや砂質の耕作土。
II層	暗褐色土、遺物包含層、色調は赤土に近いが、I層よりも炭化物・赤色粒がふる割合が高い。しまりなし。
III層	暗褐色土、遺物包含層、炭化物・赤色粒を多く含む。遺物包含層、しまりあり。
IV層	暗褐色土、やや炭化物が混じる。赤色粒がほとんど混ざらない。
V層	赤褐色土、埴山。



—L=151.0m



H18-2T北壁

0 ( 1 : 80 ) 4m

H18-2T北壁

I層	耕種作土、灰褐色土層でしまり、粘りなし。
II層	田耕作土、灰褐色土でIより茶色味が強い。土壌サンプル①を採取。(※ⅤⅢ層第3節参照)
III層	硬化面、暗褐色土、黄色のブロックを含む混土層で、固くしまっている。
IV層	褐色土層。
V層	暗褐色土層、しまり、粘りあり。やや不安定な堆積をしている。所々に筋状の堆積がみられる。土壌サンプル②を採取。(※ⅤⅢ層第3節参照)
VI層	灰褐色土層、V層の下にやや深く堆積する。重層では厚めに堆積している。
VII層	褐色土層、しまりあり。
VIII層	暗褐色土層、第2硬化面。溝がはげ埋没した段階で形成されたものとみられ、平面観は網目状を呈する。
IX層	暗褐色土層、黄色のブロックを少量含む。溝状遺構①の上方のみ堆積。
X層	灰色土層、フロスタミナが観察され、木炭堆積によるものと見られる。
XI層	褐色土層、溝状遺構②の埋土。
XII層	溝状遺構①の埋土。地山のブロックを少量含む。F地区溝状遺構埋土③～⑤に対応する。
XIII層	最下層と認められる。土壌サンプル③を採取。(※ⅤⅢ層第3節参照)



溝状遺構①

溝状遺構②

0 ( 1 : 100 ) 5m

## 第V章 発掘調査の成果

### 第1節 遺構

山田半田遺跡は平成16～20年度にかけて本調査が行われている。発掘調査面積が非常に広いため、便宜上A地区～F地区と分け、各地点の詳細図ごとについて報告する。以下、見出しにつく括弧内の番号は詳細図の番号である。

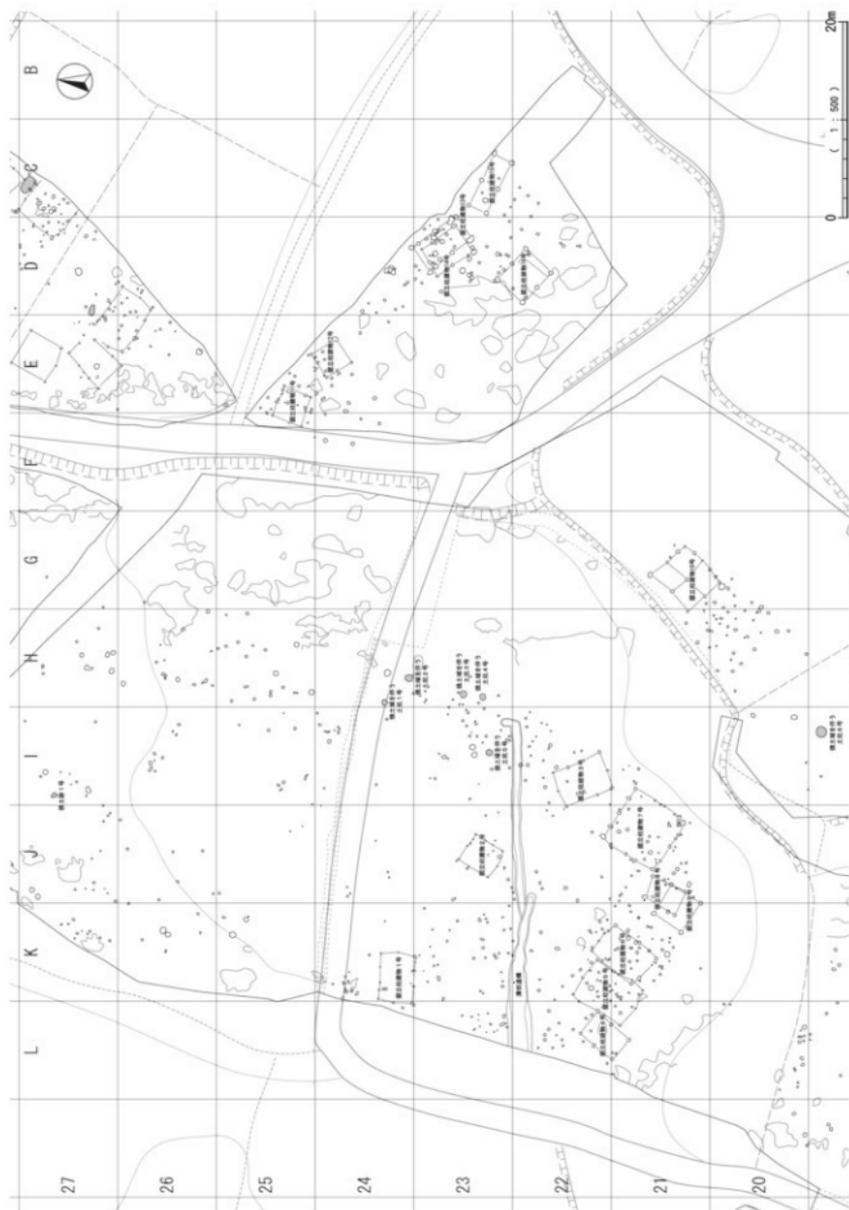
A・B・C地区は平成17年度調査、D地区は平成16年度調査、

E・F地区は平成19・20年度調査区域である。

なお、付図中柱穴内に色彩しているものは検出時に確認した埋土色である。ピンク=暗褐色土、黄色=灰褐色土、青=褐色土であり、柱穴内遺物から、ピンク・黄色は古代・中世の埋土、青色は近世・近代の埋土と考えている。



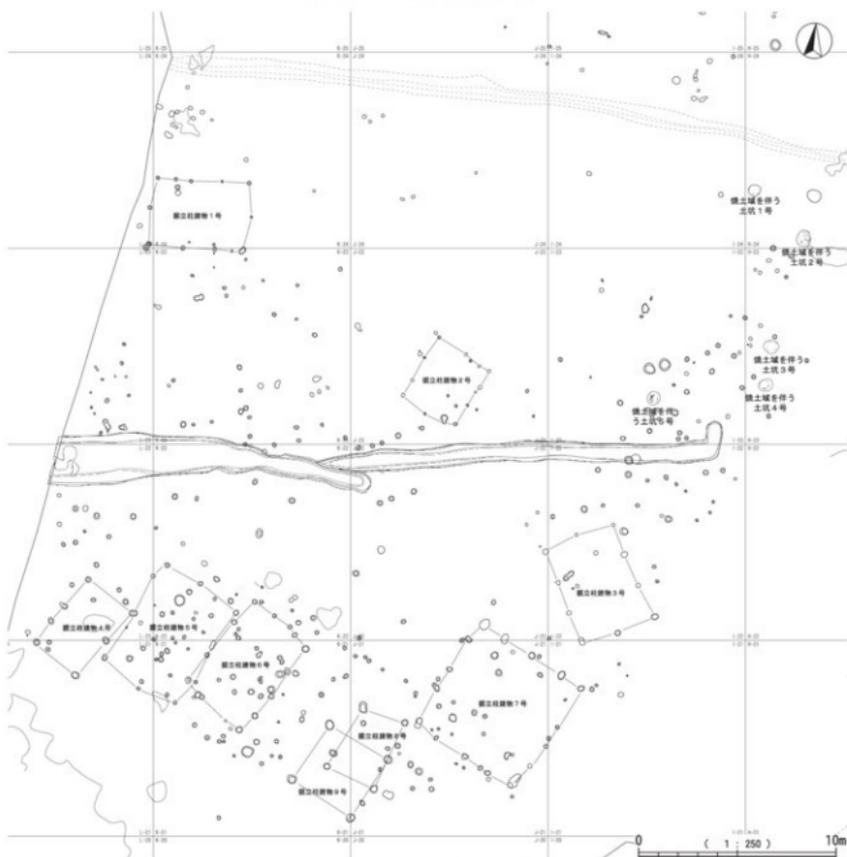
第5図 全体遺構配置図



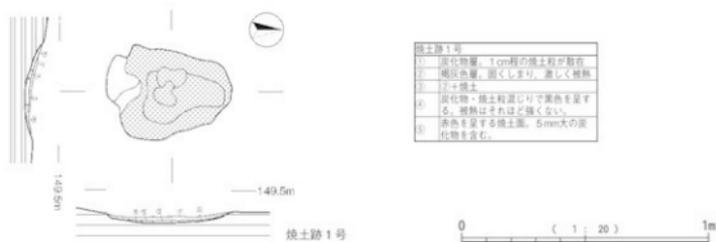
第6図 A地区消構配置図



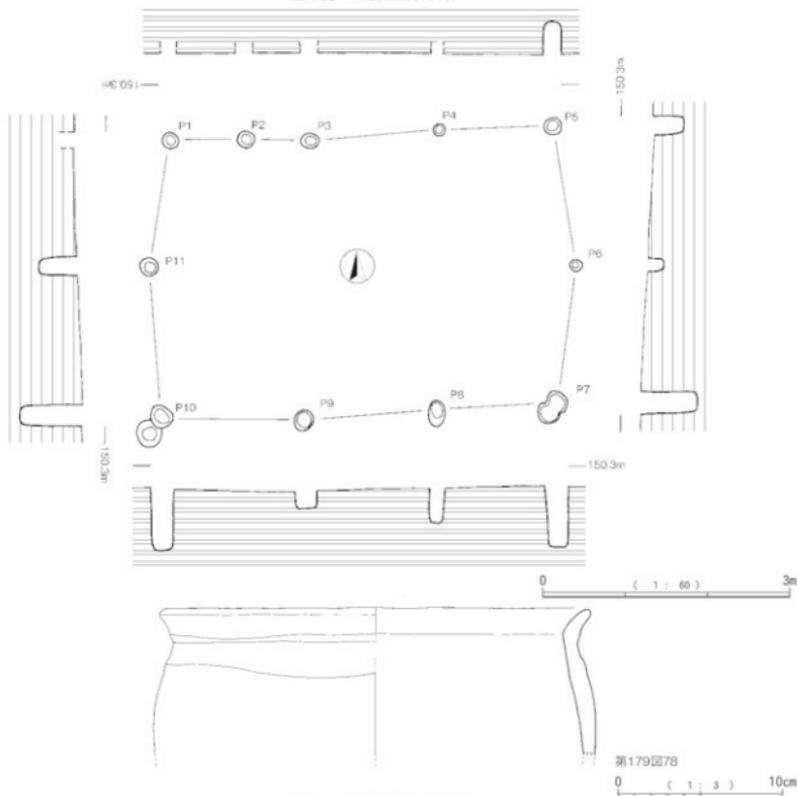
第7图 A地区详细遗构配置图(1)



第8图 A地区详细遗构配置图(2)



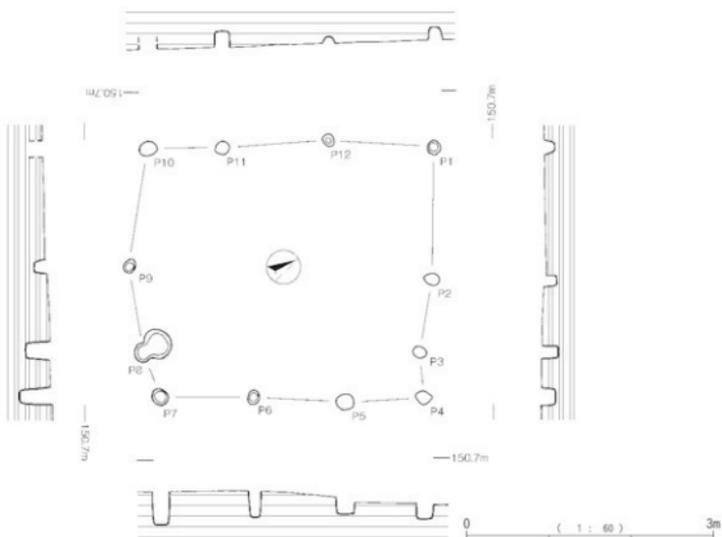
第9図 A地区土坑(1)



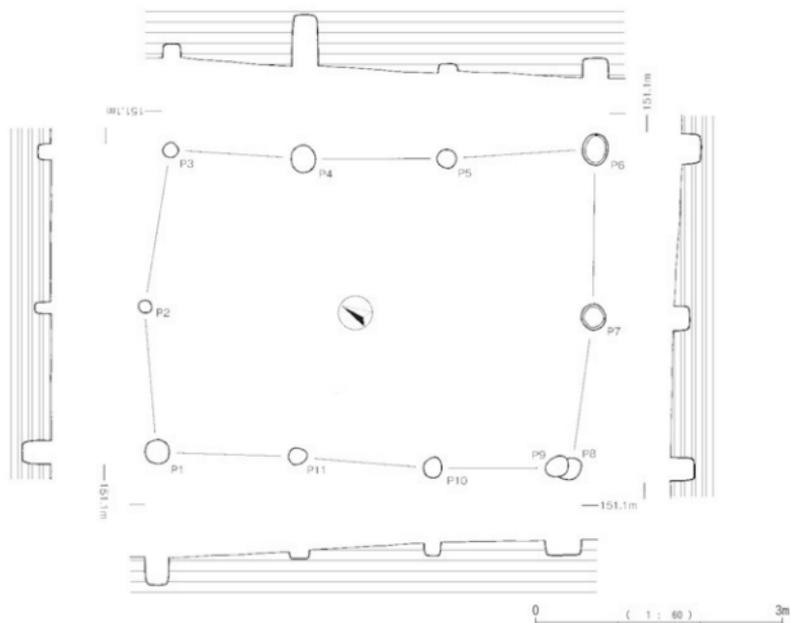
第10図 掘立柱建物跡1号

第3表 掘立柱建物跡1号計測表

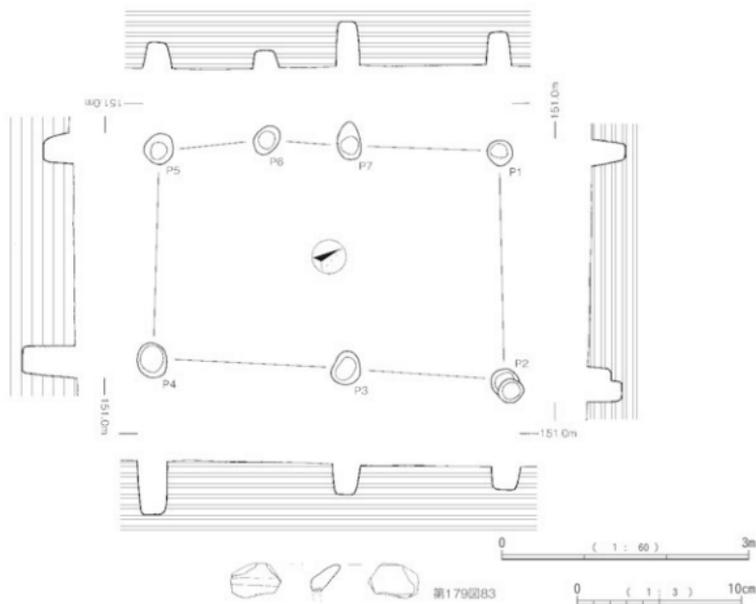
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P10	344cm	平均	172cm	P01 - P05	465cm	平均	116cm	方向N88° E	P4: 土師器 (12);
P05 - P07	358cm	平均	179cm	P10 - P07	471cm	平均	157cm	伊奈峰15~42cm	P5: 土師器 (3), P7: 土師器 (2);
P01 - P11	158cm	P05 - P06	173cm	P01 - P02	92cm	P10 - P09	174cm	伊奈土19~79cm	P10: 土師器 (1)
P11 - P10	186cm	P06 - P07	185cm	P02 - P03	78cm	P09 - P08	162cm	面積16.9㎡	[陶製遺物]
				P03 - P04	157cm	P08 - P07	135cm		P5: 第179図78
				P04 - P05	138cm				



第11回 掘立柱建物跡2号



第12回 掘立柱建物跡3号



第13図 掘立柱建物跡4号

1 A地区(1・2)

A地区では9棟の掘立柱建物跡を検出した。建物の規模は3×2間・1×1間を主体とする。A地区の北側、I-26区周辺では柱穴跡が少なく、建物跡は復元できなかった。その周辺では遺物包含層が比較的厚く堆積していた。また、G・H-21・22～G・25区付近でも同様に遺構が見られないが、こちらは近世の造成で削平された可能性が高い。土坑は焼土域を伴う土坑を多く検出しており、H・I-23区付近に集中して見られた。

(1) 焼土跡

焼土跡1号(第9図)

長軸50×短軸35cmの楕円形を呈している。検出時は周囲にも焼土が見られた。表層の炭化物層を取り除くと一面に焼土面が広がる。全体が良く焼けているが、その中でも中心部分に変色・硬化した部分が見られることから、鍛冶炉の可能性が考えられる。

第4表 掘立柱建物跡2号計測表

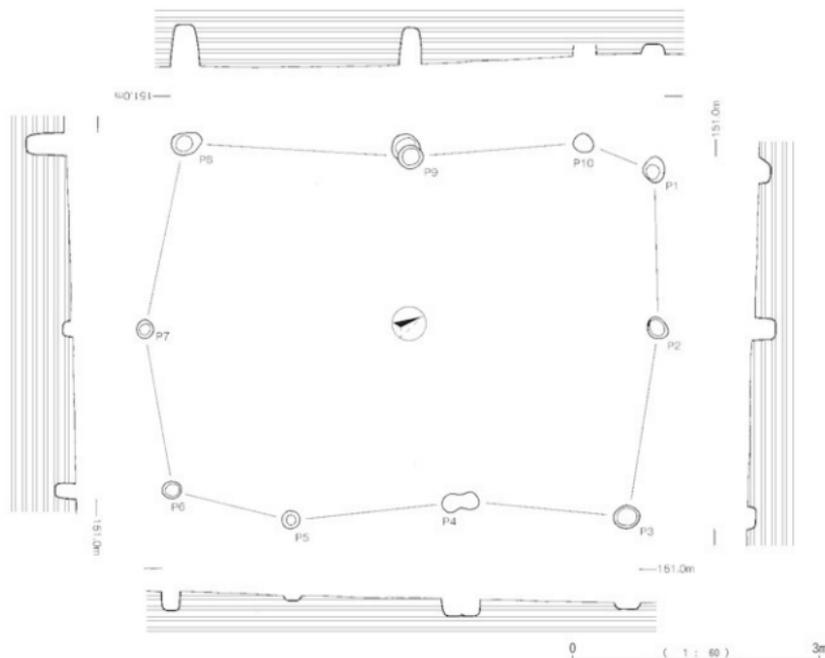
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P10・P07	310cm	平均	103cm	P10・P01	348cm	平均	116cm	方向N26° E	P3: 硝石(1), P12: 石器(1)
P01・P04	317cm	平均	106cm	P07・P04	319cm	平均	106cm	P深径:16～48cm	[埋藏遺物]
P10・P09	145cm	P01・P02	161cm	P10・P11	91cm	P07・P06	113cm	P深径:9～39cm	P3: 灰205箇445
P08・P08	107cm	P02・P03	90cm	P11・P12	130cm	P06・P05	111cm	面積:10.9㎡	
P08・P07	58cm	P03・P04	66cm	P12・P01	127cm	P05・P04	95cm		

第5表 掘立柱建物跡3号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03・P01	375cm	平均	188cm	P03・P06	515cm	平均	172cm	方向N27° W	P3: 土師器(1), P4: 土師器(2),
P06・P08	393cm	平均	197cm	P01・P09	502cm	平均	167cm	P深径:16～48cm	P5: 土師器(1), P10: 土師器(1)
P03・P02	195cm	P06・P07	206cm	P03・P04	160cm	P01・P11	170cm	P深径:10～63cm	
P02・P01	180cm	P07・P08	187cm	P04・P05	175cm	P11・P10	165cm	面積:19.8㎡	
				P05・P06	180cm	P10・P09	167cm		

第6表 掘立柱建物跡4号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05・P04	256cm	平均	256cm	P05・P01	414cm	平均	138cm	方向N34° E	P1: 硝石(1), P2: 滑石製石鏡(1),
P01・P02	281cm	平均	281cm	P04・P02	428cm	平均	214cm	P深径:32～46cm	P3: 滑石製石鏡(1),
P05・P04	256cm	P01・P02	281cm	P05・P06	132cm	P04・P03	236cm	P深径:22～65cm	P4: 土師器(2), 粘土塊(1), P7: 土師器(1)
				P06・P07	101cm	P03・P02	192cm	面積:11.5㎡	[埋藏遺物]
				P07・P01	181cm				P7: 第179図83



第14図 掘立柱建物跡5号

(2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡1号 (第10図, 第3表)

K-24区で検出。3×2間の建物跡である。北側桁行では1間多い。梁行方向の中柱が外面に向かって張り出している。P5から土師器が出土している。東西方向に主軸を持つ。

掘立柱建物跡2号 (第11図, 第4表)

J-23区で検出。3×3間の小型建物跡である。ややいびつでゆがみを持ち、北側角の柱穴本数が増えている。溝状遺構に近接して構築されている。

掘立柱建物跡3号 (第12図, 第5表)

I-22区で検出。3×2間の建物跡である。北側に若干傾いた地形に立地している。柱穴の深さに若干ばらつきが認められる。掘立柱建物1号と同様に梁行方向の中柱が外面に向かって張り出している。

第7表 掘立柱建物跡5号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P08 - P06	436cm	平均	219cm	P08 - P01	577cm	平均	192cm	方向N27° E	
P01 - P03	425cm	平均	213cm	P06 - P03	561cm	平均	187cm	伊集屋22-45cm	
P08 - P07	236cm	P01 - P02	192cm	P08 - P09	268cm	P06 - P05	150cm	伊深&10-52cm	
P07 - P06	200cm	P02 - P03	233cm	P09 - P10	218cm	P05 - P04	197cm	面積25.7㎡	
				P10 - P01	91cm	P04 - P03	214cm		

掘立柱建物跡4号 (第13図, 第6表)

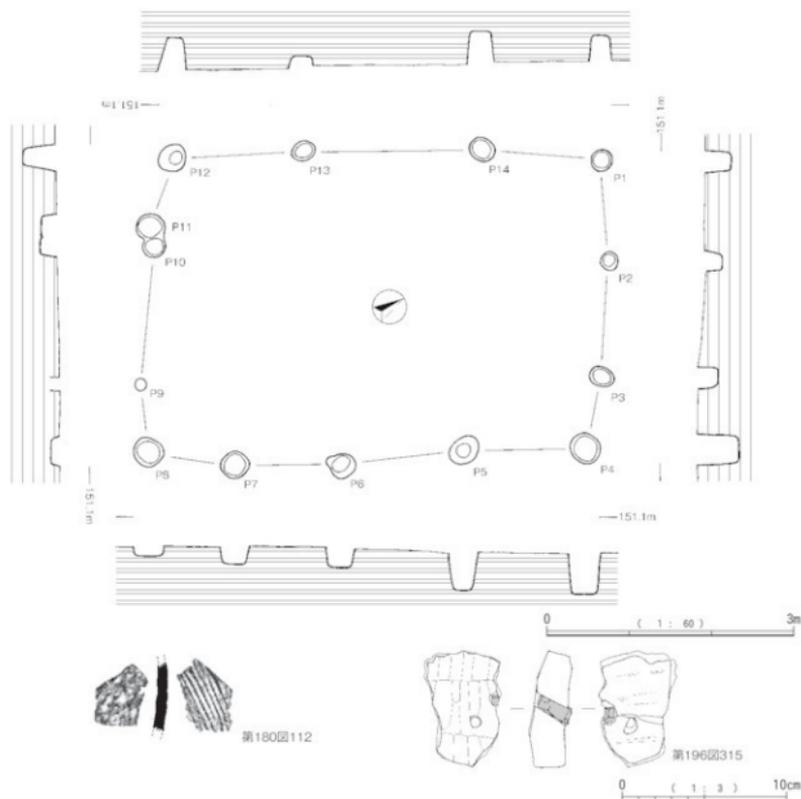
L-21・22区で検出。2×1間の建物跡と考えられる。西側では1間多い。P7から土師器が出土している。

掘立柱建物跡5号 (第14図, 第7表)

K-21・22区で検出。西側で1間少なく、若干ばらつきも認められるが、3×2間の建物跡であると考えられる。この建物跡も梁行方向の中柱が外面に向かってやや張り出しを持つ。掘立柱建物跡4・6号と同一方向の軸を持ち、それぞれ重複している。

掘立柱建物跡6号 (第15図, 第8表)

K-21・22区で検出。桁行東側で4間、西側で3間、梁行3間の建物跡である。P3から須恵器、P14から滑石製石鍋が出土している。



第15図 掘立柱建物跡6号

掘立柱建物跡7号 (第16図, 第9表)

J-21区で検出。4×4間の方形建物跡である。床面積は37.8㎡であり、A地区の建物群のなかで広い面積を持つ。P5・8から土師器が、P6から滑石製石鍋が出土している。

掘立柱建物跡9号 (第18図, 第11表)

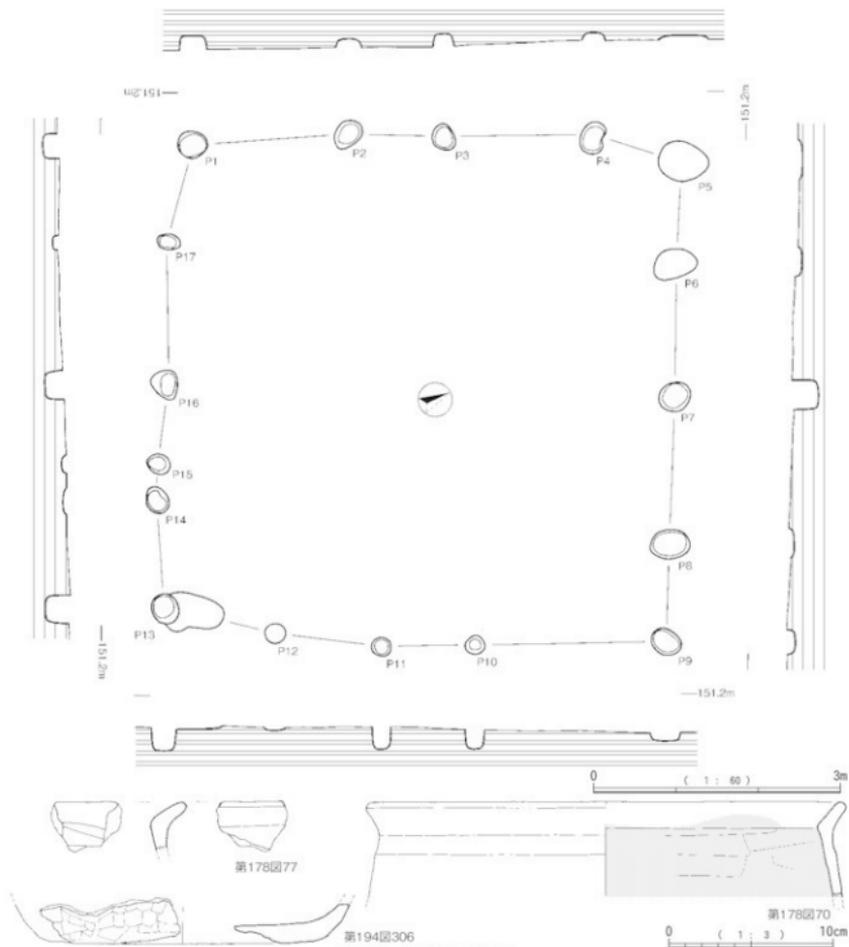
J・K-21区で検出。1×1間の建物跡である。正方形に近い形状をしている。

掘立柱建物跡8号 (第17図, 第10表)

J・K-21区で検出。1×1間の建物跡である。平面形状は若干ゆがんでいる。掘立柱建物跡9号と重複している。

第9表 掘立柱建物跡6号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P12 - P08	419cm	平均	105cm	P12 - P01	519cm	平均	173cm	方向N30° E	P3 : 土師器 (2), 須磨器 (1), 粘土塊 (1),
P01 - P04	355cm	平均	118cm	P08 - P04	537cm	平均	134cm	伊東径:15~39cm	P5 : 石葺 (1),
P12 - P11	113cm	P01 - P02	121cm	P12 - P13	158cm	P08 - P07	109cm	水深:14~50cm	P6 : 土師器 (3), 滑石製石鍋 (1),
P11 - P10	25cm	P02 - P03	144cm	P13 - P14	215cm	P07 - P06	128cm	面積20.7㎡	P8 : 石葺 (3),
P10 - P09	197cm	P03 - P04	90cm	P14 - P01	146cm	P06 - P05	150cm		P14 : 土師器 (1), 須磨系無釉陶器 (1),
P09 - P08	84cm					P05 - P04	150cm		滑石製石鍋 (1), 鉄滓 (1)
									[埋藏品類]
									P3 : 第180図112,
									P14 : 第196図315

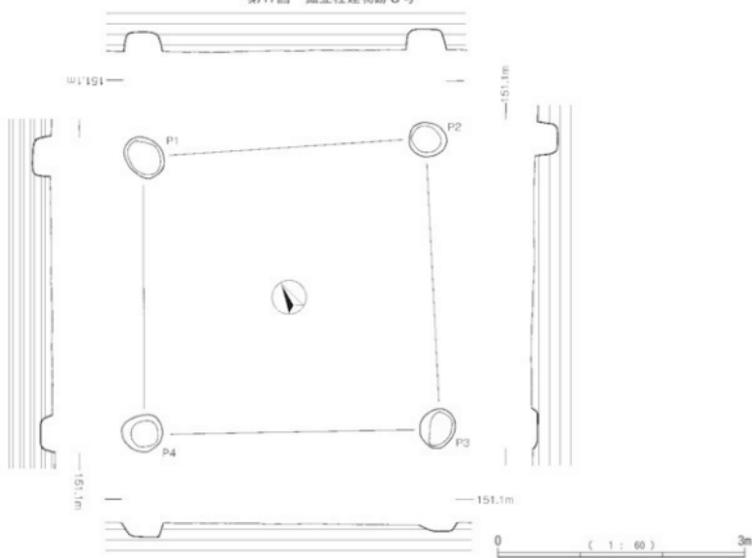
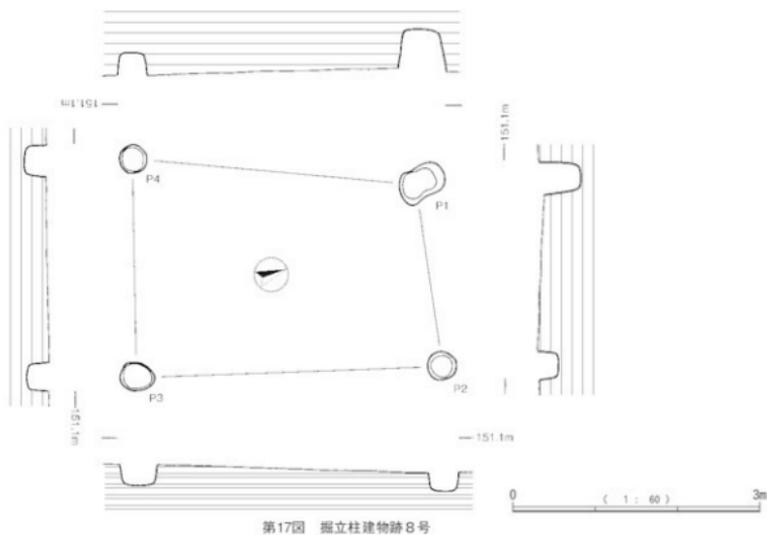


第9表 掘立柱建物跡7号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P13	573cm	平均	114cm	P01 - P05	596cm	平均	149cm	方向N30° E	P1 滑石製石鏡 (1), P5 土師器 (3),
P05 - P09	567cm	平均	147cm	P13 - P09	616cm	平均	154cm	片直径23~60cm	P6 土師器 (1), 滑石製石鏡 (3),
								片径 4~34cm	灰化物 (4),
P01 - P17	123cm	P05 - P06	125cm	P01 - P02	190cm	P13 - P12	140cm	面積37.8㎡	P7 須磨器 (1), P8 土師器 (1),
P17 - P16	175cm	P06 - P07	161cm	P02 - P03	114cm	P12 - P11	130cm		P16 土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)
P16 - P15	100cm	P07 - P08	181cm	P03 - P04	182cm	P11 - P10	114cm		(未記載遺物)
P15 - P14	45cm	P08 - P09	120cm	P04 - P05	110cm	P10 - P09	232cm		P5 第178図70, P6 第194図306,
P14 - P13	130cm								P8 第178図77

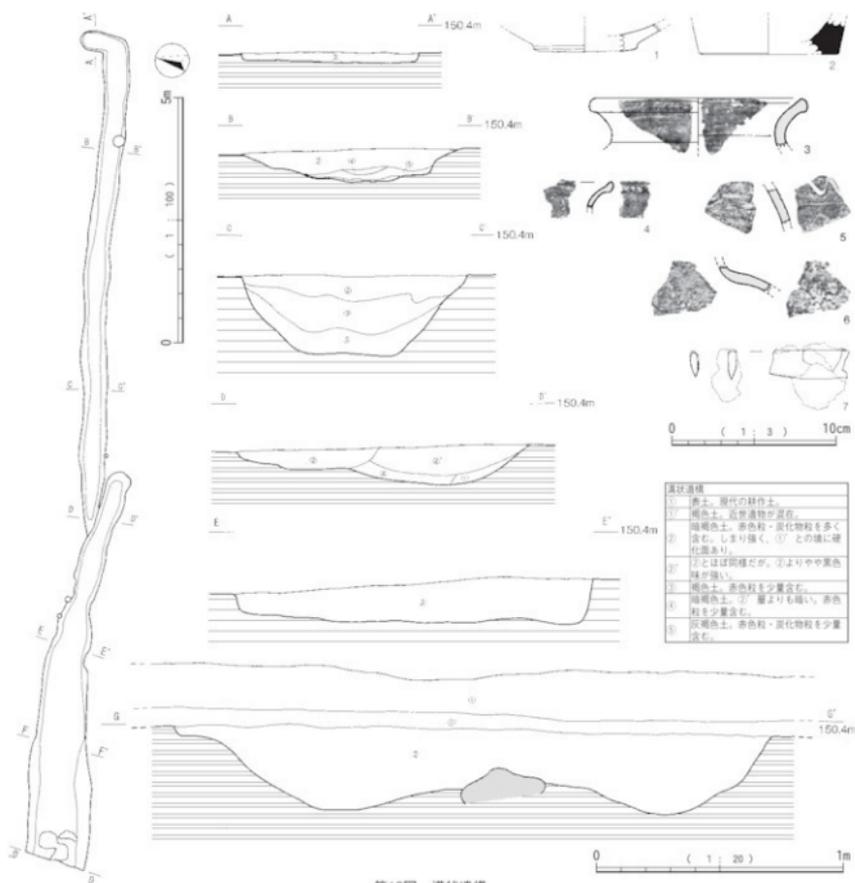
第10表 掘立柱建物跡8号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	270cm	平均	270cm	P04 - P01	348cm	平均	348cm	方向N19° E	P1 土師器 (1), 滑石製石鏡 (2),
P01 - P02	225cm	平均	225cm	P03 - P02	372cm	平均	372cm	片直径36~59cm	P4 土師器 (1), 粘土塊 (6)
P04 - P03	270cm	P01 - P02	225cm	P04 - P01	348cm	P03 - P02	372cm	片径 4~24~48cm	
								面積 9㎡	



第11表 掘立柱建物跡9号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	338cm	平均	338cm	P01 - P02	345cm	平均	345cm	方向N63° W	
P02 - P03	355cm	平均	355cm	P04 - P03	360cm	平均	360cm	水深毎45~53cm	
P01 - P04	338cm	P02 - P03	355cm	P01 - P02	345cm	P04 - P03	360cm	水深 6.7~25cm 皿様12cm	



(3) 溝状遺構 (第19図、第12表・第13表)

I-22~K-22区にかけて検出した。表土除去、遺構上面に硬化面が確認できた(②層上面)。2条重複して検出したが、時期差は確認できなかった。

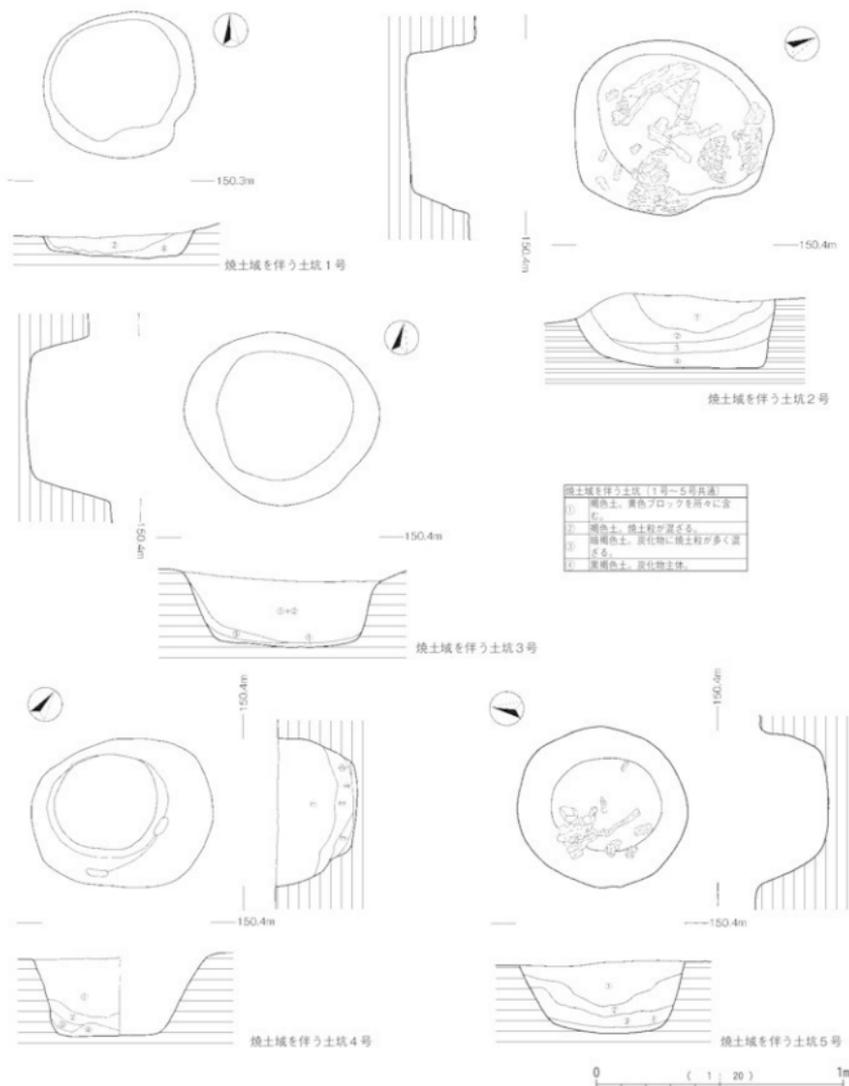
1は黒色土器A類である。推定底径6.2cmを測る。2は須恵器の底部である。3~6はカムイヤキである。7は推定口径12.4cmを測る口縁部である。7は刀子である。刃部は緩やかな曲線を描く。

第12表 溝状遺構出土遺物観察表(1)

神田 No	品 No	出土区	遺構名	分層1	部種	分層2	部位	計測値 (cm)			調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
								口径	胴径	底径						
18	1	I-22	溝状遺構	黒色土器	碗	決断	底部		6.2			黒色	淡黄色	良好	表面摩滅	
	2	I-22	溝状遺構	須恵器	壺	底部		8.4				灰白色	灰白色	良好		
	3	I-22	溝状遺構	カムイヤキ	壺	口縁部	12.4				ナデ	ナデ	暗青灰色	暗青灰色	良好	
	4	I-22	溝状遺構	カムイヤキ	壺	口縁部					ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	良好	
	5	I-22	溝状遺構	カムイヤキ	壺	肩部					ナデ	ナデ	灰オリーブ色	灰色	良好	外側に遺状沈線あり
	6	I-22	溝状遺構	カムイヤキ	壺	頸部					ナデ	ナデ	にじり黄褐色	にじり褐色	不良	

第13表 溝状遺構出土遺物観察表(2)

神田 No	品 No	出土区	遺構名	分層1	部種	分層2	部位	計測値 (cm)			調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
								長さ	幅	厚さ						
18	7	I-22	溝状遺構	鉄製品	刀子			4.6	1.7	0.5					30g	



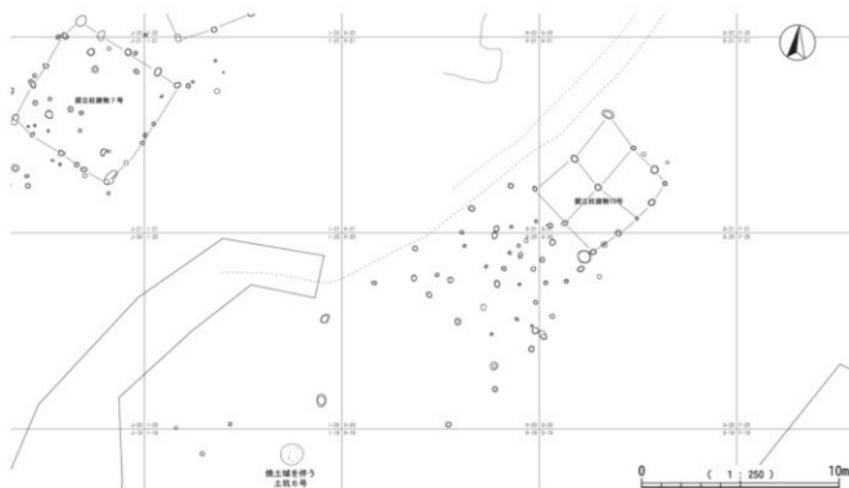
第20図 A地区土坑 (2)

(4) 焼土域を伴う土坑

基本的に周囲が赤く被熱しており、最下層に炭化物充填層を有するものを焼土域を伴う土坑として分類した。

A地区では焼土域を伴う土坑を5基確認した。基本的な堆

積は表面では灰色味を帯びた褐色を呈し、下層にいくにしたがって炭化物と赤褐色粒が混ざり始める。最下層では炭化物のみが充填している状況である。



第21図 A地区詳細構造配置図(3)

#### 焼土域を伴う土坑1号

H-24区で検出。長軸66cm×短軸58の円形状土坑である。①層と③層は検出できなかった。

#### 焼土域を伴う土坑2号

H-24区で検出。長軸80×短軸70cmの円形状土坑である。大きめの炭化材が多く密集した状態で検出している。本資料は科学分析が行われ、ヤクシマサルスベリと同定されている(第VI章第2節参照)。

#### 焼土域を伴う土坑3号

H-23区で検出。長軸80cm×短軸70cmの楕円形状土坑である。微細な炭化物が①層に堆積していた。

#### 焼土域を伴う土坑4号

H-23区で検出。長軸74cm×短軸60cmの楕円形状土坑である。他の土坑とは異なり、土坑中位に段が見られる。③層は薄く堆積していた。

#### 焼土域を伴う土坑5号

I-23区で検出。長軸69cm×短軸65cmの円形状土坑である。焼土域を伴う土坑2号と同様にやや大きめの炭化材が残存していた。

## 2 A地区(3)

掘立柱建物跡1基、焼土域を伴う土坑を1基それぞれ検出した。焼土域を伴う土坑の周辺は柱穴がほとんど確認できなかった。

### (1) 掘立柱建物跡

#### 掘立柱建物跡10号(第22図, 第14表)

G-21区で検出。2×2期の総柱建物跡である。東側から北側の一側面にかけて柱穴が多く配置されている。建物自体は若干ゆがんでいる。P6から滑石製石鍋、P11から刀子が出土している。

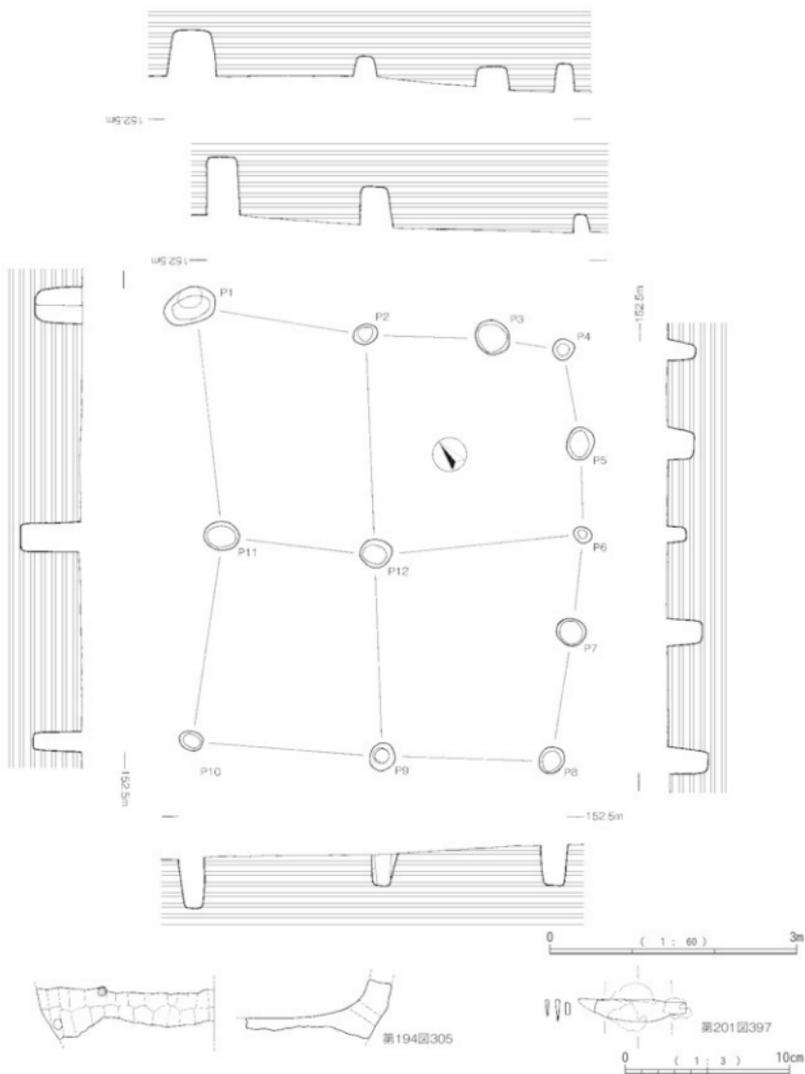
### (2) 焼土域を伴う土坑

#### 焼土域を伴う土坑6号

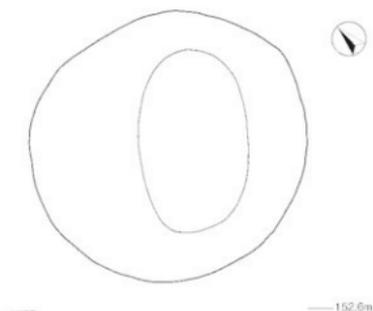
長軸110×短軸110cmの円形状であり、他のものよりも径が大きい。炭を除去した最下層からも焼土域を確認している。同型のものは後述する焼土域を伴う土坑14号に見られる。

第14表 掘立柱建物跡10号計測表

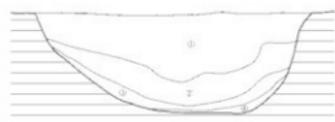
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P10 - P08	439cm	平均	219cm	P10 - P01	548cm	平均	274cm	方向N42° E	P4: 粘土塊 (1), P6: 滑石製石鍋 (1), P10: 滑石製石鍋 (1), 石鉢 (2), P11: 鉄製品 (1) (炭化遺物) P6: 第194図305, P11: 第201図397
P01 - P04	459cm	平均	153cm	P08 - P04	510cm	平均	128cm	伊原塚23-65cm	
P11 - P06	441cm	平均	221cm	P09 - P02	515cm	平均	265cm	伊原塚22-70cm	
P10 - P09	232cm	P01 - P02	217cm	P10 - P11	253cm	P08 - P07	160cm	面積23㎡	
P09 - P08	206cm	P02 - P03	155cm	P11 - P01	295cm	P07 - P06	122cm		
		P03 - P04	87cm			P06 - P05	110cm		
						P05 - P04	118cm		
P11 - P12	186cm			P09 - P12	245cm				
P12 - P06	255cm			P12 - P02	270cm				



第22図 掘立柱建物跡10号



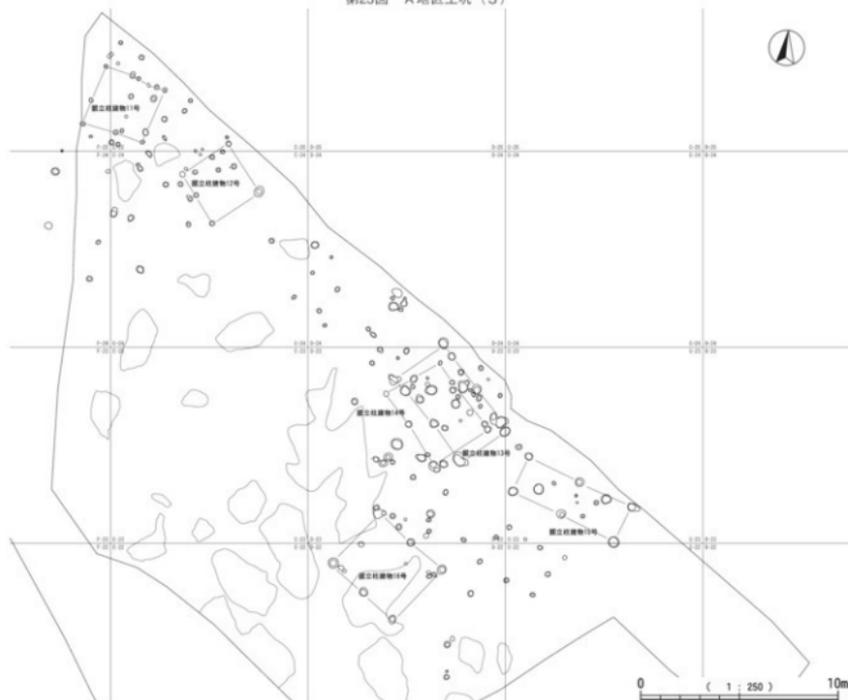
焼土域を伴う土坑石形	
①	褐色土。黄色フロッツを所々に含む。
②	褐色土。焼土粒が混ざる。
③	褐色土。炭化物に焼土粒が多く混ざる。
④	黄褐色土。炭化物主体。



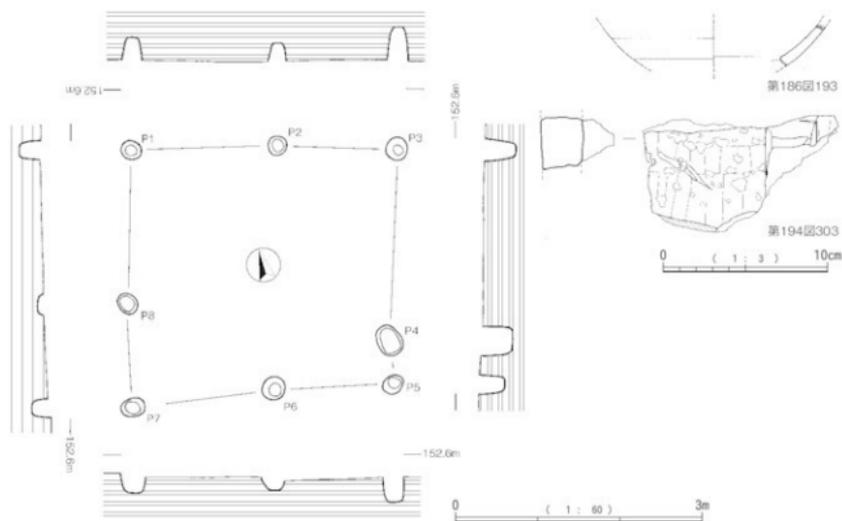
焼土域を伴う土坑6号



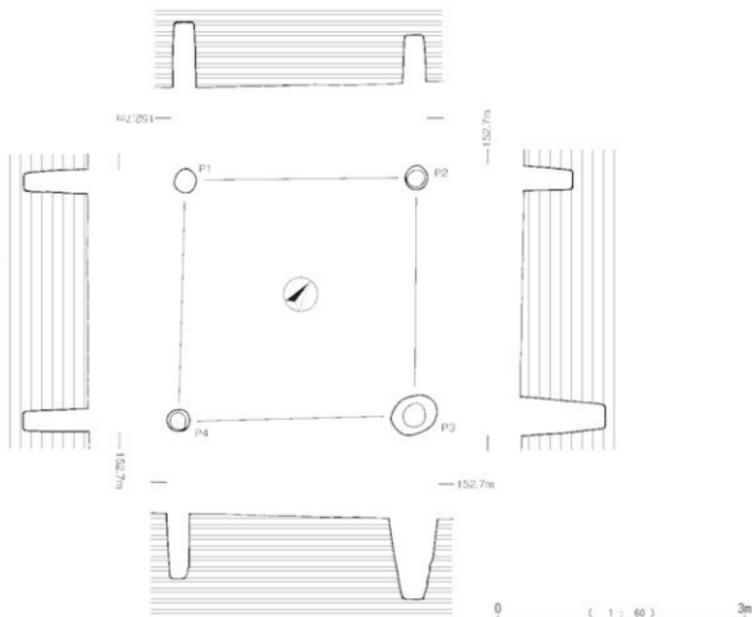
第23図 A地区土坑(3)



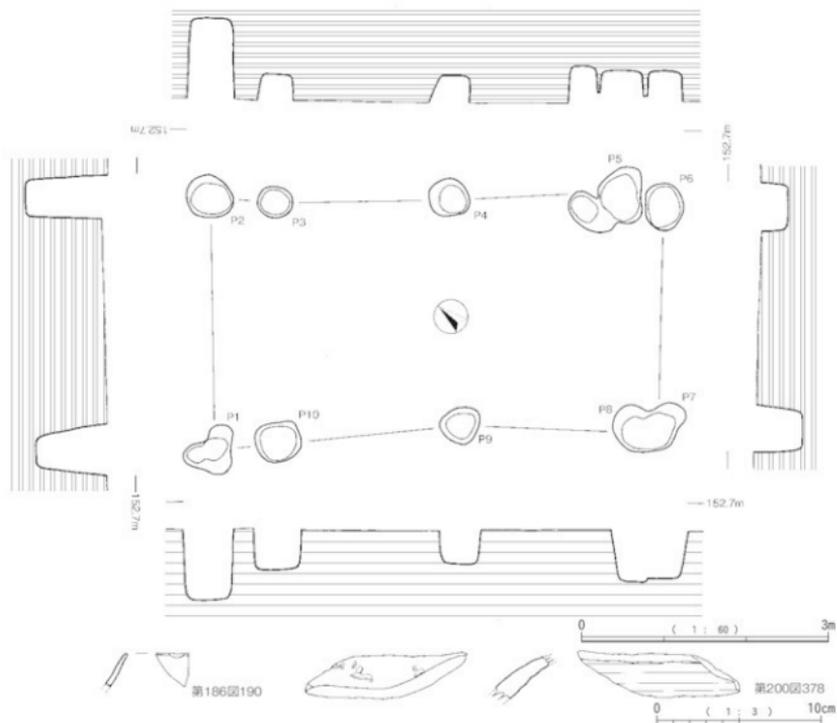
第24図 A地区詳細遺構配置図(4)



第25図 掘立柱建物跡11号



第26図 掘立柱建物跡12号



第27図 掘立柱建物跡13号

第15表 掘立柱建物跡11号計測表

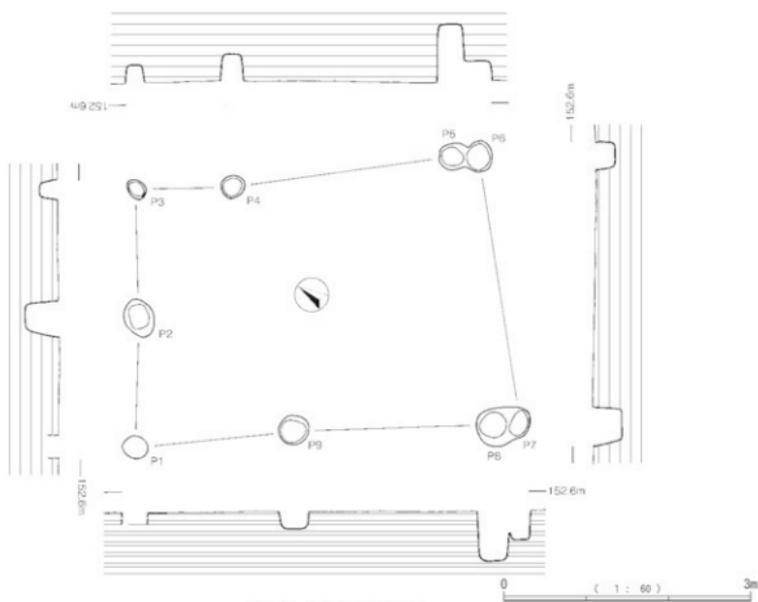
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P07	318cm	平均	159cm	P01 - P03	324cm	平均	162cm	方向N61° W	P2 : 中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (1),
P03 - P05	267cm	平均	144cm	P07 - P05	321cm	平均	161cm	伊深径: 24~39cm	P4 : 布目瓦葺土器 (6), 鉄洋 (1),
P01 - P08	190cm	P03 - P04	235cm	P01 - P02	177cm	P07 - P06	176cm	伊深径: 7~43cm	灰化物 (2),
P06 - P07	128cm	P04 - P05	53cm	P02 - P03	147cm	P06 - P05	145cm	面積: 9.5㎡	P8 : 滑石製石鏡 (1)
									[未記載遺物]
									P2 : 第186図193, P8 : 第194図3303

第16表 掘立柱建物跡12号計測表

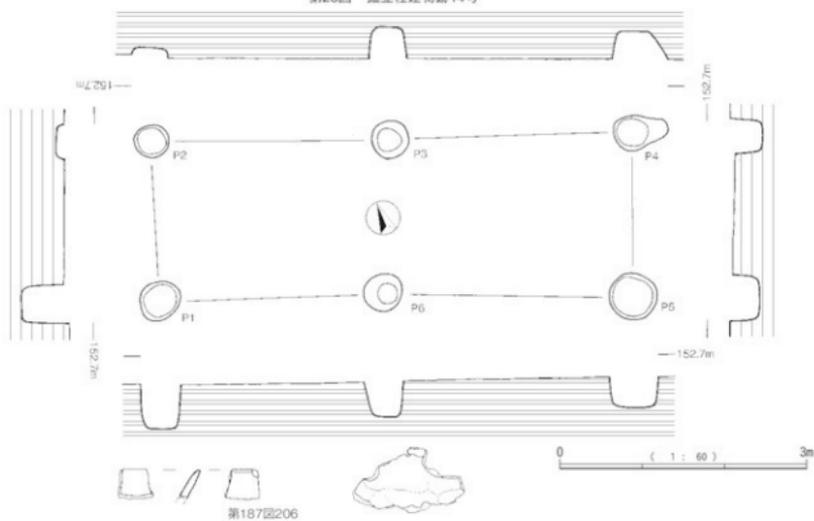
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	261cm	平均	261cm	P02 - P03	290cm	平均	290cm	方向N38° W	P3 : 石器 (1)
P03 - P04	267cm	平均	267cm	P01 - P04	295cm	平均	295cm	伊深径: 26~57cm	
P02 - P01	261cm	P03 - P04	267cm	P02 - P03	290cm	P01 - P04	295cm	伊深径: 56~103cm	
								面積: 6.3㎡	

第17表 掘立柱建物跡13号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	310cm	平均	310cm	P02 - P06	548cm	平均	137cm	方向N45° W	P1 : 土師器 (2), 滑石製石鏡 (1),
P05 - P07	275cm	平均	275cm	P01 - P07	539cm	平均	135cm	伊深径: 43~69cm	粘土塊 (1), 鉄洋 (1), 石器 (1),
P02 - P01	310cm	P06 - P07	275cm	P02 - P03	77cm	P01 - P10	78cm	伊深径: 34~96cm	P2 : 須臾器 (1), 滑石製石鏡 (2), 鉄洋 (2),
				P03 - P04	216cm	P10 - P09	224cm	面積: 15.6㎡	石器 (1), 灰化物 (1),
				P04 - P05	205cm	P09 - P08	212cm		P3 : 土師器 (1),
				P05 - P06	50cm	P08 - P07	25cm		P4 : 須臾器 (1), 中世白磁 (1), カムイヤキ (1),
									鎌の刃口 (1), 石器 (2),
									P6 : 土師器 (1), 石器 (1),
									P8 : 土師器 (1), 滑石製石鏡 (1),
									粘土塊 (1),
									P9 : 中世陶器 (1), 滑石製石鏡 (1),
									P10 : 土師器 (1), 中世白磁 (1),
									カムイヤキ (1), 鎌の刃口 (1),
									石洋 (2)
									[未記載遺物]
									P4 : 第186図190, P9 : 第200図378

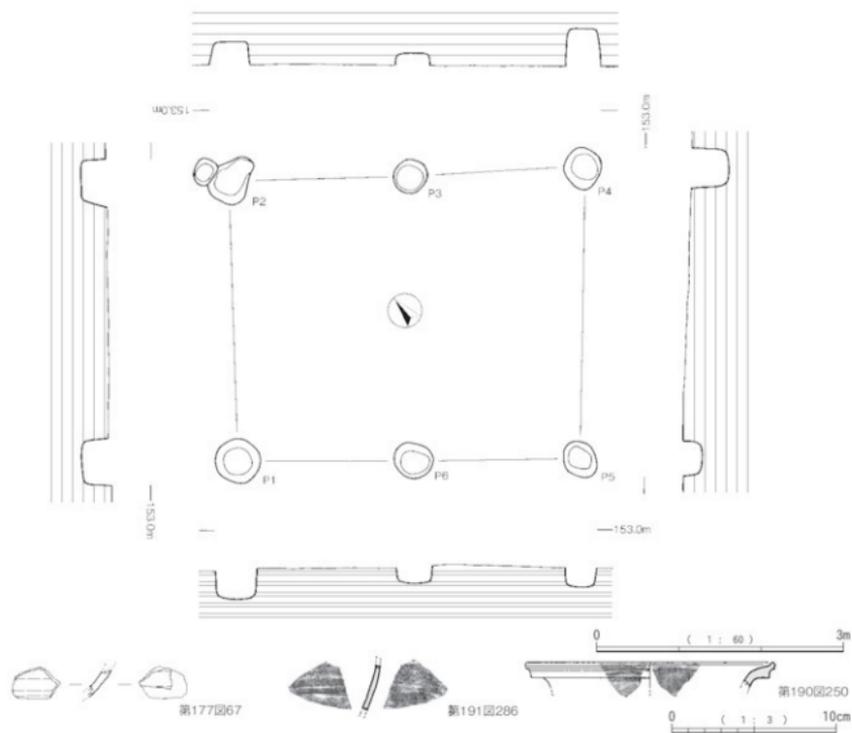


第28図 掘立柱建物跡14号



第29図 掘立柱建物跡15号

0 ( 1 : 3 ) 10cm



第30図 掘立柱建物跡16号

### 3 A地区(4)

掘立柱建物跡を6基検出した。E-23区周辺など柱穴が確認できなかったところには基礎層であるサンゴ石灰岩が露出していた。

第18表 掘立柱建物跡14号計測表

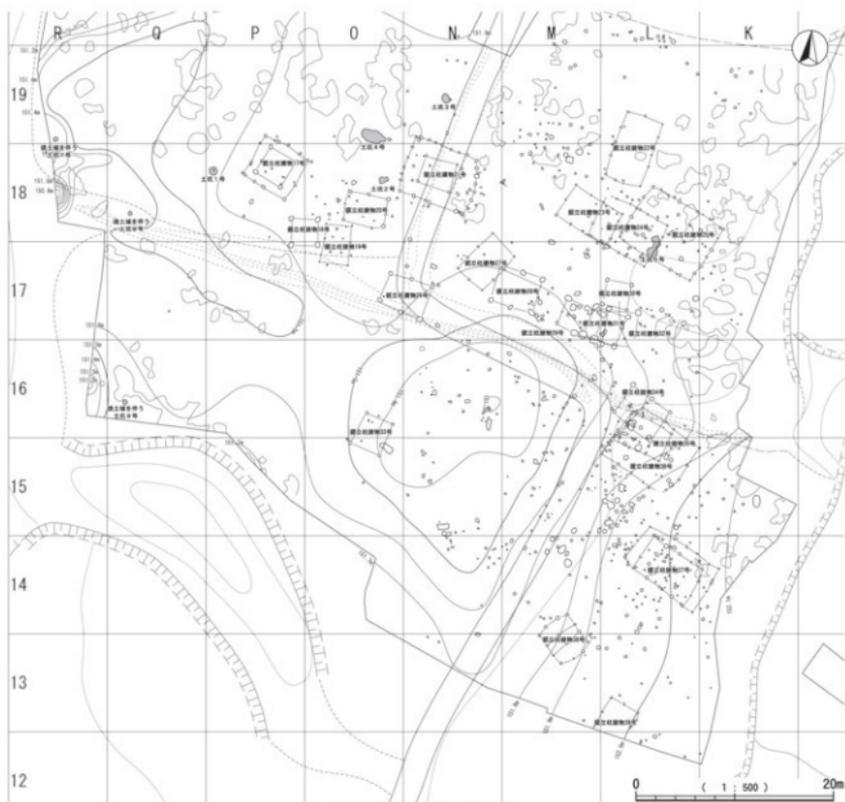
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	316cm	平均	158cm	P03 - P06	419cm	平均	140cm	方向N37° W	P5: 土師器 (3), 竈の口 (2)
P06 - P07	330cm	平均	330cm	P01 - P07	469cm	平均	156cm	水深: 27~49cm	P8: 中野白磁 (1), 鉄滓 (2), 石器 (4)
P03 - P02	156cm	P06 - P07	330cm	P03 - P04	117cm	P01 - P09	150cm	水深: 8.21~69cm	
P02 - P01	160cm			P04 - P05	268cm	P09 - P08	243cm	面積: 13.2㎡	
				P05 - P06	34cm	P08 - P07	33cm		

第19表 掘立柱建物跡15号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	198cm	平均	198cm	P02 - P04	583cm	平均	290cm	方向N70° W	P1: 古代相模陶器類 (1), 布目正黄土器 (1), 朝鮮系無軸陶器 (1), 香炉品 (1), 鑄鉄刀口 (1), 鉄滓 (1)
P04 - P05	203cm	平均	203cm	P01 - P05	575cm	平均	288cm	水深: 44~66cm	[産地不明]
P02 - P01	198cm	P04 - P05	203cm	P02 - P03	288cm	P01 - P06	277cm	水深: 10~53cm	
				P03 - P04	295cm	P06 - P05	298cm	面積: 11.1㎡	P1: 第187図206, 第202図408

第20表 掘立柱建物跡16号計測表

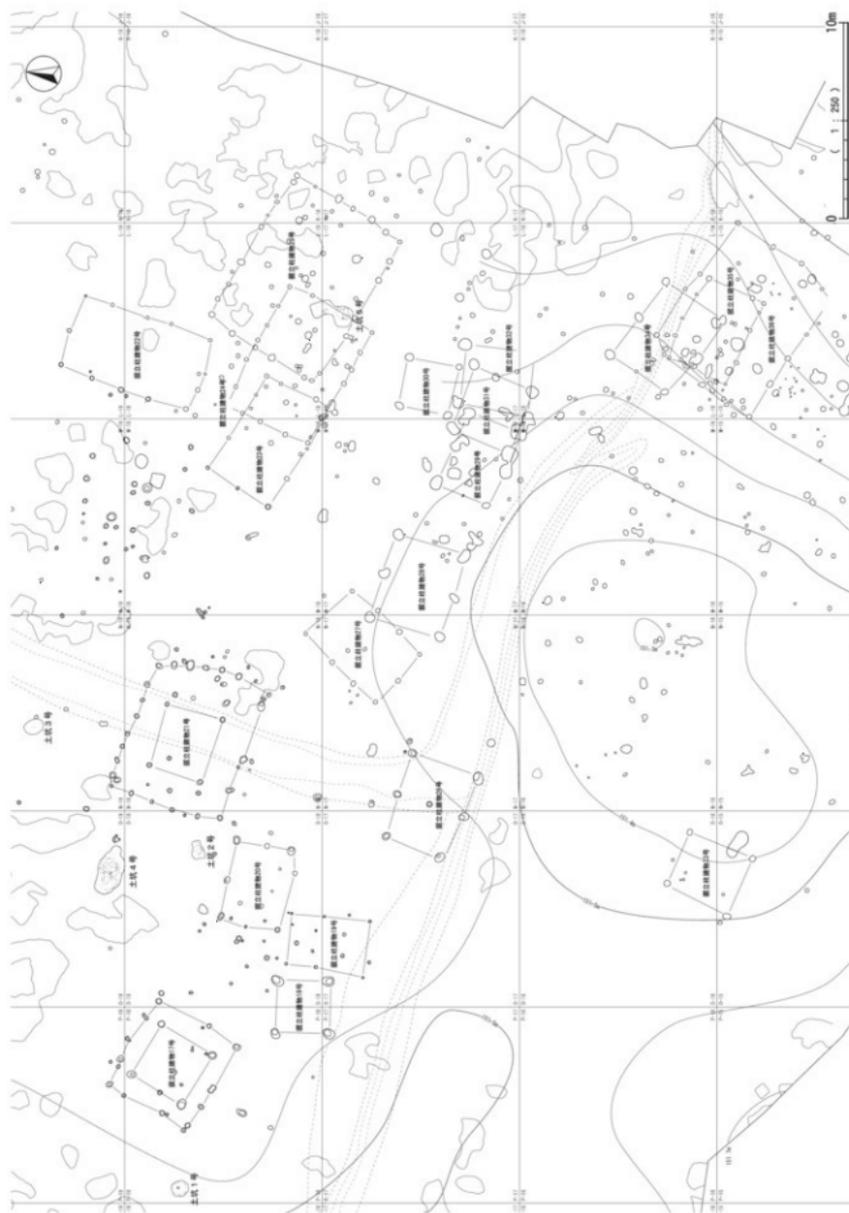
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	345cm	平均	345cm	P02 - P04	446cm	平均	223cm	方向N52° W	P2: 滑石製石輪 (3), P9: 鉄滓 (2)
P04 - P05	360cm	平均	360cm	P01 - P05	417cm	平均	209cm	水深: 42~63cm	P4: 土師器 (1), 鉄滓 (4), 石器 (2), P5: 朝鮮系無軸陶器 (1), 粘土塊 (1)
P02 - P01	345cm	P04 - P05	360cm	P02 - P03	233cm	P01 - P06	214cm	水深: 15~46cm	[産地不明]
				P03 - P04	213cm	P06 - P05	203cm	面積: 14.9㎡	P3: 第190図250, P4: 第177図267, 第206図462 (石器), P9: 第191図286



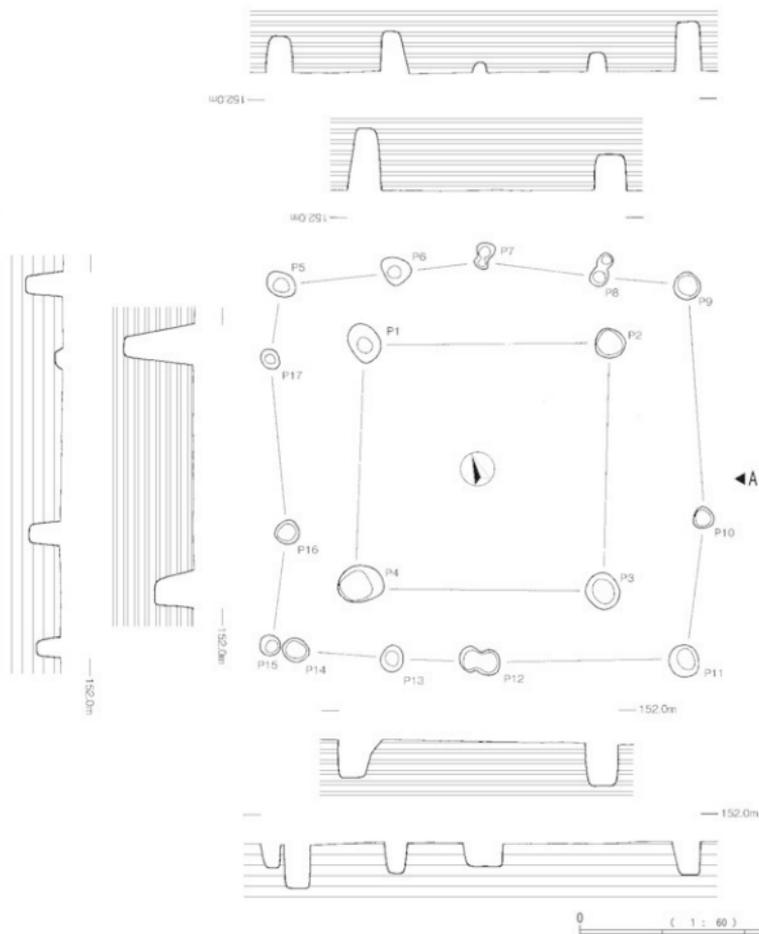
第31图 B地区遺構配置図



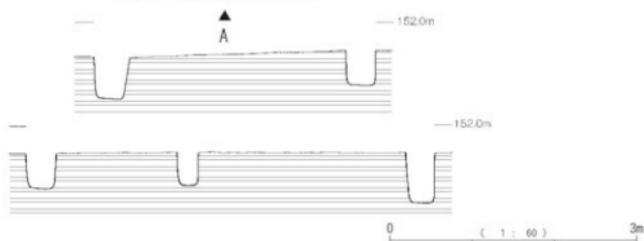
第32图 B地区詳細遺構配置図(1)



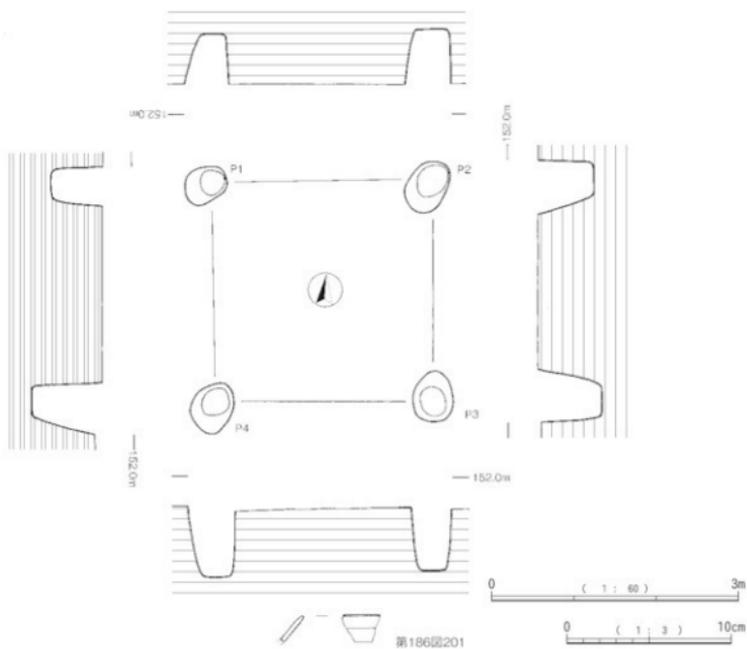
第33圖 B地区詳細構造配置圖(2)



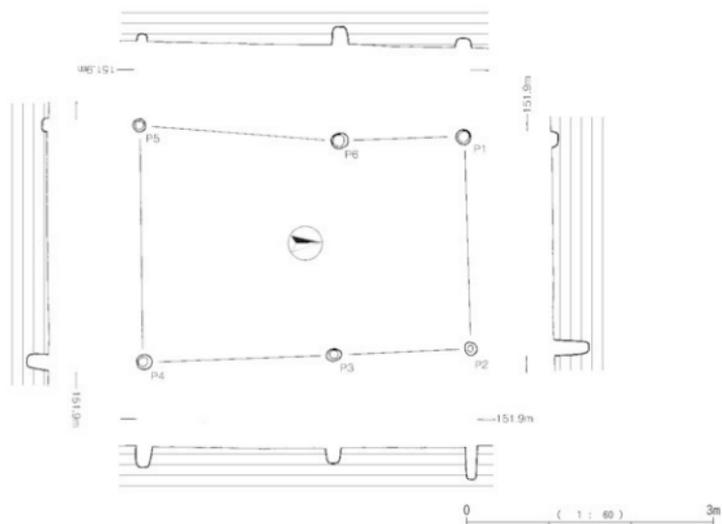
第34图 掘立柱建物跡17号 (1)



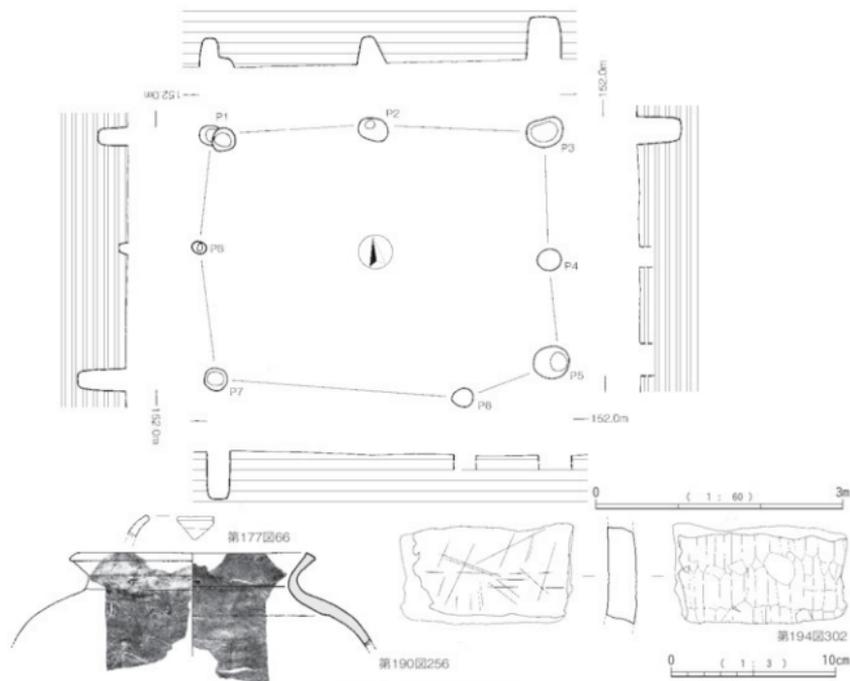
第35图 掘立柱建物跡17号 (2)



第36图 掘立柱建物跡18号



第37图 掘立柱建物跡19号



第38圖 掘立柱建物跡20号

第21表 掘立柱建物跡17号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	300cm	平均	300cm	P01 - P02	298cm	平均	298cm	方向N80° W	P1: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P2: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P3: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P4: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P5: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P6: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P7: 土師器 (1), 粘土塊 (1) P8: 土師器 (1), 粘土塊 (1)
P02 - P03	304cm	平均	304cm	P04 - P03	301cm	平均	301cm	P深: 25~56cm	
P05 - P15	446cm	平均	149cm	P05 - P09	496cm	平均	124cm	P深: 10~84cm	
P09 - P11	461cm	平均	231cm	P15 - P11	503cm	平均	126cm	高橋(9.2+14.6)rf	
P01 - P04	300cm	P02 - P03	304cm	P01 - P02	298cm	P04 - P03	301cm		
P05 - P17	93cm	P09 - P10	287cm	P05 - P06	137cm	P15 - P14	30cm		
P17 - P16	214cm	P10 - P11	174cm	P06 - P07	108cm	P14 - P13	117cm		
P16 - P15	140cm			P07 - P08	143cm	P13 - P12	116cm		
				P08 - P09	108cm	P12 - P11	240cm		

第22表 掘立柱建物跡18号計測表

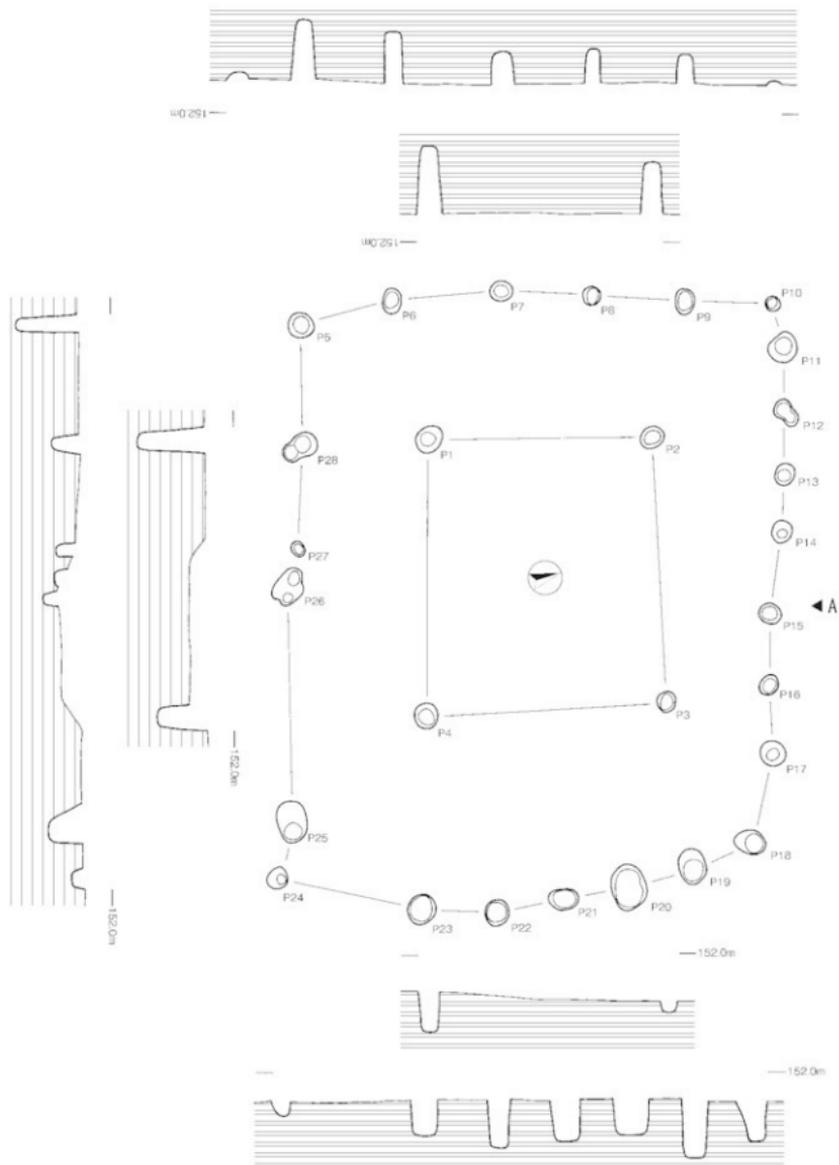
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	268cm	平均	268cm	P02 - P03	270cm	平均	270cm	方向N82° E	P4: 黑色土器 (1), 土師器 (1), 中野白磁 (1), 粘土塊 (2) [埋藏遺物] P4: 第186図201
P03 - P04	265cm	平均	265cm	P01 - P04	266cm	平均	266cm	P深: 52~65cm	
P02 - P01	268cm	P03 - P04	265cm	P02 - P03	270cm	P01 - P04	266cm	P深: 62~83cm	
								高橋: 7.2rf	

第23表 掘立柱建物跡19号計測表

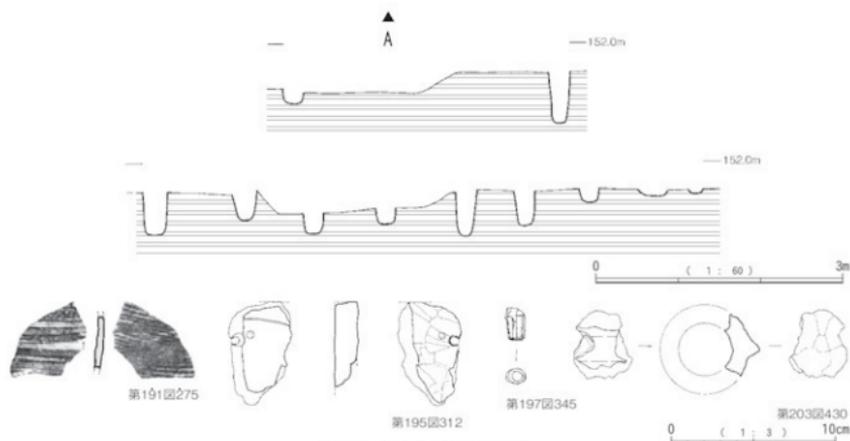
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P04	290cm	平均	290cm	P05 - P01	397cm	平均	199cm	方向N1° W	P2: 滑石製石鏡 (1), P3: 鉄滓 (1), P5: 土師器 (1), 粘土塊 (1), P7: 石鏡 (1) [埋藏遺物] P2: 第194図302, P3: 第190図256, P5: 第177図566, P7: 第208図460 (石鏡)
P01 - P02	260cm	平均	260cm	P04 - P02	401cm	平均	201cm	P深: 15~20cm	
P05 - P04	290cm	P01 - P02	260cm	P05 - P06	244cm	P04 - P03	233cm	P深: 8~43cm	
				P06 - P01	153cm	P03 - P02	168cm	高橋: 10.7rf	

第24表 掘立柱建物跡20号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P07	300cm	平均	150cm	P01 - P03	406cm	平均	203cm	方向N85° W	P2: 滑石製石鏡 (1), P3: 鉄滓 (1), P5: 土師器 (1), 粘土塊 (1), P7: 石鏡 (1) [埋藏遺物] P2: 第194図302, P3: 第190図256, P5: 第177図566, P7: 第208図460 (石鏡)
P03 - P05	284cm	平均	142cm	P07 - P05	426cm	平均	213cm	P深: 19~46cm	
P01 - P08	138cm	P03 - P04	157cm	P01 - P02	194cm	P07 - P06	302cm	P深: 12~59cm	
P08 - P07	162cm	P04 - P05	127cm	P02 - P03	212cm	P08 - P05	124cm	高橋: 1.3rf	



第39図 掘立柱建物跡21号 (1)



第40図 掘立柱建物跡21号 (2)

**掘立柱建物跡12号 (第26図, 第16表)**

E-24区で検出。1×1間の建物跡である。平面プランは方形形状である。P3では石灰岩を一部削って建てられている。

**掘立柱建物跡13号 (第27図, 第17表)**

D-23区で検出。3×1間の建物跡であると考えられるが、東側間では柱穴数が多くになっている。柱穴内から白磁・陶器が出土している。

**掘立柱建物跡14号 (第28図, 第18表)**

D-23区で検出。梁間では1間少ないが、2×2間の建物跡であると考えられる。小型で若干ゆがんでいる。掘立柱建物跡13号と重複している。

**掘立柱建物跡15号 (第29図, 第19表)**

C-23区で検出されている。2×1間の建物跡である。柱穴径はほぼ同じで、等間隔に柱穴を配置する。東西方向に長い建物跡である。P1から越州窯系青磁・鉄滓が出土している。

**掘立柱建物跡16号 (第30図, 第20表)**

D-22・23区で検出。2×1間の建物跡である。P6からカマイヤキなどが出土している。

**4 B地区 (1・2)**

B地区(1・2)では20棟の建物跡を検出した。1×1間の建物跡の周囲に柱穴を配置する構造の建物跡や1×1間、4×2間など多様な建物跡を確認している。

土坑は焼土域を伴う土坑を3基、土坑を5基検出している。また、調査区域内に見られる丁字形の溝は近世・近代の畑のあぜ道の跡である。

なお、この区域の一部は盛土保存されることとなった。そのため、保存範囲については検出状況で留めてある。

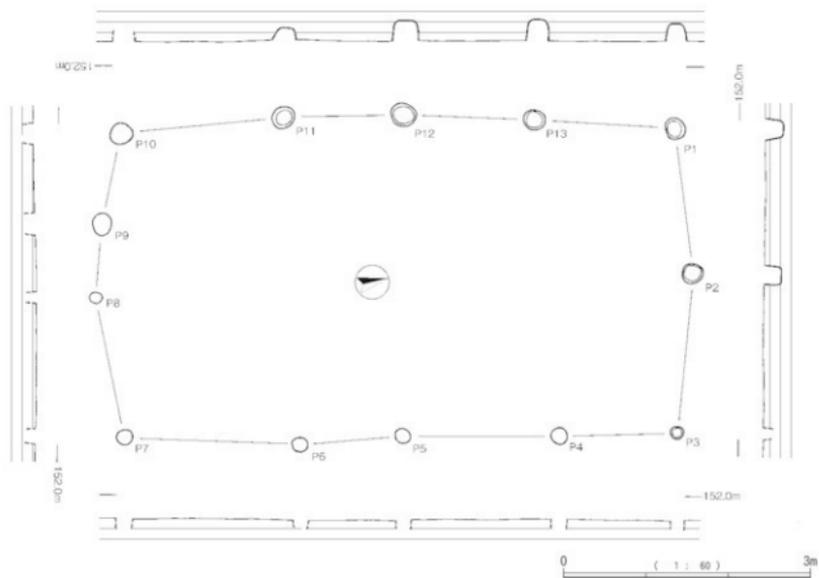
**(1) 掘立柱建物跡**

**掘立柱建物跡17号 (第34・35図, 第21表)**

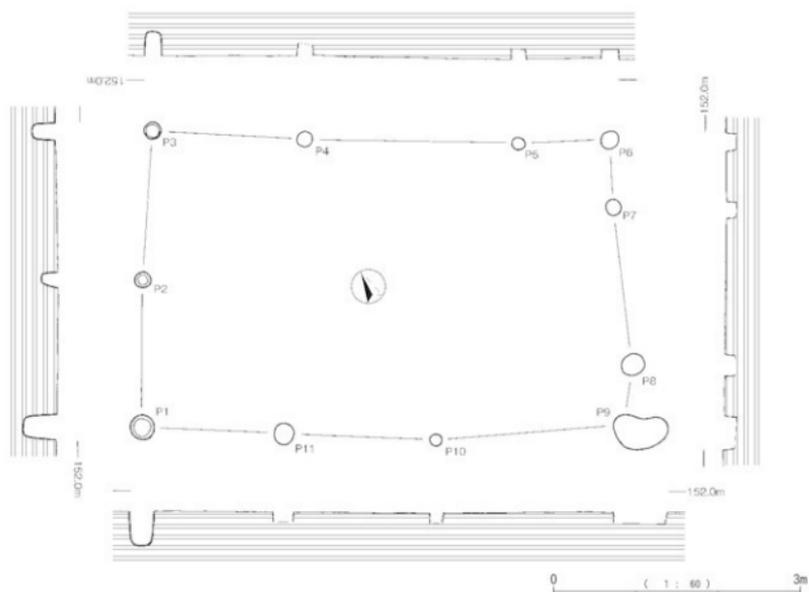
P-18区で検出。1×1間の建物跡の周囲に直径30cm程の柱穴が2基囲んでいる。北側から南側まで反時計回りに柱穴が多く配置されている。外側の柱穴列と内側の4本柱とは柱の

第25表 掘立柱建物跡21号計測表

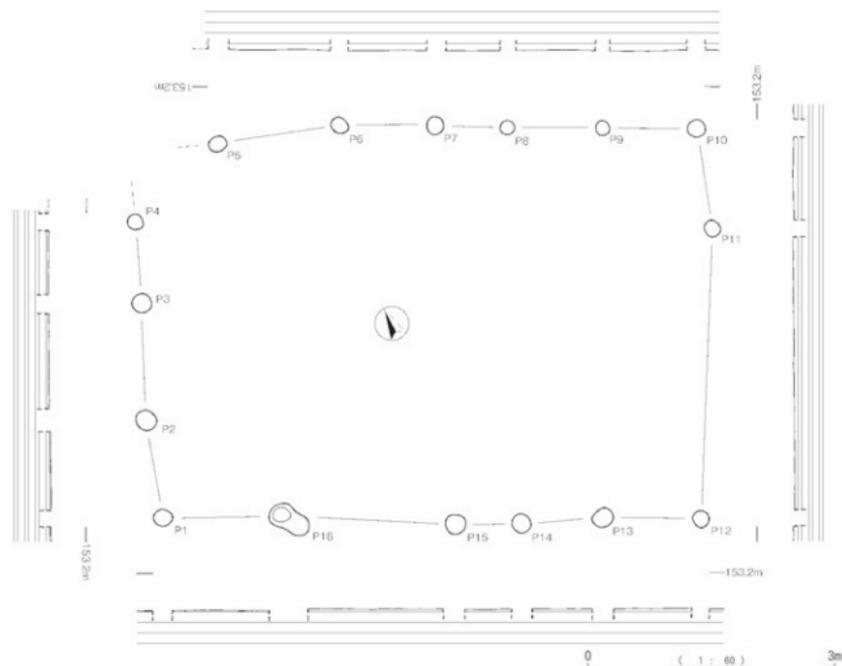
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	273cm	平均	273cm	P02 - P03	326cm	平均	326cm	方向N72° W	P1 : 土師器 (2), 滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1)
P03 - P04	291cm	平均	291cm	P01 - P04	339cm	平均	339cm	P深径19~58cm	P2 : カムヤキ (1), 粘土塊 (3)
P10 - P05	576cm	平均	115cm	P10 - P18	667cm	平均	83cm	P深さ6~83cm	P4 : 土師器 (1), 鉄滓 (1)
P18 - P24	591cm	平均	99cm	P05 - P24	682cm	平均	136cm	面積(9.24+32.4)㎡	P7 : 土師器 (1), 粘土塊 (1)
P02 - P03	273cm	P03 - P04	291cm	P02 - P03	326cm	P01 - P04	339cm		P8 : 粘土塊 (1), P12 : 粘土塊 (1), P20 : 鉄滓 (1)
P10 - P09	104cm	P18 - P19	81cm	P10 - P11	54cm	P05 - P28	147cm		P21 : 土師器 (1), 粘土塊 (1)
P09 - P08	112cm	P19 - P20	80cm	P11 - P12	79cm	P28 - P27	128cm		P22 : 石器 (1)
P08 - P07	112cm	P20 - P21	80cm	P12 - P13	80cm	P27 - P26	61cm		P23 : 粘土塊 (1), 石器 (1)
P07 - P06	133cm	P21 - P22	85cm	P13 - P14	73cm	P26 - P25	296cm		P27 : 滑石製二次加工品 (1)
P06 - P05	115cm	P22 - P23	91cm	P14 - P15	97cm	P25 - P24	60cm		P28 : 石器 (1), P32 : 鑄物の口 (1) (複製物)
		P23 - P24	174cm	P15 - P16	89cm				P1 : 第195図312, P4 : 第191図275, P7 : 第197図345, P32 : 第203図430
				P16 - P17	85cm				
				P17 - P18	110cm				



第41図 掘立柱建物跡22号



第42図 掘立柱建物跡23号



第43図 掘立柱建物跡24号

並びが悪く、揃わない。

また、溝状遺構と重複関係にある。溝状遺構は、全長9×1m、深さ4～7cmと非常に浅い。堆積土の色調は茶褐色土を呈し、微細な炭化物が混入していた。

掘立柱建物跡18号（第36図、第22表）

○・P-17・18区で検出。1×1間の建物跡である。床面積7.2㎡であり、小型の建物跡である。ほぼ正方形に近い形状である。

第26表 掘立柱建物跡22号計測表

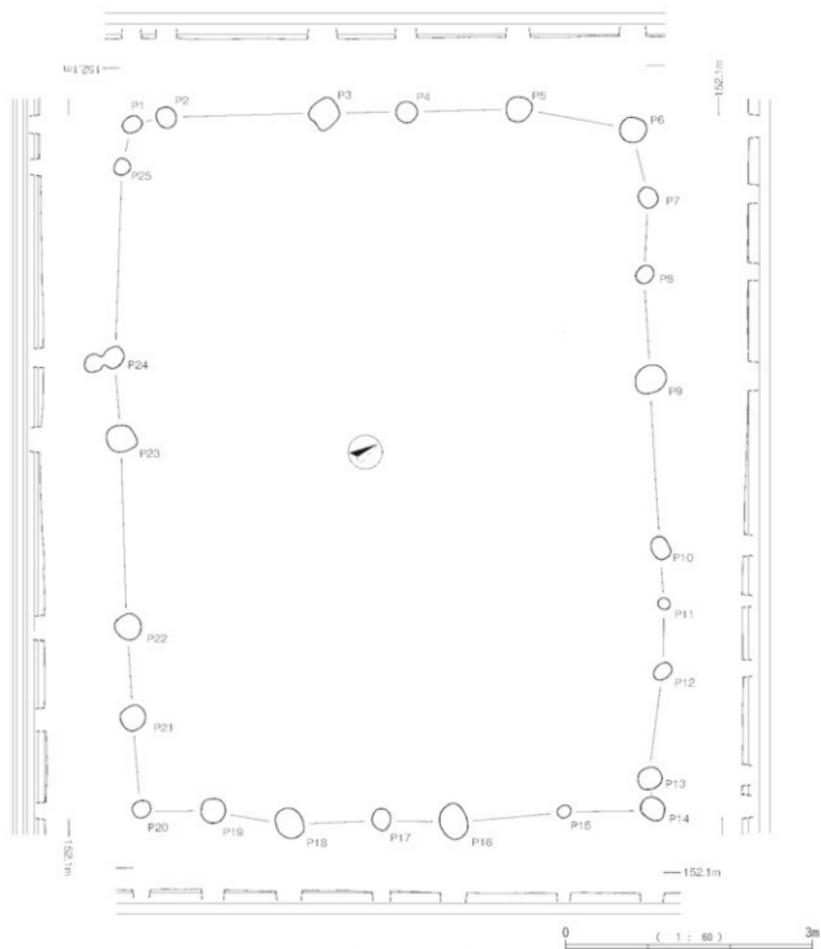
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P10 - P07	379cm	平均	126cm	P10 - P01	673cm	平均	168cm	方向N12° E	P2: 土器類 (4), 粘土塊 (3)
P01 - P03	376cm	平均	188cm	P07 - P03	671cm	平均	168cm	P深さ: 16～31cm	
P10 - P08	114cm	P01 - P02	180cm	P10 - P11	200cm	P07 - P06	213cm	P深さ: 16～26cm	
P09 - P08	90cm	P02 - P03	196cm	P11 - P12	144cm	P06 - P05	125cm	面積27㎡	
P08 - P07	175cm			P12 - P13	159cm	P05 - P04	190cm		
				P13 - P01	170cm	P04 - P03	143cm		

第27表 掘立柱建物跡23号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	265cm	平均	133cm	P03 - P06	457cm	平均	152cm	方向N64° W	
P06 - P09	354cm	平均	118cm	P01 - P09	588cm	平均	196cm	P深さ: 14～66cm	
P03 - P02	183cm	P06 - P07	83cm	P03 - P04	187cm	P01 - P11	172cm	P深さ: 19～41cm	
P02 - P01	82cm	P07 - P08	197cm	P04 - P05	159cm	P11 - P10	186cm	面積21.2㎡	
		P08 - P09	74cm	P05 - P06	111cm	P10 - P09	230cm		

第28表 掘立柱建物跡24号計測表

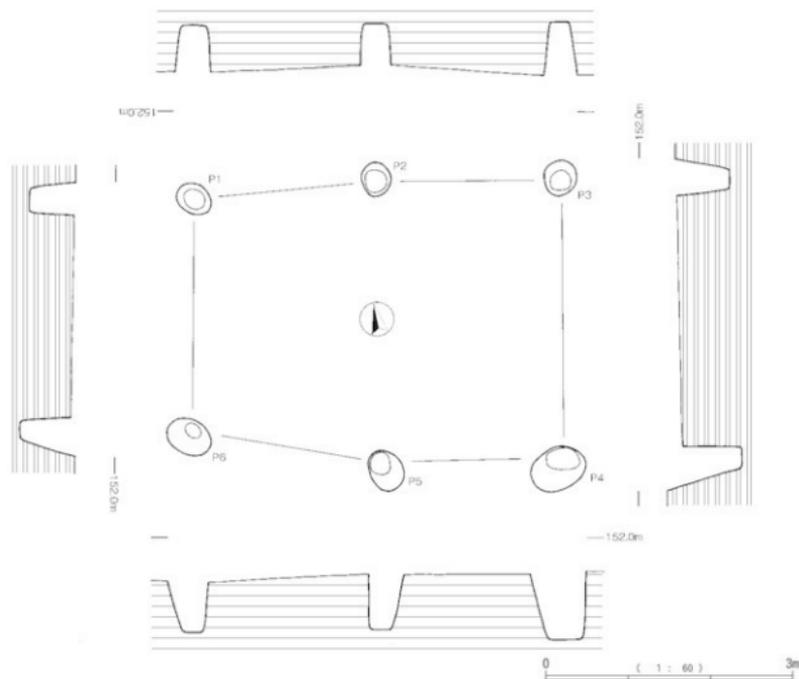
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	365cm	平均	120cm	P05 - P10	583cm	平均	117cm	方向N64° W	
P10 - P12	480cm	平均	240cm	P01 - P12	653cm	平均	131cm	P深さ: 17～51cm	
P03 - P03	100cm	P10 - P11	125cm	P05 - P06	150cm	P01 - P16	143cm	P深さ: --	
P03 - P02	144cm	P11 - P12	355cm	P06 - P07	116cm	P16 - P15	210cm	面積32.3㎡	
P02 - P01	121cm			P07 - P08	87cm	P15 - P14	80cm		
				P08 - P09	116cm	P14 - P13	100cm		
				P09 - P10	114cm	P13 - P12	120cm		



第44図 掘立柱建物跡25号

第29表 掘立柱建物跡25号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P06 - P01	613cm	平均	123cm	P06 - P14	834cm	平均	104cm	方向N61° W	
P14 - P20	625cm	平均	104cm	P01 - P20	841cm	平均	140cm	梁幅15~43cm	
P06 - P05	140cm	P14 - P15	108cm	P06 - P07	84cm	P01 - P25	54cm	穴深8~	
P05 - P04	137cm	P15 - P16	138cm	P07 - P08	96cm	P25 - P24	231cm	直径54.8cm	
P04 - P03	99cm	P16 - P17	89cm	P08 - P09	127cm	P24 - P23	100cm		
P03 - P02	194cm	P17 - P18	113cm	P09 - P10	208cm	P23 - P22	231cm		
P02 - P01	43cm	P18 - P19	94cm	P10 - P11	66cm	P22 - P21	112cm		
		P19 - P20	87cm	P11 - P12	84cm	P21 - P20	113cm		
				P12 - P13	130cm				
				P13 - P14	38cm				



第45図 掘立柱建物跡26号

掘立柱建物跡19号 (第37図, 第23表)

O-17・18区で検出。2×1間の建物跡である。全体的に柱穴径が小さく、深さも浅い。また、床面積10.2㎡であり、小型の建物跡である。

掘立柱建物跡20号 (第38図, 第24表)

O-18区で検出。2×2間の建物跡である。柱の位置が左右で揃わず、柱穴間隔が等間隔ではない。柱穴内からはカマイヤキ・滑石製石鍋などが出土している。

掘立柱建物跡21号 (第39・40図, 第25表)

N-18区で検出。1×1間の建物跡の周囲に直径30cm程の柱穴が24基囲むものである。特に北側～東側にかけてはややいびつではあるが、柱穴が多く配置されている。掘立柱建物跡17号とは反対方向である。

掘立柱建物跡22号 (第41図, 第26表)

L-18・19区で検出。4×2間の建物跡と考えられる。周囲の建物とは主軸方向を異にする。3×2間の建物跡に見られたように梁行方向の中柱が外面に向かって張り出している。

掘立柱建物跡23号 (第42図, 第27表)

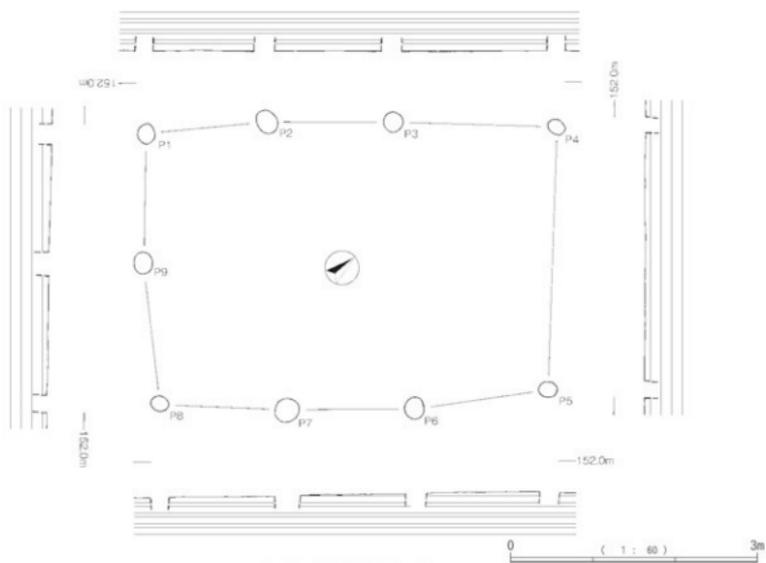
M・L-17・18区で検出されている。3×2間もしくは3×3間の建物跡である。掘立柱建物跡24号と重複関係にある。

掘立柱建物跡24号 (第43図, 第28表)

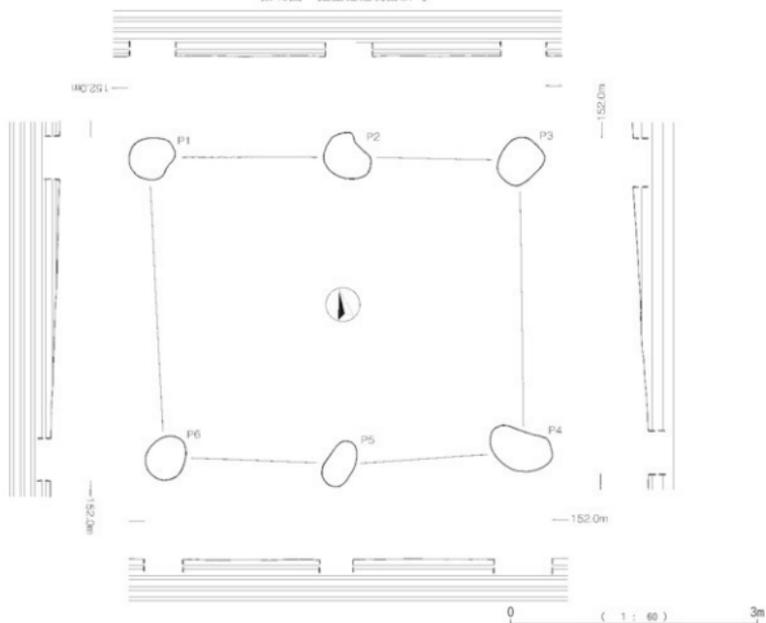
M・L-17・18区で検出。6×4間の建物跡であると考えられる。東側梁行で柱穴数が少なくなっている。掘立柱建物跡23・25号と重複関係にある。遺物は出土していない。

第30表 掘立柱建物跡26号計測表

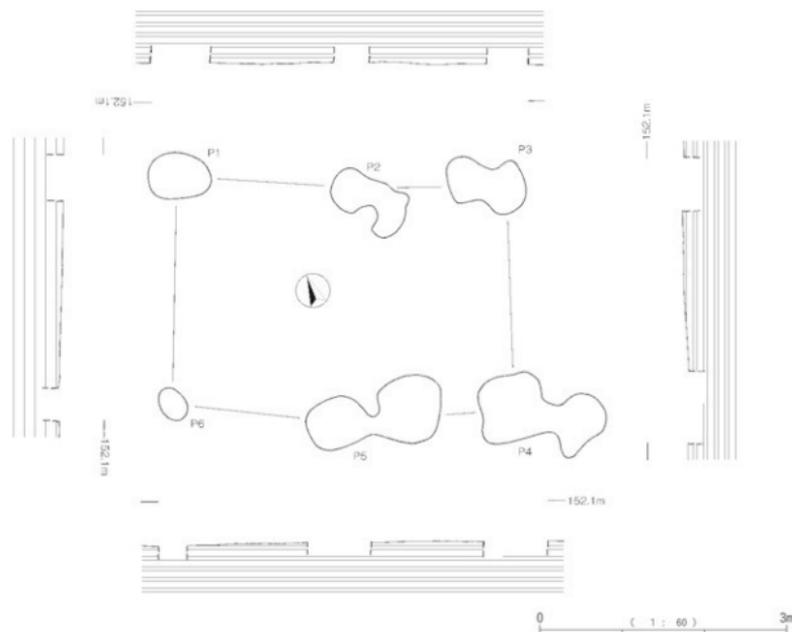
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01-P06	284cm	平均	284cm	P01-P03	446cm	平均	223cm	方向N75° W	P6・中骨白磁(1)、カマイヤキ(1)
P03-P04	340cm	平均	340cm	P06-P04	45.3cm	平均	227cm	P厚42-69cm	
P01-P06	284cm			P01-P02	221cm		230cm	P厚4-49-82cm	
		P03-P04	340cm	P02-P03	225cm	P05-P04	223cm	厚積15.2㎡	



第46图 掘立柱建物跡27号



第47图 掘立柱建物跡28号



第48図 掘立柱建物跡29号

掘立柱建物跡25号 (第44図, 第29表)

L・K-17・18区で検出。桁行8.4m×梁行6.2m, 床面積548㎡と大型の建物跡である。柱穴には大きさの異なるものが使用されている。掘立柱建物跡24号と重複関係にある。

掘立柱建物跡26号 (第45図, 第30表)

N・O-17区で検出。2×1間の建物跡である。西側梁行が若干狭く構築されている。

掘立柱建物跡27号 (第46図, 第31表)

N-17区で検出。3×2間の建物跡である。東側では1間少なくなっている。掘立柱建物跡28号と重複関係にある。

掘立柱建物跡28号 (第47図, 第32表)

M・N-17区で検出。2×1間の建物跡である。比較的径の大きな柱穴を使用している。平面プランは方形状である。掘立柱建物跡27号と重複関係にある。

第31表 掘立柱建物跡27号計測表

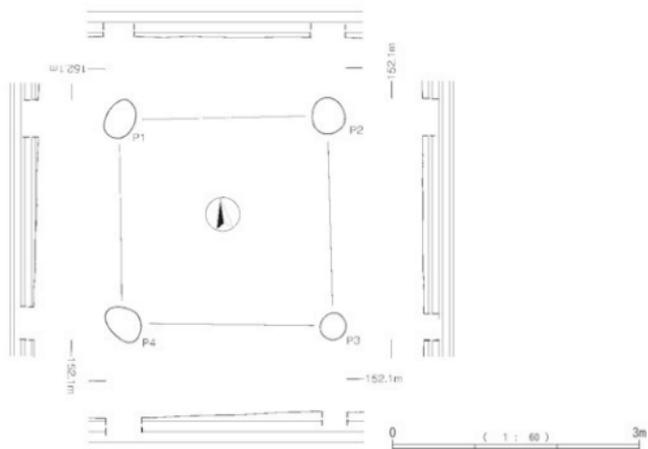
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P08	334cm	平均	167cm	P01 - P04	500cm	平均	167cm	方向N37° E	
P04 - P05	322cm	平均	322cm	P08 - P05	473cm	平均	158cm	P深径:21~30cm	
P01 - P09	159cm	P04 - P05	322cm	P01 - P02	146cm	P08 - P07	155cm	P深さ:-	
P09 - P08	175cm			P02 - P03	154cm	P07 - P06	155cm	面積:16.8㎡	
				P03 - P04	200cm	P06 - P05	163cm		

第32表 掘立柱建物跡28号計測表

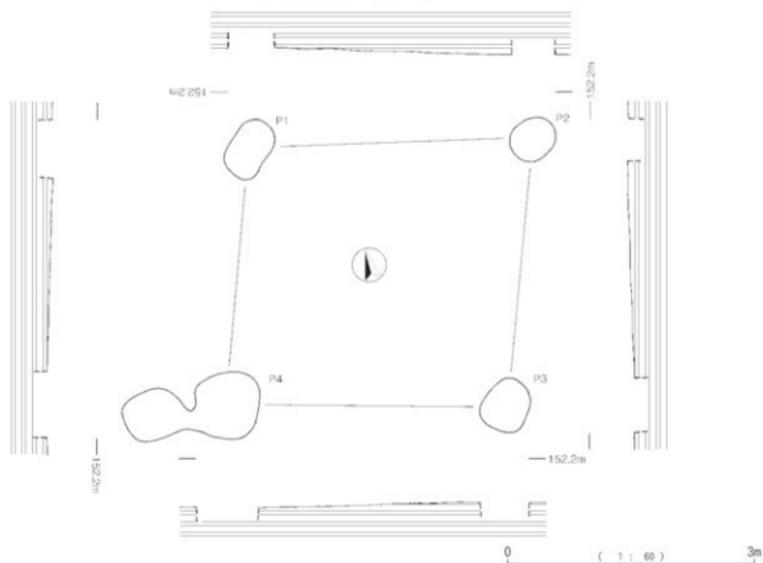
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P06	368cm	平均	368cm	P01 - P03	449cm	平均	225cm	方向N78° W	
P03 - P04	356cm	平均	356cm	P06 - P04	436cm	平均	218cm	P深径:55~80cm	
P01 - P06	368cm	P03 - P04	356cm	P01 - P02	240cm	P06 - P05	212cm	P深さ:-	
				P02 - P03	209cm	P05 - P04	224cm	面積:16.5㎡	

第33表 掘立柱建物跡29号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P06	280cm	平均	280cm	P01 - P03	401cm	平均	201cm	方向N70° W	
P03 - P04	274cm	平均	274cm	P06 - P04	417cm	平均	209cm	P深径:42~90cm	
P01 - P06	280cm	P03 - P04	274cm	P01 - P02	213cm	P06 - P05	202cm	P深さ:-	
				P02 - P03	188cm	P05 - P04	215cm	面積:11.4㎡	



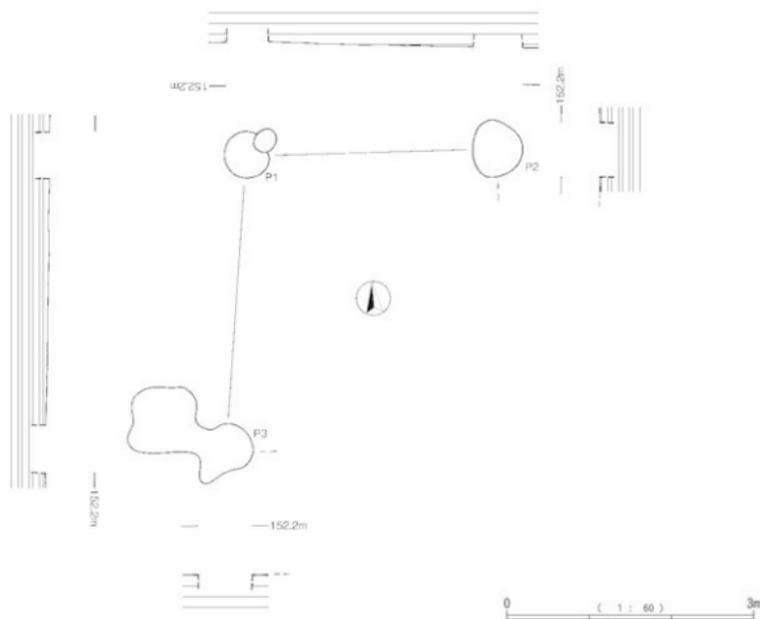
第49図 掘立柱建物跡30号



第50図 掘立柱建物跡31号

第34表 掘立柱建物跡30号計測表

番号1	寸法	番号2	寸法	番号1	寸法	番号2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	250cm	平均	250cm	P01 - P02	25.2cm	平均	25.2cm	方向N83° W	
P02 - P03	25.7cm	平均	25.7cm	P04 - P03	25.5cm	平均	25.5cm	字遣径: 32 - 50cm	
P01 - P04	250cm	P02 - P03	25.7cm	P01 - P02	25.2cm	P04 - P03	25.5cm	水深: -	
								面積: 6.5㎡	



第51図 掘立柱建物跡32号

掘立柱建物跡29号 (第48図, 第33表)

M-17区で検出。2×1間の建物跡である。6本の柱の内4本が掘立柱建物跡31号・32号と重複して検出されている。

掘立柱建物跡30号 (第49図, 第34表)

L-17区で検出。床面積は6.5㎡と狭い、1×1間の小型方形の建物跡である。

掘立柱建物跡31号 (第50図, 第35表)

L-17区で検出。1×1間の建物跡である。若干ゆがみ、平面形態は平行四辺形になっている。掘立柱建物跡29号・30号と重複している。

掘立柱建物跡32号 (第51図, 第36表)

L-17区で検出。一本検出できなかったが、1×1間の建物跡であると考えられる。掘立柱建物跡29号・31号と重複して

掘立柱建物跡33号 (第52図, 第37表)

O-15・16区で検出。1×1間の建物跡である。南北方向に広く、台形状の平面形態である。

掘立柱建物跡34号 (第53図, 第38表)

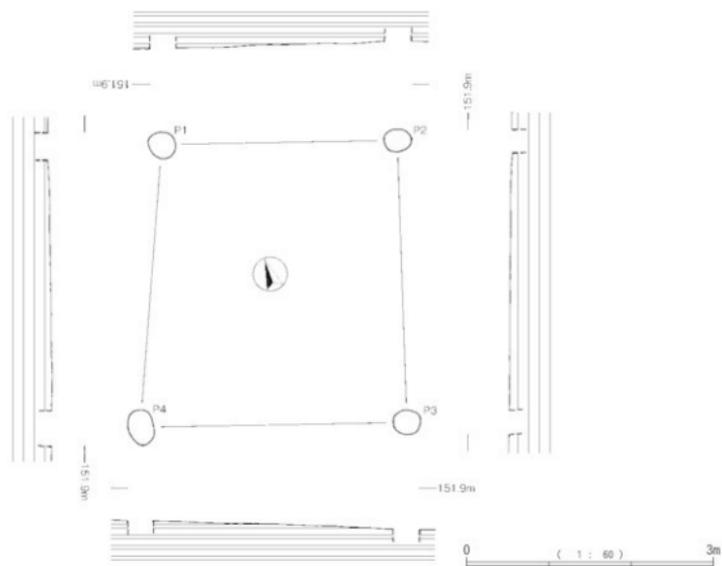
L-15・16区で検出。2×1間の建物跡である。掘立柱建物跡35・36号と重複している。

第35表 掘立柱建物跡31号計測表

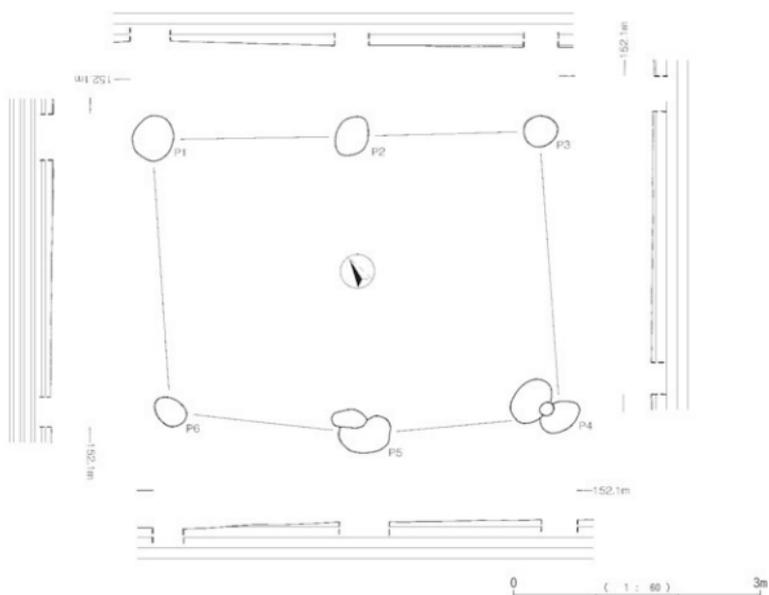
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	315cm	平均	315cm	P01 - P02	345cm	平均	345cm	方向N77° W	
P02 - P03	330cm	平均	330cm	P04 - P03	340cm	平均	340cm	伊達層58~83cm	
P01 - P04	315cm	P02 - P03	330cm	P01 - P02	345cm	P04 - P03	340cm	伊達層11m	

第36表 掘立柱建物跡32号計測表

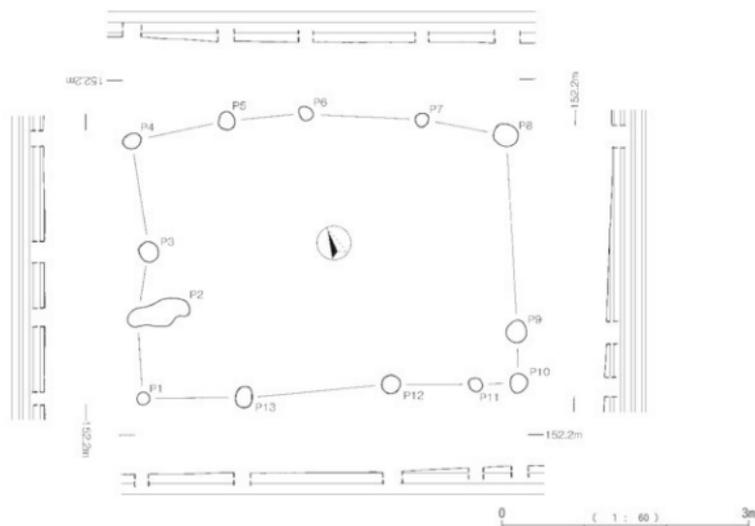
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P02	304cm	平均	304cm	P03 - P01	362cm	平均	362cm	方向N9° E	
P01 - P02	304cm			P03 - P01	362cm			伊達層57~82cm	
								伊達層11m	



第52図 掘立柱建物跡33号



第53図 掘立柱建物跡34号



第54図 掘立柱建物跡35号

掘立柱建物跡35号（第54図、第39表）

L-15・16区で検出。4×3間の建物跡である。使用されている柱穴は直径が小さいものも多く、柱穴数も多い。

掘立柱建物跡36号（第55図、第40表）

L-15・16区で検出。面積の広い大きな建物跡になると考えられるが、左右で柱穴数が異なり、ばらつきが見られる。

(2) 焼土域を伴う土坑

焼土域を伴う土坑7号（第56図）

R-19区で検出。焼土域は確認できなかったが、炭化物の層を検出している。

第37表 掘立柱建物跡33号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P4 - P3	324cm	平均	324cm	P4 - P1	347cm	平均	347cm	方向N74° W	
P1 - P2	285cm	平均	285cm	P3 - P2	346cm	平均	346cm	伊直径32-43cm	
P4 - P3	324cm	P1 - P2	285cm	P4 - P1	347cm	P3 - P2	346cm	伊深±-	
								面積10.5㎡	

第38表 掘立柱建物跡34号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1 - P6	334cm	平均	334cm	P1 - P3	470cm	平均	235cm	方向N60° W	
P3 - P4	350cm	平均	350cm	P6 - P4	475cm	平均	238cm	伊直径40-62cm	
P1 - P6	334cm	P3 - P4	350cm	P1 - P2	244cm	P6 - P5	240cm	伊深±-	
				P2 - P3	226cm	P5 - P4	235cm	面積16.6㎡	

第39表 掘立柱建物跡35号計測表

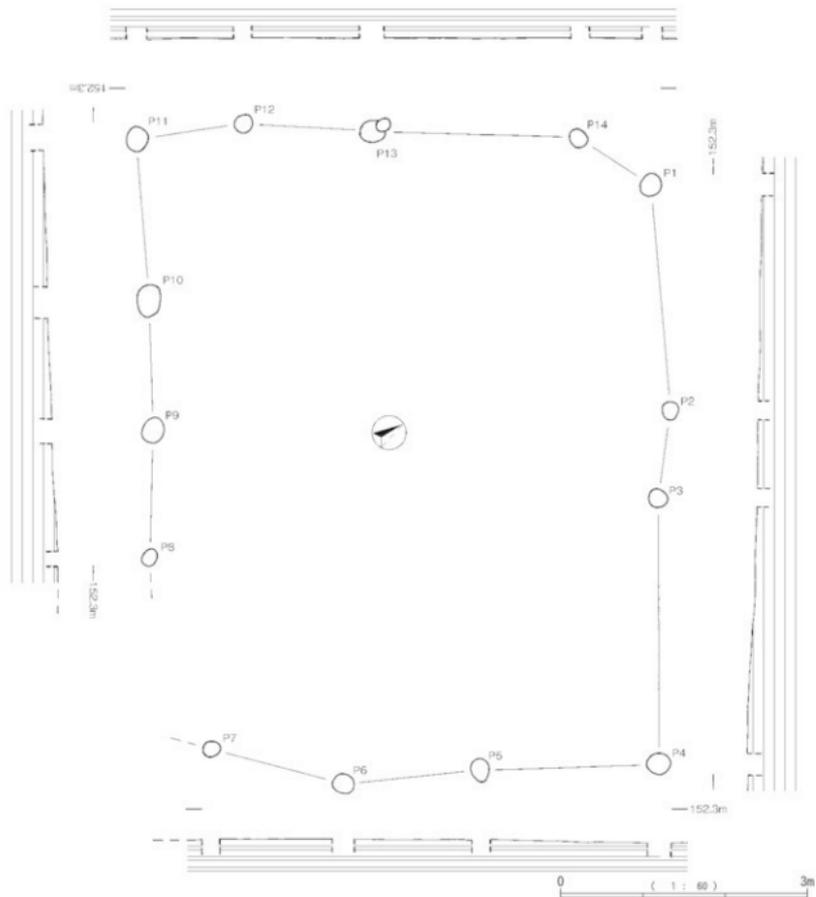
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P4 - P1	329cm	平均	115cm	P4 - P8	459cm	平均	115cm	方向N70° W	
P8 - P10	304cm	平均	152cm	P1 - P10	459cm	平均	114cm	伊直径15-76cm	
P4 - P3	147cm	P8 - P9	241cm	P4 - P5	118cm	P1 - P13	122cm	伊深±-	
P3 - P2	82cm	P9 - P10	63cm	P5 - P6	98cm	P13 - P12	180cm	面積14.8㎡	
P2 - P1	100cm			P6 - P7	139cm	P12 - P11	102cm		
				P7 - P8	104cm	P11 - P10	52cm		

焼土域を伴う土坑8号（第56図）

Q-18区で検出。焼土域を伴う土坑7号と同様に炭化物層のみを検出している。こちらも焼土域は確認できていないが、他の焼土域を伴う土坑と同じ炭の堆積状況である。

焼土域を伴う土坑9号（第56図）

Q-16区で検出。長軸50×短軸45cmの円形状である。床付近までは垂直に掘り込まれている。



第55図 掘立柱建物跡36号

(3) 土坑

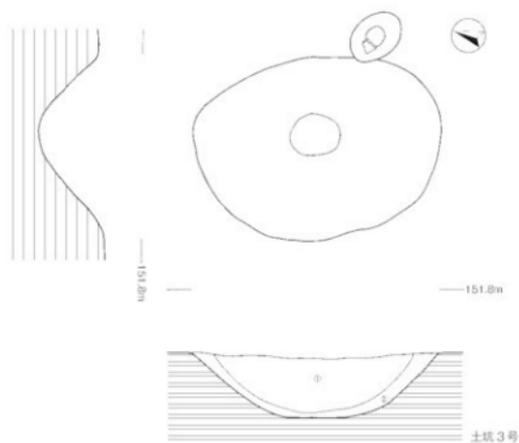
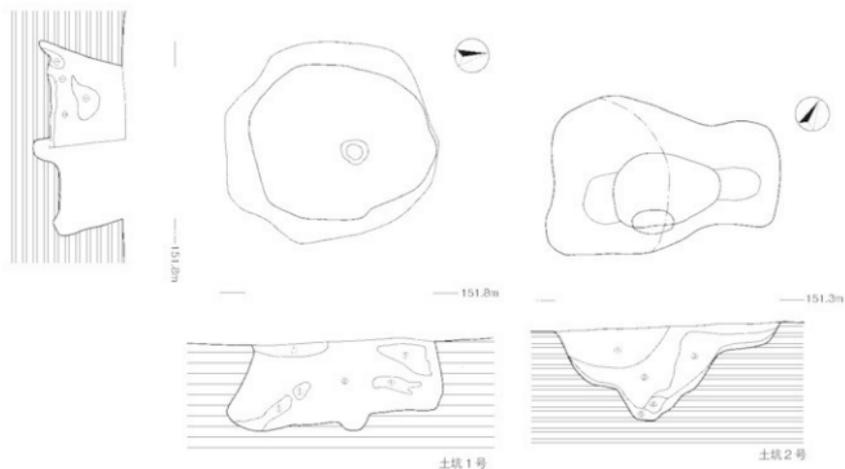
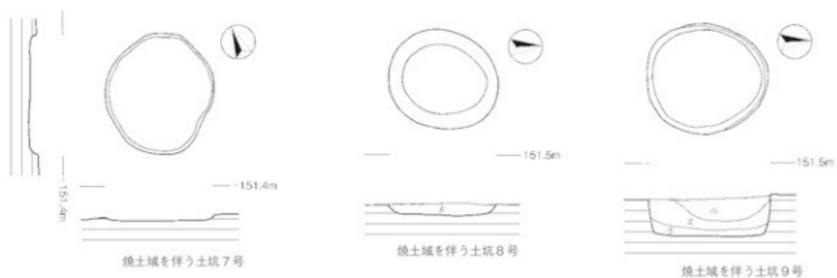
土坑1号 (第56図)

D-18区で検出。長軸85×短軸80cmの円形状である。下場がスカート状に広がる。三角フラスコの底様の形状をしてい

る。黄色のブロックが所々に見られ、一度に埋没した様な状況である。中央部にはビット状の凹みが見られる。ビット内の埋土は暗褐色土であり、②層と同様である。遺物は出土していない。

第40表 掘立柱建物跡36号計測表

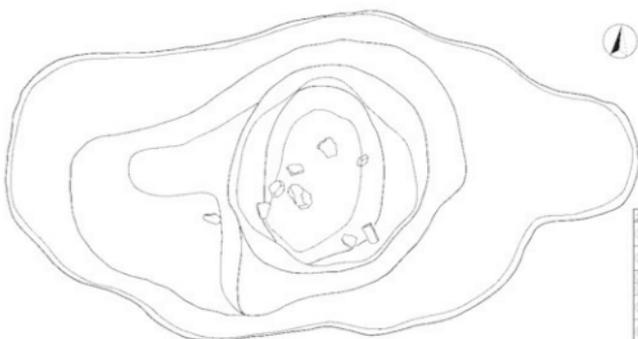
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P11	645cm	平均	161cm	P01 - P04	708cm	平均	236cm	方向N62° W	P3 - 土踏縁 (1)
P04 - P07	549cm	平均	183cm	P11 - P08	513cm	平均	171cm	片側壁21~37cm	
P01 - P14	106cm		217cm	P01 - P02	275cm		198cm	片側壁	
P14 - P13	251cm		166cm	P02 - P03	109cm		158cm	厚さ47.4㎜	
P13 - P12	158cm		166cm	P03 - P04	324cm		P09 - P08	157cm	
P12 - P11	130cm								



- 焼土域を伴う土坑(7号~9号共通)
- ① 褐色土、黄色フロックを不均に含む。
  - ② 褐色土、炭化物・焼土粒が多く含まれる。
  - ③ 褐色土、炭化物主体。
- 土坑1号
- ① 黄褐色粘質土、フロック状。
  - ② 褐色土。
- 土坑2号
- ① 褐色土、炭化物・赤色粒・赤色フロックを多量に含む。
  - ② 褐色土、炭化物・赤色粒を含む。
  - ③ 赤褐色土、硬化した粘土質、色調は②層よりも暗い、大きめの赤色フロックが見られる。
  - ④ 褐色土、①層の下に僅かに堆積、赤色粒が少し混ざる粘質土。
  - ⑤ 褐色土層。
- 土坑3号
- ① 黄褐色土、1~3mmの細かな炭化物主体。
  - ② 褐色土、同様に炭化物が見られる。

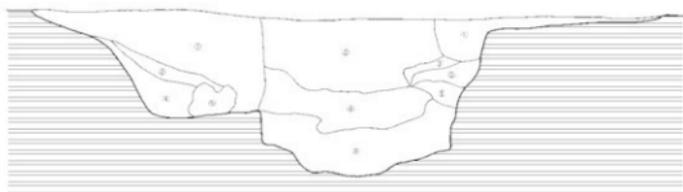
第56図 B地区土坑(1)

0 ( 1 : 20 ) 1m



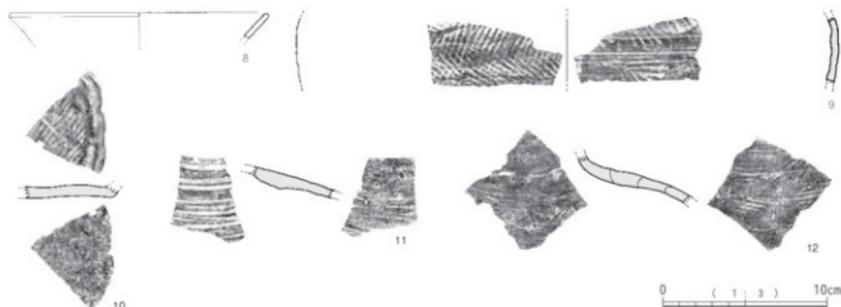
土坑4号
① 褐色土、赤色粒・炭化物を少量含む。しじり層。
② 暗褐色土、炭化物・赤色粒を含む。しじり層。
③ 褐色土、フロック状。
④ 褐色土、炭化物を少量含む。
⑤ 褐色土、尚や暗褐色土と褐色土が混在。
⑥ 暗褐色土、粒子の細かい赤色粒・炭化物を含む。

1:51.8m



土坑4号

0 ( 1 : 20 ) 1m



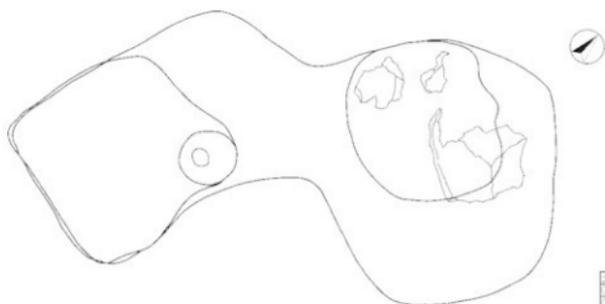
第57図 B地区土坑(2)

第41表 B地区土坑出土遺物観察表(1)

神区 No	出土区 No	遺物名	分類1	器種	分類2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	地成	備考	
							口径	胴径	底径	器高							
57	8	O-18	土坑4号	土鉢系	碗	口縁部	15.2							にふい青褐色	やや軟	口縁部平部土に赤色粒を含む	
	9	O-19	土坑4号	カムイヤサ		胴部		32.8			麻状	緑砂	黄灰色	灰色	良好	胎土に白色粒を僅かに含む	
	10	O-20	土坑4号	カムイヤサ		底部			14.4					にふい赤褐色	暗オリーブ灰	良好	胎土に黒人物を殆ど含まない
	11	O-21	土坑4号	カムイヤサ		肩部					ナデ	平行	暗黄灰色	暗黄灰色	良好	胎土等びをナデ消さない	
	12	O-22	土坑4号	カムイヤサ		肩部					回転ナデ	平行	暗黄灰	暗黄灰	良好	胎土に白粒を多く含む	

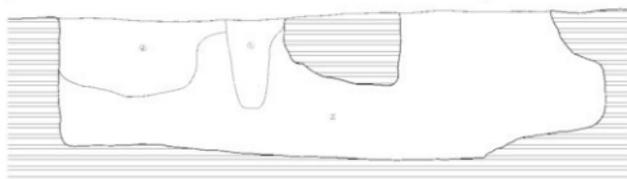
第42表 B地区土坑出土遺物観察表(2)

神区 No	出土区 No	遺物名	分類1	器種	分類2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	地成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
58	13	N-18	土坑5号	口縁	IV	口縁部	15.0							灰白色	良好	貫入有
	14	N-18	土坑5号	カムイヤサ		胴部					椀子目	平行少々	暗黄灰色		良好	



土坑5号	
①	暗褐色土、セメントの層まである。
②	褐色土、黄褐色土と暗褐色土が混在。
③	暗褐色土、中央に黄褐色が混在。

— 151.8m

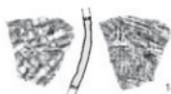


土坑5号

0 ( 1 : 20 ) 1m



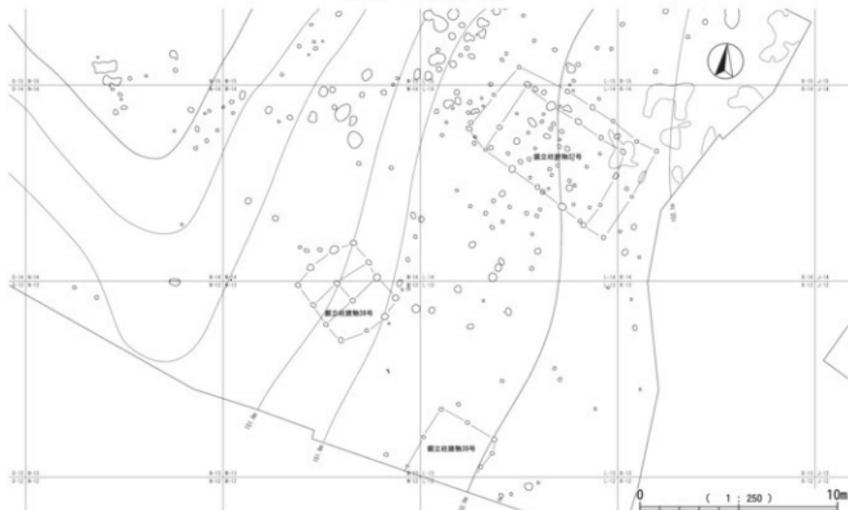
13



14

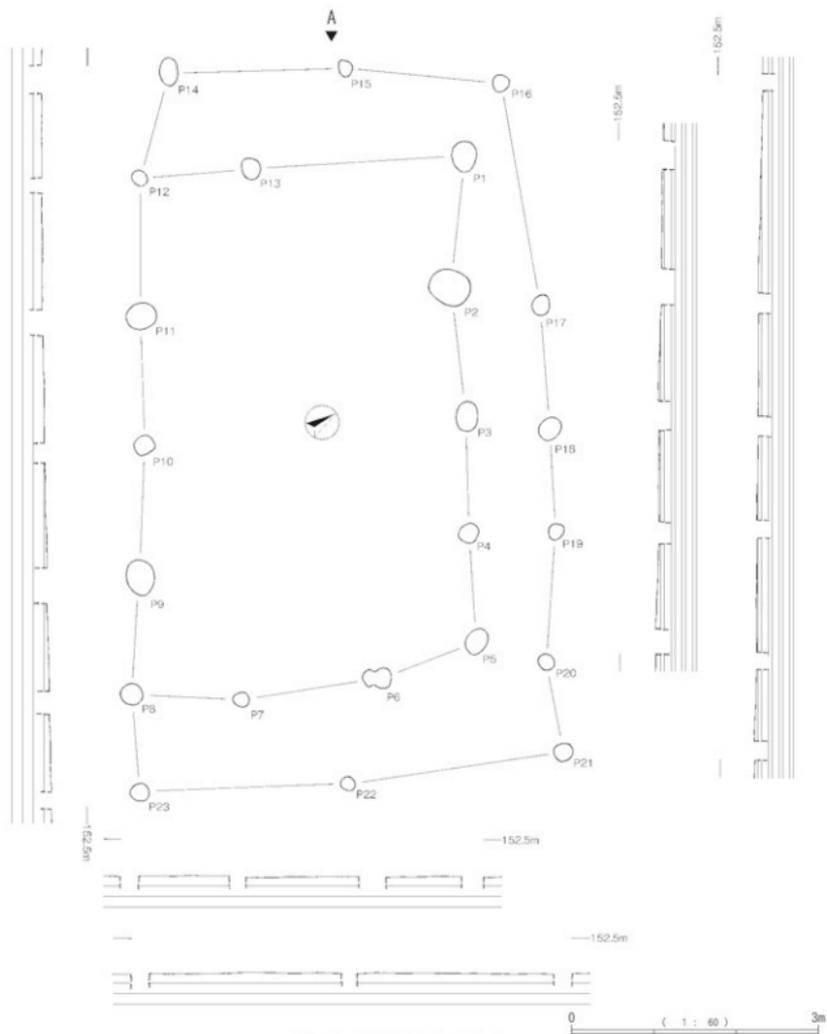
0 ( 1 : 3 ) 10cm

第58図 B地区土坑(3)



第59図 B地区詳細遺構配置図(3)

0 ( 1 : 250 ) 10m



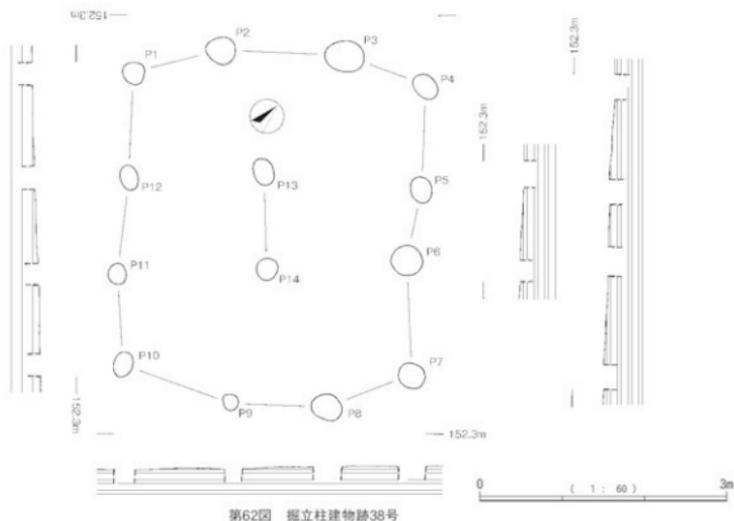
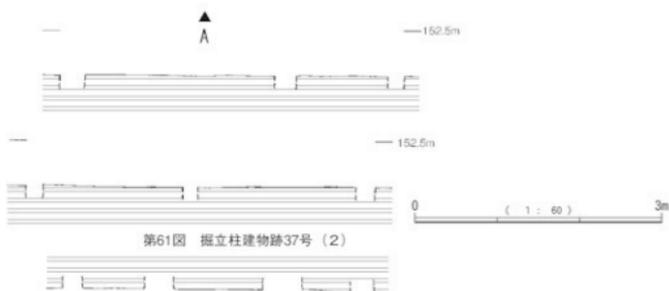
第60図 掘立柱建物跡37号(1)

土坑2号(第56図)

O-18区で検出。長軸90×短軸65cmの方形状である。①層を取り除くと焼土面が一面に広がる。この焼土面は厚いところで20cm程堆積していた。地山面の近くには褐色の粘質土が貼りついた状態で検出している。①層からは籾の羽口小片や炭化物が出土している。

土坑3号(第56図)

N-19区で検出。長軸100×短軸75cmの楕円状土坑である。①層は1~3mm程の細かな炭化物のみで構成されている。土坑内で火を受けた痕跡は確認できていない。

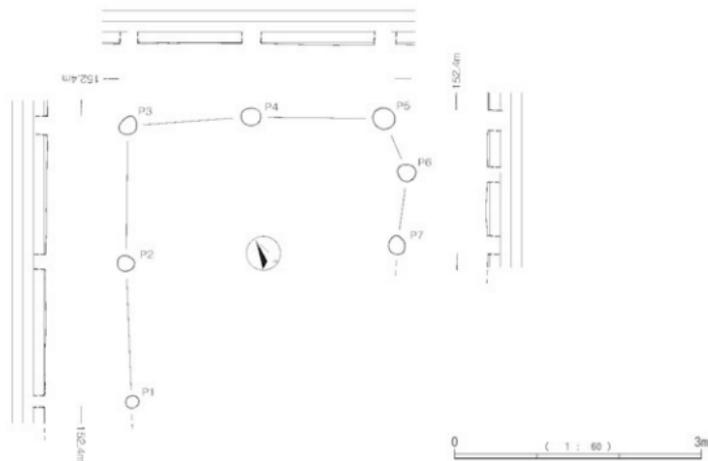


第43表 掘立柱建物跡37号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P12	397cm	平均	199cm	P01 - P05	595cm	平均	149cm	方向N57° W P遺存:20~50cm P深:±	
P05 - P08	430cm	平均	143cm	P12 - P08	631cm	平均	158cm		
P16 - P14	405cm	平均	203cm	P16 - P21	824cm	平均	165cm		
P21 - P23	519cm	平均	260cm					面積:25±17.1㎡	
P01 - P13	261cm	P05 - P06	122cm	P01 - P02	160cm	P12 - P11	168cm	面積:25±17.1㎡	
P13 - P12	136cm	P06 - P07	173cm	P02 - P03	160cm	P11 - P10	159cm		
		P07 - P08	135cm	P03 - P04	142cm	P10 - P09	159cm		
				P04 - P05	133cm	P09 - P08	145cm		
P16 - P15	190cm	P21 - P22	265cm	P16 - P17	275cm	P14 - P12	133cm	面積:25±17.1㎡	
P15 - P14	215cm	P22 - P23	254cm	P17 - P18	152cm	P08 - P23	120cm		
				P18 - P19	125cm				
				P19 - P20	160cm				
				P20 - P21	112cm				

第44表 掘立柱建物跡38号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	363cm	平均	121cm	P04 - P07	358cm	平均	119cm	方向N43° W P遺存:20~48cm	
P07 - P10	366cm	平均	122cm	P01 - P10	359cm	平均	120cm		
P04 - P03	103cm	P07 - P08	110cm	P04 - P05	128cm	P01 - P12	130cm	P深:±	
P03 - P02	156cm	P08 - P09	118cm	P05 - P06	90cm	P12 - P11	118cm		
P02 - P01	110cm	P09 - P10	138cm	P06 - P07	140cm	P11 - P10	111cm		
				P13 - P14	120cm			面積:14.5㎡	



第63図 掘立柱建物跡39号

#### 土坑4号（第57図）

O-19区で検出。長軸255×短軸125cmの方形状を呈する。この土坑が形成された後に左右から掘り込まれ現在の形状になったと考えられる。遺物はほとんどが中央の②層から出土している。8のみ左側の①層からの出土である。それ以外は②層からである。

8は土師器である。推定口径16cmを測る。9～12はカムイヤキである。9は推定胴径32.8cmを測る。本報告書分類ではB類に該当する。外面に線形タタキ・内面に車輪状当て具痕を有する。10は底部である。内面には特徴的な平行状の調整がついている。

#### 土坑5号（第58図）

L-17・18区で検出。長軸220×短軸80cmでの連結状土坑である。土坑の西側ではほぼ垂直に落ちるが、東側では底部分を大きくオーバーハングするほど掘り込まれている。床面は中央部でやや凹むが、ほぼ平坦である。土層はほぼ単層であり、一度に堆積したと考えられる。火を受けた痕跡は確認できていない。③層より遺物が出土している。

13は大宰府分類白磁椀Ⅳ類である。推定口径15cmを測る。14はカムイヤキである。外面平行タタキ・内面には格子目状当て具が施されている。

第45表 掘立柱建物跡39号計測表

測目1	寸法	測目2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	遺物
P03 - P05	310cm	平均	156cm	P01 - P03	339cm	平均	170cm	方向N29° E 片断雉・16～26cm
				P07 - P05	161cm	平均	81cm	片断雉・16～26cm
P03 - P04	148cm	P01 - P02	169cm	P07 - P06	90cm		90cm	片断雉・16～26cm
P04 - P05	162cm	P02 - P03	170cm	P06 - P05	71cm		71cm	片断雉・16～26cm

#### 5 B地区（3）

掘立柱建物跡が3棟検出している。L・N・14・15区付近には遺物包含層が厚く堆積していた。

##### （1）掘立柱建物跡

#### 掘立柱建物跡37号（第60・61図、第43表）

L-14区で検出されている。4×3間の建物跡に3面の庇がつくものである。柱穴数にばらつきが見られる。

#### 掘立柱建物跡38号（第62図、第44表）

M-13・14区で検出されている。3×3間の建物跡である。中央に2本柱穴を配置する。小型の建物跡である。梁行方向の中柱が外に向かってやや張り出している。

#### 掘立柱建物跡39号（第63図、第45表）

L・M-12・13区で検出されている。調査区境で検出されており、全体の構造は不明である。

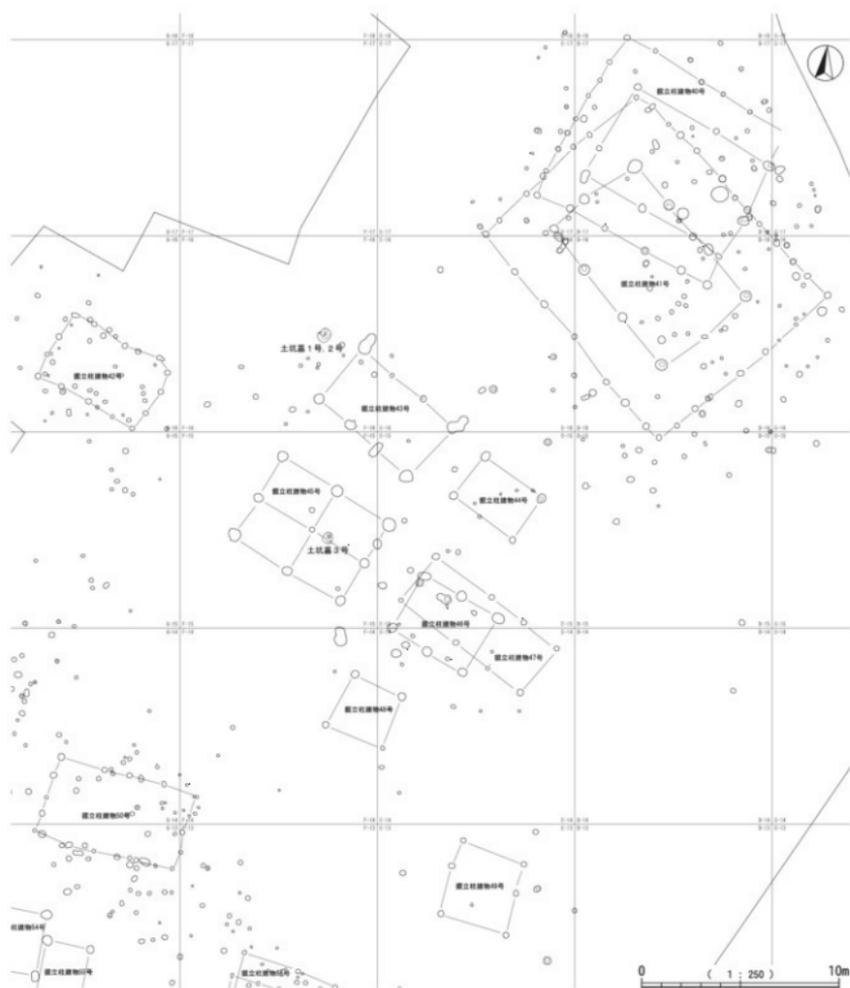
#### 6 C地区（1）

この区域には9棟の建物跡、土坑墓を2基検出した。この区域は大型の建物跡が整然と並び、ほぼ同一方向に主軸方向をもつ建物跡群を検出した。なお、発掘調査では5cm掘りを行い、柱痕跡などを確認するまでに留めているため、柱穴の深さは不明である。

土坑墓では火葬墓を2基検出している。



第64图 C地区建筑配置图



第65図 C地区詳細遺構配置図(1)

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡40号 (第66・67図, 第46表)

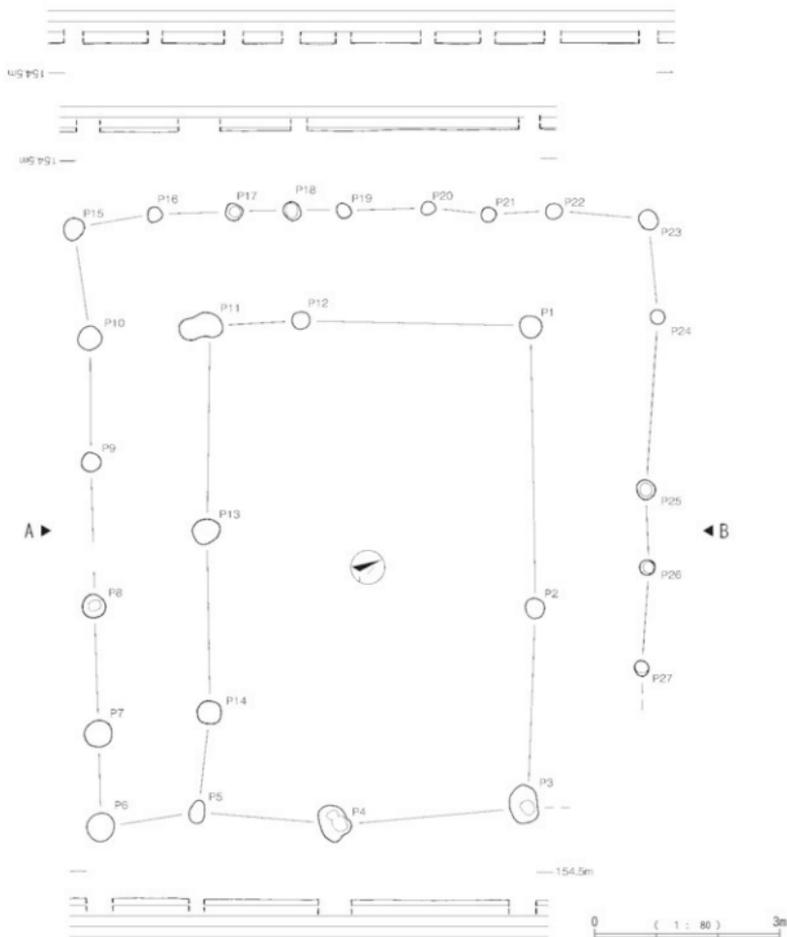
D・E-17区で検出されている。3×2間の建物跡の周囲にやや小型の柱穴が18基囲む、3面底の建物跡であると考えられる。掘立柱建物跡41号と重複している。

掘立柱建物跡41号 (第68・69図, 第47表)

C・D-16・17区で検出されている。3×2間の建物跡の周

圍を33本の柱が取り囲む建物跡である。内部の3×2間の床面積は49.5㎡、取り囲む柱穴まで含めると154.2㎡もあり、城久遺跡群において最大の建物跡である。なお、周囲の柱穴と内部の柱穴とは間隔が非常に広いため庇としての機能ではなく、目張り状もしくは囲い状の機能を有していたのではないかと推察している。

柱痕跡のあるP4から炭化物が得られ、炭素年代測定では920±40の年代測定結果(第VI章第2節参照)が得られた。



第66図 掘立柱建物跡40号(1)

同柱穴内からは白磁片が出土していることなどもあわせ考えると、11世紀後半頃の建物跡ではないかと考えられる。

**掘立柱建物跡42号(第70図, 第48表)**

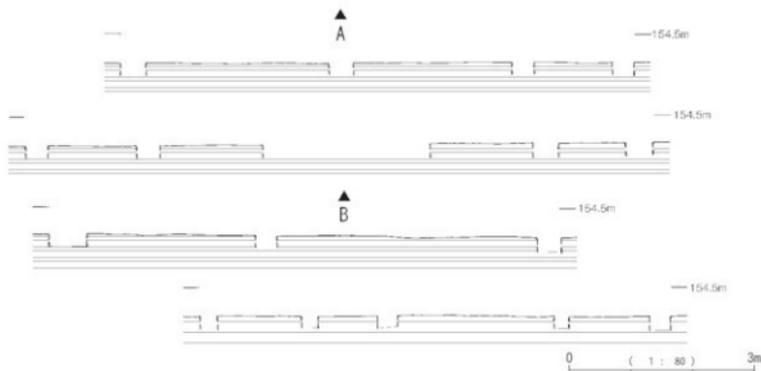
G-16区で検出。ややいびつであるが4×3間の建物跡である。柱穴内から白磁・轆の羽口が出土している。

**掘立柱建物跡43号(第71図, 第49表)**

E・F-15・16区で検出。3×1間の建物跡である。北側桁行では柱穴径が小さいものがあるが、総じて柱穴径が大きい。柱穴内から滑石製石鍋が出土している。

**掘立柱建物跡44号(第72図, 第50表)**

E-15区で検出。1×1間の建物跡である。平面プランは長方形である。



第67図 掘立柱建物跡40号(2)

掘立柱建物跡45号(第73図, 第51表)

F-15区で検出。2×2間の総柱建物跡である。東側梁形で1間多い。P6から初期高麗青磁が出土している。なお、P10とP7の間には土坑墓3号を検出しているが、前後関係は不明である。

掘立柱建物跡46号(第74図, 第52表)

E-14・15区で検出。2×1間の建物跡である。掘立柱建物跡47号と重複関係にある。

掘立柱建物跡47号(第75図, 第53表)

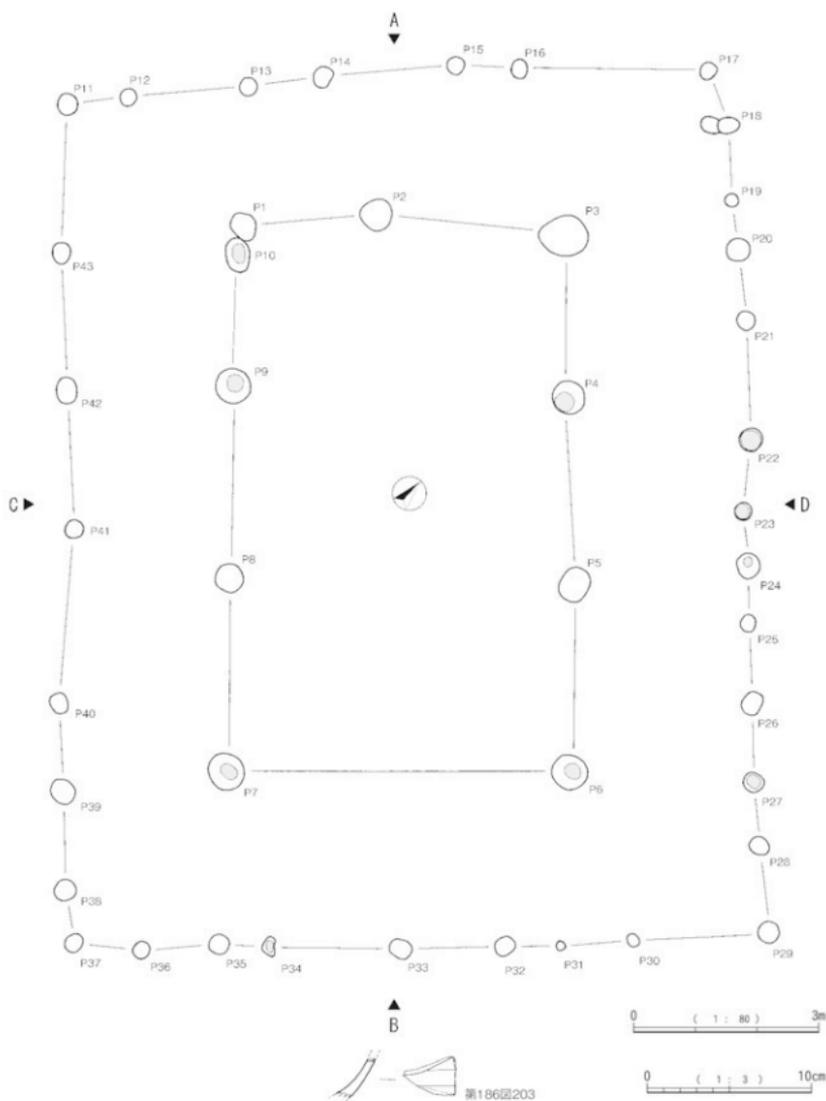
E-14・15区で検出。3×1間の建物跡である。P2とP3、P1とP8は柱間間隔が広い。P7から滑石製品が出土している。

第46表 掘立柱建物跡40号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01・P11	517cm	平均	259cm	P01・P03	784cm	平均	392cm	方向N67° W	P1: 土器類(11)
P03・P05	534cm	平均	267cm	P11・P05	796cm	平均	265cm	伊達径17~52cm	
P23・P15	903cm	平均	117cm	P23・P27	728cm	平均	182cm	伊達径<-	
P05・P06	158cm	平均	158cm	P15・P06	981cm	平均	197cm	面積(42+45.6)㎡	
P01・P12	370cm	P03・P04	304cm	P01・P02	458cm	P11・P13	335cm		
P12・P11	147cm	P04・P05	230cm	P02・P03	326cm	P13・P14	298cm		
						P14・P05	163cm		
P23・P22	152cm	P05・P06	158cm	P23・P24	158cm	P15・P10	182cm		
P22・P21	106cm			P24・P25	283cm	P10・P09	203cm		
P21・P20	98cm			P25・P26	126cm	P09・P08	234cm		
P20・P19	137cm			P26・P27	161cm	P08・P07	210cm		
P19・P18	84cm					P07・P06	152cm		
P18・P17	92cm								
P17・P16	130cm								
P16・P15	134cm								

第47表 掘立柱建物跡41号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03・P01	524cm	平均	262cm	P03・P06	872cm	平均	291cm	方向N43° W	P3: 土器類(2)、鑊の口(2)、鉄洋(4)、石彫(5)、 P4: 中野白磁(3)、鑊の口(4)、鉄洋(5)、 伊達径<- 炭化物(14)、 P8: 鑊の口(1)、P18: 土器類(1) [埋藏遺物] P4: 第186図203
P06・P07	557cm	平均	557cm	P01・P07	886cm	平均	222cm	伊達径10~58cm	
P17・P11	1130cm	平均	188cm	P17・P29	1413cm	平均	118cm	伊達径<-	
P29・P37	1126cm	平均	147cm	P11・P37	1365cm	平均	195cm	面積(49.5+104.7)㎡	
P03・P02	308cm	P06・P07	557cm	P03・P04	273cm	P01・P10	44cm		
P02・P01	216cm			P04・P05	297cm	P10・P09	212cm		
				P05・P06	302cm	P09・P08	314cm		
						P08・P07	316cm		
P17・P16	306cm	P29・P30	221cm	P17・P18	95cm	P11・P43	241cm		
P16・P15	103cm	P30・P31	118cm	P18・P19	123cm	P43・P42	223cm		
P15・P14	215cm	P31・P32	90cm	P19・P20	81cm	P42・P41	227cm		
P14・P13	211cm	P32・P33	169cm	P20・P21	114cm	P41・P40	283cm		
P13・P12	195cm	P33・P34	211cm	P21・P22	196cm	P40・P39	143cm		
P12・P11	100cm	P34・P35	82cm	P22・P23	116cm	P39・P38	160cm		
		P35・P36	127cm	P23・P24	82cm	P38・P37	88cm		
		P36・P37	108cm	P24・P25	100cm				
				P25・P26	132cm				
				P26・P27	125cm				
				P27・P28	105cm				
				P28・P29	144cm				



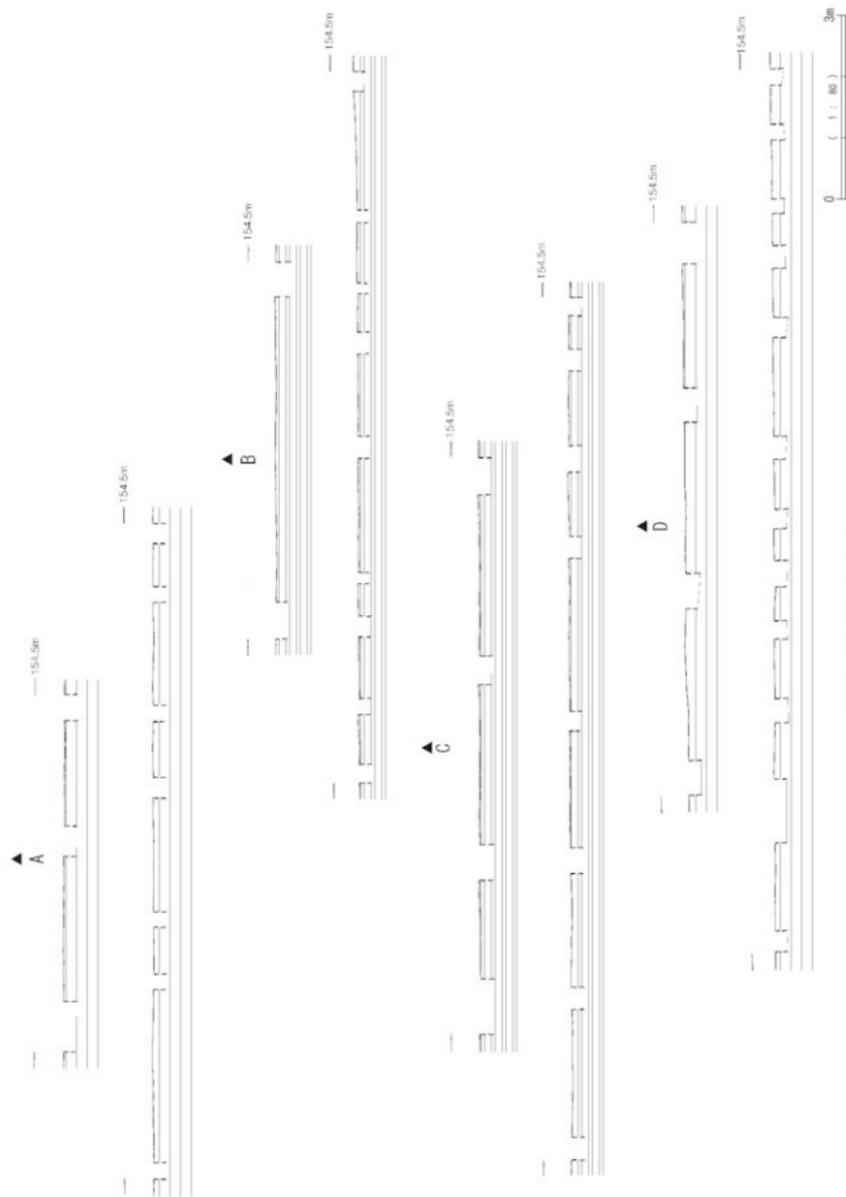
第68図 掘立柱建物跡41号 (1)

掘立柱建物跡48号 (第76図, 第54表)

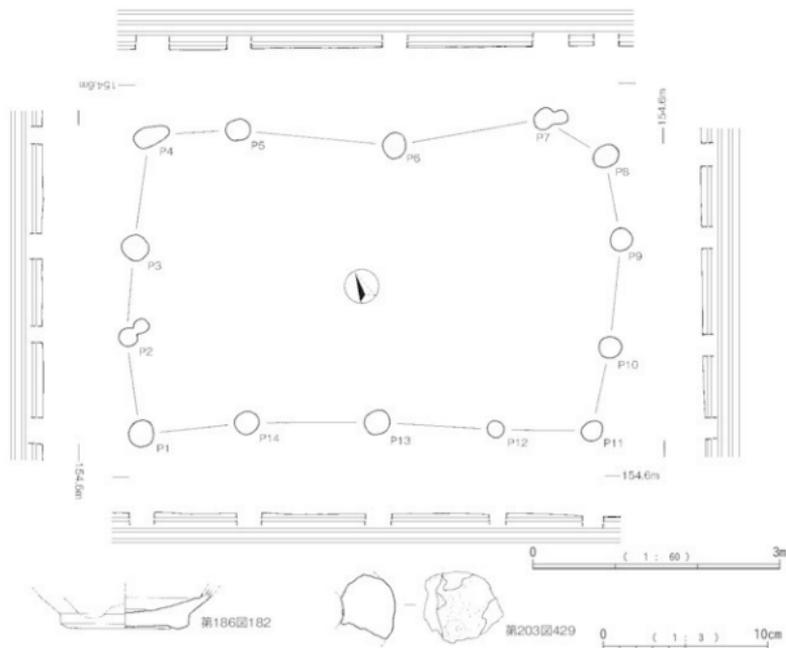
E・F・14区で検出。1×1間の建物跡である。P3のみ柱穴径が小さく、建物の平面プランも若干ゆがみを持つ。

掘立柱建物跡49号 (第77図, 第55表)

E・13区で検出。2×1間の建物跡である。2×1間の建物跡の中では柱穴径の小さなものである。



第69図 掘立柱建物跡41号 (2)



第70図 掘立柱建物跡42号

(2) 土坑墓

土坑墓1号 (第78図, 第52・53表)

F-16区で検出。掘立柱建物跡43号に隣接している。長軸95cm×短軸92cmの円形状土坑である。土坑墓1号は土坑墓2号を切って構築されており、11世紀後半～12世紀頃の白磁・陶器などの遺物を含んでいた。また、焼骨細片と炭化物が混入した塊が散らばった状態で検出している。

副葬品

15はカミイヤキの口縁部である。推定口径121cmを測る。器壁は薄く、丁寧にナデ整形されている。16は白磁Ⅱ4類である。推定口径16.1cmを測り、やや内湾している。17は推定口径14.9cmを測る。白磁Ⅱ4b類であり、内面を白堆線で分割している。18は白磁Ⅴ1b類である。推定口径15.3cmを測る。19は白磁鉄絵鉢である。推定口径22.9cm・底径7.4cm・器高8.7cmを測る。内面には文様が描かれている。底部内面を楕円形状に軸剥ぎしている。20は中世陶器の壺C群であると

考えられる。外器面は丁寧にナデられている。胎土は若干肌色味を帯びた灰色を呈している。21・22は刀子である。22には鍛接した痕跡が確認できる。23は須恵器の破片であるが内外面が接れていることから、転用品であると考えられる。特に内面が磨かれており、当て其痕が不鮮明である。

土坑墓2号 (第78図, 第54・55表)

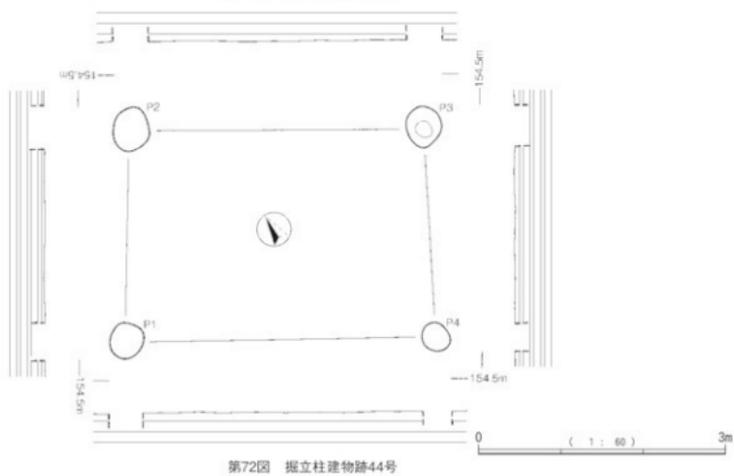
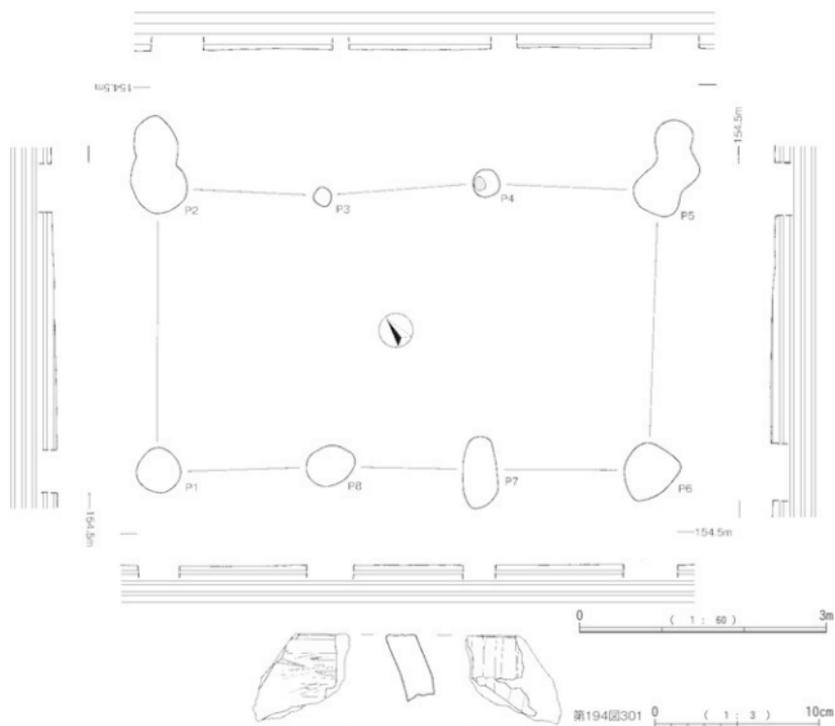
長軸142cm×短軸110cmの円形状土坑である。土坑墓1号に切られている。最下層からは炭化物のみで構成する層を確認しており、③層からは1,210±30、④層からは1,120±30の年代が得られている (第Ⅵ章第2節参照)。焼骨片は確認できていない。

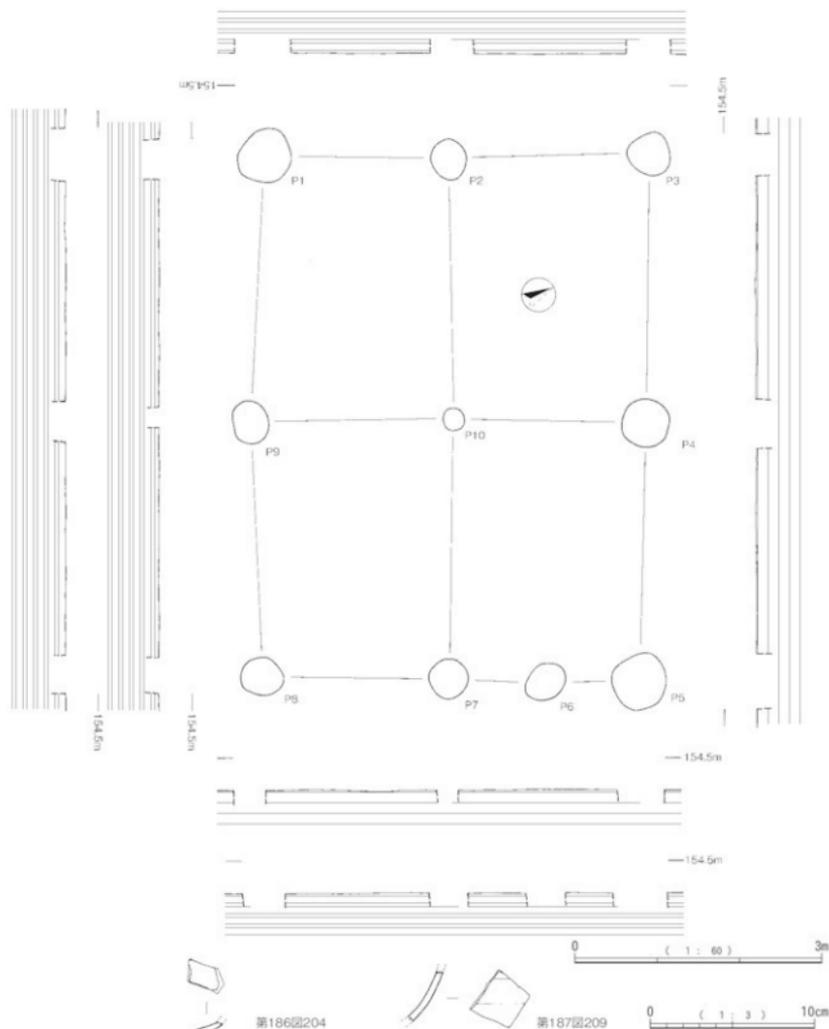
副葬品

24・25は白磁合子である。欠損のない完形品である。蓋内面および身の高台部分は施軸されていない。26は青銅製品である。器壁は非常に薄く、1mm以下である。検出時には若

第48表 掘立柱建物跡42号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	367cm	平均	122cm	P04 - P08	577cm	平均	143cm	方向N60° W	P11: 壺の口口 (1), P12: 中世白磁 (1)
P08 - P11	340cm	平均	113cm	P01 - P11	550cm	平均	130cm	伊勢塚20-43cm	【炭化物】
P04 - P03	137cm	P08 - P09	104cm	P04 - P05	107cm	P01 - P14	129cm	P梁土-	P11: 第203図429, P12: 第186図182
P03 - P02	110cm	P09 - P10	133cm	P05 - P06	192cm	P14 - P13	160cm	直径20.5cm	
P02 - P01	120cm	P10 - P11	103cm	P06 - P07	183cm	P13 - P12	144cm		
				P07 - P08	89cm	P12 - P11	117cm		



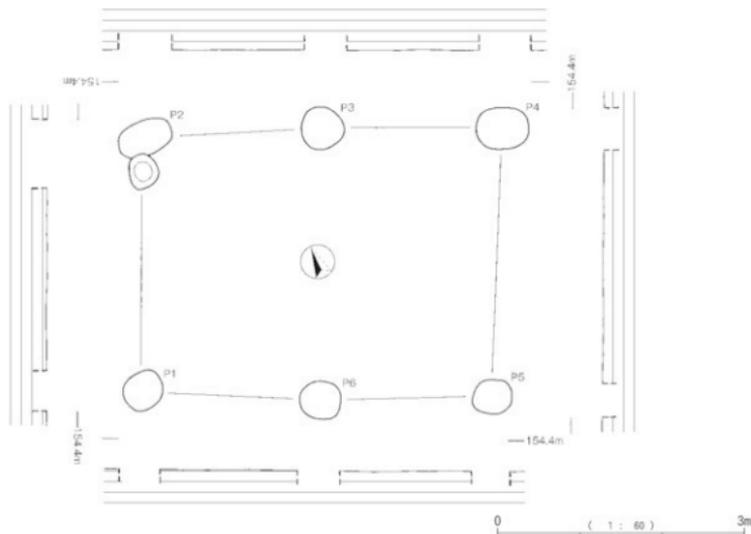


第73図 掘立柱建物跡45号

干湾曲した状態で2枚確認しており、それらの間には土が挟まれていたことから、本製品の内外面に銅を貼り付けた製品ではなかったかと推定している。27は鉄製品である。内部は中空で方形形状を呈している。先端部は細く尖り気味であり、鬚状の製品ではないかと考えられる。

土坑墓3号(第80図、第56・57表)

F-15区で検出。直径56cm×49cmの楕円形に近い形状である。焼骨と炭化物の塊を南側で検出した。床面はほぼ平坦である。北側には段差があり、その斜面に沿うように、カムイヤキ壺が置かれていた。山田中西遺跡と同様に焼骨はカムイヤキ壺の内部には混入していない。そのことから、蔵骨器としての



第74図 掘立柱建物跡46号

第49表 掘立柱建物跡43号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02・P01	348cm	平均	348cm	P02・P05	607cm	平均	202cm	方向N57° W	P7：滑石製石鏡 (1)
P05・P06	342cm	平均	342cm	P01・P06	594cm	平均	198cm	梁行径21~86cm	〔陶製遺物〕
P02・P01	348cm			P02・P03	200cm	P01・P08	209cm	梁深8~	P7：第194図301
				P03・P04	190cm	P08・P07	180cm	面積20.5㎡	
				P04・P05	217cm	P07・P06	205cm		

第50表 掘立柱建物跡44号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02・P01	258cm	平均	258cm	P02・P03	358cm	平均	358cm	方向N60° W	
P03・P04	254cm	平均	254cm	P01・P04	378cm	平均	378cm	梁行径36~54cm	
P02・P01	258cm	P03・P04	254cm	P02・P03	358cm	P01・P04	378cm	梁深8~	
								面積9.4㎡	

第51表 掘立柱建物跡45号計測表

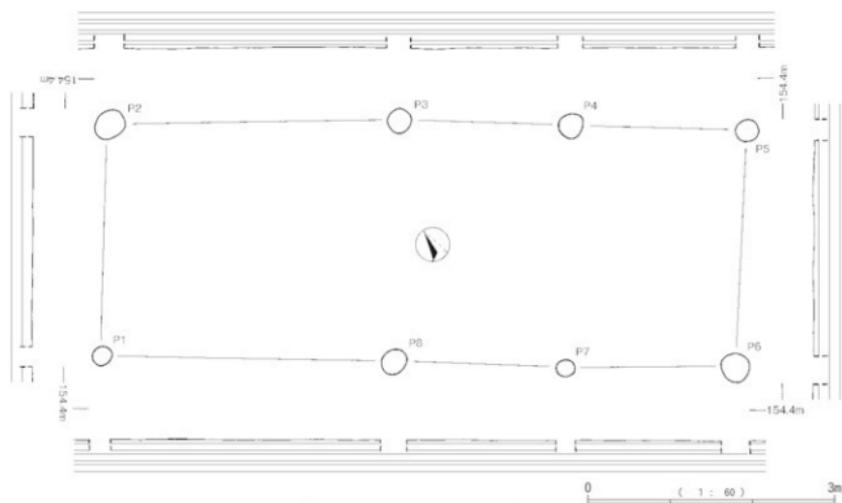
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03・P01	468cm	平均	234cm	P03・P06	645cm	平均	323cm	方向N67° W	P2：中野白磁 (1),
P05・P08	458cm	平均	153cm	P01・P08	637cm	平均	318cm	梁行径26~71cm	P3：石鏡 (4),
P04・P09	481cm	平均	241cm	P02・P07	635cm	平均	318cm	梁深8~	P5：中野白磁 (1), 鉄球 (4), 石鏡 (1),
P03・P02	245cm	P05・P06	115cm	P03・P04	330cm	P01・P09	325cm	面積30.4㎡	P6：切形高麗青磁 (1),
P02・P01	223cm	P06・P07	115cm	P04・P05	315cm	P09・P08	312cm		P9：釜形土 (1), 粘土塊 (1),
P04・P10	234cm	P07・P08	229cm	P02・P10	318cm				P10：中野白磁 (1), 漆製品 (3),
P10・P09	247cm			P10・P07	317cm				鑄の口 (1), 粘土塊 (1), 鉄球 (4),
									軽石 (1)
									〔陶製遺物〕
									P2：第186図204
									P6：第187図209

第52表 掘立柱建物跡46号計測表

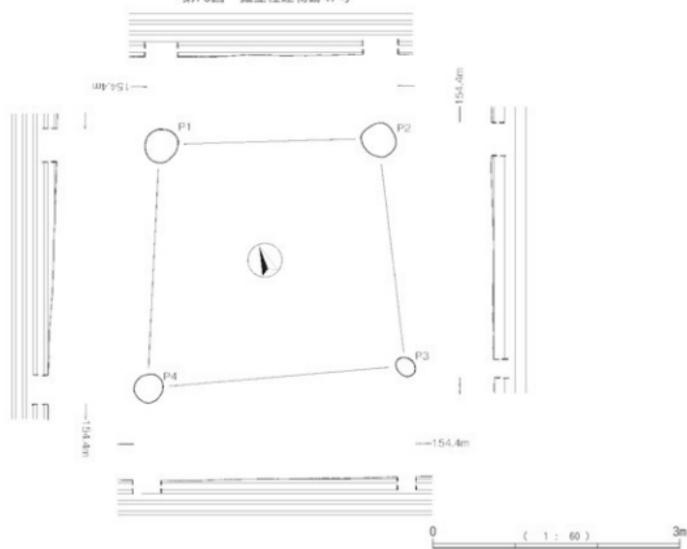
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02・P01	311cm	平均	311cm	P02・P04	432cm	平均	216cm	方向N65° W	P3：鑄の口 (1)
P04・P05	329cm	平均	329cm	P01・P05	425cm	平均	213cm	梁行径49~65cm	
P02・P01	311cm	P04・P05	329cm	P02・P03	212cm	P01・P06	217cm	梁深8~	
				P03・P04	220cm	P06・P05	208cm	面積14㎡	

第53表 掘立柱建物跡47号計測表

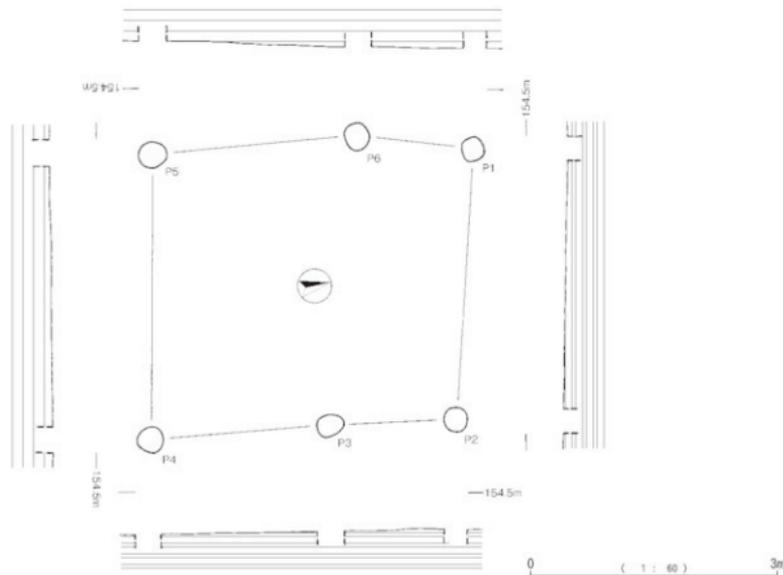
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02・P01	284cm	平均	284cm	P02・P05	775cm	平均	258cm	方向N56° W	P7：滑石製二次加工品 (1)
P05・P06	290cm	平均	290cm	P01・P06	770cm	平均	257cm	梁行径23~40cm	〔陶製遺物〕
P02・P01	284cm	P05・P06	290cm	P02・P03	354cm	P01・P08	356cm	梁深8~	P7：第197図339
				P03・P04	207cm	P08・P07	208cm	面積22.4㎡	
				P04・P05	214cm	P07・P06	205cm		



第75図 掘立柱建物跡47号



第76図 掘立柱建物跡48号



第54表 掘立柱建物跡48号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	313cm	平均	313cm	P04 - P01	299cm	平均	299cm	方向N75° W	
P01 - P02	266cm	平均	266cm	P03 - P02	282cm	平均	282cm	伊達様29~33cm	
P04 - P03	313cm	平均	266cm	P04 - P01	299cm	平均	282cm	伊達様29~33cm 伊達様13.1rel	

第77図 掘立柱建物跡49号

第55表 掘立柱建物跡49号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P04	349cm	平均	349cm	P05 - P01	393cm	平均	197cm	方向N10° E	P4：右扉(1)
P01 - P02	332cm	平均	332cm	P04 - P02	374cm	平均	187cm	伊達様29~33cm	
P05 - P04	349cm	平均	332cm	P05 - P06	251cm	平均	220cm	伊達様29~33cm 伊達様13.1rel	

第56表 土坑墓1号出土遺物観察表(1)

検出 No	出土区	遺構名	分坑1	器種	分坑2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
15	F-16	土坑墓1号	中央土坑	香	分坑2	口縁部	12.1									
16	F-16	土坑墓1号	白磁	瓶	分坑2	口縁部	16.1	6.1	5.7							
17	F-16	土坑墓1号	白磁	瓶	分坑2	口縁部	14.9									
18	F-16	土坑墓1号	白磁	瓶	分坑2	口縁部	15.3									
19	F-16	土坑墓1号	白磁	瓶	分坑2	口縁部	22.9	7.4	8.7							
20	F-16	土坑墓1号	白磁	瓶	分坑2	口縁部	22.9									

第57表 土坑墓1号出土遺物観察表(2)

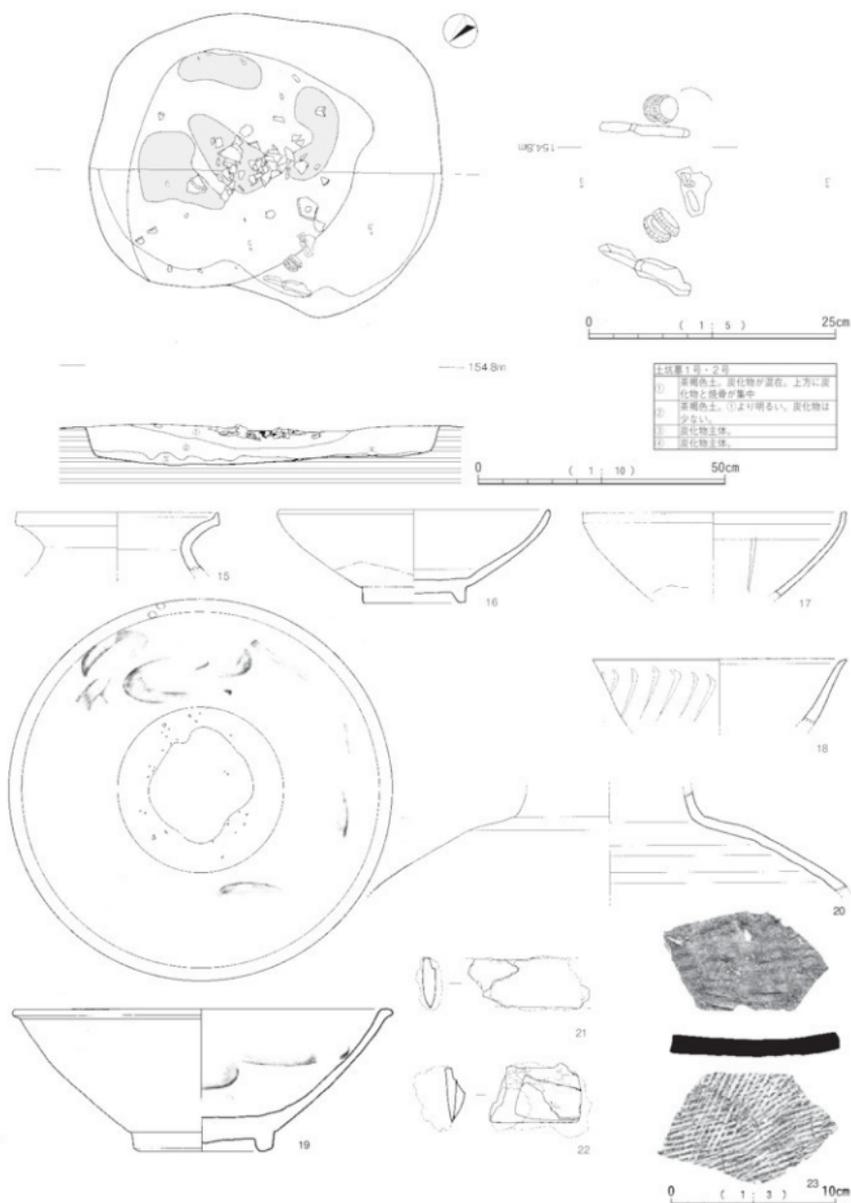
検出 No	出土区	遺構名	分坑1	器種	分坑2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
							長さ	幅	厚さ	重量						
21	F-16	土坑墓1号	白磁	刀子			5.8	3.4	1.0	35.0g						
22	F-16	土坑墓1号	白磁	刀子			6.5	3.0	0.8	72.5g						
23	F-16	土坑墓1号	白磁	刀子			10.2	7.0	1.0	194.0g						

第58表 土坑墓2号出土遺物観察表(1)

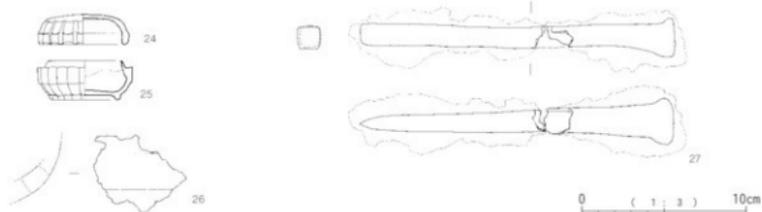
検出 No	出土区	遺構名	分坑1	器種	分坑2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
24	F-16	土坑墓2号	白磁	合子蓋			5.4			1.9						
25	F-16	土坑墓2号	白磁	合子身			4.5			3.8						

第59表 土坑墓2号出土遺物観察表(2)

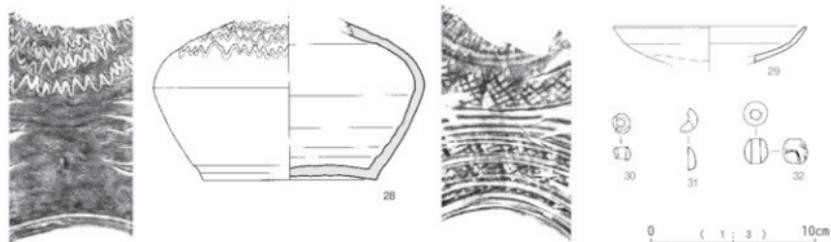
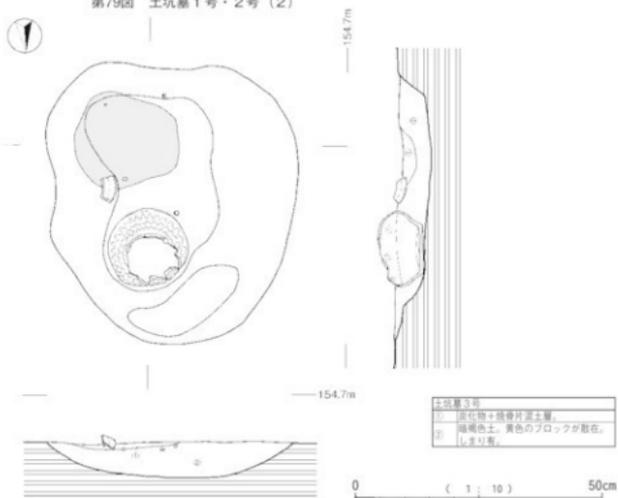
検出 No	出土区	遺構名	分坑1	器種	分坑2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
							長さ	幅	厚さ	重量						
26	F-16	土坑墓2号	白磁	銅幣?			3.7	4.2	0.05	5g						
27	F-16	土坑墓2号	白磁	銅幣?			18.9	2.8	0.15	235g						



第78图 土坑墓1号・2号(1)



第79図 土坑墓1号・2号(2)



第80図 土坑墓3号

第60表 土坑墓3号出土遺物観察表(1)

種別 No	出土区	遺構名	分層L1	器種	分類L2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	高さ						
28	F-15	土坑墓3号	カムイヤキ	壺		胴部~底部	16.3	10.4				黄灰色	黄灰色	良好		
29	F-15	土坑墓3号	白磁	皿	丸1号	口縁部	11.6				格子目	明黄褐色	明黄褐色	良好	体部外面磨蝕	

第61表 土坑墓3号出土遺物観察表(2)

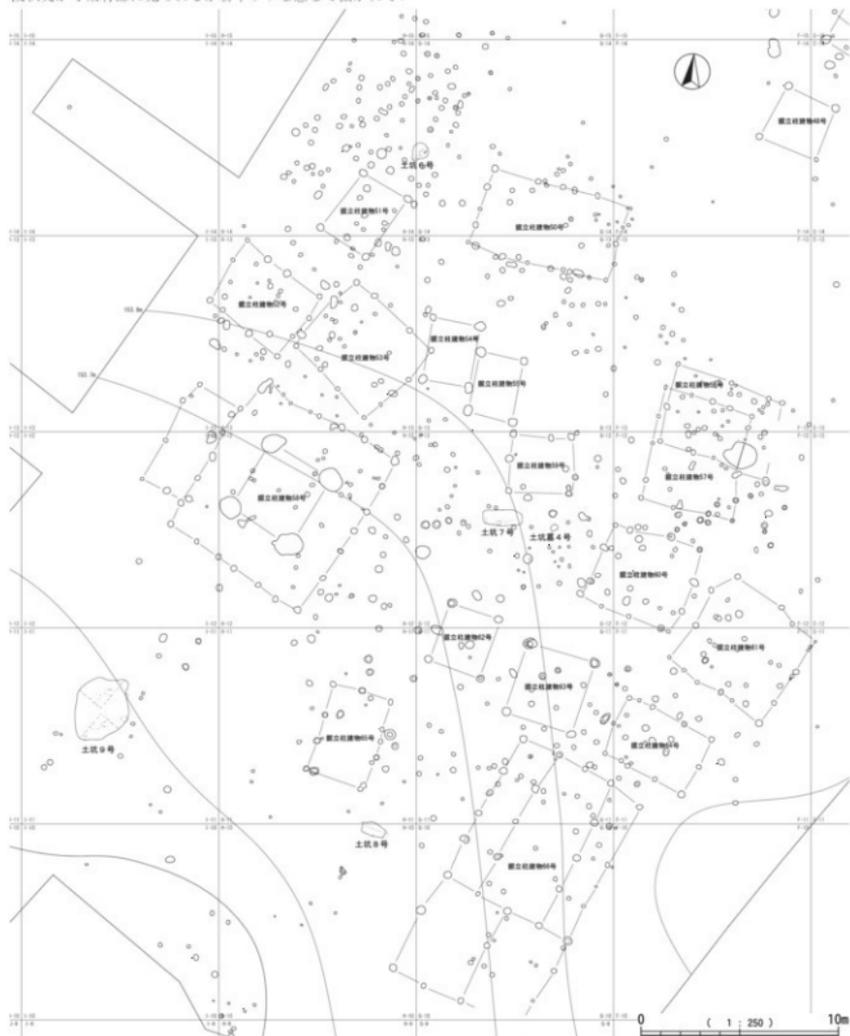
種別 No	出土区	遺構名	分層L1	器種	分類L2	部位	計測値 (cm)			調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							径	孔径	高さ						
30	F-15	土坑墓3号	ボラユ玉				1.1	0	0.5			白色	白色	表面が磨滅	
31	F-15	土坑墓3号	ボラユ玉				1.0	0.6	1.4			淡緑色	淡緑色	内部に細かい気泡有	
32	F-15	土坑墓3号	ボラユ玉				1.3	0.6	1.5			淡緑色	淡緑色	内部に細かい気泡有	

利用ではなく、副葬品として利用されたと考えられる。白磁皿は焼骨塊を被せるように置かれていた。掘立柱建物跡15号と重複関係にある。

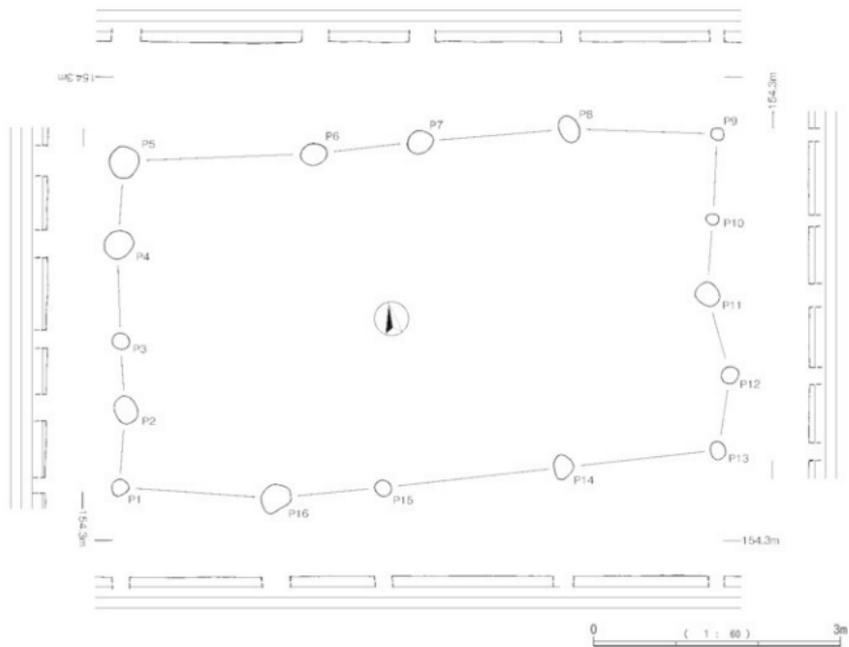
#### 副葬品

28はカムイヤキの壺である。胴径16.3cm・底径10.4cmを測る。頸部からは欠損しているが、薄く丁寧な作りをしている。波状文が4条肩部に見られるが若干干渉感を感じて描かれてい

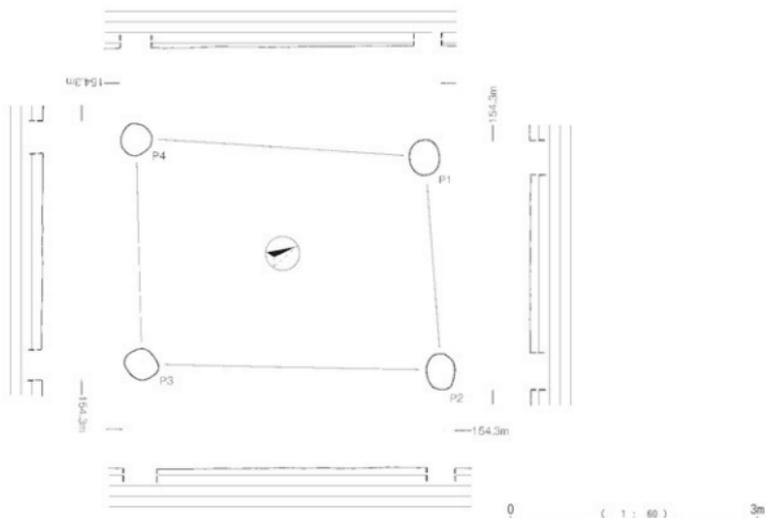
る。29は白磁皿VI 1a類である。推定口径11.6cmを測る。黄灰色の釉が薄くかかっており、体部外面は施釉されていない。30～32はガラス玉である。31・32は超音波洗浄を施してあり、器色は淡緑色を呈している。32は完形品である。外器面には凹みがあり、文様の様に見える。



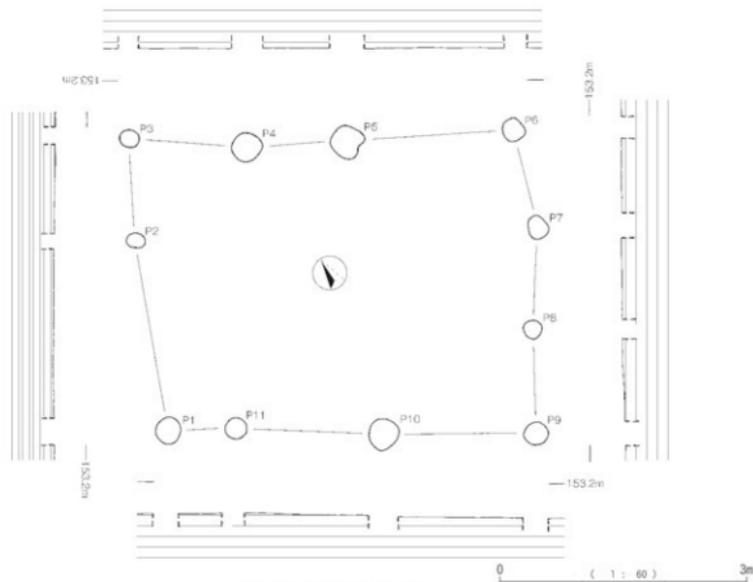
第81図 C地区詳細遺構配置図(2)



第82回 掘立柱建物跡50号



第83回 掘立柱建物跡51号



第84図 掘立柱建物跡52号

## 7 C地区(2)

この区域では柱穴が密集しており、建物跡を17棟、土坑を4基、土坑墓を1基検出した。前項のC地区(1)とこの(2)区域との間には柱穴が少なくなる範囲が帯状に見られ、空間利用において差があった可能性が考えられる。

H-12区では1×1間の建物跡の周囲を32柱穴で囲うという特徴的な建物跡を検出している。

土坑では火葬墓を1基、土坑を4基検出している。

### (1) 掘立柱建物跡

#### 掘立柱建物跡50号(第82図、第62表)

G-13・14区で検出。4×4間の建物跡である。若干ゆがんでおり、柱穴間隔にもばらつきが見られる。梁行の柱間間隔の狭さに対して桁行は広い。

#### 掘立柱建物跡51号(第83図、第63表)

H-13・14区で検出。1×1間の建物跡である。平面プランはややゆがんだ方形状である。

第62表 掘立柱建物跡50号計測表

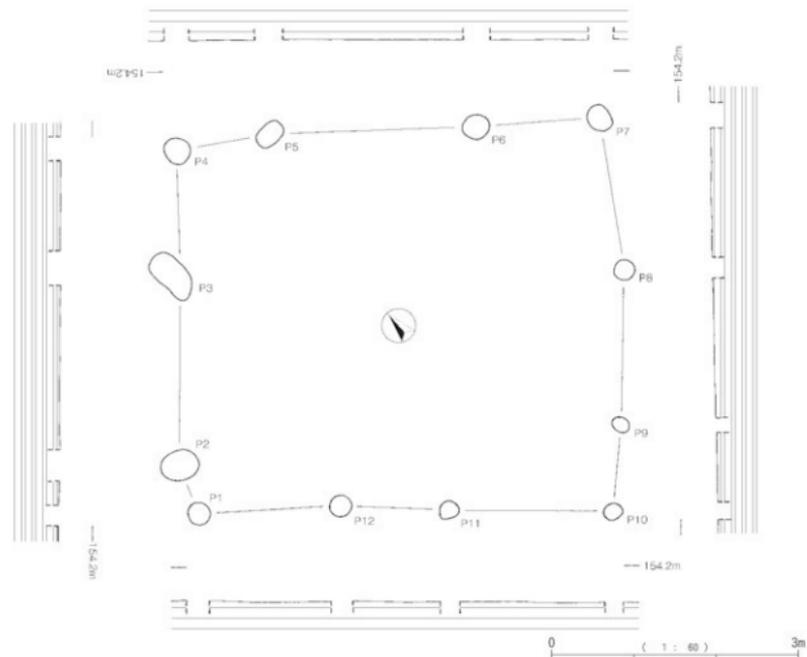
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P01	400cm	平均	100cm	P05 - P09	721cm	平均	180cm	方向N85° W	P11: 石器(1)
P09 - P13	392cm	平均	96cm	P01 - P13	730cm	平均	183cm	伊直径: 15~39cm	
P05 - P04	102cm	P09 - P10	104cm	P05 - P06	230cm	P01 - P16	190cm	伊深さ:-	面積29.4㎡
P04 - P03	118cm	P10 - P11	91cm	P06 - P07	130cm	P16 - P15	130cm	伊深さ:-	
P03 - P02	85cm	P11 - P12	104cm	P07 - P08	182cm	P15 - P14	220cm	伊深さ:-	
P02 - P01	95cm	P12 - P13	93cm	P08 - P09	179cm	P14 - P13	190cm	伊深さ:-	

第63表 掘立柱建物跡51号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	276cm	平均	276cm	P04 - P01	353cm	平均	353cm	方向N20° E	P10: 滑石製石鏡(1)
P02 - P01	262cm	平均	262cm	P03 - P02	365cm	平均	365cm	伊直径: 40~45cm	
P04 - P03	276cm	P02 - P01	262cm	P04 - P01	353cm	P03 - P02	365cm	伊深さ:-	
								面積9.7㎡	

第64表 掘立柱建物跡52号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	364cm	平均	182cm	P03 - P06	409cm	平均	156cm	方向N56° W	P10: 滑石製石鏡(1)
P06 - P09	380cm	平均	127cm	P01 - P09	446cm	平均	149cm	伊直径: 23~42cm	
P03 - P02	126cm	P06 - P07	124cm	P03 - P04	143cm	P01 - P11	82cm	伊深さ:-	
P02 - P01	238cm	P07 - P08	125cm	P04 - P05	120cm	P11 - P10	178cm	伊深さ:-	
		P08 - P09	130cm	P05 - P06	206cm	P10 - P09	186cm	面積16.8㎡	



第85図 掘立柱建物跡53号

掘立柱建物跡52号 (第84図, 第64表)

H-13区で検出。3×3間の建物跡である。西側梁行で1間少なくなっている。

掘立柱建物跡53号 (第85図, 第65表)

H-13区で検出。3×3間の方形の建物跡である。柱穴間隔にばらつきが見られる。

掘立柱建物跡54号 (第86図, 第66表)

G-13区で検出。1×1間の建物跡である。掘立柱建物跡53号と重複関係にある。

掘立柱建物跡55号 (第87図, 第67表)

G-13区で検出。1×1間の建物跡であると考えられる。掘立柱建物跡54号とはほぼ同様の形状である。

第65表 掘立柱建物跡53号計測表

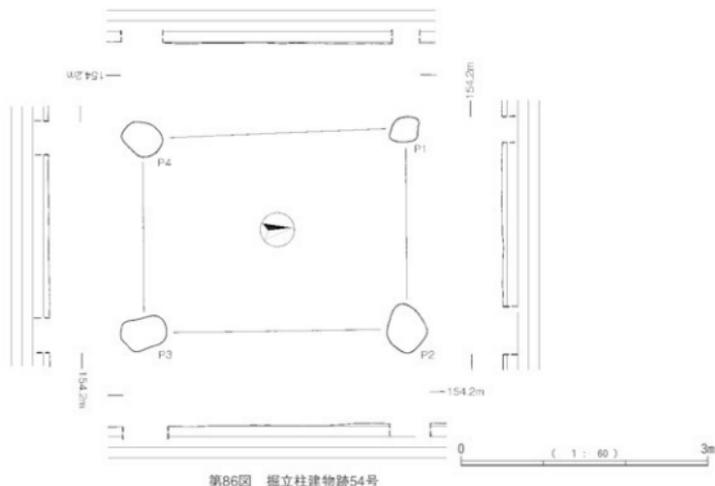
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04・P01	450cm	平均	150cm	P04・P07	515cm	平均	172cm	方向N50°W	
P07・P10	487cm	平均	162cm	P01・P10	504cm	平均	168cm	梁深径:22~65cm	
P04・P03	162cm	P07・P08	190cm	P04・P05	115cm	P01・P12	173cm	梁深さ:-	
P03・P02	224cm	P08・P09	190cm	P05・P06	250cm	P12・P11	131cm	面積:25㎡	
P02・P01	64cm	P09・P10	107cm	P06・P07	150cm	P11・P10	200cm		

第66表 掘立柱建物跡54号計測表

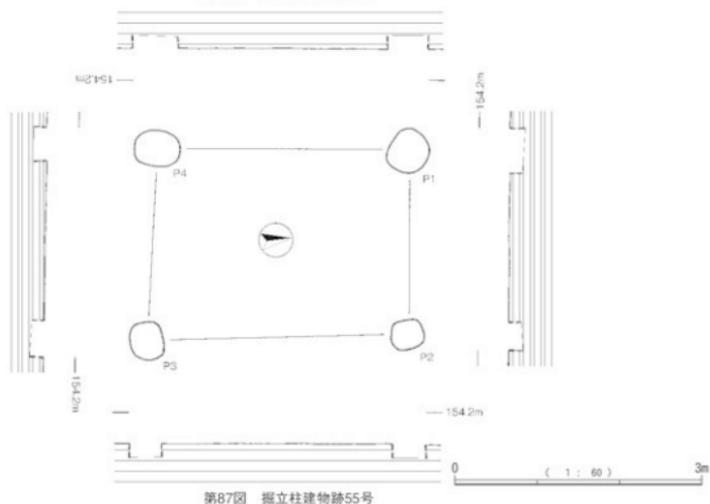
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04・P03	237cm	平均	237cm	P04・P01	320cm	平均	320cm	方向N6°E	
P01・P02	246cm	平均	246cm	P03・P02	321cm	平均	321cm	梁深径:42~60cm	
P04・P03	237cm	P01・P02	246cm	P04・P01	320cm	P03・P02	321cm	梁深さ:-	
								面積:7.7㎡	

第67表 掘立柱建物跡55号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04・P03	234cm	平均	234cm	P04・P01	308cm	平均	308cm	方向N6°E	
P01・P02	226cm	平均	226cm	P03・P02	319cm	平均	319cm	梁深径:41~56cm	
P04・P03	234cm	P01・P02	226cm	P04・P01	308cm	P03・P02	319cm	梁深さ:-	
								面積:7.3㎡	



第86図 掘立柱建物跡54号



第87図 掘立柱建物跡55号

**掘立柱建物跡56号 (第88図, 第68表)**

F-12・13区で検出。平面プランは平行四辺形状にゆがんでおり、柱数にばらつきが見られる。掘立柱建物跡57号と重複している。

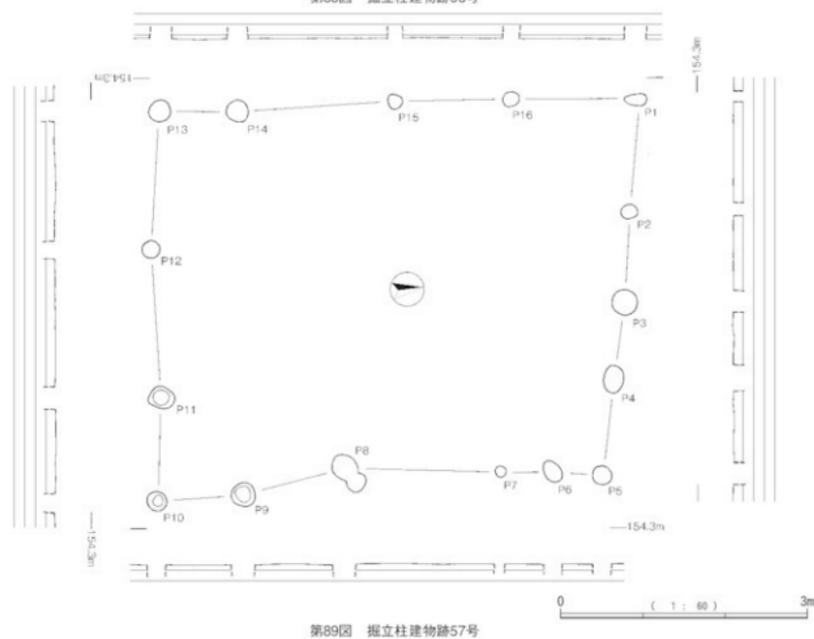
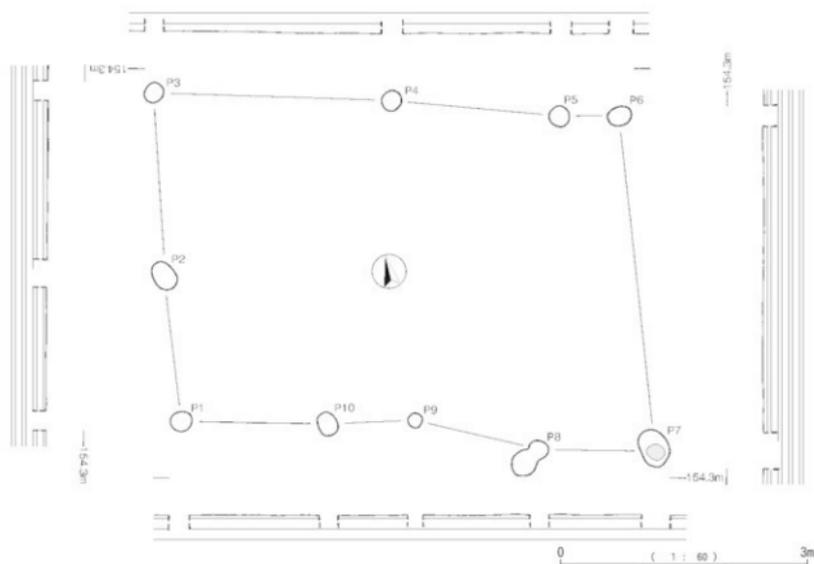
**掘立柱建物跡57号 (第89図, 第69表)**

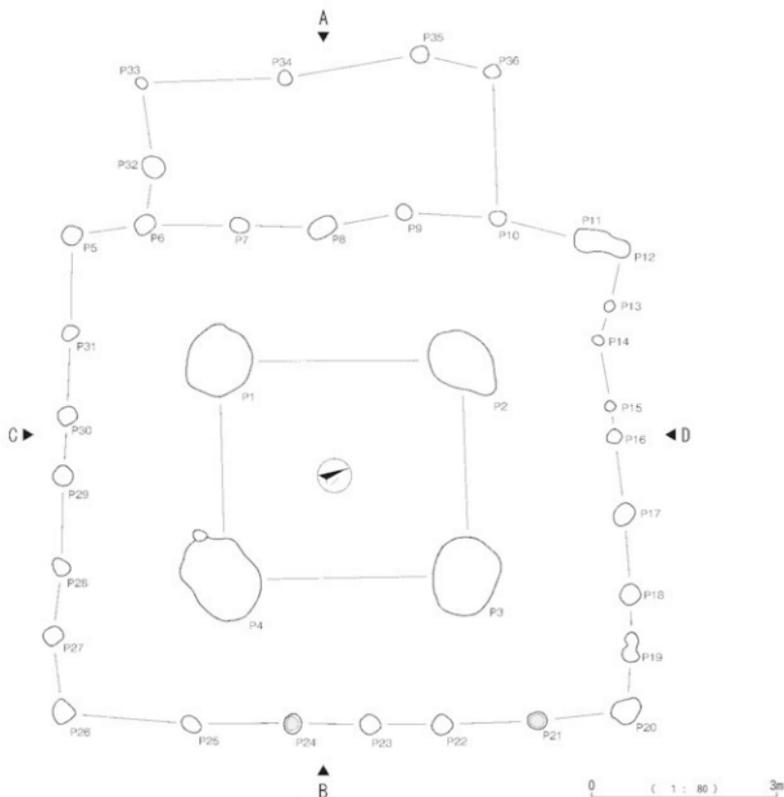
F-12・13区で検出。平面プランは若干のゆがみを持ち、柱穴数にも左右でばらつきが見られる。

**掘立柱建物跡58号 (第90～93図, 第70表)**

H・1-12・13区で検出。柱穴径が1m超と巨大な1×1間の建物跡である。地表面では非常に大きな径であるが、掘り進めると段状になっていた。そのことから、柱を再利用するために抜き取ろうと地山を掘り込んだため上部が大きく広がったと考えられる。本来の柱穴径は50-60cm程であり、柱痕は30cm前後のものとして想定している。

さらに周囲には柱穴が32本取り囲み、西側では凸部分も見





第90図 掘立柱建物跡58号（1）

られるなど、他にはない特殊な構造をした建物跡である。

なお、調査においては4分の1法で調査を行い、P2に関しては完掘している。土層の堆積状況を以下に列記する。

①層はレンズ状堆積であることやしまりが弱いことなどから、自然堆積したものであると考えられる。

②層は床面に見られる1段下がった落ち込みに堆積しており、元々柱があった場所である可能性が高い。

③層は他の埋土よりも黒色味を帯びており、柱痕跡であると考えられる。

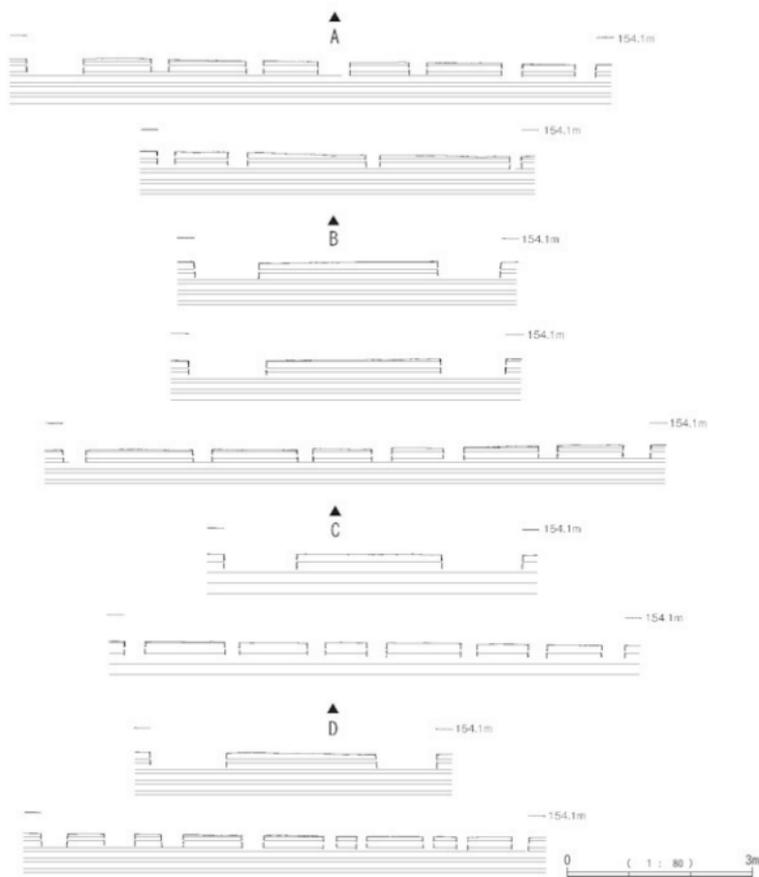
④層は地山のブロックを多く含み、柱痕跡と考えられる③層

第68表 掘立柱建物跡56号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	404cm	平均	202cm	P03 - P06	566cm	平均	189cm	方向N74° W	
P06 - P07	414cm	平均	414cm	P01 - P07	587cm		145cm	少遺物:18~46cm	
P03 - P02	226cm	P06 - P07	414cm	P03 - P04	290cm	P11 - P10	179cm	少遺物:-	
P02 - P01	178cm			P04 - P05	204cm	P10 - P09	106cm	面積22.9㎡	
				P05 - P06	72cm	P09 - P08	155cm		
						P08 - P07	142cm		

第69表 掘立柱建物跡57号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P13 - P10	478cm	平均	159cm	P13 - P01	583cm	平均	146cm	方向N5° E	
P01 - P05	563cm	平均	141cm	P10 - P05	547cm		109cm	少遺物:14~34cm	
P13 - P12	170cm	P01 - P02	136cm	P13 - P14	94cm	P10 - P09	104cm	少遺物:-	
P12 - P11	162cm	P02 - P03	111cm	P14 - P15	192cm	P09 - P08	130cm	面積25.8㎡	
P11 - P10	126cm	P03 - P04	194cm	P15 - P16	141cm	P08 - P07	189cm		
		P04 - P05	119cm	P16 - P01	156cm	P07 - P06	63cm		
						P06 - P05	61cm		

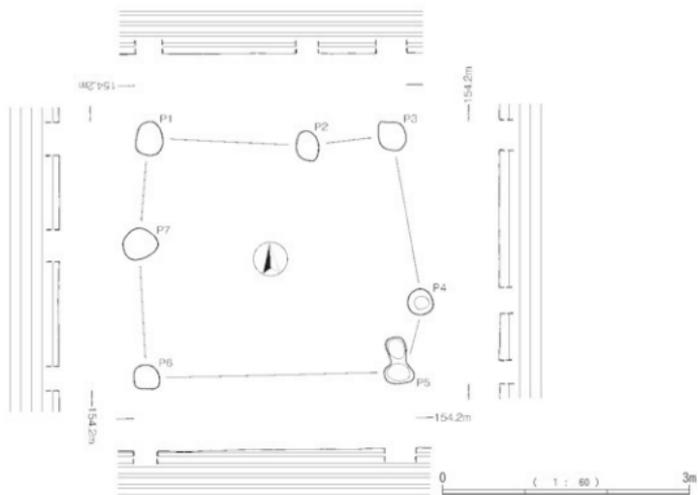


第91圖 擬立柱建物跡58号(2)

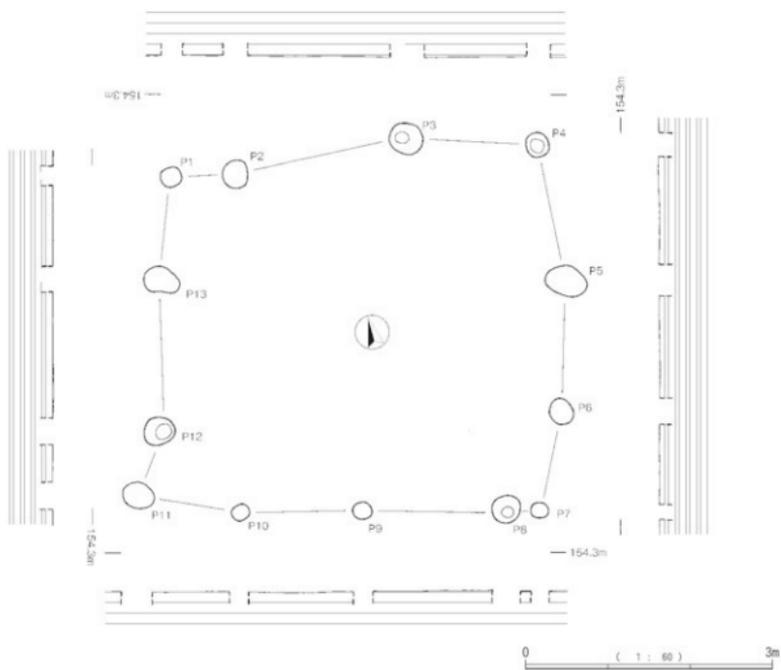
第70表 擬立柱建物跡58号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	357cm	平均	357cm	P01 - P02	390cm	平均	390cm	方向N29° E 断面径: 12~110cm 円深 8~ 面積 (14.2+71.6)㎡	遺物
P02 - P03	353cm	平均	353cm	P04 - P03	395cm	平均	395cm		
P05 - P26	784cm	平均	131cm	P05 - P12	898cm	平均	128cm		
P12 - P20	765cm	平均	96cm	P25 - P20	913cm	平均	152cm		
P33 - P06	236cm	平均	118cm	P33 - P36	672cm	平均	191cm		
P36 - P10	240cm	平均	240cm						
P01 - P04	357cm	P02 - P03	353cm	P01 - P02	390cm	P04 - P03	395cm		
P05 - P31	160cm	P12 - P13	99cm	P05 - P06	120cm	P26 - P25	208cm		
P31 - P30	136cm	P13 - P14	58cm	P06 - P07	154cm	P25 - P24	164cm		
P30 - P29	98cm	P14 - P15	109cm	P07 - P08	133cm	P24 - P23	127cm		
P29 - P28	150cm	P15 - P16	51cm	P08 - P09	133cm	P23 - P22	115cm		
P28 - P27	114cm	P16 - P17	128cm	P09 - P10	150cm	P22 - P21	152cm		
P27 - P26	126cm	P17 - P18	131cm	P10 - P11	141cm	P21 - P20	147cm		
		P18 - P19	100cm	P11 - P12	67cm				
		P19 - P20	90cm						
P33 - P32	140cm	P36 - P10	240cm	P33 - P34	232cm				
P32 - P06	96cm			P34 - P35	220cm				
				P35 - P36	120cm				

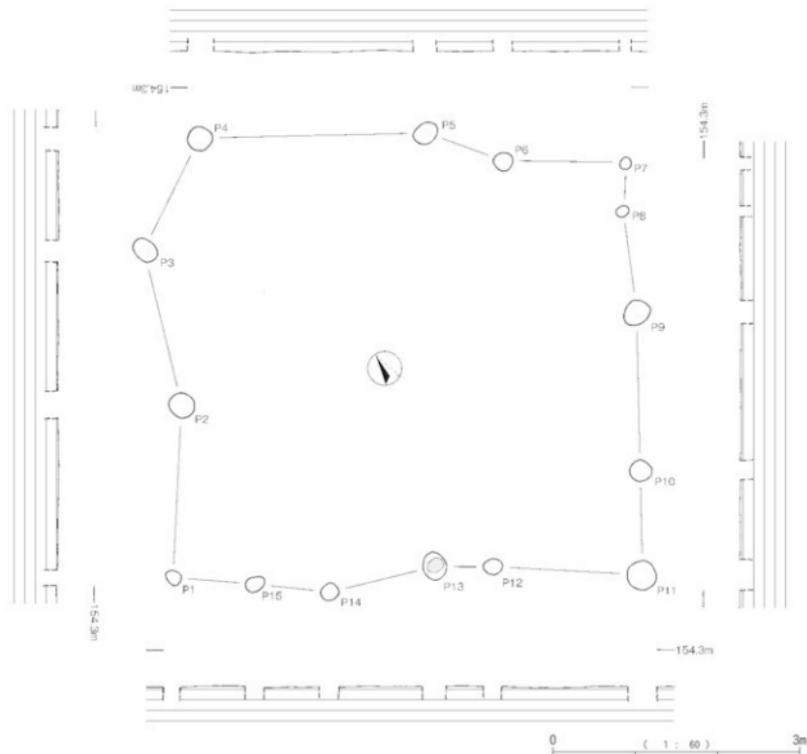




第94图 掘立柱建物跡59号



第95图 掘立柱建物跡60号



第96図 掘立柱建物跡61号

第71表 掘立柱建物跡59号計測表

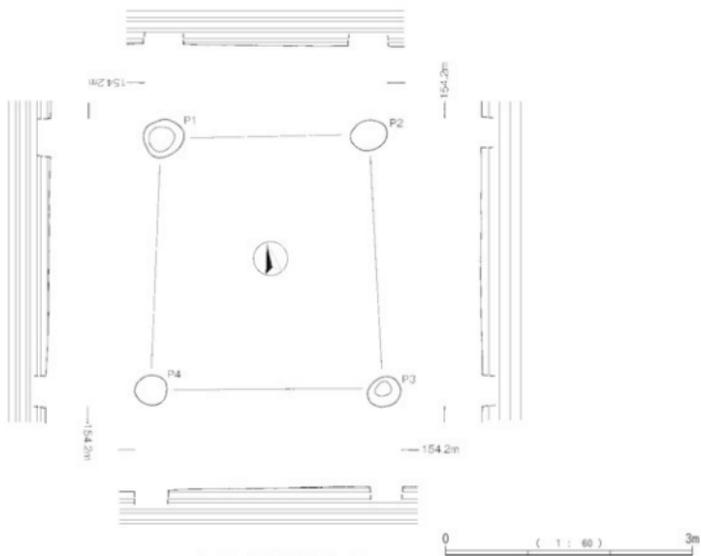
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P06	294cm	平均	147cm	P01 - P03	295cm	平均	148cm	方向N00° W	P6 : 軽石 (3)
P03 - P05	299cm	平均	150cm	P06 - P05	308cm	平均	308cm	P深径:30~42cm	
P01 - P07	130cm	P03 - P04	209cm	P01 - P02	192cm	P06 - P05	308cm	P深径:—	
P07 - P06	164cm	P04 - P05	90cm	P02 - P03	103cm			直径φmf	

第72表 掘立柱建物跡60号計測表

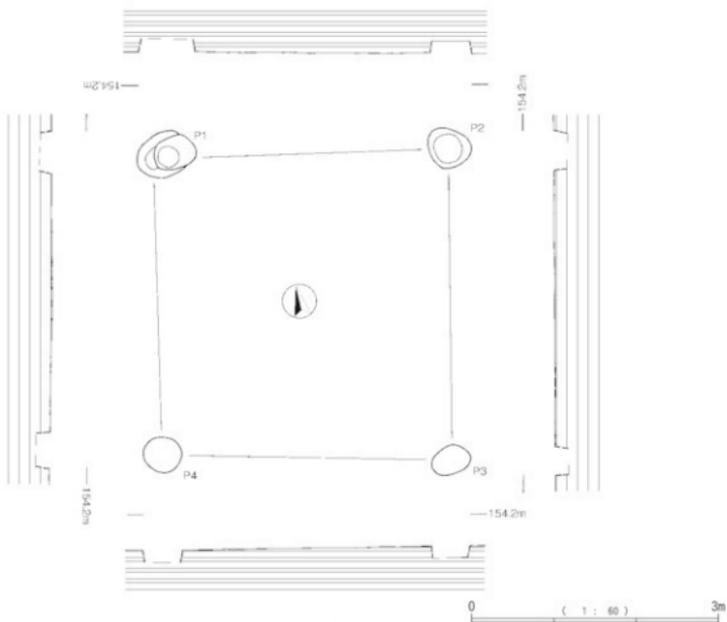
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P11	398cm	平均	133cm	P01 - P04	451cm	平均	150cm	方向N73° W	P2 : カムイヤキ (1), 石瓦 (2)
P04 - P07	454cm	平均	151cm	P11 - P07	491cm	平均	123cm	P深径:21~51cm	
P01 - P13	125cm	P04 - P05	170cm	P01 - P02	78cm	P11 - P10	127cm	P深径:—	
P13 - P12	188cm	P05 - P06	161cm	P02 - P03	208cm	P10 - P09	148cm	直径20.9mf	
P12 - P11	85cm	P06 - P07	123cm	P03 - P04	165cm	P09 - P08	176cm		
						P08 - P07	40cm		

第73表 掘立柱建物跡61号計測表

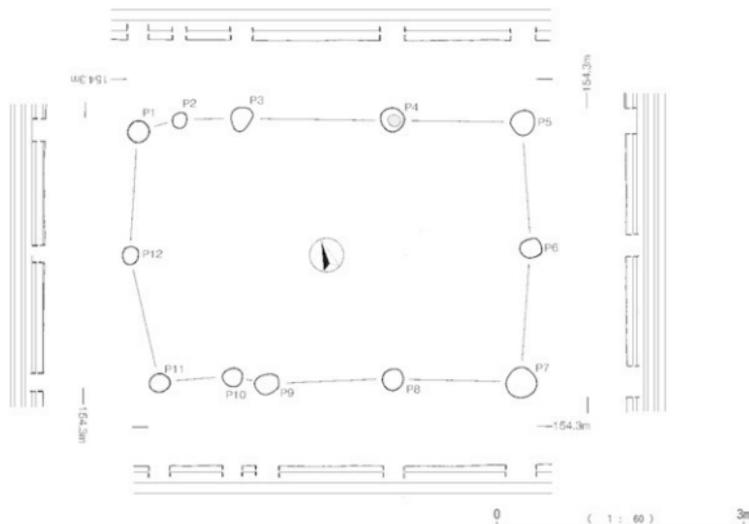
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	559cm	平均	186cm	P04 - P07	522cm	平均	174cm	方向N58° W	
P07 - P11	505cm	平均	126cm	P01 - P11	571cm	平均	114cm	P深径:14~35cm	
P04 - P03	152cm	P07 - P08	60cm	P04 - P05	275cm	P01 - P15	99cm	P深径:—	
P03 - P02	195cm	P08 - P09	125cm	P05 - P06	99cm	P15 - P14	90cm	直径29.7mf	
P02 - P01	212cm	P09 - P10	193cm	P06 - P07	148cm	P14 - P13	131cm		
		P10 - P11	127cm			P13 - P12	70cm		
						P12 - P11	181cm		



第97图 掘立柱建物跡62号



第98图 掘立柱建物跡63号



第99図 掘立柱建物跡64号

掘立柱建物跡60号 (第95図, 第72表)

F・G-12区で検出。3×3間の建物跡である。平面プランは若干ゆがんだ方形の建物跡である。

掘立柱建物跡61号 (第96図, 第73表)

F-11・12区で検出。平面プランはややいびつな方形を呈しており、柱数・柱間隔にもばらつきが見られる。

掘立柱建物跡62号 (第97図, 第74表)

G-11・12区で検出。1×1間の建物跡である。

掘立柱建物跡63号 (第98図, 第75表)

G-11区で検出。1×1間の建物跡である。

掘立柱建物跡64号 (第99図, 第76表)

F-11区で検出。4×2間の建物跡である。柱間隔のばらつきが少なく、比較的整った形をしている。

掘立柱建物跡65号 (第100図, 第77表)

H-11区で検出。3×2間の建物跡である。全てピンクの埋土柱穴で構成されている。柱痕跡も多く検出している。

第74表 掘立柱建物跡62号計測表

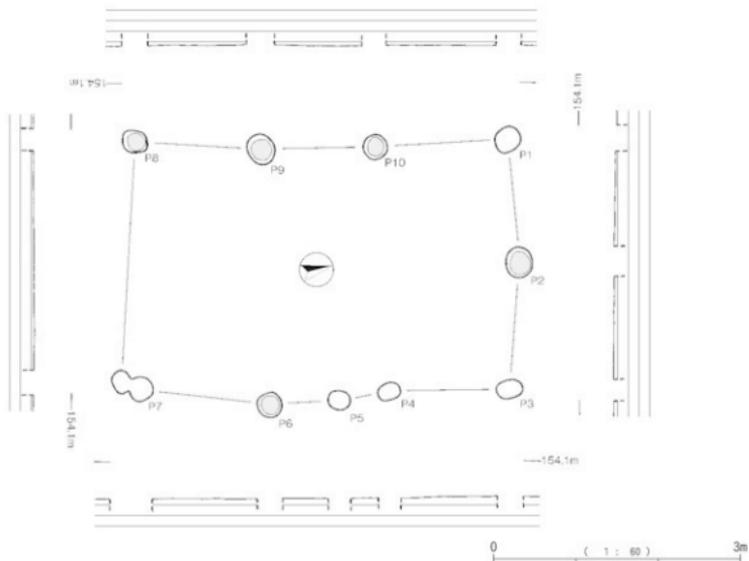
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	281cm	平均	281cm	P04 - P01	309cm	平均	309cm	方向N10° E	
P01 - P02	252cm	平均	252cm	P03 - P02	313cm	平均	313cm	P深さ:39~50cm	
P04 - P03	281cm	P01 - P02	252cm	P04 - P01	309cm	P03 - P02	313cm	P深さ:-	藍釉24㎡

第75表 掘立柱建物跡63号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	352cm	平均	352cm	P04 - P01	363cm	平均	363cm	方向N10° E	
P01 - P02	359cm	平均	359cm	P03 - P02	381cm	平均	381cm	P深さ:48~61cm	
P04 - P03	352cm	P01 - P02	359cm	P04 - P01	363cm	P03 - P02	381cm	P深さ:-	藍釉13.2㎡

第76表 掘立柱建物跡64号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P11	312cm	平均	156cm	P01 - P05	469cm	平均	117cm	方向N74° W	P4:土師器(4),
P05 - P07	320cm	平均	160cm	P11 - P07	439cm	平均	110cm	P深さ:20~38cm	P7:土師器(1), 石鏝(1)
P01 - P12	153cm	P05 - P06	154cm	P01 - P02	52cm	P11 - P10	89cm	P深さ:-	
P12 - P11	159cm	P06 - P07	168cm	P02 - P03	74cm	P10 - P09	42cm	面積15.1㎡	
				P03 - P04	187cm	P09 - P08	153cm		
				P04 - P05	156cm	P08 - P07	195cm		



第100回 掘立柱建物跡65号

掘立柱建物跡66号 (第101・102回, 第78表)

G-10・11区で検出。床面積は56㎡と広い建物跡である。東外側桁行のP1～P4の柱穴径がやや小さくなる。若干のばらつきが見られるものの非常に整った建物跡である。柱穴内より白磁片が出土している。

(2) 土坑墓

土坑墓4号 (第103回)

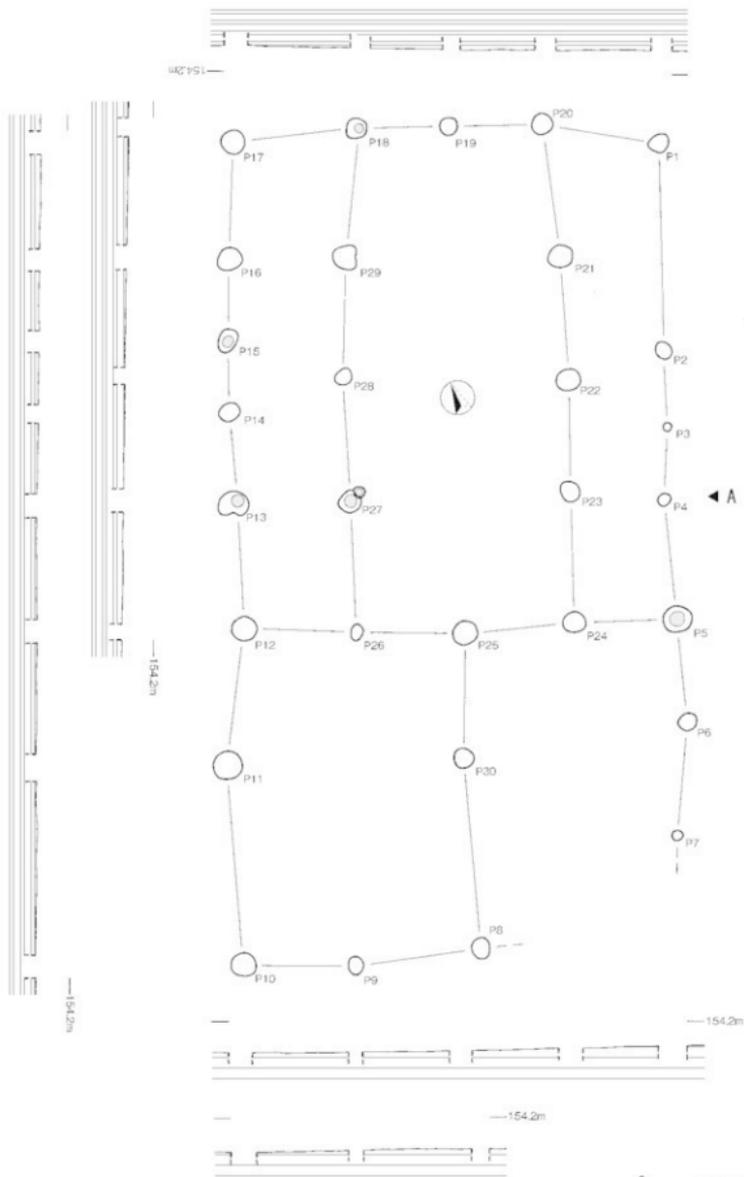
G-12区で検出。直径38×30cmの楕円形状で削平のためか深さは3cmと非常に浅い。①層からは焼骨片と炭化物が混入した状態で出土した。②層は床面を整地するために敷き詰めたものであると考えられる。遺物は出土していない。

第77表 掘立柱建物跡65号計測表

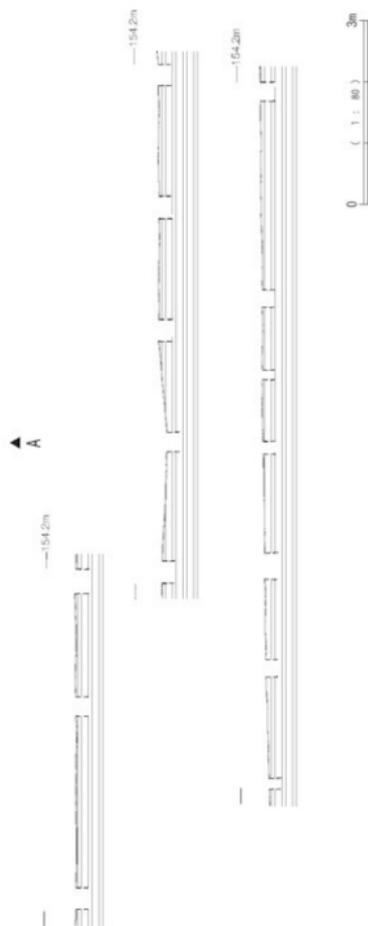
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P06 - P07	303cm	平均	303cm	P08 - P01	46.3cm	平均	151cm	方向N15° E	
P01 - P03	308cm	平均	154cm	P07 - P03	44.9cm	平均	113cm	梁行長28～52cm	
P06 - P07	303cm	P01 - P02	152cm	P08 - P09	15.3cm	P07 - P06	156cm	梁深さ-	
		P02 - P03	156cm	P09 - P10	140cm	P06 - P05	86cm	面積14.3㎡	
				P10 - P01	160cm	P05 - P04	61cm		
						P04 - P03	146cm		

第78表 掘立柱建物跡66号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P12 - P05	699cm	平均	175cm	P12 - P17	797cm	平均	199cm	方向N15° E	P14: 中骨白磁 (1), 石器 (1), P22: 土器類 (1)
P17 - P01	689cm	平均	172cm	P05 - P01	776cm	平均	194cm	梁行長: 9～37cm	
P10 - P08	384cm	平均	192cm	P06 - P18	825cm	平均	205cm	梁深さ-	
				P24 - P20	81.4cm	平均	20.4cm	面積28.4+27.9㎡	
				P10 - P12	55.3cm	平均	27.7cm		
				P07 - P05	35.5cm	平均	178cm		
				P08 - P25	516cm	平均	258cm		
P12 - P26	180cm	P17 - P18	205cm	P12 - P13	209cm	P05 - P04	195cm		
P26 - P25	177cm	P18 - P19	144cm	P13 - P14	145cm	P04 - P03	119cm		
P25 - P24	177cm	P19 - P20	151cm	P14 - P15	116cm	P03 - P02	125cm		
P24 - P05	165cm	P20 - P01	189cm	P15 - P16	135cm	P02 - P01	337cm		
				P16 - P17	192cm				
				P26 - P27	215cm	P24 - P23	213cm		
				P27 - P28	203cm	P23 - P22	181cm		
				P28 - P29	195cm	P22 - P21	202cm		
				P29 - P16	212cm	P21 - P20	218cm		
P10 - P09	180cm			P10 - P11	327cm	P07 - P06	185cm		
P09 - P08	204cm			P11 - P12	226cm	P06 - P05	170cm		
				P08 - P30	313cm				
				P30 - P25	203cm				



第101图 掘立柱建物跡66号 (1)



第102図 掘立柱建物跡66号 (2)

### (3) 土坑

#### 土坑6号 (第104図)

G・H-14区で検出。長軸97cm×短軸83cm円形状土坑である。出土したのは細片であるが、ほとんどが滑石混入土器であった。また、焼土粒が①層から多く検出されているが、土坑内では火を使用した痕跡は確認できなかった。焼土粒は周辺からの流れ込みではないかと考えられる。

#### 土坑7号 (第104図)

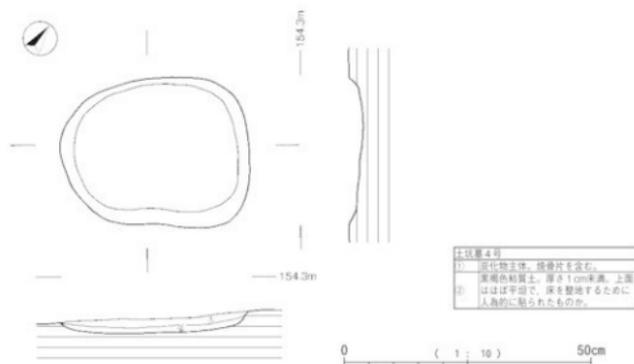
G-12区で検出。長軸約197cm×短軸81cmの長方形土坑である。平面形状を見ると山田中西遺跡で見られたような長方形土坑墓に類似する。人骨片は出土していないが、土坑墓になる可能性がある。

#### 土坑8号 (第105図)

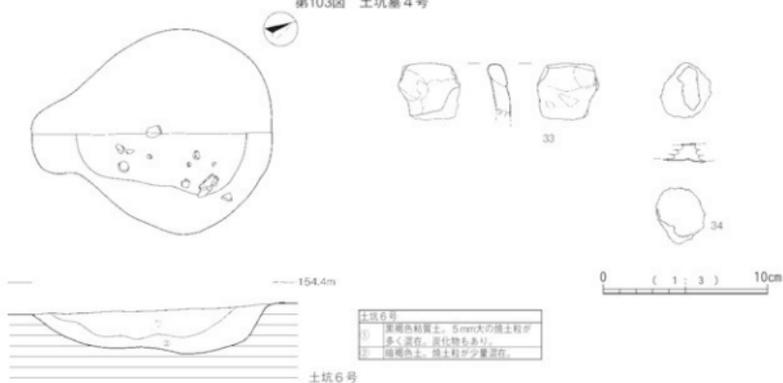
H-10区で検出。直径123×69cmの長方形土坑である。一部重機による削平を受けている。遺物は出土していない。

#### 土坑9号 (第105図)

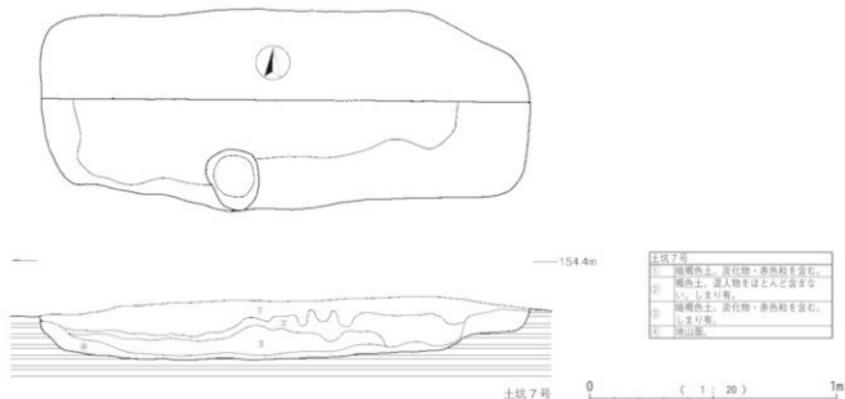
I-11区で検出。直径375×285cmの楕円形プランである。非常に大きな土坑で、摺鉢状に中央に向かって凹む。下層に行くにしたがって炭化物を含む量が増えてくる。最下層では集中して検出している。火を受けた痕跡は確認出来なかった。



第103図 土坑墓4号



土坑6号

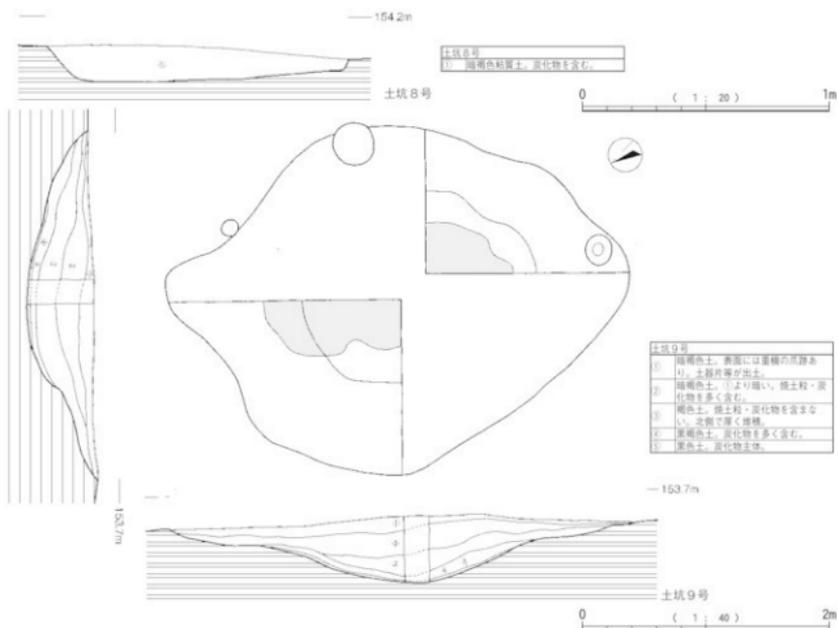
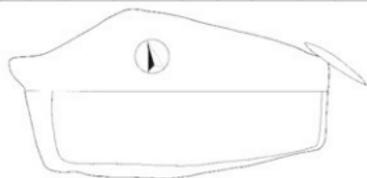


土坑7号

第104図 C地区土坑等実測図(1)

第79表 C地区土坑出土遺物観察表

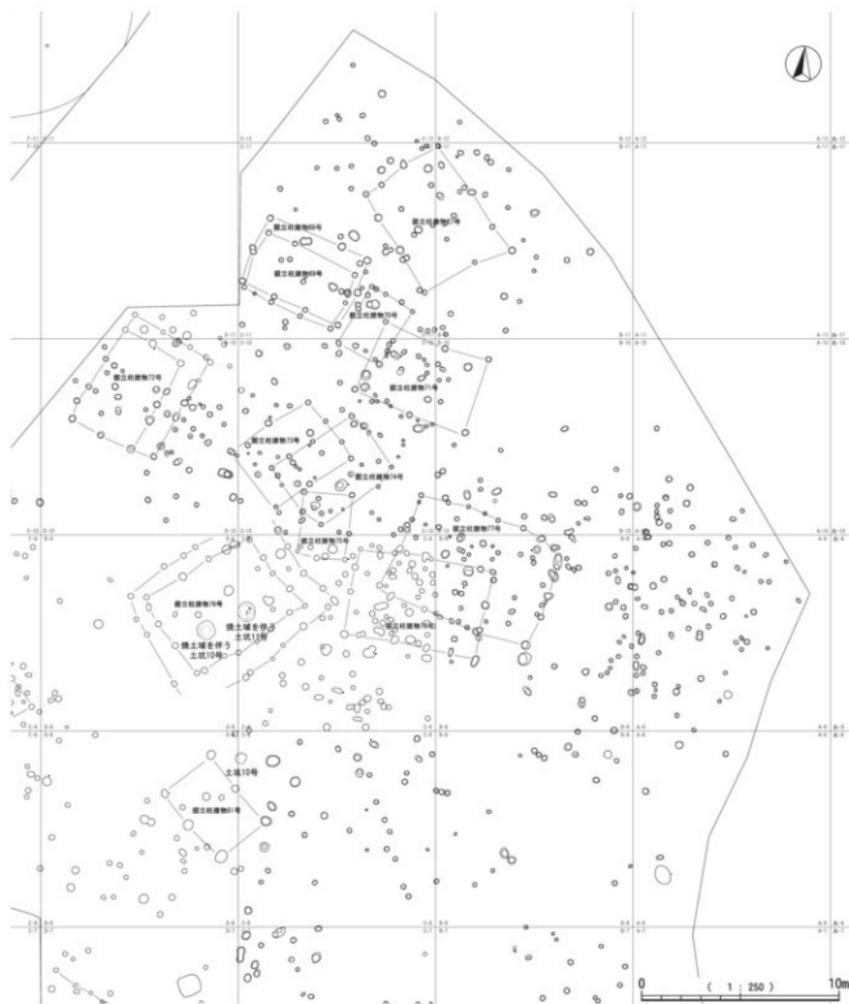
探区 No	品 No	出土区	遺構名	中継1	器種	中継L2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
								口径	胴径	底径	器高						
104	33	H-10	±06号	津石遺入土器	鉢		口縁部							灰青褐色	灰青褐色	良好	探付遺
	34	H-10	±06号	津石遺入土器			裏面							にじみ褐色	灰色	良好	



第105図 C地区土坑等実測図(2)



第106图 D地区遗构配置图



第107図 D地区詳細遺構配置図(1)

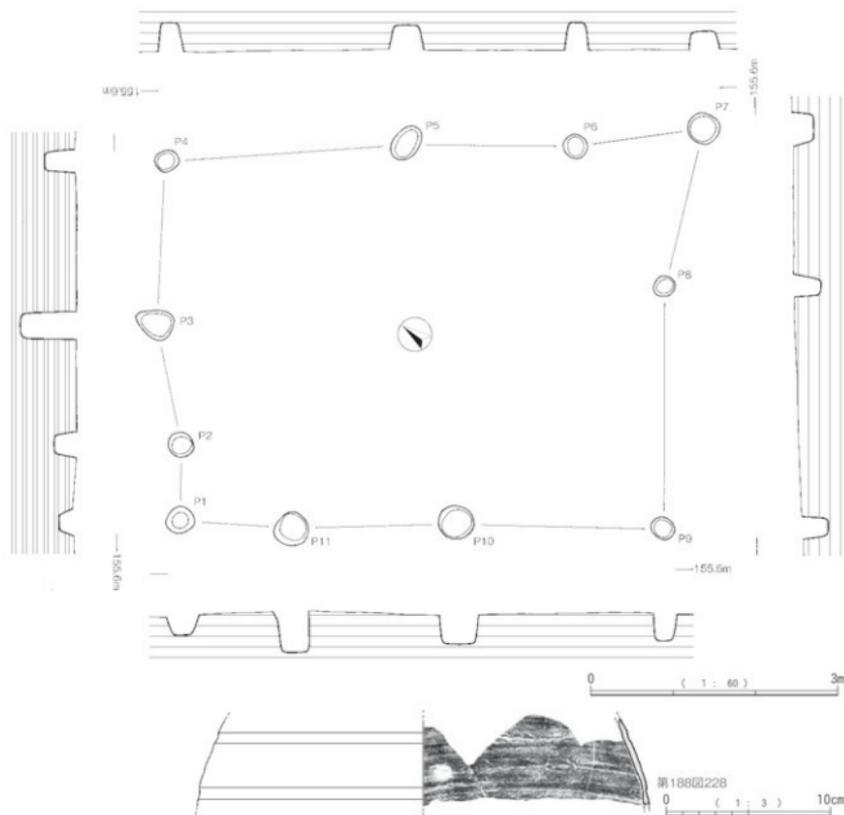
8 D地区(1)

この区域には建物跡を12棟、土坑を2基検出した。柱穴が密集する区域である。一部畑の造成により削平を受けている場所がある。

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡67号(第108図、第80表)

B・C-11区で検出。3×2間の建物跡になると考えられるが柱穴間隔・柱穴数ともばらつきがあり、平面プランもややいびつである。P5から朝鮮系無釉陶器が出土している。



第108図 掘立柱建物跡67号

掘立柱建物跡68号（第109図，第81表）

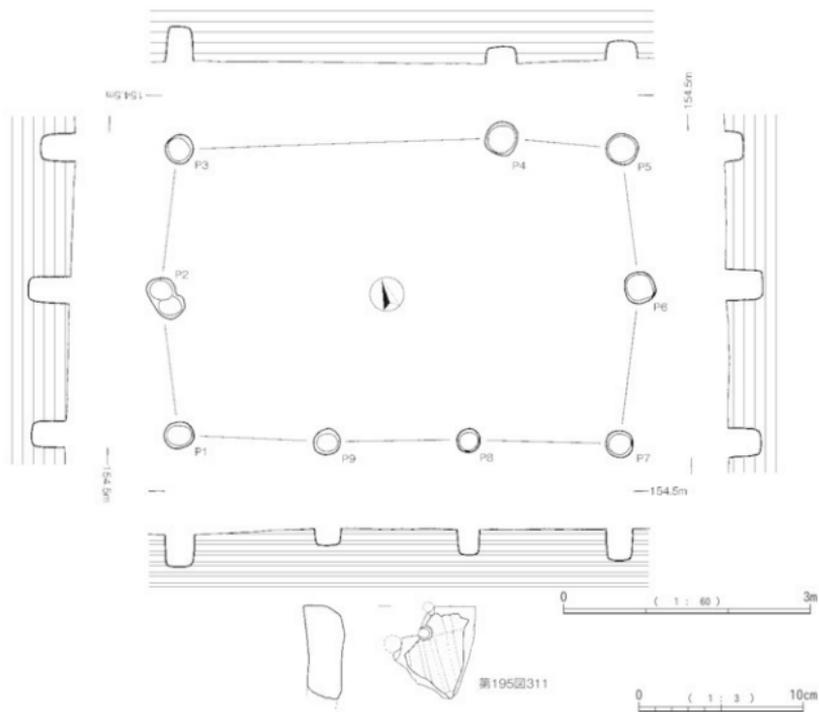
C-11区で検出。3×2間の建物跡である。梁行方向の中柱が外面向かって張り出している。掘立柱建物跡69号と重複している。P2の状況から、本建物跡が掘立柱建物跡69号を切っている。P4から滑石製石鍋が出土している。

掘立柱建物跡69号（第110図，第82表）

C-11区で検出。3×2間の建物跡である。北側桁行で1間少なくなっている。こちらも掘立柱建物跡68号と同様に梁行方向の中柱が外面向かって張り出している。掘立柱建物跡68号に切られている。

第80表 掘立柱建物跡67号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	443cm	平均	148cm	P04 - P07	656cm	平均	219cm	方向N37° W	P1：滑石製石鍋 (3)、粘土塊 (1)、
P07 - P09	496cm	平均	248cm	P01 - P09	586cm	平均	195cm	歩道幅28～47cm	P2：粘土塊 (1)、石版 (1)
P04 - P03	200cm	P07 - P08	199cm	P04 - P05	293cm	P01 - P11	137cm	歩深8:18～70cm	P5：網罟糸敷陶磁器 (5)、滑石製石鍋 (1)、
P03 - P02	150cm	P08 - P09	297cm	P05 - P06	205cm	P11 - P10	198cm	面積27.9㎡	粘土塊 (1)、軽石 (1)、
P02 - P01	93cm			P06 - P07	158cm	P10 - P09	251cm		P11：土師器 (4)、滑石製石鍋 (1)、
									粘土塊 (2)
									[発掘遺物]
									P5：第188図228



第109図 掘立柱建物跡68号

掘立柱建物跡70号 (第111図, 第83表)

C・10・11区で検出。2×2間もしくは2×1間の小型建物跡であると考えられる。平面プランは長方形である。

掘立柱建物跡72号 (第113図, 第85表)

D・10・11区で検出。4×2間の建物跡に東側と北側に庇がつく建物跡である。P18から土師器が出土する。

掘立柱建物跡71号 (第112図, 第84表)

B・C・10区で検出。2×1間の建物跡である。他の建物跡に比べ、柱穴間隔は広く、柱穴の深さは浅めである。P3から土師器が出土している。

掘立柱建物跡73号 (第114図, 第86表)

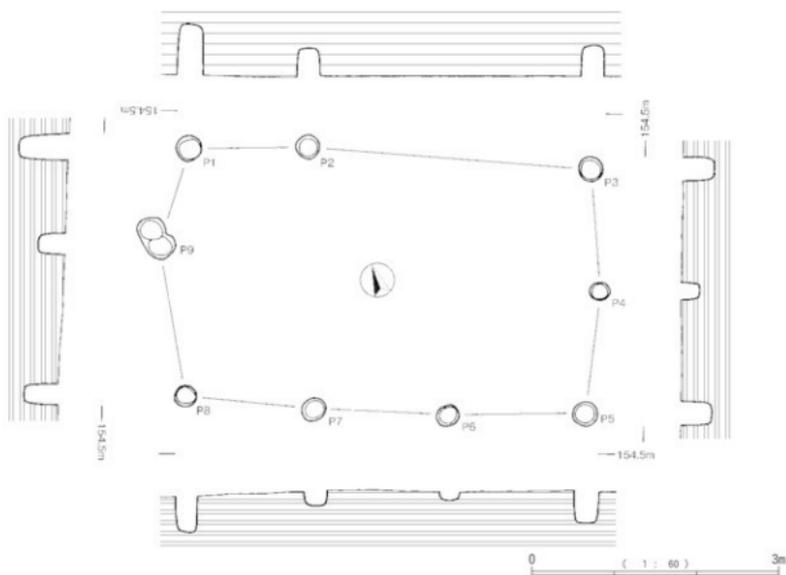
C・10区で検出。2×3間の建物跡であろうと考えられるが、梁行の左右で柱穴数が異なっており、柱数が揃わない。東側で柱穴数が多くなっている。掘立柱建物跡74号と重複している。

第81表 掘立柱建物跡68号計測表

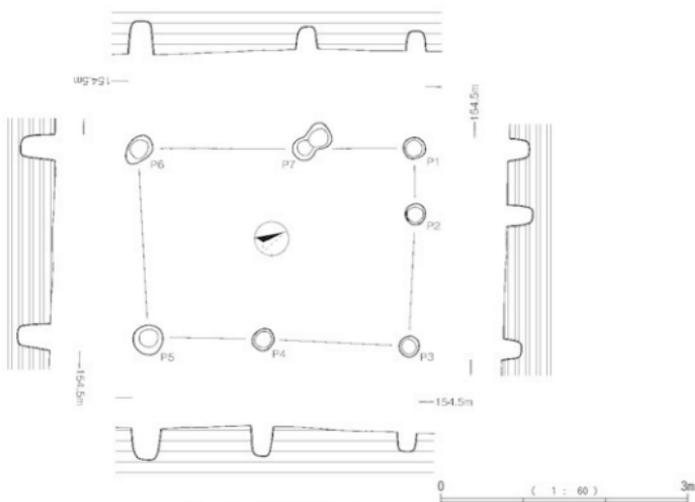
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	36.4m	平均	177cm	P03 - P05	541cm	平均	271cm	方向N71° W	P2 : 土師器 (1), 石鏡 (1),
P05 - P07	36.4m	平均	182cm	P01 - P07	546cm	平均	182cm	伊達径28~41cm	P4 : 滑石製石鏡 (1),
P03 - P02	175cm	P05 - P06	172cm	P03 - P04	393cm	P01 - P09	190cm	伊達径21~50cm	P7 : 土師器 (4), カムイヤキ (1),
P02 - P01	179cm	P06 - P07	192cm	P04 - P05	148cm	P09 - P08	183cm	面積20.5㎡	滑石製石鏡 (1), 粘土埴 (3), 鉄滓 (1)
						P08 - P07	183cm		(逆載遺物)
									P4 : 第195図311

第82表 掘立柱建物跡69号計測表

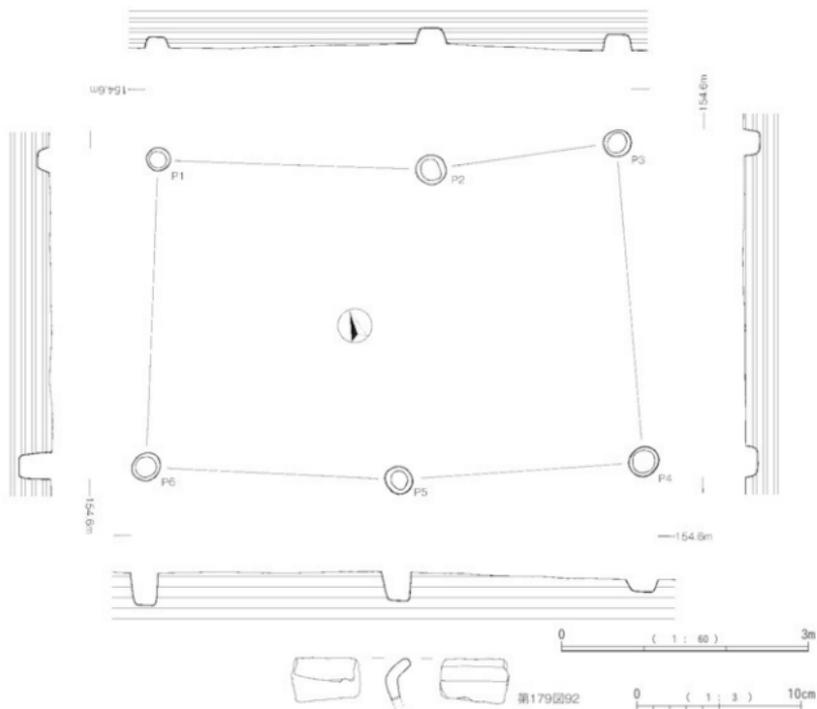
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P08	311cm	平均	156cm	P01 - P03	489cm	平均	245cm	方向N70° W	P1 : 土師器 (1), 滑石製石鏡 (1),
P03 - P05	301cm	平均	151cm	P08 - P05	499cm	平均	169cm	伊達径25~38cm	P2 : 土師器 (2), P5 - 土師器 (2)
P01 - P09	123cm	P03 - P04	156cm	P01 - P02	144cm	P08 - P07	168cm	伊達径10~63cm	
P09 - P08	186cm	P04 - P05	151cm	P02 - P03	345cm	P07 - P06	164cm	面積15.9㎡	
						P06 - P05	167cm		



第110图 掘立柱建物跡69号



第111图 掘立柱建物跡70号



第112圖 獨立柱建物跡71号

第83表 獨立柱建物跡70号計測表

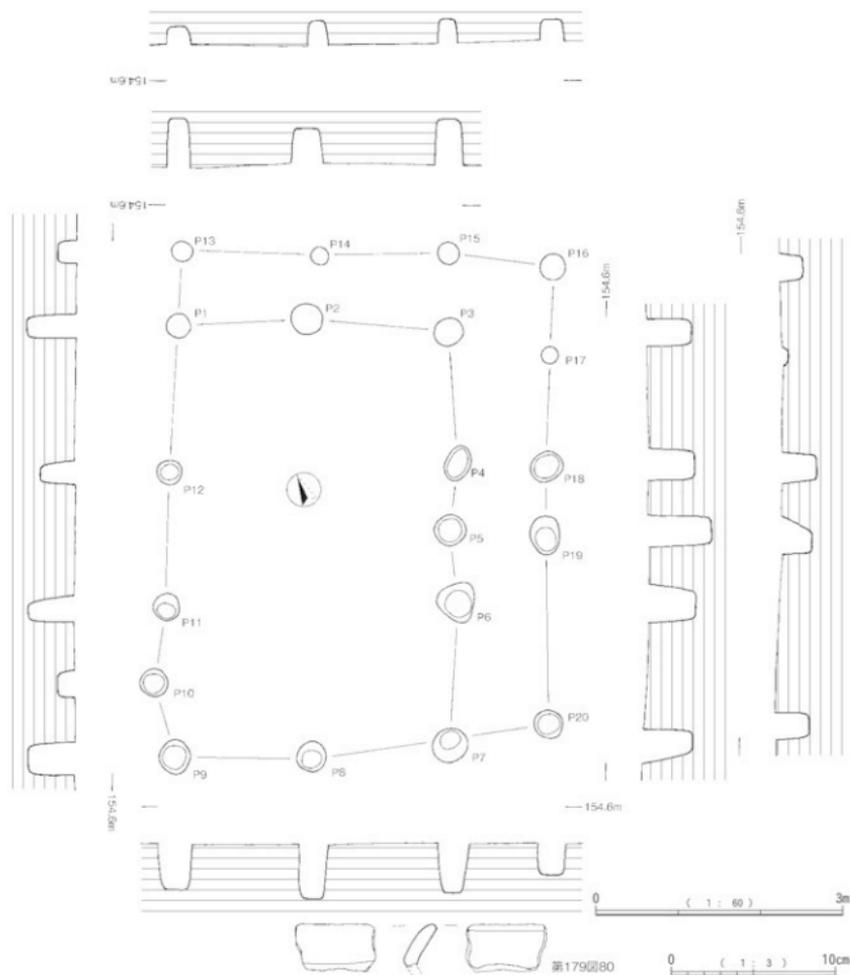
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P06 - P05	232cm	平均	232cm	P06 - P01	336cm	平均	168cm	方向N27° E	P1 : 土器 (1), 滑石製石鏡 (2),
P01 - P03	245cm	平均	123cm	P05 - P03	307cm	平均	154cm	伊直径: 24~36cm	P2 : 粘土土 (3)
P06 - P05	232cm	P01 - P02	83cm	P06 - P07	202cm	P05 - P04	130cm	伊深: 8.24~41cm	
		P02 - P03	162cm	P07 - P01	134cm	P04 - P03	177cm	蓋径: 7.7m	

第84表 獨立柱建物跡71号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P06	378cm	平均	378cm	P01 - P03	560cm	平均	280cm	方向N27° W	P3 : 土器 (4), P5 : 土器 (1)
P03 - P04	394cm	平均	394cm	P06 - P04	607cm	平均	304cm	伊直径: 30~38cm	[埋藏遺物]
P01 - P06	378cm	P03 - P04	394cm	P01 - P02	331cm	P06 - P05	309cm	伊深: 4.13~38cm	P3 : 第1790292
				P02 - P03	229cm	P05 - P04	298cm	蓋径: 22.2m	

第85表 獨立柱建物跡72号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P09 - P07	326cm	平均	163cm	P09 - P01	535cm	平均	134cm	方向N27° E	P1 : 土器 (10), 粘土土 (9), 石器 (2),
P01 - P03	331cm	平均	166cm	P07 - P03	450cm	平均	113cm	伊直径: 20~47cm	P2 : 土器 (3),
P07 - P20	122cm	平均	122cm	P01 - P13	92cm	平均	92cm	伊深: 8.8~78cm	P4 : 土器 (7), 粘土土 (2), 石器 (1),
P13 - P16	455cm	平均	152cm	P20 - P16	559cm	平均	140cm	蓋径: 18.4+9.4m	P6 : 土器 (8), P12 : 石器 (3),
P09 - P08	155cm	P01 - P02	158cm	P09 - P10	94cm	P07 - P06	165cm		P18 : 土器 (5), 粘土土 (3),
P08 - P07	171cm	P02 - P03	173cm	P10 - P11	89cm	P08 - P05	92cm		P19 : 土器 (1), P20 : 土器 (4)
				P11 - P12	170cm	P05 - P04	80cm		[埋藏遺物]
				P12 - P01	182cm	P04 - P03	113cm		P18 : 第1790290
P07 - P20	122cm	P13 - P14	169cm	P01 - P13	92cm	P20 - P19	225cm		
		P14 - P15	157cm			P19 - P18	90cm		
		P15 - P16	129cm			P18 - P17	136cm		
						P17 - P16	108cm		



第113図 掘立柱建物跡72号

掘立柱建物跡74号 (第115図, 第87表)

C・10区で検出。3×3間の建物跡と考えられる。柱穴間隔にややばらつきが見られる。掘立柱建物跡73・75号と重複している。

掘立柱建物跡75号 (第116図, 第88表)

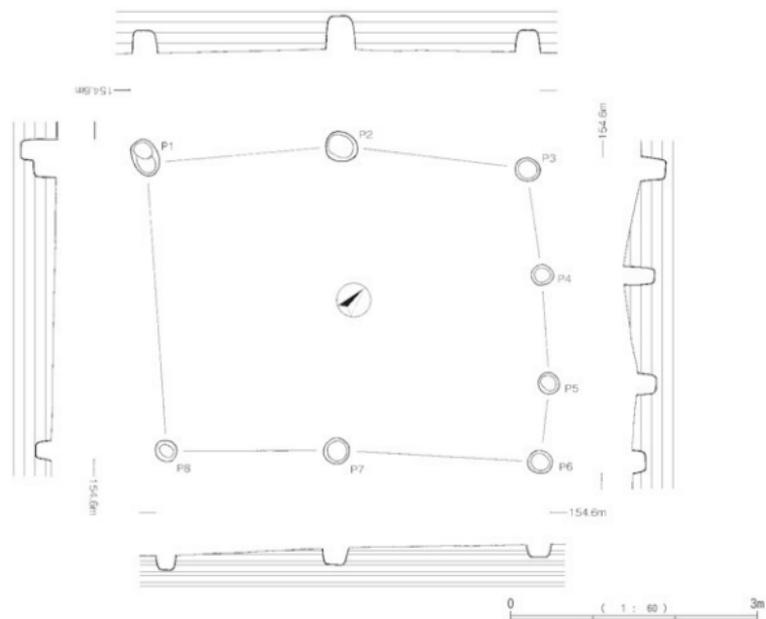
C・9・10区で検出。床面積が8.2㎡と狭く、小型の建物跡である。掘立柱建物跡70号と類似している。

掘立柱建物跡76号 (第117・118図, 第89表)

C・D・9区で検出。5×4間の建物跡に庇がつく建物跡であると考えられる。また、ややゆがんでおり、柱穴間隔にもばらつきが見られる。P16から滑石製品が出土している。

掘立柱建物跡77号 (第119図, 第90表)

B・C・9・10区で検出。6×3間の建物跡である。やや柱穴間隔にばらつきがある。P4から滑石製品が出土している。



第114図 掘立柱建物跡73号

掘立柱建物跡78号 (第120図, 第91表)

B・C・9区で検出。5×3間の建物跡であると考えられる。北側の柱間間隔にはばらつきが見られる。P8から土師器が出土している。

(2) 土坑

焼土域を伴う土坑10号 (第121図)

D・9区で検出。他の焼土を伴う土坑とはやや異なる堆積状況である。また、赤化粘土が集中する範囲も見られ、その中の一部には鉄滓の細片が混入していた。堆積はレンズ状であり、自然堆積と考えられる。

H246は円盤状土製品である。推定径5.6cmを測る。内面は凹んでいる。

第86表 掘立柱建物跡73号計測表

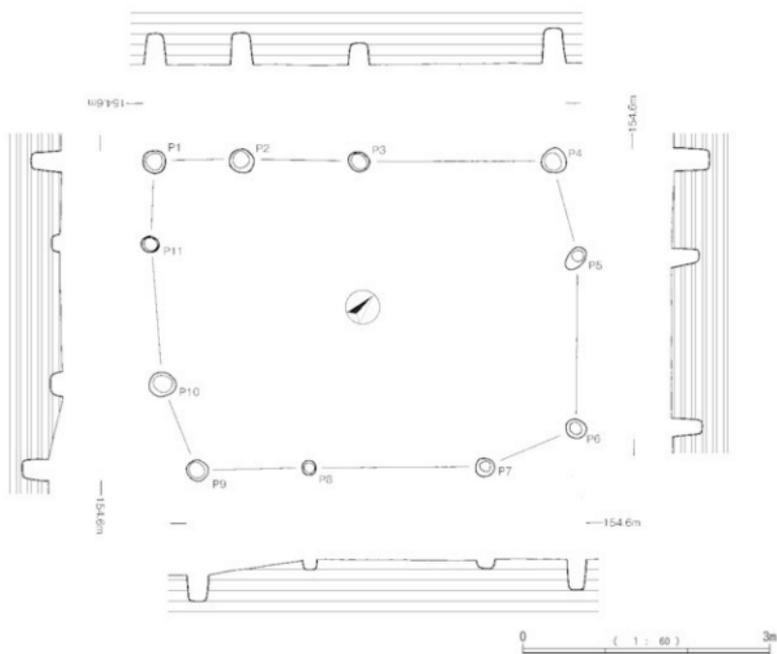
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P08	354cm	平均	354cm	P01 - P03	464cm	平均	232cm	方向N49° E	P5: 土師器 (1), P6: 土師器 (1), P7: 石器 (3)
P03 - P06	363cm	平均	121cm	P08 - P06	456cm	平均	228cm	歩道幅: 25~40cm	
P01 - P08	354cm			P01 - P02	235cm		208cm	歩道幅: 15~44cm	
		P03 - P04	131cm	P02 - P03	229cm		248cm	面積: 17.2㎡	
		P04 - P05	133cm						
		P05 - P06	99cm						

第87表 掘立柱建物跡74号計測表

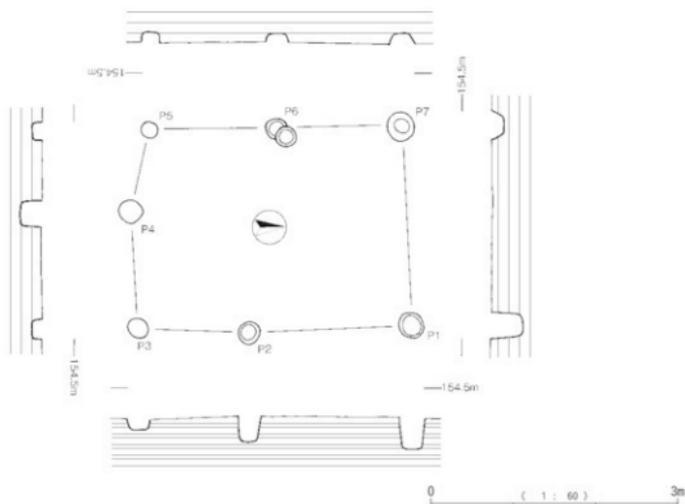
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P09	390cm	平均	130cm	P01 - P04	484cm	平均	161cm	方向N41° E	P1: 赤目瓦焼土器 (1), 粘土塊 (3), P2: 土師器 (6), 粘土塊 (4), P4: 土師器 (10), P5: 粘土塊 (4), P9: 土師器 (1), 粘土塊 (3)
P04 - P06	332cm	平均	166cm	P09 - P06	470cm	平均	157cm	歩道幅: 18~33cm	
P01 - P11	103cm	P04 - P05	120cm	P01 - P02	105cm	P09 - P08	137cm	歩道幅: 12~45cm	
P11 - P10	172cm	P05 - P06	212cm	P02 - P03	143cm	P08 - P07	214cm	面積: 18.7㎡	
P10 - P09	115cm			P03 - P04	236cm	P07 - P06	119cm		

第88表 掘立柱建物跡75号計測表

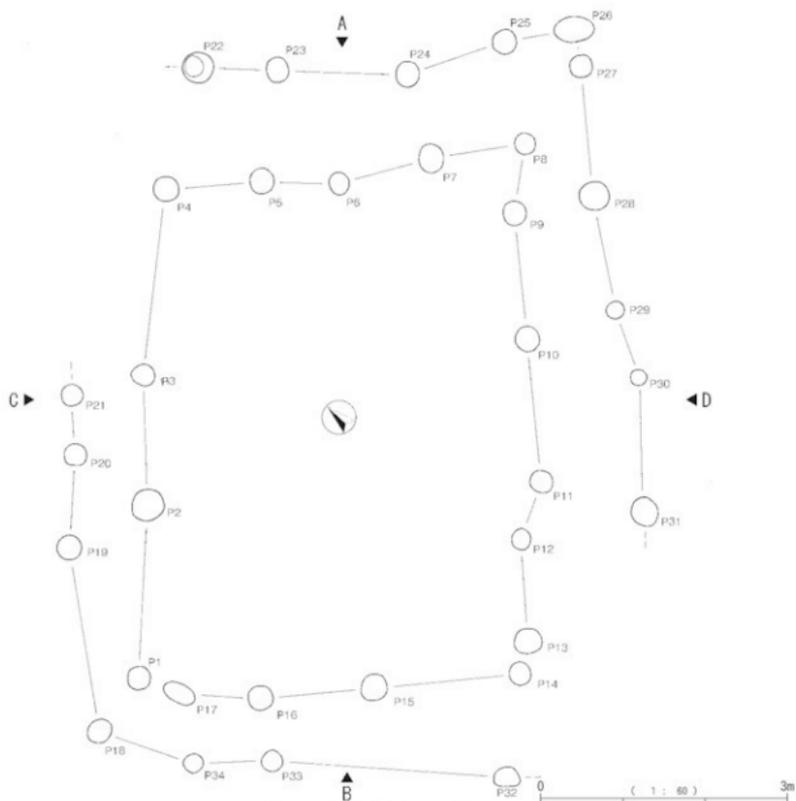
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P03	249cm	平均	124cm	P05 - P07	303cm	平均	154cm	方向N11° E	P1: 土師器 (2), 粘土塊 (3), 軽石 (1), P4: 土師器 (1)
P07 - P01	246cm	平均	246cm	P03 - P01	334cm	平均	167cm	歩道幅: 20~36cm	
P05 - P04	103cm	P07 - P01	246cm	P05 - P06	155cm	P03 - P02	135cm	歩道幅: 10~38cm	
P04 - P03	145cm			P06 - P07	153cm	P02 - P01	199cm	面積: 8.2㎡	



第115图 掘立柱建物跡74号



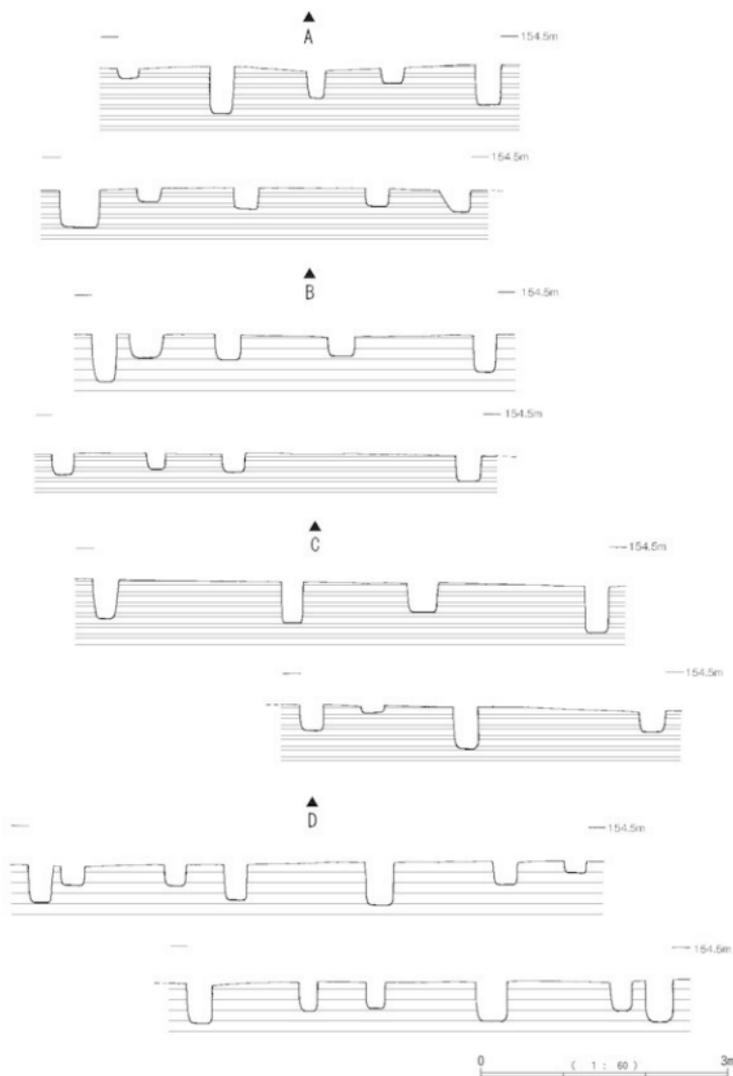
第116图 掘立柱建物跡75号



第117圖 樞立柱建物跡76号 (1)

第89表 樞立柱建物跡76号計測表

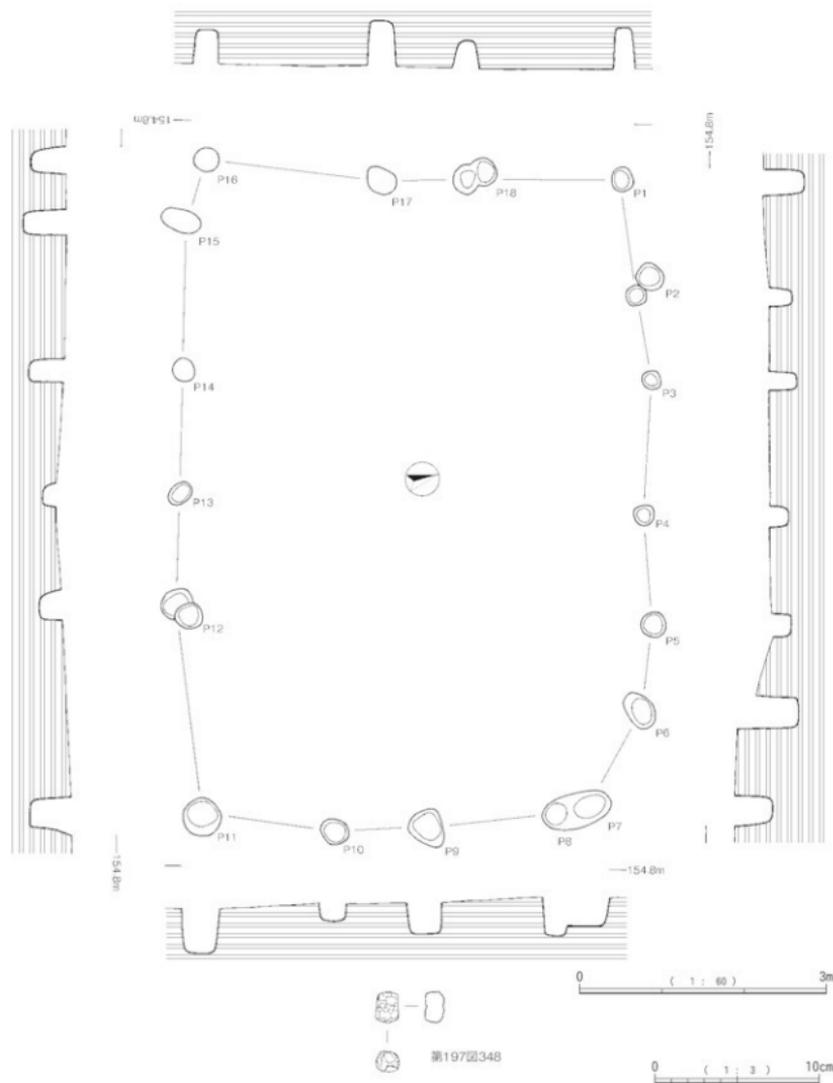
室行1	寸法	室行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P14	472cm	平均	118cm	P01 - P04	592cm	平均	197cm	方向N49° E	P1 : 伊壁? (1),
P04 - P08	443cm	平均	111cm	P14 - P08	657cm	平均	110cm	P直徑24~49cm	P3 : 土跡器 (2), 鏡淨 (1), 軽石 (1),
P18 - P32	504cm	平均	168cm	P18 - P21	416cm	平均	139cm	水深8.9~56cm	P4 : 土跡器 (3), 渚石製石鏡 (1),
P22 - P26	471cm	平均	119cm	P31 - P26	577cm	平均	115cm	面積28.9+27.2m <sup>2</sup>	鏡の口 (1), 石器 (1),
P01 - P17	53cm	P04 - P05	118cm	P01 - P02	213cm	P14 - P13	41cm		土跡器 (3), 鏡淨 (1), 石器 (2),
P17 - P16	99cm	P05 - P06	95cm	P02 - P03	150cm	P13 - P12	126cm		P7 : 土跡器 (2), 朝鮮系無軸陶器 (1),
P16 - P15	141cm	P06 - P07	115cm	P03 - P04	229cm	P12 - P11	73cm		渚石製石鏡 (1), 粘土塊 (2),
P15 - P14	179cm	P07 - P08	115cm			P11 - P10	176cm		土跡器 (3),
						P10 - P09	155cm		P10 : 土跡器 (1), 布目瓦土器 (2),
						P09 - P08	86cm		土跡器 (2), 布目瓦土器 (1),
									P11 : 渚石製石鏡 (1), 粘土塊 (4), 石器 (1),
									P12 : 土跡器 (2), 渚石製石鏡 (1),
									渚石製二次加工品 (1), 粘土塊 (1),
									P13 : 土跡器 (1), 粘土塊 (1), 軽石 (1),
									P14 : 土跡器 (4), 粘土塊 (1),
									P15 : 土跡器 (3), 粘土塊 (1),
									P16 : 土跡器 (2), 渚石製二次加工品 (1),
									P17 : 石器 (1), P18 : 黄銅 (11C-12C)(1),
									P23 : 土跡器 (3),
									P25 : 土跡器 (3), 須布器 (1),
									布目瓦土器 (2), 朝鮮系無軸陶器 (1),
									渚石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1),
									P26 : 土跡器 (12), 布目瓦土器 (1),
									軽石 (1), 石器 (1),
									P27 : 土跡器 (6), P28 : 布目瓦土器 (2),
									P29 : 土跡器 (1), 布目瓦土器 (2),
									P31 : 粘土塊 (1), P34 : 土跡器 (2)
									[採集遺物]
									P8 : 第206室450 (石器), P16 : 第197室350



第19702350

0 ( 1 : 3 ) 10cm

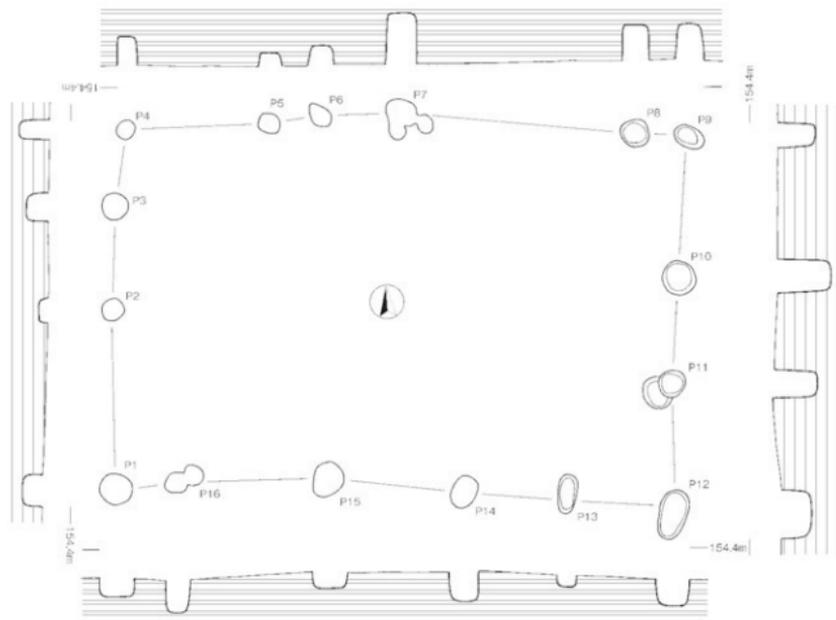
第118图 掘立柱建物跡76号 (2)



第119図 掘立柱建物跡77号

焼土域を伴う土坑11図 (第121図)

C-9区で検出。床面全体も赤色化しており、被熱している。  
最下層には炭化物層を確認している。



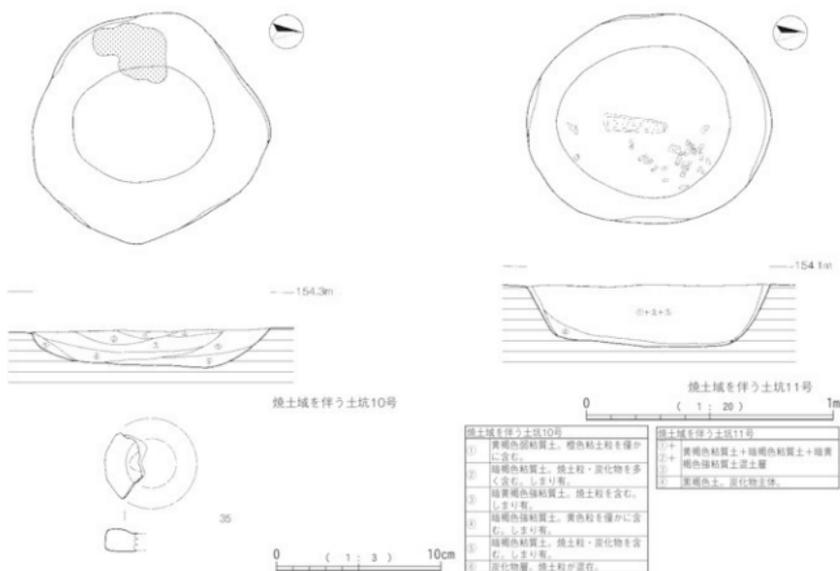
第90表 掘立柱建物跡77号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	柵行1	寸法	柵行2	寸法	備考	遺物
P01 - P16	506cm	平均	169cm	P01 - P07	790cm	平均	132cm	方向N73° W	P1: 土師器 (1), 硯石 (1), P5: 土師器 (1),
P07 - P11	476cm	平均	119cm	P16 - P11	804cm	平均	161cm	P深#24~50cm	P6: 土師器 (7), 粘土塊 (1), 硯石 (1), P10: 滑車器 (1), 滑石製石鏡 (1),
P01 - P18	187cm	P07 - P08	40cm	P01 - P02	143cm	P16 - P15	81cm	P深#8~16~76cm	粘土塊 (1), P11: 土師器 (2), 滑石製石鏡 (1),
P18 - P17	105cm	P08 - P09	159cm	P02 - P03	105cm	P15 - P14	180cm		粘土塊 (4), 石器 (2),
P17 - P16	214cm	P09 - P10	113cm	P03 - P04	167cm	P14 - P13	151cm		P14: 土師器 (1), 滑石製石鏡 (3), 滑石製二次加工品 (2), 石器 (1),
		P10 - P11	164cm	P04 - P05	135cm	P13 - P12	135cm		P17: 土師器 (1), 有目瓦土師 (1), 石器 (1),
				P05 - P06	105cm	P12 - P11	257cm		P18: 土師器 (20), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (6), 石器 (1)
				P06 - P07	135cm				[埋藏遺物] P14: 第197図34B

第120図 掘立柱建物跡78号

第91表 掘立柱建物跡78号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	柵行1	寸法	柵行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	444cm	平均	149cm	P04 - P09	663cm	平均	137cm	方向N65° W	P1: 土師器 (3),
P09 - P12	499cm	平均	153cm	P01 - P12	663cm	平均	137cm	伊深#25~64cm	P3: 土師器 (4), 有目瓦土師 (4), 滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (2),
P04 - P03	97cm	P09 - P10	176cm	P04 - P05	173cm	P01 - P16	77cm	P深#12~64cm	P6: 土師器 (1),
P03 - P02	126cm	P10 - P11	132cm	P05 - P06	63cm	P16 - P15	184cm		P7: 土師器 (10), 有目瓦土師 (2), 硯石 (2), 石器 (1),
P02 - P01	221cm	P11 - P12	151cm	P06 - P07	100cm	P15 - P14	165cm		P8: 土師器 (10), P9: 土師器 (3), 鉄滓 (1), P10: 土師器 (2), 滑石製石鏡 (1),
				P07 - P08	285cm	P14 - P13	125cm		黄銅(130~16C) (1)
				P08 - P09	62cm	P13 - P12	132cm		P11: 土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), P13: 土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), P16: 土師器 (4), 中層白磁 (1)
									[埋藏遺物] P3: 第185図153, 第185図157, 第185図159, 第197図353, P16: 第186図171



焼土域を伴う土坑10号

焼土域を伴う土坑11号

( 1 : 20 ) 1m

0 ( 1 : 3 ) 10cm

焼土域を伴う土坑10号

- 黄褐色粘結質土、褐色粘土粒を僅かに含む。
- 暗褐色粘質土、焼土粒・炭化物を多く含む。じまり有。
- 暗黄褐色粘結質土、焼土粒を含む。じまり有。
- 暗褐色粘結質土、黄褐色を僅かに含む。じまり有。
- 暗褐色粘質土、焼土粒・炭化物を含む。じまり有。
- 炭化物層、焼土粒が混在。

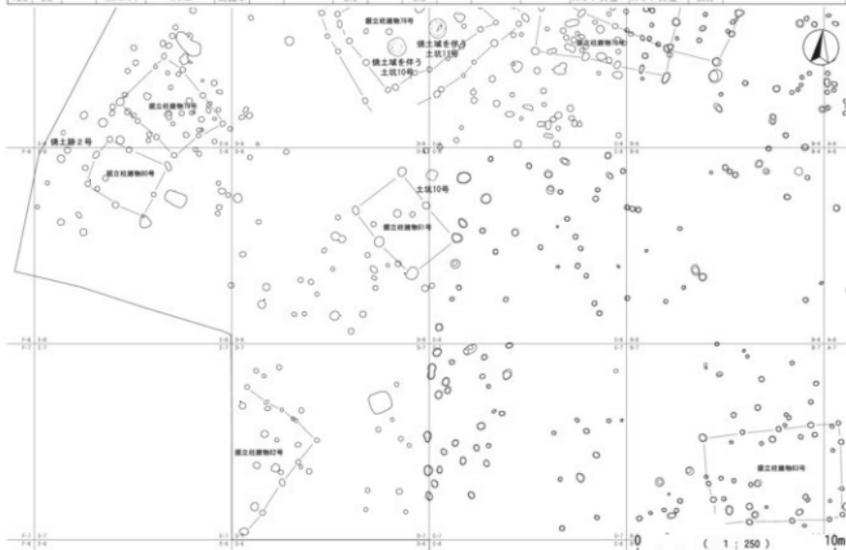
焼土域を伴う土坑11号

- 黄褐色粘質土 + 暗褐色粘質土 + 暗黄褐色粘結質土混土層
- 黄褐色土、炭化物主体。

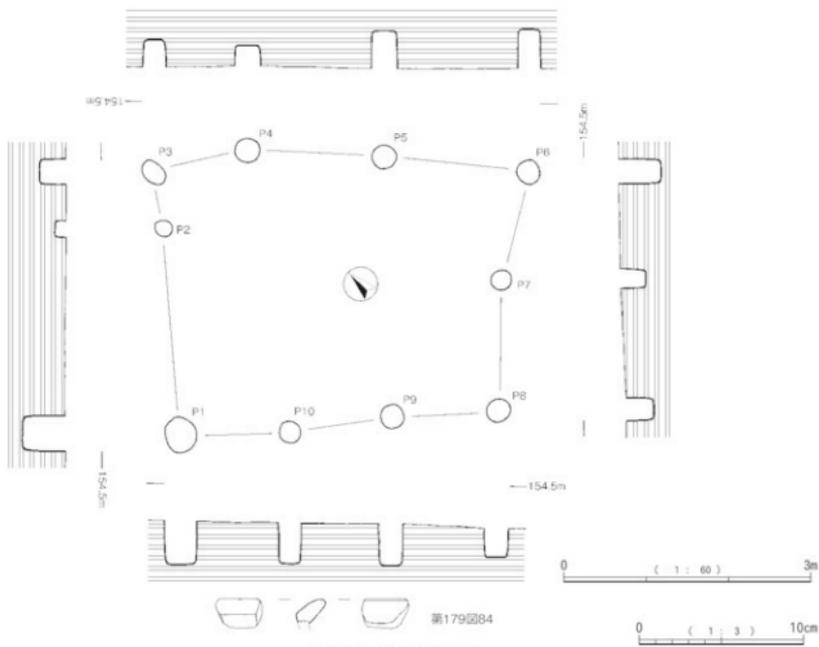
第121図 D地区土坑等実測図(1)

第92表 D地区土坑出土遺物観察表(1)

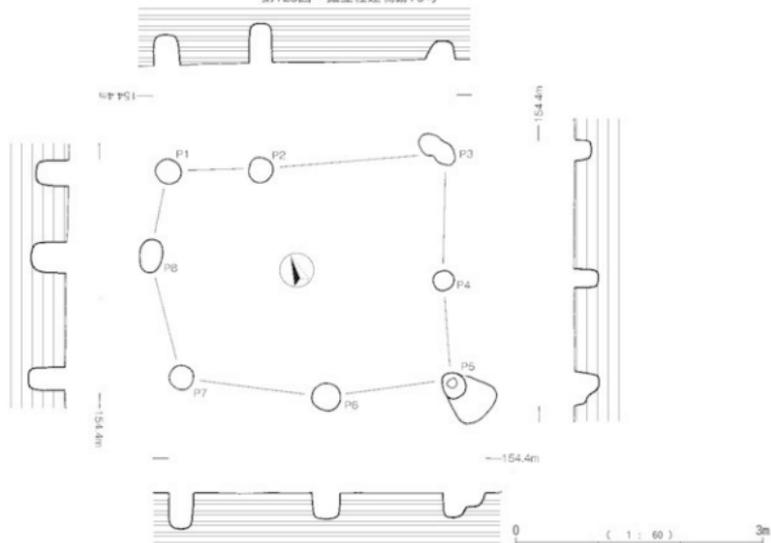
検出 No	出土地 No	遺構名	分図1	部種	分類2	部位	計測値 (cm)			調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							径	孔径	高さ						
120	35	焼土域10号	土製品	筋線痕			5.6		0.9			こぶい痕	良好		



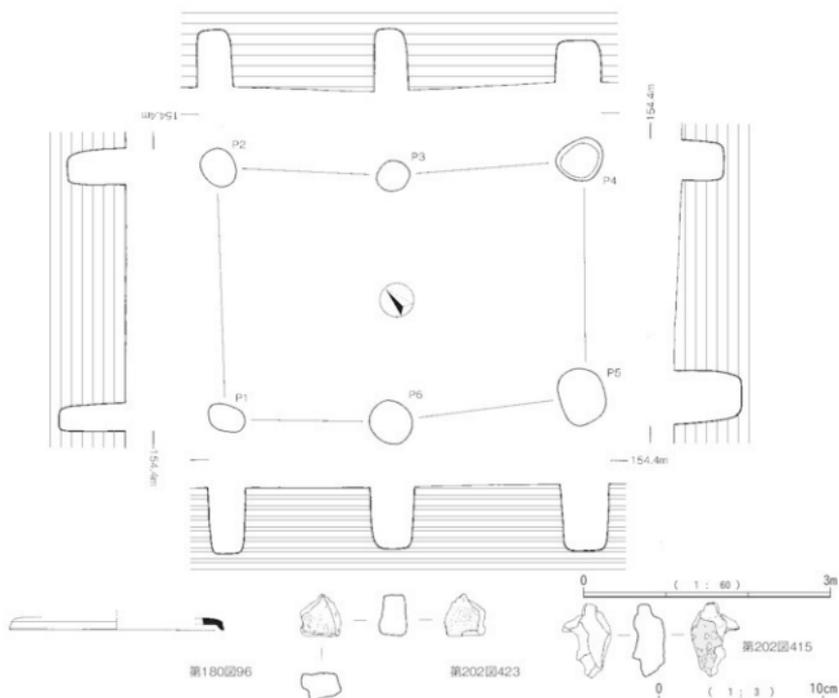
第122図 D地区詳細遺構配置図(2)



第123回 掘立柱建物跡79号



第124回 掘立柱建物跡80号



第125図 掘立柱建物跡81号

第93表 掘立柱建物跡79号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	323cm	平均	162cm	P03 - P06	461cm	平均	154cm	方向N46° W	P8: 土師器 (4),
P06 - P08	298cm	平均	149cm	P01 - P08	389cm	平均	130cm	穴直径: 22~44cm	P9: 土師器 (9), 粘土塊 (1), 石器 (1)
P03 - P02	70cm	P06 - P07	137cm	P03 - P04	118cm	P01 - P10	134cm	穴径: 14~54cm	(埋藏遺物) P8: 第179図84
P02 - P01	253cm	P07 - P08	161cm	P04 - P05	167cm	P10 - P09	125cm	面積: 13.4㎡	
				P05 - P06	176cm	P09 - P08	130cm		

第94表 掘立柱建物跡80号計測表

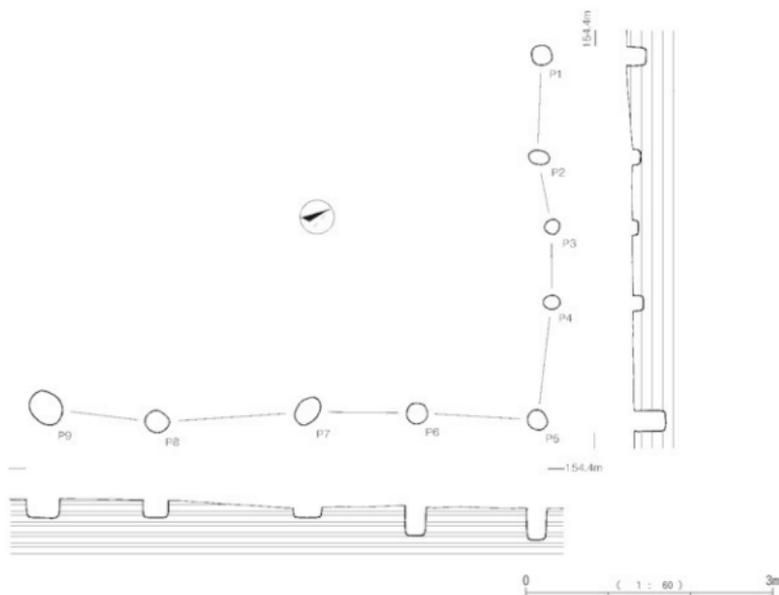
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P07	262cm	平均	131cm	P01 - P03	338cm	平均	169cm	方向N73° W	P3: 粘土塊 (4),
P03 - P05	286cm	平均	143cm	P07 - P05	330cm	平均	165cm	穴直径: 26~50cm	P5: 土師器 (1),
P01 - P08	107cm	P03 - P04	158cm	P01 - P02	111cm	P07 - P06	178cm	穴径: 12~48cm	P8: 土師器 (3)
P06 - P07	155cm	P04 - P05	128cm	P02 - P03	227cm	P06 - P05	152cm	面積: 9.3㎡	

第95表 掘立柱建物跡81号計測表

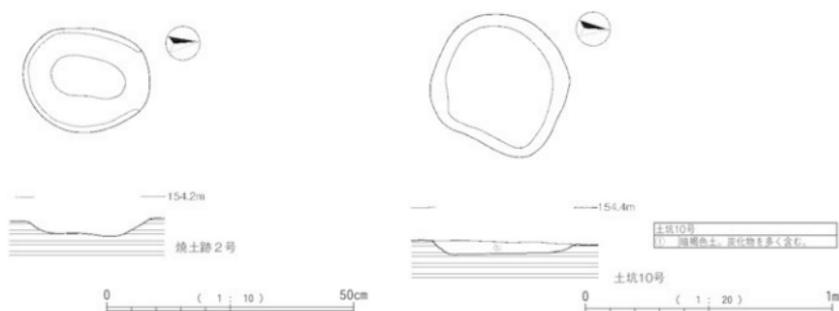
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	309cm	平均	309cm	P02 - P04	443cm	平均	222cm	方向N57° W	P1: 土師器 (3), 市杵臼磁 (1),
P04 - P05	289cm	平均	289cm	P01 - P05	435cm	平均	215cm	穴直径: 42~69cm	粘土塊 (3), 石器 (3)
P02 - P01	309cm	P04 - P05	289cm	P02 - P03	213cm	P01 - P06	200cm	穴径: 152~82cm	P3: 土師器 (9), 滑石製石鏡 (2),
				P03 - P04	230cm	P06 - P05	235cm	面積: 13㎡	粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石器 (1),
									P4: 粘土塊 (3), 鉄滓 (2),
									P6: 土師器 (2), 須磨器 (1), 鉄滓 (2)
									(埋藏遺物)
									P4: 第202図423, P6: 第180図96, 第202図415

第96表 掘立柱建物跡82号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P05	450cm	平均	113cm	P09 - P05	601cm	平均	150cm	方向N34° E	
		P01 - P02	126cm			P09 - P08	137cm	穴直径: 19~44cm	
		P02 - P03	89cm			P08 - P07	184cm	穴径: 7~39cm	
		P03 - P04	91cm			P07 - P06	133cm	面積: —	
		P04 - P05	145cm			P06 - P05	147cm		



第126図 掘立柱建物跡82号



第127図 D地区土坑等実測図(2)

9 D地区(2)

この区域には建物跡を4棟検出した。

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡79号(第123図, 第93表)

E-9区で検出。3×2間の建物跡である。平面プランはややいびつである。梁行の中柱がやや内側に入る。P8から土師器が出土している。

掘立柱建物跡80号(第124図, 第94表)

E-8区で検出。2×2間の小型建物跡である。掘立柱建物跡70・75号などと類似する。

掘立柱建物跡81号(第125図, 第95表)

D-8区で検出。2×1間の建物跡である。P4・P6からは鉄滓が出土している。

### 掘立柱建物跡82号 (第126図, 第96表)

D-7区で検出。一部は調査区外のため、全体のプランは不明である。

### (2) 焼土跡

#### 焼土跡2号 (第127図)

E-9区で検出。25×20cmの楕円形状を呈し、周囲は赤く焼けている。埋土は炭化物粒と赤色粘土小片が混ざった状態であった。鍛冶炉の可能性が考えられる。

### (3) 土坑

#### 土坑10号 (第127図)

C-8区で検出。58×56cmの楕円形状を呈する。炭化物を多量に含んでいたが、土坑壁面などに火を受けた範囲は見られなかった。

### 9 D地区 (3)

この区域では建物跡を6棟、土坑を4基、土坑墓を1基検出している。B-5・6区に土坑が集中して検出されている。B列とC列との境界付近には近世の造成により削平されたと考えられる段差が見られる。

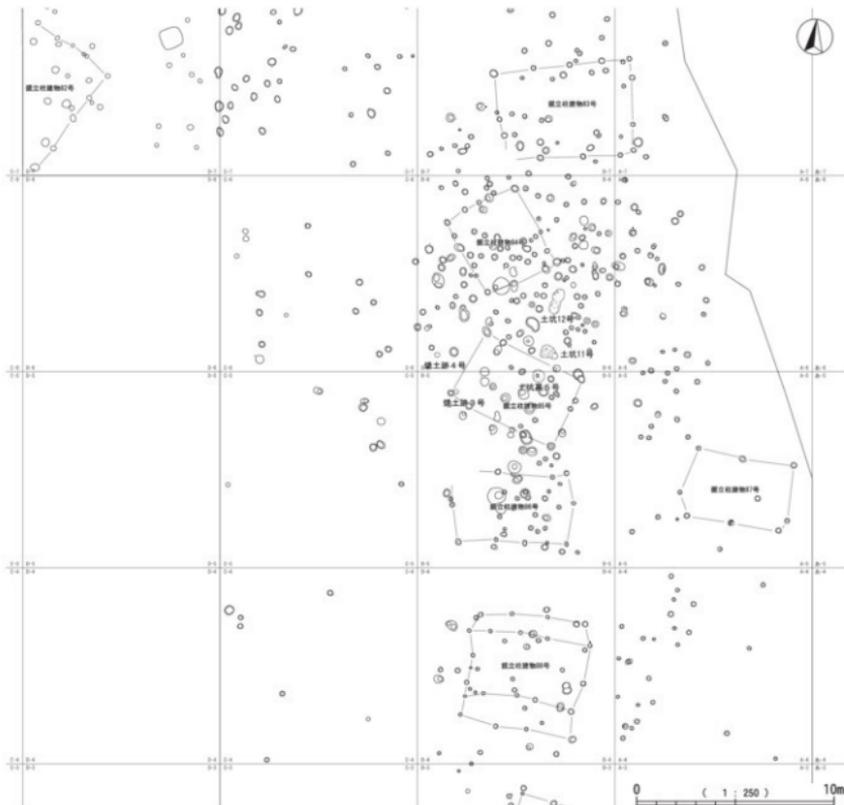
### (1) 掘立柱建物跡

#### 掘立柱建物跡83号 (第129図, 第97表)

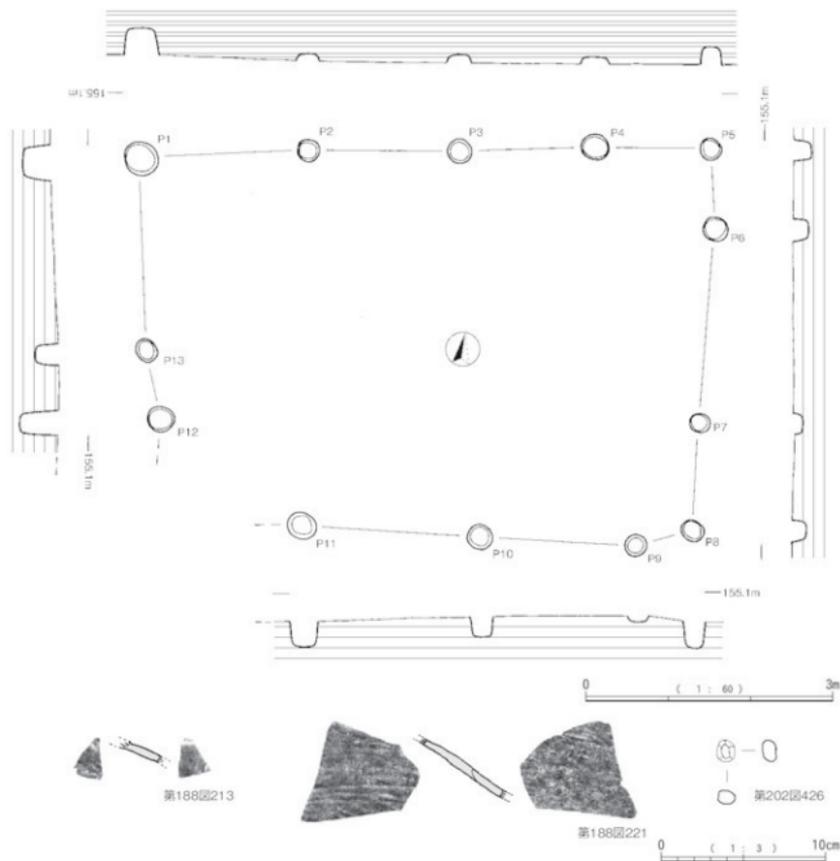
A・B-7区で検出。4×3間の建物跡である。南西隅の柱穴は検出できなかった。P5・P12からは朝鮮系無袖陶器、鉄滓などが出土している。

#### 掘立柱建物跡84号 (第130図, 第98表)

B-6区で検出。平面プランはややいびつでゆがんだ方形形状の建物跡である。柱穴間隔・深さにばらつきが見られる。



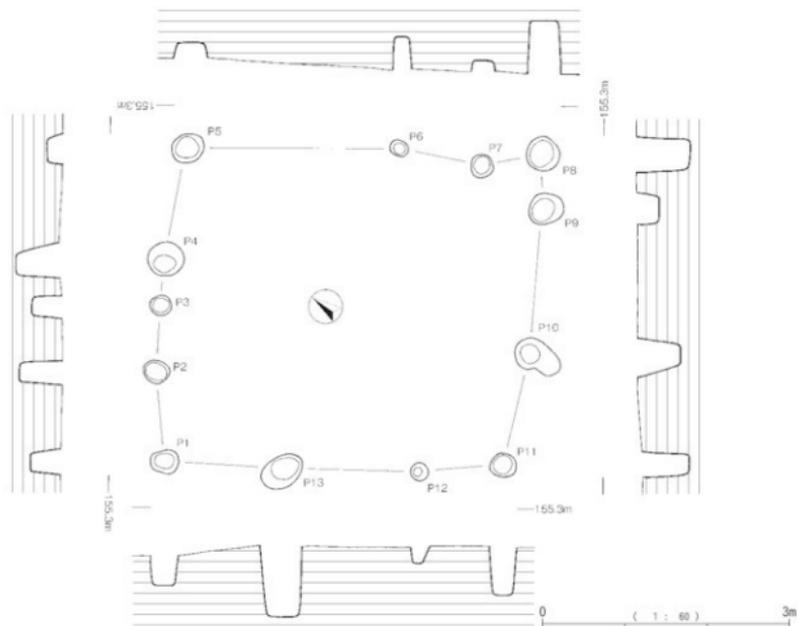
第129図 山田半田遺跡D地区詳細遺構配置図(3)



第129図 掘立柱建物跡83号

第97表 掘立柱建物跡83号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P12	325cm	平均	163cm	P01 - P05	695cm	平均	174cm	方向N79° E P直径25~44cm P深8.9~47cm 面積31.4㎡	P1 : 滑石製石鏡 (1), 石器 (2), P5 : 土鈴器 (1), 朝鮮系無軸陶器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (5),
P05 - P08	371cm	平均	124cm	P11 - P08	476cm	平均	159cm		P6 : 鑄の羽口 (2), 粘土塊 (1), P10 : 粘土塊 (3), 鉄滓 (4), 軽石 (1), 石器 (1), P11 : 鑄の羽口 (1), P12 : 朝鮮系無軸陶器 (1), 滑石製石鏡 (3), 粘土塊 (5), 鉄滓 (1)
P01 - P13	238cm	P05 - P06	99cm	P01 - P02	205cm	P11 - P10	216cm	[埋藏遺物] P5 : 第188図213, 第202図426, P12 : 第188図221	
P13 - P12	87cm	P06 - P07	138cm	P02 - P03	185cm	P10 - P09	189cm		
		P07 - P08	134cm	P03 - P04	164cm	P09 - P08	71cm		
				P04 - P05	141cm				



第130図 掘立柱建物跡84号

掘立柱建物跡85号 (第131図, 第99表)

B-5・6区で検出。3×2間の建物跡であると考えられる。P4からは須恵器などが出土している。

掘立柱建物跡86号 (第132図, 第100表)

B-5区で検出。北東隅の柱穴が未検出であるが、4×2間の建物跡であると想定している。柱穴径は20.30cm程の小型で構成されている。P10からはカムイヤキが出土している。

掘立柱建物跡87号 (第133図, 第101表)

A-5区で検出。2×2間の建物跡である。梁行では柱穴間隔にばらつきが見られ、柱穴がやや外側に張り出す。P3から滑石混入土器が出土している。

掘立柱建物跡88号 (第134図, 第102表)

B-4区で検出。南北に1面ずつ庇がつく2面庇の建物跡であると考えられるが、柱穴数・柱穴間隔にばらつきが見られる。平面形態もややゆがんでいる。P21からは須恵器などが出土している。

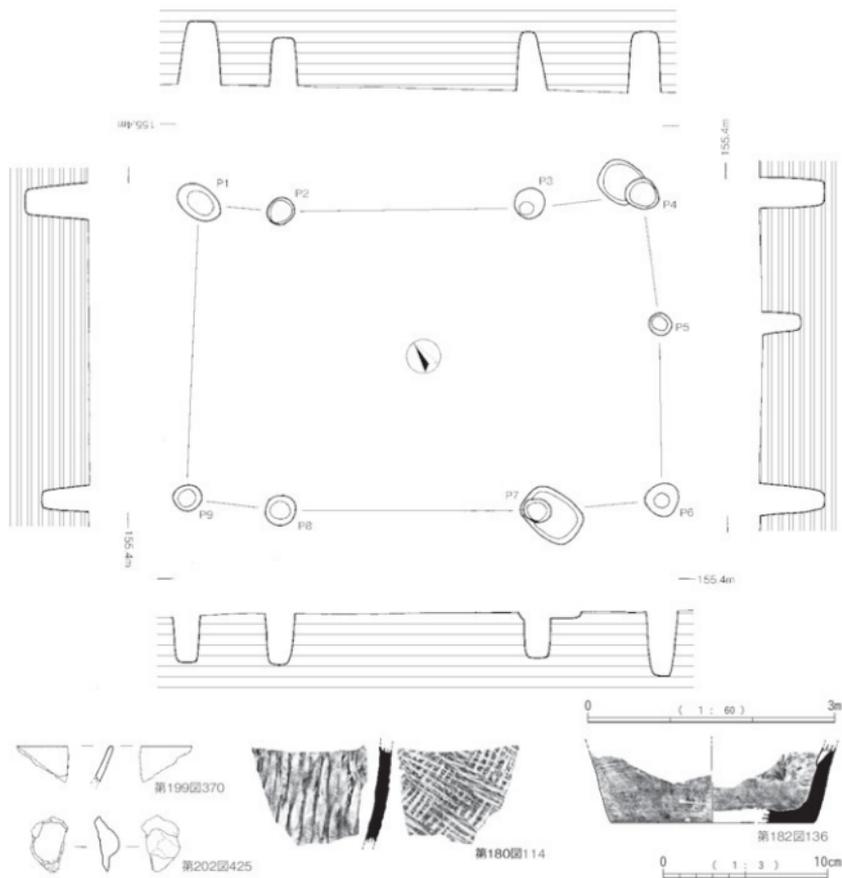
(2) 土坑

土坑11号 (第135図)

B-6区で検出。図上左側は柱穴により崩されている。③層には炭化物層が見られる。土坑内では一部被熱している範囲が見られ、草のな性格の遺構である可能性も考えられる。

第98表 掘立柱建物跡84号計測表

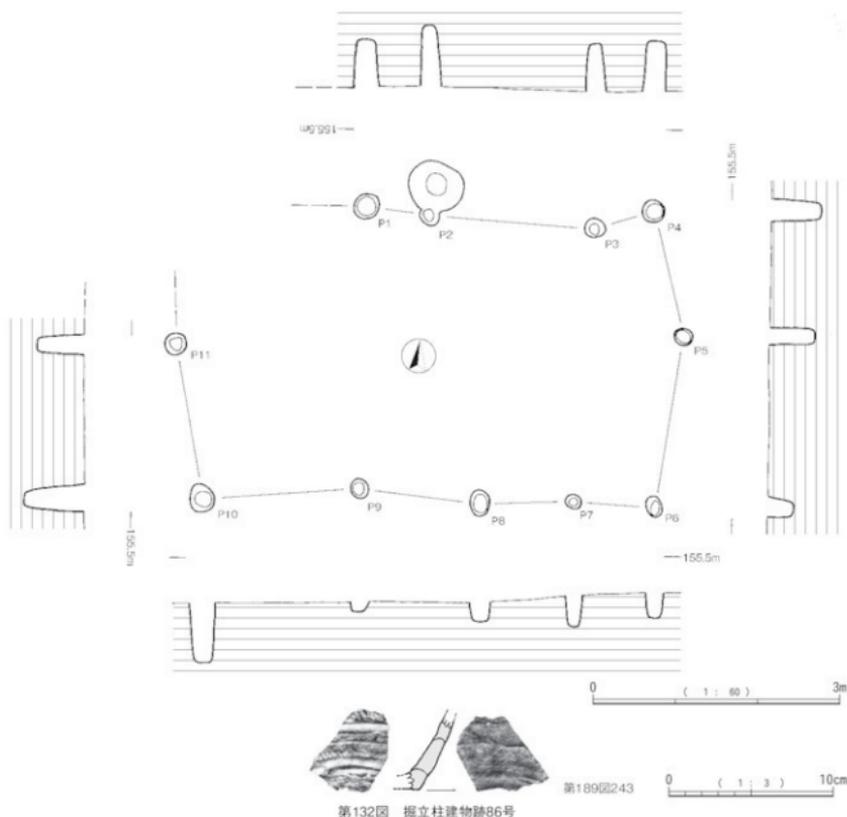
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P01	367cm	平均	97cm	P05 - P08	435cm	平均	145cm	方向N35° W	P1 : 石版 (1),
P08 - P11	367cm	平均	129cm	P01 - P11	413cm	平均	138cm	伊直径23~60cm	P3 : 土師器 (1),
P05 - P04	145cm	P08 - P09	69cm	P05 - P06	259cm	P01 - P13	146cm	伊深さ14~86cm	滑石製石版 (1), 粘土塊 (1), 石版 (1),
P04 - P03	50cm	P09 - P10	178cm	P06 - P07	102cm	P13 - P12	164cm	面積17㎡	P4 : 土師器 (1), 竈の羽口 (1), 粘土塊 (9),
P03 - P02	83cm	P10 - P11	140cm	P07 - P08	74cm	P12 - P11	103cm		石版 (2),
P02 - P01	109cm								P11 : 須恵器 (1), 滑石製石版 (1), 鉄滓 (1)
									P12 : 土師器 (1), 粘土塊 (1), 礫石 (1),
									石版 (7),
									P13 : 粘土塊 (1)



第131図 掘立柱建物跡85号

第99表 掘立柱建物跡85号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P09	362cm	平均	362cm	P01 - P04	542cm	平均	181cm	方向N55° W	P1: 土器類 (2), 須恵器 (1), 黄磁 (11C-12C(1)), 中野白磁 (1), 滑石製石鏡 (3), 鉄製品 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1),
P04 - P06	377cm	平均	169cm	P09 - P06	580cm	平均	193cm	伊達様-29~57cm	P2: 土器類 (5), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石器 (1),
P01 - P09	362cm	P04 - P05	159cm	P01 - P02	100cm	P09 - P08	114cm	伊深&47~79cm	P3: 土器類 (3), 滑石製石鏡 (1), 鎌の刃口 (1), 鉄滓 (2),
		P05 - P06	218cm	P02 - P03	299cm	P08 - P07	312cm		P4: 土器類 (1), 須恵器 (2), 鎌の刃口 (1), 粘土塊 (1),
				P03 - P04	143cm	P07 - P06	154cm		P7: 粘土塊 (1), P8: 伊壁? (1), 石器 (1), P9: 土器類 (3), 滑石製石鏡 (2), 鎌の刃口 (4), 伊壁? (4), 粘土塊 (1), 鉄滓 (19)
									[埋藏遺物] P1: 第199図370, 第202図425, P4: 第182図136, 第180図114



第132図 掘立柱建物跡86号

土坑12号 (第135図)

B-6区で検出。深さ24cmと浅めの土坑である。土坑内からカムイヤキと滑石が出土している。

H255はカムイヤキ鉢である。推定口径17.6cm・底径10.7cmを測る。外器面には平行状タタキ、内面には格子目状の当て具痕が観察できる。底面には焼成後に模様を描かれている。

(3) 焼土跡

焼土跡3号 (第135図)

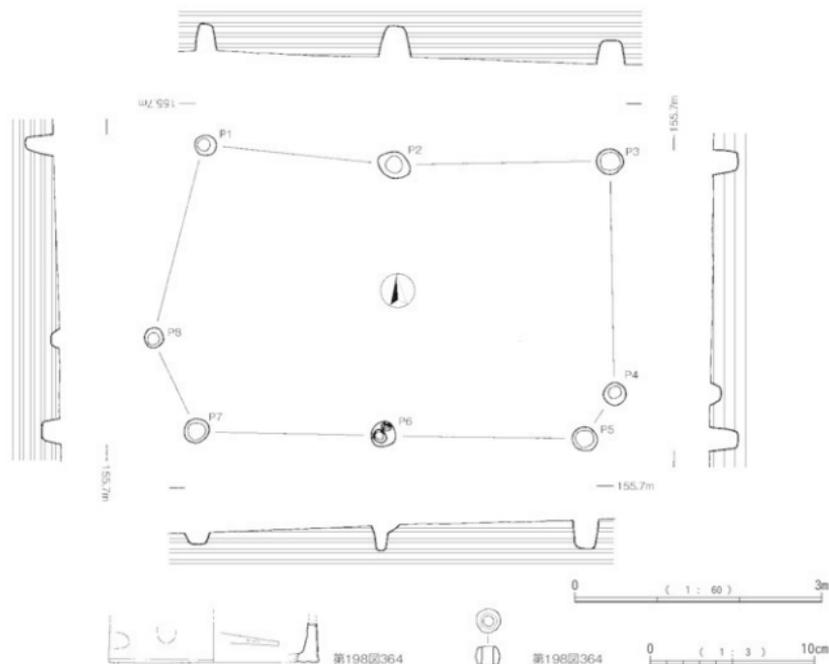
B-5区で検出。直径25cm程の円形状を呈する。周囲は赤く焼けている。

焼土跡4号 (第135図)

B-6区で検出。直径25cmの円形状を呈する。底部分は逆円錐状に広がっている。

第100表 掘立柱建物跡86号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P11・P10	194cm	平均	194cm	P01・P04	356cm	平均	119cm	方向N84°E	P1:土器器(2)、滑石器(1)、 滑石製二点加工品(3)、鏡澤(2)、 軽石(1)、
P04・P06	373cm	平均	187cm	P10・P06	550cm	平均	138cm	水深20~35cm	P6:鑊の口(1)、
P11・P10	194cm	P04・P05	158cm	P01・P02	77cm	P10・P09	189cm	水深8.13~73cm	P10:土器器(1)、朝鮮系無軸陶器(1)、 滑石製入土器(1)、滑石製石罫(2)、 粘土塊(1)、
		P06・P06	215cm	P02・P03	203cm	P09・P08	150cm	面積20.3㎡	P11:土器器(3)、粘土塊(2)、鏡澤(1) [埋藏遺物] P10:第189図243
				P03・P04	76cm	P06・P07	112cm		
						P07・P06	99cm		



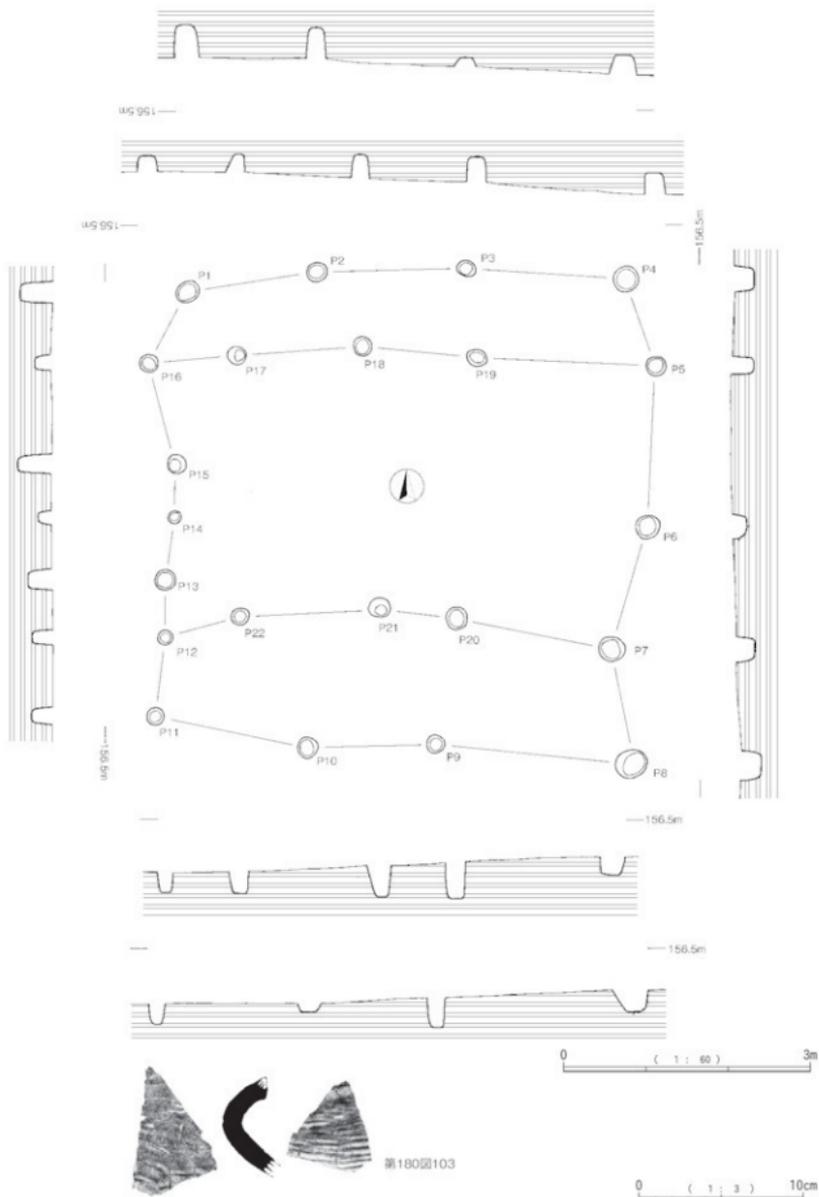
第133図 掘立柱建物跡87号

第101表 掘立柱建物跡87号計測表

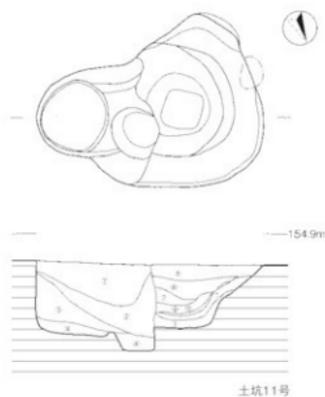
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P07	373cm	平均	187cm	P01 - P03	496cm	平均	248cm	方向N85° W	P1 : 土器類 (1), 鑊の羽口 (1), 粘土塊 (1).
P03 - P05	353cm	平均	177cm	P07 - P05	471cm	平均	236cm	伊直径:25~43cm	P2 : 土器類 (2), カムイヤキ (1), 滑石混入土器 (3), 粘土塊 (3), 硃石 (1).
P01 - P08	247cm	P03 - P04	286cm	P01 - P02	234cm	P07 - P06	222cm	P深8:10~38cm	P3 : 滑石混入土器 (4), 鉄洋 (1), 硃石 (1), P4 : カウヌ土 (1).
P08 - P07	126cm	P04 - P05	67cm	P02 - P03	262cm	P06 - P05	249cm	面積17.7㎡	P7 : 土器類 (2), 滑石混入土器 (2) [炭酸遺物]
									P3 : 第198図364, P4 : 第201図395

第102表 掘立柱建物跡88号計測表

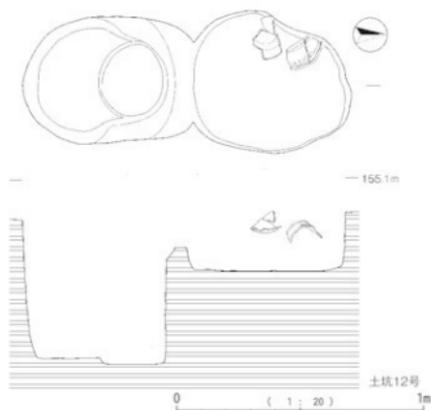
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P11 - P08	589cm	平均	196cm	P11 - P01	536cm	平均	179cm	方向N11° E	P4 : 石器 (1), P6 : 石器 (1), P7 : 石器 (1), P8 : 石器 (4).
P01 - P04	536cm	平均	179cm	P08 - P04	610cm	平均	203cm	伊直径:17~38cm	P9 : 土器類 (3), 粘土塊 (1).
P12 - P07	552cm	平均	138cm					P深8:11~46cm	P10 : 土器類 (1), P18 : 土器類 (1), 滑石混入土器 (1), P20 : 土器類 (2).
P16 - P05	618cm	平均	155cm					面積118.9+14.1㎡	P21 : 土器類 (7), 滑石類 (1), 滑石混入土器 (1), 硃石 (1), 硃石 (1), 石器 (3) [炭酸遺物]
P11 - P10	187cm	P01 - P02	160cm	P11 - P12	97cm	P08 - P07	143cm		P4 : 第208図461 (石器)
P10 - P09	159cm	P02 - P03	182cm	P12 - P13	69cm	P07 - P06	158cm		P21 : 第180図103
P09 - P08	243cm	P03 - P04	194cm	P13 - P14	79cm	P06 - P05	196cm		
				P14 - P15	63cm	P05 - P04	113cm		
				P15 - P16	129cm				
				P16 - P01	99cm				
P12 - P22	95cm	P16 - P17	111cm						
P22 - P21	173cm	P17 - P18	150cm						
P21 - P20	92cm	P18 - P19	140cm						
P20 - P07	192cm	P19 - P05	217cm						



第134圖 掘立柱建物跡88号

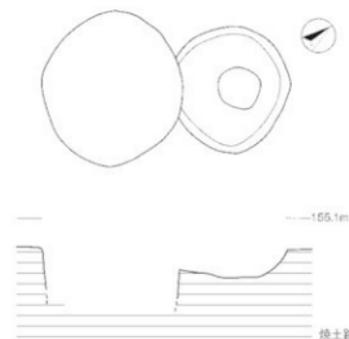
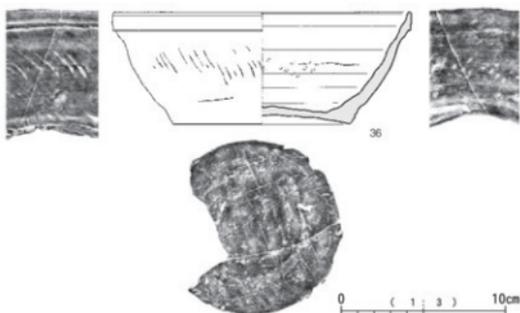


土坑11号

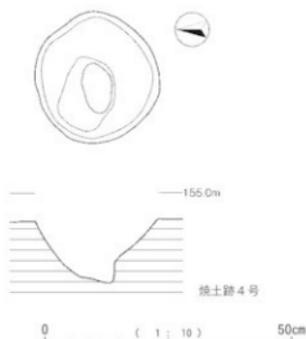


土坑12号

土坑11号	
①	暗褐色強粘質土、焼土粒・炭化物を 含む。
②	暗褐色強粘質土、黄色粘土粒を含む。
③	暗褐色強粘質土、焼土粒・炭化物を 僅かに含む。
④	暗褐色強粘質土、焼土粒・炭化物を 多く含む。
⑤	暗褐色強粘質土、焼土粒・炭化物 を僅かに含む。しまり層。
⑥	暗褐色強粘質土、焼土粒・炭化物の 細粒を含む。
⑦	暗褐色強粘質土、おろきな焼土粒を 含む。
⑧	暗褐色強粘質土、焼土細粒を含む。
⑨	炭化物層、土面ではまばら。
⑩	黄褐色強粘質土、黄色フロックを含む。 しまり層。
⑪	暗褐色強粘質土、大きめの焼土粒・ 炭化物細粒、黄色粘土細粒を多く含む。 また、水分を多く含む。



焼土跡3号

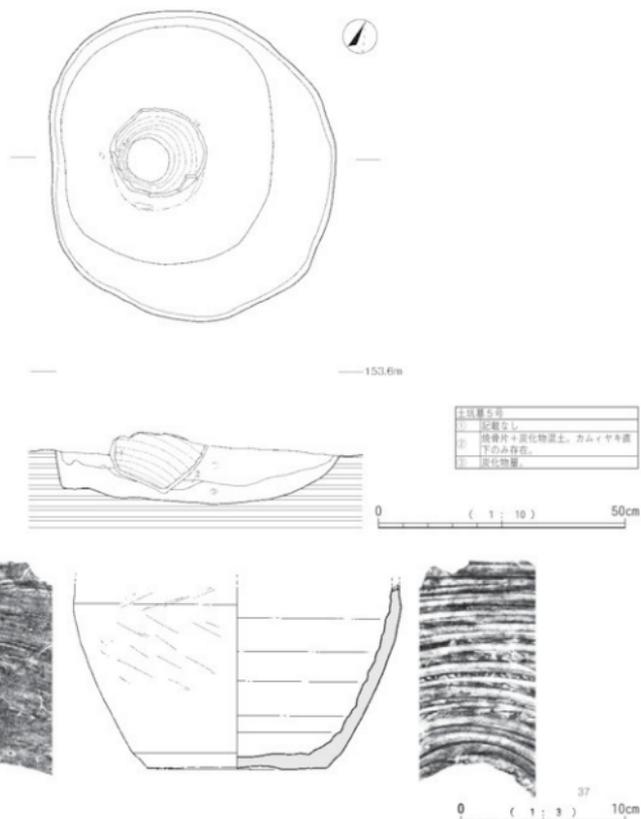


焼土跡4号

第135図 D地区土坑等実測図(3)

第103表 D地区土坑出土遺物観察表(2)

検出 No.	出 土区	遺構名	中継1	器種	分類2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
135	36	B-6	土坑12号	赤土・フナ	鉢	口縁	17.6		10.7	6.8	椀子目	平行タタキ	灰色	灰色	良好	



第136図 土坑墓5号

(4) 土坑墓

土坑墓5号 (第136図, 第97表)

B・5・6区で検出。直径126×115cmの円形状土坑である。検出時には炭化物の層が幅10cmほど覆っており、カムイヤキの上半部分は欠損していた。土坑墓の形成過程は、

- ①地山を掘り込む
- ②炭を土坑全体に敷きつめる
- ③その上に焼骨塊を置く
- ④さらにその上部にカムイヤキを置く

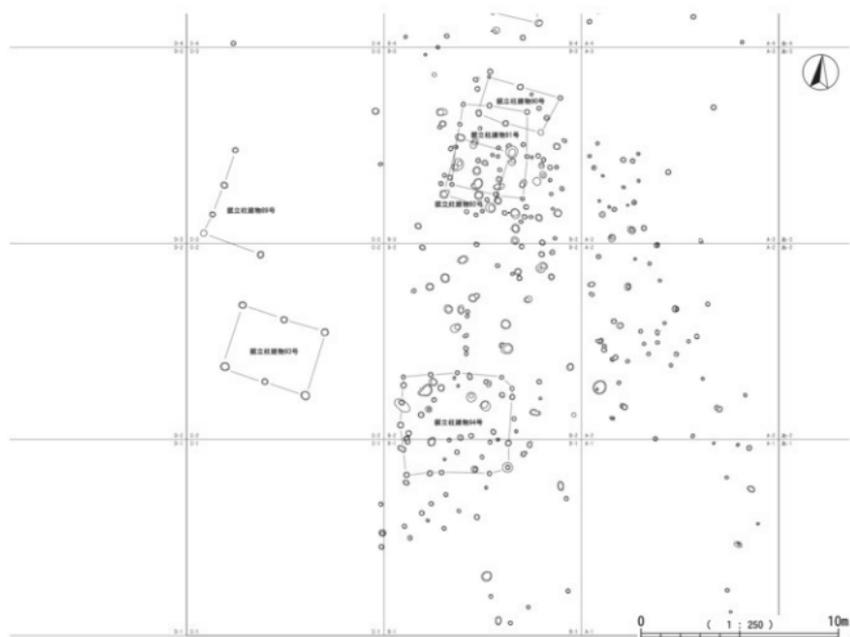
という順番である。こちらのカムイヤキ壺の内部にも焼骨片は混入していない。

副葬品

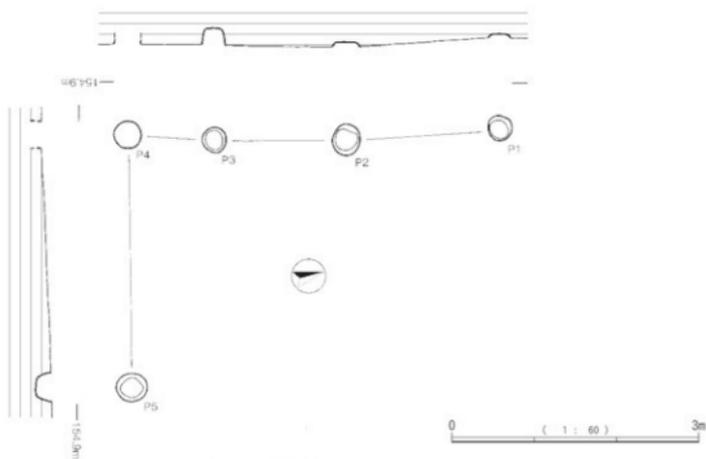
37はカムイヤキ壺である。外器面には平行状タタキ、内面は格子目状の当て具痕がナダ消されている。小型壺ではなく、高さのある壺になると考えられる。

第104表 土坑墓5号出土遺物観察表

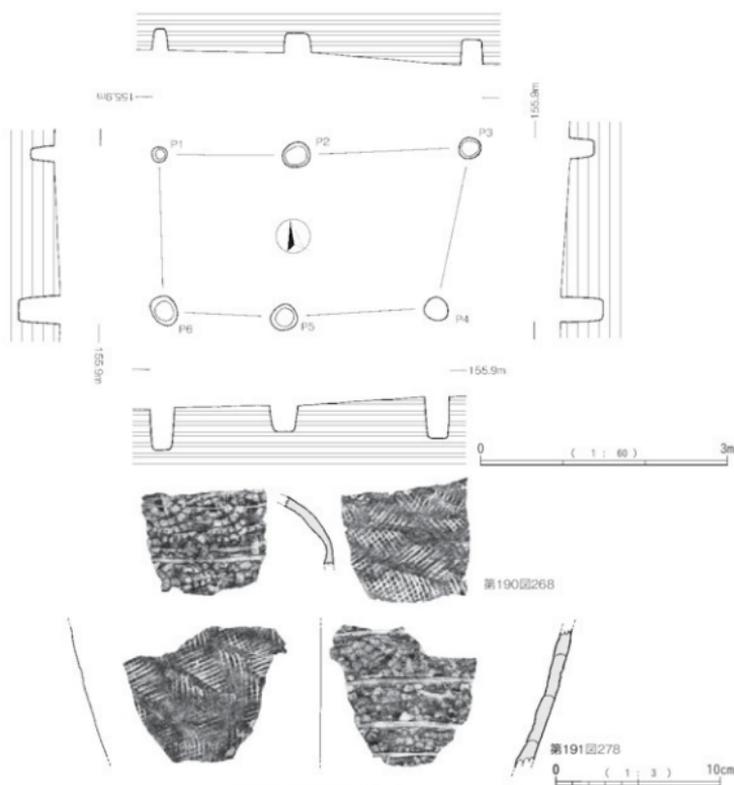
発掘 No	出土区	遺体名	分坑1	部種	分坑2	部位	計測値 (cm)			調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							口径	胴径	高さ						
136	37	B・5	土坑墓5号	カムイヤキ	壺	胴部~底部	19.7	10.8		胴部ナデ 平行	黄灰色	黄灰色	良好		



第137图 D地区詳細遺構配置図(4)



第138图 掘立柱建物跡89号



第139図 掘立柱建物跡90号

掘立柱建物跡90号 (第139図, 第106表)

#### 10 D地区 (4)

C・D区周辺では柱穴はほとんど確認できなかった。B列に柱穴が集中している。掘立柱建物跡は6棟復元した。

B-3区で検出。2×1間の建物跡である。柱穴径は小さく、床面積7㎡と小型の建物跡である。P5よりカムイヤキが出土している。

##### (1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡89号 (第138図, 第105表)

掘立柱建物跡91号 (第140図, 第107表)

C-3区で検出。柱穴の並びなどから建物跡とした。

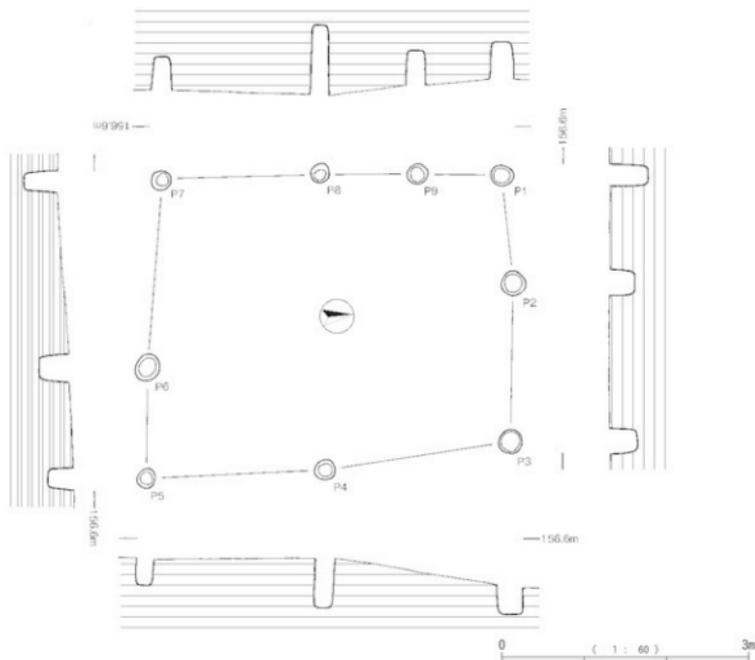
B-3区で検出。3×2間の建物跡であると考えられる。東側で1間少なく、若干ゆがんでいる。

第105表 掘立柱建物跡89号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P05	310cm	平均	310cm	P04 - P01	454cm	平均	151cm	方向N13° E P溝径: 31~39cm P深さ: 5~21cm 遺物: -	P3: 土師器 (1), 石器 (1)
P04 - P05	310cm			P04 - P03	105cm				
				P03 - P02	161cm				
				P02 - P01	188cm				

第106表 掘立柱建物跡90号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P05	194cm	平均	194cm	P01 - P03	381cm	平均	191cm	方向N62° W P溝径: 19~39cm P深さ: 25~50cm 遺物: 7㎡	P5: 鉄片 (2) [海軍遺物] P5: 第191図278, 第190図268
P03 - P04	200cm	平均	200cm	P06 - P04	330cm	平均	165cm		
P01 - P06	194cm	P03 - P04	200cm	P01 - P02	166cm	P06 - P05	145cm		
				P02 - P03	215cm	P05 - P04	185cm		



第140図 掘立柱建物跡91号

掘立柱建物跡92号 (第141図, 第108表)

B-3区で検出。1×1間の建物跡である。P2から赤目圧痕土器、P3から滑石混入土器や楠の羽口が出土している。

掘立柱建物跡93号 (第142図, 第109表)

C-2区で検出。2×1間の建物跡である。東西方向に主軸方向を持つ建物跡である。

掘立柱建物跡94号 (第143図, 第110表)

B-1・2区で検出。4×3間の方形状建物跡である。柱穴間隔にばらつきが見られる。P2からは土師器・滑石製品が出土している。

II E地区 (1)

この区域は平成19年度に調査を行った範囲である。掘立柱建物跡を10棟、土坑墓を2基、焼土土坑を1基、焼土域を伴う土坑を2基、土坑を1基検出した。この区域では東西方向に主軸を持つ建物跡が多く見られた。

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡95号 (第146図, 第111表)

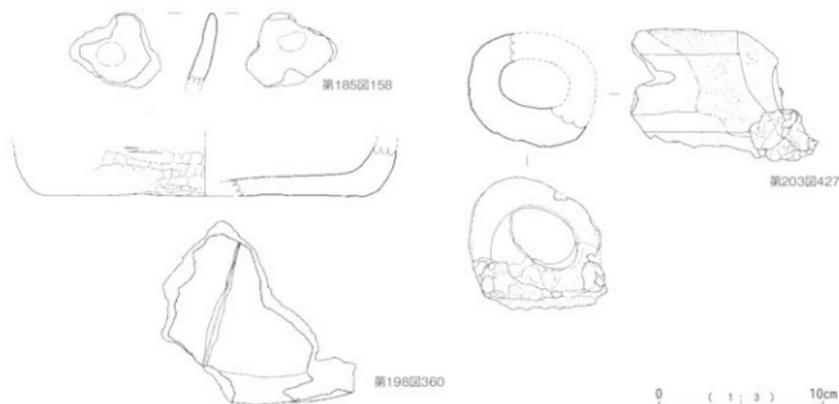
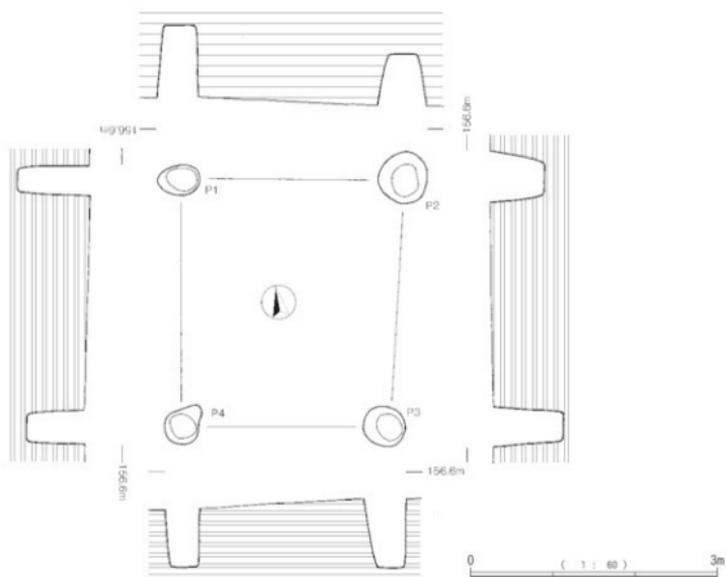
I・J-30・31区で検出されている。3×2間の建物跡である。東西方向に主軸を持つ建物跡である。

掘立柱建物跡96号 (第147図, 第112表)

I・J-30区で検出されている。3×1間の建物跡であると考えられる。近世の窯跡による削平により、南側は消失している。埋土から近世以降の建物跡であると考えられる。

第107表 掘立柱建物跡91号計測表

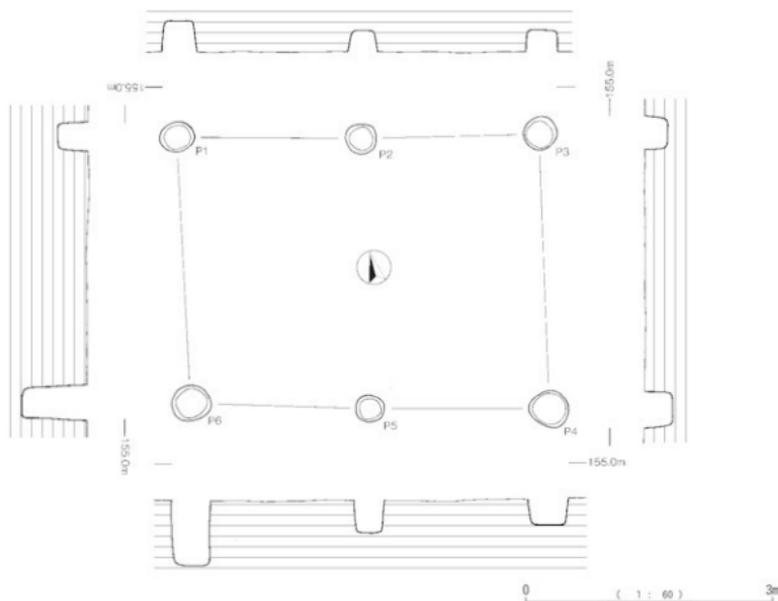
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P07 - P05	357cm	平均	179cm	P07 - P01	432cm	平均	144cm	方向N1°E	P2: カム(ヤキ) (1),
P01 - P03	326cm	平均	163cm	P05 - P03	445cm	平均	223cm		P4: 土師器 (2), 石器 (1),
P07 - P06	221cm	P01 - P02	133cm	P07 - P08	191cm	P05 - P04	218cm		P7: 鏡 (4)
P06 - P05	136cm	P02 - P03	193cm	P08 - P09	138cm	P04 - P03	227cm		面積: 15.5㎡
				P09 - P01	103cm				



第141図 掘立柱建物跡92号

第108表 掘立柱建物跡92号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P03	254cm	平均	254cm	P04 - P01	315cm	平均	315cm	方向N15° E	P1: 伊壁子 (1), P2: 鑪の羽口 (1),
P01 - P02	271cm	平均	271cm	P03 - P02	301cm	平均	301cm	少遺址-52-65cm	P3: 黄色土器 (1), 土師器 (1),
P04 - P03	254cm	P01 - P02	271cm	P04 - P01	315cm	P03 - P02	301cm	少深8-64-89cm 面積8.1㎡	有目瓦葺土器 (1), 中層白磁 (1), 滑石葺土器 (1), 滑石製石鏡 (10), 鉄滓 (1), 石器 (1),
									P4: 土師器 (4), 中層白磁 (1), 粘土埴 (6), 石部 (1) [埋藏遺物] P2: 第203図427, P3: 第185図158, 第198図360



第142図 掘立柱建物跡93号

掘立柱建物跡97号 (第148図, 第113表)

J-30区で検出。ややいびつであるが3×4間の建物跡であると推定している。東角隅の柱穴は近世の窟跡による削平で、消失している。

掘立柱建物跡98号 (第149図, 第114表)

I-30区で検出。4×2間の建物跡である。桁行に比べ梁行の柱間間隔が長い。

掘立柱建物跡99号 (第150図, 第115表)

H-30区で検出。平面形態は方形状であり、北側から東側にかけては柱穴が多く配置されている。掘立柱建物跡100号と重複している。

掘立柱建物跡100号 (第151図, 第116表)

H-30区で検出。柱間間隔が他の建物跡よりも広い。P10から土師器が出土している。

掘立柱建物跡101号 (第152図, 第117表)

H-29区で検出。1×1間の建物跡である。掘立柱建物跡100号に隣接する。P1から朝鮮系無軸陶器が出土している。

掘立柱建物跡102号 (第153図, 第118表)

G-29区で検出。1×1間の建物跡である。P2は近世の窟跡により一部削平されている。

(2) 土坑墓

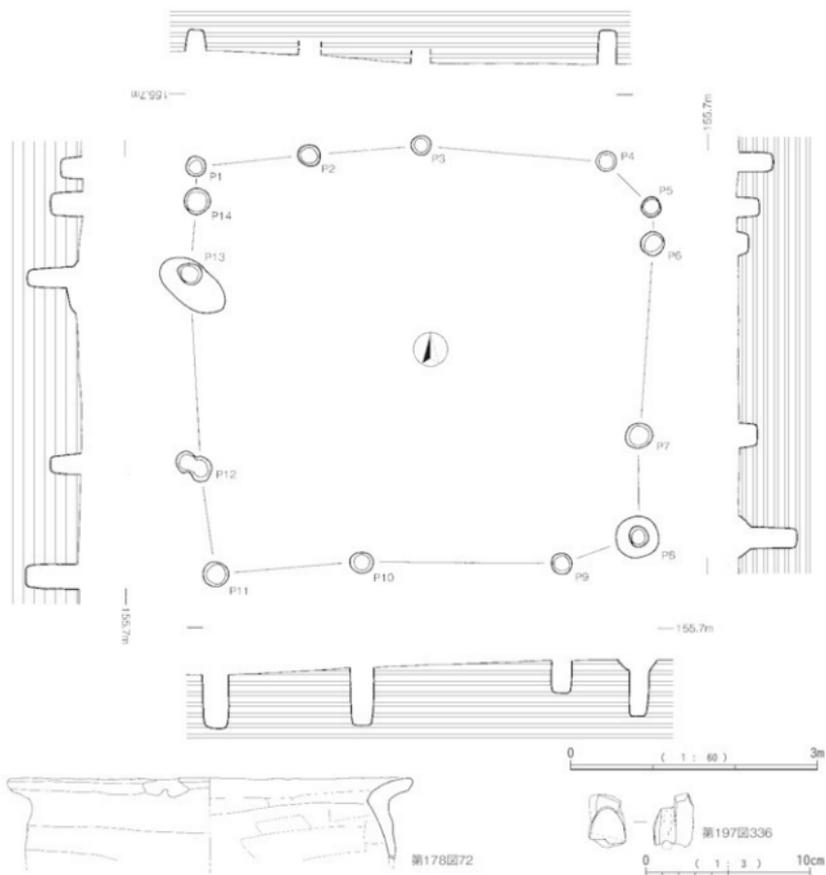
土坑墓6号 (第154図, 第119～121表)

H-28・29区で検出。直径178cm×39cmの長方形状である。土坑の中央部分上部に石灰岩が2個置かれていた。内部には仰臥伸展葬された土葬人骨が埋葬されていた。埋葬されていたのは熟年の男性であり、身長は約150cmである。

頭部には無文銭とガラス玉を検出している。ガラス玉穿孔部の向きなどから銭も玉も紐で通してつながっていた可能性が高い。また、左足首に鉄滓を確認している。43は土坑掘り下げ中に出土した。

第109表 掘立柱建物跡93号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01-P06	327cm	平均	327cm	P01-P03	440cm	平均	220cm	方向N78° E	P1: 渡草器 (1), 石鏡 (1)
P03-P04	337cm	平均	337cm	P06-P04	435cm	平均	218cm		伊達屋39-48cm P3: 土師器 (2), 粘土塊 (2)
P01-P06	327cm	P03-P04	337cm	P01-P02	224cm	P06-P05	217cm		P深&28-80cm
				P02-P03	216cm	P05-P04	218cm		遺構14.6㎡



第143図 掘立柱建物跡94号

副葬品

38は無文銭である。直径2.2cmで内面は方形状であり、内径は7mm程である。39~41はガラス玉である。外器面はいずれも白色化・風化し、非常に脆くなっている。

土坑墓7号(第155図)

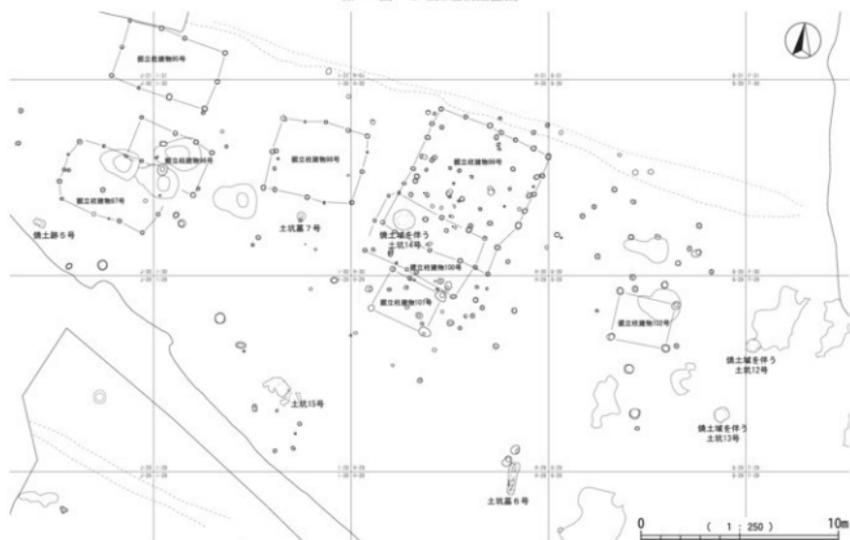
I-30区で検出。直径42cmの円形状を呈する。柱痕に切られている。上面に焼骨と炭化物の塊を検出した。②層は炭化物が充填した層である。副葬品など遺物は確認できなかった。

第110表 掘立柱建物跡94号計測表

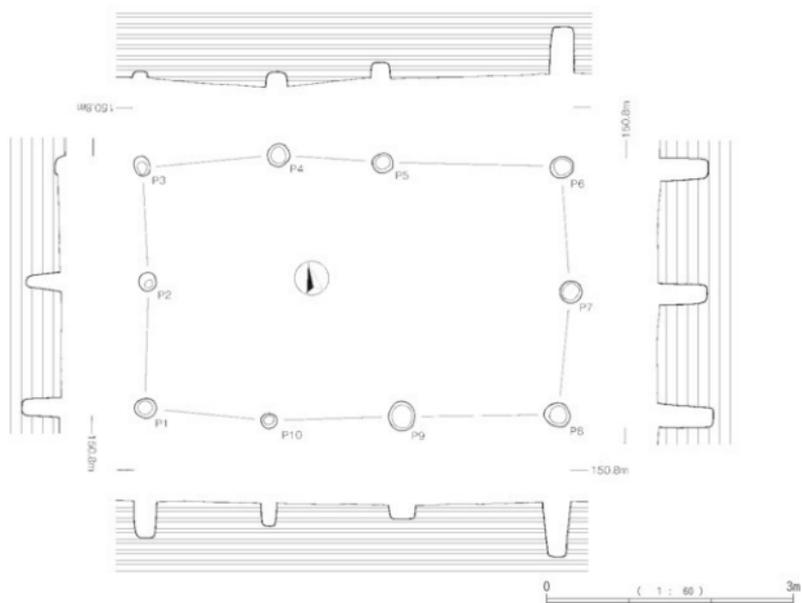
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P11	503cm	平均	126cm	P01 - P04	502cm	平均	167cm	方向N64° E	P2 : 土師器 (3), 滑石製二次加工品 (1),
P04 - P08	483cm	平均	121cm	P11 - P08	521cm	平均	174cm	伊原径24~45cm	P5 : 土師器 (1),
P01 - P14	43cm	P04 - P05	79cm	P01 - P02	140cm	P11 - P10	178cm	伊原径14~71cm	P8 : 土師器 (4), 石器 (1),
P14 - P13	90cm	P05 - P06	43cm	P02 - P03	138cm	P10 - P09	245cm	直径27cm	P10 : 土師器 (1), 粘土塊 (1),
P13 - P12	240cm	P06 - P07	236cm	P03 - P04	226cm	P09 - P08	98cm		P11 : 土師器 (2), 石器 (1),
P12 - P11	130cm	P07 - P08	125cm						P13 : 伊原? (42), 石器 (1)
									[掲載遺物]
									P2 : 第178図72, 第197図336



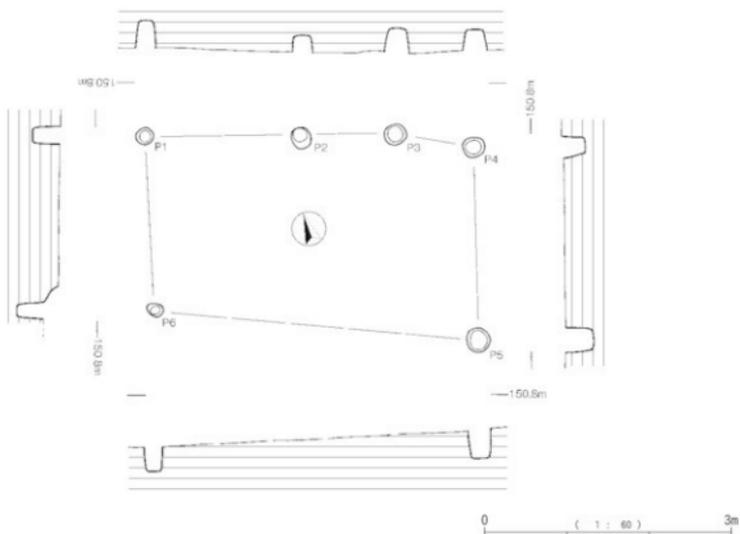
第144图 E地区遺構配置圖



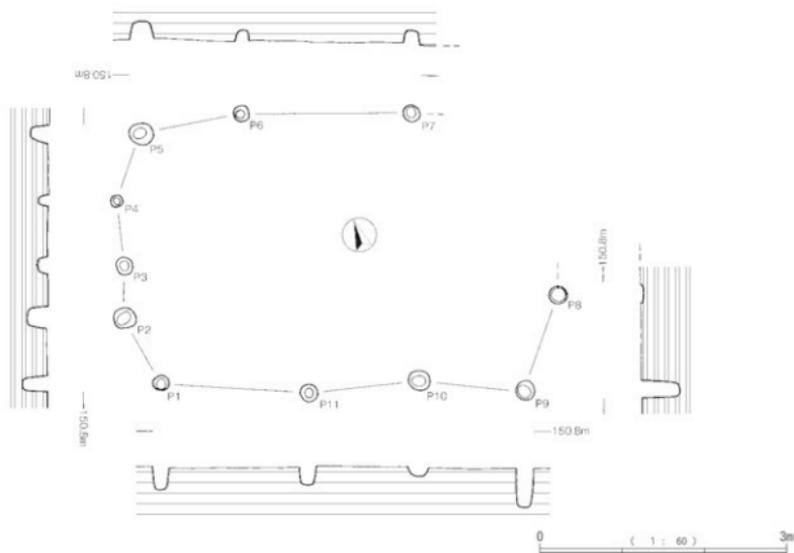
第145图 E地区詳細遺構配置圖(1)



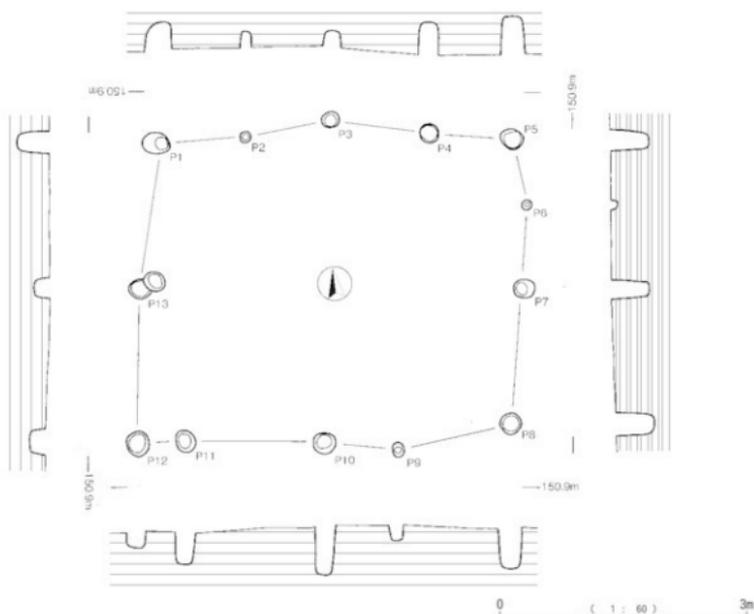
第146图 掘立柱建物跡95号



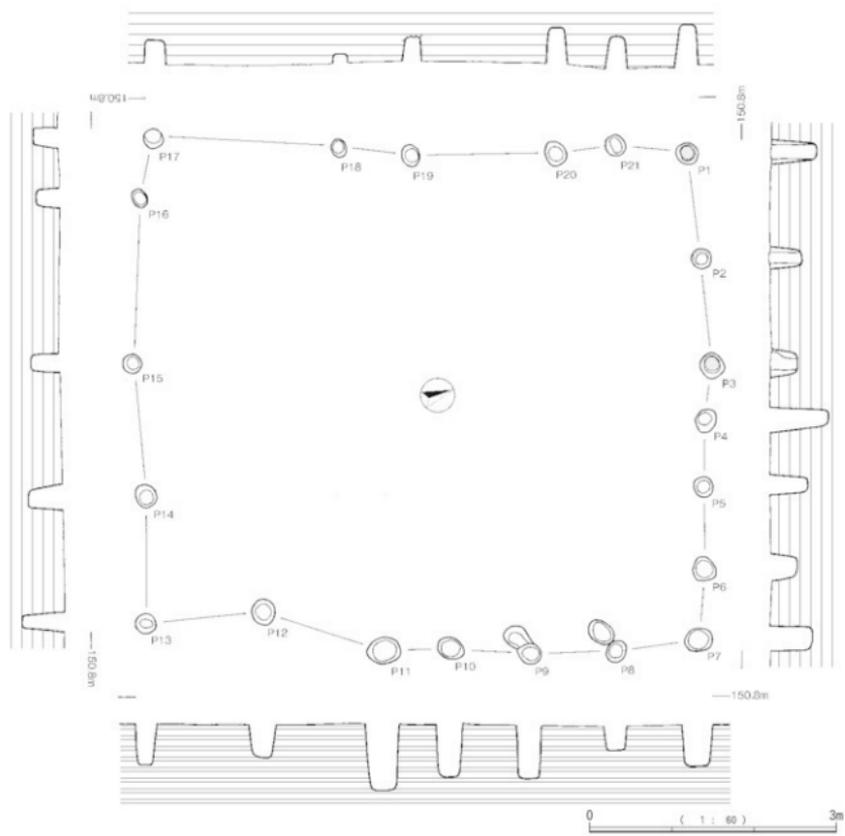
第147图 掘立柱建物跡96号



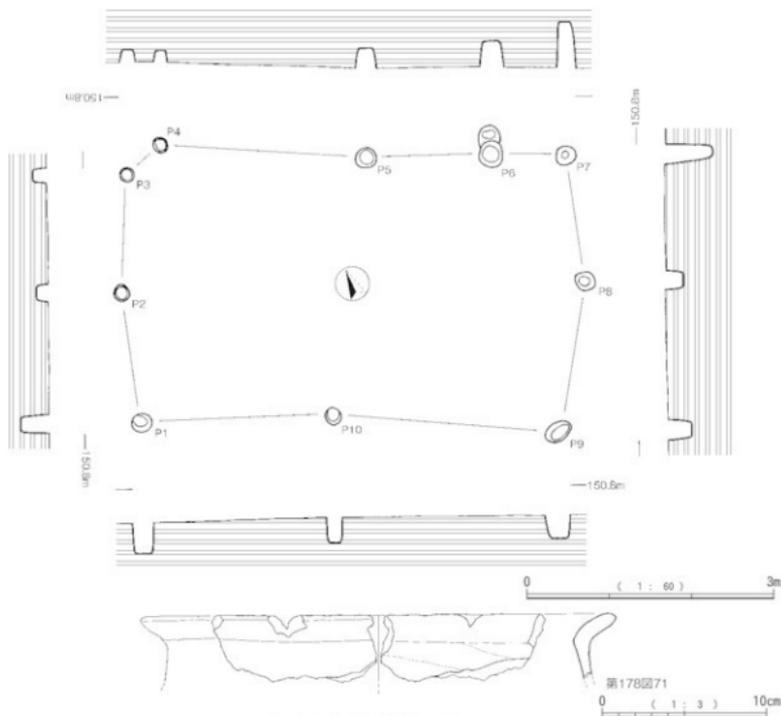
第148图 掘立柱建物跡97号



第149图 掘立柱建物跡98号



第150图 掘立柱建物跡99号



第151图 掘立柱建物跡100号

第111表 掘立柱建物跡95号計測表

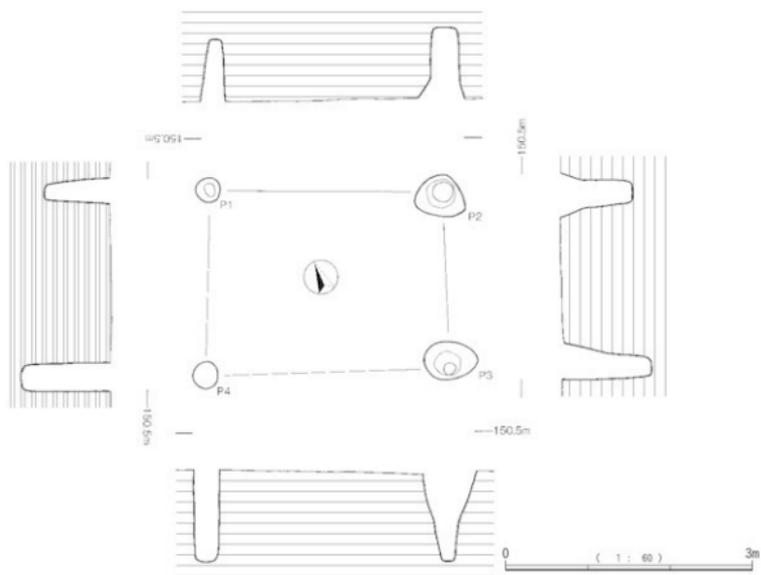
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	293cm	平均	147cm	P03 - P06	510cm	平均	170cm	方向N78° W	
P06 - P08	305cm	平均	153cm	P01 - P08	503cm	平均	168cm	伊深径:19~36cm	
P03 - P02	143cm	P06 - P07	154cm	P03 - P04	167cm	P01 - P10	152cm	伊深:7~68cm	
P02 - P01	150cm	P07 - P08	151cm	P04 - P05	126cm	P10 - P09	163cm	面積:15.9㎡	
				P05 - P06	217cm	P09 - P08	188cm		

第112表 掘立柱建物跡96号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P06	214cm	平均	214cm	P01 - P04	400cm	平均	133cm	方向N66° W	
P03 - P05	238cm	平均	238cm	P06 - P05	394cm	平均	394cm	伊深径:21~30cm	
P01 - P06	214cm	P04 - P05	238cm	P01 - P02	187cm	P06 - P05	394cm	伊深:±21~36cm	
				P02 - P03	116cm			面積:10.1㎡	
				P03 - P04	97cm				

第113表 掘立柱建物跡97号計測表

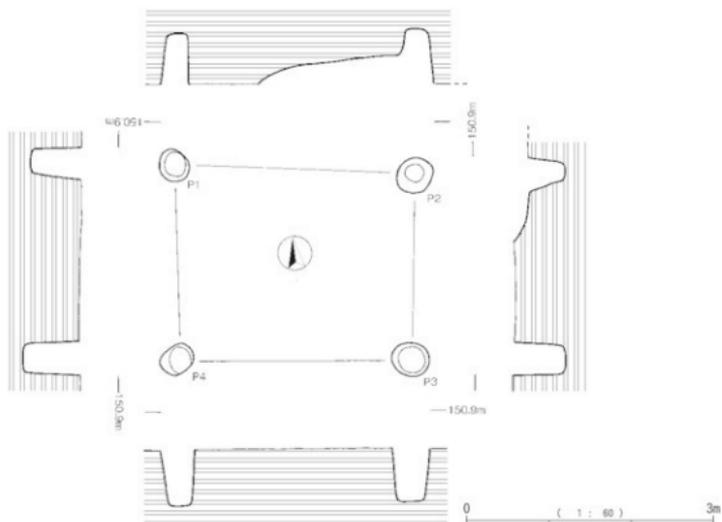
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P01	312cm	平均	78cm	P05 - P07	332cm	平均	166cm	方向N70° W	
P08 - P09	126cm	平均	126cm	P01 - P09	442cm	平均	147cm	伊深径:16~30cm	
P05 - P04	86cm	P08 - P09	126cm	P05 - P06	125cm	P01 - P11	180cm	伊深:±.5~46cm	
P04 - P03	70cm			P06 - P07	207cm	P11 - P10	134cm	面積:16.9㎡	
P03 - P02	64cm					P10 - P09	128cm		
P02 - P01	92cm								



第200図388

第152図 掘立柱建物跡101号

0 ( 1 : 3 ) 10cm



第153図 掘立柱建物跡102号

第114表 掘立柱建物跡98号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P12	370cm	平均	185cm	P01 - P05	428cm	平均	107cm	方向N88° W	P深さ: 13~35cm P深さ: 8~62cm 面積: 17.3㎡
P05 - P08	352cm	平均	117cm	P12 - P08	458cm	平均	115cm		
P01 - P13	180cm	P05 - P06	81cm	P01 - P02	102cm	P12 - P11	58cm		
P13 - P12	190cm	P06 - P07	104cm	P02 - P03	105cm	P11 - P10	169cm		
		P07 - P08	167cm	P03 - P04	120cm	P10 - P09	91cm		
				P04 - P05	101cm	P09 - P08	140cm		

第115表 掘立柱建物跡99号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P17 - P13	601cm	平均	150cm	P17 - P01	651cm	平均	130cm	方向N21° E	P14: 溝石製石鍋 (1) [掘立柱遺物] P14: 第193図299
P01 - P07	602cm	平均	100cm	P13 - P07	662cm	平均	114cm		
P17 - P16	78cm	P01 - P02	130cm	P17 - P18	224cm	P13 - P12	143cm	P深さ: 11~83cm	
P16 - P15	202cm	P02 - P03	130cm	P18 - P19	91cm	P12 - P11	155cm	面積: 41㎡	
P15 - P14	166cm	P03 - P04	69cm	P19 - P20	173cm	P11 - P10	81cm		
P14 - P13	155cm	P04 - P05	83cm	P20 - P21	75cm	P10 - P09	96cm		
		P05 - P06	102cm	P21 - P01	88cm	P09 - P08	103cm		
		P06 - P07	88cm			P08 - P07	162cm		

第116表 掘立柱建物跡100号計測表

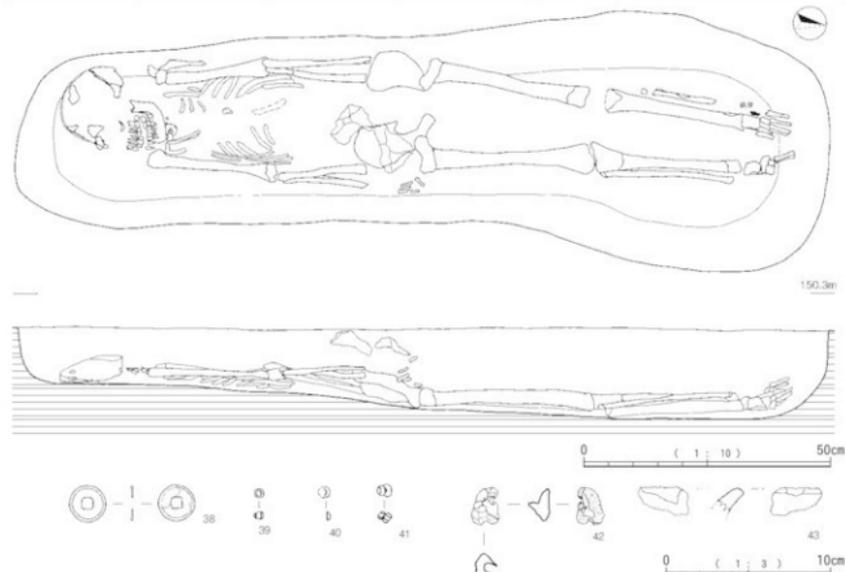
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P03 - P01	314cm	平均	157cm	P03 - P07	556cm	平均	139cm	方向N60° W	P10: 土師器 (1) [掘立柱遺物] P10: 第178図71
P07 - P09	344cm	平均	172cm	P01 - P09	513cm	平均	257cm		
P03 - P02	145cm	P07 - P08	158cm	P03 - P04	65cm	P01 - P10	234cm	P深さ: 15~57cm	
P02 - P01	169cm	P08 - P09	186cm	P04 - P05	251cm	P10 - P09	279cm	面積: 17.8㎡	
				P05 - P06	150cm				
				P06 - P07	90cm				

第117表 掘立柱建物跡101号計測表

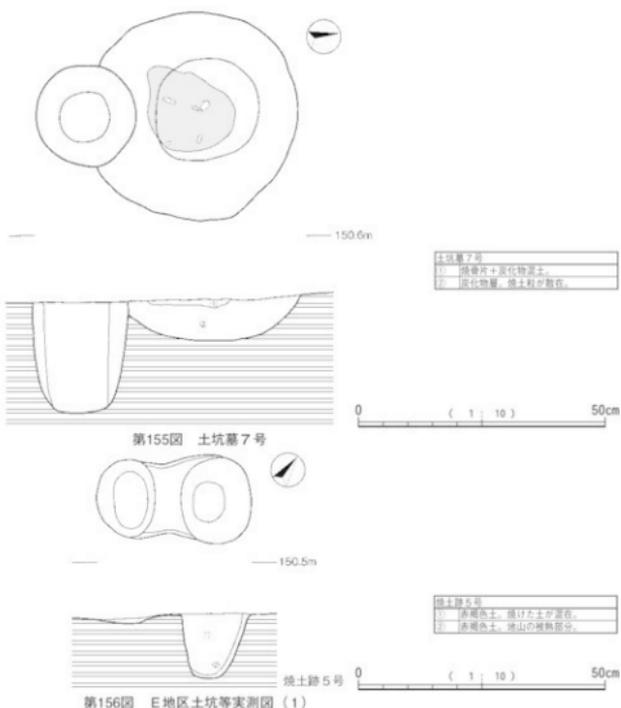
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	228cm	平均	228cm	P01 - P02	281cm	平均	281cm	方向N70° W	P1: 朝鮮系無釉陶器 (1) [掘立柱遺物] P1: 第200図388
P02 - P03	217cm	平均	217cm	P04 - P03	297cm	平均	297cm		
P01 - P04	228cm	P02 - P03	217cm	P01 - P02	281cm	P04 - P03	297cm	P深さ: 78~112cm	
								面積: 6.3㎡	

第118表 掘立柱建物跡102号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P04	241cm	平均	241cm	P01 - P02	292cm	平均	292cm	方向N84° W	P深さ: 42~46cm P深さ: 62~69cm 面積: 6.8㎡
P02 - P03	229cm	平均	229cm	P04 - P03	280cm	平均	280cm		
P01 - P04	241cm	P02 - P03	229cm	P01 - P02	292cm	P04 - P03	280cm		



第154图 土坑墓6号



### (3) 焼土跡

#### 焼土跡5号(第156図)

J-30区で検出。全体的に赤く被熱している。壁際にも焼けた痕跡を確認している。

### (4) 焼土域を伴う土坑

#### 焼土域を伴う土坑12号(第157図)

F-29区で検出。74×70cmの円形土坑である。床面付近に炭化物の層が見られる。

#### 焼土域を伴う土坑13号(第157図)

G-29区で検出。80×80cmの楕円形状をしている。②層中にも炭化物が集中する。

#### 焼土域を伴う土坑14号(第157図)

H-30区で検出。109×104cmの円形状を呈している。焼土域を伴う土坑の中では大型のものである。

### (5) 土坑

#### 土坑13号(第157図)

C-27区で検出。埋土の色調に若干の違いが見られる。不定

第119表 土坑墓6号出土遺物観察表(1)

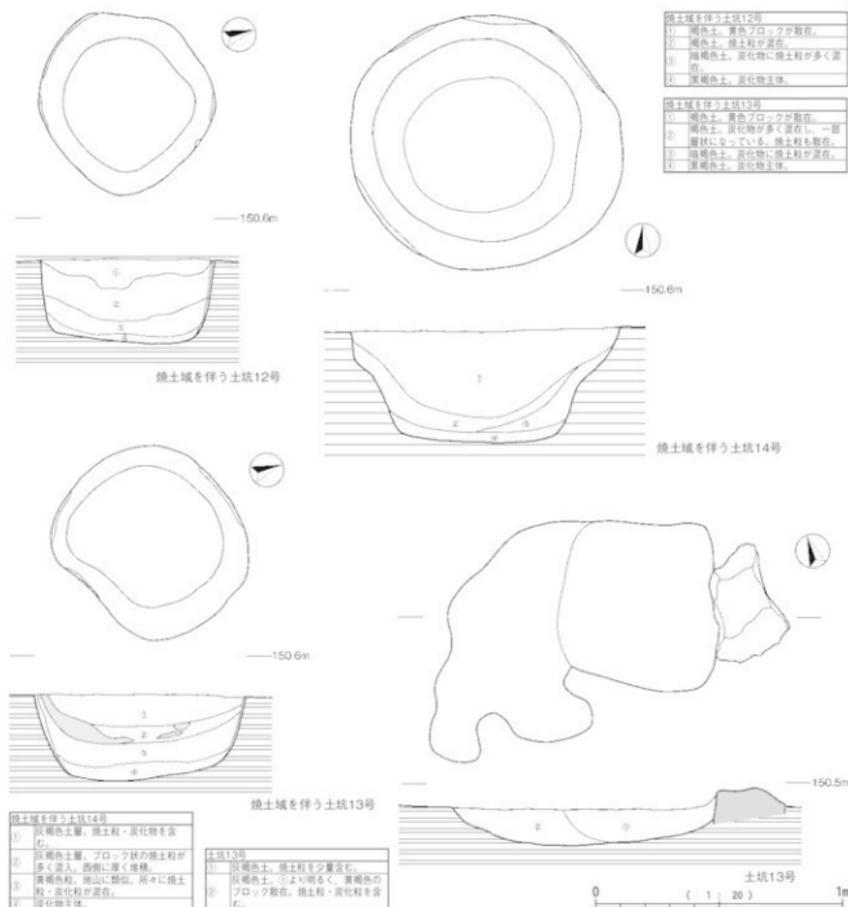
神宮 No	図 No	出土区	遺構名	分館1	部種	分館2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
								長さ	幅	厚さ	重量						
154	38	H-28	土坑墓6号	遺				2.2	0.7		4g						
	39	H-28	土坑墓6号	ガラス玉				0.6	0.3	0.45			灰白色		表面焼成		
	40	H-28	土坑墓6号	ガラス玉				0.6	0.3	0.5			灰白色		表面焼成		
	41	H-28	土坑墓6号	ガラス玉				0.5	0.7	0.3	0.4			灰白色		表面焼成	

第120表 土坑墓6号出土遺物観察表(2)

神宮 No	図 No	出土区	遺構名	分館1	部種	分館2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
								長さ	幅	厚さ	重量						
154	42	H-28	土坑墓6号	鉄釘				2.3	1.7	1.3	6g						

第121表 土坑墓6号出土遺物観察表(3)

神宮 No	図 No	出土区	遺構名	分館1	部種	分館2	部位	計測値(cm)				調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考
								口径	胴径	底径	器高						
154	43	H-28	土坑墓6号	土師器	壺		口縁部							橙	橙	良好	



第157図 E地区土坑等実測図(2)

部分には赤色粒を多く含む褐色土であり、薄く堆積していた。埋土①より滑石細片が出土している。

12 E地区(2)

この区域は平成20年に調査を行った区域である。半田口遺跡との境に当たる部分では柱穴が密集していた。掘立柱建物跡を11棟復元している。

E-28区には近世代、サトウキビを圧搾する際に馬が歩いたと考えられる半円状の痕跡を確認している。

出土遺物は小片のものが多く、形状復元の難しいものが多かった。

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡103号(第159図, 第122表)

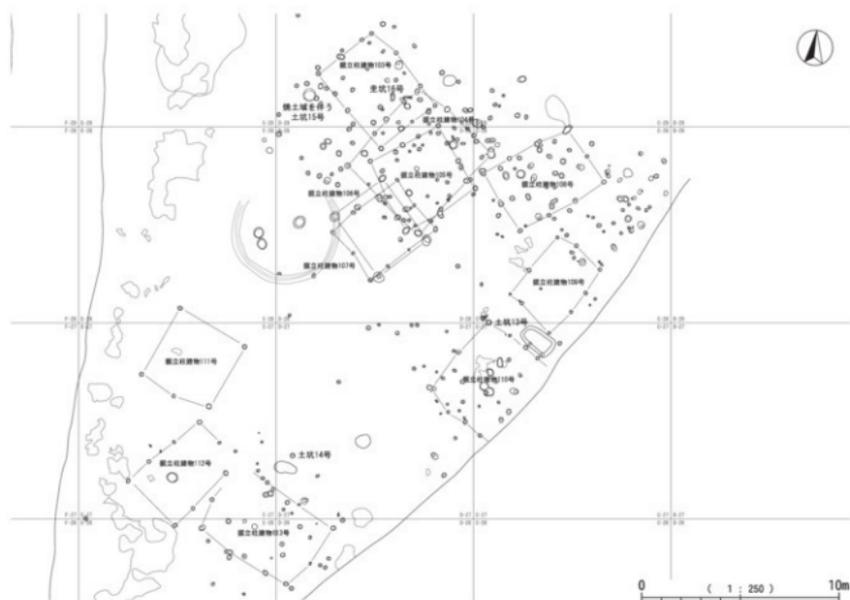
D-29区で検出。平面プランは若干のゆがんでおり、柱穴間隔・柱穴数にもばらつきが見られる。

掘立柱建物跡104号(第160図, 第123表)

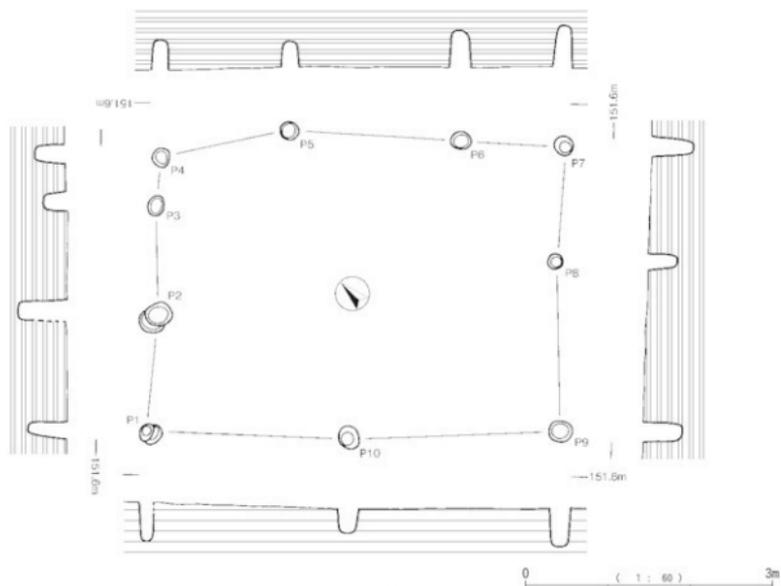
D-28・29区で検出。3×3間の方形状建物跡であると考えられる。北西部部分では柱間が1間多く、東側に偏っている。

掘立柱建物跡105号(第161図, 第124表)

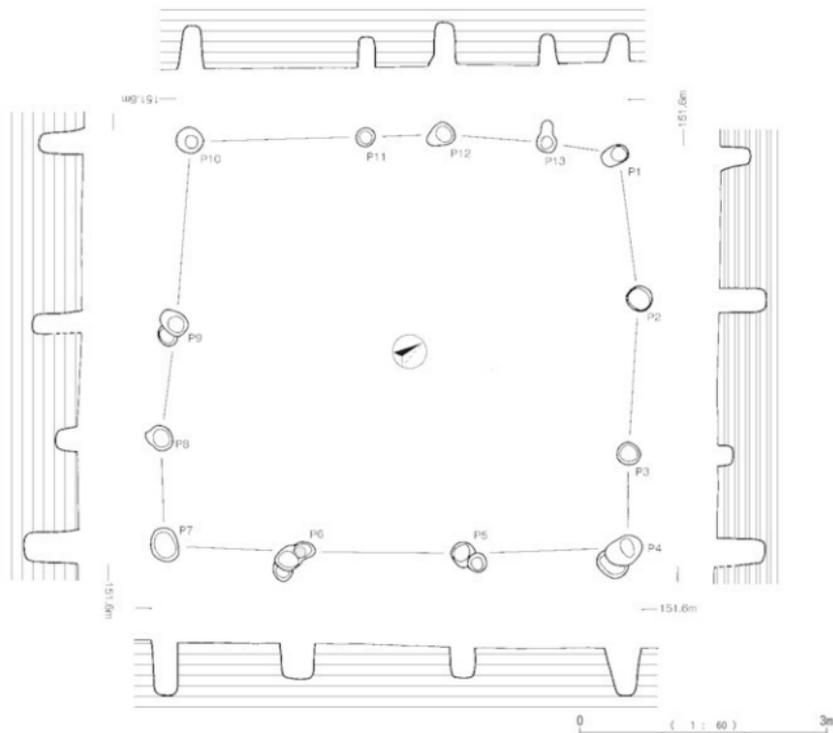
D-28区で検出。2×2間の方形状建物跡である。P4からは須恵器が出土している。



第158图 E地区详细遗构配置图(2)



第159图 掘立柱建物跡103号



第160図 掘立柱建物跡104号

掘立柱建物跡106号 (第162図, 第125表)

D-28区で検出。1×1間のやや長方形の建物跡である。

掘立柱建物跡107号 (第163図, 第126表)

D-28区で検出。3×2間の建物跡で、梁行部分が内側に若干凹み形状をしている。P3から須恵器が出土している。

掘立柱建物跡108号 (第164図, 第127表)

C-28区で検出。3×2間の建物跡である。

掘立柱建物跡109号 (第165図, 第128表)

C-28区で検出。3×2間の建物跡であると考えられる。梁行部分が若干ゆがんでいる。

掘立柱建物跡110号 (第166図, 第129表)

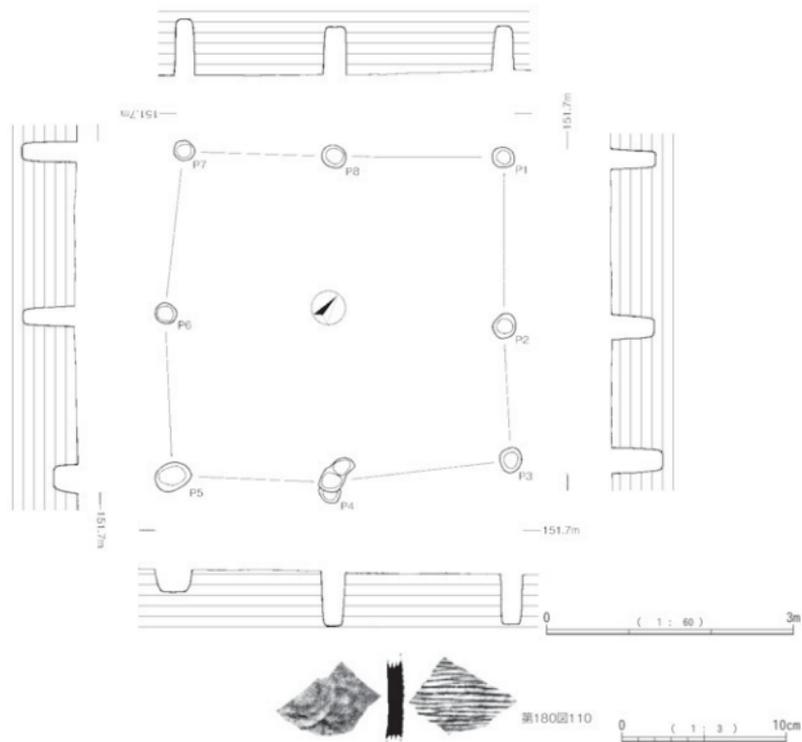
C・D-27区で検出。調査地区外のため、全体の形状は不明である。桁行方向にさらに柱穴が延びる。東西軸に主軸方向を持つ建物跡であると推察している。

第122表 掘立柱建物跡103号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P04 - P01	337cm	平均	112cm	P04 - P07	497cm	平均	166cm	方向N40° W	P2 : 土器 (2), P5 : 土器 (8), P8 : 土器 (4), 粘土塊 (1), P9 : 土器 (2), P10 : 土器 (1)
P07 - P09	299cm	平均	150cm	P01 - P09	502cm	平均	251cm	P深さ: 19~30cm	
P04 - P03	60cm	P07 - P08	91cm	P04 - P06	159cm	P01 - P10	243cm	P深さ: 29~62cm	
P03 - P02	134cm	P08 - P09	208cm	P05 - P06	210cm	P10 - P09	259cm	面積: 17.7㎡	
P02 - P01	143cm			P06 - P07	128cm				

第123表 掘立柱建物跡104号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P10 - P07	496cm	平均	165cm	P10 - P01	524cm	平均	131cm	方向N34° E	P1 : 粘土塊 (2), 軽石 (1), P2 : 石 (1), P7 : 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), P9 : 土器 (2), 粘土塊 (1), P10 : 土器 (1), 中骨陶器 (1)
P01 - P04	484cm	平均	161cm	P07 - P04	562cm	平均	187cm	水深: 24~46cm	
P10 - P09	224cm	P01 - P02	179cm	P10 - P11	215cm	P07 - P06	165cm	P深さ: 8~18~66cm	
P09 - P08	148cm	P02 - P03	190cm	P11 - P12	96cm	P06 - P05	196cm		
P08 - P07	132cm	P03 - P04	115cm	P12 - P13	123cm	P05 - P04	201cm		
				P13 - P01	90cm				



第161図 掘立柱建物跡105号

掘立柱建物跡111号 (第167図, 第130表)

E-27区で検出。2×2間の建物跡であろうと推定される。

掘立柱建物跡112号 (第168図, 第131表)

E-27区で検出。3×2間の建物跡であると考えられ、平面形態は若干ゆがんだ台形状になっている。

掘立柱建物跡113号 (第169図, 第132表)

D・E-26・27区で検出。3×2間の建物跡であると考えられる。梁行部が外側に広がる構造である。

(2) 焼土域を伴う土坑

焼土域を伴う土坑15号 (第170図)

D-29区で検出。直径60cmの円形土坑である。深さは29cmを測る。土坑の縁は赤く焼けており、最下層には炭化物が堆積する。遺物は出土していない。

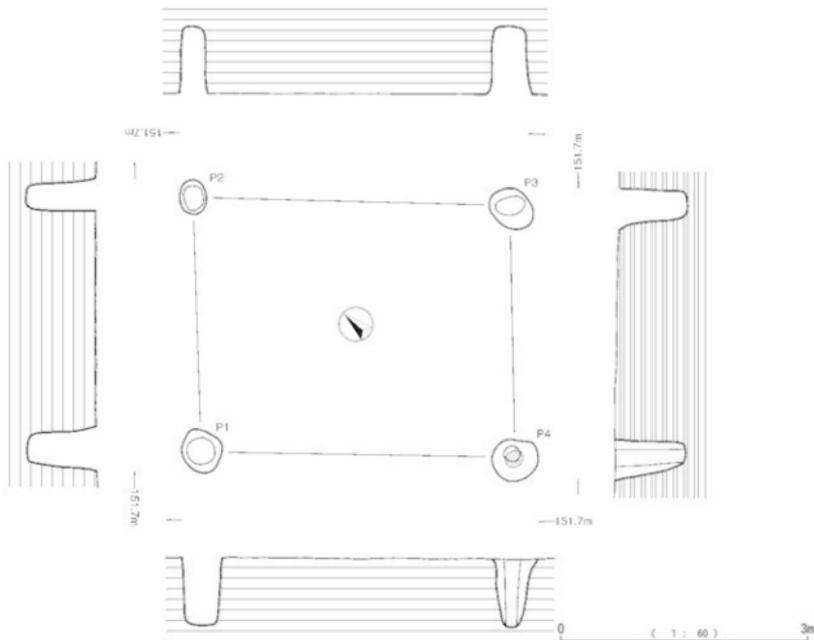
(3) 土坑

土坑14号 (第170図)

D-27区で検出。長軸約120×短軸約60cmの楕円形土坑である。深さ46cmを測る。遺物は出土していない。

第124表 掘立柱建物跡105号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P07 - P05	400cm	平均	200cm	P07 - P01	390cm	平均	195cm	方向N49° E	P1: 土器類 (1), 粘土塊 (1),
P01 - P03	372cm	平均	186cm	P05 - P03	412cm	平均	206cm	外側径26~44cm	P2: 土器類 (1), 滑石製石珠 (1),
P07 - P06	200cm	P01 - P02	208cm	P07 - P08	182cm	P05 - P04	150cm	外径26~68cm	滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (5),
P06 - P05	200cm	P02 - P03	164cm	P08 - P01	208cm	P04 - P03	219cm	直径15.9cm	硝石 (1), P3: 粘土塊 (1),
									灰土 (1),
									P7: 土器類 (4), 石器 (1)
									(複数遺物)
									P4: 第180図110



第162図 掘立柱建物跡106号

土坑15号（第170図）

I-29区で検出。長軸208cm×短軸100cmの長方形土坑である。深さは20cmを測る。床面はほぼ平坦である。中心部の埋土は黒褐色土だが、周辺の埋土は黄褐色土が主である。内部からは人骨片が検出されなかったが、形態から土坑墓の可能性が

高い。遺物は埋土中より土師器片などが出土している。

土坑16号（第170図）

D-29区で検出。長軸24×短軸23cmの楕円形状を呈する。深さは3cmを測る。炭が土坑内に広がっていた。

第125表 掘立柱建物跡106号計測表

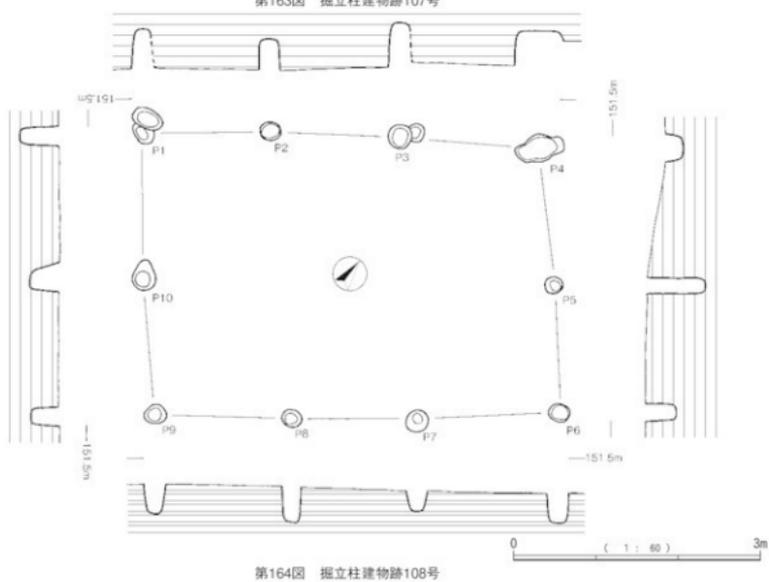
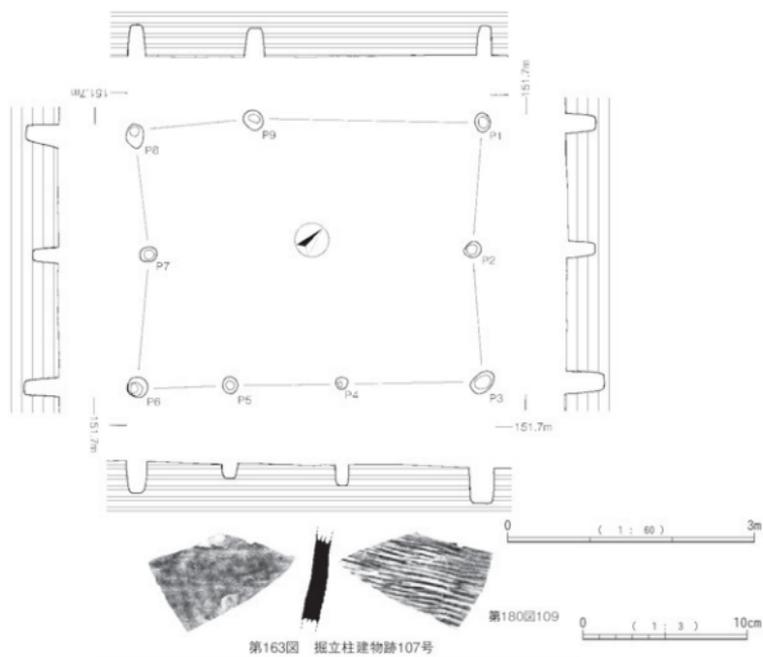
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P02 - P01	311cm	平均	311cm	P02 - P03	387cm	平均	387cm	方向N42° W	P1：土師器 (12)、鉄滓 (3)、蚌石 (2)、
P03 - P04	304cm	平均	304cm	P01 - P04	380cm	平均	380cm	P直径:43~57cm	P2：土師器 (4)、赤石混入土層 (1)、
P02 - P01	311cm	P03 - P04	304cm	P02 - P03	387cm	P01 - P04	380cm	P深さ:82~86cm	粘土塊 (6)、鉄滓 (3)、石器 (1)、
									P3：土師器 (5)、鑊の口 (1)、粘土塊 (1)、
									石器 (1)

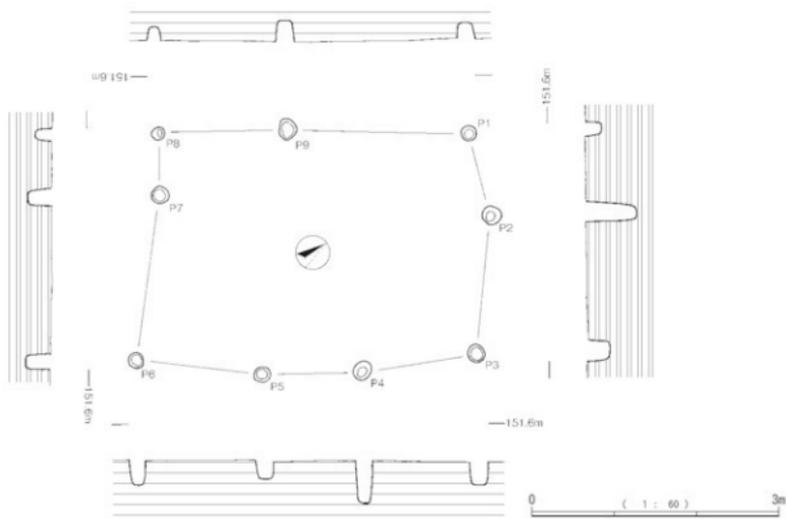
第126表 掘立柱建物跡107号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P06 - P06	319cm	平均	190cm	P06 - P01	424cm	平均	212cm	方向N42° E	P1：土師器 (1)、粘土塊 (1)、
P01 - P03	318cm	平均	159cm	P06 - P03	420cm	平均	140cm	P直径:15~32cm	P2：土師器 (1)、赤石混入土層 (1)、鉄滓 (2)、
P06 - P07	153cm	P01 - P02	155cm	P06 - P09	146cm	P06 - P05	113cm	P深さ:19~47cm	P3：滑車器 (1)、赤石混入土層 (2)、
P07 - P06	166cm	P02 - P03	163cm	P09 - P01	278cm	P05 - P04	135cm	直径:13cm	P5：石器 (1)、
						P04 - P03	172cm		P6：土師器 (1)、赤石混入土層 (1)、
									滑車器 (1)、粘土塊 (1)、
									鑊の口 (2)、粘土塊 (1)
									[埋藏遺物]
									P3：第180図109

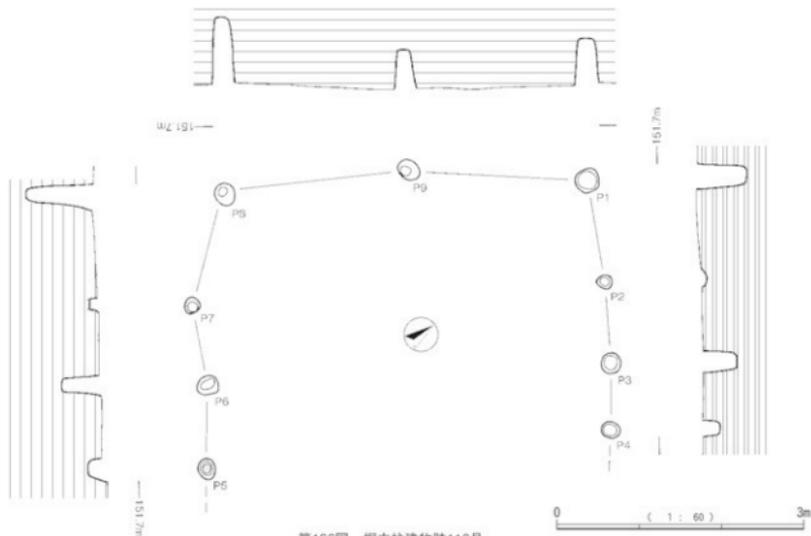
第127表 掘立柱建物跡108号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P01 - P09	346cm	平均	173cm	P01 - P04	484cm	平均	161cm	方向N50° E	P1：鉄滓 (1)、P2：鉄滓 (1)、
P04 - P06	326cm	平均	163cm	P09 - P06	493cm	平均	164cm	P直径:21~60cm	P4：石器 (1)、
P01 - P10	180cm	P04 - P05	170cm	P01 - P02	157cm	P05 - P08	165cm	P深さ:23~71cm	P6：土師器 (1)、粘土塊 (1)、鉄滓 (8)、
P10 - P09	166cm	P05 - P06	158cm	P02 - P03	158cm	P06 - P07	154cm	直径:17.2cm	石器 (1)、
				P03 - P04	169cm	P07 - P06	174cm		P8：土師器 (3)、P9：石器 (1)、
									P10：石器 (2)





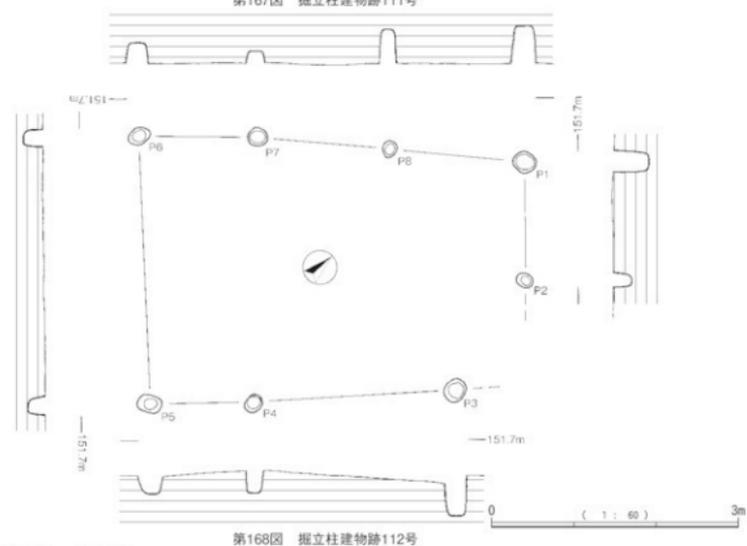
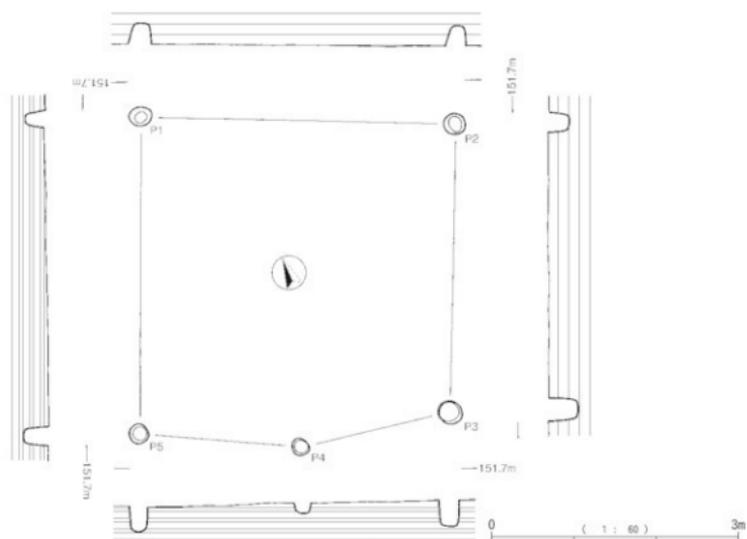
第165圖 掘立柱建物跡109号



第166圖 掘立柱建物跡110号

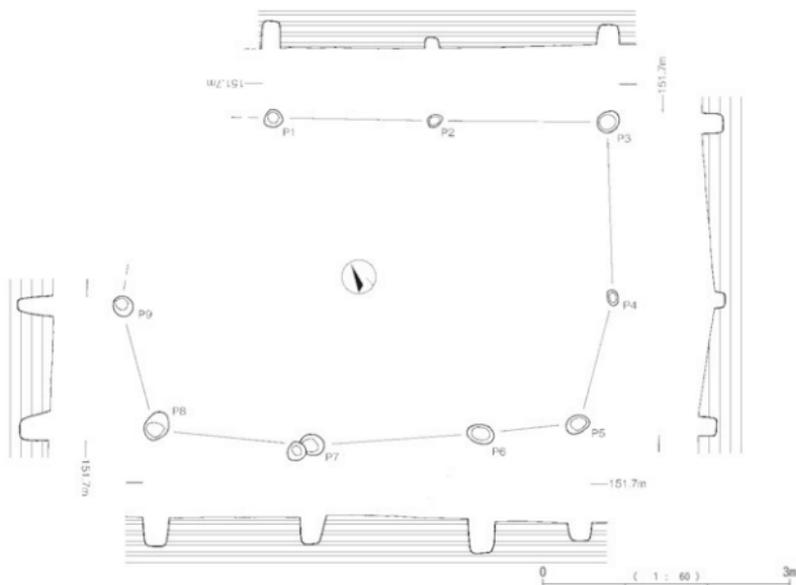
第128表 掘立柱建物跡109号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P08 - P06	262cm	平均	141cm	P08 - P01	375cm	平均	188cm	方向N34° E	P1：中世白磁 (1)、石器 (1)、近世陶磁器 (1)。
P01 - P03	273cm	平均	137cm	P06 - P03	414cm	平均	133cm	伊達母: 17~26cm	P5：土器胎 (3)、粘土塊 (2)。
P08 - P07	77cm	P01 - P02	104cm	P08 - P09	157cm	P06 - P05	152cm	伊達土: 16~60cm	P7：粘土塊 (5)
P07 - P06	205cm	P02 - P03	168cm	P09 - P01	218cm	P05 - P04	121cm	面積: 11.6㎡	
						P04 - P03	141cm		



第129表 掘立柱建物跡110号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P08 - P05	349cm	平均	116cm	P08 - P01	444cm	平均	148cm	方向N33° E	P3: 土踏縁 (2), 粘土塊 (1), 鉄滓 (2),
P01 - P04	309cm	平均	103cm					字原径: 19~30cm	P4: 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2),
P08 - P07	147cm	P01 - P02	127cm	P08 - P09	224cm			字原径: 8~84cm	P6: カムイ平石 (1), 粘土塊 (1),
P07 - P06	97cm	P02 - P03	99cm	P09 - P01	220cm			直径-	P8: 自然産 (1)
P06 - P05	104cm	P03 - P04	83cm						



第169図 掘立柱建物跡113号

土坑17号 (第171図)

E29区で検出。長軸5.6m×短軸4.5m、深さ2.3mを測る。自然の石灰岩の岩盤を利用している。用途は不明であるが、一部石灰岩に対して加工を加え階段状になっているところがある。また、底の部分には傘大の石灰岩が敷きこまれていた。土層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると考えられる。

46・47は白磁である。大宰府分類Ⅳ類とⅤ類に相当する。

II F地区

この地区は平成20年度に調査を行った。掘立柱建物跡は確認できなかったが、柱穴を68基検出した。また、西側に溝状遺構を検出している。遺物は小破片のものが多かった。

第130表 掘立柱建物跡111号計測表

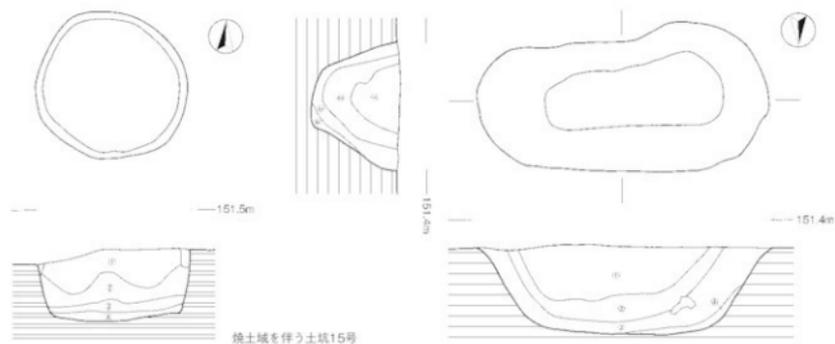
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P05 - P03	382cm	平均	191cm	P05 - P01	389cm	平均	389cm	方向N46° E	P3・粘土塊 (2)
P01 - P02	381cm	平均	381cm	P03 - P02	354cm	平均	354cm	伊直径:20~30cm	
P05 - P04	197cm	P01 - P02	381cm	P05 - P01	389cm	P03 - P02	354cm	伊直径:13~38cm	
P04 - P03	185cm							面積:14.8㎡	

第131表 掘立柱建物跡112号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P06 - P05	328cm	平均	328cm	P06 - P01	469cm	平均	156cm	方向N46° E	
P01 - P02	146cm	平均	146cm	P05 - P03	373cm	平均	187cm	伊直径:20~30cm	
P06 - P05	328cm	P01 - P02	146cm	P06 - P07	145cm	P05 - P04	126cm	伊直径:16~49cm	
				P07 - P08	161cm	P04 - P03	247cm	面積:14.3㎡	
				P08 - P01	163cm				

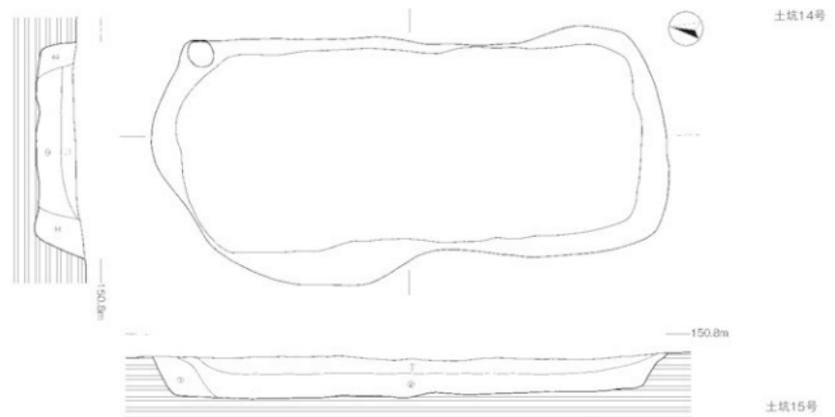
第132表 掘立柱建物跡113号計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P09 - P08	160cm	平均	160cm	P01 - P03	406cm	平均	203cm	方向N62° W	P6・土器片 (2)、粘土塊 (1)
P03 - P05	375cm	平均	193cm	P08 - P05	519cm	平均	173cm	伊直径:19~36cm	
P09 - P08	160cm	P03 - P04	215cm	P01 - P02	195cm	P08 - P07	190cm	伊直径:12~44cm	
		P04 - P05	160cm	P02 - P03	211cm	P07 - P06	208cm	面積:22.1㎡	
						P06 - P05	121cm		



焼土域を伴う土坑15号

土坑14号



土坑15号

焼土域を伴う土坑15号

- ① 褐色土、黄色ブロックが散在。
- ② 褐色土、焼土粒が混ざる。
- ③ 暗褐色土、灰化物、焼土粒が混在。
- ④ 黄褐色土、灰化物主体。

土坑14号

- ① 暗褐色土、焼土粒と灰化物が混在。若干粘質を帯び。
- ② 黄褐色土、ブロック状に黄色土が混在。焼土粒や灰化物は混入しない。
- ③ 黄褐色土、焼土粒と灰化物が混在。粘性は低いが、しりは奪る。
- ④ 黄褐色土+黄褐色土混土層、灰化物などはほとんど含まない。

土坑15号

- ① 黄褐色土、5mm程度の焼土粒や灰化物を含む。所々に黄色土のブロックが混在。粘質は低い。
- ② 黄褐色土、ほとんど同一種だが、黄褐色土の大きなブロックが混入。
- ③ 黄褐色土主体、所々に黄褐色土が混入。粘質低。

土坑16号

- ① 焼土域+灰化物混土層。
- ② 黄褐色土、灰化物が僅かに混入。



0 ( 1 : 20 ) 1m

0 ( 1 : 3 ) 10cm



151.4m



土坑16号

0 ( 1 : 10 ) 50cm

第170図 E地区土坑等実測図(3)

第133表 E地区土坑出土遺物観察表(1)

検出 No	出土区	遺構名	φ径1	部種	分類L2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
170	44	C-20	土坑15号	土器類	壺	口縁部										



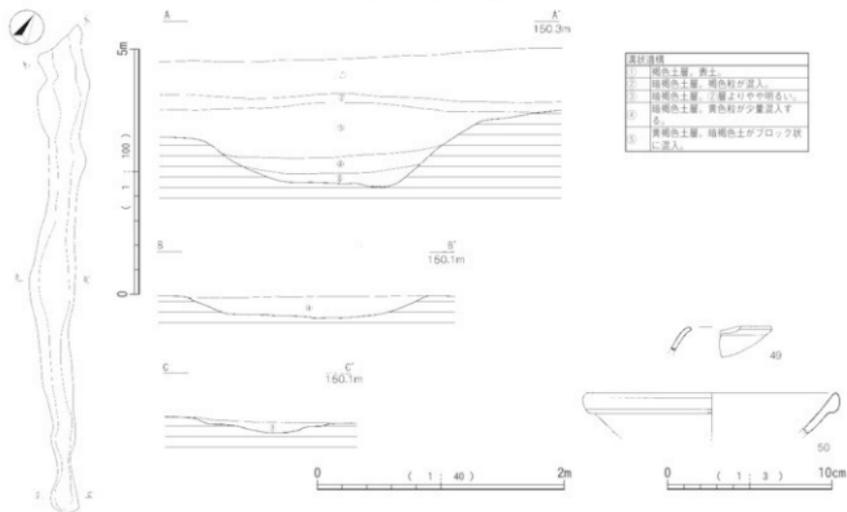
第171図 E地区土坑等実測図(4)

第134表 E地区土坑出土遺物観察表(2)

検出 No	出土区	遺物名	分類1	器種	分類2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	焼成	備考
							口径	胴径	底径	器高						
45	E-29	土坑17号	遺物	香	胴部					ナシ	平角・棒子目	灰黄色	灰黄色	良好		
46	E-29	土坑17号	石	梳	IV 口縁部							に白い黄色	に白い黄色	良好	貫入あり	
47	E-29	土坑17号	石	梳	V 底部	6.0						灰白色	灰白色	良好		



第172図 F地区詳細遺構配置図



第173図 F地区溝状遺構実測図

第135表 E地区土坑出土遺物観察表(3)

神田 No	品 No	出土区	遺構名	分組1	部種	分組L2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	地成	備考
								高さ	幅	厚さ	重量						
171	48	E-29	主017号	6群	磁石	青磁器		3.6	4.4	2.1	60g			黄褐色	黄褐色		

第136表 F地区溝状遺構出土遺物観察表

神田 No	品 No	出土区	遺構名	分組1	部種	分組L2	部位	計測値 (cm)				調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	地成	備考
								口径	胴径	底径	器高						
173	49		溝状遺構	組別第5号群	焼	口縁部								浅黄色	浅黄色	良好	表面の釉薬が剥離
	50		溝状遺構	白磁	焼	IV	口縁部	15.0						灰白色	灰白色	良好	貫入あり

## 第2節 遺物

### 1 縄文土器 (第174図 51~53)

縄文土器は5点出土した。ほとんどがN・15・16区付近の遺物包含層から出土している。3点を図化した。51・52は竊穴式土器の口縁部である。51は口縁部を肥厚させ、鋸歯状文を施す。内面には条痕が確認できる。53は無文で口縁部が肥厚する。縄文時代晩期の土器と考えられる。

### 2 兼久式土器 (第175図 54~57)

兼久式土器と見られるものは総数4点出土している。54は頸部付近に突帯を持つ。口縁部は緩やかに外反する。胎土は砂質で、ナデ整形されている。56は底部である。底径6.1cmを測る。いわゆるくびれ平底である。

### 3 黒色土器 (第176図 58~62)

黒色土器は総数14点出土しており、5点を図化した。58・59は黒色土器A類、いわゆる内黒の土器である。58は口縁の形状などから11世紀前葉~12世紀前葉頃と考えられる。60・61は黒色土器B類である。62は外面のみ黒色化している。

### 4 土師器 (第177~179図 63~95)

出土したのは口縁を「く」の字型に屈曲する甕形土器が主体であるが、埴もわずかに出土している。口縁部に明瞭な屈曲をもつ甕形土器は当時の奄美の在地土器である兼久式土器には見られない形状であり、本土系の土師器の甕形土器と考えられる。ここでは屈曲部を含む口縁部資料を中心に33点を図化した。

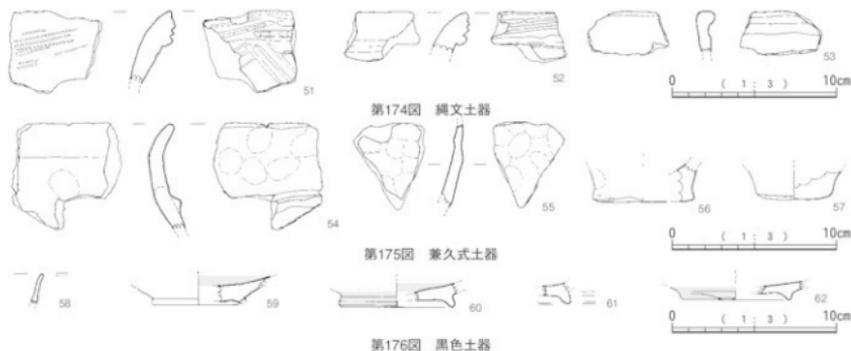
#### (1) 埴・壺

63~67・69は埴もしくは坏である。63~65は胎土に1mm前後の赤色粒を混入する。67の胎土は他の土師器埴と同様であるが、混和材が異なり、滑石様の細粒子が混入し、表面に充積を持っている。68は壺型の器形になると考えられる。タタキなどの調整は見られない。69は埴である。作りは粗く、ナデ調整のみである。内面は黒色化しており、黒色土器を模倣した在地土器ではないかと見られる。

#### (2) 甕

甕型土器は大きく分けると6種類に分けられる。

70は頸部に明瞭なケズリを持ち、薄手で端正に仕上げられるものである。内面は黒く焼かれている。搬入品であると考



第137表 縄文土器観察表

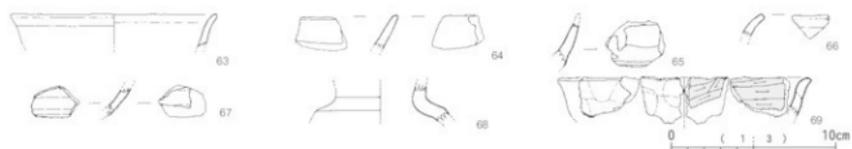
図No	群上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底底	備考	ビット
51	一丘	N16	縄文土器	深鉢	竊穴式	口縁部	胎土				暗赤褐色	暗赤褐色	良好	押し引き文・鋸歯文	
52	一丘	N15	縄文土器	深鉢	竊穴式	口縁部	砂質				褐色	暗赤褐色	良好	押し引き文	
53	一丘		縄文土器	深鉢	無文	口縁部					暗褐色	暗褐色	軟	口縁部肥厚する	

第138表 兼久式土器観察表

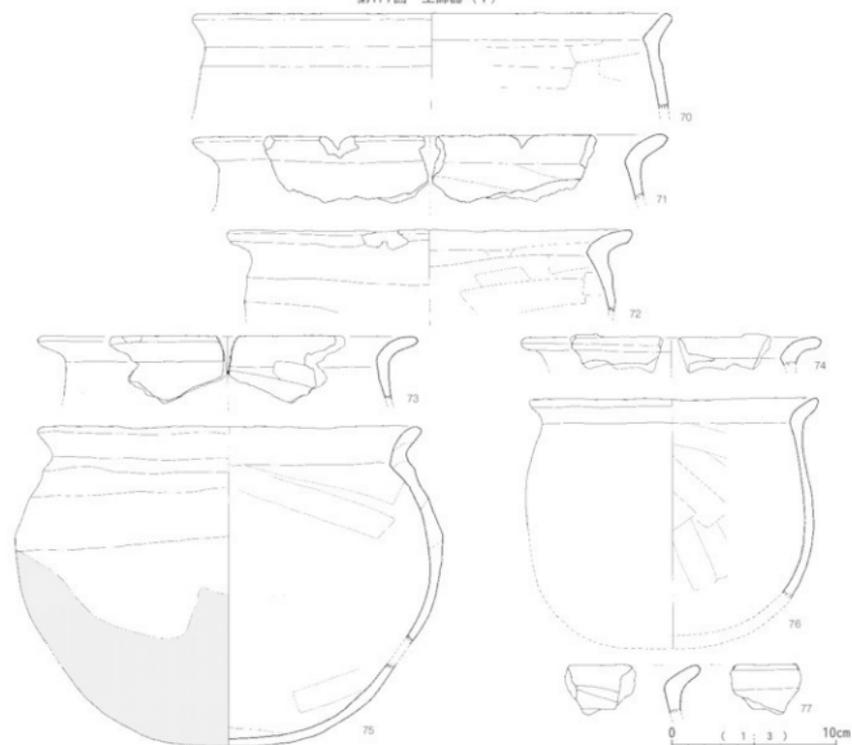
図No	群上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底底	備考	ビット
54		H10	兼久式	壺	兼久式	口縁部					暗赤褐色	暗赤褐色	軟	口縁部に調整が多く残る	H1010
55	10	Ba	K26	兼久式	深鉢	胎土					褐色	暗赤褐色	軟	内外面に土粒調整が顕著に残る	
56	293		M14	兼久式	深鉢	胎土	底径: 6.1cm				暗赤褐色	赤褐色	良好	底辺部に僅かな付帯	
57			B8	兼久式	深鉢	胎土	底径: 4.5cm				暗赤褐色	褐色	軟	底面平直にならない	SB0813

第139表 黒色土器観察表

図No	群上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底底	備考	ビット
58	一丘	B7	黒色土器	杯	A類	口縁部					黒色	暗褐色	不良	1mm程度の赤土と黒土層を交互に	SB723
59	一丘	Ba	K26	黒色土器	杯	A類	胎土	底径: 5.7cm			黒色	暗褐色	不良	1mm程度の赤土と黒土層を交互に	
60	10	Ba	K26	黒色土器	杯	A類	胎土	底径: 6.8cm			オリーブ褐色	暗褐色	不良	1mm程度の赤土と黒土層を交互に	
61	一丘	A4	黒色土器	杯	B類	胎土					暗赤褐色	赤褐色	良好	口縁部を交互に	AG415
62	一丘	B	97	黒色土器	杯	外黒	胎土	底径: 6.4cm			赤褐色	赤褐色	不良	押し引き調整	



第177図 土師器 (1)



第178図 土師器 (2)

えられる。

71~74は頸部に明瞭なケズリを持ち、口縁部が舌状に長く延びるものである。また、口縁内面は緩やかに屈曲する。

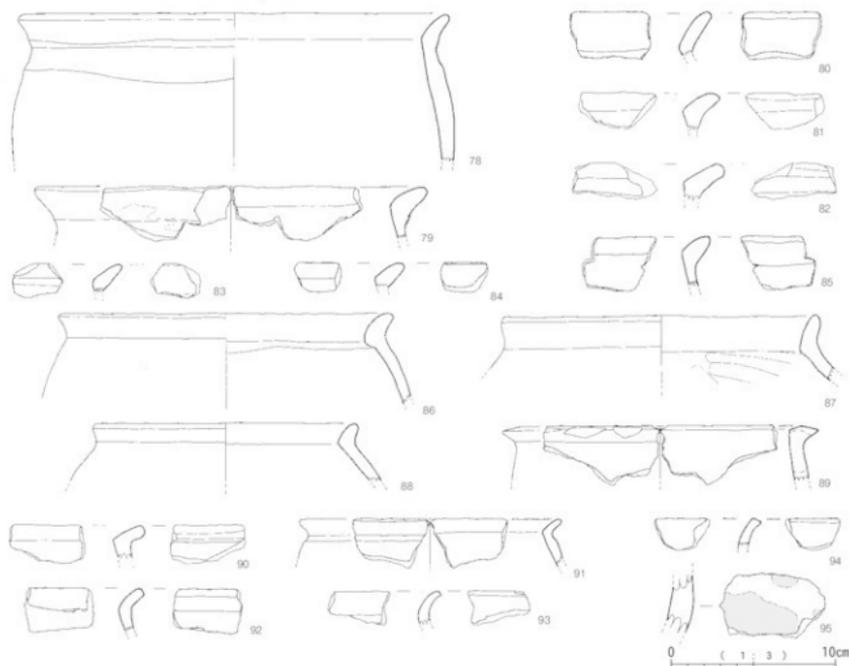
75~85は口縁部が短く、立ち気味になり、内面のケズリが弱くなるものである。75は口径22.6cm、胴径26cm、器高19.5

cmを測る。外面はナデ整形されており、やや凹凸が見られる。

76は口径17.3cm、胴径17.4cm、器高15.3cmを測る。口縁部は短く成形され、口縁部と胴部の最大径がほぼ同じである。内面にわずかにケズリの痕跡が見られる。78は内面にケズリが施されており、胴部が厚い。外器面はナデ調整されている。

第140表 土師器観察表 (1)

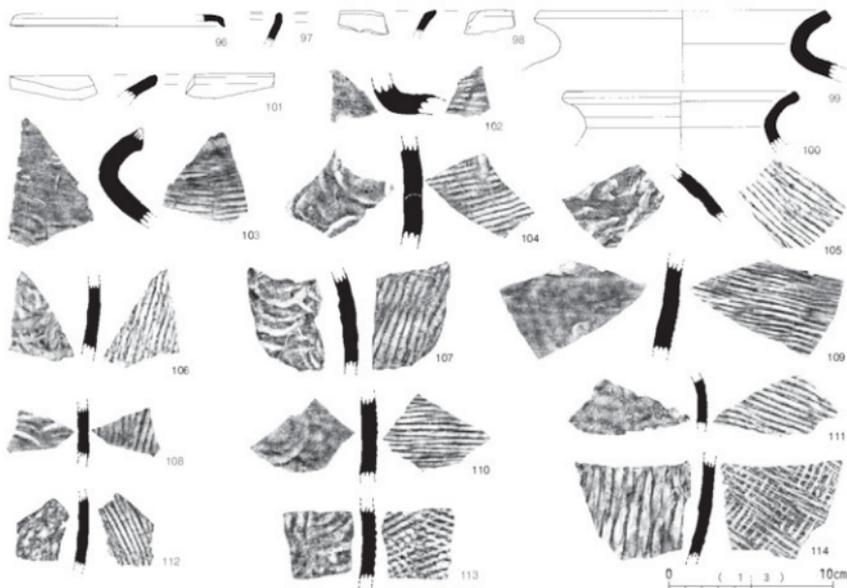
標記No	器上No	部位	出土区	中層L1	副層	中層L2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	肌感	備考	ビット
63			B10	土師器	焼		口縁部	口径: 12.2cm			褐色	浅黄褐色	やや軟	測土ニ赤色粒を認め	B1032
64	5	2a	G7	土師器	焼		口縁部				褐色	褐色	やや軟	測土ニ赤色粒を認め	
65	9	2a	G7	土師器	焼・灰		胴部		調整ナシ		褐色	褐色	やや軟	測土ニ赤色粒を認め	
66			O18	土師器	焼・灰		口縁部				褐色	褐色	やや軟	測土ニ赤色粒を認め	
67			O22	土師器	焼		口縁部				褐色	褐色	やや軟	調整ナシ	
68	一組			土師器	焼?		胴部				こいし調整色	こいし調整色	やや軟	赤土混入	P272 測土調整色OR P5
69			C28	黒色土器	焼		口縁部	口径: 15.2cm	ナシ	ナシ	黒色	黒色	良好	調整不明	P286 測土調整色OR P4



第179図 土師器 (3)

第141表 土師器観察表 (2)

検出 No	図No	取上No	層位	出土区	分類:1	器種	分類:2	部位	計測値	調査(内)	観察(外)	色調(内)	色調(外)	肌成	備考	ビット	
178	70			J22	土師器	鉢	口縁部	口径: 28.6cm	ナズリ	ナズリ	オリーブ褐色	こいし褐色	良好	内面黒丸	黒色化	P1474 (測定値物7番: P6)	
	71			K30	土師器	鉢	口縁部	口径: 29cm	ナズリ	ナズリ	褐色褐色	褐色	良好	石灰も多量		P0125 (測定値物10番: P4)	
	72			B2	土師器	鉢	口縁部	口径: 24.4cm	ナズリ	ナズリ	こいし褐色	褐色	良好	粘土層部が厚く粘り強い		B0207 (測定値物64番: P4)	
	73			C27	土師器	鉢	口縁部	口径: 23cm	ナズリ	ナズリ	こいし褐色	こいし褐色	良好			P0576	
	74	14	B x	D5	土師器	鉢	口縁部	口径: 18.6cm			褐色	褐色	良好	器底の厚さが非常に強い			
	75	一皿	B	N15	土師器	鉢	口縁-底面	口径: 22.6cm, 器底: 20cm, 高さ: 19.5cm	ナズリ	ナズリ	褐色	黄褐色	良好	器底の最大径が縮む			
	76	一皿	B	H144	土師器	鉢	口縁-器底	口径: 17.3cm, 器底: 17.4cm, 高さ: 15.3cm	ナズリ	ナズリ	—	—	良好	内面全体にナズリを打う			
	77				D1	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	こいし褐色	褐色褐色	良好	石灰も多量		P1482 (測定値物7番: P6)
	78				K24	土師器	鉢	口縁部	口径: 25.4cm	ナズリ	ナズリ	褐色褐色	黄褐色	良好	内面黒丸以下ナズリを打う		P1765 (測定値物10番: P5)
	79				D7	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色	褐色	良好	内面黒丸に粘土も粘りする		D0213
	80		B	D10	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色褐色	褐色褐色	良好			D1046 (測定値物22番: P18)	
	81	一皿	B	C7	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色	褐色	良好	内面黒丸の部分が縮む			
	82	一皿	B	M15	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色	褐色	軟	内面口縁部が平直になる			
	83				L22	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色褐色	褐色	良好	口縁部が鋭い		P1567 (測定値物4番: P7)
84		B	E8	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色	褐色褐色	良好	口縁部が鋭い		B0603 (測定値物19番: P6)		
85				C7	土師器	鉢	口縁部	口径: 22.8cm	ナズリ	ナズリ	黄褐色	こいし黄褐色	良好	口縁部の厚さが厚くなる		C0725	
86				C7	土師器	鉢	口縁部	口径: 19.4cm			こいし黄褐色	黄褐色	良好	内面黒丸直下が縮む		C0717	
87	一皿	B	M17	土師器	鉢	口縁部	口径: 18.6cm	ナズリ	ナズリ	こいし黄褐色	黄褐色	良好	口縁部が平直に粘りする				
88				C23	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.5cm			灰ナズリ	こいし黄褐色	軟	器底が厚い		P1809	
89				D22	土師器	鉢	口縁部	口径: 18.8cm	ナズリ	ナズリ	こいし黄褐色	褐色褐色	良好	器底が厚い		P0885	
90				B1	土師器	鉢	口縁部	口径: 18.8cm	ナズリ	ナズリ	褐色褐色	褐色褐色	良好	器底の厚さが非常に強い		B0120	
91				C28	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.4cm			褐色褐色	褐色褐色	中程度	内面黒丸、口縁部が縮む		P0854	
92		B	B10	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.4cm			褐色褐色	褐色褐色	良好	口縁部平直に成形する		B1012 (測定値物14番: P2)		
93				D8	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.4cm			褐色褐色	褐色褐色	軟	縮む中に外反する		D0829	
94				A9	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.4cm			褐色褐色	褐色褐色	軟	縮む中に外反する		A0921	
95				B5	土師器	鉢	口縁部	口径: 15.4cm			褐色	褐色	良好	内面一部黒色化		B0501	



第180図 須恵器 (1)

86~88は口縁部を短く成形し、内傾するものである。一部にはケズリ痕を持つものがある。

89は逆L字状に口縁を平坦に作り、口唇部を舌状に鋭く尖らすものである。

90~94は器壁の薄さなどから小型の甕になるものと考えられる。

95は厚手の胴部片である。外面の一部が赤色化している。

##### 5 須恵器 (第180~183図 96~144)

カムイヤキとは明らかに胎土・調整が異なることから、本土系の須恵器であると考えられる。須恵器は総数206点出土しており、その内49点を図化した。

###### (1) 蓋 (第180図 96)

96は須恵器の蓋である。推定径13cmを測る。1点のみ出土した。8世紀中葉とみられ、城久遺跡群内で最古の資料である。

###### (2) 碗 (第180図 98)

98は碗であると見られる。1点のみ出土している。ナデ調整が施されており、器色は灰色を呈する。

###### (3) 鉢 (第180図 97)

97は小型の鉢になるかと見られる。器面は回転ナデ調整さ

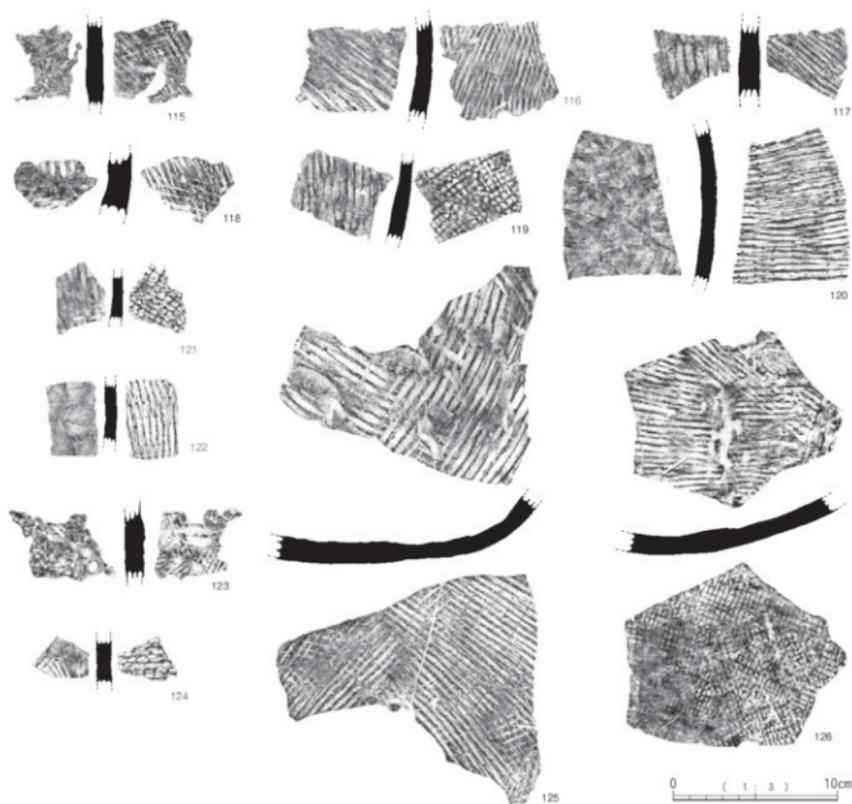
れている。束縛系須恵器の可能性が考えられる。

###### (4) 甕 (第180~181図 99~126)

99~126は甕と考えられる資料である。口縁部片は3点のみである。99~101は口縁部である。99は口径17.2cmを測る。100は泥質であるが、これは砂質である。外器面に格子目状タタキが窺える。102・103は頸部である。外器面に平行状タタキ内面に同心円状当て具痕が見える。104~111は外面に平行状タタキ・内面に同心円状当て具を有する一群である。109・111・112は同一系統のものと考えられる。114~118は外面平行状タタキ・内面平行状当て具を有する一群である。122は方形状を呈している。破断面等には擦痕は見られないが、二次的に転用しようとしたものであると考えられる。123は器表面が摩滅し、調整が不明瞭である。胎土は灰白色であり、その粉が手につくものである。124は外面格子目状・内面車輪様の当て具痕が見られる。胎土は他の一群と異なり、滑石粉が混入している。126・125は底部資料であると見られる。

###### (5) 壺 (第182図 127~137)

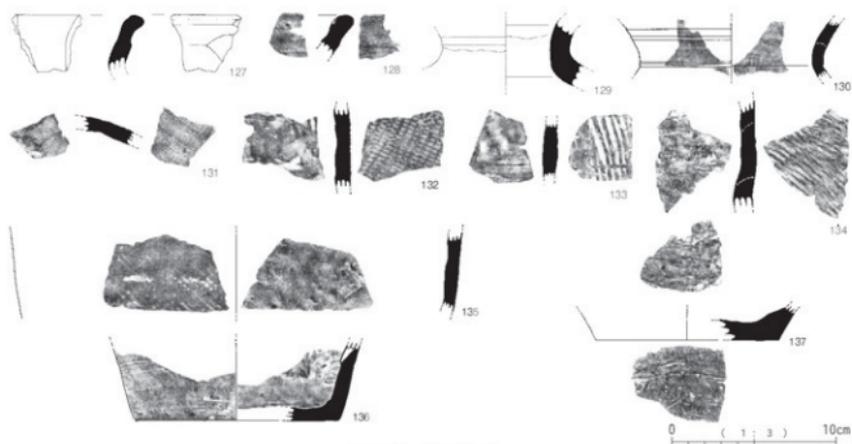
127~137は壺と考えられる。127・128は口縁部資料である。いずれも口縁部が若干肥厚するものである。130は頸部資料である。推定頸径11.1cmを測る。129に比べ、薄く丁寧に成形されている。回転ナデ調整されている。131~135は胴部資



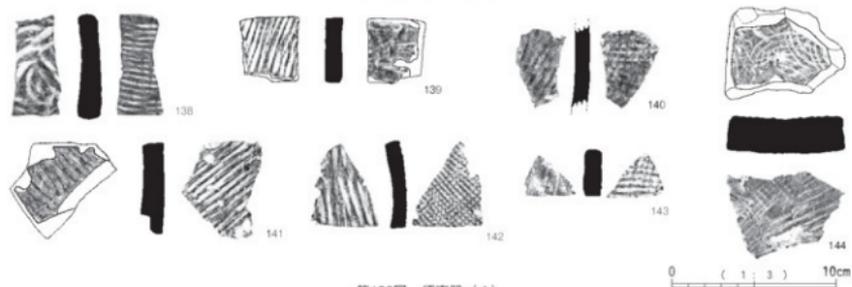
第181図 須恵器(2)

第142表 須恵器観察表(1)

標記 No	図No	取上No	部位	出土区	年別1	器種	年別2	部位	計測値	経管(内)	経管(外)	色線(内)	色線(外)	組成	備考	ビット
96		D8	須恵器	須		須部		直径13cm	須胎ナテ	須胎ナテ	褐色色	灰色	黒研	須土に白色粘土を混	D067 須土地区物14号	P0
97		C6	須恵器	須		C須部			須胎ナテ	須胎ナテ	褐色色	褐色色	黒研	須部須土混和	C0605	
98		E5	Z1	須恵器	須	C須部			須胎ナテ	須胎ナテ	褐色色	灰色	黒研	1cm程の白色・褐色粘土を混		
99	一住	B6	須恵器	須		C須部		口径: 17.2cm	須胎ナテ	須胎ナテ	灰色	灰白色	黒研			
100	7	B	E7	須恵器	須	C須部		口径: 18.4cm	ナテ	ナテ	褐色色	褐色色	黒研			
101			C7	須恵器	須	C須部			ナテ	ナテ	褐色色	灰白色	黒研		C0725	
102			J22	須恵器	須	須部			ナテ	ナテ	褐色色	灰褐色	黒研		P1445	
103			B4	須恵器	須	須部			ナテ・須土	平付・ナテ	褐色色	灰色	黒研		3048 須土地区物10号	P01
104			C11	須恵器	須	須部			須土	平付	灰色	灰色	黒研	内外面やや摩滅	C1163	
105	一住		M17	須恵器	須	須部			須土	平付	灰色	灰色	黒研			
106	7	B	a	須恵器	須	須部			須土	平付	褐色色	灰白色	黒研			
107			B6	須恵器	須	須部			須土	平付	灰白色	灰白色	黒研		B0015	
108			C11	須恵器	須	須部			須土	平付	灰色	灰色	黒研		C1169	
109			D28	須恵器	須	須部			無文	平付	こいれ褐色	褐色色	黒研	内面は丁寧にナテされている	P081 須土地区物10号	P0
110			D28	須恵器	須	須部			須土	平付	褐色色	灰白色	黒研		P078 須土地区物10号	P0
111	一住		L35	須恵器	須	須部			ナテ	平付	灰色	灰白色	黒研	須部混和		
112			D23	須恵器	須	須部			平付	褐色色	こいれ褐色色	褐色色	黒研	内外面混和	P1425 須土地区物14号	P01
113			A6	須恵器	須	須部			須土	平付	灰色	灰色	黒研	内外面混和	A0006	
114			B5	須恵器	須	須部			平付	平付	褐色色	こいれ褐色色	黒研	混和されている	B0039 須土地区物10号	P01



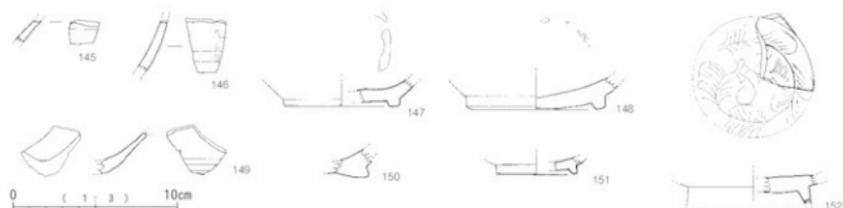
第182図 須恵器 (3)



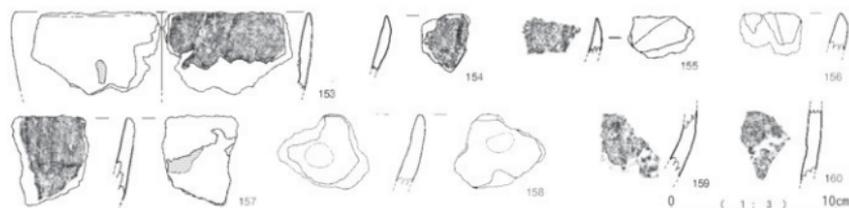
第183図 須恵器 (4)

第143表 須恵器観察表 (2)

編年No	取上No	層位	出土区	分類1	形状	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	地層 (内)	地層 (外)	底紋	備考	ビット	
181	115	一區	87	須恵器	鉢	胴部	ナデ	平行	灰色	灰色	良好		表面無底紋。			
	116	205	8	M17	須恵器	鉢	胴部	平行	深褐色	灰オレンジ色	良好		表面を磨いている。			
	117			C10	須恵器	鉢	胴部	平行	平行	シロい褐色	黄灰色	良好		外面は自然輪がわかる。	C1089	
	118	一區	87	須恵器	鉢	胴部	ナデ	平行	黄灰色	シロい褐色	良好		外面は自然輪がわかる。			
	119			C05	須恵器	鉢	胴部	ナデ	格子目	黄灰色	黄灰色	良好		加土は植物。	P0569	
	120			B01	須恵器	鉢	胴部	無文	平行	黄灰色	シロい褐色	良好		外面は自然輪がわかる。	30374	
	121	一區	Q21	須恵器	鉢	胴部	ナデ	格子目	黄灰色	黄褐色	良好			加土は植物。		
	122	一區	Q21	須恵器	鉢	胴部	無文	平行	黄灰色	黄褐色	良好			外面は自然輪がわかる。		
	123			B01	須恵器	鉢	胴部	ナデ	平行	深褐色	灰オレンジ色	良好		表面が美しい。下の山手か。	96125	
	124	一區	L15	須恵器	鉢	胴部	ナデ	格子目	灰色	灰色	良好		加土に赤色混入。			
	125			B9	須恵器	鉢	胴部	無文	平行	深褐色	シロい褐色	良好		二点検出。	30374	
	126			C9	須恵器	鉢	胴部	ナデ	格子目	灰色	灰色	良好			C0990	
182	127		8	27	須恵器	鉢	口縁部	回転ナデ	平行・斜ナデ	灰色色	灰色色	良好		一區。自然輪がわかる。		
	128			C8	須恵器	鉢	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰オレンジ色	オレンジ黄褐色	良好		自然輪がわかる。	C0806	
	129	一區	87	須恵器	鉢	胴部	調整：7.6cm	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	黄褐色	良好		自然輪がわかる。		
	130			C23	須恵器	鉢	胴部	調整：11.5cm	回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	良好			P0940
	131			B5	須恵器	鉢	胴部	ナデ	ナデ	カキ目	シロい褐色	灰色	良好			30531
	132			C5	須恵器	鉢	胴部	ナデ	格子目	灰色色	灰色色	やや乾				C0504
	133	12	8a	C01	須恵器	鉢	胴部	ナデ	平行	深褐色	シロい黄褐色	良好				
	134			M15	須恵器	鉢	胴部	ナデ	平行	黄褐色	灰色褐色	良好			一區。自然輪がわかる。	P2152
	135			B01	須恵器	鉢	胴部	調整：26cm	ナデ	格子目	黄褐色	黄褐色	良好		表面無底紋。	96115
	136			B5	須恵器	鉢	胴部	調整：12.4cm	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	灰色	良好		Theracの白色色粘土を含む。	30336 (須恵器調査隊) P41
137	一區	M14	須恵器	鉢	胴部	調整：11cm	回転ナデ	回転ナデ	灰色色	シロい褐色	良好					



第184図 越州窯系青磁



第185図 布目庄灰土器

料である。外器面には格子目状や平行状のタキ痕が見られる。136・137は底部資料である。推定底径12.4cmを測り、胎土に1mm程度の白色粒子を多く含む。全体的に粗質な感じを受ける。外面・内面ともに回転ナデ調整されている。

(6) 須恵器転用品 (第183図 138~144)

138~144は須恵器片に二次加工痕跡が見られるものである。138は断面上下を擦る、方形状製品である。全体的に摩滅している。断面部は一部凹んでおり、かなり使い込まれている。

139・140は表面が摩滅しているものである。141~143は破断面に擦痕が認められるものである。144は破断面にケズリを入れたような痕跡が見られる。

6 越州窯系青磁 (第184図145~152)

越州窯系青磁は総数13点出土している。古代を代表する遺物であり、国衙・群衛に相当すると考えられる遺跡から出土するとされる。8点を図化した。

145~148は大宰府分類Ⅰ類に相当する。146は体部外面

第144表 須恵器観察表 (3)

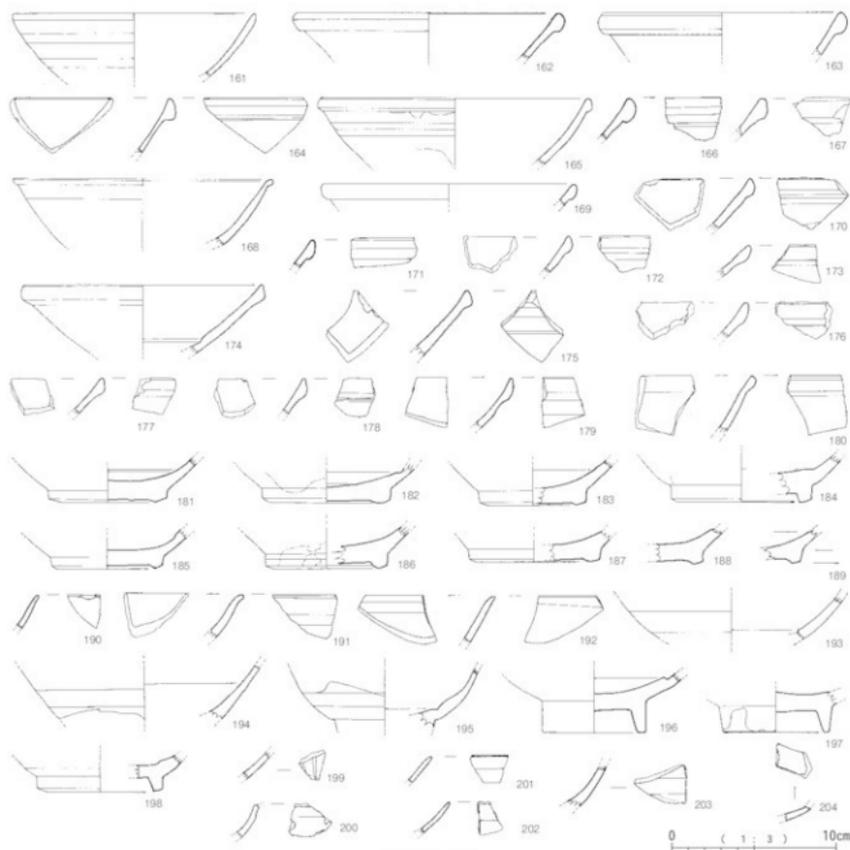
検出No	図No	取上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底成	備考	ビット
183	138		C9	須恵器部	須	私用品	須部	底面		同心円	平行	灰白色	灰白色	良好	断面4層を穿っている	CO939
	139	7	Ba	H25	須恵器部	須	私用品	須部		ナデ	平行	灰黄色	灰黄色	良好	5次加工。内面:若干磨滅あり。	
	140	6	Ba	H25	須恵器部	須	私用品	須部		ナデ	格子目	黄灰色	灰色	良好	内外面調整	
	141		Ba	Z7	須恵器部	須	私用品	須部		平行	平行	灰黄色	黄灰色	良好	破断面調整。内外面調整。	
	142		A6		須恵器部	須	私用品	須部		ナデ	格子目	灰白色	灰白色	良好	1層に2層の調整痕みがある	A0408
	143		M19		須恵器部	須	私用品	須部		ナデ	格子目	灰黄色	灰色	良好	調整にナデを穿っている。	P1346
144	一皿		O17	須恵器部	須	私用品	須部		同心円	平行	灰色	黄灰色	良好	調整にナデを穿っている。		

第145表 越州窯系青磁観察表

検出No	図No	取上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底成	備考	ビット
184	145	4	Ba	D6	越州窯系青磁	Ⅰ	須部					灰黄色	灰黄色	良好	調整はほとんど良好している	
	146	一皿		灰土	越州窯系青磁		須部					黄灰色	黄灰色	良好	内面:6層を穿っている。取付痕。	
	147	一皿			越州窯系青磁		11b	底面	底径: 6.3cm			灰色	灰オレンジ色	良好	内面:ほとんど調整痕あり。底面:調整痕あり。	
	148	一皿	8	カ22	越州窯系青磁		12c	底面	底径: 7.4cm			黄褐色	オレンジ色	良好	内面:縁のみ調整痕あり。	
	149		C8		越州窯系青磁			須部				灰オレンジ色	灰オレンジ色	良好	体部調整あり。	CO817
	150	一皿	1T		越州窯系青磁		Ⅱ	底面				灰色	オレンジ色	良好		
	151	一皿	Ba		越州窯系青磁		Ⅲ	底面	底径: 4.9cm			灰オレンジ色	灰オレンジ色	良好		
	152	一皿			越州窯系青磁		Ⅲb	底面	底径: 7.7cm			灰オレンジ色	灰オレンジ色	良好	底面に目録あり。	

第146表 布目庄灰土器観察表

検出No	図No	取上No	層位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	底成	備考	ビット
185	153		C9	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部	口径: 17.7cm				褐色	褐色	良好	内面:輪郭調整あり	CO660
	154		C9	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					褐色	黄褐色	良好		CO689
	155		H20	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					黄褐色	黄褐色	良好	内面:輪郭調整あり	PO072
	156		B8	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					黄褐色	黄褐色	良好	内面:輪郭調整あり	SO603
	157		C9	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					黄褐色	黄褐色	良好	内面:輪郭調整あり	CO660
	158		B3	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					褐色	褐色	良好	布目庄調整ではない	SO146 須恵器類転用品 FS
	159		C9	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					黄褐色	黄褐色	良好	内面:輪郭調整あり	CO660
	160		E24	布目庄灰土器		Ⅰ	口縁部					黄褐色	黄褐色	良好	内面:輪郭調整あり	PO907



第186図 白磁

に拖押圧縦線を有する。147は推定底径6.3cmを測る底部である。大宰府分類Ⅱ1b類に相当する。約1/4残存しており、見込み部に目跡が確認できる。148は破断面が捲られており、二次的的加工を受けている。150は大宰府分類Ⅱ類の底部である。152は大宰府分類Ⅲ1b類の底部である。推定底径7.7cmを測る。内面には毛彫り文が施されている。高台裏には目跡痕が残る。

#### 7 布目圧痕土器 (第185図 153~160)

布目圧痕土器は総数43点出土しており、図化したのは8点である。いずれも胎土中に1mm程の白色粒や砂粒状の粒子を含む。内面に布目跡が見られ、桶巻痕かと考えられる筋が段状についていた。色調は赤褐色や橙色を呈す。破片のため、全体の形状が不明なものが多かった。

153~158は口縁部の破片である。口唇部を舌状に脱く作るものから若干厚みを持つものまで見られた。153は推定口径17.7cmを測る口縁部である。153・157には外面に煤が付着していた。158は内面の布目痕は不鮮明であったが、胎土などからこの類に分類した。

#### 8 白磁 (第186図 161~204)

白磁は総数199点出土している。そのうち図化できたのは44点である。出土した器種は碗・皿が得られ、碗が最も多く出土した。

161は口径14.6cmを測り、薄手の細い玉縁を持つ。大宰府分類Ⅱ類に相当する。

162~189は大宰府分類Ⅳ類、玉縁を有する碗の口縁部・底部である。162~180は口縁部である。玉縁が大きく、折り



第187図 初期高麗青磁

返して玉縁を作るものや、玉縁部を削りだして作るものなど厚手のものから薄手のものまで出土している。181～189は大宰府分類Ⅳ類の底部である。181～184は内面見込みで段を有するものであり、大宰府分類Ⅳ1a類に相当する。203は華南系の白磁片である。

190～197は大宰府分類Ⅴ類、口縁端部を直口・端反させているものである。

198は大宰府分類Ⅵ類に相当するものである。

199は大宰府分類ⅩⅡb類に相当するとみられる。外器面に線状痕跡が見られる。

200～204は小碗・皿類である。

### 9 初期高麗青磁 (第187図 205-210)

初期高麗青磁は象徴技法が主たる施文技法となる以前の高麗青磁である。8点出土しているが、確認できたものはいずれも小片であり、大宰府分類Ⅲ類に当たる。205は口縁部片である。胎土は粗質であり、器表面は淡緑色を呈する。

### 10 朝鮮系無軸陶器 (第188図 211-228)

76点出土した。朝鮮系無軸陶器である可能性のものは胎土の状況から3種類考えられる。

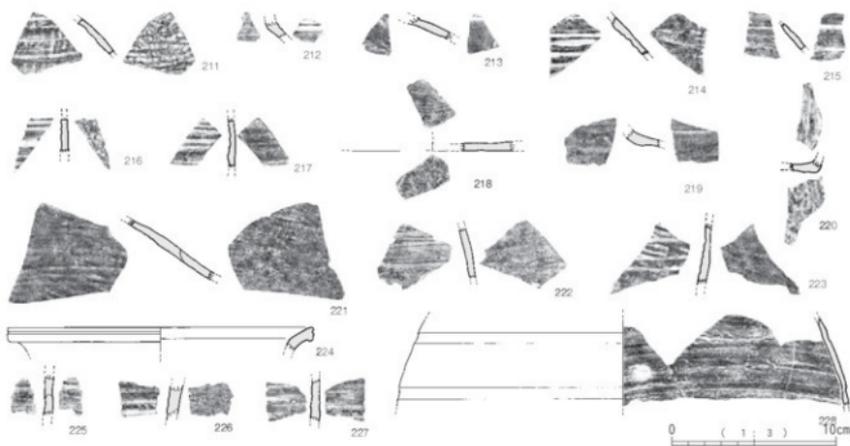
A群：器壁は非常に薄く、タケキ痕や当て具痕は丁寧にナテ消される。胎土は白い線状の帯が混ざり込んでおり、

第147表 白磁観察表

種別 No	図No	取上No	部位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	観察 (内)	観察 (外)	色調 (内)	色調 (外)	胎底	備考	ビット	
186	161	261	M14	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 14.6cm			淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい		
	162	337	M15	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 15.6cm			淡白色	淡白色	良好	内外面滑らか		
	163	一組	表保	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 14.4cm			淡白色	淡白色	良好	内面釉がガラス球になる。		
	164		B5	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	B0501	
	165	一組	皿	B6	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 16cm			淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい	
	166	50	S	C28	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	口の小さい		
	167	386		M15	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	滑らか		
	168	一組	表土	117	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 15.4cm			淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい	
	169	表土	117	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 15cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか		
	170	一組	表保	H17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	滑らか		
	171		C9	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	口縁が折角	IC0903C0993	
	172		17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい		
	173	360		M14	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	滑らか		
	174		B6	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい		
	175	一組	皿	M13	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部	口径: 14.4cm			淡白色	淡白色	良好	口元のふちが折角	B6115
	176	一組	皿	17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい		
	177	一組	皿	17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	滑らか		
	178	一組	皿	17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部			淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい		
	179		B6	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい	B6101	
	180		H20	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	玉縁が小さい	P1296	
181		M19	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部	径値: 5.6cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか	P2168		
182		G16	白磁	Ⅳ	碗	M1a	底部	径値: 6.7cm			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか	P1940 国立博物館蔵 P12		
183	表土	H17	白磁	Ⅳ	碗	M1a	底部	径値: 5.2cm			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか	P1940 国立博物館蔵 P12		
184	一組	27	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部	径値: 7.6cm			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか			
185		B6	白磁	Ⅳ	碗	M1b	底部	径値: 6cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか	B6115		
186	一組	27	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部	径値: 6.3cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか			
187		B2	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部	径値: 7cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか	B0250		
188	一組	M13	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい			
189	一組	皿	B2	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか			
190		E03	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	底部				淡白色	淡白色	良好	滑らか	P0944		
191	一組	表保	白磁	Ⅳ	碗	V2a	底部				淡白色	淡白色	良好	光沢のある胎土が折角	P0920 国立博物館蔵 P46		
192		E24	白磁	Ⅳ	碗	V2b	底部				淡白色	淡白色	良好	口縁部内側に滑らか	P0944		
193		E25	白磁	Ⅳ	碗	V	底部	径値: 12.4cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか	P0961 国立博物館蔵 P12		
194		L20	白磁	Ⅳ	碗	V	底部	径値: 12.7cm			淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	P2316		
195	一組	I	白磁	Ⅳ	碗	V	底部	径値: 6.6cm			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか			
196	一組	表保	白磁	Ⅳ	碗	V	底部	径値: 6.2cm			淡白色	淡白色	良好	滑らか			
197	一組	表保	白磁	Ⅳ	碗	V	底部	径値: 6.4cm			淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい			
198	一組	B b	F165	白磁	Ⅳ	碗	底部	径値: 6.5cm			淡白色	淡白色	良好	見込みに滑らか			
199		B6	白磁	Ⅳ	碗	X B 1b	底部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	B0645		
200	一組	B c	27	白磁	Ⅳ	碗	V2	口縁部			淡白色	淡白色	良好	滑らか			
201		P17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	P259 国立博物館蔵 P46		
202	一組	S	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	滑らか			
203		D17	白磁	Ⅳ	碗	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	P1167 国立博物館蔵 P46		
204	一組	F15	白磁	Ⅳ	碗	V2a	底部				淡白色	淡白色	良好	滑らか	P0958 国立博物館蔵 P46		

第148表 初期高麗青磁観察表

種別 No	図No	取上No	部位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	観察 (内)	観察 (外)	色調 (内)	色調 (外)	胎底	備考	ビット
187	205	一組	B a	27	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	
	206		C23	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部					淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	
	207	一組	C21	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部					淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	
	208	一組	M14	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部					淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	
209		F15	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部					淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい	P6778 国立博物館蔵 P46	
210	13	B a	27b	初期高麗青磁	Ⅳ	Ⅳ	口縁部				淡白色	淡白色	良好	胎土が細かい		



第188図 朝鮮系無釉陶器

(1) 碗

カムイヤキ分類Ⅱ類に該当する(伊仙町教育委員会 2005)。249は推定口径12.1cmを測る。口唇部内面は緩やかであるが、外面はやや舌状に突る。器壁はやや厚めである。

(2) 甕・壺

229～243は精製された胎土を使用した一群である。外器面に被紗状タタキを残すものが多い。244～248は胎土に白色粒を多く含む、粗質な一群である。内面には格子目当て具痕を有する。

250～260は口縁部資料である。250～255は口縁端部が鋭く、明瞭な稜線を有する一群である。256～258は口唇部を平坦に成形するものである。259は口縁がゆるやかな曲線を描いており、白磁玉縁を模倣した可能性が高い。

261～273は胴部上半資料である。径が復元できたものは4点である。頸部付近では外面を平行状タタキ・内面を格子状目当て具で調整したものが多く、胴部最大径近くの資料では

堆積状に見えるもの。

B群：器壁はやや厚くなるが、丁寧にナデられている。胎土は混和材をほとんど含まず、わずかに白色の帯が見える。

C群：胎土はA類と同様であるが、器表面まで堆積状になるもの。

A群は212～217, B群は211・218～223, C群は224～228が該当する。器壁がやや厚いものから薄いものまで見られた。

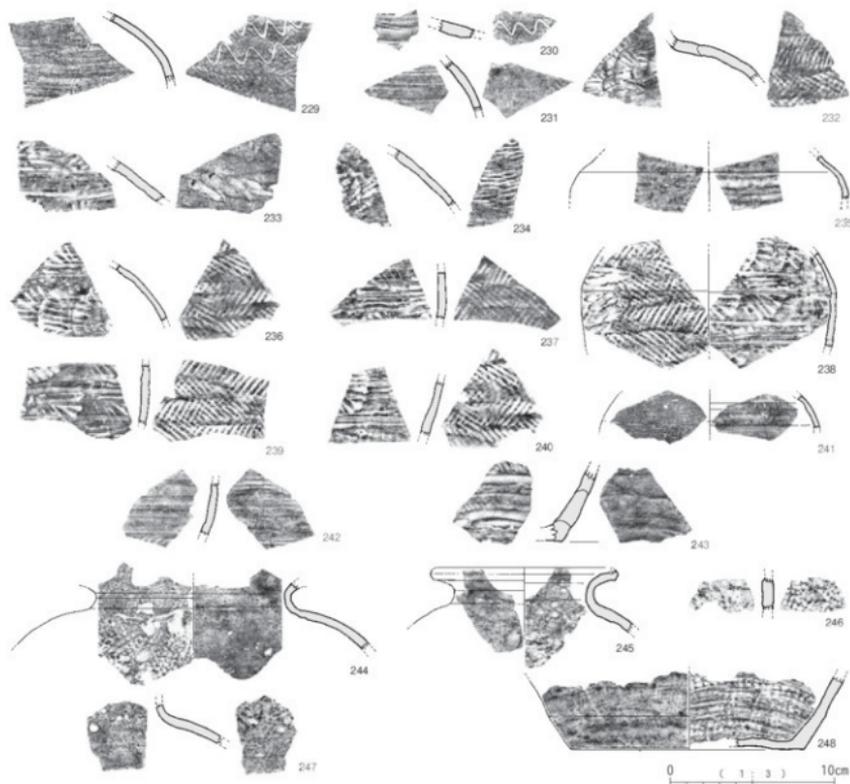
11 カムイヤキ (第189～192図 229～297)

カムイヤキは徳之島伊仙町で製作された陶器である。鹿児島～沖縄まで広範囲に分布する。カムイヤキは窯で還元焰焼成される。器の表面は青灰色を呈するが、芯部まで還元されないため、赤褐色の色調を示すものが多い。胎土には微細な白色粒を含むことを特徴とする。

総点数327点出土しており、図化できたのは49点である。

第149表 朝鮮系無釉陶器観察表

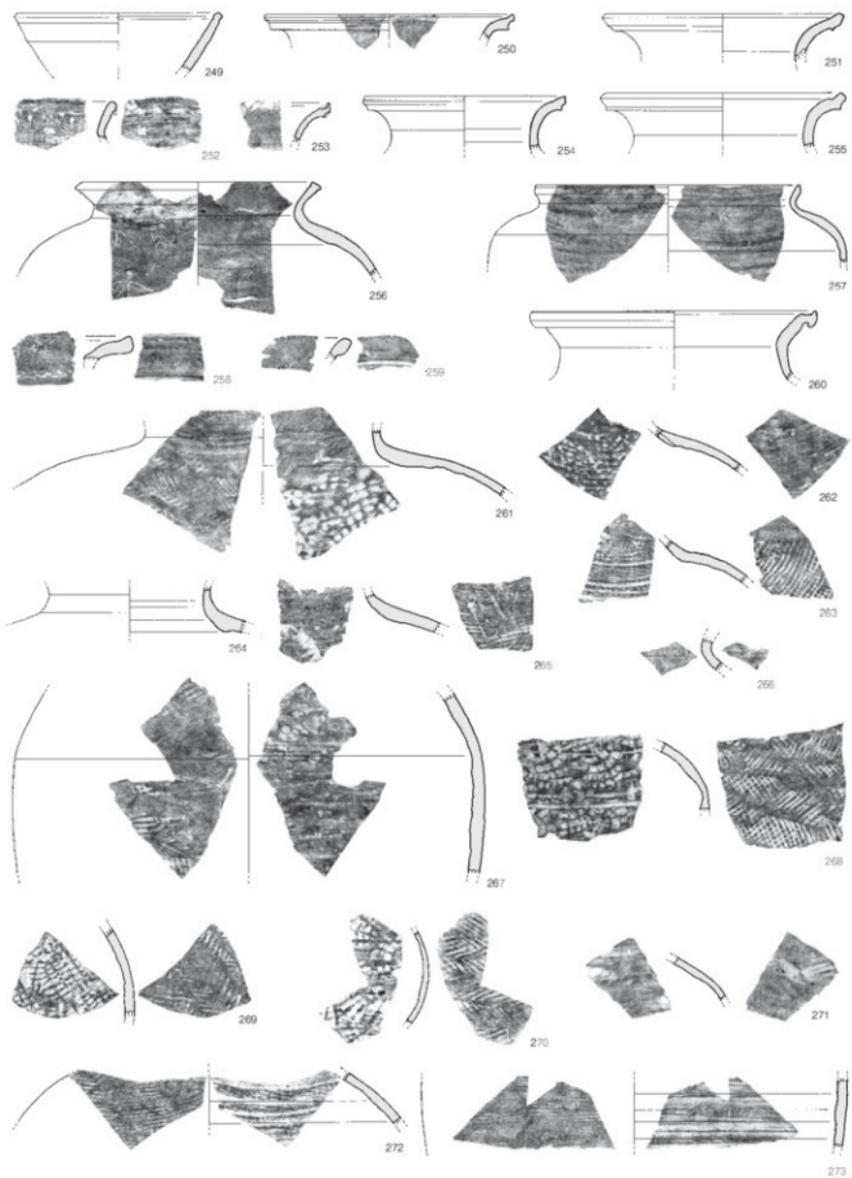
標記No	図No	器位	出土	分組1	部類	分組2	部類	計測値	器壁(内)	器壁(外)	色調(内)	色調(外)	形状	備考	ビード		
186	211	33	2a	H26	朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		ナデ	筒状ナデ	黄灰色	灰オリーブ色	良好		加土層構造		
	212	16	2a	H27	朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		ナデ	ナデ	灰色	黄灰色	良好		加土層構造		
	213		4.7	K7	朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		ナデ	ナデ	灰色	黄灰色	良好		加土層構造		
	214		5.9	S9	朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		ナデ	格子	灰色	灰色	良好		加土層構造	30916	
	215	一伝	表保			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	平行	灰色	オリーブ灰色	良好		加土層構造	
	216		C9			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ		灰色	灰オリーブ色	良好		C0992	
	217		C9			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ		灰色	灰オリーブ色	良好		C0947	
	218	一伝	裏	9F		朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ		灰色	灰色	良好		加土層構造	
	219	17	2a	G5		朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	筒状ナデ	灰色	黄灰色	良好		頸部内面に目張り	
	220	一伝	表保			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ		オリーブ灰色	オリーブ灰色	良好		加土層構造	
	221		87			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		ナデ	ナデ	灰色	灰色	良好		30707 環状土器群(4) P(2)	
	222	1	2a	J23		朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	ナデ	灰	灰	良好		加土層構造	
	223		84			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		平行	ナデ	灰色	灰オリーブ色	良好		加土層構造	30425
	224	一伝	表保			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部	口径: 16.2cm	ナデ	筒状ナデ	黄オリーブ灰色	オリーブ灰色	やや軟		加土層構造	
	225		表保			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	ナデ	灰色	灰色	やや軟		加土層構造	
	226	一伝	裏	26I		朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	ナデ	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好		加土層構造	
	227	一伝	裏	27		朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部		筒状ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	やや軟		加土層構造	
	228		81I			朝鮮系無釉陶器	口唇	胴部	口径: 27.2cm	筒状ナデ	筒状ナデ	灰色	灰色	やや軟		加土層構造	31103 環状土器群(7) P(5)



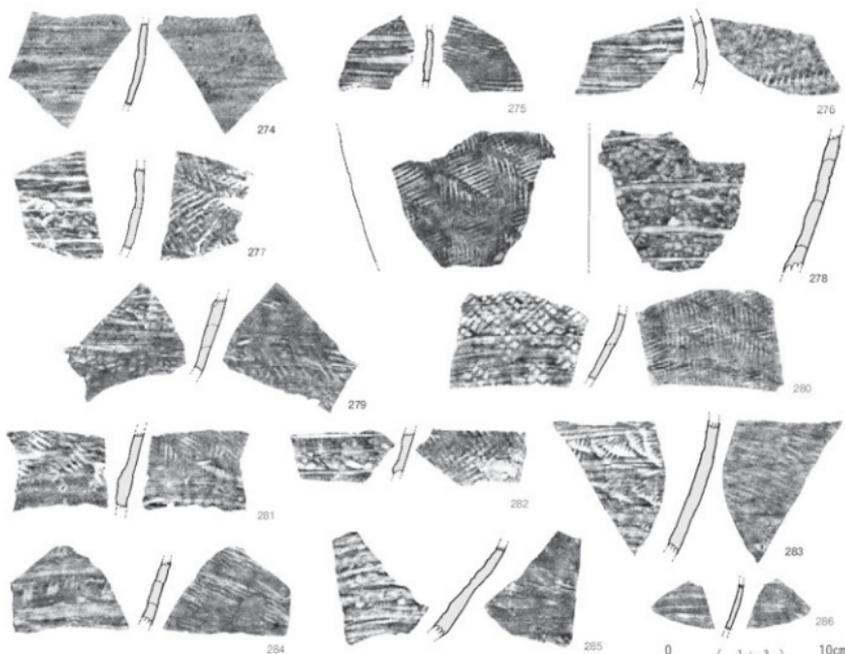
第189図 カムイヤキ (1)

第150表 カムイヤキ観察表 (1)

採集No.	図No.	取上No.	層位	出土区	分類1	図様	分類2	部位	計測値	調査(内)	調査(外)	色調(内)	色調(外)	形状	備考	ビット
189	229	一組		N17	カムイヤキ			裏面		回転ナデ	縞紗	灰色	灰色	良好		
	230	一組	鏡川左岸	R20	カムイヤキ			裏面		回転ナデ	縞紗	灰色	灰色	良好	遺跡文あり	
	231	一組		N17	カムイヤキ			裏面		回転ナデ	ナデ	黄灰色	黄灰色	良好		
	232	一組	鏡川左岸	R18	カムイヤキ			裏面		縞紗	縞紗	褐色	褐色	良好		
	233	339		M15	カムイヤキ			裏面		格子	ナデ	黄灰色	灰色	良好		
	234	一組	Ⅱ	2T	カムイヤキ			裏面		格子	平行	黄灰色	黄灰色	良好		
	235			C10	カムイヤキ			裏面	長さ: 16.8cm	回転ナデ	ナデ	褐色	黄灰色	良好		C1008
	236	一組		M14	カムイヤキ			裏面		縞紗	縞紗	灰色	オリーブ灰色	良好		
	237	一組		M15	カムイヤキ			裏面		縞紗	縞紗	黄灰色	暗緑灰色	良好		
	238	一組		L15	カムイヤキ			裏面	長さ: 20.6cm	縞紗	縞紗	黄オリーブ灰色	暗黄灰色	良好		
	239	一組		M14	カムイヤキ			裏面		縞紗	縞紗	黄灰色	黄オリーブ灰色	良好		
	240	一組		L15	カムイヤキ			裏面		縞紗	縞紗	黄灰色	オリーブ灰色	良好		
	241	一組		L14	カムイヤキ			裏面	長さ: 17.8cm	回転ナデ	ナデ	灰色	オリーブ灰色	やや劣		
	242	6	Ⅱa	J28	カムイヤキ			裏面		回転ナデ	ナデ	灰色	灰色	良好		
	243			B5	カムイヤキ			裏面		ナデ	ナデ	灰色	灰色	良好		
	244	一組	Ⅱ	B6	カムイヤキ	巻		裏面	長さ: 11.7cm	格子	ナデ	黄オリーブ灰色	暗黄灰色	良好	加土研習 - 北沢様土持ッ	
	245			A6	カムイヤキ	巻		二層底	□径: 10.6cm	格子	ナデ	黄灰色	オリーブ灰色	良好	加土研習 - 北沢様土持ッ	A0616
	246	一組		B6	カムイヤキ	巻		裏面		縞紗	縞紗	黄灰色	オリーブ灰色	良好	加土研習 - 北沢様土持ッ	
247			B6	カムイヤキ	巻		裏面		格子	ナデ	灰色	黄オリーブ灰色	良好	加土研習 - 北沢様土持ッ	B0618	
248			A6	カムイヤキ	巻		裏面	長さ: 14.4cm	格子	平行	灰色	暗緑灰色	良好	加土研習 - 北沢様土持ッ	A0620	



第190図 カムイヤキ (2)



第191図 カムイヤキ (3)

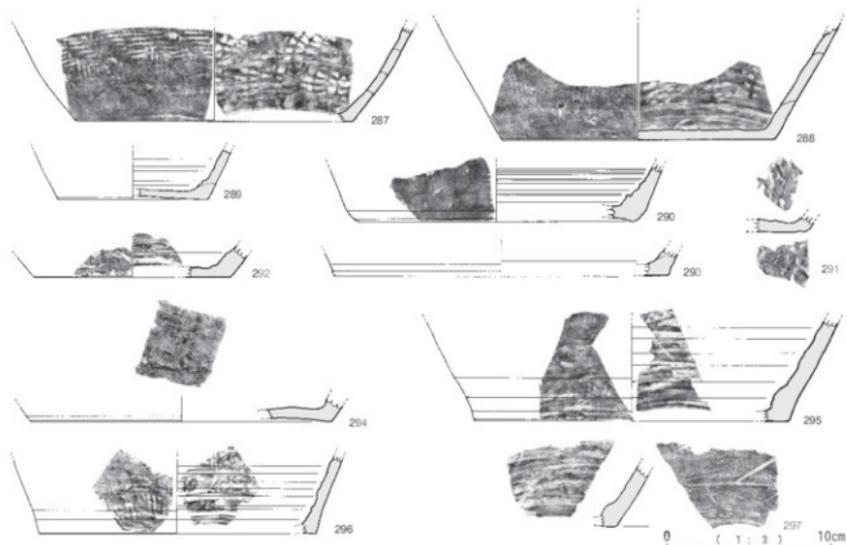
外面綾杉状タタキ・内面格子目状当て具痕を有するもの多く見られる。271～273のように外面を平行状タタキ・内面を丁寧にナデ消すものもある。

274～286は下胴部の破片である。274～276は外面を平行状

タタキ・内面を丁寧にナデ消すものである。その他に外面綾杉状・内面格子状の組み合わせや、外面平行状・内面格子状などの組み合わせが見られる。また、283は内面に特徴的な扇状の当て具痕を持つものである。

第151表 カムイヤキ観察表 (2)

標記No	器名No	部位	出所	分類	器種	当取上	部位	計測値	調整(内)	調整(外)	色調(内)	色調(外)	痕底	備考	ビント
249	A6	カムイヤキ	樺	漆	口縁部	口徑	12.1cm	ナデ	ナデ	褐色色	褐色色	良好	白銅刀痕跡あり	A0920	
								口縁部	口徑	14.8cm	ナデ	褐色色	褐色色	良好	P088 縄文地産物(内・外)
251	一皿 並	F85	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑	14.0cm	回転ナデ	回転ナデ	褐色色	灰色	良好			
252	375	M15	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑		回転ナデ	回転ナデ	褐色色	灰色	良好			
253	一皿 並	G2-22	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑		ナデ	回転ナデ	褐色色	褐色色	良好			
254	一皿 並	8-24	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑	12.2cm	回転ナデ	回転ナデ	褐色色	褐色色	良好			
255	一皿 並	8-23	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑	14.2cm	ナデ	回転ナデ	褐色色	褐色色	良好			
256	一皿 並	O18	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑	13.9cm	ナデ	ナデ	褐色色	灰色	良好	漆文2線文・口縁部が赤土色有り	P2306 縄文地産物(内・外)	
257	一皿 並	B6	カムイヤキ	漆	口縁部	口徑	16.0cm	ナデ	ナデ	灰色	灰色	良好		B0999	
258	一皿 並	中	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑		回転ナデ	回転ナデ	灰色	灰色	良好	口縁部欠く成形		
259	263	M14	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑		ナデ	ナデ	褐色色	褐色色	良好			
260	一皿 並	L20	カムイヤキ	漆・漆	口縁部	口徑	17.2cm	回転ナデ	回転ナデ	褐色色	オリーブ褐色	良好	口縁部欠く成形	P2316	
261	一皿 並	B6	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径	14.2cm	格子	格子	褐色色	褐色色	やや粗			
262	一皿 並	B6	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		格子	平行	灰色	灰色	良好		B0003	
263	一皿 並	G2	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		格子	平行	褐色色	褐色色	良好			
264	一皿 並	8-24	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径	9.6cm	回転ナデ	ナデ	褐色色	灰色	良好			
265	一皿 並	97	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		ナデ	平行線ナデ	灰色色	灰色色	やや粗			
266	一皿 並	B4	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		ナデ	ナデ	灰色色	灰色色	良好			
267	一皿 並	B5	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径	28.6cm	格子	平行	にじみ・褐色色	褐色色	良好	黒土出土と報告	B0505	
268	一皿 並	B3	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		格子ナデナデ	格子	灰色	灰色	良好		B0220 縄文地産物(内・外)	
269	一皿 並	A2	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		格子ナデナデ	格子	灰色	オリーブ褐色	良好		A0501	
270	一皿 並	M14	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		格子ナデナデ	格子	灰色	灰色	良好			
271	362	M14	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径		ナデ	平行	灰色	オリーブ褐色	良好	粘土層ナデナデ消さない		
272	一皿 並	C11	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径	23.0cm	ナデ	平行	灰色	灰色	良好		C1111	
273	一皿 並	C11	カムイヤキ	漆・漆	胴部	胴径	25.8cm	回転ナデ	平行	灰色	灰色	良好	内面ナデ消す	C1111	



第192図 カマイヤキ (4)

287～297は底部の破片である。287と288はいずれも外面平  
行状タタキ・内面格子目状当て具が施されており、同一個体  
片であると考えられる。295・297はナデ成形されており、器  
壁がやや厚くなっている。

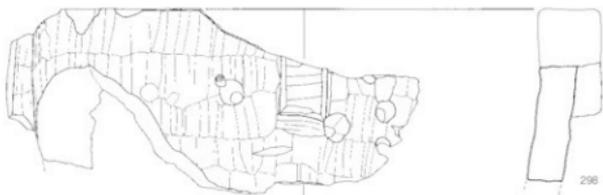
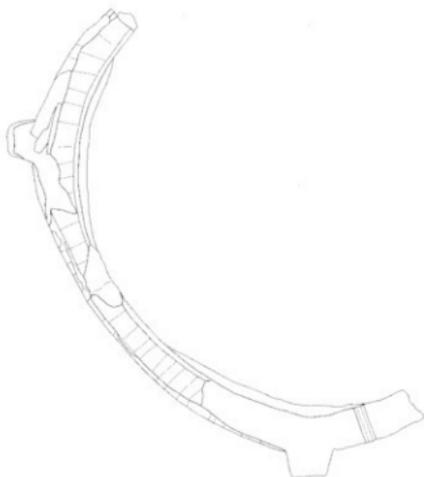
## 12 滑石製品 (第193～197図 298～358)

滑石製品は主に長崎県西彼杵半島で産出される滑石を利用  
して作られた鍋である。出土した滑石製品は総数403点出土  
し、図化できたのは60点である。

298は近接する柱穴から出土した2点が接合した資料であ  
る。推定口径28cmを測る。9か所穿孔が施されており、その  
うち2か所には鉄が混入している。内面には割り取りをする  
ためにつけたと見られる線状の痕跡が見られる。一部破断面  
を指している。299は推定口径38.2cmを測る。本報告の中で  
最大径を持つ石鍋である。縦耳は見られない。こちらには捲  
り切り技法を施した後に破断した痕跡が確認できるが、穿孔  
痕は確認できない。300は縦耳下の調整がほかのものとは異  
なり、斜めにケズリが施されている。また、縦耳部分に二次

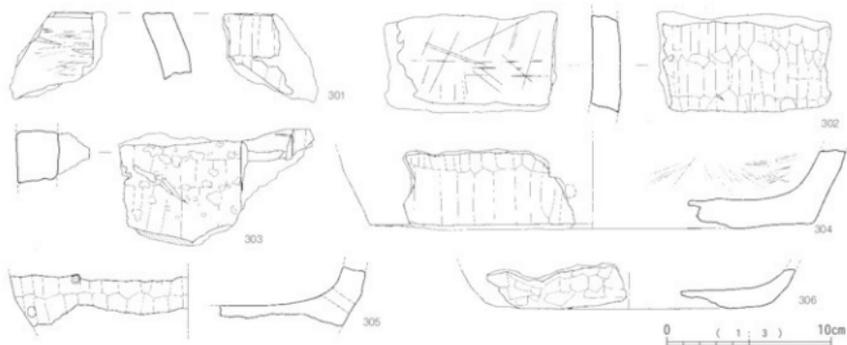
第152表 カマイヤキ観察表 (3)

種別 No	取上No	層位	出土区	分層区	形種	分層区	部位	計測値	調整 (内)	調整 (外)	色調 (内)	色調 (外)	構成	備考	ヒット		
191	274		H30	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	平打・ナデ	褐色・ナデ	灰色	オリーブ黒色	良好	内外面タタキ後回転ナデ	P0141		
	275		N18	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	灰色	灰色	良好	内外面タタキ後ナデ流し	P2005 (獨立収蔵16・P4)		
	276		N18	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	回転ナデ	平打・ナデ	灰色	灰色	良好	内外面タタキ後ナデ流し	P2001		
	277	-組	L14	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	灰褐色	灰色	良好	内外面タタキ後回転ナデ			
	278		B2	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	褐色	灰色	良好	内外面タタキ後回転ナデ	3030 (獨立収蔵90・P6)		
	279	-組	L15	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	回転ナデ	平打・ナデ	褐色	灰色	良好	内外面タタキ後回転ナデ			
	280	-組	M15	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	褐色	褐色	良好	内外面タタキ後回転ナデ			
	281		A2	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	平打	平打	灰オリーブ色	黄褐色	良好	素焼き	A0227		
	282	-組	M15	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	灰褐色	灰色	良好	内外面タタキ後回転ナデ			
	283		A6	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	格子目・ナデ	平打	褐色	灰色	良好	内外面タタキ後回転ナデ	A0620		
	284	-組	M14	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	ナデ	平打	灰褐色	灰色	良好				
	285		B2	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	回転ナデ	平打・ナデ	灰褐色	灰色	良好	内外面タタキ後ナデ流し	B0031		
286		D22	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	ナデ	ナデ	オリーブ黒色	褐色	良好	縦線白色焼も跡土に灰土	P1267 (獨立収蔵169・P6)			
287		B6	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	17cm	格子目	平打	褐色黄色	褐色	良好	還元され、赤色を帯びる	B0617	
288	-組	B6	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	16.6cm	格子目	平打	褐色黄色	褐色	良好	還元され、赤色を帯びる		
289	-組	M15	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	12.2cm	回転ナデ	回転ナデ	灰色	オリーブ黒色	良好	内面・口ノリが施される		
290	-組	3	9F	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	16.6cm	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色	灰色	良好	内面・口ノリが施される	
291	-組	3	D23	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	11.8cm	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	やや粗土の目付が大い	
292	-組	N17	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	11.8cm	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	灰色	良好	やや粗土の目付が大い		
293		3	27	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	10cm	回転ナデ	回転ナデ	褐色	褐色	良好	格子目・口ノリが大い	
294	-組	3	27	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	15cm	回転ナデ	回転ナデ	褐色	褐色	良好	格子目・口ノリが大い	
295	-組	M14	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	20.6cm	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	黄褐色	良好	縦線・口ノリ		
296	22	3	C29	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	16.8cm	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	オリーブ黒色	良好	タタキ焼製	
297	-組	L15	カマイヤキ	器・壺	胴部	胴部	調製	調製	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ黒色	灰オリーブ色	良好				



0 ( 1 3 ) 10cm

第193図 滑石製石鍋 (1)



第194図 滑石製石鍋 (2)

加工を加えている。

304~309は底部の破片である。二次加工を受けているものも多い。また、305・307・309は底面にも貫通穿孔が施されている。308は底径43.2cmを測り、底部の中では最大のものである。底面のケズリ幅は広い。

310~330は滑石製石鍋片に対して再加工を施しているものである。二次加工品の素材・製作途中の未加工品である可能性が考えられる。310~312は内面および外器面に割り取りをしように区画した線状痕跡が見られる。これらには穿孔が施されているものが多い。315・317の断面には鉄釘状製品がはまった状態で出土している。319・320は破断面が壊れている。321は縦耳部分を二次的に加工しているものである。323~325はすり切り後破断したものである。327・328は表面を磨っており、成形時の鑿痕が見えなくなっている。329・330は方形製品になると考えられる。

331~357は加工品である。

331~338はバレン状製品である。これらの一群の特徴としては突起部を有し、突起部中央付近には貫通穿孔が1か所ないし2か所施されている。形状は円形から方形まで、大きさも大きいものから小さいものまで様々である。331は推定直径17.1cmを測る。穿孔部に鉄が残っている。穿孔部に残っている鉄は折り曲げられていたようで、裏面には強い力で

縛った跡と見られる線状痕が残っていた。

339は方形製品である。中央部に穿孔を持つ。全体的に摩滅している。

340~345は棒状に加工した製品である。ほとんどの端部分は破断されている。

347~354は中央部に沈線を有する、錘状に加工した製品である。横位の沈線は説いものからいものまで確認できる。

356は釘様の形状を持つものである。357・358は同一個体である。それぞれについて十字状に沈線を施している。

### 13 滑石混入土器 (第198図 359~369)

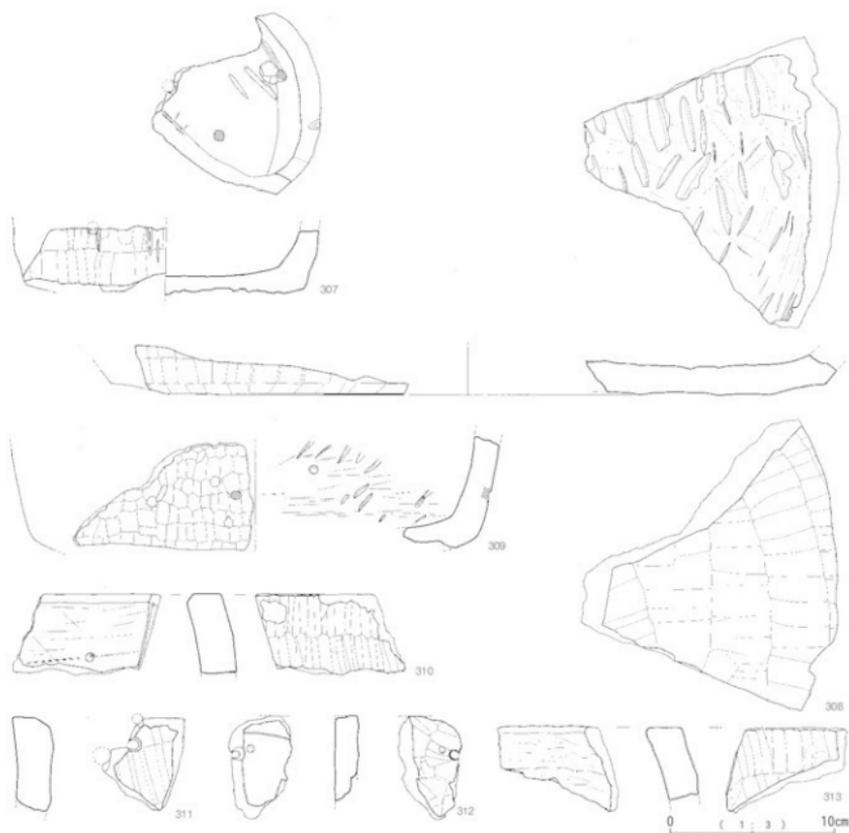
滑石混入土器は総数72点出土しているが破片資料が多く、図化出来たのは11点である。

359・360は滑石製石鍋を模倣したものである。359は縦耳部分を忠実に模倣し、外器面にも滑石製石鍋と同様にケズリを施している。360も忠実に模倣しており、底部の立ち上がり方や外器面の調整方法はほぼそのままである。底部裏面には1条線状痕が見られる。

361~363は土器器を模倣したものと考えられる。361は口径30.1cmを測る。口唇部を逆L字状に曲げるものである。内面にはケズリ痕様の痕跡が確認できる。364~367は底部資料である。いずれも底面が平坦であり、垂直気味に立ち上がる

第153表 滑石製品観察表 (1)

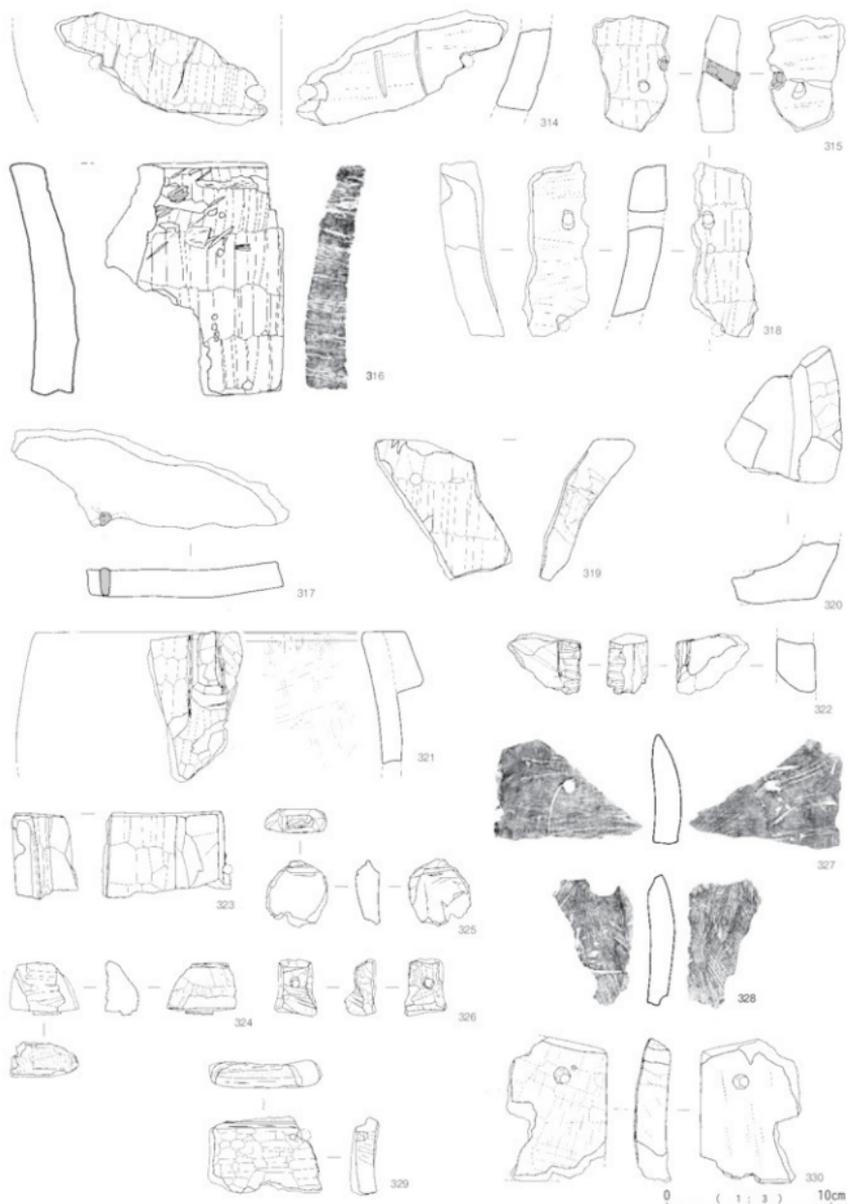
種別	図No	取上No	部位	出土区	分類	形跡	分類記	部位	計測値	色調 (内)	色調 (外)	備考	ビッド
190	298	H03	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁	口径	29.0cm, 重量: 1600g	黒褐色	黒褐色	五ヶ所穿孔あり、内2ヶ所閉じ込める	P191B	
	299	H03	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁	口径	38.2cm, 重量: 500g	黒褐色	黒褐色	磨り出し後磨削、口縁部内縁部中心	P053 (滑石製物47号) P44	
	300	一組	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁	口径	33.8cm, 重量: 685g	黒褐色	黒褐色	二ヶ所穿孔あり、磨り込め跡あり	P191C	
194	301	F15	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁	重量	82g	黒褐色	黒褐色	内縁部磨削あり、破断痕あり	P1032 (滑石製物47号) P71	
	302	O18	滑石製品	滑石製石鍋	胴部	胴部	重量	235g	灰黒褐色	灰黒褐色		P209 (滑石製物16号) P21	
	303	E25	滑石製品	滑石製石鍋	胴部上半	胴部上半	重量	322g	黒褐色	黒褐色	アパタイトの磨石使用	P0871 (滑石製物16号) P21	
	304	D10	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	26.8cm, 重量: 384g	黒褐色	黒褐色	磨通穿孔1ヶ所、破断部内縁部あり	D1061	
	305	G21	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	18.8cm, 重量: 304g	黒褐色	黒褐色	磨削痕、磨通穿孔1ヶ所、穿孔途中1ヶ所あり	P1201 (滑石製物16号) P21	
	306	J22	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	17.4cm, 重量: 81g	黒褐色	黒褐色	磨削痕あり	P1498 (滑石製物7号) P21	
	307	B3	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	16.8cm, 重量: 236g	黒褐色	黒褐色	磨通穿孔4ヶ所、うち2ヶ所、磨り込め、破断痕あり	B0308	
195	308	一組	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	43.2cm, 重量: 664g	黒褐色	黒褐色	内外面に工具の跡が明確に有り		
	309	B8	滑石製品	滑石製石鍋	底部	底部	底径	26.8cm, 重量: 245g	黒褐色	黒褐色	磨通穿孔1ヶ所あり、磨り込め跡あり、破断痕あり	B0274	
	310	H03	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁部	重量	205g	灰白色	灰白色	二ヶ所、磨削痕、破断部中心に穿孔あり	P0204	
311	C11	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁部	重量	81g	灰白色	灰白色	磨通穿孔2ヶ所あり、本器磨削跡1ヶ所あり	C1101 (滑石製物16号) P44		
312	N18	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁部	重量	45g	灰白色	灰白色	二ヶ所穿孔あり	N1801 (滑石製物16号) P44		
313	J22	滑石製品	滑石製石鍋	口縁部	口縁部	重量	125g	黒褐色	灰白色		J1447		



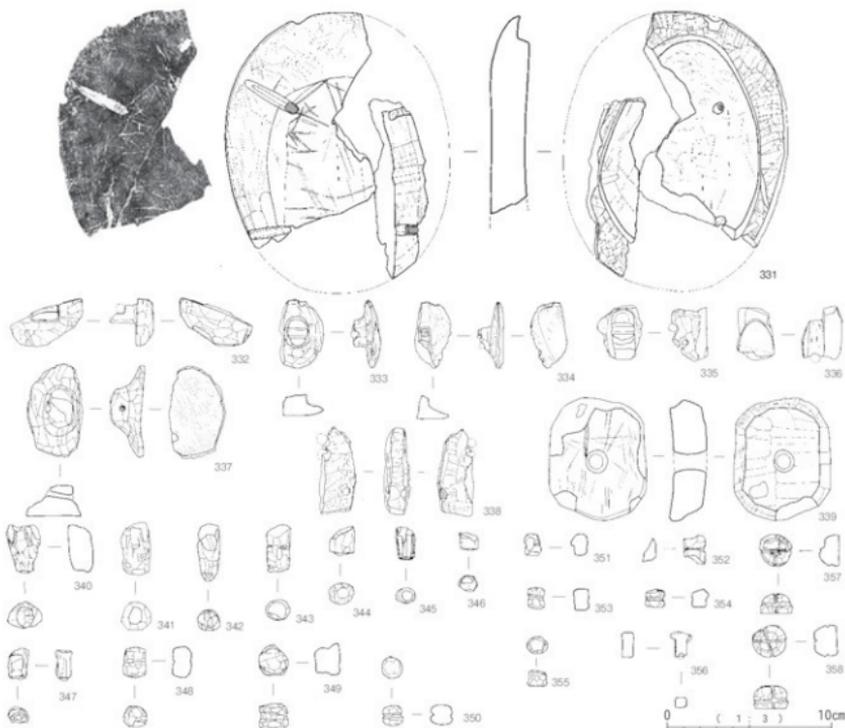
第195図 滑石製石鏝 (3)

第154表 滑石製品観察表 (2)

標本 No.	図No.	取上No.	層位	出土区	分類1	群種	分類2	部位	数量	形質	色調 (内)	色調 (外)	備考	ビツト	
314		17			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	280g	灰黄褐色	黄灰色	縦筋面に磨痕あり			
315		K22			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	61g	シロい黄褐色	シロい黄色	穿孔部に磨痕あり	P1830 (遺土目録番号)・P14		
316		B11			滑石製品	滑石製石鏝	口縁部	重量	590g	褐色	黄褐色	縦筋面に磨痕あり	B1119		
317		B3			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	160g	褐色	灰色	縦筋面に磨痕あり	B0307		
318		B3			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	170g	褐色	黄褐色	1ヶ所穿孔あり、縦筋面に磨痕あり	B0302		
319	一柱	B	A6		滑石製品	滑石製石鏝	口縁部	重量	160g	灰黄褐色	灰黄色	縦筋面に磨痕あり、磨痕あり			
320		C8			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	190g	灰褐色	黄褐色	縦筋面に磨痕あり	C0818		
321		K23			滑石製品	滑石製石鏝	口縁部	口径	20.3cm、重量	131g	オリーブ黄褐色	黄褐色	穿孔部を削ぎ、縦筋面に磨痕あり	P1564	
322	一柱	H1			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	51g	灰黄褐色	黄褐色	磨り切り面に磨痕あり			
323		A10			滑石製品	滑石製石鏝	口縁部	重量	110g	灰黄褐色	黄褐色	磨り切り面に磨痕あり、1ヶ所穿孔あり	A1012		
324		E9			滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	35g	黄褐色	黄褐色	磨り切り面に磨痕あり	P0358		
325	一柱	B	H25		滑石製品	滑石製石鏝	群部	重量	30g	灰色	黄褐色	縦筋面に磨痕あり			
326		H20			滑石製品	滑石製石鏝	刃部群	重量	19g	シロい褐色	黄褐色	1ヶ所	P1308		
327	4	B a	J28		滑石製品	滑石製石鏝	刃部群	重量	140g	シロい黄褐色	黄褐色	磨過穿孔1ヶ所、未磨過穿孔5ヶ所			
328		B5			滑石製品	滑石製石鏝	刃部群	重量	80g	シロい黄褐色	黄褐色	磨過穿孔2ヶ所	B0551		
329	382	M15			滑石製品	滑石製石鏝	刃部群	重量	88g	灰褐色	黄褐色	磨り切り面に磨痕あり、磨過穿孔と未磨過穿孔あり			
330		D22-23			滑石製品	滑石製石鏝	刃部群	重量	171g	オリーブ黄褐色	黄褐色	磨過穿孔1ヶ所、未磨過穿孔1ヶ所	P2027		



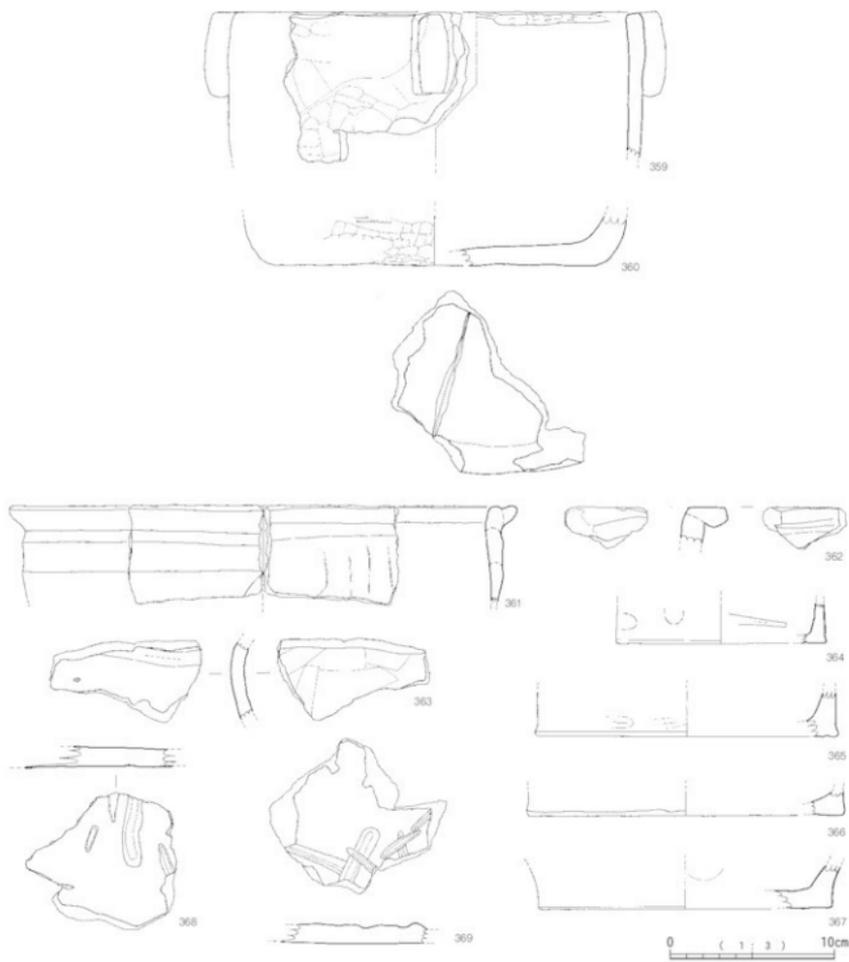
第196图 滑石製二次加工品 (1)



第197図 滑石製二次加工品 (2)

第155表 滑石製品観察表 (3)

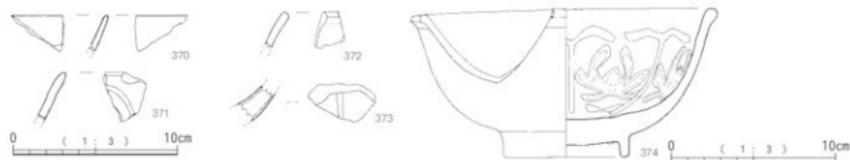
検出 No.	図No	取上No	部位	出土区	分類:1	原料	分類:2	形状	形質	重量	色調 (内)	色調 (外)	備考	ビット	
197	331		C10	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 44g	灰色		中央部穿孔部に破片残る。		C1012		
	332		B7	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 17g	オリーブ褐色		つまみ部に穿孔あり。		B0726		
	333		A7	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 16g	灰色		つまみ部に穿孔あり。		A0711		
	334	一括	G21	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 10g	オリーブ褐色		つまみ部に穿孔あり。				
	335		B5	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 20g	灰色		つまみ部に穿孔あり。		B0532		
	336		B2	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 20g	オリーブ褐色		つまみ部に穿孔あり。		B0307 (遺文庫物48・P2)		
	337		A22	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 36g	雑黄褐色		つまみ部に穿孔あり。		P1447		
	338		C9	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 25g	灰色		穿孔二か所、内1か所破片残る。		C0923		
	339		E14	滑石製品	二次加工品	方形状	方形状	厚さ 171g	灰色		中央部に厚さ1cm前後の穿孔。		P0759 (遺文庫物178・P7)		
	340		B4	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 11g	灰色		断面を利用して棒上加工。先端先削り。		B0459		
	341		B6	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 16g	灰色		断面を利用して棒上加工。		B0697		
	342		G25	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 9g	雑褐色		断面は不完全で未定。		P0791		
	343	一括	A2	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 9g	雑褐色		断面を利用して棒上加工。				
	344		B4	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 7g	雑褐色		断面を利用して棒上加工。		B0454		
	345		N18	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 4g	灰色		断面を利用して棒上加工。		P2765 (遺文庫物178・P27)		
	346		B6	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 1g	灰色		上半分欠失。磨って溝を形成。		B0642		
	347	■	B6	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 4g	灰色		断面を利用して棒上加工。				
	348		C9	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 5g	灰色		断面を「V」字に削り、溝を形成する。		C0918 (遺文庫物178・P14)		
	349		B9	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 9g	灰色		断面を削り溝を形成する。		B0962		
	350		D9	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 5g	灰色		断面を「V」字に削り、溝を形成する。		D0913 (遺文庫物178・P16)		
	351		B6	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 3g	灰色		全体的に磨滅。中央部に溝あり。		B6101		
	352	一括	E a-E d	2T	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 4g	灰色		断面を削り溝を形成する。			
	353		C9	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 4g	灰色		断面を削り溝を形成する。				
	354		A10	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 2g	灰色		断面を削り溝を形成する。		C0660		
	355		C9	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 2g	灰色		断面に「Z」で中央部に「U」字を形成する。		C0662		
	356		B3	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 7g	雑褐色		二枚断面あり。		B0268		
	357		B3	滑石製品	二次加工品	円盤状	円盤状	厚さ 6g	雑褐色		断面に溝を形成する。		B0235		
	358		B3	滑石製品	二次加工品	楕円状	楕円状	厚さ 10g	雑黄褐色		断面に溝を形成する。		B0235		



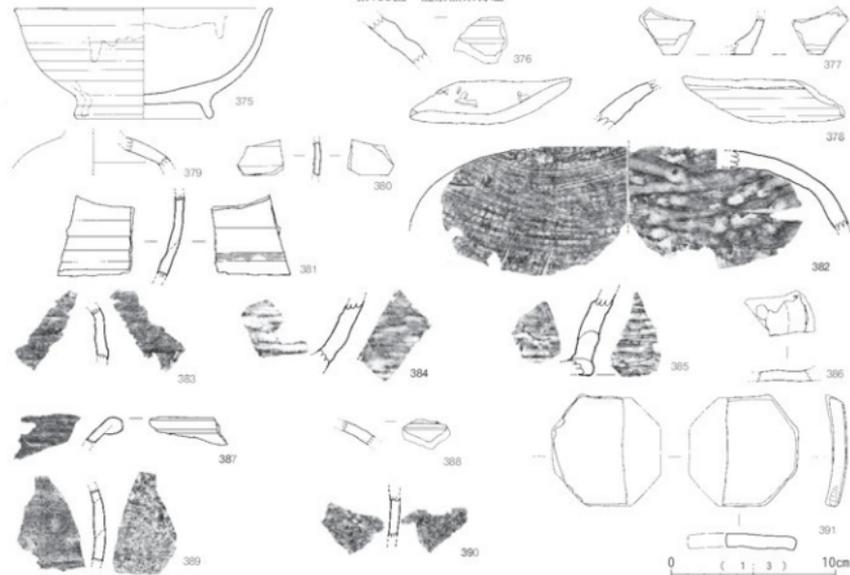
第198図 滑石混入土器 (1)

第156表 滑石混入土器観察表

検出No	貯土No	層位	出土区	分組1	形態	分組2	部位	計測値	図数 (No)	図数 (No)	色澤 (No)	色澤 (No)	構成	備考	ビット
198	359	一塩	B	B2	滑石混入土器類	口縁部	口径: 25.2cm	ナブ	ナズリ	黒褐色	にじい・黒褐色	黒好	石練焼物		
	360			B3	滑石混入土器類	底面	底径: 19.3cm	ナブ	ナズリ	黒褐色	褐色	黒好	石練焼物	B246 (滑石混入物)P2	
	361			J21	滑石混入土器類	口縁部	口径: 30.1cm	ナズリ	ナブ	黒褐色	褐色	黒好	石練焼物	P1533	
	362	253		M14	滑石混入土器類	口縁部		ナズリ	ナズリ	黒褐色	黒褐色	黒好	石練焼物		
	363	255		M14	滑石混入土器類	底面		ナズリ	ナズリ	黒褐色	にじい・黒褐色	黒好	石練焼物		
	364			A5	滑石混入土器	底面	底径: 12.7cm	ナズリ		褐色	褐色	黒好	黄緑に之の上がら	A202 (滑石混入物)P2	
	365			A20	滑石混入土器	底面	底径: 16.2cm	ナブ		褐色	褐色	黒好	黄緑に之の上がら	P1305	
	366	195		G20	滑石混入土器	底面	底径: 19cm			にじい・褐色	褐色	黒好	黄緑に之の上がら		
	367			B5	滑石混入土器	底面	底径: 17.8cm			褐色	にじい・褐色	黒好	黄緑に之の上がら		
	368	一塩	B	B5	滑石混入土器	底面				灰黄褐色	褐色	黒好	黄緑に之の上がら		
	369			B4	滑石混入土器	底面				褐色	褐色	黒好	黄緑に之の上がら	B0442	



第199図 龍泉窯系青磁



第200図 陶器

ものである。368・369の底面部分の資料には線状の痕跡が変重にも見られる。

14 青磁 (第199図 370~374)

龍泉窯系青磁は16点出土している。うち5点を図化した。370は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類である。371は龍泉窯系青磁椀Ⅱ類であり、外面に連弁文を有するものである。373は龍泉窯系青磁椀Ⅳ類の破片である。374は大宰府分類椀Ⅳ類に相当すると見られる。口径17.2cm、底径7.2cm、器高9cmを測る。口縁の欠損部は意図的に打ち欠いているようである。J-13区のトレンチ部分から石灰岩の窪みに挟まるような形で出土している。

第157表 龍泉窯系青磁観形表

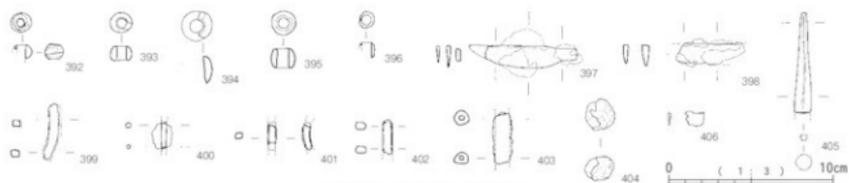
観形No	品名	量	出土区	中層1	層別	中層2	層別	計測値	観形(内)	観形(外)	色調(内)	色調(外)	焼成	備考	ピット
370	椀	1	96	龍泉窯系青磁椀	観形Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ				灰オリーブ灰色	灰黄色	焼成	購入品	36110 龍泉窯系青磁(内)
371	椀	1		龍泉窯系青磁椀	観形Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ				オリーブ灰色	オリーブ灰色	焼成	龍泉窯系青磁	
372	椀	1	37	龍泉窯系青磁椀	観形Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ				オリーブ灰色	オリーブ灰色	焼成	龍泉窯系青磁	
373	椀	1		龍泉窯系青磁椀	観形Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ				オリーブ灰色	オリーブ灰色	焼成	龍泉窯系青磁	
374	椀	1	J13	龍泉窯系青磁椀	観形Ⅳ	Ⅱ	Ⅱ				灰オリーブ灰色	灰オリーブ灰色	焼成	内面・外面に、口縁部にのみ、	

15 陶器 (第200図 375~391)

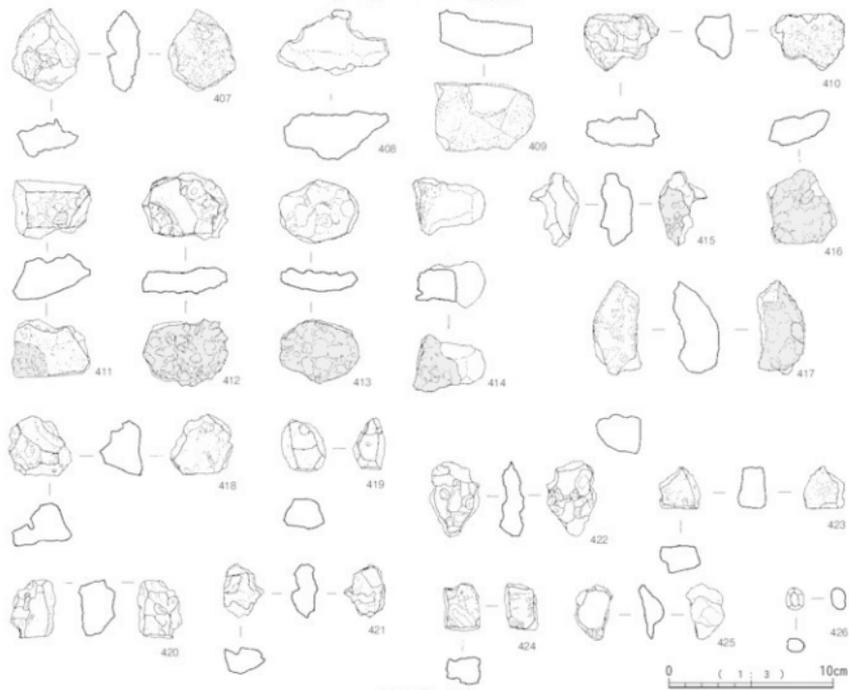
375は灰軸陶器である。口径15.5cm・底径8cm・器高6.8cmを測る。東美濃産灰軸陶器である。376~381は中世陶器である。382~390は産地不明陶器である。383~386はいずれも胎土が堆積状・内外面色が黒色味を帯びている点などから、同一個体の陶器と見られる。391は近世の壺屋焼の破片を8面体に加工したものと考えられる。

16 ガラス玉・金属製品・鉄滓 (第201・202図 392~426)

392は完形のガラス玉である。表面はくすんだ青色をしている。比較的強度がある。393~396は表面が風化し、白色化したガラス玉である。いずれも脆く、崩れやすい。



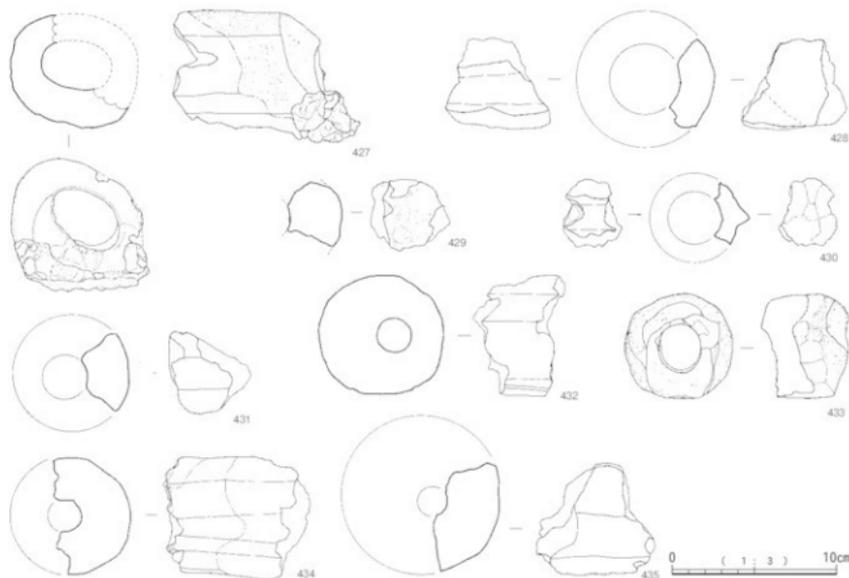
第201図 ガラス玉・金属製品



第202図 鉄滓

第158表 陶器観察表

検出No	貯No	取上No	単位	出土区	分類1	器種	分類2	部位	計測値	観察(内)	観察(外)	色調(内)	色調(外)	肌触	備考	ロット
375	一區	89		近海陸路	甕	甕	口縁一部	径 13cm, 高 8cm				灰白色	灰白色	良好	近畿部(豊後国)	30974
376	一區			中世海陸	甕	甕	甕底					暗褐色	暗褐色	良好		
377	一區	8	B1	近海陸路	甕	甕	甕底			回転ナデ		暗赤褐色	灰色	良好		
378		033		近海陸路	甕	甕	口縁部付近			回転ナデ		灰オリーブ色	黄褐色	良好	東海アツタ5カ	P096(近畿部10号-P9)
379		C9		中世海陸	甕	甕	甕底	径: 3.9cm		回転ナデ		黄褐色	黄褐色	良好	外高橋船内遺跡	C0993
380		810		中世海陸	甕	甕	甕底			回転ナデ		にじみ黄色	黄褐色	良好	外高橋船内遺跡	B1028
381		C9		中世海陸	甕	甕	甕底			回転ナデ		にじみ褐色	黄褐色	良好	豊人倉	C0993
382		83		甕	甕	甕底	径: 24cm	ナデ	カキ目	ナデ	灰色	オリーブ紫色	良好	陶土アヌキ色	B0305	
383	8	8a	H25	甕	甕	甕底				回転ナデ		黄褐色	灰色	良好	陶土燻焼状(灰紫色)	
384	一區	023		甕	甕	甕底				回転ナデ	回転ナデ	オリーブ紫色	オリーブ紫色	良好	陶土燻焼状(灰紫色)	
385	一區	N17		甕	甕	甕底				回転ナデ	回転ナデ	オリーブ紫色	灰色	良好	陶土燻焼状(灰紫色)	
386	6	8a	H27	甕	甕	甕底				ナデ		オリーブ紫色	灰色	良好	陶土燻焼状(灰紫色)	
387	1	8a	H25	甕	甕	口縁部				ナデ		灰紫色	暗赤褐色	良好		
388		H20		甕	甕	甕底				回転ナデ		オリーブ紫色	灰色	良好	2条土器(陶土)	P010(近畿部10号-P1)
389	8	8a	H20	甕	甕	甕底				回転ナデ		灰色	灰オリーブ色	良好	陶土アヌキ色	
390	樽蓋一區			甕	甕	甕底				ナデ		灰色	黄灰色	良好		
391		G29		瀬川(3地区)	甕	甕底				ナデ	ナデ	暗赤褐色	黄褐色	良好		P0174



第203図 輪の羽口

397・398は刀子である。397はほぼ完形である。刃部は緩やかに湾曲している。399～403は釘状製品である。

405は銅製のキセルである。厚さは1mmに満たない。406は銅製品の細片である。非常に薄い。

407～426は鉄滓である。鉄滓は総数308点出土し、20点園化した。407～417は椀形滓である。いずれもずしりと重みを感じる。底部分外面に微細な気泡が見られるもの(407～410)と卯床が付着しているもの(415～417)が見られた。423・424は方形に鉄滓が固まっているものである。

#### 17 輪の羽口 (第203図 427～435)

427～435は輪の羽口である。出土したものはほとんどが焼熱していた。輪の羽口は総数133点出土し、10点園化した。

427は表面がガラス質化し、鉄の塊が付着している。最大外径9.5cm・内径4.7cmを測り、内径が非常に大きい。430は先端部が残存しないが、外面に鉄分が付着する。432・434は外径に比べ、内径が小さくなるものである。

#### 18 土製品・粘土塊 (第204図 436～443)

436は方形状製品である。胎土はアバタ状である。437～439は円形状製品である。440～442は粘土塊である。441は炭化した繊維状物質を粘土によってサンドイッチしている。卯床の可能性ある。443は小型の立方体状製品であり、内部に凹面を持つものである。

#### 19 軽石製品 (第205図 444～446)

いずれも平坦面を形成しており、擦られた痕跡が確認できる。444は断面方形状を呈する。平坦面はよく擦られており、使い込まれている。

#### 20 石器 (第206～208図 447～462)

石器は総数614点出土している。そのうち園化したのは16点である。

第159表 ガラス玉観察表

検出No	図No	取上No	層位	出土区	分類1	原料	分類2	部位	形数値	色線(内)	色線(外)	備考	ビット
201	392		埋蔵層	R16	ガラス玉			径 1.2cm, 孔径 0.5cm			白色	表面に黒まじり痕が見る	
	393	一組	Ⅱ	A1	ガラス玉			径 1.2cm, 孔径 0.5cm			白色	やや、いびつに成形している	
	394	一組	Ⅱ	A1	ガラス玉			径 1.5cm, 孔径 0.7cm			白色	表面白色化する	
	395			AS	ガラス玉			径 1.4cm, 孔径0.6cm			白色	黒化が著しく、表面白色化する	4052 国立民族学博物館蔵
	396	一組	Ⅱ	A1	ガラス玉			孔径 0.7cm			白色	黒化が著しく、表面が剥離する	

第160表 鉄製品観察表

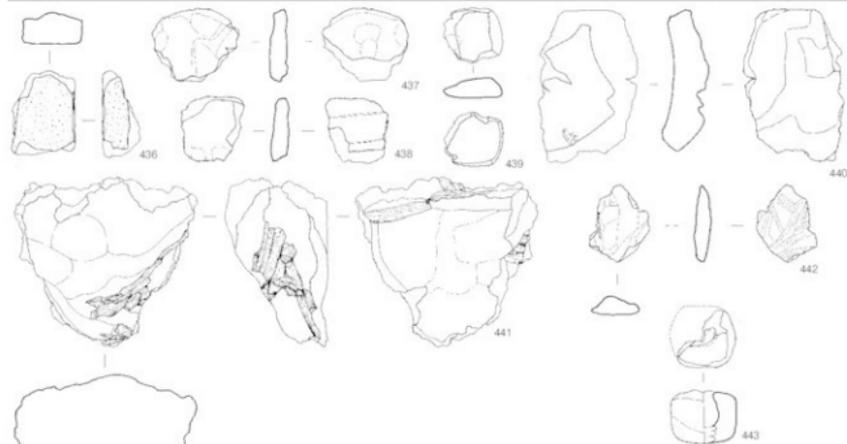
検定No	取上No	部位	出土区	分類1	分類2	名称	部位	計測値	色調(内)	色調(外)	備考	ビット
201	397	一辺	B7	鉄製品	刀子			長さ 10g			全長が不明である	P130 遺土埋蔵物19 P11
	398	口	C9	鉄製品	刀子			長さ 5g			刃先が直中に直ぐ	C9117
	399	口	B6	鉄製品	鉄釘			長さ 3g			尖がらなる	B6111
	400	一辺	B7	鉄製品	鉄釘			長さ 2g			幅が約4mm程度と窄くなる	
	401		C10	鉄製品	鉄釘			長さ 1g			尖がらなる	C10100
	402		C29	鉄製品	鉄釘			長さ 2g			尖がらなる	P0658
	403		J21	鉄製品	鉄釘			長さ 5g			縦断面中央部に方形の芯がみられる	P1520
	404		B5	鉄製品	球状			長さ 5g			伊賀が特徴する	B0560
	405	一辺	B2	鉄製品	煙管	煙口		最大径 1.0			断面をみて透き通っている	
	406	一辺	B4	F60	鉄製品						縦断面に深い	

第161表 鉄滓観察表

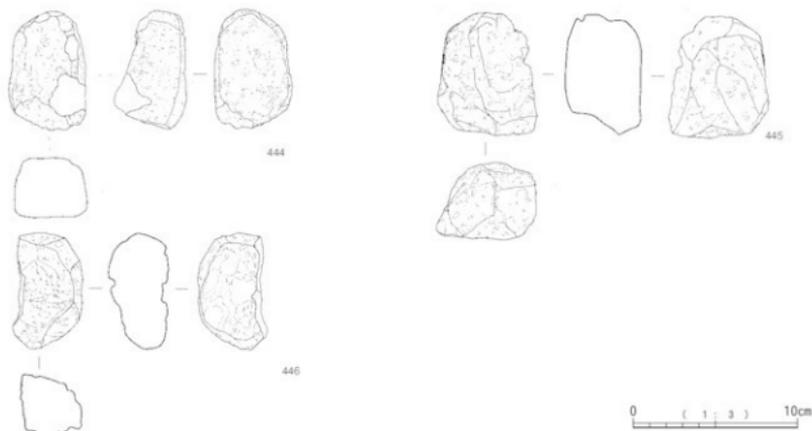
検定No	取上No	部位	出土区	分類1	分類2	名称	部位	計測値	色調(内)	色調(外)	備考	ビット
202	407	一辺	B7	鉄滓	塊状滓			重量 55g			断面等に気泡が認められる	
	408		C23	鉄滓	塊状滓			重量 65g			断面には気泡は見られない	P3004 遺土埋蔵物19 P1
	409	一辺	M17	鉄滓	塊状滓			重量 115g			上面に若干大きな気泡がみられる	
	410	一辺	B7	鉄滓	塊状滓			重量 50g				
	411	一辺	B2	鉄滓	塊状滓			重量 70g			断面に気泡が認められる	
	412		B7	鉄滓	塊状滓			重量 10g			下面に伊賀が特徴する	B0712
	413	一辺	B4	鉄滓	塊状滓			重量 35g			下面に伊賀が特徴する	
	414		B6	鉄滓	塊状滓			重量 44g			伊賀が特徴する。伊賀が特徴する	B6106
	415		B8	鉄滓	塊状滓			重量 26g			下面に伊賀が特徴する	C0807 遺土埋蔵物19 P6
	416	一辺	B2	鉄滓	塊状滓			重量 45g			下面に伊賀が特徴する	
	417	一辺	B7	鉄滓	塊状滓			重量 66g			下面に伊賀が特徴する	
	418		B5	鉄滓	塊状滓			重量 60g			上面に大きな気泡あり	B0547
	419		B5	鉄滓	塊状滓			重量 27g				B0547
	420		B6	鉄滓	塊状滓			重量 31g			表面がわずかに観察	B6108
	421	一辺	B2	鉄滓	塊状滓			重量 15g				
422		B6	鉄滓	塊状滓			重量 23g			塊状滓の欠片か	B0804	
423		C8	鉄滓	塊状滓			重量 15g			表面がわずかに観察。断面に気泡が認められる	C0805 遺土埋蔵物19 P4	
424		C7	鉄滓	塊状滓			重量 24g			方形	C0708	
425		B6	鉄滓	塊状滓			重量 10g			伊賀が特徴する	B6110 遺土埋蔵物19 P1	
426		A7	鉄滓	塊状滓			重量 5g				A0702 遺土埋蔵物19 P5	

第162表 釉の羽口観察表

検定No	取上No	部位	出土区	分類1	分類2	名称	部位	計測値	色調(内)	色調(外)	構成	備考	ビット
203	427		B3	釉の羽口		丸縁部	内径 4.7、外径 9.5		褐色	黄灰色		流動性が特徴	B0306 遺土埋蔵物29 P2
	428	一辺	B4	釉の羽口		丸縁部	内径 2.1、外径 4.1		褐色	灰白色		外面が黄灰色	
	429		G16	釉の羽口		丸縁部			灰褐色	灰白色		表面がガラス質	P1217 遺土埋蔵物42 P1
	430		N18	釉の羽口		丸縁部	内径 3.3、外径 5.4		こげいれ褐色	褐色		流動性が特徴	P2109 遺土埋蔵物42 P2
	431		G23	釉の羽口		丸縁部	内径 2.6、外径 7.0		褐色	黄褐色		断面に1mm程度の気泡が多く含む	P0913
	432		B6	釉の羽口		丸縁部	内径 2.0、外径 7.6		褐色	褐色		断面にこげいれと黒い層がみられる	B0629
	433	口	B4	釉の羽口		丸縁部	内径 2.0、外径 6.3		褐色	黄褐色		表面がガラス質	
	434	一辺	B5	釉の羽口		丸縁部	内径 1.9、外径 7.0		こげいれ褐色	黄褐色		断面に若干の気泡が認められる	
	435		B7	釉の羽口		丸縁部	内径 1.5、外径 9.6		褐色	褐色		断面にこげいれと黒い層がみられる	B0711



第204図 土製品・粘土



第205図 軽石製品

(1) 石製品 (第206図 447・448)

447は棒状石製品である。先端部に穿孔をしようとした痕跡が確認できる。448は方形状の石製品になると考えられる。非常に薄く、一部は欠損している。

(2) 砥石 (第206図 449・450)

449は天草石を利用した砥石である。側面は半円状に丸く磨かれている。一部擦痕が集中する箇所がある。450は砂岩を利用した砥石である。内面がわずかに凹んでおり、研ぐ際についた線状痕跡が残されている。一部敲打痕が確認できる。

(3) 磨製石斧 (第206図 451~452)

451・452は淡緑色のホルンフェルス素材とする。451の刃部・側面は敲打により鈍化している。452は素材面を残す全面研磨により整形されており、完形を保つ資料である。

(4) 敲石 (第207図 455)

455は径10cm程度の球状の円礫を素材とし、全体的に敲打痕が観察されるものである。

(5) 磨敲石 (第206・207図 453・454・456~458)

長軸径が10cm~15cm、短軸径が7cm~8cm程度の大形で石敲状を呈するものが多く、中央部に顕著な敲打痕が観察されるものが多い。

454は平面・側面を敲打によりつぶされている資料である。花崗岩製である。456は淡緑色のホルンフェルス素材とする。敲打痕は中央部と側面に見られる。側面は激しく敲打されている。457は砂岩を素材とする。正面は磨かれており、線状の単位が見られる。金属製品のような固いもので磨かれた可能性を考えている。458も砂岩を素材とする。表裏とも敲打により径3cm、深さ5mm前後の凹みが形成されている。側面にも敲打されている。

(6) 磨石 (第207・208図 459・460)

459は花崗岩製で丁寧に磨かれている。中央部内外面にわずかな凹みを持つ。また、側面も敲打されており、敲打具としても利用されていたことが分かる。460もほぼ全面にわたって磨かれている。側面にはわずかに敲打痕が確認できる。

第163表 土製品観察表

検出No	図No	取上No	部位	出土地	分類.1	原種	分類.2	部位	計測値	重量 (g)	調整 (No)	色調 (内)	色調 (外)	形状	備考	ビッド
204	436	Ⅱ	B4	土製品	方形状							灰黄色	灰黄色	粘土アタリ状		B0407
	437	Ⅱ	B5	土製品	不定形							暗褐色	暗褐色	擦痕が顕著に残る		B0502
	438	371	M15	土製品	不定形							にじみ褐色	褐色	工具調整痕が残る		
	439	Ⅱ	C11	土製品	方形状							赤褐色	赤褐色	粘土・灰質に由来する		C1111
	440	13	E.9	H25	土製品	不定形						暗褐色	にじみ黄褐色	細孔・凹み・擦痕が顕著に付く		
	441	Ⅱ			土製品	不定形						黄褐色	黄褐色	凹みした木材が露出		P1975
	442	Ⅱ	C28	土製品	不定形							暗褐色	黄褐色	表面に多数の凹み・擦痕が残る		P0732
443	Ⅱ	CB	土製品	立方体状							にじみ黄褐色	にじみ黄褐色	粘土に土粒子と土とが混ざり		C0009	

第164表 軽石製品観察表

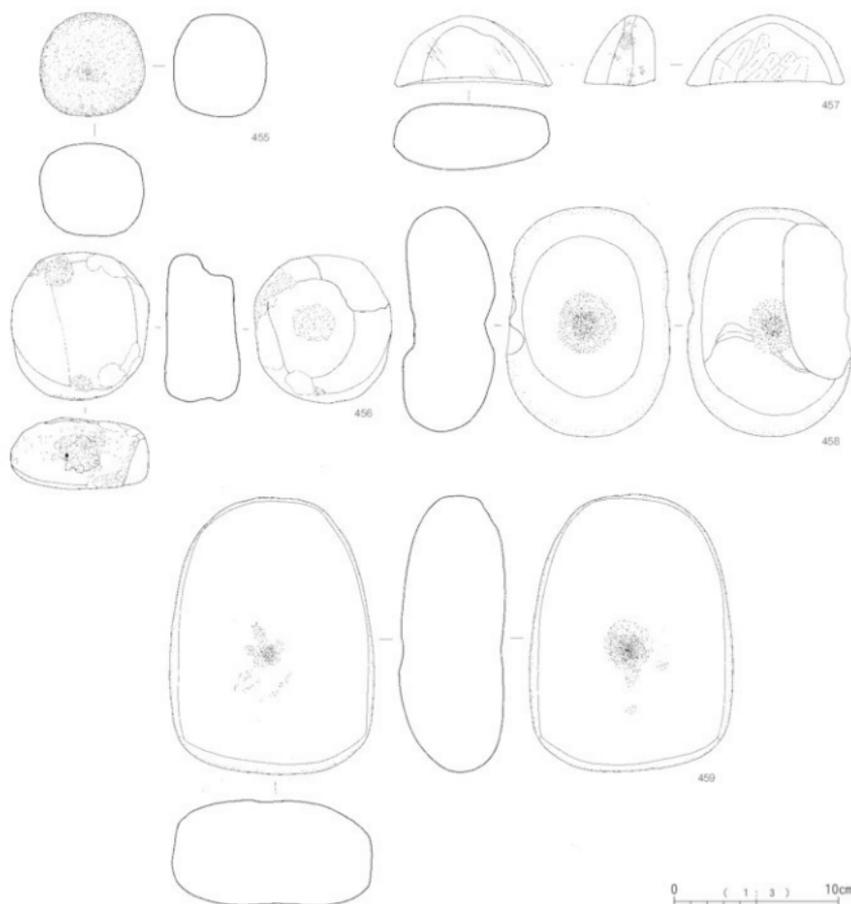
検出No	図No	取上No	部位	出土地	分類.1	原種	分類.2	部位	計測値	重量 (g)	調整 (No)	色調 (内)	色調 (外)	形状	備考	ビッド
205	444	Ⅱ	CB	軽石	軽石製品					40g		黄褐色			調整が認められる	C0818
	445	Ⅱ	J23	軽石	軽石製品					46g		にじみ黄褐色			調整・凹み・擦痕が認められる	P1967 (調整・凹み・擦痕) 2号・P2
	446	Ⅱ	C9	軽石	軽石製品					34g		にじみ黄褐色			調整が認められる	C0958



第206図 石器 (1)

(7) 台石 (第208図 461・462)

461は褐色のやや粒径の粗い砂岩を利用している。磨面は部分的であり、敲打痕が見られる。若干被熱している。462は粒子の細かい砂岩を使用し、全体的に磨られている。一部には磨られた単位が見られる。被熱している。



第207図 石器 (2)

第165表 石器観察表

検出No.	図No.	取上No.	層位	出土区	分類:1	器種	分類:2	部位	計測値	重量 (g)	観察 (形)	色調 (内)	色調 (外)	組成	備考	ビット
	447			H13	石器	石製品	砂岩		長さ 18g			黄灰色			中央部に研削	P0204
	448	一 区	B-a-B-d	2T	石器	石製品	黄砂		長さ 5g			黄オリーブ灰色			研削が著しくない	
	449	一 区	B	A-F区	石器	燧石	天然石		長さ 45g			黄灰色			表面に磨痕が僅少	
	450			C9	石器	燧石	砂岩		長さ 420g			灰オリーブ色			破片によって中央部に石	C0913
	451	区		C9	石器	燧製石片	タロンツェルス		長さ 173g			オリーブ灰色				C09120
	452	一 区	表層		石器	燧製石片	タロンツェルス		長さ 230g			オリーブ灰色			磨行への転用は認められない	
	453	一 区	B	B6	石器	燧製石片	花崗岩		長さ 265g			暗緑灰色			石片を燧石に転用	
	454	一 区	B	C9	石器	燧製石片	花崗岩		長さ 440g			灰オリーブ色			石片を燧石に転用	
	455	一 区			石器	燧石	砂岩		長さ 340g			緑灰色			左側に磨行によつて磨かれている	
	456			G15	石器	燧製石片	タロンツェルス		長さ 550g			緑灰色				P0726
	457			G30	石器	燧製石片	砂岩		長さ 200g			黄灰色				P0766
	458	4 区		A1	石器	燧製石片	砂岩		長さ 1100g			オリーブ灰色			磨行箇所が深く僅く	一 区
	459	区		B6	石器	燧製石片	花崗岩		長さ 2250g			灰オリーブ色			両面中央部に磨行跡による凹みあり	P0655
	460			C18	石器	燧製石片	花崗岩		長さ 3000g			灰オリーブ色				P0204 両面に磨痕あり
	461	区		B4	石器	燧石	砂岩		長さ 2000g			灰オリーブ色			磨行跡と磨痕が確認できる	SP432 両面に磨痕あり
	462			C02	石器	燧石	砂岩		長さ 3800g			灰オリーブ色			一 区に磨痕	P0886 両面に磨痕あり



第208圖 石器 (3)

## 第Ⅵ章 自然科学分析

### 第1節 山田半田遺跡出土の人骨

鹿児島女子短期大学 竹中正巳・下野真理子

#### はじめに

山田半田遺跡は鹿児島県大島郡喜界町の城久遺跡群を構成する遺跡である。土坑墓1・3・7号からは焼人骨が、土坑墓6号からは埋葬人骨が出土した。本稿では4基から出土した人骨について、人類学的精査を行った結果を報告する。

#### 人骨の所見

##### 土坑墓1号出土焼骨（性別不明・年齢不明）

出土した人骨は、火を受け、表面がひび割れ、細片化していた。総重量13gである。検出された焼骨のサイズは1cmを超えない。検出された焼骨のサイズは5mm未満のものが多い。部位同定できたのは頭蓋1g、足の指の末節骨1gだけであり、残りは部位不明の小骨片が11g遺存する。同定できた焼骨片に部位の重複はない。しかし、納められた焼骨は極めて少ない。

焼骨の色調は、表面は白色を示すものが多いが、青灰色を示すものもある。内部の海綿質は黒色を示すものがほとんどである。遺存している焼骨をみる限り、火も十分まわっておらず、高温で焼けたとは言えない。

性別の正確な判定はできない。年齢も不明である。

##### 土坑墓3号出土焼骨（性別不明・成人）

出土した人骨は、火を受け、表面がひび割れ、細片化している。総重量は56gである。検出された焼骨のサイズは2cmを超えない。焼骨のサイズは1cm未満のものが多い。部位同定できたのは、頭蓋2g、右足第1指末節骨1gだけであり、残りは長骨片が4g、部位不明の小骨片が49gであった。同定できた焼骨片に部位の重複はない。しかし、納められた焼骨は少ない。

焼骨の色調は、表面は白色を示すものが多いが、青灰色を示すものもある。内部の海綿質は黒色を示すものがほとんどである。遺存している焼骨をみる限り、火は十分まわっておらず、高温で焼けたとは言えない。

性別は、性別判定の決め手となる部位が遺存していない。年齢は、足の指の骨端が完成しており、その大きさから成人と考えられる。

##### 土坑墓7号出土焼人骨（性別不明・年齢不明）

焼かれた人骨片と木炭が遺存していた。焼骨は約20g、木炭は約7g遺存している。遺存している焼骨はすべて細片で、大きいものでも長径は25mmを超えない。同定できた部位は、仙骨片が約4g、椎骨片が約2gのみである。重複部位は認

められない。頭蓋をはじめ、他の骨は同定されていない。

焼かれた人骨の緻密質の外面は白色を呈する。内側の海綿質の部分も大半が白色を示し、黒色のものは、ごくわずかである。これまでに城久遺跡群から出土した焼骨のほとんどが外面の緻密質は白色であるが、海綿質部分は黒色を呈する。本例は、それらとは異なる例となる。これまで出土したものに比べ、本例は骨の内部までよく火がとおり、高温で焼けたといえる。

##### 土坑墓6号出土人骨（男性・熟年）

土坑墓に埋葬された人骨である。保存状態はよくない。埋葬姿勢は仰臥伸展位である。性別は、寛骨の大坐骨切痕の角度が小さいこと、後頭骨の外後頭隆起の突出が大きいことから、男性と判定される。年齢は、歯の咬耗がMartinの2〜3度であることから、熟年と推定される。歯式は次の通りである。

.....	.....
5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 7
7 6 5 2 1	1 3 5 6 7
.....	.....

上顎右の小臼歯2本と下顎左第一大臼歯の咬耗が著しい。上顎の前歯部にはエナメル質減形成も認められる。歯の形質は上顎中切歯のシャベル型が左1.01mm、右1.08mmと深い。上顎切歯のシャベル型が深いという特徴は、渡来系縄文人や現代日本人、南西諸島の近世人と同様の特徴である。縄文時代から古墳時代相当期の南西諸島の人々の上顎切歯のシャベル型は深くない。

本人骨の四肢骨は、上腕骨が比較的きゃしゃである。左右の大腿骨には弱い柱状形成が認められる。

沖縄諸島ではグスク時代以降とそれ以前では人骨の形質に大きな変化が認められる。その要因として、人の移動に伴う遺伝子の流入、それに加え、文化的変化に伴う生活環境の変化の影響が考えられる。グスク時代は日本本土や中国大陸、朝鮮半島を含めた人の移動の盛んな時代であり、それらが形質の時代変化を引き起こした可能性も考えられている（土肥、2003）。また、奄美大島においても高顔高身長の中世人骨が出土している。本人骨の上顎中切歯のシャベル型の深さは、中世の喜界島に同時代の沖縄諸島や奄美大島の人々と同様の特徴を持った人々が存在した可能性を示しており、喜界島と日本本土や中国大陸、朝鮮半島などの地域との人的交流があった可能性を示唆している。

#### おわりに

土坑墓1号・3号・7号に納められていた焼人骨は、ひび割れ、細片化し、遺存量が少ないため、性別や年齢の判定ができないものがほとんどを占める。

火葬時、焼骨は200℃で焦茶色、400℃で黒色、500℃で灰白色、600℃で純白色、800℃で淡褐色を帯びた乳白色になる（平野、1935）。本遺跡から出土した焼骨の表面の色調は黒色、青灰色、白色など変異に富んでいるが、大半は白色で、内部の海綿質は黒色が多い。今回の山田半田遺跡に納められた人々が火葬された際、高温に達した部位では、600℃程度には達してはいたはずである。土坑墓7号以外は全体に火の回りはよくなく、比較的、低温で焼かれたことがわかる。

一般に、軟組織が残っている時に焼かれたのであれば、長骨には外面の深いひび割れ、横方向の輪状の亀裂、長軸方向の裂開、著しい捩れが生ずるが、白骨を焼くと長軸方向の裂開と表面の浅いひび割れだけにとどまり、形が歪むことはな

いと言われている（Buikstra, 1973）。土坑墓1・3号の焼骨は、横方向の亀裂は認められるが、深いひび割れや著しい捩れは認められない。これは、軟部組織が残っている時に焼かれたにもかかわらず、比較的、低温で焼かれたことによるのかもしれない。

今回、山田半田遺跡の各墓に納められた焼骨の量は少なく、細片化している。また頭蓋や四肢の長骨が極めて少ない。納める焼骨量が少ない場合、拾骨を丹念に行わなかった可能性、分骨、二次的な改葬などが理由として考えられる。山田半田遺跡の例がどのような理由でこの程度の納骨量になり、頭蓋や四肢の長骨など、大きな焼骨片を納めなかったのか、今後解明していかなければならない課題である。

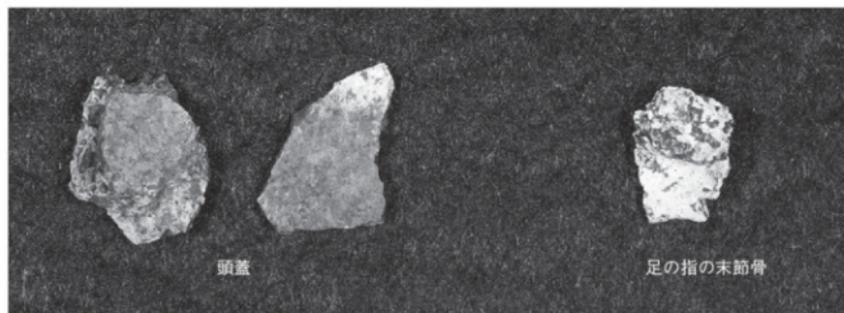


写真1 鹿児島県喜界町山田半田遺跡土坑墓1号出土焼骨（性別不明・年齢不明）

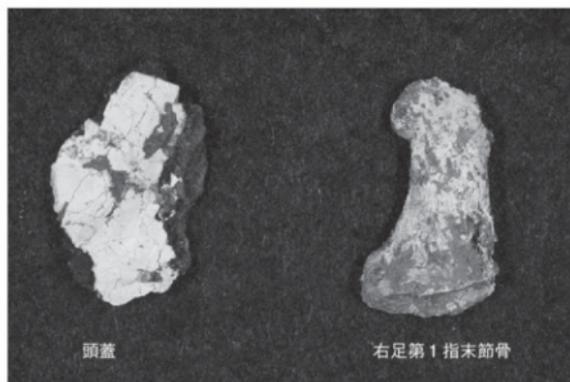


写真2 鹿児島県喜界町山田半田遺跡土坑墓3号出土骨（性別不明・成人）

## 第2節 山田半田遺跡出土炭化物の 放射性炭素年代測定(AMS法)及び樹種同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

山田半田遺跡は、山田中西・半田口・小ハネ・前畑・大ウフ・赤連・半田と共に城久遺跡群を構成する。今回の発掘調査により、11世紀後半～12世紀を主とする掘立柱建物跡や墓坑等が検出されている。

今回の分析調査では、掘立柱建物跡や土坑から出土した炭化材を対象とし、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施、年代や用材に関する資料を作成する。

### 1. 試料

試料は、掘立柱建物跡41号P4、土坑墓5号、土坑墓2号③および土坑墓2号④、焼土城を伴う土坑2号から出土した炭化材各1点、計5点である。

### 2. 分析方法

#### (1)放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等可溶性成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶性成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等可溶性成分の除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO<sub>2</sub>を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO<sub>2</sub>と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-2)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行った

#### 第166表 放射性炭素年代測定結果

試料名	種類	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
掘立柱建物跡41号P4	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	920±40	-31.04±0.47	1,020±30	9914-1	IAAA-72348
土坑墓5号	炭化材	マツ属椎葉実亜属	940±30	-24.58±0.57	940±30	9914-2	IAAA-72349
土坑墓2号③	炭化材	マキ属	1,210±30	-24.99±0.51	1,210±30	9914-3	IAAA-72350
土坑墓2号④	炭化材	マキ属	1,120±30	-21.85±0.47	1,070±30	9914-4	IAAA-72351
焼土城を伴う土坑2号	炭化材	ヤクシマルスベリ	180±30	-23.63±0.62	160±30	9914-5	IAAA-72352

1)年代値の算出は、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基準として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差(測定値の68%を範囲)を年代値に換算した値。

め、この値を用いて<sup>14</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

### 2)樹種同定

炭化材を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柃目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の断面面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、鳥地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

### 3. 結果

#### (1)放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第166表、暦年較正結果を第167表に示す。補正年代は、掘立41号P4が920±40BP、土坑墓5号が940±30BP、土坑墓5号③が1,210±30BP、土坑墓2号④が1,120±30BP、焼土城が180±30BPを示す。また、測定誤差をσとして計算した暦年較正結果は、掘立41号P4がcalAD1, 043-1, 157、土坑墓5号がcalAD1, 032-1, 152、土坑墓2号③がcalAD775-871、土坑墓2号④がcalAD893-970、焼土城を伴う土坑2号がcalAD1, 666-1, 951である。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも炭化材を試料としていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ ・2 $\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2 $\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ ・2 $\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

## ② 樹種同定

樹種同定結果を第166表に示す。炭化材は、針葉樹2種類(マツ属複雑管束亜属・マキ属)と広葉樹2種類(コナラ属アカガシ亜属・ヤクシマサルスベリ)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

### ・マツ属複雑管束亜属 (*Pinus subgen. Diploxylon*) マツ科

試料は年輪界で割れている。軸方向組織は、観察した範囲では仮道管のみで構成される。放射組織は、仮道管・柔細胞・水平樹脂道・エビセルウム細胞で構成されるが、水平樹脂道とエビセルウム細胞は、いずれも破損し、空壁として痕跡が残るのみである。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

### ・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

### ・コナラ属アカガシ亜属

#### (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射材で、管壁厚は中層一厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

アカガシ亜属の特徴でもある複合放射組織が観察できないが、他に同様の道管配列をする広葉樹材が日本にはないため、アカガシ亜属に同定した。

### ・ヤクシマサルスベリ (*Lagerstroemia subcostata* Koehne var. *fauriei* (Koehne) Hatusima ex Yahara) ミソハギ科サルスベリ属

散孔材で、道管は比較的厚壁で、単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は高くない。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-20細胞高。

日本のサルスベリ属は、琉球に生育するシマサルスベリと、その変種で屋久島・種子島・奄美大島に生育するヤクシマサルスベリがある。シマサルスベリとヤクシマサルスベリを木材組織で識別することは困難であるが、現在の分布状況を考慮してヤクシマサルスベリに同定した。

## 4. 考察

掘立柱建物跡41号P4から出土した炭化材は、年代測定で920±40BPの値が得られた。同定されたアカガシ亜属は、

暖温帯性常緑広葉樹林を構成する常緑高木であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。その出土状況から、柱材などに強度の高いアカガシ亜属を利用した可能性がある。

土坑墓5号では940±30BPの年代値が得られ、掘立柱41号P4とはほぼ同時期であることが推定される。同定された複雑管束亜属には、日本にアカマツ、クロマツ、リュウキュウマツの3種があるが、クロマツはトカラ列島以北、アカマツは屋久島が南限である。一方、リュウキュウマツはトカラ列島以南に分布するとされており、これらの分布状況を考慮すれば今回の試料はリュウキュウマツの可能性が高い。リュウキュウマツは樹脂を多く含む燃料性が良く、土坑内で燃料等として利用された可能性がある。

土坑墓2号の炭化材の年代測定値は、③が1,210±30BP、④が1,120±30BPであり、同じ遺構内から出土した炭化材で約100年近い年代差がある。測定試料とした炭化材片は、いずれも針葉樹のマキ属であった。マキ属は、暖温帯常緑広葉樹林中に生育する針葉樹で、重硬で強度・耐水性が高いが成長が遅く、年輪幅も狭いのが一般的である。

焼土域を伴う土坑2号の炭化材は、180±30BPで、暦年較正では17世紀中頃～20世紀中頃までの幅広い時間を示す。ヤクシマサルスベリは重硬で強度の高い材質を有している。

## 引用文献

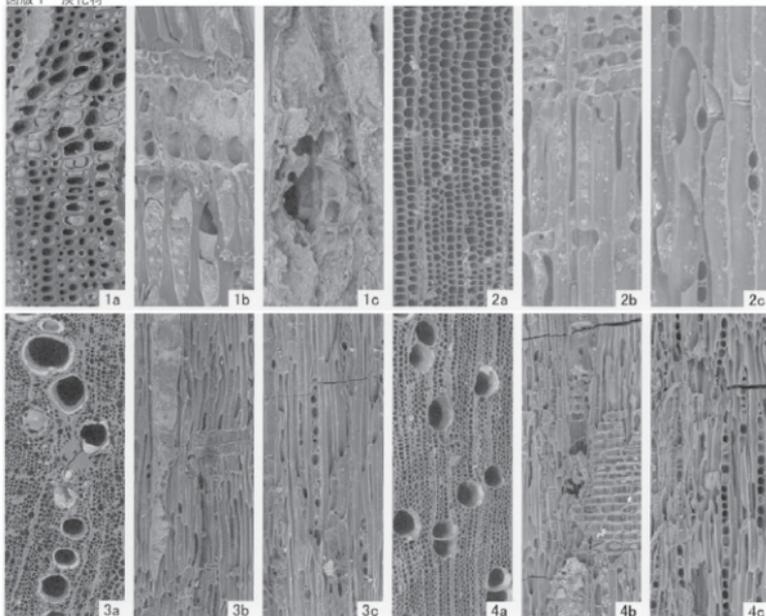
- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。  
伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。  
伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。  
伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。  
伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。  
伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。  
Richter H.G., Gasser D., Heinzl I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Gasser D., Heinzl I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].  
高地 謙・伊東 隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p. Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

第167表 暦年校正結果

試料名	暦年年代(BP)	暦年校正年代 (cal)						相対比	Code No.				
		cal AD	AD	-	cal AD	cal BP	BP						
縄立柱建物跡41号P4	923±34	σ	cal AD	1,043	-	cal AD	1,104	cal BP	907	-	846	0.629	9914-1
			cal AD	1,118	-	cal AD	1,157	cal BP	832	-	793	0.371	
		2σ	cal AD	1,026	-	cal AD	1,185	cal BP	924	-	765	0.994	
			cal AD	1,202	-	cal AD	1,205	cal BP	748	-	745	0.006	
土坑層5号	944±30	σ	cal AD	1,032	-	cal AD	1,051	cal BP	918	-	899	0.234	9914-2
			cal AD	1,081	-	cal AD	1,127	cal BP	869	-	823	0.554	
		2σ	cal AD	1,135	-	cal AD	1,192	cal BP	815	-	798	0.212	
			cal AD	1,025	-	cal AD	1,158	cal BP	925	-	792	1.000	
土坑層2号③	1,212±32	σ	cal AD	775	-	cal AD	871	cal BP	1,175	-	1,079	1.000	9914-3
			cal AD	692	-	cal AD	749	cal BP	1,258	-	1,201	0.160	
		2σ	cal AD	764	-	cal AD	891	cal BP	1,186	-	1,059	0.840	
			cal AD	893	-	cal AD	904	cal BP	1,057	-	1,046	0.155	
土坑層2号④	1,120±30	σ	cal AD	913	-	cal AD	970	cal BP	1,037	-	980	0.845	9914-4
			cal AD	784	-	cal AD	787	cal BP	1,166	-	1,163	0.003	
		2σ	cal AD	824	-	cal AD	842	cal BP	1,126	-	1,108	0.017	
			cal AD	862	-	cal AD	994	cal BP	1,088	-	956	0.980	
縄土域を伴う土坑2号	181±29	σ	cal AD	1,606	-	cal AD	1,682	cal BP	284	-	268	0.191	9914-5
			cal AD	1,736	-	cal AD	1,784	cal BP	214	-	166	0.527	
			cal AD	1,796	-	cal AD	1,804	cal BP	154	-	146	0.097	
			cal AD	1,935	-	cal AD	1,951	cal BP	15	-	1	0.185	
			cal AD	1,653	-	cal AD	1,695	cal BP	297	-	255	0.208	
		2σ	cal AD	1,726	-	cal AD	1,813	cal BP	224	-	137	0.568	
			cal AD	1,838	-	cal AD	1,842	cal BP	112	-	108	0.006	
			cal AD	1,953	-	cal AD	1,987	cal BP	97	-	83	0.016	
			cal AD	1,874	-	cal AD	1,875	cal BP	76	-	75	0.002	
			cal AD	1,918	-	cal AD	1,952	cal BP	32	-	2	0.200	

- 1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用  
 2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。  
 3)1桁目を丸めるのが原則だが、暦年校正曲線や暦年校正プログラムが改正された場合の再計算や比較がしやすいように、1桁目を丸めていない。  
 4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。  
 5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

図版1 炭化材



1. マツ属種推定木炭層 (1号土坑)
  2. マキ属 (SK-11; 炭化物層中E)
  3. コナラ属アカガシ亜属 (大型縄立柱: D17,P1179)
  4. ヤクシマサルベリ (P2350)
- a: 木口, b: 木理, c: 木線

200 μ m: 1-3a, 2a, 3-4b, c  
 100 μ m: 1-2b, c

### 第3節 山田半田遺跡土壌のプラントオパール・花粉分析

パルノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

鹿児島県大島郡喜界町山田半田遺跡は、標高160m前後の台地縁辺部に立地している。山田半田遺跡など8つの遺跡からなる城入遺跡群は、9世紀～10世紀と11世紀後半～12世紀頃の2時期を中心とした大規模な集落跡である。山田半田遺跡では、大型独立建物跡等の遺構が検出されている。

今回の発掘調査では、平成18年2トレンチ土層断面で古代～中世の溝状遺構や畝跡の可能性が指摘される遺構が検出された。そこで、古代～中世の古植生や土地利用に関する情報を得るために、花粉分析・植物珪酸体分析を実施する。

#### 1. 試料

分析対象とするのは、平成18年2トレンチ土層断面の北壁（以下、トレンチ北壁とする）である。本地点では、赤土からなる地山の上位に褐色～暗褐色の土色を呈する土壌の累重が見られ、下位より大きくXⅢ層～Ⅰ層に分層されている。このうち、V層は部分的に畝状を呈する暗褐色土層、Ⅱ層は旧耕作土層、Ⅰ層は現耕作土層とされる。また、Ⅲ層より下位は古代～中世の遺物包含層と考えられている。

これらの土層の内、花粉分析と植物珪酸体分析に用いる試料は、Ⅱ層（試料番号1）、V層（試料番号2）、XⅢ層（試料番号3）より採取された土壌、計3点である。

#### 2. 分析方法

##### (1) 花粉分析

試料を正確に10cc秤量し、水酸化カリウムによる泥化、簡別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は、分析残渣量、プレパラート作成に用いた残渣量、検鏡した面積等から、堆植物1gあたりの個数として表示する。

##### (2) 植物珪酸体分析

各試料について、過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学的処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身細胞に由来した植物珪酸体

（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆植物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆植物1gあたりの個数に換算）を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示すとともに植物珪酸体含量の層的变化を図示する。

#### 3. 結果

##### (1) 花粉分析

結果を第168表に示す。いずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量解析を行えるだけの個体数は得られなかった。検出された花粉化石は、マツ属、コナラ属アカガシ亜属のみであり、その含有量は5個/cc以下である。検出された花粉化石の保存状態も悪い。また、イノモトソウ属などのシダ類胞子も認められる。

第168表 花粉分析結果 (個/cc)

種 類	試料番号	Ⅱ層	V層	XⅢ層
木本花粉				
マツ属		0.0	5.0	0.8
コナラ属アカガシ亜属		0.0	0.0	0.8
シダ類胞子		0.0	0.0	0.0
イノモトソウ属		8.3	10.0	0.0
シダ類胞子		120.8	25.0	0.0
合 計				
木本花粉		0.0	5.0	1.7
シダ類胞子		129.2	35.0	0.0
総計		129.2	40.0	1.7

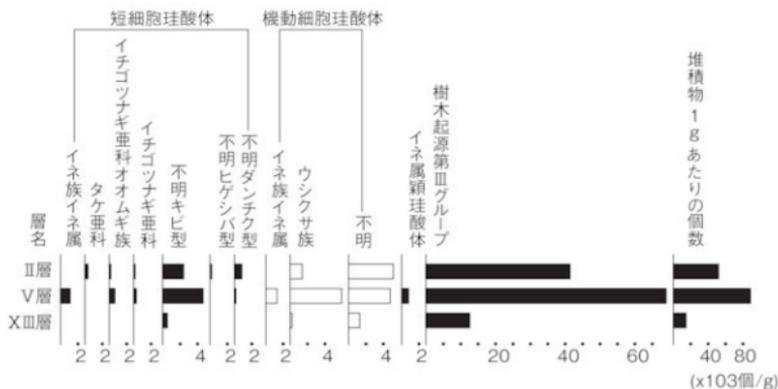
##### (2) 植物珪酸体分析

結果を第169表、第200図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。また、いずれの試料でも、イネ科起源より樹木起源珪酸体第Ⅲグループ（近藤・ビヤン、1981）の産出が目立つ。

試料番号3（XⅢ層）では、イネ科起源の含量が約2,000個/gである。ウシクサ族などがわずかに認められるに過ぎない。

試料番号2（V層）では、イネ科起源の含量が約1.9万個/gである。本試料からは、栽培植物のイネ属が検出される。この中には、葉部に形成される短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、鞘部に形成される顆粒珪酸体が見られる。その含量は、短細胞珪酸体が約1,100個/g、機動細胞珪酸体が約1,200個/g、顆粒珪酸体が約800個/gである。また、栽培種を含む分類群であるオオムギ族も検出される。その他、ウシクサ族などが認められる。

試料番号1（Ⅱ層）では、イネ科起源の含量が約1万個/gである。オオムギ族を含むイチゴツナギ亜科やウシクサ族などが認められる。



第209図 植物珪酸体含量の層位的変化 堆積物1gあたりに換算した個数を示す。

第169表 植物珪酸体含量 (個/g)

種 類	試料番号	II層	V層	XIII層
イネ科葉部短鎖細胞珪酸体				
イネ族イネ属	0	1,119	0	
タケ亜科	343	0	0	
イチゴツナギ亜科オオムギ族	172	639	0	
イチゴツナギ亜科	172	320	0	
不明キビ型	2,404	4,634	532	
不明ヒゲシハ型	172	0	0	
不明ダンシク型	859	160	0	
イネ科葉部機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	0	1,278	0	
ウシクサ族	1,374	5,912	213	
不明	5,152	4,794	1,276	
珪化組織片				
イネ属珪酸体	0	799	0	
樹木起源				
葉部グループ	41,389	69,028	12,549	
合 計				
イネ科葉部短鎖細胞珪酸体	4,122	6,872	532	
イネ科葉部機動細胞珪酸体	6,526	11,964	1,489	
珪化組織片	0	799	0	
樹木起源	41,389	69,028	12,549	
総 計	52,037	88,683	14,570	

#### 4. 考察

##### (1) 古植生

分析の結果、花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失したという2つの可能性があげられる。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村, 1967; 徳永・山内, 1971)。わずかに検出された花粉化石の保存状態が悪いことを考慮すると、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子が、その後の経年変化により分解・消失した可能性が大きい。

一方、植物珪酸体は検出されるものの、その保存状態も概して悪かった。蒸発量の多い亜熱帯湿潤気候下では、珪酸の

かなりの部分が溶脱するとされている(松井, 1988)。また、植物珪酸体は湿潤な土壌や土壌温度の高い堆積物の方が、植物珪酸体の風化の度合いが高いとされている(近藤, 1988)。植物珪酸体は非結晶質の珪酸で構成されるため、このような脱珪酸化作用などの化学的風化作用の影響を受けることが十分に考えられる。これらの点を考慮すれば、現在までに受けた風化作用により、土壌中に埋積した植物珪酸体が溶解、消失した可能性がある。

検出された種類についてみると、マツ属、コナラ属アカガシ亜属に由来する花粉が検出されることから、当時の本遺跡周辺にこれらの木本類が生育していたことが伺える。また、植物珪酸体分析からは、樹木起源第IIIグループの産出が目立った。この珪酸体は、ブナ科、モクレン科、マンサク科(イヌノキ)など照葉樹林要素となる分類群を含む種類の葉部に数多く含まれるとされているが、大部分の樹木の葉部にも形成するとされる(近藤・ピアソン, 1981)。そのため、種類を特定することは困難であるが、調査区の周辺に樹木が生育していたと思われる。

一方、草本については、植物珪酸体の産状から調査区辺りにタケ亜科、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと推測される。

当該期の植生およびその変遷は、人間を取り巻く生活環境を考える上で重要な要素である。そのため、今後さらに、同様の分析を重ねるとともに炭化材同定なども併用し、島内の植生変遷に関する情報を蓄積することが望まれる。

##### (2) 植物資源利用

トレンチ北壁で見られた土層のうち、V層(試料番号2)からイネ属の葉部や初級に形成される植物珪酸体が検出されたことから、V層堆積時の本遺跡周辺でのイネ属の存在が示唆される。本層では、畝状を呈する部分が認められており、畝跡の可能性が指摘されている。本層が耕作土であるとする

ならば、陸稲栽培などの稲作や、畑作の際に肥料や資材として稲藁や籾殻が利用されたことなどの可能性がある。

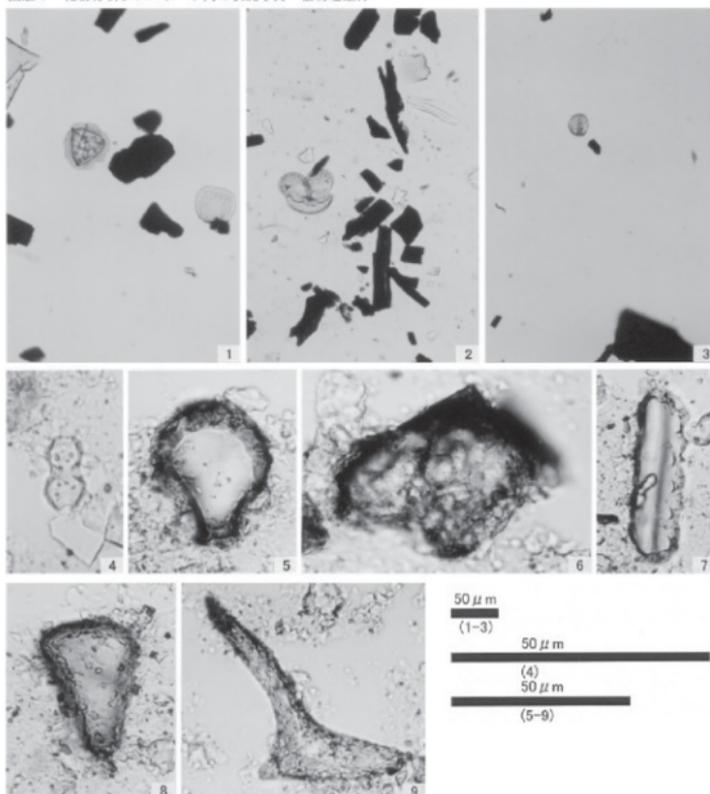
また、V層やII層（試料番号1）からは、オオムギ族の植物珪酸体が検出された。植物珪酸体からは栽培種か野生種かの区別は困難であるが、栽培種に由来するものであれば、本遺跡周辺でのムギ類の栽培も考えられる。

今後さらに、当該期の土層を対象として複数の地点で層位的に植物珪酸体分析を実施し、イネ属やオオムギ族の層位的な消長や空間的な分布を把握することで、イネ属などが出現する時期や耕作地の広がりを明らかにできると思われる。

## 引用文献

- 近藤 鏡三, 1988, 植物珪酸体 (Opal Phytolith) からみた土壌と年代, ベドロジスト, 32, 189-203.  
 近藤 鏡三, 2004, 植物ケイ酸体研究, ベドロジスト, 48, 46-64.  
 近藤 鏡三・ピアスン 友子, 1981, 樹木葉のケイ酸体に関する研究 (第2報) 双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について, 帯広畜産大学研究報告, 12, 217-229.  
 松井 健, 1988, 土壌地理学序説, 茶地書館株式会社, 316p.  
 中村 純, 1967, 花粉分析, 古今書院, 232p.  
 徳永 重元・山内 輝子, 1971, 花粉・胞子, 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

図版1 花粉分析プレパラート内の状況写真・植物珪酸体



1. 状況写真 (トレンチ西壁: II層)
2. 状況写真 (トレンチ西壁: X層)
3. 状況写真 (トレンチ西壁: V層)
4. イネ属細胞珪酸体 (トレンチ西壁: V層)
5. オオムギ属細胞珪酸体 (トレンチ西壁: V層)
6. イネ属細胞珪酸体 (トレンチ西壁: V層)
7. ウシクサ族細胞珪酸体 (トレンチ西壁: V層)
8. 樹木起源珪酸体第IIグループ (トレンチ西壁: V層)
9. 樹木起源珪酸体第IIIグループ (トレンチ西壁: V層)

#### 第4節 山田半田遺跡より出土した植物遺体

高宮 広土

##### はじめに

城久遺跡群における生業を理解するために、昨年度山田中西遺跡より検出された土抗墓等から計77.5リットルの土壌をサンプリングし、フローテーション処理した。その結果、イネやオオムギ等が回収・同定され、少なくとも山田中西遺跡の人々が作物に依存していた可能性が高かったことが示唆された(高宮2008)。ただし、昨年度の試みは初歩的な試みであったため、更なる検証が必要であった。今回、山田半田遺跡より土壌袋にして計50の土壌サンプルをフローテーション処理した。土壌サンプル地点は大きくわけて、「焼土関連遺構」「土抗 およびピット」および「土抗墓」であった(表1~4)。土壌サンプルは、計394.5リットルで、フローテーション処理後、832グラムの浮遊物を回収した。回収された浮遊物を分析した結果、計431(粒/片)の植物遺体が確認された。以下に今回検出された植物遺体について述べる。

##### 回収・同定された植物遺体(表1~4)

###### イネ *Oryza sativa* L.

イネ穎果が計96(粒/片)検出された。そのうち89(粒/片)は、土抗(LF No.35)および1号土抗墓(LF No.33&34)に集中していた(第172・173表)。「土抗墓」より計65(粒/片)、「土抗およびピット」より計30(粒/片)、および「焼土関連」遺構より1(片)であった(第171~173表)。計7粒のイネ穎果が計測可能で、その平均は4.3×2.1×1.5mmであった(第174表)。写真1・2および3のサイズは、それぞれ4.3×2.3×1.4mm, 3.8×1.8×1.4mm, および3.3×2.4×1.8mmである。

###### イネ小穂軸

イネの小穂軸が、土抗6号より1片および土抗墓6号より1片の計2(片)検出されている。写真4のサイズは、0.7×0.3×0.5mmである。

###### イネ?

イネの穎果と思われるが、保存状態が悪く、イネとは同定できなかった植物遺体をごこのカテゴリーに含めた。土抗13号より1(片)および土抗墓6号より11(片)回収された。

###### コムギ *Triticum aestivum* L.

コムギ穎果が土抗墓6号より2(粒/片)検出された。写真5のサイズは、2.0×1.6×1.6mmである(第175表)。山田中西遺跡より検出されたコムギについて、グスク時代の遺跡から検出される小型のコムギであると報告したが、このコムギ穎果も、小型に属する。

###### オオムギ *Hordeum vulgare* L.

オオムギの穎果が、8(粒/片)確認された。7粒が土抗から、1粒は土抗墓15号より回収された。前回山田中西遺跡より回収されたオオムギは、グスク時代の遺跡出土のオオムギと類似し、長粒タイプのオオムギと思われた。今回も7(粒/片)はこのタイプである。興味深い事に、短粒タイプと思われるオオムギが1粒焼土域を伴う土抗10号より回収された(写真7)。写真9は長粒タイプである。写真7のサイズは、5.0×3.2×1.9mm(第176表)で、写真9のサイズは、4.0×1.9×1.5mmである。長粒タイプのうち2粒が計測可能で、その平均は4.4×2.1×1.7mmであった(第176表)。

###### ムギ類

コムギかオオムギの破片と思われるが、そのどちらにも同定できない植物遺体をムギ類とした。計10片回収され、そのうち7片は土抗から、3片は土抗墓より検出された。

###### ムギ類穂軸

ムギ類の穂軸が2片、土抗14号より確認された。保存状態が悪く、コムギかオオムギかは判断できなかった(写真8)。写真8のサイズは、0.9×1.5mm(長さ×幅)である。

###### アワ *Setaria italica* Beauv.

18(粒/片)がアワの穎果であった(写真6)。土抗より17(粒/片)、土抗墓6号より1(粒/片)出土している。4粒のアワが計測可能で、その平均は1.2×0.9×0.7mmであった(第177表)。写真6のサイズは1.1×0.8×0.5mmである。

###### コミカンソウ *Phyllanthus urinaria* Linn.

ミカンの房のような形態をしており、背面には波状の模様を観察される。土抗13号より1粒検出された(写真9)。写真9のサイズは、0.8×0.7×0.5mmである。

###### オトギリソウ属 *Hypericum* sp.

卵状楕円形の形態をしており、背面は数条の隆起した縦列がある。腹面の中央にも1条隆起した線が確認された。計175(粒)回収され、そのうち159粒が「焼土関連遺構」から検出されている(第170~173表)写真11のサイズは、1.2×0.3×0.4mmである。

###### イネ科 *Poaceae* sp.

イネ科の種子が2粒、土抗より回収された(第171表)。写真12のサイズは、1.4×0.4×0.3mmである。

###### カヤツリグサ科 *Cyperaceae* sp.

カヤツリグサ科の種子が1粒、土抗6号より検出された(第171表)。ホタルイ属に属するものと思われる。写真13のサイズは、1.5×0.9×0.2mmである。

第170表 山田半田遺跡遺跡より回収された植物遺体

遺 体	土壌サンプル量 (g)	回収された浮遊物 (g)	回収された植物体 (g)	分佈密度 (数/g)	イネ (粒/片)	イネ (小穂軸/片)	イネ? (片)	コムギ (粒/片)	オオムギ (粒/片)	ムギ類 (片)	ムギ類 (小穂/片)	アワ (粒/片)	コムギソウ (粒)	オトギリソウ属 (粒)	イネ科 (粒)	カヤツリグサ科 (粒)	タデ科 (粒)	マメ科 (粒)	クワ科 (粒)	堅果皮? (片)	堅果種子葉? (片)	不明 (粒)	同定不可能 (片)	計 (粒/片)		
焼土関連	210	698	216	1.0	3				1					159				1	1			2	12	37	216	
土坑・ピット	108	38.43	115	1.1	28	2	1		7	9	2	17	1	12	2	1	2	1			1		2	27	115	
土坑層	76.5	95.6	99	1.3	65			11	2	0	1			4											13	99
計 (粒/片)	394.5	832	430	1.09	96	2	12	2	8	10	2	18	1	175	2	1	2	1	1	1	3	2	14	77	430	

第171表 焼土関連遺構より回収された植物遺体

LF No.	グ	層	土壌サンプル量 (g)	浮遊物 (g)	イネ (粒/片)	イネ (小穂軸/片)	オオムギ (粒/片)	オトギリソウ属 (粒)	マメ科 (粒/片)	クワ科 (粒)	堅果種子葉? (片)	不明 (粒)	同定不可能 (片)	計 (粒/片)
44	O-18	土坑2号①	10.5	10.32									3	3
27	O-18	土坑2号②	11.5	7.92										0
45	O-18	土坑2号③	13.5	4.78										0
1	H-29	焼土	8.5	10.74										0
21	R-19	焼土層7号	2.5	20.35										0
6	C-9	焼土層10号	12	22.6									3	3
15	C-9	焼土層10号	10	16.2			1							1
11	D-9	焼土層11号	11.5	51.8										0
23	D-9	焼土層11号	10	88.7										0
42	D-9	焼土層11号	15.5	4.71	2								13	15
43	F-29	焼土層12号①	12	7.1				5			2	1	4	12
2	F-29	焼土層12号②	9	324.03										0
18	F-29	焼土層12号③	10.5	24.26										0
12	F-29	焼土層12号④	10	17.28				45						45
13	F-29	焼土層12号⑤	8.5	10.89				26						26
17	F-29	焼土層12号植物体	0.01	0.03										0
25	F-29	焼土層12号植物体	0.01	0.02										0
26	G-29	焼土層13号	10	17.52		1		22					1	24
39	G-29	焼土層13号①	12	7.24										0
38	G-29	焼土層13号②	7	40.63				61	1	1		10	10	83
16	H-30	焼土層14号①	12.5	3.71								1	3	4
7	H-30	焼土層14号②	10	3.24										0
10	K-23	焼土層15号	1.5	2.74										0
20	A-2	Ⅲ層中 焼土	1	0.67										0
		計 (粒/片)	209.52	697.68	3	1	159	1	1	2	12	37	216	

第172表 土坑およびピットより回収された植物遺体

LF No.	グ	層	土壌サンプル量 (g)	浮遊物 (g)	イネ (粒/片)	イネ (小穂軸/片)	イネ? (片)	コムギ (粒/片)	オオムギ (粒/片)	ムギ類 (片)	ムギ類 (小穂/片)	アワ (粒/片)	コムギソウ (粒)	オトギリソウ属 (粒)	イネ科 (粒)	カヤツリグサ科 (粒)	タデ科 (粒)	マメ科 (粒)	クワ科 (粒)	堅果皮? (片)	堅果種子葉? (片)	不明 (粒)	同定不可能 (片)	計 (粒/片)	
47	H-29	P379柱遺跡	4.5	1.83																				0	
32	D-29	土坑	6	0.87																					0
49	D-29	土坑	3	0.8																					0
30	P-18	土坑1号	11.5	7.17																					0
22	H-G 14	土坑6号	14.5	3.76	1	1			6	5		10		12	1	1	2	1	1	1	2		16	59	
35	C-9	土坑10号	4.5	6.92		24						4												7	35
29	D-27	土坑14号	13	0.51							2	1												1	4
31	D-27	土坑14号	11.5	2.08	3		1				1	3												1	9
5	C-28	土坑15号	11	5.1						1	2														4
40	I-30	土坑層7号	0.5	0.16																					0
3	I-29	土坑層13号	7	2.55										1											1
28	I-29	土坑層13号	11	3.53																			2	2	1
50	I-29	土坑層13号	10	3.15											1										1
		計 (粒/片)	108	38.43	28	2	1	0	7	9	2	17	1	12	2	1	2	1	1	1	2		27	115	

第173表 土抗墓より回収された植物遺体

LF No.	グ リ ッ ド	類 ノ 遺 積	土 層 サ ン プ ル 重 (g)	浮 遊 物 (g)	イ ネ (粒 片)	イ ネ (小 穂 軸 片)	イ ネ ? (片)	コ ム ギ (粒 片)	オ オ ム ギ (粒 片)	ム ギ 類 (片)	ア ワ (粒 片)	オ ト ギ ソ ウ 属 (粒)	堅 果 皮 ? (片)	同 定 不 可 能 (片)	計 (粒 片)
37	F-16	土抗墓2号	2.5	15.3										2	2
8	F-15	土抗墓3号	7.5	3.22								1			1
36	F-15	土抗墓3号	3.5	1.04											0
46	G-12	土抗墓4号	2	1.42											0
33	B-5	土抗墓5号	7.5	27.7	34		8			1				3	46
34	B-5	土抗墓5号	4	20.1	30		3							3	36
41	B-5	土抗墓5号	1	0.9											0
4	H-26	土抗墓6号	10	6.84											0
9	H-26	土抗墓6号	8.5	4.63	1			1						2	4
14	H-26	土抗墓6号	9	7.51				1			1	3	2		7
19	H-26	土抗墓6号	8.5	4.04											0
24	H-26	土抗墓6号	9	1.22										3	3
48	H-26	土抗墓6号	3.5	1.65											0
		計 (粒/片)	76.5	95.6	65	0	11	2	0	1	1	4	2	13	99

第174表 イネのサイズ

LF No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
27	4.7	1.8	1.5
27	3.8	1.8	1.4
33	4.4	2.1	1.4
33	4.3	2.3	1.4
33	4.7	2.3	1.6
34	4	2.2	1.3
34	4.2	2.4	1.5
平均 (mm)	4.3	2.1	1.5

第176表 オオムギのサイズ

LF No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
10	5	3.2	1.9

オオムギ (長粒)

LF No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
22	4	1.9	1.5
22	4.8	2.2	1.6
平均 (mm)	4.4	2.1	1.7

第175表 コムギのサイズ

LF No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
9	2	1.6	1.6

第177表 アワのサイズ

LF No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
22	1.1	0.8	0.5
22	1.4	0.8	0.7
35	1.1	1	0.8
35	1.1	0.9	0.6
平均 (mm)	1.2	0.9	0.7

タデ科 Polygonaceae sp.

断面がほぼ三稜のタデ科種子が2粒、土坑6号より回収された(第171表)。写真14のサイズは、1.5×1.0×1.0mmである。

ナス科 Solanaceae sp.

種子は腎臓状円形、背腹両面は長方形、腹面の中央にヘンがありその周辺は窪む。ナス科の種子が1粒、土坑6号より検出されている(第171表)。写真15のサイズは、0.9×1.0×0.8mmである。

マメ科 Leguminosae sp.

マメ科の種子が1片、焼土を伴う土坑14号より検出された(第171表)。6割程度残存しており、ヘンの部分は欠落している。残存部から側面はほぼ楕円形と想像される。内面は平坦。写真16のサイズは、21×18×1.1mmである。

クワ科 Moraceae sp.

クワ科の種子が1片、焼土を伴う土坑14号より回収された。瘦果の側面は半楕円形、背面は倒卵形。写真17のサイズは、0.9×1.0×0.8mmである。

堅果皮?

堅果皮と思われる植物遺体が、土坑6号より1片、および土抗墓6号より2片、計3片回収された(第171表)。写真18の残存部のサイズは、長径×短径1.3×1.6mmである。

堅果類子葉?

堅果類の子葉と思われる破片が、焼土を伴う土坑13号より検出された(第170表)。写真19のサイズは、長さ×幅×厚さ2.5×0.6×0.8mmである。

#### 不明1

種子は倒卵形、側面は広線形。腹面にヘソのような箇所が認められ、野生のママ科と思われるが、ママ科の十分な特徴を有していない。焼土を伴う土坑14号より計1粒確認されている。写真20のサイズは1.4×1.0×0.8mm。

#### 不明2

種子は楕円形長方形から長楕円形長方形で、扁平。種皮はスムーズ。焼土を伴う土坑より計11粒検出された。写真21のサイズは1.9×1.1×0.6mm。

#### 不明3

種子は線状楕円形、側面は広線形。背面には数条の縦列の細かい溝が認められる。種皮は滑らか。土坑6号より計2粒回収されている。写真22のサイズは2.1×0.8×0.8mm。

#### 同定不可能

計77片の植物遺体を同定不可能とした。

#### まとめ

上述したように、昨年度初めて城久遺跡群山田中西遺跡において植物遺体の回収の試みがなされ、その結果、イネ・コムギ・オオムギ・アワが同定され、山田中西遺跡の人々の生業が農耕であったことが示唆された(高宮2008)。この解釈をさらに検証するため、今回山田半田遺跡よりフローテーションを採用して植物遺体の検出を試みた。山田半田遺跡より回収された計431(粒/片)の植物遺体のうち計354が同定可能であった。そのうち計145(粒/片)は、イネ等の作物であった。堅果類破片と思われる植物遺体も回収されたが、山田半田遺跡遺跡においても主な植物食糧源は栽培植物であったと思われる。

今回「焼土関連遺構」「土坑およびピット」および「土坑墓」から土壌のサンプリングを実施したが、植物遺体が最も回収された遺構は「焼土関連遺構」であった。しかしこれらの遺構からは、食性に直接関連のある植物遺体はイネ1片と堅果類子実と思われる植物遺体2片のみであった。イネが集中していたのは「土坑およびピット」および「土坑墓」であった(計96粒/片)。これらの遺構のなかでも、土坑10号(LF35:24粒/片)および土坑墓5号(LF33&34:64粒/片)の2遺構に集中していた。また、「土坑およびピット」のなかで、土坑6号(LFN022)は、最も多くの種類の植物遺体(12種類)を含んでいた。土坑、土坑墓およびピットと分類された遺構にも、それぞれの中で異なる機能があったのかもしれない。

山田半田遺跡からはイネが計96(粒/片)回収されたが、コムギやオオムギ等の雑穀も40(粒/片)ほど検出されている。城久遺跡群の立地を考慮すると畑作が想定されるが、ここで生活を営んだ人々の主食が、どの作物であったのかは今

後の研究テーマであると思われる。コミカンソウやタデ科等の種子が検出されたことは、この遺跡の周りが開けた空間であったことを示唆するものではないであろうか。これらの種子データの蓄積も今後の重要な課題であろう。

また、昨年度1粒検出されたコムギは小型コムギであった。今回も計測可能なコムギは1粒のみであったが(2.0×1.6×1.6mm)、やはり小型の部類に入ると思われる。オオムギに関しては、1粒短粒型と思われるオオムギが回収されている。これが短粒型であれば、琉球列島初のデータとなる。今後長粒および短粒オオムギの琉球列島内における出現についても注目すべきであろう。

最後にこのようなデータが増加するにつれ、今後は炭素十四年代測定も実施する必要がある。

#### 謝辞:

土壌をサンプリングして下さった喜界町教育委員会遺田直敏氏および野崎拓司氏に感謝申し上げます。また、奄美市教育委員会中山清美氏および松本信光氏にはフローテーション処理を行うためにいろいろと便宜を図って下さいました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。なお、本研究は平成20年度札幌大学研究助成(共同)の一部を使用した。

#### 引用文献

高宮広土 2008 「山田中西遺跡出土の植物遺体: 速報」  
『城久遺跡群 山田中西遺跡』喜界町教育委員会(編)  
pp.99-100. 喜界町教育委員会: 喜界町

#### 参考文献

中山至大、井之口希秀、南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』東北大学出版会: 仙台市

山田半田遺跡出土の植物遺体



1) イネ(LF33)



2) イネ(LF27)



3) イネ(LF22)



4) イネ小穂軸(LF5)



5. コムギ 背面



側面



腹面(LF9)



6) アワ(LF22)



7) オオムギ(短粒) 背面



側面



腹面(LF10)



8) ムギ類穂軸(LF29)



9) オオムギ(長粒) 背面



側面



腹面(LF22)



10) コミカンソウ(LF3)

背面

側面

腹面

11) オトギリソウ属 (LF22)

背面

腹面



12) イネ科(LF22)

13) カヤツリグサ科(LF12)

14) タデ科(LF22)

15) ナス科(LF22)



16) マメ科 外側

内側(LF15)

17) クワ科(LF15)



18) 堅果皮 外側

内側(LF14)

19) 堅果類子葉 外側

内側(LF23)



20) 不明1 (LF2)

21) 不明2 (LF15)

22) 不明3 (LF22)

## 第5節 山田半田遺跡出土のガラス玉の分析

鹿児島県立埋蔵文化財センター 内山伸明

本遺跡出土のガラス玉について、双眼実体顕微鏡による形状観察とエネルギー分散型蛍光X線分析装置による成分分析を行った。

### 1 資料

- 第201図392 (青色玉)
- 第80図32 (緑色、完形玉)
- 第201図395 (白化玉)
- 第201図396 (白化玉)
- 第201図394 (白化片)

### 2 観察・分析方法

#### (1) 形状観察

双眼実体顕微鏡による8~10倍観察を、透過光及び反射光のもとで行った。

#### (2) 蛍光X線分析

エネルギー分散型蛍光X線分析装置(堀場製作所製XGT-1000, X線管球ターゲット:ロジウム, X線照射径100 $\mu$ m)を使用し、次の条件により分析を行った。

X線管電圧: 15/50kV	電流: 自動設定
測定時間: 200S	X線フィルタ: なし
試料セル: なし	ルス処理時間: P 3
定量補正法: スタンダードレス	

### 3 結果

#### (1) 形状観察

392

光をほとんど通さない、濃い青色のガラスである。表

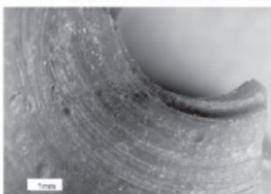


写真1 392孔周辺

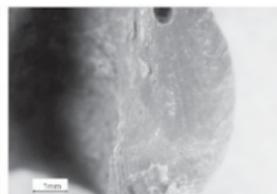


写真2 392断面

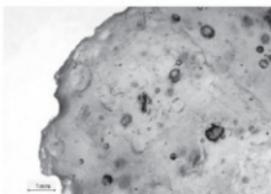


写真3 32表面(透過光)

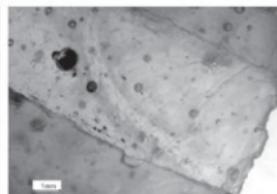


写真4 32孔内側(透過光)

面、破断面に筋状の模様が見られ、巻き付け法により作られたものと思われる(写真1、2)。

32

緑色がかったガラスで、表面には泡状の凹凸が見られる。写真3、4は、エタノールに浸した状態で透過光により撮影したものである。内部には気泡が見られる。表面の凹凸と同様、きれいな円形をしている。また、表面には孔に対して横方向に巻いたような筋が残っている。

394~396

いずれも風化が激しく、ガラス質の部分は残っていない。孔の周囲には風化物が層状に重なっている様子が見られる(写真5~7)。

#### (2) 蛍光X線分析

分析結果にはスペクトル、質量濃度、蛍光X線強度を示した。ここでいう質量濃度は、標準試料を用いないFPM定量による値であり、目安として見てもらいたい。

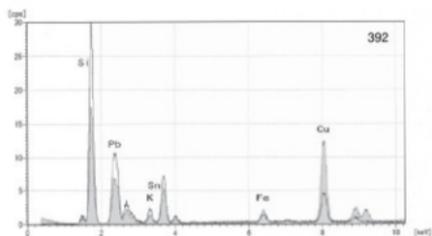
#### 〔ガラスの種類〕

スペクトルを見ると、いずれも鉛のピークが顕著で、鉛ガラス(PbO-SiO<sub>2</sub>系)であることが分かった。また、392、32には、弱いながらもカリウム(K)のピークも見られる。

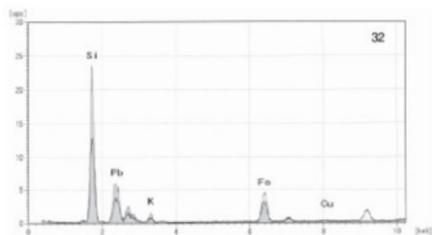
#### 〔着色剤〕

392は銅(Cu)・スズ(Sn)のピークが見られる。青色の発色は銅によるもので、青銅を添加したものと思われる。この傾向は395、396、394にも見られるが、風化しているためにガラス本来の色を確認できない。

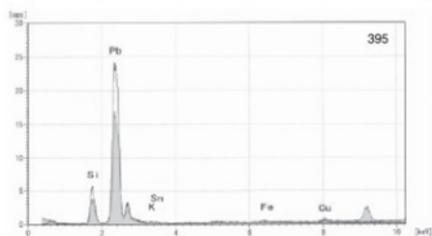
32には鉄(Fe)のピークが見られることから、着色剤として鉄を用いたと思われる。



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al 7% <sub>2s</sub>	3.90	14.74
Si 1% <sub>1s</sub>	47.57	377.79
K 8% <sub>2s</sub>	2.62	33.10
Ca 3% <sub>2s</sub>	7.12	103.10
Fe 鉄	0.63	88.37
Cu 銅	3.01	642.73
Sn 7% <sub>2s</sub>	0.38	6.69
Pb 鉛	34.78	2211.39



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Si 1% <sub>1s</sub>	43.96	287.02
K 8% <sub>2s</sub>	2.23	20.39
Fe 鉄	2.12	223.31
Cu 銅	0.05	8.64
Pb 鉛	51.64	2383.68



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Si 1% <sub>1s</sub>	14.14	67.16
K 8% <sub>2s</sub>	0.85	5.68
Fe 鉄	0.11	8.28
Cu 銅	0.15	17.12
Sn 7% <sub>2s</sub>	0.87	5.71
Pb 鉛	83.86	2506.25

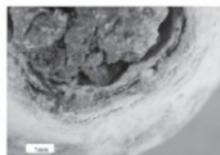
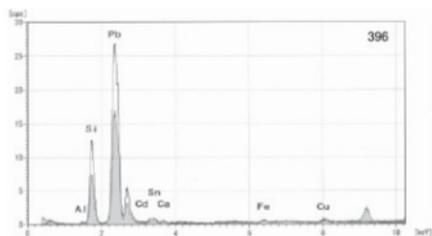


写真5 395孔周辺



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al 7% <sub>2s</sub>	1.20	3.00
Si 1% <sub>1s</sub>	27.81	156.02
Ca 3% <sub>2s</sub>	0.07	0.63
Fe 鉄	0.22	19.76
Cu 銅	0.21	28.18
Cd 3% <sub>2s</sub>	0.38	4.46
Sn 7% <sub>2s</sub>	0.84	7.15
Pb 鉛	69.27	2615.74

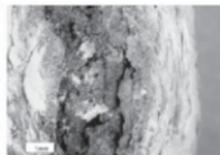
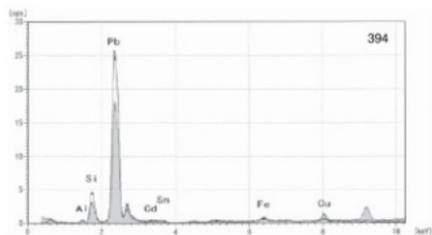


写真6 396断面



元素	質量濃度 [%]	強度 [cps/mA]
Al 7% <sub>2s</sub>	2.83	5.73
Si 1% <sub>1s</sub>	12.81	68.58
Fe 鉄	0.40	28.86
Cu 銅	0.39	43.02
Cd 3% <sub>2s</sub>	0.42	3.75
Sn 7% <sub>2s</sub>	0.26	1.72
Pb 鉛	82.90	2474.76

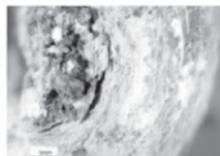


写真7 394孔周辺

## 第6節 山田半田遺跡の考古地磁気学的研究

広岡 公夫 井上 裕香 (大阪谷大学)  
吉原 新 金井 友理 (富山大学)

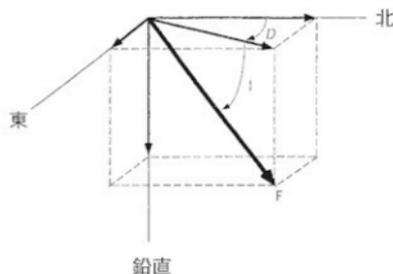
### はじめに

磁石 (磁気コンパス) が北を指すことは古くから知られていたが、その原因は地球が一つの大きな磁石であることによるためであった。この地球磁石が作る磁場は「地磁気 (geomagnetism)」あるいは「地球磁場 (geomagnetic field)」と呼ばれ、その方位は地球上のそれぞれの地点によって異なっている。磁石の針は北を指すといわれるが、詳しく見ると真北から数度程度、東または西に振れていることが多い。この振れの角度を偏角 (declination) という。また、磁石の針は水平面内で回るように作られているので、水平にして方位を知ることができるが、上下にも傾くことができるように作られれば、赤道付近では大略水平であるが、北半球では磁針のN極は水平より下に傾く。この傾斜角を伏角 (inclination) という (第210図)。伏角は緯度が高くなるにつれて急傾斜になり、北極付近では鉛直下向きになるところができる。この地点を磁極と呼ぶ。偏角、伏角に地球磁場強度を表す全磁力 (total force) を加えて「地磁気の3要素」という。これら3要素により各地点の地磁気ベクトル (地球磁場方位と強度) を表すことができる。

地磁気の偏角・伏角について継続的観測を世界で最初に始めたのは、16世紀半ば頃にロンドン・グリニッチ天文台であった。それ以降、パリやローマをはじめヨーロッパ内およびその国々の力が及ぶ地域で観測が始められた。それらの観測結果により、偏角・伏角ともに少しずつ変化していることが明らかになった (Bauer, 1899)。このゆっくりとした変化を地磁気年変化 (geomagnetic secular variation) という。このように、地球磁場方位は地球上の地点ごとに異なる上に、時間的にも変化しているのである。

日本では明治になってしばらくして (明治12年, 1883年)、やっとと水路部 (現在は国土地理院に受け継がれている) によって、継続的観測が東京で始められ、偏角の西偏が少しずつ大きくなる傾向が見られたが、伏角はほとんど変化しなかったことがその後の観測から明らかになっている。

しかし、今道 (Imamiti, 1956) は、日本列島付近の地磁気偏角の観測記録を収集し、偏角のみではあるが17世紀初頭 (1613年) まで遡ることができることを示した。それによると、ジャワ島のバンテン港を出港したセーリス司官率いるイギリス東インド会社の商船団が日本に寄港し、停泊中の九州・平戸において行ったのが、日本最初の観測である (村川堅固, 1970)。その後、オランダ人の航海家のフリース (Maerten Gerriz de Vries) が1643年にフィリピン群島東方から北上し、伊豆諸島を経て東京湾に至り、横須賀港に寄港した後、さらに東北日本東方沖を経て、色丹島、ウルップ島まで航海した。その航海中に小笠原から十勝沖までの日本



第210図 各地の地球磁場 (地磁気ベクトル) を表す地磁気3要素  
D: 偏角, I: 伏角, F: 全磁力

列島東方沖において、16点偏角の観測を行っている。この観測は当時 (17世紀中頃) の日本付近の偏角分布を考える上で貴重なデータを提供しているのである。

残念ながら中世についてはこのような地磁気観測のデータは皆無であるため、当時の日本列島付近の地球磁場分布の様子 (磁場の地域差) も不明であり、ましてや本州から相当な距離にある奄美諸島での中世の磁場の様子は観測記録からは窺い知ることができない。

そこで、過去の地磁気方位を記録している遺跡焼土の残留磁化 (後述) を測定することによって、昔の地磁気を復元することができる考古地磁気学的手法の登場となる。今回は高野町の山田半田遺跡の土坑10号、焼土域を伴う土坑10号、焼土域を伴う土坑11号、焼土跡2号の考古地磁気測定を行ったので、その結果を報告する。

### 熱残留磁化

土や粘土には通常、磁鉄鉱 ( $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) や赤鉄鉱 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) などの鉄酸化物が2~3%含まれている。これらは磁石になることができる磁性鉱物である。これらの磁性鉱物は加熱されると、それぞれの鉱物に固有の温度に達したときに磁性を失い、非磁性の鉱物になる。その温度をキュリー点といい、磁鉄鉱では578℃、赤鉄鉱では670℃である。逆に、キュリー点以上の高温から冷やされると、キュリー点に達した途端に、磁石になろうとする性質が蘇ってくる。地球磁場の作用している地球上でこのような加熱-冷却のプロセスが進行すると、磁性鉱物は冷却時の地磁気の方向の磁化を獲得する。このような磁化を熱残留磁化 (thermoremanent magnetization, 略して、TRM) といい、非常に安定で半永久的に保存される。したがって、窯跡や炉跡のような焼かれたから動かされていない焼土遺構は、焼かれた当時 (冷却時) の地磁気方位をTRMとして記録することになる。地磁気方位は年々変化をしているため、焼かれた時代が異なれば残留磁化も違った方位のものとなる。すなわち、焼土の残留磁化は焼かれたときのその地点の地磁気方位を記録し、その記録を後世までずっと保ち続けているのである。いわば、

「地磁気の化石」ともいべきものである。考古学遺跡に残されている地磁気の化石（残留磁化）を測定して過去の地磁気の変動を知る研究を考古地磁気学（archaeomagnetism）という。

残留磁化には、TRMのほかに堆積残留磁化（detrital remanent magnetization, 略して、DRM）もある。堆積層が形成される時、堆積物中に含まれている磁性鉱物は、コンパスの磁針が北を指すように、すでに保有している残留磁化を水中で堆積作用進行中に地球磁場方向に向けて配列させられるため、堆積層全体で見ると、堆積時の地磁気方位に磁化を獲得することになる。あまり研究は進んではないが、遺跡の覆土を層序にしたがってサンプリングをし、それらのDRMを測定することによって、遺跡が廃棄されてから後の地磁気変動を知ることができる（広岡ほか1987）。地磁気変動の詳細が明らかでない先史時代の遺跡には有効であろう。

各地でいろいろな時代の焼土遺構の残留磁化方位を測ることによって、地磁気の観測記録のない時代・地域の過去の永年変化の様子を明らかにすることができる。このような考古地磁気学的研究によって得られた地磁気永年変化を、地磁気の直接観測から求められた永年変化と区別するため、考古地磁気永年変化（archaeomagnetic secular variation）という。

#### 考古地磁気永年変化

遺構焼土の残留磁化測定から得られた考古地磁気データ（偏角・伏角）を（考古編年にしたがって）年代順に並べると考古地磁気永年変化を求めることができる。日本では第211図のような西南日本（北陸・東海地方から九州北部に至る地域）における過去2000年間の考古地磁気永年変化が明らかにされている（Hirooka, 1971, 広岡, 1977）が、その後のデータの蓄積によって、地域ごとの地球磁場方位の差異は相当大きなものがあり、西南日本という広範囲では同じ時代でも、偏角・伏角に数度以上の違いのあるおそれが考えられるようになった（広岡, 1989; 1990）。そこで、特に多くの

考古地磁気データが得られている北陸地方（福井・石川・富山3県に新潟県西部を加えた地域）と東海地方（岐阜・愛知・三重に静岡西部を加えた地域）について、それぞれの地域内の遺構の測定データのみを用いて考古地磁気永年変化曲線が作成された。北陸版永年変化曲線（広岡, 1997）（第212図）はAD.500～1550年、東海版永年変化曲線（広岡・藤沢, 2003）（第213図）はAD.700年～明治までの年代をカバーする。これらの永年変化曲線を用いることによって、それぞれの地域の焼土遺構の残留磁化方位を測定し、その結果を永年変化曲線と照合することによってその遺構の年代の推定を行うことができることになる。これが考古地磁気年代推定法である。

#### 奄美地方の仮想地磁気変動

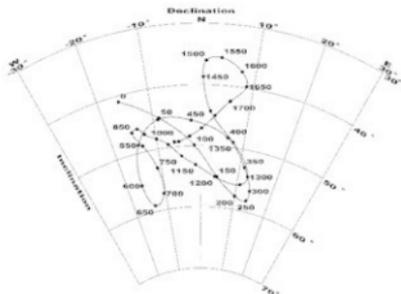
考古地磁気永年変化曲線が得られている西南日本や北陸・東海地方から離れた奄美・喜界町の地磁気変動は、これら3地域の永年変化とは大きく違っている可能性がある。殆ど考古地磁気データがない奄美地方での考古地磁気測定データはこの地域の地磁気変動を明らかにする上で貴重な基礎データを提供するものではあるが、永年変化曲線が作られていない本地域の考古地磁気年代の推定は困難である。しかし、本州中央部から九州北部にかけては膨大な考古地磁気データが蓄積されているので、それらに基づいた仮想的奄美地方の永年半値曲線を推測することはできよう。

奄美地方の仮想永年変化曲線の作成にあたって地方は、次の2つの前提（仮定）をおくことにする。

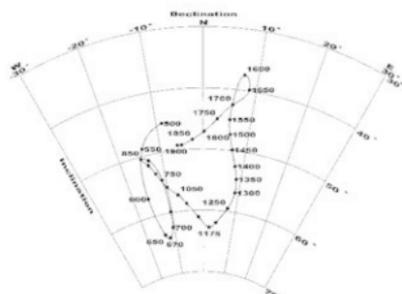
第1の前提は、地磁気は100%地磁気双極子磁場からなっており、永年変化は全て双極子軸の揺動に起因するというものである。

第2は、西南日本の過去2000年の考古地磁気永年変化が、地磁気双極子の変動を正確に表しているとする仮定である。

実際には、地球の中心にある地磁気双極子（棒磁石）は、場所によって多少異なり、地磁気の90～95%程度の寄与をしているが、100%ではない。しかも、モンゴル異常と呼ばれる



第211図 過去2000年間の西南日本の考古地磁気永年変化曲線  
（西南日本版永年変化曲線）  
Declination: 偏角, Inclination: 伏角, (広岡, 1977による)



第212図 北陸版考古地磁気永年変化曲線  
Declination: 偏角, Inclination: 伏角, (広岡, 1997による)

る優勢な非双極子磁場に影響を受けているとされる東アジアにおいては、西南日本の永年変化曲線にも非双極子成分が相当量含まれていることと地域内の地球磁場の相当大きな地域差を考慮しなければならない。したがって、上記2つの前提がどれくらい当てはまるものであるかについては自信がないが、ほかに手当てがないので、これらの前提を用いて奄美地方(喜界町)の仮想地磁気永年変化を求めようとする。

まず、西南日本を代表する地点を京都御所(35° 01' 30" N, 135° 45' 43" E)とし、永年変化曲線の偏角・伏角から仮想磁極(Virtual Geomagnetic Pole, 略して、VGP: 双極子近似を用いると、観測点の緯度・経度と偏角・伏角から磁極の位置を求めることができる。)を求める。

次いで、それらのVGPから逆の手順で奄美地方(喜界町, 28° 18' N, 129° 58' E)の偏角・伏角をもとめる。

こうして求められた喜界町におけるA.D.900~1900年の仮想考古地磁気永年変化曲線が、第214図である。西南日本の考古地磁気永年変化曲線(第212図)に比べて、伏角が著しく浅くなっているのがわかる。

#### 考古地磁気試料の採取と測定

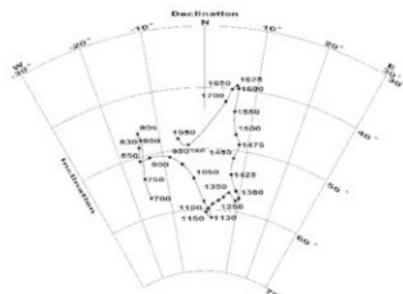
喜界町の山田半田B遺跡の土坑2、5、6号とPit57から、それぞれ14個(試料番号CKK41~54)、15個(CKK1~15)、14個(CKK21~34)および12個(CKK61~72)の考古地磁気測定試料を採取した(第178表)。これらは全て次に述べる方法によって、精密に方位が測られた定方位試料である。

試料の保有する熱残留磁化方向から土坑が焼かれた当時の過去の地磁気方位を復元するのであるから、試料の遺構中の方位の測定精度が大きく結果に影響する。しかし、限られた時間で試料を採取しなければならない遺跡現場でのサンプリングでは、できるだけ短時間で、しかも高精度で定方位試料を採取する必要がある。我々のグループが確立した採取法は、石膏で固めた表面に平面を作り、その面の最大傾斜線の方

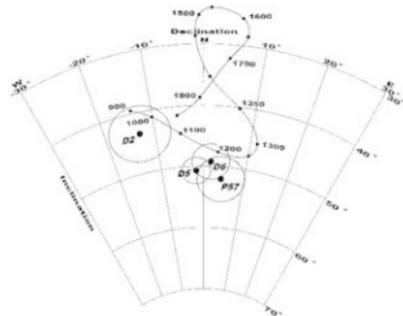
位とその傾斜角を測定してから採る方法である。この方法では平面はいくら傾斜していてもかまわないので、最もよく焼けたと思われる部分を厳選してサンプリングすることができ、比較的短時間に精度のよい定方位試料が得られる。

定方位サンプルの採取方法の手順は次の通りである。

- 1) まず、焼土遺構のよく焼けている部分を選んで、試料として採取する焼土(こぶし大)の周りに深さ数cmの溝を掘って、こぶし大の部分に付着している土片や土埃を刷毛などできれいに取り除く。土坑中の試料採取部位が自由に選べる場合は、なるべく遺構中央部の底面から採取する。壁際などは、焼成中の土坑内磁場が歪んでいる可能性があり、正確な地磁気方位を示さないおそれがあるからである。壁際しか焼けていない場合には、前後左右の壁から均等に試料を採取するように心がける。
- 2) 次いで、多めの水で溶いた石膏(牛乳程度)をその削りだした部分にかけ、全体がくずれないように固定した後、濃いめに溶いた石膏(ソフト・クリーム程度の)を焼土の表面にのせ、数cm角のアルミ板を押し付けて石膏の上面に平面をつくる。先に薄い石膏をかけるのは焼土表面の細かい凹凸の中にも石膏がしみ込んで補強するので、後でかける濃い石膏とよく馴染んで試料が壊れ難くなるからである。
- 3) 石膏が固まった後に、アルミ板をはがして、石膏平面の最大傾斜線(これを pitch という)の方位とその傾斜角(dip)を考古地磁気試料採取用に特に改造された記録クリノメーター(Hirooka, 1971)で測り、野帳に記録する。石膏平面には、その面の走向(strike)と傾斜方向を示す3点と試料の番号を油性マーカーで記す。
- 4) 1本刃の手鋸を用いて石膏で固めた試料を遺構から掘り起こす。
- 5) 試料の裏面にも石膏をかけて補強した後、1個ずつ壊れないように紙で包む。



第213図 東海版考古地磁気永年変化曲線  
Declination: 偏角, Inclination: 伏角  
(広岡・藤澤, 2003による)



第214図 奄美地方の仮想地磁気変動曲線と山田半田B遺跡焼土遺構の考古地磁気測定結果  
D2: 土坑2号, D5: 土坑5号, D6: 土坑6号, P57: Pit 57.  
Declination: 偏角, Inclination: 伏角

遺構の大きさにかかわらず、1遺構当たりこのような試料を通常10~15個採取し、研究室に持ち帰る。

持ち帰った試料は、試料表面に記されている方位を示す3点をもとに、一辺34mmの立方体に切斷・整形する。整形にはダイヤモンド・カッターを使用し、切斷面にはその都度、石膏をかけてくずれないように保護しておく。今回の試料は、軟らかく崩れやすく、整形中に11個の試料(CKK1, 7, 21, 23, 25, 27, 52, 54, 66, 67, 68)が破損し測定できなかった。

pitchの方位はクリノメーター(特製クリノコンパス)の磁針を用いて決めているので、磁北を基準にした方位になっている。したがって、磁北が真北からずれている分だけ振れたものになっている。その振れの値、すなわち、遺跡現場における現在の偏角を求めねばならない。現在の偏角値(Dp)には、国土地理院発行1/25万の地形図「喜界島北部」に記載のある西偏約5°0'から-5°0'とした。測定結果の各試料の偏角値は全てこの値で補正してある。遺跡現場の緯度(Lat.)・経度(Long.)とともに、現在の偏角値(Dp)も表1に掲げられている。

残留磁化の測定には大阪大谷大学に設置されている夏原技研製のリングコア型スピナー磁気計(SMM-85型)を使用し、試料1個につき6回置き直しをして測定した。縦型のこの磁気計では、回転軸は鉛直方向であるので、1回置きで回転軸に垂直な平面(水平面)内の直交2成分の磁化を測定することができる。したがって、6回置き直すと12成分が得られ、3次元ベクトルである磁化ベクトルの直交3成分(X・Y・Z)のそれぞれを4回ずつ測ることになる。これら4個の値の平均値をX・Y・Zのそれぞれの磁化成分とする。

採取した試料が元々保持している自然界で獲得した残留磁化を、自然残留磁化(natural remanent magnetization, 略してNRM)といい、これには最終焼成後に付加された不安定な二次磁化成分も含まれている。このような二次磁化成分を除去するには、交流消磁実験が効果的である。交流消磁装置は、高速透磁率金属であるμ-メタルの円筒で磁気シールドされたソレノイド・コイルに任意の交流電流値を流すようにした装置で、コイルの中空部にはサンプルを装着し、同時に直交2軸の廻りに回転できるようにサンプル・ホルダーを備えている。電流を流すとコイル中空部には交流の周波数に応じて反転する交番磁場が発生し、サンプルは磁氣的に揺すられ、より安定性に劣る磁化成分が消去される。サンプルを回転するのは、交番磁場がサンプルのあらゆる方向に均等にかかるようにするためである。電流値を段階的に強めていく段階交流消磁を行うと、抗磁力の小さいもの(より不安定な成分)から順に除くことができるので、二次磁化成分の除去には特に有効である。

通常、私達の研究室での段階交流消磁実験では、まず、2.5mT, 5.0mT, 7.5mT, 10.0mTの4段階の消磁磁場を設定して行う。それでも、現在の日本付近の地球磁場強度は50μT

第178表 山田半田遺跡焼土土から採取した考古地磁気試料個数と試料番号

遺構名	試料個数	試料番号	[破損試料]
土坑10号	14(12)	CKK41~54	[52,54]
焼土域10号	15(13)	CKK1~15	[1,7]
焼土域11号	14(10)	CKK21~34	[21,23,25,27]
焼土跡2号	12(9)	CKK61~72	[66,67,68]

第179表 土坑10号のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 [° E]	傾角 [°]	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 41	-13.7	46.1	1.34
42	-5.6	55.5	0.647
43	-16.4	55.0	0.403
44	-30.5	45.3	0.941
45	-21.4	43.3	0.988
46	-24.7	42.8	1.31
47	-14.1	44.2	1.03
48	-39.3	43.9	1.91
49	-28.6	36.8	0.788
50	-9.7	45.1	1.18
51	-19.2	46.6	0.782
53	-20.3	38.0	1.22

第180表 土坑10号の2.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 [° E]	傾角 [°]	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 41	-14.7	47.2	1.22
42	-6.2	59.9	0.599
43	-15.7	57.5	0.410
44	-30.3	45.2	0.861
45	-18.4	45.0	1.03
46	-25.8	45.2	1.45
47	1.0	49.1	1.10
48	-29.7	46.1	1.81
49	-12.1	39.2	0.806
50	2.9	39.1	1.26
51	-6.1	44.2	0.747
53	-14.0	37.8	1.11

第181表 土坑10号の5.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 [° E]	傾角 [°]	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 41	-13.6	44.0	1.01
42	-0.8	53.4	0.486
43	-7.4	49.8	0.346
44	-24.4	42.3	0.647
45	-16.4	43.5	0.817
46	-20.5	40.5	1.16
47	-2.2	49.0	0.888
48	-37.0	42.9	1.47
49	-20.7	32.7	0.844
50	-2.5	40.4	0.995
51	-11.8	43.7	0.639
53	-13.0	37.0	0.915

\*: ファッショナーの統計計算の際に除外したもの。

(0.05mT)程度なので、地磁気強度の50倍から200倍の強烈な磁場で揺すっていることになるのである。多くの場合、2.5mT~7.5mTの段階で磁化方向のまとまりが最もよくなり、二次的に付加されたソフト成分が除去されたと判断される。各段階で消磁後、直ちに残留磁化の測定を行い、各試料の残留磁化方向と磁化強度を知る。各段階ごとに磁化方向のまとまり具合を計算し、最もよくなる消磁段階を最速消磁段階と認定し、その段階の平均磁化方向を考古地磁気データとして採択する。10.0mTの段階に達しても、まだ磁化方向

第182表 土坑10号の7.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 41	-15.2	43.9	0.713
42	-7.8	58.1	0.325
43	-9.9	50.2	0.231
44	-32.2	40.9	0.480
45	-19.8	40.4	0.564
46	-22.3	37.9	0.859
47	-12.7	44.6	0.598
48	-40.7	39.5	1.11
49	-23.6	32.5	0.403
50	-6.1	38.4	0.686
51	-14.6	43.6	0.438
53	-20.1	34.4	0.634

第186表 焼土域を伴う土坑10号の5.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 2	-6.3	37.8	0.552
* 3	0.9	-3.3	0.848
* 4	8.2	37.3	1.57
5	2.7	50.9	0.605
* 6	1.8	60.9	0.351
* 8	-17.3	43.5	1.03
9	4.5	46.8	0.653
10	-7.7	50.1	0.677
11	-2.2	51.8	0.954
12	-1.8	50.5	0.306
13	-5.0	53.3	0.644
14	-4.6	49.3	0.582
15	-1.0	52.1	1.02

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。

第183表 土坑10号の10.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 41	-16.3	45.5	0.555
* 42	-14.8	60.7	0.256
43	-20.8	51.7	0.183
44	-39.2	41.6	0.381
45	-24.9	43.7	0.480
46	-24.9	35.8	0.678
47	-23.9	43.6	0.474
* 48	-45.8	39.2	0.883
49	-32.2	27.0	0.303
50	-16.7	40.0	0.535
51	-29.4	44.8	0.354
53	-30.9	36.0	0.457

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。

第187表 焼土域を伴う土坑10号の7.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 2	-7.4	33.0	0.263
* 3	-2.2	-3.0	0.712
* 4	5.3	35.7	1.30
5	-7.2	47.2	0.473
6	-6.4	52.1	0.288
* 8	-19.3	43.0	0.794
9	-1.1	45.3	0.492
10	-13.1	50.3	0.477
11	-3.6	49.1	0.692
12	-2.8	52.6	0.200
13	7.5	52.4	0.477
14	1.6	49.3	0.441
15	5.1	50.8	0.717

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。

第184表 焼土域を伴う土坑10号のNRM 磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 2	1.4	53.1	0.795
* 3	0.6	2.4	1.09
4	6.1	41.6	2.08
5	0.0	56.2	0.804
6	-16.1	57.4	0.409
8	-8.2	41.3	1.21
9	4.1	43.1	0.925
10	-8.7	48.5	0.991
11	-0.8	52.4	1.39
12	0.3	54.6	0.452
13	-2.1	55.8	0.973
14	-4.9	53.2	0.857
15	2.8	52.8	1.42

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。  
(CKK 1, 7 は整形の際に破壊)

第188表 焼土域を伴う土坑10号の10.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 2	-9.5	30.9	0.408
* 3	-1.1	0.7	0.532
* 4	4.1	34.0	0.980
5	-7.7	47.0	0.372
6	-10.2	50.1	0.236
* 8	-18.6	42.7	0.676
9	-3.4	45.4	0.518
10	-37.2	52.5	0.480
11	-2.4	52.3	0.519
12	-10.7	51.3	0.167
13	7.9	51.5	0.371
14	0.3	49.2	0.351
15	8.5	51.4	0.552

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。

第185表 焼土域を伴う土坑10号の2.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 2	2.3	48.8	0.651
* 3	1.1	-2.5	1.04
4	7.1	39.7	1.98
5	0.2	53.3	0.801
6	-1.7	58.0	0.473
8	-17.5	42.7	1.19
9	-0.7	48.6	0.816
10	-11.3	49.2	0.850
11	-2.2	50.7	1.24
12	-0.4	54.6	0.452
13	-2.2	54.7	0.830
14	-5.6	50.8	0.721
15	0.9	52.3	1.24

\*：フィッシャーの統計計算の際に除外したものを。

第189表 焼土域を伴う土坑11号のNRM 磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (° )	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 22	2.9	53.5	0.956
24	12.2	60.3	0.679
26	12.1	59.3	0.779
28	0.2	53.6	1.37
29	-10.9	64.7	1.12
30	-3.9	66.1	0.776
31	7.5	61.5	1.14
32	5.9	56.3	0.868
33	8.0	59.5	0.732
34	5.5	52.9	0.749

(CKK 21, 23, 25, 27 は整形の際に破壊)

第190表 焼土域を伴う土坑11号の 2.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 22	0.4	47.3	0.802
24	12.5	54.8	0.525
26	12.4	57.1	0.628
28	2.1	50.9	1.13
29	-12.1	52.8	0.861
30	-15.5	54.8	0.508
31	-13.9	48.5	0.783
32	-10.1	45.5	0.623
33	6.3	51.9	0.574
34	0.9	49.3	0.548

第194表 焼土跡2号の NRM の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 61	-3.2	44.3	0.390
* 62	-15.6	47.7	1.10
63	-10.7	54.5	1.56
64	-8.5	58.4	1.16
65	-7.6	60.0	1.15
69	-3.4	57.5	0.802
70	-7.3	60.2	1.06
71	-1.3	66.8	0.734
72	11.0	59.5	0.482

\*フィッシャーの統計計算の際に除外したもの。

第191表 焼土域を伴う土坑11号の 5.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 22	6.3	48.0	0.734
24	16.6	52.6	0.408
26	14.6	54.4	0.535
28	4.4	48.2	0.919
29	-9.7	49.3	0.731
30	-12.3	51.3	0.437
31	-3.2	56.0	0.730
32	-6.9	55.6	0.516
33	-6.8	54.7	0.528
34	-3.8	54.2	0.472

第195表 焼土跡2号の 2.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 61	17.1	47.6	0.326
62	-0.9	49.5	1.02
63	0.2	52.1	1.47
64	1.2	50.4	1.15
65	2.2	53.4	1.06
69	12.9	52.0	0.621
70	-5.1	52.1	1.51
71	6.6	57.0	0.683
* 72	-5.5	63.3	0.432

\*フィッシャーの統計計算の際に除外したもの。

第192表 焼土域を伴う土坑11号の 7.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 22	0.9	49.5	0.432
24	-2.0	49.4	0.287
26	-7.2	50.7	0.379
28	-4.5	49.5	0.600
29	-1.2	48.1	0.527
30	2.4	44.2	0.530
31	10.4	46.1	0.451
32	6.0	51.2	0.367
33	3.4	55.4	0.344
34	8.9	46.9	0.361

第196表 焼土跡2号の 5.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 61	11.8	44.6	0.267
62	6.7	47.7	0.808
63	-2.2	48.3	1.12
64	5.4	51.1	0.921
65	1.2	54.3	0.874
69	10.1	58.7	0.521
70	-1.9	54.5	1.26
71	17.4	59.3	0.685
72	0.8	62.4	0.414

第193表 焼土域を伴う土坑11号の 10.0mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
CKK 22	-0.4	48.2	0.352
24	-0.2	47.4	0.239
26	-3.4	50.5	0.313
28	-2.1	49.9	0.487
29	-0.3	50.2	0.418
30	4.8	45.9	0.223
31	14.0	51.0	0.359
32	12.7	51.0	0.275
* 33	7.8	61.3	0.248
* 34	18.8	45.7	0.292

\*フィッシャーの統計計算の際に除外したもの。

第197表 焼土跡2号の 7.5mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 〔° E〕	伏角 〔°〕	磁化強度 ( $\times 10^{-4}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 61	-3.8	40.1	0.193
* 62	-12.8	45.0	0.518
63	-9.9	51.6	0.820
64	-8.6	54.6	0.917
65	-7.4	55.1	0.631
69	-7.4	48.8	0.430
70	-4.9	53.8	0.797
71	14.5	55.0	0.406
72	7.7	44.4	0.284

\*フィッシャーの統計計算の際に除外したもの。

第198表 焼土跡2号の7.5mT消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ( $\times 10^{-3}$ Am <sup>2</sup> /kg)
* CKK 61	-15.9	35.0	0.216
62	-26.7	39.1	0.465
63	-24.6	51.8	0.663
64	-24.3	56.7	0.434
65	-16.9	61.1	0.479
69	23.1	51.0	0.378
* 70	8.4	61.2	0.572
* 71	31.8	57.2	0.316
* 72	9.3	38.1	0.292

\*フィッシャーの統計計算の際に除外したものを示す。

のまとまり具合の改善が続いている場合には、さらに高い段階(12.5mT, 15.0mT, 20.0mTなど)を追加して消磁実験を行い、一旦まとまりがよくなった後にばらつき始める段階まで消磁を行う。今回の山田半田遺跡でも、最適消磁段階は2.5mT~7.5mTの範囲におさまり、追加の消磁は行わずに済んだ。

これらの試料の中には、大きく磁化方向が外れるものが若干数見られることがよくあるが、それらは、試料の方位測定の際の磁針の読み間違いか、残留磁化獲得後にその部分が物理的に動かされたか、壁や天井の焼土が紛れ込んだか、試料中に確(岩石も生成した時の残留磁化を持つ)が含まれその中心部まで温度が十分に上がらなかったか、あるいは、測定の際の誤差(試料の置き間違いなど)かなど何らかの原因で当時の地磁気の方向とは異なった方向の磁化を持つことになったものと考えられ、このような試料のデータは平均磁化方向を求める統計計算の際には除外する。

統計計算にはフィッシャーの統計法(Fisher, 1953)を用いる。平均磁化方向および統計的なばらつきの程度を表すパラメータ(フィッシャーの信頼角:  $\alpha_{95}$ と、フィッシャーの精度係数: K)を計算によって求め、ばらつきが最小になる最適消磁段階の平均磁化方向を得る。

$\alpha_{95}$ は、測定によって得られた平均磁化方向から推測される真の方位が95%の確率で存在する範囲を示している。云

い替えれば、5%の危険率でこの範囲から外れることを意味しており、誤差の大きさを表すパラメータとして用いられる。通常、窯跡や炉跡など焼土遺構のTRMでよくまとまるものでは、2°台以下の値となる。試料個数(N)が増えると $\alpha_{95}$ の値(誤差)は小さくなる。また、Kは試料個数の多少にかかわらず、個々の試料のばらつきの程度を表すパラメータで、まとまりのよいほど大きな値になる。これは真の磁化方向(平均磁化方向)を持つ磁化成分がそれを乱す成分の何倍であるかを示す値である。よくまとまったTRMでは、500以上の値をとる。

#### 測定結果と考古地磁気推定年代

考古地磁気測定によって得られた個々の試料について、各窯の各消磁段階の磁化方向(偏角と伏角)と磁化強度が、土坑10号については第179~183表に、焼土城を伴う土坑10号については第184~188表に、焼土城を伴う土坑11号については第189~193表に、焼土跡2号については第194~198表に示されている。また、第199表には各遺構ごとに求められた平均磁化方向、平均磁化強度および磁化のばらつきを表すパラメータ( $\alpha_{95}$ とK)などがまとめられている。同一遺構から採取された試料の中には他の試料から大きく外れた磁化方向を示す試料が少数個見られる場合が多く、そのような試料は上記のような何らかの原因で磁化方向がずれたことを示唆するので、平均磁化方向を計算する際には除外することにしていく。第179~198表では除外された試料には\*印が付けられている。また、第199表中のn/Nの欄は、統計計算に用いた試料数(n)と採取・測定した試料総数(N)の比であるので、これによって除外された試料数もわかる。

第199表で得られた考古地磁気データと先述の奄美地方における仮想地磁気変動にプロットして考古地磁気年代を求める。第214図には仮想変動曲線とともに喜界町の考古地磁気データも記されているので、この図に基づいて考古地磁気年

第199表 山田半田遺跡焼土土坑の考古地磁気測定結果

遺構名	消磁段階	n/N	D (° E)	I (°)	gM ( $\times 10^{-3}$ Am <sup>2</sup> /kg)	K	平均磁化強度 ( $\times 10^{-3}$ Am <sup>2</sup> /kg)
土坑10号	NRM	9/12	20.4	43.3	3.9	174.2	1.06
	2.5mT	12/12	-14.1	46.8	5.5	64.0	0.961
	5.0mT	11/12	-13.1	43.5	4.6	101.6	0.777
	7.5mT	12/12	-19.2	42.4	5.5	63.8	0.585
	10.0mT	10/12	-26.2	41.2	5.2	86.2	0.443
焼土城を伴う 土坑10号	NRM	12/13	-2.0	50.9	3.9	126.3	1.03
	2.5mT	12/13	-2.6	50.2	3.5	151.9	0.931
	5.0mT	8/13	-1.8	50.7	2.2	618.1	0.680
	7.5mT	9/13	-2.3	50.1	3.0	280.7	0.473
	10.0mT	8/13	2.0	50.0	3.9	204.5	0.396
焼土城を伴う 土坑11号	NRM	8/10	6.5	57.2	2.8	385.2	0.913
	2.5mT	10/10	2.0	51.7	4.4	119.1	0.692
	5.0mT	10/10	0.0	52.8	4.1	141.1	0.601
	7.5mT	10/10	1.7	49.2	2.9	279.4	0.404
	10.0mT	8/10	2.7	49.4	3.3	283.3	0.333
焼土跡2号	NRM	7/9	-4.4	59.7	3.8	249.6	1.08
	2.5mT	8/9	4.3	50.7	3.7	220.4	0.980
	5.0mT	9/9	5.4	53.6	4.6	128.7	0.763
	7.5mT	7/9	-2.2	52.2	5.3	132.4	0.569
	10.0mT	6/9	-21.9	49.2	8.8	59.3	0.437

n/N: 採択試料個数・採除試料個数。D: 平均偏角。I: 平均伏角。gM: フィッシャーの信頼角。K: フィッシャーの精度係数。  
【】: 考古地磁気データとして採用したものを示す。

代を推定する。

図中の黒丸が平均磁化方向を示し、それを囲む円がフィッシャーの信頼円 ( $a_{95}$ ) の範囲を表している。黒丸が載る仮想変動曲線上の年代値が考古地磁気学的に推定される年代であり、年代幅 (年代誤差) は、 $a_{95}$  の円で覆われる曲線の線分の長さで求められる。曲線の直上に載らない場合には、黒丸が一番近い曲線の部分の年代値を用いて年代を推定する。曲線から離れている分だけ年代幅は大きくなる。仮想変動曲線が奄美地方の地磁気変動を正しく表しているとの仮定に基づいて推定される考古地磁気年代は、

土坑10号	: A.D.970 ± 100 年
焼土城10号	: A.D.1170 ± 25 年
焼土城11号	: A.D.1190 ± 30 年
焼土跡2号	: A.D.1215 ± 40 年

となろう。

土坑10号とその他の遺構とは、平均磁化方向、とくに偏角が信頼円の範囲を超えて異なっており、相当大きな年代差があると考えられる。

本来は、同一地域内で多くの考古地磁気データを集めて、そのデータに基づいてその地域における考古地磁気年変化曲線を作り上げた上で、年代推定を行うべきであるが、今回の奄美地方は考古地磁気データが皆無に等しく、年変化曲線ができるまで待つておれば年代推定はずっと将来のことになってしまう。そこで、無理を承知で上記のような仮想の変動曲線に基づいて年代推定を試みた。これを作業仮説として、今後本地域内でより多くのデータを集め、変動曲線を修正し、年代推定が可能になるような正確な年変化曲線を求めるべきであろう。

## 引用文献

- Bauer, L. A. (1899) On the secular variation of a free magnetic needle. *Physical Review*, vol.3, 34-48.
- Fisher, R. A. (1953) Dispersion on a sphere. *Proceedings of Royal Society of London, Series A*, vol.217, 295-305.
- Hirooka, K. (1971) Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan. *Memoirs of Faculty of Science, Kyoto University, series of Geology & Mineralogy*, 38, 167-207.
- 広岡公夫 (1977) 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向. 第四紀研究, vol.15, 200-203.
- 広岡公夫 (1989) 古代手工業生産遺跡の自然科学的考察 - 考古地磁気学, 古地磁気学の立場から -, 「北陸の古代手工業生産」, 北陸古代手工業生産史研究会編, 真陽社, 255-272.
- 広岡公夫 (1990) 萩焼古窯跡群および長門深川古窯跡群の考古地磁気学的研究. 「萩焼古窯」, -発掘調査報告書-, 山口県教育委員会, 237-247.
- 広岡公夫 (1997) 北陸における考古地磁気研究. 「中・近世の北陸」, -考古学が語る社会-, 北陸中世土器研究会編, 桂書房, 富山, 560-583.
- 広岡公夫, 藤澤良祐 (2003) 東海地方の地磁気年変化曲線. *考古学と自然科学*, vol.45, -日本文化財科学会誌-, 29-54.
- 広岡公夫, 小竹信成, 酒井英男 (1987) 馬場山G遺跡の考古地磁気学的研究. 「北陸自動車道遺跡調査報告」, 朝日町編, 馬場山D遺跡・馬場山G遺跡・馬場山H遺跡」, 富山県教育委員会, 147-151.
- Imamiti, S. (1956) Secular variation of the magnetic declination. *Mem. Kakioka Magnetic Observatory*, no.7, 49-55.
- 村川堅固 訳 (1970) 「セーリス日本渡航記」, 雄松堂書店, 411p.

## 第Ⅶ章 基礎資料

本遺跡では包含層の堆積が薄く表土直下で遺構が検出される状況であった。出土遺物については小片が多いが可能な限り分類を行い一覧表を作成した。

ピット内の出土遺物一覧表については第200表～第221表に、出土区毎の集計表（土坑墓、土坑内出土遺物は除く）については第222表～第227表に示す。

併せて、第216図～第233図にはピット内出土遺物の出土状況図を示す。

なお、ピット番号についてはD地区（山田半田B遺跡）では発掘調査時に出土区毎の通し番号で、A地区、B地区、C地区（山田半田A遺跡）では1から始まる共通の通し番号で採番されている。また、E地区（平成19年度～20年度調査区）についてもこれとは別に1から始まる通し番号で採番さ

れている。

整理作業にあたっては、特にD地区について、一部のピットが出土区の境界を越えて連続した通し番号で採番されているため、ピット関係の図面、遺物等の整理にあたっては、通し番号の基点となった出土区名+ピット番号の組み合わせでIDを生成し、整理作業のための基礎番号とした。名前付け規則は、原則として出土区名〔3桁〕+ピット番号〔2桁〕とするが、ピット番号が3桁となった場合は、出土区名〔2桁〕+ピット番号〔3桁〕とする。発掘調査時にピット番号が付与されていなかったものについては、整理作業時にID“P0000”を付与して処理した。

このIDは遺物観察表（第137表～第165表）、ピット内出土遺物一覧表（第200表～第221表）、付図（1～5）に示した。

第200表 ピット内出土遺物一覧表（1）

PI&D	グリッド	内容	種立	発掘No
A0101	A-1	滑石製石鏡 (1)		
A0103	A-1	石鏡 (1)		
A0107	A-1	布目瓦葺土器 (2)、 鑷の羽口 (1)、粘土塊 (1)		
A0201	A-2	土師器 (1)、カミイヤキ (1)、 粘土塊 (1)、鉄滓 (1)		第190図269
A0203	A-2	石鏡 (1)		
A0204	A-2	滑石土器 (1)、土師器 (1)、 滑石製石鏡 (1)、鑷の羽口 (1)		
A0205	A-2	粘土塊 (5)		
A0206	A-2	土師器 (1)、粘土塊 (5)		
A0207	A-2	土師器 (2)、カミイヤキ (1)、 滑石土器 (1)		
A0209	A-2	土師器 (1)		
A0213	A-2	土師器 (1)、カミイヤキ (1)		
A0215	A-2	粘土塊 (2)、鉄滓 (2)		
A0216	A-2	土師器 (3)		
A0217	A-2	石鏡 (1)		
A0219	A-2	中野白磁 (1)、カミイヤキ (1)、 鉄滓 (1)		
A0221	A-2	土師器 (1)		
A0222	A-2	滑石製石鏡 (1)、鑷の羽口 (1)、 粘土塊 (2)		
A0225	A-2	土師器 (1)		
A0227	A-2	カミイヤキ (1)、鉄滓 (1)		第191図281
A0229	A-2	石鏡 (1)		
A0231	A-2	粘土塊 (1)		
A0302	A-3	滑石製石鏡 (1)		
A0304	A-3	土師器 (1)、粘土塊 (2)		
A0305	A-3	土師器 (1)、粘土塊 (1)		
A0308	A-3	滑石製石鏡 (1)		
A0318	A-3	土師器 (2)、カミイヤキ (1)、 鉄滓 (1)		
A0403	A-4	粘土塊 (1)		
A0405	A-4	土師器 (1)、粘土塊 (2)、 鉄滓 (1)		
A0406	A-4	土師器 (1)、滑石製石鏡 (3)		
A0408	A-4	粘土塊 (1)		
A0414	A-4	須恵器 (1)		
A0417	A-4	滑石土器 (1)、 滑石製石鏡 (1)		
A0422	A-4	土師器 (1)、粘土塊 (2)		
A0423	A-4	粘土塊 (2)		
A0424	A-4	滑石土器 (1)		
A0425	A-4	土師器 (1)		
A0502	A-5	漆器品 (1)		独立87号 (P4) 第201図395
A0503	A-5	滑石土器 (4)、鉄滓 (1)、 粘土塊 (1)		独立87号 (P3) 第198図364
A0504	A-5	土師器 (2)、カミイヤキ (1)、 滑石土器 (3)、粘土塊 (3)、 粘土塊 (1)		独立87号 (P2)
A0508	A-5	土師器 (2)、滑石土器 (2)		独立87号 (P7)
A0512	A-5	粘土塊 (2)		

第201表 ピット内出土遺物一覧表（2）

PI&D	グリッド	内容	種立	発掘No
A0513	A-5	土師器 (1)、鑷の羽口 (1)、 粘土塊 (1)		独立87号 (P1)
A0514	A-5	粘土塊 (3)		
A0517	A-5	粘土塊 (3)		
A0519	A-5	土師器 (1)、粘土塊 (2)		
A0520	A-5	土師器 (1)、鉄滓 (1)		
A0527	A-5	土師器 (2)、鑷の羽口 (1)、 粘土塊 (1)、鉄滓 (1)、 粘土塊 (1)		
A0601	A-6	カミイヤキ (1)、鉄滓 (1)、 石鏡 (1)		
A0603	A-6	土師器 (1)、鉄滓 (4)		
A0606	A-6	須恵器 (1)、カミイヤキ (1)、 滑石製石鏡 (1)、鑷の羽口 (4)、 粘土塊 (1)、石鏡 (1)		第180図113
A0608	A-6	須恵器 (2)		第183図142
A0702	A-7	土師器 (1)、 朝鮮系赤陶器 (1)、 滑石製石鏡 (1)、粘土塊 (1)、 鉄滓 (5)		独立83号 (P5) 第188図213、 第202図246
A0704	A-7	鑷の羽口 (2)、粘土塊 (1)		独立83号 (P6)
A0711	A-7	滑石製二次加工品 (1)、 粘土塊 (1)		第197図333
A0728	A-7	土師器 (1)		
A0801	A-8	鉄滓 (1)		
A0802	A-8	土師器 (1)		
A0803	A-8	土師器 (2)、カミイヤキ (1)、 鉄滓 (1)、陶器 (1)		
A0820	A-8	須恵器 (1)		
A0901	A-9	土師器 (2)、粘土塊 (1)		
A0902	A-9	土師器 (1)、鉄滓 (1)		
A0903	A-9	土師器 (1)、布目瓦葺土器 (1)		
A0904	A-9	土師器 (1)、粘土塊 (2)		
A0905	A-9	カミイヤキ (1)		
A0906	A-9	土師器 (1)、粘土塊 (1)		
A0907	A-9	土師器 (1)、粘土塊 (1)		
A0908	A-9	粘土塊 (2)		
A0910	A-9	土師器 (1)		
A0918	A-9	土師器 (1)、伊賀? (1)		
A0919	A-9	粘土塊 (1)		
A0921	A-9	土師器 (2)		第179図34
A0922	A-9	土師器 (1)、粘土塊 (1)、 鉄滓 (1)		
A0924	A-9	土師器 (1)、鉄滓 (1)		
A0925	A-9	土師器 (1)、滑石製石鏡 (1)、 粘土塊 (2)、鉄滓 (1)		
A0930	A-9	土師器 (1)、滑石製石鏡 (1)、 粘土塊 (2)		
A0932	A-9	滑石製石鏡 (1)		
A0934	A-9	土師器 (1)、中野白磁 (1)、 粘土塊 (2)		
A0935	A-9	土師器 (1)、粘土塊 (1)		
A0936	A-9	土師器 (3)、粘土塊 (2)		
A0940	A-9	土師器 (2)、粘土塊 (1)		

第202表 ビット内出土遺物一覧表(3)

PI&D	グロッド	内容	鑑定	掲載No
A0041	A-9	土器類 (1), 粘土塊 (2)		
A0049	A-9	粘土塊 (4), 石器 (1)		
A0056	A-9	土器類 (1), 粘土塊 (1)		
A0060	A-9	土器類 (1), 粘土塊 (1)		
A1006	A-10	土器類 (1)		
A1011	A-10	湧石製二次加工品 (1), 椀石 (1)	第197図354	
A1012	A-10	湧石製石鏡 (1), 湧石製二次加工品 (1)	第196図323	
A1013	A-10	湧石製石鏡 (1)		
A1014	A-10	粘土塊 (3)		
A6111	A-6	土器類 (2)		
A6114	B-6	土器類 (1), 鉄滓 (2)		
A6116	A-6	土器類 (3), カムイヤキ (2), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石器 (1)		
A6120	A-6	カムイヤキ (2), 鉄滓 (2)		
B0101	B-1	粘土塊 (1)		
B0104	B-1	土器類 (6), 粘土塊 (2)		
B0111	B-1	土器類 (4), 石器 (1)	鑑定94号 (P6)	
B0114	B-1	土器類 (1)		
B0115	B-1	土器類 (2)		
B0118	B-1	土器類 (1)		
B0119	B-1	石器 (1)		
B0120	B-1	土器類 (6), 粘土塊 (4)	第179図290	
B0121	B-1	石器 (1)		
B0124	C-1	土器類 (4)		
B0125	C-1	土器類 (1)		
B0127	B-1	粘土塊 (1), 石器 (2)		
B0131	B-1	土器類 (1), 粘土塊 (1)	鑑定94号 (P10)	
B0132	B-1	土器類 (2), 粘土塊 (1)		
B0134	B-1	土器類 (2), 石器 (1)	鑑定94号 (P11)	
B0138	B-1	土器類 (3), 須磨器 (3), 湧石混入土器 (1), 粘土塊 (1)		
B0141	B-1	土器類 (1)		
B0142	B-2	土器類 (4)		
B0143	B-2	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1)		
B0146	B-1	粘土塊 (1)		
B0202	B-2	伊壁? (42), 石器 (1)	鑑定94号 (P13)	
B0205	B-2	土器類 (7), 湧石製石鏡 (1), 石器 (1)		
B0207	B-2	土器類 (3), 湧石製二次加工品 (1)	鑑定94号 (P2) 第178図72, 第197図336	
B0208	B-2	土器類 (1)		
B0211	B-2	須磨器 (1)		
B0216	B-2	湧石製石鏡 (4)		
B0221	B-2	土器類 (1)	鑑定94号 (P5)	
B0225	B-2	土器類 (3), 石器 (1)		
B0230	B-2	土器類 (2), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石器 (1)		
B0231	B-2	土器類 (1), カムイヤキ (1), 伊壁? (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石器 (1)	第191図285	
B0232	B-2	石器 (1)		
B0235	B-2	土器類 (1), 湧石混入土器 (2)		
B0236	B-2	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 椀石 (1)		
B0237	B-2	湧石混入土器 (1), 粘土塊 (1)		
B0240	B-2	粘土塊 (1), 石器 (1)		
B0243	B-2	中世白磁 (1), 鉄滓 (1)		
B0244	B-2	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)		
B0245	B-2	栗色土器 (1), 土器類 (2)		
B0248	B-2	土器類 (1)		
B0250	B-2	中世白磁 (1)	第186図187	
B0251	B-2	湧石製石鏡 (2), 粘土塊 (1), 石器 (4)		
B0254	B-3	湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1)		
B0256	B-3	土器類 (5), 粘土塊 (5), 鉄滓 (2), 石器 (3)		
B0302	B-3	湧石製石鏡 (1), 湧石製二次加工品 (1), 鉄滓 (1)	第196図318	
B0303	B-3	土器類 (1), 粘土塊 (2)		
B0305	B-3	朝鮮系無釉陶器 (1), 中世陶器 (1), 石器 (1)	第200図362	
B0309	B-3	石器 (1)		
B0314	B-3	朝鮮系無釉陶器 (1), 鉄滓 (1)		
B0320	B-3	カムイヤキ (2), 鉄滓 (2)	鑑定90号 (P5) 第190図266, 第191図278	

第203表 ビット内出土遺物一覧表(4)

PI&D	グロッド	内容	鑑定	掲載No
B0321	B-3	カムイヤキ (1)	鑑定91号 (P2)	
B0323	B-3	土器類 (1), 石器 (1)		
B0326	B-3	粘土塊 (1)		
B0327	B-3	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1)		
B0330	B-3	土器類 (5), 中世白磁 (1)		
B0331	B-3	土器類 (1), 鉄滓 (1)		
B0332	B-3	伊壁? (1)	鑑定92号 (P1)	
B0334	B-3	土器類 (1)		
B0335	B-3	湧石混入土器 (1), 湧石製二次加工品 (2), 石器 (3)	第197図357, 第197図358	
B0336	B-3	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1), 湧石混入土器 (1), 伊壁? (1)		
B0337	B-3	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (4), 石器 (1)	第196図317	
B0338	B-3	鉄滓 (4)	鑑定91号 (P7)	
B0340	B-3	土器類 (4), 中世白磁 (1), 粘土塊 (6), 石器 (1)	鑑定92号 (P4)	
B0341	B-3	土器類 (4), 粘土塊 (1), 石器 (1)		
B0342	B-3	土器類 (1), 須磨器 (1), 粘土塊 (8), 椀石 (1)		
B0344	B-3	湧石製石鏡 (1)		
B0346	B-3	栗色土器 (1), 土器類 (1), 有目庄土器 (1), 中世白磁 (1), 湧石混入土器 (1), 湧石製石鏡 (10), 鉄滓 (1), 石器 (1)	鑑定92号 (P3) 第185図156, 第198図360	
B0347	B-3	土器類 (2)		
B0348	B-3	土器類 (3)		
B0349	B-3	伊壁? (23)		
B0350	B-3	須磨器 (1), 中世白磁 (1), 湧石製石鏡 (2)		
B0351	B-3	湧石製石鏡 (1)		
B0352	B-3	土器類 (1)		
B0356	B-3	鑊の頸口 (1)	鑑定92号 (P2) 第203図427	
B0357	B-3	須磨器 (2), カムイヤキ (1), 農具品 (1), 鑊の頸口 (1), 粘土塊 (6), 鉄滓 (2)		
B0358	B-3	湧石製石鏡 (2), 湧石製二次加工品 (1), 椀石 (1)	第195図307, 第197図356	
B0360	B-3	土器類 (3), 湧石製石鏡 (2)		
B0363	B-3	鉄滓 (2), 椀石 (1), 石器 (1)		
B0364	B-3	土器類 (2), 伊壁? (4)		
B0366	B-3	湧石製石鏡 (2)		
B0368	B-3	土器類 (4), 湧石製石鏡 (1), 鉄滓 (3), 石器 (1)		
B0369	B-3	土器類 (1), 粘土塊 (1)		
B0371	B-3	湧石製石鏡 (2), 粘土塊 (1)		
B0373	B-3	土器類 (2), 中世白磁 (1), 鉄滓 (1)		
B0378	B-3	土器類 (2), 石器 (1)	鑑定91号 (P4)	
B0401	B-4	石器 (4)	鑑定88号 (P8)	
B0404	B-4	土器類 (3), 粘土塊 (1)	鑑定88号 (P9)	
B0405	B-4	石器 (1)		
B0407	B-3	土器類 (1), カムイヤキ (1), 土製品 (3), 鑊の頸口 (2), 石器 (2)	第204図436	
B0414	B-4	土器類 (1)		
B0417	B-4	須磨器 (1), 有目庄土器 (1), 粘土塊 (1)		
B0424	B-4	土器類 (1)	鑑定88号 (P16)	
B0425	B-4	土器類 (6), 須磨器 (2), 中世白磁 (1), 朝鮮系無釉陶器 (1), 中世陶器 (1), 鑊の頸口 (2), 粘土塊 (1)	第188図223	
B0428	B-4	土器類 (4), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (3)		
B0429	B-4	土器類 (1), 湧石混入土器 (1)	鑑定88号 (P18)	
B0431	B-4	栗色土器 (1), 土器類 (3), 湧石製石鏡 (1), 粘土塊 (4)		
B0432	B-4	土器類 (1), 湧石製石鏡 (1)		
B0436	B-4	石器 (2)		
B0437	B-4	鑊の頸口 (1)		
B0438	B-4	石器 (1)	鑑定88号 (P4) 第208図461	
B0442	B-4	有目庄土器 (3), 湧石混入土器 (2), 湧石製石鏡 (2), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石器 (3)	第198図369	
B0443	B-4	石器 (1)	鑑定88号 (P6)	

第204表 ビット内出土遺物一覧表(5)

PtID	グロット	内容	編立	掲載No
B0444	B-4	石器 (1)	編立88号 (P7)	
B0445	B-4	滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (1)		
B0446	B-4	土器 (2)	編立88号 (P20)	
B0448	B-4	土器 (7)、須磨器 (1)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (6)、鉄滓 (1)、石 (1)、石器 (3)	編立88号 (P21)	第180図103
B0449	B-4	土器 (2)、粘土塊 (4)、鉄滓 (1)、石 (1)		
B0454	B-4	滑石製二次加工品 (1)、粘土塊 (2)		第197図344
B0456	B-4	土器 (4)、滑石製石鏃 (1)、土器 (15)、赤瓦土器 (9)、滑石製石鏃 (3)、滑石製二次加工品 (3)		第197図340
B0460	B-4	土器 (2)		
B0461	B-4	滑石製石鏃 (1)		
B0463	B-4	土器 (4)、粘土塊 (2)、鉄滓 (1)、軽石 (1)、石器 (1)		
B0464	B-4	滑石製石鏃 (1)		
B0467	B-4	滑石製石鏃 (1)		
B0502	B-5	鑷の羽口 (1)	編立86号 (P6)	
B0504	B-5	土器 (3)		
B0506	B-5	軽石 (1)		
B0509	B-5	須磨器 (1)		
B0510	B-5	土器 (1)、粘土塊 (3)		
B0515	B-5	粘土塊 (7)		
B0516	B-5	土器 (1)、鉄滓 (1)、石器 (1)		
B0519	B-5	伊壁? (5)		
B0521	B-5	粘土塊 (1)		
B0522	B-5	粘土塊 (1)		
B0524	B-5	土器 (1)、須磨器 (1)、粘土塊 (1)		
B0525	B-5	粘土塊 (1)	編立85号 (P7)	
B0526	B-5	鑷の羽口 (1)、粘土塊 (1)		
B0530	B-5	土器 (1)		
B0531	B-5	土器 (2)、須磨器 (1)、中世白磁 (1)、カムイヤキ (1)、滑石製石鏃 (1)、滑石製二次加工品 (1)、粘土塊 (4)、鉄滓 (10)、石器 (3)	第179図295、第182図131、第186図164	
B0532	B-5	土器 (1)、須磨器 (1)、滑石製石鏃 (1)、滑石製二次加工品 (1)、土器 (1)、粘土塊 (1)、鉄滓 (1)、石器 (1)	第197図335、第204図437	
B0533	B-5	伊壁? (1)、石器 (1)	編立85号 (P8)	
B0534	B-5	土器 (3)、滑石製石鏃 (2)、鑷の羽口 (4)、伊壁? (4)、粘土塊 (1)、鉄滓 (19)	編立85号 (P9)	
B0537	B-5	軽石 (1)		
B0538	B-6	土器 (3)、滑石製石鏃 (1)、鑷の羽口 (1)、鉄滓 (2)	編立85号 (P3)	
B0539	B-5	土器 (1)、須磨器 (2)、鑷の羽口 (1)、粘土塊 (1)	編立85号 (P4)	第180図114、第182図136
B0540	B-5	土器 (2)、粘土塊 (1)、軽石 (1)		
B0541	B-5	土器 (1)		
B0543	B-5	土器 (7)、滑石製石鏃 (1)、伊壁? (1)、粘土塊 (17)、鉄滓 (8)、石器 (1)		
B0545	B-5	土器 (7)、須磨器 (2)、朝鮮系無釉陶器 (1)、粘土塊 (8)		
B0546	B-5	土器 (1)、中世白磁 (1)、黒色土器 (1)、土器 (2)、滑石製石鏃 (1)、滑石製二次加工品 (1)、鉄滓 (3)、石器 (1)	第202図418、第202図419	
B0548	B-5	土器 (2)、須磨器 (1)、滑石製二次加工品 (3)、鉄滓 (2)、軽石 (1)	編立86号 (P1)	
B0549	B-5	須磨器 (2)、石器 (1)		
B0551	B-5	中世白磁 (1)、滑石製石鏃 (4)、滑石製二次加工品 (2)、石器 (1)	第196図328	
B0555	B-5	土器 (2)、鉄滓 (1)		
B0556	B-5	土器 (1)、カムイヤキ (1)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (1)	編立86号 (P10)	第189図243
B0557	B-5	土器 (3)、粘土塊 (2)、鉄滓 (1)	編立86号 (P11)	
B0559	B-5	土器 (1)		

第205表 ビット内出土遺物一覧表(6)

PtID	グロット	内容	編立	掲載No
B0560	B-5	土器 (7)、須磨器 (3)、鉄製品 (1)、粘土塊 (9)、石器 (6)		第201図404
B0562	B-5	土器 (1)、滑石製石鏃 (1)、鉄滓 (2)、石器 (3)		
B0563	B-5	土器 (2)、粘土塊 (1)		
B0565	B-6	中世白磁 (1)、カムイヤキ (1)、滑石製石鏃 (2)、鑷の羽口 (1)、鉄滓 (3)、石器 (4)		第190図267
B0566	B-5	須磨器 (1)、鉄滓 (1)、石器 (1)		
B0568	B-5	土器 (3)、石器 (1)		
B0569	B-5	土器 (1)、粘土塊 (1)、鉄滓 (2)、石器 (1)		
B0570	B-5	鑷の羽口 (1)、鉄滓 (1)		
B0703	B-7	石器 (1)		
B0704	B-7	鉄滓 (3)		
B0707	B-7	土器 (1)、粘土塊 (2)、軽石 (1)		
B0708	B-7	土器 (1)、石器 (11)		
B0709	B-7	滑石製土器 (1)		
B0711	B-7	鑷の羽口 (1)		第203図435
B0712	B-7	鉄滓 (2)		第202図412
B0716	B-7	軽石 (2)		
B0718	B-7	鑷の羽口 (1)		
B0719	B-7	粘土塊 (8)、鉄滓 (4)、軽石 (1)、石器 (1)	編立83号 (P10)	
B0721	B-7	土器 (2)		
B0723	B-7	土器 (1)、軽石 (1)、黒色土器 (1)		第176図258
B0724	B-7	土器 (4)		
B0725	B-7	鑷の羽口 (1)	編立83号 (P11)	
B0726	B-7	黒色土器 (1)、土器 (3)、滑石製石鏃 (1)、滑石製二次加工品 (1)、粘土塊 (4)、鉄滓 (3)		第197図332
B0727	B-7	朝鮮系無釉陶器 (1)、滑石製石鏃 (3)、粘土塊 (5)、鉄滓 (1)	編立83号 (P12)	第188図221
B0729	B-7	土器 (1)		
B0730	B-7	土器 (1)、滑石製石鏃 (2)		
B0733	B-7	土器 (3)		
B0736	B-7	土器 (4)、粘土塊 (2)、鉄滓 (2)、石器 (1)		
B0737	B-7	滑石製石鏃 (1)、石器 (2)	編立83号 (P1)	
B0743	B-7	土器 (1)、軽石 (1)		
B0804	B-8	土器 (1)、粘土塊 (5)、鉄滓 (1)、軽石 (1)		第202図422
B0809	B-8	須磨器 (2)、石器 (2)		
B0810	B-8	土器 (2)		
B0811	B-8	滑石製石鏃 (1)		
B0812	B-8	土器 (4)		
B0813	B-8	土器 (1)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (2)、黒色土器 (1)		第175図257
B0815	B-8	粘土塊 (3)、鉄滓 (1)		
B0816	B-8	土器 (1)		
B0834	B-8	土器 (1)		
B0901	B-9	粘土塊 (1)		
B0902	B-9	土器 (1)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (3)	編立78号 (P13)	
B0904	B-9	土器 (1)		
B0908	B-9	土器 (2)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (3)	編立78号 (P11)	
B0909	B-9	土器 (1)		
B0910	B-9	鑷の羽口 (1)		
B0911	B-9	土器 (1)、須磨器 (1)、滑石製石鏃 (1)、滑石製二次加工品 (1)		
B0913	B-9	土器 (2)、滑石製石鏃 (1)、黒色土器 (1)	編立78号 (P10)	
B0914	B-9	土器 (1)、石器 (1)		
B0915	B-9	土器 (20)		
B0916	B-9	朝鮮系無釉陶器 (1)、滑石製石鏃 (1)、粘土塊 (2)		第188図214
B0917	B-9	土器 (1)、滑石製石鏃 (1)		
B0918	B-9	土器 (7)、粘土塊 (7)		
B0919	B-9	粘土塊 (2)		
B0922	B-9	土器 (3)、粘土塊 (4)		
B0925	B-9	土器 (3)		
B0926	B-9	土器 (2)		

第206表 ビット内出土遺物一覧表(7)

PIBID	グロット	内容	標立	掲載No
80029	B-9	土器類 (1)		
80030	B-9	土器類 (2), 石器 (1)		
80031	B-9	土器類 (10)	標立78号 (P8)	
80032	B-9	土器類 (3), 鉄滓 (1)	標立78号 (P9)	
80034	B-10	土器類 (1)	標立77号 (P5)	
80036	B-9	土器類 (7), 粘土塊 (1), 硃石 (1)	標立77号 (P6)	
80038	B-9	土器類 (4), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1)		
80041	B-9	須磨器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)	標立77号 (P10)	
80048	B-9	土器類 (7), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (2), 石器 (1)		
80049	B-9	土器類 (2), 粘土塊 (4), 鉄滓 (1), 石器 (1)		
80050	B-10	土器類 (2)		
80051	B-9	滑石製石鏡 (1)		
80052	B-9	滑石製二次加工品 (1)	第197図349	
80054	B-9	須磨器 (1)		
80059	A-9	滑石製石鏡 (1)		
80060	B-9	土器類 (1)		
80061	B-9	粘土塊 (1), 石器 (4)		
80062	B-9	粘土塊 (2)		
80068	B-9	土器類 (1)		
80069	B-9	土器類 (1)		
80073	B-9	土器類 (5), 滑石製石鏡 (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (3), 石器 (1)		
80074	B-9	土器類 (3), 須磨器 (2), 灰琺瑯器 (1)	第181図120, 第181図125, 第200図375	
80075	B-9	土器類 (3)		
80076	B-8	土器類 (6), 粘土塊 (1)		
80077	B-9	土器類 (20), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (1)		
80079	B-9	土器類 (2), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 石器 (1)		
80082	B-9	土器類 (2), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (4), 石器 (2)	標立77号 (P11)	
80083	B-9	土器類 (3)		
80084	B-9	土器類 (2), 滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (2)		
80086	A-9	土器類 (5), 鑷の口 (1)		
81001	B-10	土器類 (6), 滑石製石鏡 (1), 石器 (1)		
81006	B-10	土器類 (2)		
81012	B-10	土器類 (4)	標立71号 (P3)	第179図292
81014	B-10	土器類 (1), 粘土塊 (2)		
81025	B-10	土器類 (2)		
81028	B-10	土器類 (1), 中世白磁 (1), 粘土塊 (1)	第200図380	
81032	B-10	土器類 (1), 春日笠原土器 (1), 粘土塊 (7), 石器 (2)	第177図263	
81033	B-10	土器類 (2), 滑石製石鏡 (1), 石器 (1)		
81034	B-10	土器類 (2), 粘土塊 (1)		
81096	B-10	土器類 (1)		
81103	B-11	土器類 (2)		
81108	B-11	朝鮮系無釉陶器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 硃石 (1)	標立67号 (P5)	第188図228
81111	B-11	粘土塊 (1), 鉄滓 (2)		
81114	B-11	朝鮮系無釉陶器 (1)		
81115	C-11	土器類 (1), 粘土塊 (1)		
81116	B-11	土器類 (1), 春日笠原土器 (1)		
81118	B-11	滑石製石鏡 (1)		
81119	B-11	滑石製二次加工品 (1)	第196図316	
81123	B-11	土器類 (3), 粘土塊 (3)		
81125	B-11	土器類 (4)		
81201	B-12	土器類 (1)		
81517	B-15	須磨器 (1)		
82421	B-2	土器類 (3)		
86003	B-6	土器類 (2), 中世白磁 (1), カムイヤキ (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (18), 鉄滓 (5), 石器 (5)	第190図262	
86005	B-6	硃石 (2)		
86007	B-6	粘土塊 (1)		
86008	B-6	石器 (1)		
86009	B-6	土器類 (1), 滑石製石鏡 (1)		

第207表 ビット内出土遺物一覧表(8)

PIBID	グロット	内容	標立	掲載No
86010	B-6	土器類 (5)		
86011	B-6	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3)		
86012	B-6	滑石製石鏡 (1)		
86013	B-6	鉄滓 (4), 石器 (1)		
86015	B-6	須磨器 (1)	第180図107	
86016	B-6	土器類 (4), 中世白磁 (1), 朝鮮系無釉陶器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 硃石 (1), 石器 (3)		
86017	B-6	土器類 (2), 須磨器 (1), 朝鮮系無釉陶器 (5), カムイヤキ (6), 滑石製土器 (1), 鑷の口 (1), 鉄滓 (2)	第192図287	
86018	B-6	朝鮮系無釉陶器 (1), カムイヤキ (6), 粘土塊 (1), 鉄滓 (7), 石器 (1)	第189図247	
86019	B-6	土器類 (1), 鉄製品 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (3)		
86020	B-6	土器類 (1), 朝鮮系無釉陶器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 石器 (1)		
86022	B-6	中世白磁 (1)		
86024	B-6	土器類 (3), 滑石製石鏡 (1), 鑷の口 (1), 石器 (1)		
86025	B-6	土器類 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 石器 (1)		
86026	B-6	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 石器 (1)		
86027	B-6	土器類 (6), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 鉄滓 (2), 石器 (2)		
86028	B-6	土器類 (27), 須磨器 (1), 石器 (1)		
86029	B-6	土器類 (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (8)	第203図432	
86031	B-6	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)		
86032	B-6	粘土塊 (6)		
86034	B-7	粘土塊 (1), 石器 (1)		
86035	B-6	石器 (1)		
86039	B-6	石器 (2)		
86040	B-6	土器類 (3)		
86041	B-6	土器類 (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (6), 石器 (2)	標立84号 (P4)	
86042	B-6	土器類 (1), 中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (3), 滑石製二次加工品 (1), 鉄滓 (2), 石器 (5)	第197図346	
86043	B-6	土器類 (1), カムイヤキ (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1)	標立84号 (P3)	
86046	B-6	中世白磁 (2), 石器 (1)	第180図199	
86049	B-6	石器 (1)	標立84号 (P1)	
86050	B-6	鉄滓 (2)		
86051	B-6	粘土塊 (1)	標立84号 (P13)	
86052	B-6	土器類 (3), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 炭化物 (1)		
86053	B-6	土器類 (3), 須磨器 (1), 中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (1), 鉄滓 (2), 石器 (1)		
86054	B-6	土器類 (1), 粘土塊 (2)		
86055	B-6	土器類 (5), カムイヤキ (1), 滑石製石鏡 (6), 鑷の口 (3), 粘土塊 (6), 鉄滓 (1), 石器 (8)	第207図459	
86057	B-6	須磨器 (1), 鑷の口 (1)		
86059	B-6	土器類 (1), 粘土塊 (1), 硃石 (1), 石器 (7)	標立84号 (P12)	
86061	B-6	土器類 (1)		
86063	B-6	粘土塊 (3)		
86064	B-6	土器類 (2), 滑石製石鏡 (1)		
86065	B-6	土器類 (5), 滑石製石鏡 (3), 粘土塊 (2)		
86069	B-6	粘土塊 (1)		
86070	B-6	中世白磁 (1), 粘土塊 (1)		
86071	B-6	土器類 (1), 滑石製二次加工品 (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (1)		
86072	B-6	滑石製石鏡 (1)		
86073	B-6	粘土塊 (1), 石器 (3)		
86074	B-6	滑石製石鏡 (1)	第195図309	

第208表 ビット内出土遺物一覧表 (9)

PIBID	グリッド	内容	層立	発掘No
B6075	B-6	土師器 (2), 粘土塊 (3)		
B6077	B-6	石器 (1)		
B6078	B-6	滑石製石鏡 (1)	層立84号 (P7)	
B6081	B-6	土師器 (8), 滑石製土器 (2), 粘土塊 (5), 鉄滓 (2), 靑石 (1), 石膏 (1)		
B6082	B-6	土師器 (7), 滑石製石鏡 (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (3), 鉄滓 (1), 石膏 (3)	層立84号 (P8)	
B6089	B-6	土師器 (1), 新野系無地陶器 (1), カムイヤキ (1), 滑石製石鏡 (1)		
B6093	B-6	土師器 (2), 赤目瓦土器 (2), 中世白磁 (1), 粘土塊 (2)	第185回156	
B6095	B-6	土師器 (3), 粘土塊 (2)		
B6096	B-6	土師器 (2)	層立84号 (P10)	
B6097	B-6	土師器 (2), 滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1), 土製品 (2), 鑷の口 (1), 粘土塊 (2)	第197回341	
B6099	B-6	土師器 (2), カムイヤキ (1), 鑷の口 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1)	第190回257	
B6100	B-6	土師器 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (1), 靑石 (1), 石膏 (1)		
B6101	B-6	土師器 (2), 中世白磁 (2), 滑石製石鏡 (7), 滑石製二次加工品 (1), 鑷の口 (8), 粘土塊 (5), 鉄滓 (2), 石膏 (1)	第186回179, 第197回351	
B6104	B-6	土師器 (4), 須磨器 (1), 赤目瓦土器 (1), 滑石製石鏡 (3), 粘土塊 (1), 石膏 (5)		
B6105	B-6	土師器 (2), 滑石製石鏡 (2), 土製品 (1), 鑷の口 (1), 石膏 (1)		
B6106	B-6	土師器 (2), 鉄滓 (1), 石膏 (1)	第202回414	
B6108	B-6	鑷の口 (1), 鉄滓 (1)	第202回420	
B6110	B-6	土師器 (2), 須磨器 (1), 青磁(11C-12C) (1), 中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (3), 鉄製品 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1)	層立85号 (P1)	第199回370, 第202回425
B6111	B-6	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 青磁(13C-16C) (1), 鉄製品 (1), 粘土塊 (1)		第201回399
B6113	B-6	土師器 (5), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石膏 (1)	層立85号 (P2)	
B6115	B-6	土師器 (7), 須磨器 (2), 中世白磁 (2), 滑石製石鏡 (5), 鑷の口 (1), 粘土塊 (5), 石膏 (5)	第182回135, 第186回174, 第186回185	
B6116	B-6	土師器 (1), 滑石製土器 (1), 鑷の口 (1)		
B6117	B-6	滑石製石鏡 (1)		
B6118	B-6	中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (2), 鉄滓 (2)		
B6119	B-6	土師器 (2), 鉄滓 (2)		
B6121	B-6	鉄滓 (3), 石膏 (2)		
B6123	B-6	土師器 (1), 粘土塊 (4), 鉄滓 (4)		
B6124	B-6	土師器 (3), 粘土塊 (1), 鉄滓 (4), 石膏 (2)		
B6125	B-6	須磨器 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (5), 鉄滓 (2)	第181回123	
B6126	B-6	須磨器 (1), 滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (1)	層立84号 (P11)	
B6127	B-6	土師器 (2), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (1), 靑石 (3), 石膏 (2)		
C0176	C-1	土師器 (1), 鉄滓 (2), 石膏 (2)		
C0204	C-2	須磨器 (1), 石膏 (1)	層立93号 (P1)	
C0206	C-2	土師器 (2), 粘土塊 (2)	層立93号 (P3)	
C0302	C-3	土師器 (1), 石膏 (1)	層立89号 (P3)	
C0305	C-3	滑石製石鏡 (2)		
C0326	C-3	滑石製石鏡 (1)		
C0402	C-4	土師器 (2)		
C0404	C-4	土師器 (2)		
C0405	C-4	滑石製土器 (1)		
C0406	C-4	鑷の口 (1)		

第209表 ビット内出土遺物一覧表 (10)

PIBID	グリッド	内容	層立	発掘No
C0407	C-4	土師器 (2), 粘土塊 (1)		
C0502	C-5	土師器 (3), 靑石 (1)		
C0503	C-5	粘土塊 (2)		
C0504	C-5	須磨器 (1)	第182回132	
C0603	B-6	土師器 (1)		
C0604	B-6	中世白磁 (1), 滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (1)		
C0605	C-7	須磨器 (1), 鉄滓 (1)	第180回297	
C0612	C-6	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (1)		
C0613	C-6	土師器 (2), 鉄滓 (1), 石膏 (1)		
C0614	B-6	粘土塊 (3), 石膏 (2)		
C0616	C-6	土師器 (4), 粘土塊 (5), 鉄滓 (2)		
C0618	C-6	赤目瓦土器 (3), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石膏 (1)		
C0701	C-7	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
C0707	C-7	粘土塊 (1)		
C0708	C-7	鉄滓 (1)	第202回424	
C0710	C-7	土師器 (1)		
C0717	C-7	土師器 (1)	第179回286	
C0719	C-7	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
C0721	C-7	土師器 (2)		
C0725	C-7	土師器 (3), 須磨器 (1)	第179回85, 第180回101	
C0726	C-7	土師器 (1)		
C0728	D-7	土師器 (1)		
C0729	D-7	土師器 (1), 鑷の口 (2)		
C0731	C-7	鉄滓 (1)		
C0801	C-8	粘土塊 (2)		
C0804	C-8	滑石製石鏡 (2)		
C0805	C-8	粘土塊 (3), 鉄滓 (2)	層立81号 (P4)	第202回423
C0806	C-8	土師器 (3), 須磨器 (1), 滑石製土器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)	第182回128	
C0807	C-8	石膏 (1)		
C0808	C-8	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)		
C0809	C-9	土師器 (8), 滑石製石鏡 (1), 土製品 (1), 粘土塊 (6), 石膏 (1)	第204回443	
C0810	C-8	土師器 (3), 滑石製石鏡 (1)		
C0811	C-9	粘土塊 (1), 靑石 (1), 鑷器 (1)		
C0812	C-8	土師器 (3)		
C0814	C-8	粘土塊 (7)		
C0816	C-8	石膏 (2)		
C0817	C-8	古代相当電磁器 (1), 滑石製石鏡 (1)	第184回149	
C0818	C-8	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1), 靑石 (1), 石膏 (2)	第196回320, 第205回444	
C0819	C-8	土師器 (1)		
C0820	C-8	須磨土器 (1)		
C0824	C-8	石膏 (2)		
C0828	B-6	土師器 (2), 粘土塊 (14)		
C0830	B-6	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 鉄滓 (1)		
C0831	C-8	石膏 (1)		
C0834	C-8	土師器 (2), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (6)		
C0836	C-8	土師器 (2)		
C1002	C-10	土師器 (6)		
C1004	C-10	土師器 (2), 鉄滓 (4), 靑石 (1)		
C1006	C-10	土師器 (1), 粘土塊 (3)	層立74号 (P9)	
C1010	C-10	粘土塊 (1)		
C10101	C-10	土師器 (1)		
C10104	C-10	土師器 (3), 粘土塊 (1)		
C10109	C-10	土師器 (2), 滑石製石鏡 (2), 鉄製品 (1), 鑷の口 (1), 靑石 (1)	第201回401	
C10110	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
C1012	C-10	滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (2)	第197回331	
C1013	C-10	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)		
C1015	C-10	石膏 (3)	層立73号 (P7)	
C1019	C-10	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)		
C1020	C-10	土師器 (4)		

第210表 ビット内出土遺物一覧表 (11)

PIED	グロウ	内容	層立	発掘No
C1021	C-10	土師器 (6), 粘土塊 (4)	層立74号 (P2)	
C1023	C-10	有目瓦土器 (1), 粘土塊 (3)	層立74号 (P1)	
C1026	C-10	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
C1027	C-10	石器 (1)		
C1030	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (1)		
C1039	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (5), 軽石 (2)		
C1042	C-10	土師器 (4), 陶器 (1)		
C1045	C-10	粘土塊 (2)		
C1046	C-10	土師器 (1)	層立73号 (P5)	
C1047	C-10	土師器 (1)	層立73号 (P6)	
C1048	C-10	土師器 (1)		
C1049	C-10	滑石製石鏡 (1)		
C1050	C-10	土師器 (1), 粘土塊 (2)		
C1051	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (3), 軽石 (1)	層立75号 (P1)	
C1053	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
C1054	C-10	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
C1057	C-10	土師器 (3)		
C1058	C-10	土師器 (1), 軽石 (1)	層立77号 (P1)	
C1066	C-10	粘土塊 (4)	層立74号 (P5)	
C1067	C-10	土師器 (6), 粘土塊 (4), 石器 (1)		
C1068	C-10	土師器 (2), カムイヤキ (1), 粘土塊 (2)		第189図235
C1069	C-10	土師器 (10)	層立74号 (P4)	
C1074	C-10	土師器 (1), 石器 (2)		
C1079	C-10	土師器 (1)		
C1081	C-10	粘土塊 (2)		
C1082	C-10	土師器 (1)	層立71号 (P5)	
C1084	C-10	土師器 (4), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 軽石 (1)		
C1086	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (1)		
C1087	C-10	土師器 (8), 粘土塊 (2), 石器 (1)		
C1088	B-10	土師器 (1), 粘土塊 (8)		
C1090	C-10	土師器 (2)		
C1092	B-10	土師器 (11), 粘土塊 (1)		
C1093	C-10	土師器 (2)		
C1094	C-10	土師器 (2)		
C1095	C-10	土師器 (2)		
C1096	C-10	黒色土器 (3), 粘土塊 (5)		
C1098	C-10	土師器 (6), 粘土塊 (3)		
C1100	C-10	土師器 (3), 粘土塊 (1)		
C1105	C-11	土師器 (1), 石器 (1)	層立68号 (P2)	
C1106	C-11	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)	層立69号 (P1)	
C1110	C-11	土師器 (2)	層立69号 (P2)	
C1111	C-11	土師器 (2), カムイヤキ (2), 土製品 (1), 鑊の口 (1), 粘土塊 (7), 鉄滓 (2)		第190図272, 第190図273, 第204図439
C1126	C-11	朝鮮系銅製物 (1), カムイヤキ (1), 石器 (1)		
C1130	C-11	土師器 (2)		
C1131	C-11	土師器 (1), 滑石製石鏡 (2)	層立70号 (P1)	
C1133	C-11	粘土塊 (3)	層立70号 (P2)	
C1136	C-11	粘土塊 (2)		
C1137	C-11	土師器 (2)		
C1139	C-11	滑石製石鏡 (1)		
C1140	C-11	粘土塊 (2)		
C1145	C-11	土師器 (2)		
C1147	C-11	滑石製石鏡 (1)		
C1148	C-11	土師器 (3), 石器 (1)		
C1150	C-11	滑石製石鏡 (1)	層立68号 (P4)	第195図311
C1151	C-11	中骨白磁 (1), 粘土塊 (1)		
C1152	C-11	土師器 (1), 粘土塊 (3)		
C1153	C-11	土師器 (4), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)	層立67号 (P11)	
C1155	C-11	カムイヤキ (1), 鑊の口 (2), 粘土塊 (5), 鉄滓 (4), 石器 (1)		
C1156	C-11	土師器 (1), 粘土塊 (2)		
C1163	C-11	須恵器 (1), 粘土塊 (7)		第180図104
C1164	C-11	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (4)		
C1165	C-11	粘土塊 (1), 石器 (1)	層立67号 (P2)	
C1166	C-11	滑石製石鏡 (3), 粘土塊 (1)	層立67号 (P1)	
C1168	C-11	滑石製石鏡 (1), 石器 (1)		

第211表 ビット内出土遺物一覧表 (12)

PIED	グロウ	内容	層立	発掘No
C1169	C-11	土師器 (1), 須恵器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)		第180図108
C1170	C-11	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)		
C1171	C-11	土師器 (4), カムイヤキ (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 鉄滓 (1)	層立68号 (P7)	
C1172	C-11	土師器 (2)	層立69号 (P5)	
C1208	C-12	滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石器 (2)		
C1231	C-12	粘土塊 (1)		
C9001	C-9	土師器 (3), 滑石製石鏡 (1), 鑊の口 (1), 石器 (1)	層立76号 (P4)	
C9003	C-10	土師器 (1)		
C9004	C-9	土師器 (3)	層立76号 (P23)	
C9005	C-9	土師器 (12), 軽石 (1), 石器 (1)		
C9007	C-9	土師器 (1)		
C9008	C-9	土師器 (3), 中骨白磁 (1)		
C9009	C-9	土師器 (1)	層立75号 (P4)	
C9010	C-9	土師器 (8)		
C9012	C-9	土師器 (3), 中骨白磁 (1), 滑石製土器 (1), 鉄滓 (1)		
C9013	C-9	土師器 (3), 鉄滓 (1), 石器 (2)	層立76号 (P6)	第206図450
C9017	C-9	土師器 (2), 朝鮮系銅製物 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)	層立76号 (P7)	
C9019	C-9	土師器 (3)	層立76号 (P9)	
C9021	C-9	有目瓦土器 (2)	層立76号 (P28)	
C9022	C-9	土師器 (3), 滑石製石鏡 (1), 石器 (1)		
C9023	C-9	土師器 (1), 有目瓦土器 (2)	層立76号 (P10)	
C9025	C-9	土師器 (1)		
C9026	C-9	土師器 (1), 有目瓦土器 (2)	層立76号 (P29)	
C9028	C-9	土師器 (3), 有目瓦土器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (4), 石器 (1)	層立76号 (P11)	
C9030	C-9	粘土塊 (1)	層立76号 (P31)	
C9031	C-9	土師器 (1)		
C9033	C-9	粘土塊 (1)		
C9034	C-9	土師器 (2)		
C9035	C-9	土師器 (1), 須恵器 (1), 軽石 (2)		
C9036	C-9	土師器 (3), 滑石製石鏡 (2)		
C9037	C-9	土師器 (3), 粘土塊 (3)		
C9039	C-9	須恵器 (1), 石器 (1)	第183図138	
C9040	C-9	石器 (1)		
C9041	C-9	土師器 (6), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (3), 石器 (1)		
C9042	C-9	土師器 (1)		
C9044	C-9	土師器 (6)	層立76号 (P27)	
C9045	C-9	土師器 (12), 有目瓦土器 (1), 軽石 (1), 石器 (1)	層立76号 (P26)	
C9046	C-9	土師器 (3), 須恵器 (1), 有目瓦土器 (2), 朝鮮系銅製物 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1)	層立76号 (P25)	
C9049	C-9	土師器 (5)		
C9051	C-9	土師器 (7), 粘土塊 (1)		
C9052	C-9	土師器 (2), 石器 (3)		
C9053	C-10	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
C9058	C-9	土師器 (8), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 軽石 (1), 石器 (2)	第205図446	
C9060	C-9	土師器 (4), 有目瓦土器 (4), 滑石製土器 (2), 粘土塊 (2)	層立78号 (P3)	第185図153, 第185図157, 第185図159, 第197図353
C9062	C-9	土師器 (3)	層立78号 (P1)	
C9063	C-9	土師器 (4), 中骨白磁 (1)	層立78号 (P16)	第186図171
C9064	C-9	古代相当陶器類 (1), 滑石製石鏡 (3)		
C9065	C-9	土師器 (2), カムイヤキ (1)		
C9070	C-9	土師器 (1)		
C9072	C-9	土師器 (3)		
C9073	C-9	土師器 (2)		
C9076	C-9	須恵器 (1)		
C9079	C-9	土師器 (1), 粘土塊 (1)		

第212表 ビット内出土遺物一覧表 (13)

PI&D	グロット	内容	層立	発掘No
C0900	C-9	土師器 (2), 須磨器 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (2)	層立78号 (P14)	
C0902	C-9	土師器 (2), 滑石製石鏡 (1)		
C0903	C-9	土師器 (3), 粘土塊 (1)		
C0904	C-9	土師器 (1), 布目瓦土器 (1)	層立78号 (P15)	
C0906	C-9	土師器 (1), 布目瓦土器 (1)		
C0907	C-9	滑石製石鏡 (1), 鑷の羽口 (1), 石器 (1)		
C0908	C-9	土師器 (3)		
C0909	C-9	土師器 (4), 須磨器 (1), 布目瓦土器 (1), 石器 (4)		第185図154
C0900	C-9	須磨器 (1), 滑石製石鏡 (1)		第181図126
C0902	C-9	土師器 (1), 野群系無釉陶器 (1), 滑石製石鏡 (2)		第188図216, 第197図356
C0903	C-9	土師器 (10), 中曾白磁 (1), 滑石製土器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2), 軽石 (2), 石器 (1)		第186図171
C0905	C-9	土師器 (3), 布目瓦土器 (3), 粘土塊 (1), 石器 (1)	層立77号 (P16)	
C0906	C-9	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
C0908	C-9	滑石製石鏡 (2)		
C9102	C-9	土師器 (1), 布目瓦土器 (1), 石器 (1)	層立77号 (P17)	
C9103	C-9	土師器 (1)	層立78号 (P16)	
C9105	C-10	土師器 (10), 粘土塊 (1)		
C9106	C-10	土師器 (20), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (6), 石器 (1)	層立77号 (P18)	
C9107	C-9	土師器 (4)		
C9108	C-9	土師器 (1)		
C9109	C-9	土師器 (10), 布目瓦土器 (2), 鉄滓 (2), 石器 (1)	層立78号 (P7)	
C9110	C-9	土師器 (3), 粘土塊 (1)		
C9112	C-9	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
C9117	C-9	土師器 (2), 鉄製品 (1), 粘土塊 (1)		第201図308
C9118	C-9	土師器 (1), 滑石製石鏡 (3), 滑石製二次加工品 (2), 石器 (1)	層立77号 (P14)	第197図348
C9119	C-9	土師器 (1), 粘土塊 (4)		
C9120	C-9	土師器 (1), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (3), 石器 (1)		第206図451
C9121	C-9	土師器 (2), 粘土塊 (1)		
C9123	B-9	滑石製石鏡 (4), 滑石製二次加工品 (1)		第197図338
C9124	C-9	土師器 (2)		
C9126	C-9	土師器 (2)		
C9127	C-9	粘土塊 (1)		
C9129	C-9	土師器 (3), 粘土塊 (2)		
D0120	D-1	土師器 (1)		
D0303	D-3	鑷の羽口 (1)		
D0335	D-3	石器 (1)		
D0405	D-4	土師器 (1)		
D0423	D-4	土師器 (3), 粘土塊 (1)		
D0547	D-5	土師器 (1)		
D0702	D-7	土師器 (6), 粘土塊 (1)		
D0704	D-7	粘土塊 (2)		
D0706	D-7	土師器 (2)		
D0710	D-7	土師器 (1)		
D0711	D-7	土師器 (1), 粘土塊 (2)		
D0713	D-7	土師器 (1)		
D0717	D-7	土師器 (1)		第179図79
D0718	D-7	土師器 (3), 鉄滓 (1)		
D0719	D-7	石器 (5), 自然燐 (1)		
D0722	D-7	鑷の羽口 (1)		
D0723	D-7	土師器 (1), 軽石 (1)		
D0729	D-7	粘土塊 (1)		
D0802	D-8	土師器 (3), 粘土塊 (1), 軽石 (1)		
D0804	D-8	土師器 (11), 布目瓦土器 (1), 粘土塊 (3), 鉄滓 (3)		
D0806	D-8	土師器 (8), 粘土塊 (3)		
D0807	D-8	土師器 (2), 須磨器 (1), 鉄滓 (2)	層立81号 (P6)	第202図415, 第180図396
D0809	D-8	土師器 (3), 中曾白磁 (1), 粘土塊 (3), 石器 (3)	層立81号 (P1)	
D0810	D-8	土師器 (1), 粘土塊 (1)		

第213表 ビット内出土遺物一覧表 (14)

PI&D	グロット	内容	層立	発掘No
D0811	D-8	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
D0812	D-8	石器 (1)		
D0815	D-8	土師器 (3), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 炭化物 (2)		
D0819	D-8	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
D0823	D-8	土師器 (3), 須磨器 (1), 粘土塊 (6)		
D0827	D-8	土師器 (1)		
D0829	D-8	土師器 (7), 鉄滓 (1)		第179図93
D0832	D-8	土師器 (9), 滑石製石鏡 (2), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石器 (1)		層立81号 (P3)
D0836	D-8	土師器 (2)		
D0843	D-8	粘土塊 (1)		
D0869	D-8	石器 (1)		
D0901	D-9	土師器 (5), 粘土塊 (3), 軽石 (1)		
D0903	D-9	土師器 (1)		
D0904	D-9	土師器 (1), 石器 (1)		
D0905	D-9	土師器 (1)		
D0908	D-9	青銅(11C-12C) (1)	層立76号 (P18)	
D0909	D-9	伊賀? (1)	層立76号 (P1)	
D0910	D-9	石器 (1)	層立76号 (P17)	
D0911	D-9	土師器 (2)	層立76号 (P34)	
D0913	D-9	土師器 (2), 滑石製二次加工品 (1)	層立76号 (P16)	第197図350
D0915	D-9	土師器 (3), 粘土塊 (1)	層立76号 (P15)	
D0917	D-9	土師器 (4), 粘土塊 (1)	層立76号 (P14)	
D0918	D-9	土師器 (1), 粘土塊 (1), 軽石 (1)	層立76号 (P13)	
D0919	D-9	土師器 (2), 滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (1)	層立76号 (P12)	
D0922	D-9	土師器 (1), 鉄滓 (1)		
D0923	D-9	土師器 (1)		
D0924	D-9	土師器 (2), 鉄滓 (1), 軽石 (1)	層立76号 (P3)	
D0952	D-9	滑石製石鏡 (1)		
D1003	D-10	土師器 (1)		
D1005	D-10	土師器 (2), 須磨器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
D1007	D-10	石器 (3)		
D1011	D-10	須磨器 (1), 粘土塊 (1)	層立72号 (P12)	
D1014	D-10	土師器 (1)		
D1017	D-10	土師器 (2)		
D1020	D-10	土師器 (5)		
D1021	D-10	土師器 (1), 中曾白磁 (1)		
D1022	D-10	土師器 (4)	層立72号 (P20)	
D1023	D-10	土師器 (1)		
D1027	D-10	土師器 (1), 鑷の羽口 (1)		
D1028	D-10	土師器 (2)		
D1029	C-10	土師器 (4), 布目瓦土器 (1), 粘土塊 (2)		
D1030	D-10	土師器 (2)		
D1031	D-10	土師器 (7), 粘土塊 (1)		
D1033	D-10	石器 (1)		
D1035	D-10	粘土塊 (1)		
D1040	D-10	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
D1045	D-10	土師器 (1)	層立72号 (P19)	
D1046	D-10	土師器 (5), 粘土塊 (3)	層立72号 (P18)	第179図280
D1047	D-10	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
D1048	D-10	土師器 (10), 粘土塊 (1)		
D1050	D-10	土師器 (7), 粘土塊 (2), 石器 (1)	層立72号 (P4)	
D1054	D-10	土師器 (8)	層立72号 (P6)	
D1055	D-10	土師器 (3)	層立72号 (P2)	
D1056	D-10	滑石製石鏡 (1)		
D1059	D-10	石器 (1)		
D1061	D-10	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1)		第194図304
D1064	D-11	土師器 (10), 粘土塊 (9), 石器 (2)	層立72号 (P1)	
E0803	E-8	土師器 (4)	層立79号 (P8)	第179図284
E0804	E-8	粘土塊 (4)	層立80号 (P3)	
E0806	E-8	土師器 (3)	層立80号 (P8)	
E0807	E-8	滑石製石鏡 (1)		
E0811	E-8	土師器 (3), 粘土塊 (3)		
E0817	E-8	石器 (2)		

第214表 ビット内出土遺物一覧表 (15)

PIED	グロウット	内容	鑑定	掲載No
E0825	E-8	土器類 (1)	鑑定80号 (P5)	
E0902	E-9	土器類 (3)		
E0905	E-9	土器類 (1)		
E0906	E-9	土器類 (3)		
E0907	E-9	土器類 (1)		
E0909	E-9	石器 (2)		
E0910	E-9	土器類 (5)、滑石製石鏡 (1)、粘土塊 (2)		
E0913	E-9	土器類 (2)、粘土塊 (2)		
E0920	E-9	粘土塊 (3)		
E0921	E-9	土器類 (2)		
E0928	E-9	土器類 (3)		
E0934	E-9	土器類 (3)、粘土塊 (2)		
E0936	E-9	土器類 (9)、粘土塊 (1)、石器 (1)	鑑定79号 (P9)	
E0941	E-9	土器類 (1)		
E0944	E-9	土器類 (1)、滑石製石鏡 (1)、鉄滓 (1)		
E0949	E-9	土器類 (3)、粘土塊 (2)		
E0954	E-9	土器類 (2)		
E0958	E-9	土器類 (3)、粘土塊 (2)		
H1010		兼久式土器 (1)		第175図254
SK05		土製品 (1)	鑑定58号 (P3)	
PK002		土器類 (2)		
PK005	H-10	土器類 (7)、滑石製石鏡 (1)		
PK008	G-10	土器類 (1)	鑑定65号 (P22)	
P0072	G-11	布目瓦土器 (1)、中世白磁 (1)、石器 (1)	鑑定66号 (P14)	第185図155
P0077	G-10	土器類 (1)、鉄滓 (2)		
P0121	F-11	土器類 (1)、石器 (1)	鑑定64号 (P7)	
P0127	G-11	自然磨 (1)		
P0128	G-11	土器類 (6)		
P0141	F-11	土器類 (4)、カムイヤキ (1)	鑑定64号 (P4)	第191図274
P0147	F-11	土器類 (7)、粘土塊 (2)		
P0163	G-11	石器 (1)		
P0170	H-11	石器 (1)		
P0196	H-12	石器 (5)		
P0224	H-12	須恵器 (1)		
P0256	H-13	滑石製石鏡 (1)	鑑定52号 (P10)	
P0294	H-13	石器 (1)		第206図447
P0330	I-11	石器 (2)		
P0368	G-12	軽石 (3)	鑑定59号 (P6)	
P0370	G-12	土器類 (3)		
P0445	F-12	カムイヤキ (1)、石器 (2)	鑑定60号 (P2)	
P0535	G-13	土器類 (1)		
P0561	G-14	石器 (1)	鑑定49号 (P4)	
P0608	E-13	石器 (1)		
P0640	H-14	石器 (1)		
P0698	G-14	土製品 (1)		
P0726	G-15	石器 (1)		第207図456
P0737	F-13	石器 (1)	鑑定50号 (P11)	
P0759	E-14	滑石製二次加工品 (1)	鑑定47号 (P7)	第197図339
P0764	E-15	轆の口 (1)	鑑定46号 (P3)	
P0778	F-15	初製品磨製輪 (1)	鑑定45号 (P6)	第187図209
P0779	E-15	中世白磁 (1)、鉄滓 (4)、石器 (1)	鑑定45号 (P5)	
P0845		粘土塊 (2)、石 (1)		
P0854	E-15	土器類 (1)、轆の口 (1)		第179図91
P0856	F-15	磨製品 (1)、粘土塊 (1)	鑑定45号 (P9)	
P0858	F-15	中世白磁 (1)	鑑定45号 (P2)	第186図204
P0859	F-15	石器 (4)	鑑定45号 (P3)	
P0860	F-15	中世白磁 (1)、轆の口 (1)、磨製品 (3)、粘土塊 (1)、鉄滓 (4)、軽石 (1)	鑑定45号 (P10)	
P0881	D-22	粘土塊 (4)、石器 (1)		
P0885	D-22	土器類 (7)、石器 (1)		第179図89
P0886	D-22	土器類 (1)、鉄滓 (4)、石器 (2)	鑑定16号 (P4)	第177図67 第208図462
P0888	D-23	カムイヤキ (1)、鉄滓 (2)	鑑定16号 (P3)	第190図250
P0890	D-23	須恵器 (1)、滑石製石鏡 (1)、鉄滓 (1)		
P0901	D-23	滑石製石鏡 (8)	鑑定16号 (P2)	
P0904	C-23	古代相当磨製輪 (1)、布目瓦土器 (1)、初製品磨製輪 (1)、朝鮮系無釉陶器 (1)、磨製品 (1)、轆の口 (1)、鉄滓 (1)	鑑定15号 (P1)	第187図206 第202図408

第215表 ビット内出土遺物一覧表 (16)

PIED	グロウット	内容	鑑定	掲載No
P0907	D-23	土器類 (3)、轆の口 (2)	鑑定14号 (P5)	
P0910	D-23	土器類 (1)、滑石製石鏡 (1)、粘土塊 (1)	鑑定13号 (P8)	
P0912	D-23	石器 (1)		
P0913	D-23	土器類 (1)、滑石製石鏡 (3)、轆の口 (2)、粘土塊 (1)、鉄滓 (3)、石器 (4)、磨製 (1)、炭化物 (1)		第203図431
P0914	D-23	滑石製石鏡 (1)		
P0916	D-23	中世陶器 (1)、滑石製石鏡 (1)	鑑定13号 (P9)	第200図378
P0917	D-23	須恵器 (1)、粘土塊 (1)		
P0918	D-23	土器類 (1)		
P0919	D-23	滑石製石鏡 (1)、石器 (1)		
P0920	D-23	須恵器 (1)、中世白磁 (1)、カムイヤキ (1)、轆の口 (1)、石器 (2)	鑑定13号 (P4)	第186図190
P0921	D-23	土器類 (1)、中世白磁 (1)、滑石製石鏡 (4)、石器 (1)		
P0922	D-23	土器類 (1)		
P0924	D-23	土器類 (1)、滑石製石鏡 (1)、轆の口 (1)		
P0928	D-23	土器類 (1)、中世白磁 (1)、粘土塊 (1)、炭滓 (1)		
P0929	D-23	土器類 (2)、轆の口 (1)、石器 (1)		
P0930	D-23	土器類 (1)、中世白磁 (1)、カムイヤキ (1)、轆の口 (1)、石器 (2)	鑑定13号 (P10)	
P0932	D-23	土器類 (2)、滑石製石鏡 (1)、鉄滓 (1)、鉄滓 (1)、石器 (1)	鑑定13号 (P1)	
P0936	D-23	土器類 (1)	鑑定13号 (P3)	
P0937	D-24	須恵器 (1)、滑石製石鏡 (2)、鉄滓 (2)、石器 (1)、炭化物 (1)	鑑定13号 (P2)	
P0940	D-23	土器類 (1)、須恵器 (1)		第182図130
P0941	E-24	土器類 (1)、中世白磁 (1)、滑石製二次加工品 (1)		
P0943	E-24	滑石製石鏡 (2)、軽石 (1)		
P0944	E-24	中世白磁 (1)		第186図192
P0961	E-25	中世白磁 (1)、滑石製石鏡 (1)	鑑定11号 (P2)	第186図193
P0962	E-25	土器類 (2)		
P0967	E-24	須恵器 (1)、布目瓦土器 (1)		第185図160
P0971	F-25	滑石製石鏡 (1)	鑑定11号 (P8)	第194図303
P0981	D-23	須恵器 (2)		
P0982	D-23	轆の口 (1)、鉄滓 (1)		
P0983	D-23	粘土塊 (2)、石器 (2)		
P0985	D-23	土器類 (1)、滑石製土器 (1)、滑石製石鏡 (1)、鉄製品 (1)、軽石 (1)、石器 (1)		
P0987	D-23	中世白磁 (1)、鉄滓 (2)、石器 (4)	鑑定14号 (P8)	
P0988	D-23	轆の口 (1)		
P0996	C-23	カムイヤキ (1)		
P1000	C-22	石器 (1)		
P1005	E-24	石器 (1)	鑑定12号 (P3)	
P1053	F-15	滑石製石鏡 (1)	鑑定43号 (P7)	第194図301
P1074	E-16	石器 (1)		
P1085	D-16	轆の口 (1)	鑑定41号 (P4)	
P1167	D-17	中世白磁 (3)、轆の口 (4)、鉄滓 (5)、炭化物 (14)	鑑定41号 (P8)	第186図203
P1179	D-17	土器類 (2)、轆の口 (2)、鉄滓 (4)、石器 (6)	鑑定41号 (P3)	
P1214	D-17	土器類 (1)	鑑定41号 (P16)	
P1221	D-17	土器類 (1)	鑑定40号 (P1)	
P1237	G-16	轆の口 (1)	鑑定42号 (P11)	第203図429
P1240	G-16	中世白磁 (1)	鑑定42号 (P12)	第186図182
P1267	D-22	朝鮮系無釉陶器 (1)、カムイヤキ (1)、粘土塊 (1)	鑑定16号 (P6)	第191図286
P1295	H-20	滑石製石鏡 (1)		
P1296	H-20	中世白磁 (1)		第186図180
P1301	G-20	滑石製土器 (1)		
P1305	H-20	滑石製土器 (2)		第186図365
P1308	H-20	磨製品 (1)、鉄製品 (1)、滑石製二次加工品 (1)、粘土塊 (2)		第196図326
P1311	H-21	粘土塊 (1)、鉄滓 (1)		
P1312	H-21	土器類 (2)		
P1314	G-20	朝鮮系無釉陶器 (1)、中世陶器 (1)		
P1318	H-21	滑石製石鏡 (1)、石器 (2)	鑑定10号 (P10)	

第216表 ビット内出土遺物一覧表 (17)

PNo	グロッド	内容	層立	発掘No
P1321	G-21	滑石製石鏡 (1)	層立10号 (P6)	第1942305
P1325	G-21	粘土塊 (1)	層立10号 (P4)	
P1327	G-21	滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (1), 炭化物 (1)	層立10号 (P11)	第2012397
P1330	G-21	鉄製品 (1)		
P1333	H-20	滑石製石鏡 (1)		
P1337		カミイヤキ (1), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)		
P1339	I-20	粘土塊 (1)		
P1346	M-19	滑石器 (1)		第1832143
P1379	M-19	土器 (2)		
P1390		滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (25), 石鏡 (2)		
P1397	I-23	土器 (1)		
P1408	I-23	滑石製石鏡 (1)		
P1410	I-23	土器 (1)		
P1431	I-22	石鏡 (1)		
P1435	I-22	滑石製石鏡 (1)		
P1436	I-22	土器 (1)	層立3号 (P3)	
P1437	I-22	土器 (2)	層立3号 (P4)	
P1440	I-22	土器 (1)	層立3号 (P5)	
P1441	I-22	土器 (1)		
P1445	J-22	滑石器 (1)		第1802102
P1447	J-22	滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1)	第1952313, 第1972337	
P1452	J-22	土器 (1)	層立3号 (P10)	
P1462	J-21	土器 (1)	層立7号 (P8)	第1762777
P1464	J-21	滑石器 (1)	層立7号 (P7)	
P1466	J-22	土器 (1), 滑石製石鏡 (3), 炭化物 (4)	層立7号 (P6)	第1942306
P1474	J-22	土器 (3)	層立7号 (P5)	第176270
P1487	J-21	土器 (1)		
P1494	J-21	滑石製石鏡 (1), 石鏡 (1)		
P1500	J-21	土器 (1), 滑石製石鏡 (1)	層立7号 (P16)	
P1501	J-21	鉄滓 (1)		
P1506	J-21	石鏡 (1)		
P1507	J-21	土器 (1)		
P1515	J-21	中世白磁 (1)		
P1517	J-21	中世白磁 (1)		
P1520	J-21	鉄製品 (1)		第2012403
P1526	J-21	滑石製石鏡 (1)	層立7号 (P1)	
P1529	K-21	土器 (1), 粘土塊 (6)	層立8号 (P4)	
P1532	J-21	土器 (1), 滑石製石鏡 (2)	層立8号 (P1)	
P1533	J-21	滑石製土器 (2), 石鏡 (1)		第1902361
P1534	J-21	石鏡 (2)		
P1541	K-21	滑石製石鏡 (1)		
P1542	K-21	石鏡 (3)	層立6号 (P8)	
P1544	K-21	滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1)		第1902321
P1566	L-21	滑石製石鏡 (1)		
P1567	L-21	滑石製石鏡 (1)	層立4号 (P3)	
P1569	L-21	土器 (2), 粘土塊 (1)	層立4号 (P4)	
P1578	L-22	石鏡 (1)	層立4号 (P1)	
P1579	L-22	石鏡 (1)		
P1587	L-22	土器 (1)	層立4号 (P7)	第1792283
P1601	J-22	石鏡 (1), 五世陶磁器 (1)		
P1606	K-21	石鏡 (1)	層立6号 (P5)	
P1608	K-21	土器 (1)		
P1610	K-21	土器 (3), 滑石製石鏡 (1)	層立6号 (P6)	
P1612	K-21	粘土塊 (1), 石鏡 (3)		
P1620	K-21	滑石器 (1)		
P1625	K-22	土器 (2), 滑石器 (1), 粘土塊 (1)	層立6号 (P3)	第1802112
P1629	K-22	石鏡 (1), 自然燐 (1)		
		土器 (1), 朝鮮系赤陶器 (1), 滑石製二次加工品 (1), 滑石製石鏡 (1), 鉄滓 (1)	層立6号 (P14)	第1902315
P1659	L-22	滑石製石鏡 (1)	層立4号 (P2)	
P1661	K-22	中世白磁 (1), 炭化物 (2)		
P1678	J-22	土器 (1)		
P1682	J-22	土器 (3)		
P1690	J-23	土器 (1)		
P1697	J-23	石鏡 (1)	層立2号 (P3)	第2002445
P1727	J-23	石鏡 (1)	層立2号 (P12)	
P1732	J-22	土器 (8)		
P1747	K-23	土器 (2)	層立1号 (P7)	

第217表 ビット内出土遺物一覧表 (18)

PNo	グロッド	内容	層立	発掘No
P1760	I-23	土器 (2)		
P1765	K-24	土器 (1)	層立1号 (P5)	第179278
P1769	L-24	土器 (1)	層立1号 (P10)	
P1836		春日任康土器 (6), 鉄滓 (1), 炭化物 (2)	層立11号 (P4)	
P1841		滑石製石鏡 (1)		
P1856		鉄滓 (1)		
P1857		石鏡 (1)		
P1859		土器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
P1859		土器 (25)		第1792288
P1899	I-26	滑石器 (2)		
P1906	H-25	朝鮮系青磁 (1), カミイヤキ (4), 石鏡 (2)		
P1908	I-26	石鏡 (1)		
P1911		土器 (3)		第1932298
P1918		滑石製石鏡 (1)		
P1922		滑石製石鏡 (1)		
P1945	H-25	五世陶磁器 (1)		
P1975	H-25	土製品 (2), 伊壁? (4)		第2042441
P2022		土器 (1), 石鏡 (1)	層立13号 (P6)	
P2027		土器 (1), 滑石製二次加工品 (1)		第1962330
P2137	L-19	土器 (4), 粘土塊 (3)	層立22号 (P2)	
P2145	M-19	カミイヤキ (1)		
P2146	M-19	滑石製二次加工品 (1)		
P2147	M-18	中世白磁 (1), 石鏡 (1)		
P2152	M-18	土器 (4), 滑石器 (1), 中世白磁 (1), 粘土塊 (6), 鉄滓 (1)		第1822134
P2168	M-18	土器 (2), 春日任康土器 (1), 中世白磁 (2)		第1862181
P2170	M-19	滑石製土器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
P2181	M-19	土器 (1)		
P2194	N-18	カミイヤキ (1)		
P2195	N-18	鉄滓 (1)	層立21号 (P20)	
P2196	N-18	土器 (1), 粘土塊 (1)	層立21号 (P21)	
P2197	N-18	カミイヤキ (1), 粘土塊 (1)		
P2198	N-18	石鏡 (1)	層立21号 (P22)	
P2201	N-18	中世白磁 (1), カミイヤキ (1), 鉄滓 (2)		第1912276
P2202	N-18	粘土塊 (1), 石鏡 (1)	層立21号 (P23)	
P2211	N-18	土器 (1), 滑石製石鏡 (1), 石鏡 (1)		
P2218	N-18	鑊の頸口 (1)	層立21号 (P32)	第2032430
P2226	M-20	石鏡 (2)		
P2227		中世白磁 (1), カミイヤキ (1)		
P2229		石鏡 (1)		
P2231	O-18	カミイヤキ (1)		
P2241	O-18	滑石製石鏡 (1)		
P2244	O-18	石鏡 (1)	層立20号 (P7)	第2022460
P2247	O-18	粘土塊 (1)		
P2259	P-17	青島土器 (1), 土器 (1), 中世白磁 (1), 粘土塊 (2)	層立18号 (P4)	第1862201
P2261	O-18	滑石器 (1)		
P2269	O-18	滑石製石鏡 (1)	層立20号 (P2)	第1942302
P2279	P-18	土器 (1), 粘土塊 (1)	層立17号 (P1)	
P2302	N-18	粘土塊 (1)	層立21号 (P8)	
P2303	N-18	土器 (1), 粘土塊 (1)	層立21号 (P7)	
P2306	O-18	カミイヤキ (1), 鉄滓 (1), 土器 (3), 中世白磁 (1), 粘土塊 (1)	層立20号 (P3)	第1902256
P2316	L-20	土器 (3), 中世白磁 (1), カミイヤキ (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石鏡 (1)		第1862194, 第1902260
P2348		石鏡 (4)		
P2349	L-16	土器 (1)	層立36号 (P3)	
P2350		粘土塊 (17)		
P2353	I-24	土器 (2)		
P2372	K-24	土器 (12)	層立1号 (P4)	
P2651	N-18	カミイヤキ (1), 粘土塊 (3)	層立21号 (P2)	
P2652	N-18	土器 (1), 滑石器 (1), 粘土塊 (2), 石鏡 (1)		
P2685	N-18	土器 (1), 鉄滓 (1), カミイヤキ (1)	層立21号 (P4)	第1912275
P2690	N-18	石鏡 (1)	層立21号 (P28)	
P2691	N-18	土器 (2), 滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (1), 石鏡 (1)	層立21号 (P1)	第1952312
P2703	O-18	カミイヤキ (1)		
P2755	O-17	中世白磁 (1), カミイヤキ (1)	層立26号 (P6)	

第218表 ビット内出土遺物一覧表 (19)

PI&D	グロット	内容	鑑定	発掘No
P2762	O-18	土師器 (1), 粘土塊 (1)	鑑定20号 (P5)	第177図06
P2765	N-18	滑石製二次加工品 (1)	鑑定21号 (P27)	第197図345
P2767	N-19	粘土塊 (1)	鑑定21号 (P12)	
P0058	J-29	滑石製二次加工品 (1)		第196図324
P0072	H-30	布目瓦葺土器 (1)		第185図155
P0094	H-30	滑石製石鏡 (1)		第196図310
P0106	H-30	朝鮮系無釉陶器 (1), 中世陶器 (1)	鑑定101号 (P1)	第200図388
P0125	H-30	土師器 (1)	鑑定100号 (P10)	第178図71
P0141	H-30	カムイヤキ (1), 鉄滓 (1)		第191図274
P0166	G-30	石器 (1)		第207図457
P0174	G-29	中世陶器 (1), 土製品 (1)		第200図391
P0253		滑石製石鏡 (1)		
P0353	H-30	滑石製石鏡 (1)	鑑定99号 (P14)	第193図299
P0375	J-30	粘土塊 (24)		
P0414		石器 (1)		
P0452	E-26	中世白磁 (1), 粘土塊 (2), 石器 (3)		
P0456	E-26	土師器 (2), 粘土塊 (1)	鑑定113号 (P6)	
P0482	E-26	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
P0486	E-26	粘土塊 (3)		
P0491	E-27	土師器 (1), 石器 (1)		
P0500	E-27	粘土塊 (2)		
P0506	E-27	須磨器 (1), 粘土塊 (13)	鑑定111号 (P3)	
P0519	D-27	自然燻 (1)		
P0521	D-27	鉄滓 (1)		
P0524	D-27	土師器 (1), 石器 (1)		
P0530	D-27	カムイヤキ (1), 粘土塊 (1)	鑑定110号 (P6)	
P0537	D-27	自然燻 (1)	鑑定110号 (P8)	
P0542	C-27	自然燻 (2)		
P0543	C-27	カムイヤキ (1), 粘土塊 (9), 炭化物 (1)		
P0545	D-27	土師器 (1)		
P0547	C-27	粘土塊 (12)		
P0549	D-27	土師器 (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1)		
P0551	D-27	鉄滓 (2)		
P0553	D-27	粘土塊 (3)		
P0559	C-27	土師器 (1), 土製品 (1), 鉄滓 (1)		
P0566	D-27	土師器 (5)		
P0569	D-28	須磨器 (1)	第181図119	
P0574	E-28	粘土塊 (4)		
P0575	D-28	粘土塊 (10), 鉄滓 (1), 近世陶磁器 (1)		
P0576	C-27	土師器 (1), 粘土塊 (7)	第178図73	
P0577	C-27	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (2)	鑑定110号 (P4)	
P0579	C-27	土師器 (2), 粘土塊 (1), 鉄滓 (2)	鑑定110号 (P3)	
P0582	C-28	土師器 (3), 粘土塊 (2)	鑑定109号 (P5)	
P0588	C-28	石器 (1)	鑑定108号 (P9)	
P0601	D-29	土師器 (2), 中世白磁 (1)		
P0602	D-28	粘土塊 (1)		
P0609	D-29	炭化物 (1)		
P0610	D-29	石器 (1)		
P0611	D-29	土師器 (1)		
P0619	D-28	土師器 (1)		
P0626	E-26	滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1)		
P0630	D-27	石器 (2)		
P0631	D-28	鉄滓 (1)		
P0638	C-28	粘土塊 (5), 鉄滓 (2)		
P0644	C-28	鉄滓 (1)	鑑定108号 (P1)	
P0645	C-28	粘土塊 (2)		
P0646	C-28	土師器 (6), 粘土塊 (4), 土器 (1)	第177図69	
P0648	C-28	鉄製品 (1)		
P0650	C-28	粘土塊 (7)		
P0651	E-26	石器 (1)		
P0658	C-29	土製品 (1), 鉄製品 (1)	第201図402	
P0659	C-29	土師器 (6), 滑石製土器 (1), 石器 (1)		
P0660	C-29	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
P0663	D-29	石器 (1)		
P0664	D-29	土師器 (2)		
P0667	D-29	土師器 (3)		
P0668	D-29	土師器 (1)		

第219表 ビット内出土遺物一覧表 (20)

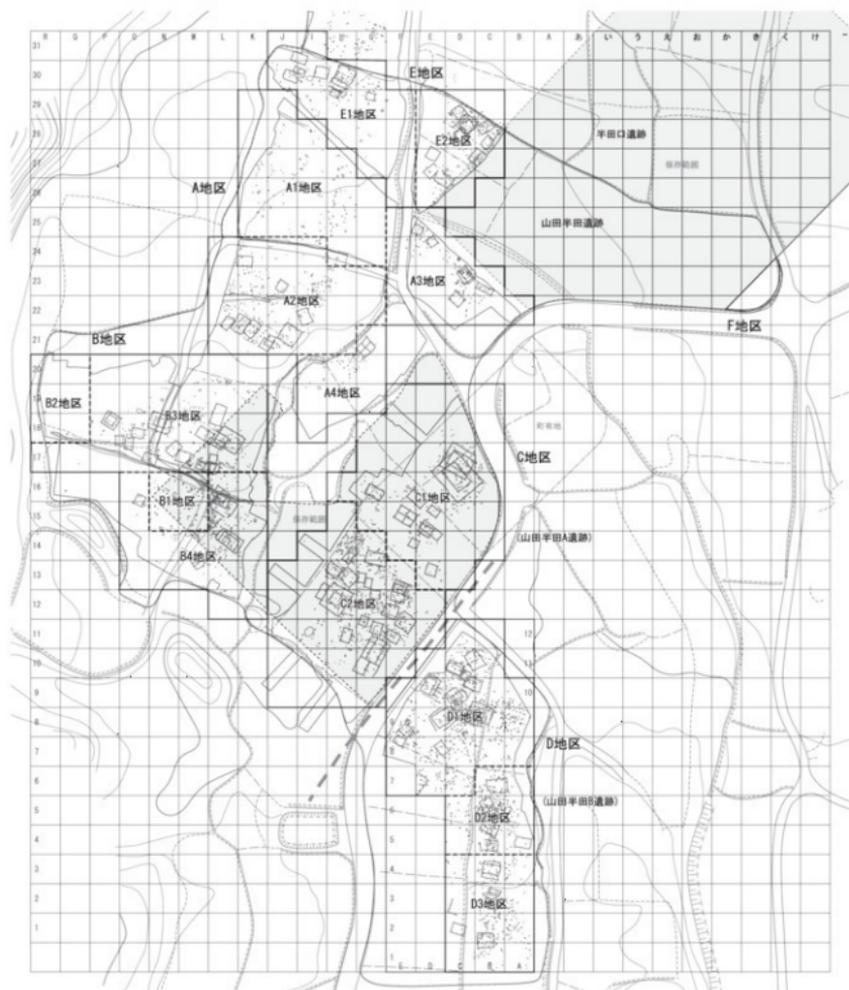
PI&D	グロット	内容	鑑定	発掘No
P0669	D-29	石器 (1)		
P0673	D-29	土師器 (4), 粘土塊 (1)	鑑定103号 (P8)	
P0675	D-29	土師器 (8)	鑑定103号 (P5)	
P0676	D-29	滑石製石鏡 (2), 鉄滓 (1), 自然燻 (1)		
P0683	D-29	土師器 (3)		
P0684	D-29	土師器 (2), 土製品 (1)		
P0686	D-29	土師器 (7), 布目瓦葺土器 (1), 粘土塊 (1)		
P0687	D-29	土師器 (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1)		
P0692	D-29	土師器 (7), 滑石製石鏡 (2), 鉄滓 (1)		
P0693		土師器 (3)		
P0694	D-29	土師器 (1)		
P0695	D-29	土師器 (1), 粘土塊 (1)	鑑定105号 (P1)	
P0698	D-28	土師器 (1), 粘土塊 (3), 石器 (1)		
P0705	D-29	土師器 (1)		
P0709	D-28	土師器 (1)		
P0710	D-28	土師器 (1), 中世陶器 (1)	鑑定104号 (P10)	
P0711	D-28	土師器 (4), 石器 (1)	鑑定105号 (P7)	
P0712	D-28	土師器 (1), 鉄滓 (4)		
P0713	D-28	土師器 (2)	鑑定103号 (P9)	
P0714		土師器 (1)		
P0719	D-28	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1), 滑石製二次加工品 (1), 粘土塊 (5), 硝石 (1)	鑑定105号 (P2)	
P0720	D-28	土師器 (1), 粘土塊 (3), 石器 (1)		
P0722	D-28	土師器 (1), 粘土塊 (1)	鑑定107号 (P1)	
P0724	D-28	土師器 (4), 滑石製土器 (1), 粘土塊 (6), 鉄滓 (3), 石器 (1)	鑑定106号 (P2)	
P0725	D-28	土師器 (1)		
P0727	D-28	土師器 (2), 粘土塊 (1)	鑑定104号 (P9)	
P0731	C-28	粘土塊 (1)	鑑定105号 (P3)	
P0732	C-28	土師器 (1)		第204図442
P0733	C-28	土師器 (1), 布目瓦葺土器 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (2)		
P0734	C-28	石器 (2)	鑑定108号 (P10)	
P0736	C-28	土師器 (2), 粘土塊 (2)		
P0737	C-28	鉄滓 (1)	鑑定108号 (P2)	
P0738	C-28	粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 石器 (1)		
P0739	C-28	土師器 (6), 滑石製石鏡 (1), 粘土塊 (5), 鉄滓 (1), 石器 (3)		
P0740	C-28	土師器 (1), 粘土塊 (2), 自然燻 (1)		
P0743	C-28	土師器 (1), 粘土塊 (3)		
P0744	C-28	土師器 (1), 鑛の口 (2)		
P0745	C-28	滑石製石鏡 (1)		
P0746	C-28	土師器 (2), カムイヤキ (1), 鑛の口 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1), 自然燻 (2)		
P0747	C-28	土師器 (1), 滑石製石鏡 (1)		
P0750	C-28	土師器 (1)		
P0751	C-28	土師器 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (2), 自然燻 (1)		
P0752	C-28	土師器 (7), 粘土塊 (1)		
P0753	C-28	土師器 (3)	鑑定108号 (P8)	
P0756	C-28	土師器 (4), 粘土塊 (3)		
P0757	C-28	中世白磁 (1), 石器 (1), 近世陶磁器 (1)	鑑定109号 (P1)	
P0762	C-28	石器 (1)		
P0763	C-28	土師器 (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1), 石器 (1)		
P0765	C-28	土師器 (3), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1)		
P0770	C-28	土師器 (3), 粘土塊 (3), 石器 (1)		
P0771	D-29	土師器 (2)	鑑定103号 (P2)	
P0772	D-28	土師器 (7), 土製品 (2), 鉄滓 (1)		
P0773	D-28	土師器 (4), 鉄滓 (1)		
P0778	C-28	土師器 (1), 切刷高麗青磁 (1)	第187図209	
P0782	C-28	土師器 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (8), 石器 (1)	鑑定108号 (P6)	

第220表 ビット内出土遺物一覧表 (21)

P&D	グリッド	内容	照立	発掘No
P0784	C-28	軽石 (2)		
P0785	C-28	鉄滓 (1)		
P0786		土師器 (1), 粘土塊 (2), 鉄滓 (1)		
P0788	D-28	土師器 (7), 須恵器 (1), 粘土塊 (5), 鉄滓 (1)	照立105号 (P4)	第180図110
P0789	D-28	土師器 (2), 滑石製石鍋 (1)		
P0790	D-28	土師器 (1), 滑石製石鍋 (1), 鉄滓 (2)	照立107号 (P2)	
P0791	D-28	土師器 (6), 滑石製土器 (2), 滑石製石鍋 (6), 滑石製二次加工品 (1), 土製品 (2), 粘土塊 (1)		第197図342
P0792	D-28	鉄滓 (1)		
P0799	D-28	粘土塊 (1), 鉄滓 (1)	照立104号 (P7)	
P0800	D-28	土師器 (5), 鑊の羽口 (1), 粘土塊 (1), 石器 (1)	照立106号 (P3)	
P0801	D-28	須恵器 (1), 滑石製土器 (2)	照立107号 (P3)	第180図109
P0802	D-28	土師器 (1), 粘土塊 (1)		
P0805	C-28	粘土塊 (5)	照立109号 (P7)	
P0807	C-28	石器 (1)	照立108号 (P4)	
P0811	C-29	布目瓦葺土器 (1), 粘土塊 (1), 鉄滓 (1)		

第221表 ビット内出土遺物一覧表 (22)

P&D	グリッド	内容	照立	発掘No
P0813	C-28	土師器 (2), 鑊の羽口 (1), 粘土塊 (2)		
P0815	D-29	炭化物 (1)		
P0816	D-28	石器 (1)	照立107号 (P5)	
P0818	D-29	石器 (1)	照立104号 (P2)	
P0826	C-28	粘土塊 (5)		
P0827	C-28	粘土塊 (1)		
P0829	D-29	粘土塊 (2), 軽石 (1)	照立104号 (P1)	
P0831	D-29	土師器 (1)	照立103号 (P10)	
P0833	D-28	石器 (1)		
P0834	D-28	鑊の羽口 (1)		
P0837	D-28	土師器 (2), 須恵器 (1)		
P0838		土師器 (1)		
P0839	D-28	土師器 (12), 鉄滓 (3), 軽石 (2)	照立106号 (P1)	
P0840	D-28	滑石製石鍋 (1), 鑊の羽口 (2), 粘土塊 (1)	照立107号 (P8)	
P0841	D-28	炭化物 (1)		
P0845	C-28	土師器 (1), 滑石製石鍋 (1)		
P0849	D-28	土師器 (1), 滑石製石鍋 (1), 遺物品 (1), 石器 (1)	照立107号 (P6)	
P0854	C-28	土師器 (2)		第179図91



第215图 山田平田遺跡地区细分图

第222表 A地区遺物組成表

フリット	地区	美色土器	土器類	遺物類	古代銅器類	古日江漆土器	青銅 (11 C / 12 C)	中世白銅	初期高麗青銅	中世陶器	朝鮮系陶器類	カムイヤキ	滑石製石鏡	滑石製土器	滑石製一次加工土品	滑石製土器	産物品	青銅 (13 C / )	土製品	金属製品	鉄製品	銅の屑口	伊賀?	粘土塊	磁器	硝石	石器	陶久式土器	縄文土器	合計
G25	A1											3																	3	
H24	A1		2																										2	
H25	A1		2	6		1		3	1	1		11		1				2				1	4	1				7	41	
H26	A1	1	5	9							4	3	1								2		1					6	32	
H27	A1		7								1	4	3									2					1	1	19	
I25	A1		1																										3	
I26	A1	4	2	1				4			2	4											2	2			7	1	29	
I27	A1	5	6	1	2			1	1		3	1	6									1					2	2	29	
I28	A1	1	1	1	1						1	1														2	3		10	
J26	A1												1																1	
J29	A1																							24					24	
K25	A1		1																										1	
A1地区小計		1	28	24	2	4	0	8	2	1	11	22	16	1	0	0	0	2	0	0	0	6	4	28	2	2	28	2	0	194
A1地区組成比率		0.5%	14.4%	12.4%	1.0%	2.1%	0.0%	4.1%	1.0%	0.5%	5.7%	11.3%	8.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	3.1%	2.1%	14.4%	1.0%	1.0%	14.4%	1.0%	0.0%	0.0%	
H21	A2		2									1									1		1	1		2		8		
H22	A2																							17					17	
H23	A2												1											25			2		28	
I21	A2		1																										1	
I22	A2	1	8	4				1				16	1								1	1		2	9			44		
I23	A2		1				1	1			2	4	1														2	12		
I21	A2	9	1					2				7		2							1				1		5	28		
I22	A2	16	1					3				1	2	1								1					4	29		
I23	A2		1																										3	
K21	A2	5	1				1					2	5										7	1		1	9	31		
K22	A2	3	2					1				1	1											1		2		11		
K23	A2		4																										5	
K24	A2		14																										14	
L21	A2		2									2												1					5	
L22	A2		1	2								2	1														1	1	8	
L23	A2																												1	
L24	A2		1																										1	
A2地区小計		1	68	11	0	0	2	8	0	0	3	25	22	1	2	0	0	0	0	0	1	2	2	0	51	6	2	39	0	246
A2地区組成比率		0.4%	27.6%	4.5%	0.0%	0.0%	0.8%	3.3%	0.0%	0.0%	1.2%	10.2%	8.9%	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	20.7%	2.4%	0.8%	15.9%	0.0%	0.0%	0.0%
C22	A3																												1	
C23	A3		26		1	1						1	1										1						34	
D22	A3		9									1													5	4			24	
D23	A3		21	8				5		2		4	26		1							1	10		8	12	1	22	121	
D24	A3											1																	1	
E24	A3		1	1	1		2					2															1	1	9	
E25	A3		2			6	1					2	1												1				13	
A3地区小計		0	59	9	1	8	0	8	0	2	2	5	31	2	1	1	0	0	0	1	11	0	13	18	2	29	0	203		
A3地区組成比率		0.0%	29.1%	4.4%	0.5%	3.9%	0.0%	3.9%	0.0%	1.0%	1.0%	2.3%	15.3%	1.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	5.4%	5.0%	6.4%	8.9%	1.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
G20	A4																												4	
G21	A4		2					2	1			1	4	1	1								1	1	1		3		18	
H20	A4											4	1	2	1							1		3					13	
I18	A4																												1	
I19	A4																													4
A4地区小計		0	0	2	0	0	0	3	1	1	1	2	9	2	5	1	0	0	0	1	1	0	7	1	0	3	0	0	40	
A4地区組成比率		0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%	2.9%	2.5%	2.5%	5.0%	22.5%	5.0%	12.5%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	2.5%	0.0%	17.5%	2.5%	0.0%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
A地区合計		2	156	46	3	12	2	27	3	4	17	54	78	6	8	2	0	2	1	4	20	4	99	27	6	99	2	0	683	
A地区組成比率		0.3%	22.7%	6.7%	0.4%	1.8%	0.3%	4.0%	0.4%	0.6%	2.5%	7.9%	11.4%	0.9%	1.2%	0.3%	0.0%	0.3%	0.1%	0.6%	2.9%	2.6%	14.5%	4.0%	2.9%	14.5%	0.3%	0.0%	0.0%	

第223表 B地区遺物相成表

グ リ ド	地 区	黒 色 土 器	土 師 器	須 磨 器	古 代 相 出 陶 器 類	新 日 石 器 土 器	青 磁 （ 11 C / 12 C ）	中 世 白 磁	中 世 高 麗 青 磁	朝 鮮 系 陶 器 類	カ ム イ ヤ キ	滑 石 製 土 器	滑 石 製 一 次 加 工 品	滑 石 製 人 土 器	産 物 品	青 磁 （ 13 C / ）	土 製 品	金 属 製 品	織 物 品	銅 の 器 皿	伊 賀 ？	粘 土 塊	鉄 滓	砥 石	骨 器 土 器	素 久 火 土 器	縄 文 土 器	合 計
M15	B1	13		1	1		8		1	1	12	5	2	6							2	1	5		7		1	66
M16	B1	6										4											1		2			13
N15	B1	2																										3
N16	B1	6																				3				1		13
B1地区小計	0	27	0	1	1	0	8	0	1	1	12	9	2	6	0	0	0	0	0	2	1	9	0	0	10	0	5	95
B1地区構成比率	0.0%	28.4%	0.0%	1.1%	1.1%	0.0%	8.4%	0.0%	1.1%	1.1%	12.6%	9.5%	2.1%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.1%	9.5%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	
R18	B2	1					1				1	4																9
R20	B2						3				3	3											2	3		6		21
B2地区小計	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	4	7	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	3	0	7	0	30
B2地区構成比率	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%	23.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	6.7%	10.0%	0.0%	23.3%	0.0%	0.0%	
L17	B3										1																	2
L19	B3	4																					3					7
L20	B3	3					1																6	1				12
M17	B3	19	5				2			1	1						1						2	1	1	4		37
M18	B3	6	1				4																6	1		1		19
M19	B3	5	1								1	1	1	1														10
M20	B3	1																							2			3
N17	B3	28	4				4		1	5	5									1	1		6	1	14		70	
N18	B3	6	1				1				5	1	2							1	1		10	2		6		35
N19	B3	1																					1					2
O17	B3		2				1				1	2											1					7
O18	B3	1	2								2	2																11
P17	B3	1					1																					2
P18	B3																							3				3
B3地区小計	1	74	16	0	0	0	15	0	1	6	17	6	3	1	0	0	1	0	1	2	0	41	4	5	26	0	0	220
B3地区構成比率	0.5%	33.6%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%	0.0%	0.5%	2.7%	7.7%	2.7%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.9%	0.0%	18.6%	1.8%	2.3%	11.8%	0.0%	0.0%	
L14	B4						2			1	4	1		1														10
L15	B4	8	3				1			2	2	2	1										2	1	2			24
L16	B4	1								2																4		7
M13	B4						2				2	2	1												1	5		13
M14	B4	18	3				12	1	1	5	26	9	12							1		7	2	21	1		119	
N13	B4	1																					1					1
N14	B4	1																										1
B4地区小計	0	29	6	0	0	0	17	1	1	8	36	14	1	14	0	0	0	0	0	1	0	10	3	3	30	1	0	175
B4地区構成比率	0.0%	16.6%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	0.6%	0.6%	4.6%	20.4%	8.0%	0.6%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	5.7%	1.3%	1.7%	17.1%	0.6%	0.0%	
B地区合計	1	130	23	1	1	0	44	1	3	19	72	29	6	21	1	0	1	0	1	6	1	62	10	8	73	1	5	520
B地区構成比率	0.2%	25.0%	4.4%	0.2%	0.2%	0.0%	8.6%	0.2%	0.6%	3.7%	13.8%	5.6%	1.2%	4.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	1.2%	0.2%	11.9%	1.9%	1.5%	14.0%	0.2%	1.0%	

第224表 C地区遺物相成表

グ リ ド	地 区	黒 色 土 器	土 師 器	須 磨 器	古 代 相 出 陶 器 類	新 日 石 器 土 器	青 磁 （ 11 C / 12 C ）	中 世 白 磁	中 世 高 麗 青 磁	朝 鮮 系 陶 器 類	カ ム イ ヤ キ	滑 石 製 土 器	滑 石 製 一 次 加 工 品	滑 石 製 人 土 器	産 物 品	青 磁 （ 13 C / ）	土 製 品	金 属 製 品	織 物 品	銅 の 器 皿	伊 賀 ？	粘 土 塊	鉄 滓	砥 石	骨 器 土 器	素 久 火 土 器	縄 文 土 器	合 計	
D16	C1																												1
D17	C1	4					2																						27
D18	C1	1																											1
E13	C1																												1
E14	C1													1															1
E15	C1						1																	2		4	2		9
F14	C1										1															3			4
F15	C1						2	1		1	1				4									1		4		14	
F16	C1						4		1		1																	6	
G15	C1																										1		1
G16	C1						1																		1				2
C1地区小計	0	5	0	0	0	0	10	1	1	0	3	1	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	13	0	17	0	0	67	
C1地区構成比率	0.0%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.9%	1.5%	1.5%	0.0%	4.5%	1.5%	1.5%	0.0%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.4%	0.0%	19.4%	0.0%	25.4%	0.0%	0.0%		
F11	C2						9																	2					12
F12	C2																								1				3
G11	C2						2	1																1				3	
G12	C2						5		1															2				5	
G12	C2						2																		2			4	
G14	C2						1																		2			4	
H10	C2						2																					8	
H11	C2																									1		1	
H12	C2						10																	10	1		6		28
H13	C2											1																	1
H14	C2																												1
H11	C2																									2			2
C2地区小計	0	31	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	17	3	2	19	1	0	78	
C2地区構成比率	0.0%	39.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.8%	3.8%	2.6%	24.4%	1.3%	0.0%		
C地区合計	0	36	1	0	0	0	11	1	1	0	3	2	1	0	4	0	2	0	0	0	1	0	18	16	2	36	1	0	145
C地区構成比率	0.0%	24.8%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%	0.7%	0.7%	0.0%	2.1%	1.4%	0.7%	0.0%	2.8%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	12.4%	11.0%	1.4%	24.8%	0.7%	0.0%		

第225表 D地区遺物組成表

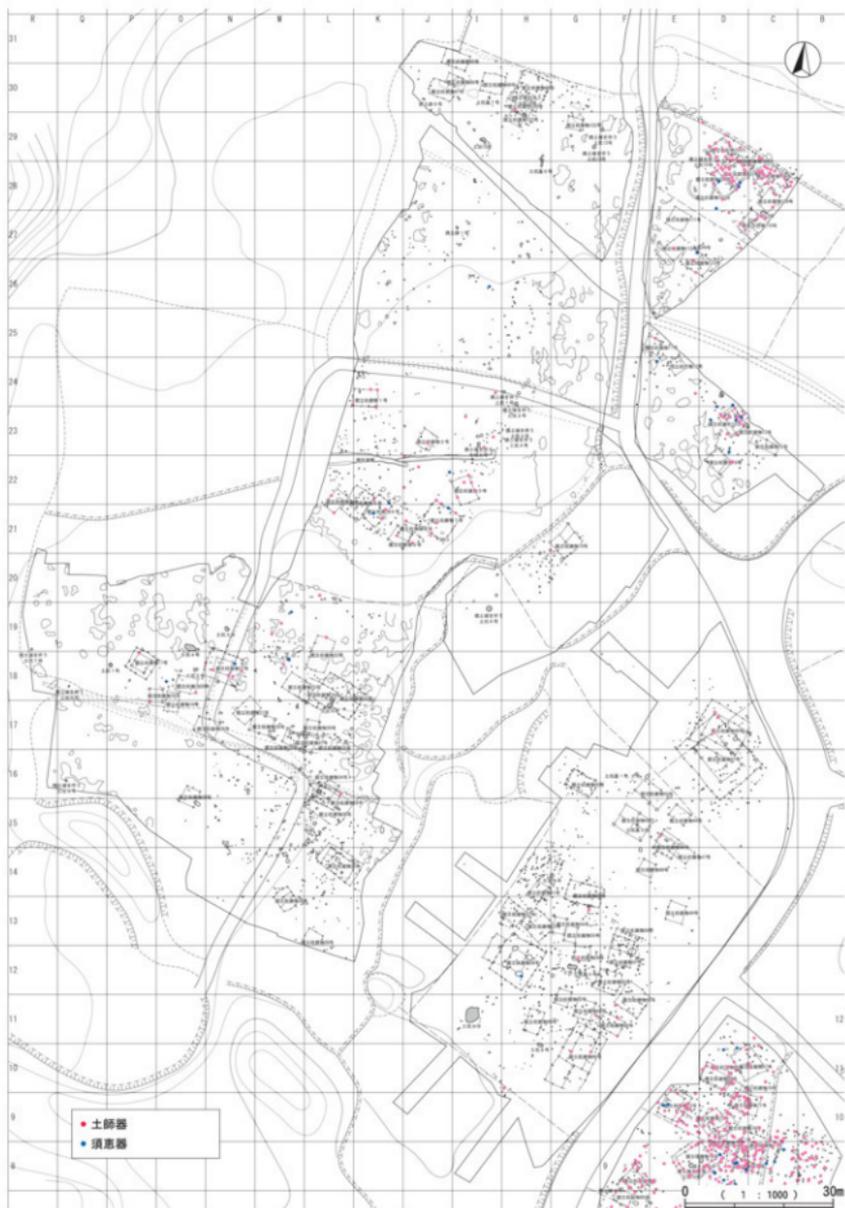
フリット	地区	美色土器	土器器	須器器	古代相当地器類	古代相当地器類	青磁(11C/12C)	中世白磁	初期高麗青磁	中世陶器	朝鮮系青磁陶器	カミヤキ	漆石製石鏡	漆石製一次加工品	漆石製人土器	産物品	青磁(13C)	金属製品	鉄製品	銅の器(口)	伊豆?	鉛土塊	磁石	石器	奥久土器	縄文土器	合計		
A08	D1	3	1						1	1	1											2				8			
A09	D1	25			1		1					1	4								1	24	4	3	1	65			
A10	D1	1										2	1									3		1	1	10			
B08	D1	20	4				1				1	3	6									11	5	1	8	59			
B09	D1	142	6							1	1	18	2			1						49	8	1	13	245			
B10	D1	22								1	1	2									3	11		5	43				
B11	D1	13	1	1							2	5	3									6	2	1		34			
B12	D1	1																								1			
C07	D1	14	1							1	1	1	2								2	3	4	1		30			
C08	D1	25	1	1													1				1	44	3	2	11	102			
C09	D1	232	7	1	23		3			2	3	1	33	3	2					1	2	51	4	8	29	405			
C10	D1	3	114							1	1	1	8	2						1	1	67	4	7	8	219			
C11	D1	31	2				1				1	5	15							1	3	46	5	6		116			
C12	D1												2									2	1	1	3	9			
D07	D1	16								1		1									1	6	1	1	5	32			
D08	D1	56	7		1		2				1	4				1						22	7	1	9	111			
D09	D1	27					1					3	1								1	7	2	3	2	47			
D10	D1	82	2		1		1					3									1	25		9		124			
E08	D1	11					1					1										7		3		23			
E09	D1	42										2										14	1	3		62			
E10	D1	9										1														10			
D1地区小計		3	886	33	2	29	1	10	0	9	10	20	121	9	3	0	2	2	0	2	13	3	396	53	30	115	1	0	1755
D1地区組成比率		0.2%	50.5%	1.9%	0.1%	1.7%	0.1%	0.6%	0.0%	0.5%	0.6%	1.1%	6.9%	0.6%	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	0.2%	22.7%	3.0%	1.7%	6.8%	0.1%	0.0%	
A05	D2	11					1					1									2	15	3	3		45			
A06	D2	7	3								1	7	3	1								4	2	9	3		40		
A07	D2	2									1	1										2	3	5		14			
B05	D2	1	75	15							2	4	25	7	3						2	1	12	7	73	59	4	40	335
B06	D2	158	14		3	2	16			1	12	25	70	5	6		1	3		3	32	162	56	9	92	670			
B07	D2	2	22								1	1	7	1	1							3	23	15	6	16	97		
C05	D2	3	1																			2		1		8			
C06	D2	8			3		1			1		2										9	7	4		35			
C05	D2	1																								1			
D2地区小計		3	287	33	0	6	2	23	0	2	17	38	108	14	19	0	1	5	0	4	56	7	289	154	23	155	0	0	1245
D2地区組成比率		0.2%	23.1%	2.7%	0.0%	0.5%	0.2%	1.8%	0.0%	0.2%	1.4%	3.1%	8.7%	1.1%	1.5%	0.0%	0.1%	0.4%	0.0%	0.3%	4.4%	0.6%	23.2%	12.4%	1.8%	12.4%	0.0%	0.0%	
A01	D3											2	1									3	1			2	16		
A02	D3	1	12		1		2					5	3		1	3						2	27	4		3	61		
A03	D3	5										2	2										4	1			14		
A04	D3	1	4	1								4	2										8	1	1		22		
B01	D3	41	3							1	1	1	1									15	1	7		71			
B02	D3	1	35	2				2			2	12	1	5								43	18	6	1	20	148		
B03	D3	1	44	4		1	6				2	5	26	3	3	1					2	39	33	16	3	17	206		
B04	D3	1	63	4		13	1			1	2	1	14	5	3						6	28	5	2	21	173			
C01	D3	1																									5		
C02	D3	2	1																			2				2	7		
C03	D3	1										3															7		
C04	D3	6										1	1									1	1				10		
D01	D3	1																									1		
D03	D3																					1			1		2		
D04	D3	4																					1				5		
D3地区小計		5	219	15	1	16	0	11	0	2	4	18	67	10	16	4	0	3	0	0	13	82	140	37	6	79	0	0	748
D3地区組成比率		0.7%	29.3%	2.0%	0.1%	2.1%	0.0%	1.5%	0.0%	0.3%	0.5%	2.4%	9.0%	1.3%	2.1%	0.5%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.7%	11.0%	18.7%	4.9%	0.8%	10.6%	0.0%	0.0%	
D地区合計		8	506	48	1	22	2	34	0	4	21	56	175	24	35	4	1	8	0	4	68	89	429	191	29	234	0	0	1993
D地区組成比率		0.4%	25.4%	2.4%	0.1%	1.1%	0.1%	1.7%	0.0%	0.2%	1.1%	2.8%	8.8%	1.2%	1.8%	0.2%	0.1%	0.4%	0.0%	0.2%	3.4%	4.9%	21.5%	9.6%	1.9%	11.7%	0.0%	0.0%	

第226表 E地区遺物組成表

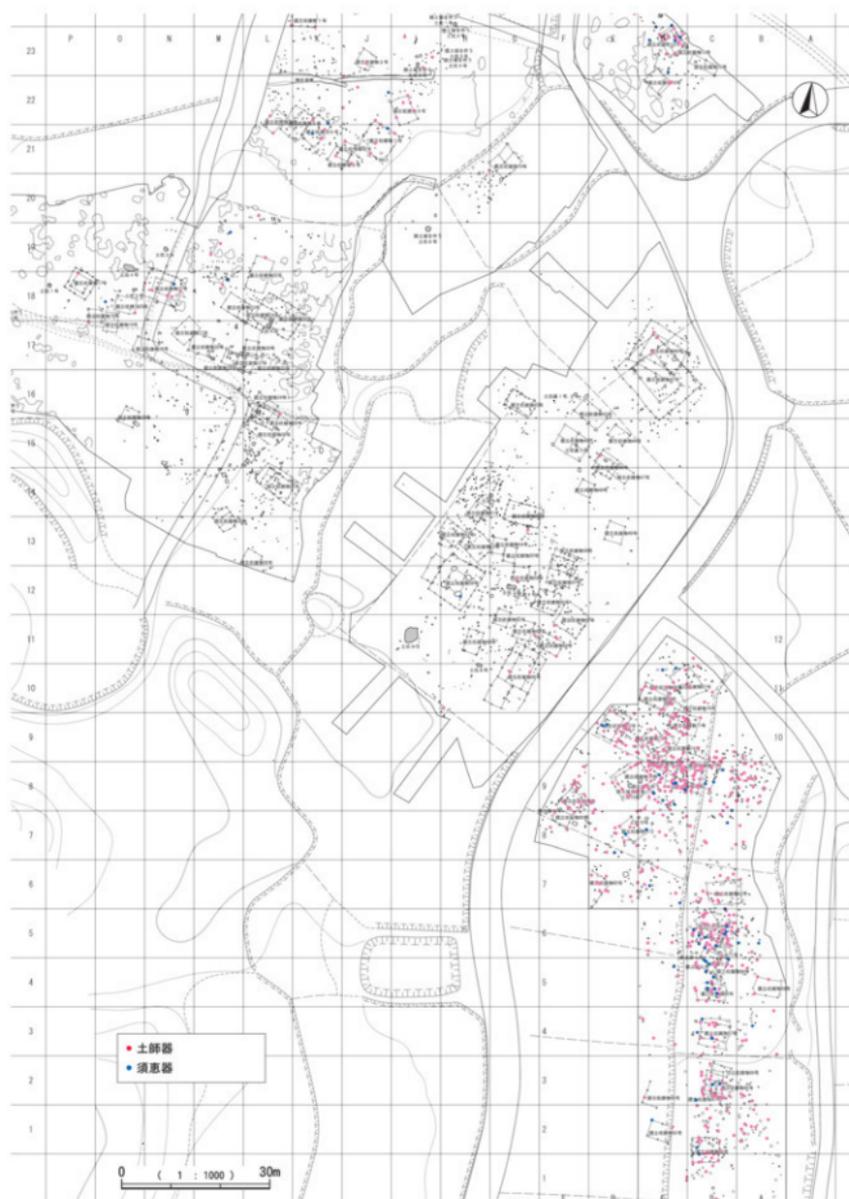
グリッド	地区	黒色土器	土器器	須恵器	古代相当磁器類	赤良庄硬土器	青磁(11C/12C)	中野白磁	初期高麗青磁	中世陶器	朝鮮系無釉陶器	カムイヤキ	滑石製石鏡	滑石製二次加工品	滑石製入土器	産物品	青磁(13C/)	土製品	金属製品	鉄製の器口	銅製の器口	戸壁?	粘土塊	鉄滓	砥石	石	素久式土器	縄文土器	合計
G29	E1																1											1	
G30	E1																								1			1	
H28	E1		2		1						1	1	2											1				4	
H30	E1	1																										6	
I29	E1				1								1												1			2	
E1地区小計		0	3	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	14	
E1地区組成比率		0.0%	21.4%	0.0%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	
C27	E2		8									1	1										33	3	2			49	
C28	E2		84	12		5	2	10		3	3	10	14	1	2			1		1	4		75	42	5	20		294	
C29	E2		3	3		1	2			1		2	1				1	1		2			13	2		1		33	
D26	E2		2																				1					4	
D27	E2		13									1	2								1		8	6	4			35	
D28	E2		76	14			3		1	6	13	3	6	1			4			4		45	24	3	10			213	
D29	E2		49	1		1	1	2			5	4					1					6	4	1	4			79	
E26	E2		2									1										6			2			11	
E27	E2		1	1																		15						18	
E28	E2																					4						4	
E29	E2		4	8				7				6	7	1						1			2	2	4			40	
F26	E2						1																	2	3			6	
E2地区小計		0	242	39	0	7	3	25	0	5	3	31	43	5	8	1	1	8	0	4	9	0	208	83	9	52	0	786	
E2地区組成比率		0.0%	30.8%	5.0%	0.9%	0.9%	0.4%	3.2%	0.0%	0.6%	0.4%	3.9%	5.3%	0.6%	1.0%	0.1%	0.1%	1.0%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	26.5%	10.6%	1.1%	6.6%	0.0%	0.0%	
E地区小計		0	245	39	1	8	3	25	0	5	4	32	45	6	8	1	1	9	0	4	9	0	208	84	9	54	0	800	
E地区組成比率		0.0%	30.6%	4.9%	0.1%	1.0%	0.4%	3.1%	0.0%	0.6%	0.5%	4.0%	5.6%	0.8%	1.0%	0.1%	0.1%	1.1%	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	26.0%	10.6%	1.1%	6.8%	0.0%	0.0%	

第227表 F地区遺物組成表

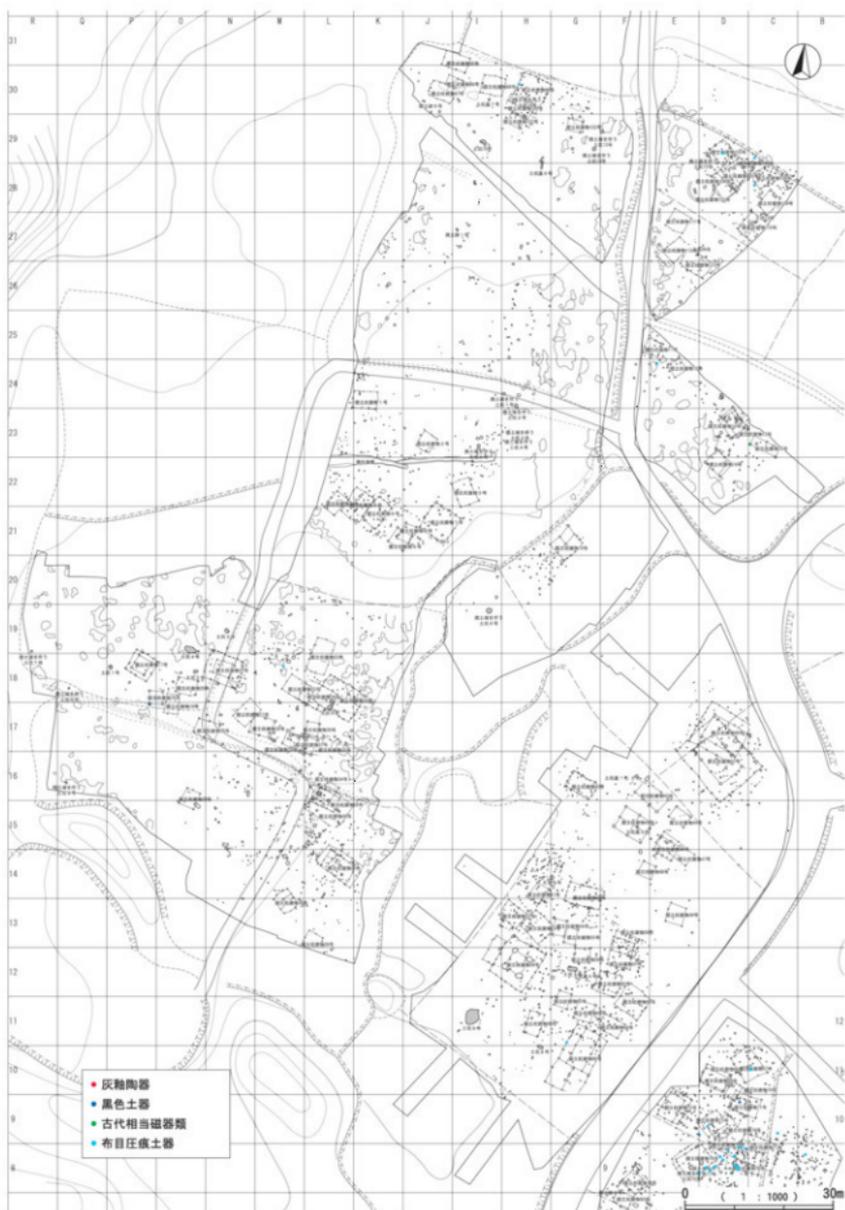
グリッド	地区	黒色土器	土器器	須恵器	古代相当磁器類	赤良庄硬土器	青磁(11C/12C)	中野白磁	初期高麗青磁	中世陶器	朝鮮系無釉陶器	カムイヤキ	滑石製石鏡	滑石製二次加工品	滑石製入土器	産物品	青磁(13C/)	土製品	金属製品	鉄製の器口	銅製の器口	戸壁?	粘土塊	鉄滓	砥石	石	素久式土器	縄文土器	合計
F地区小計		3	32	49	7	0	0	58	3	9	15	110	30	1	0	0	7	1	2	1	20	0	11	32	0	118	0	0	509
F地区組成比率		0.6%	6.3%	9.8%	1.4%	0.0%	0.0%	11.4%	0.6%	1.8%	2.9%	21.6%	5.9%	0.2%	0.0%	0.0%	1.4%	0.2%	0.4%	0.2%	3.9%	0.0%	2.2%	6.3%	0.0%	23.2%	0.0%	0.0%	



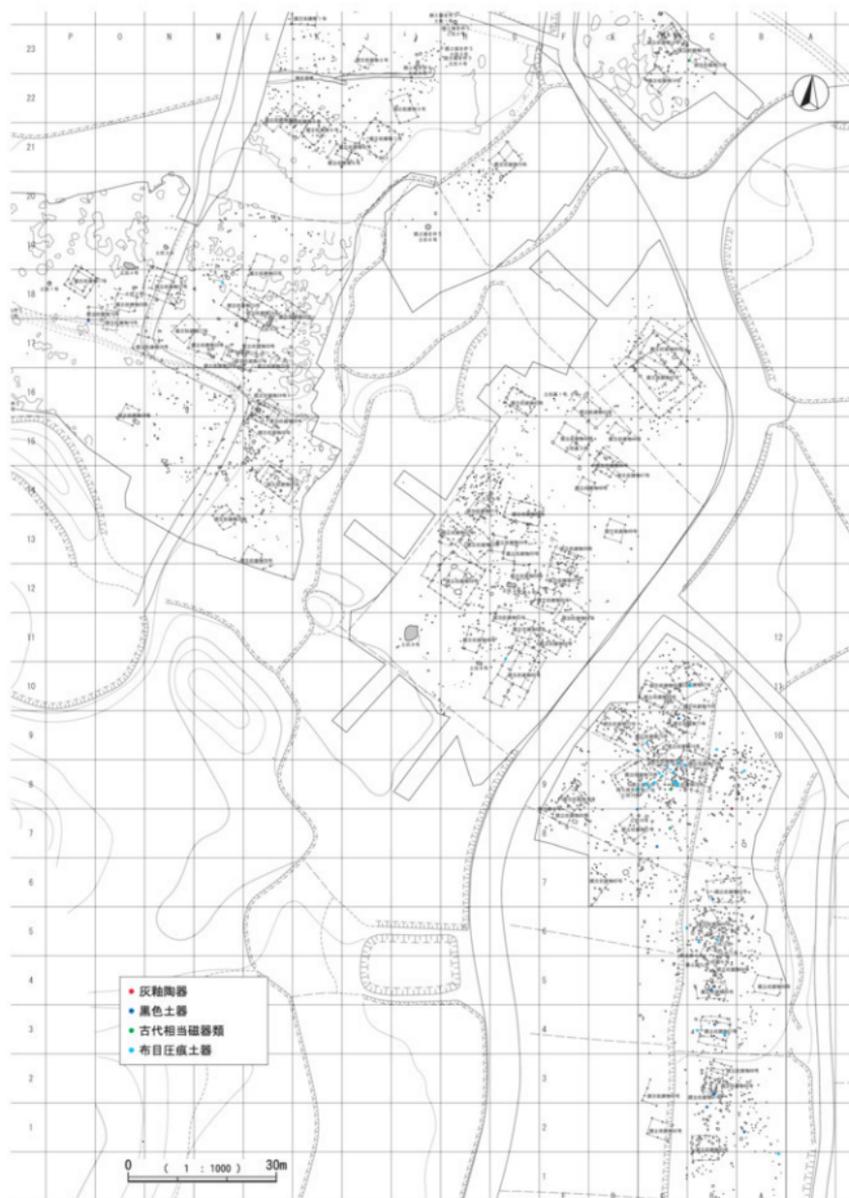
第216図 ビット内遺物出土状況図(1)



第217図 ビット内遺物出土状況図(2)



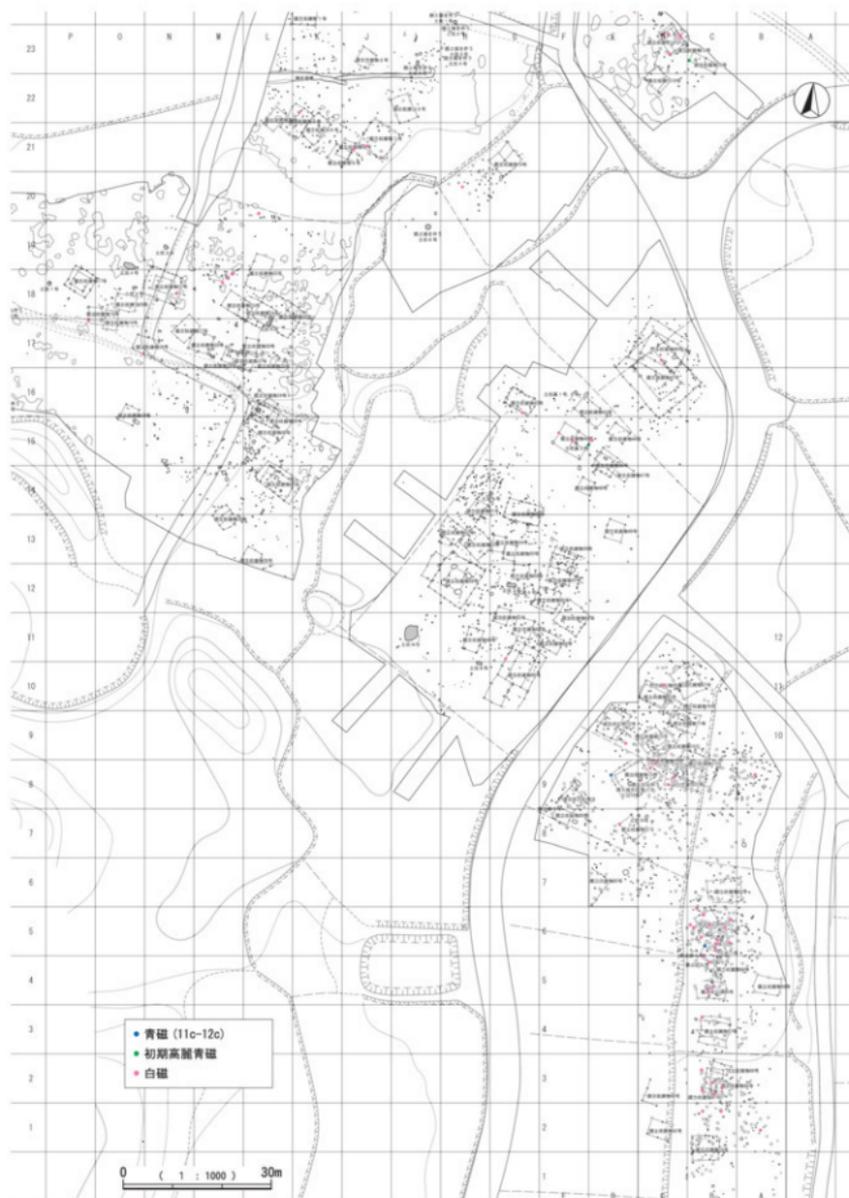
第218図 ビット内遺物出土状況図(3)



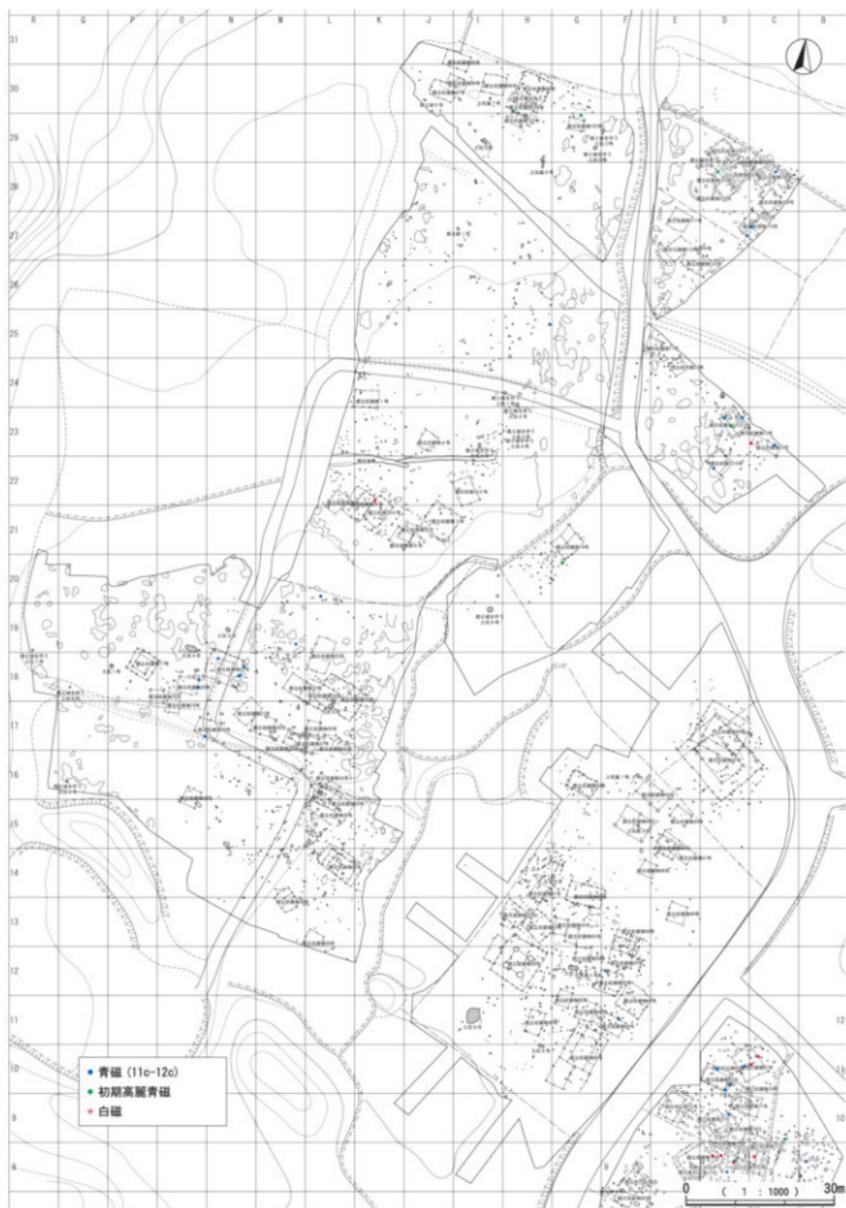
第219図 ビット内遺物出土状況図(4)



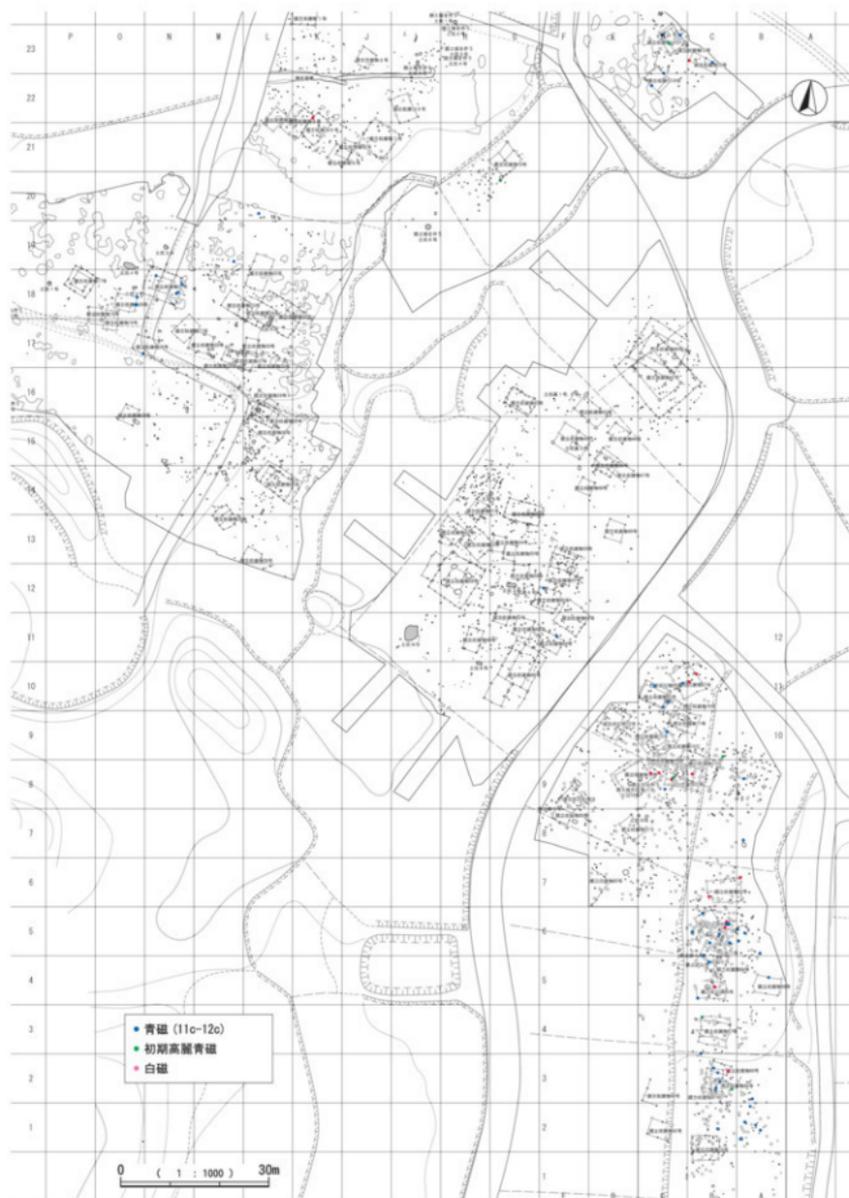
第220図 ビット内遺物出土状況図 (5)



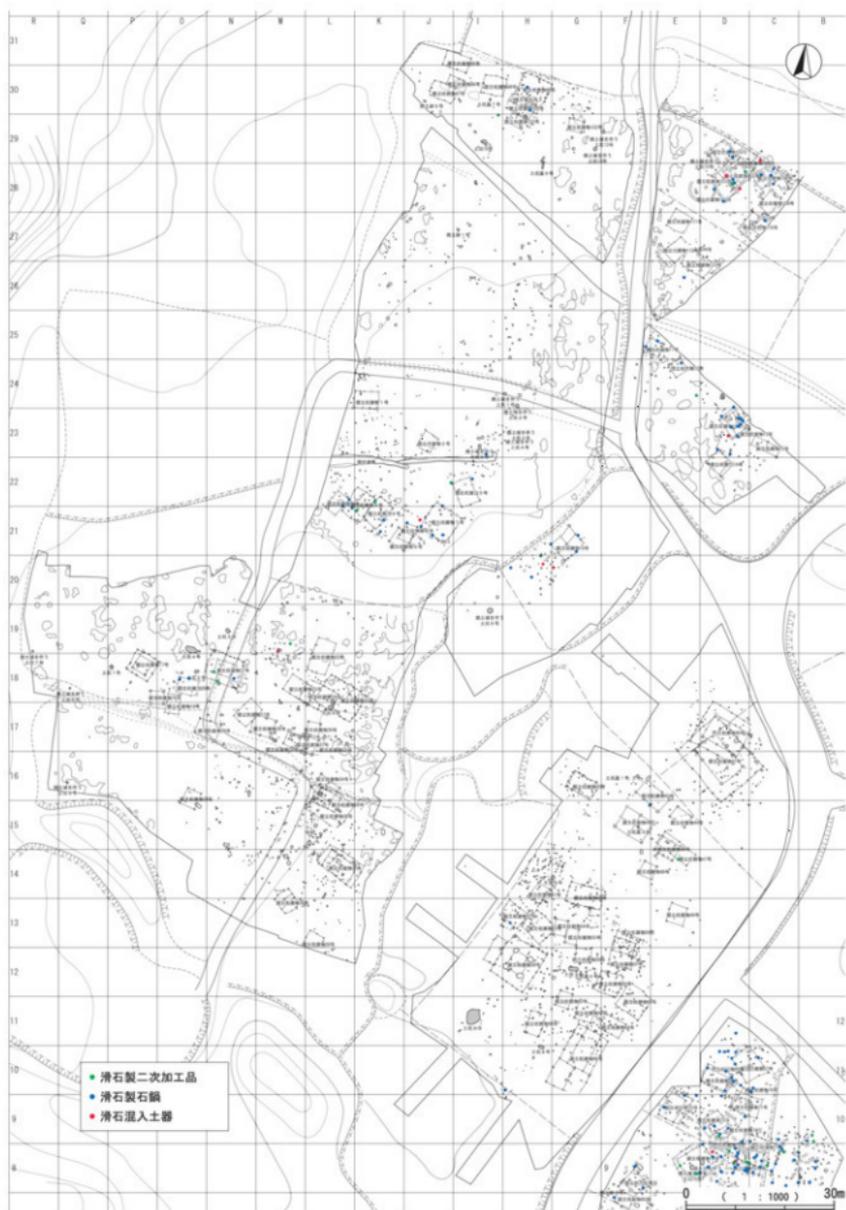
第221図 ビット内遺物出土状況図 (6)



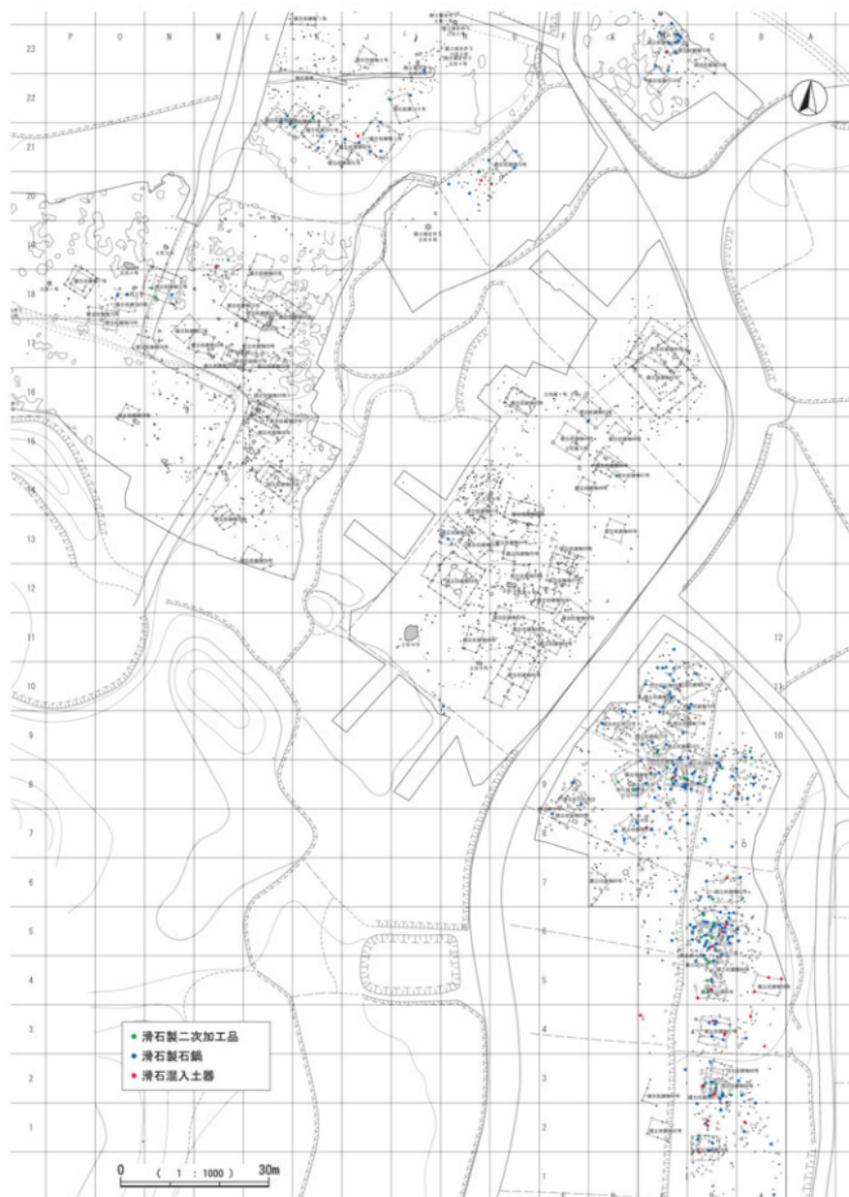
第222図 ビット内遺物出土状況図 (7)



第223図 ビット内遺物出土状況図(8)



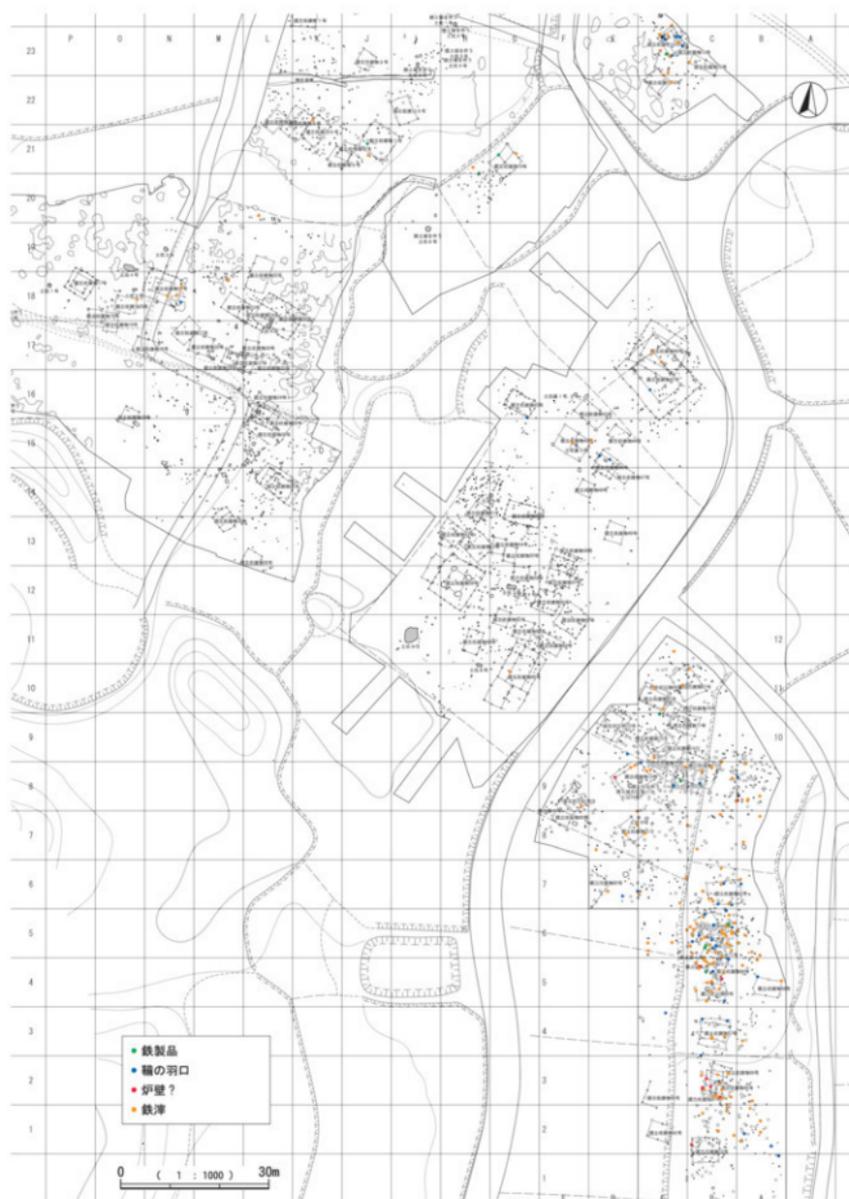
第224図 ビット内遺物出土状況図(9)



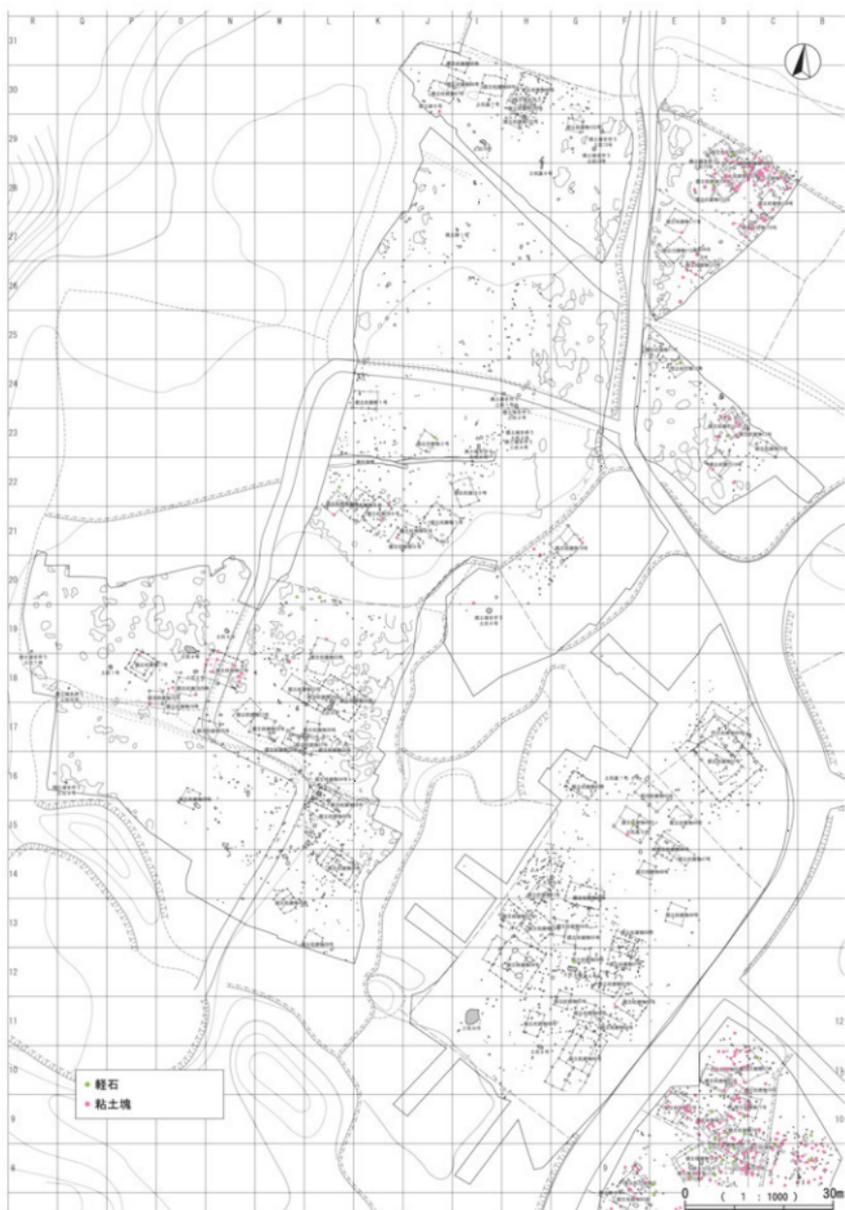
第225図 ビット内遺物出土状況 (10)



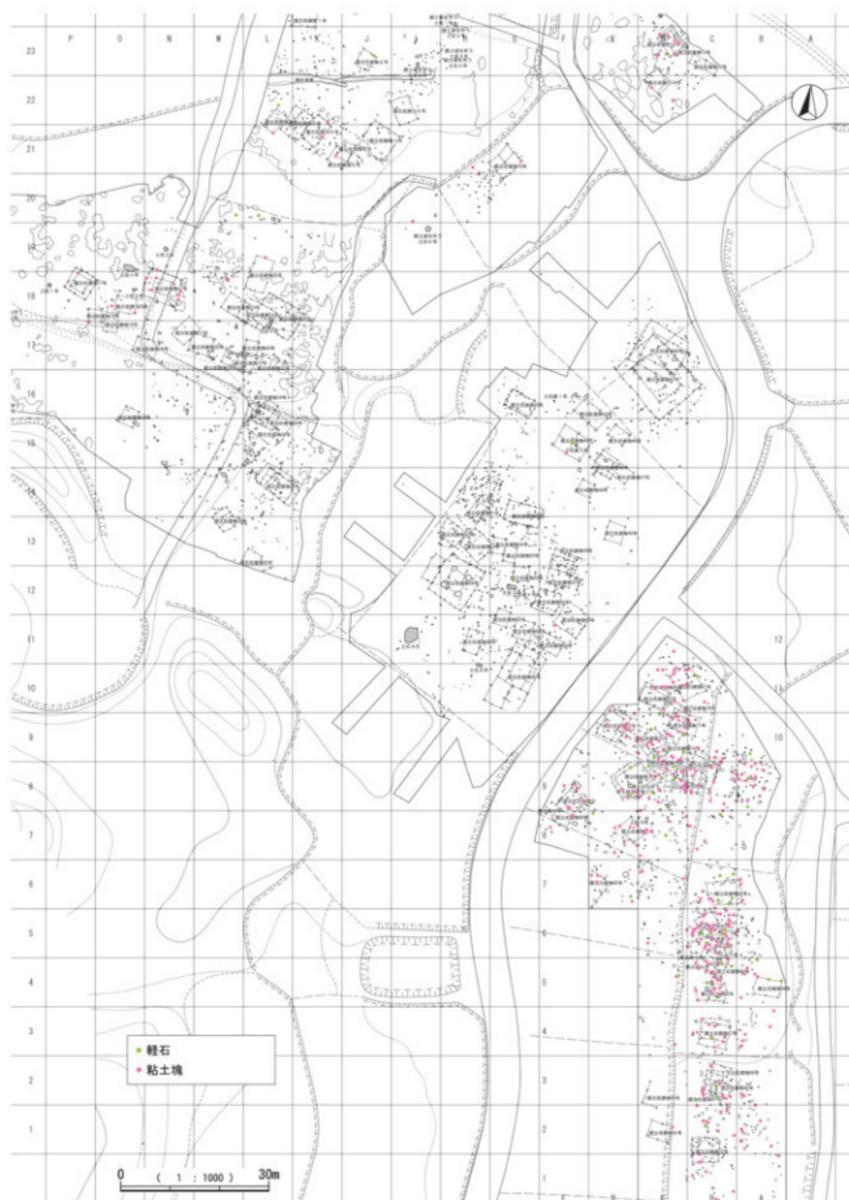
第226図 ビット内遺物出土状況図(11)



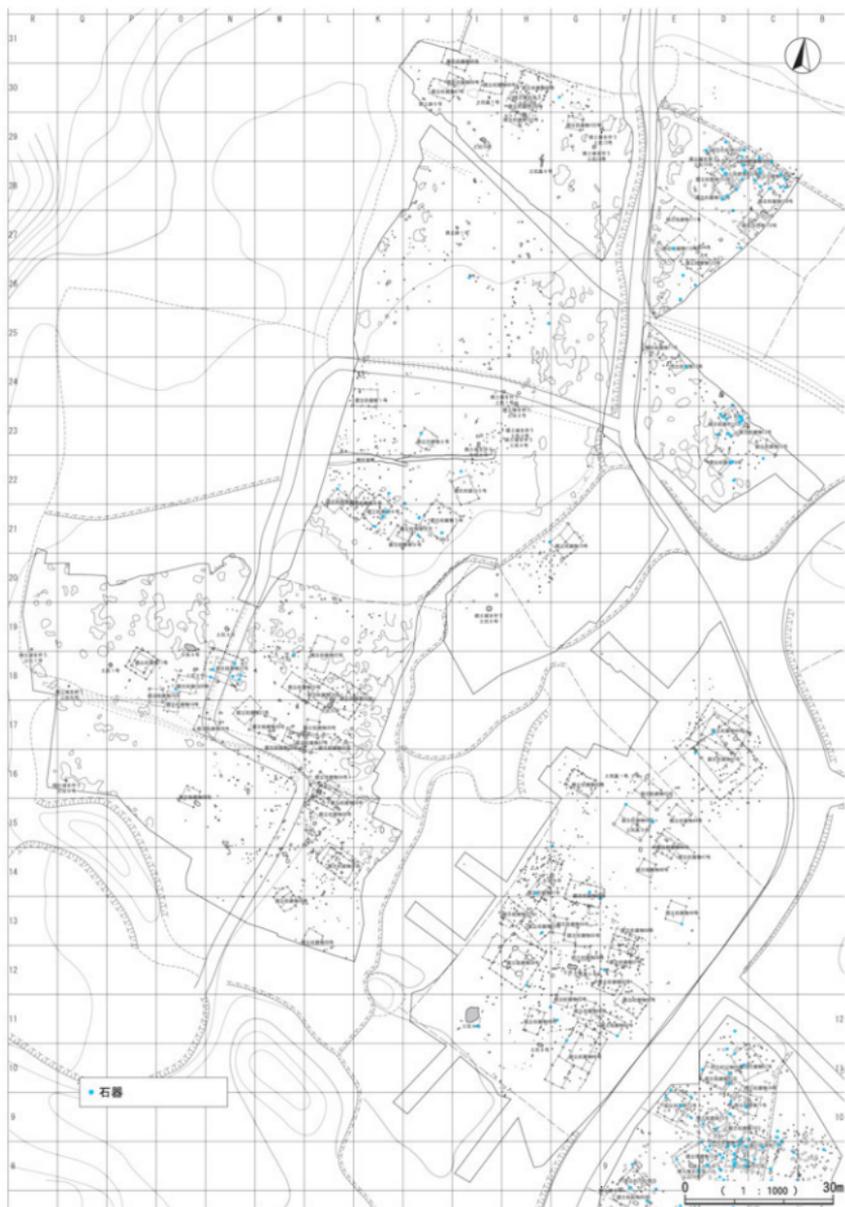
第227図 ビット内遺物出土状況図 (12)



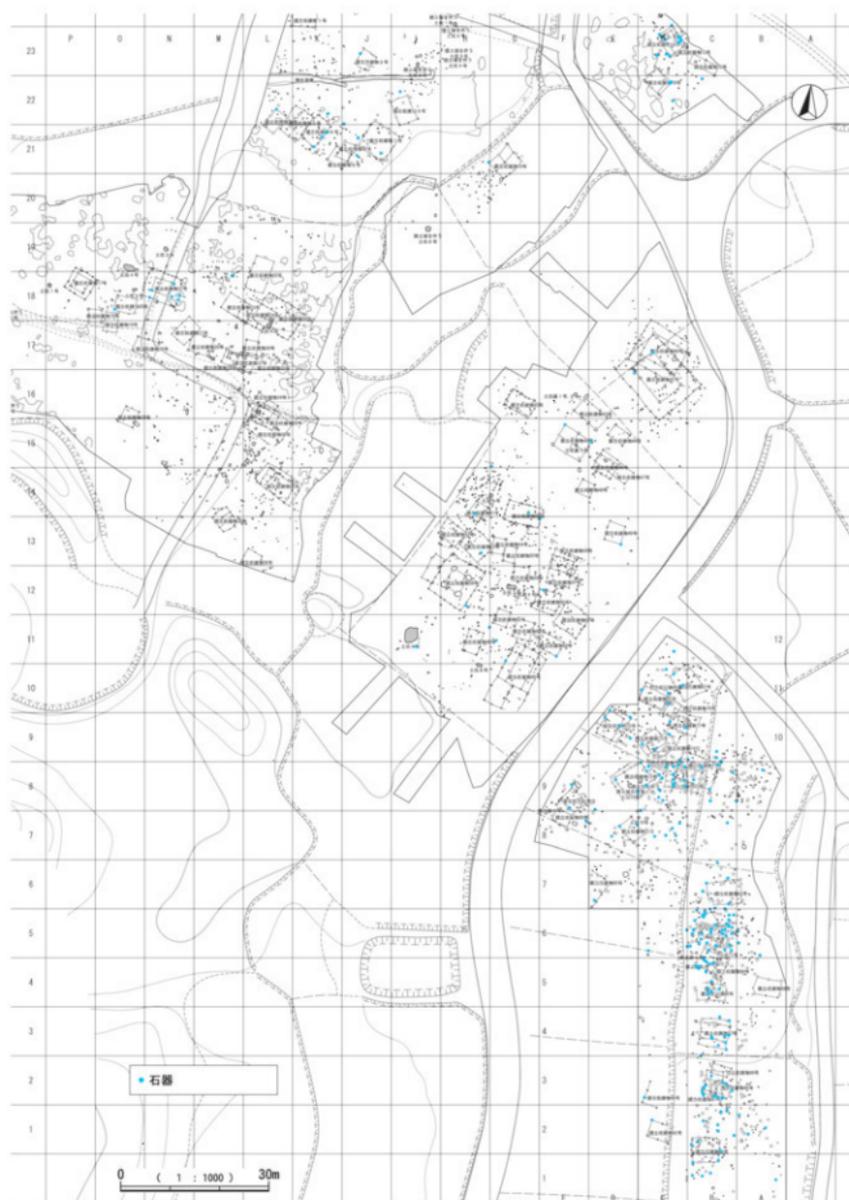
第228図 ビット内遺物出土状況図 (13)



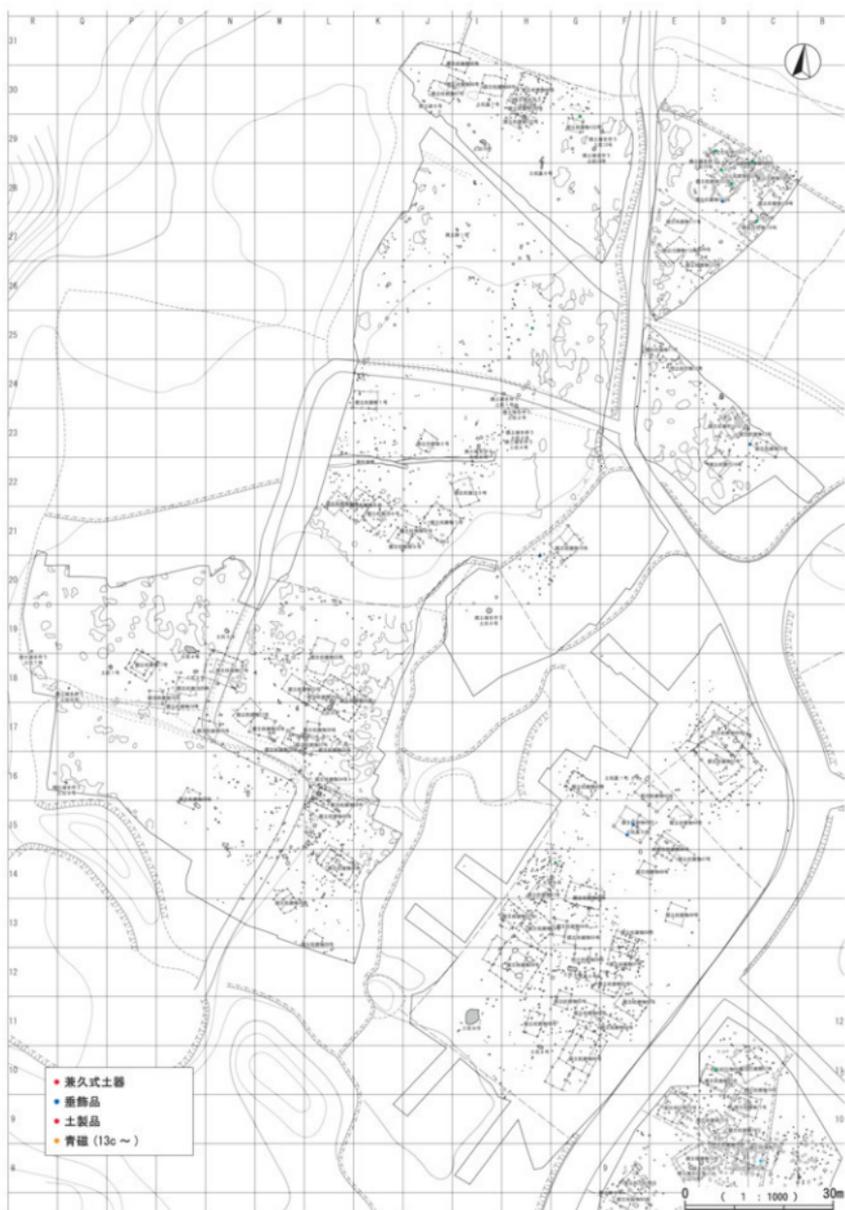
第229図 ピット内遺物出土状況図 (14)



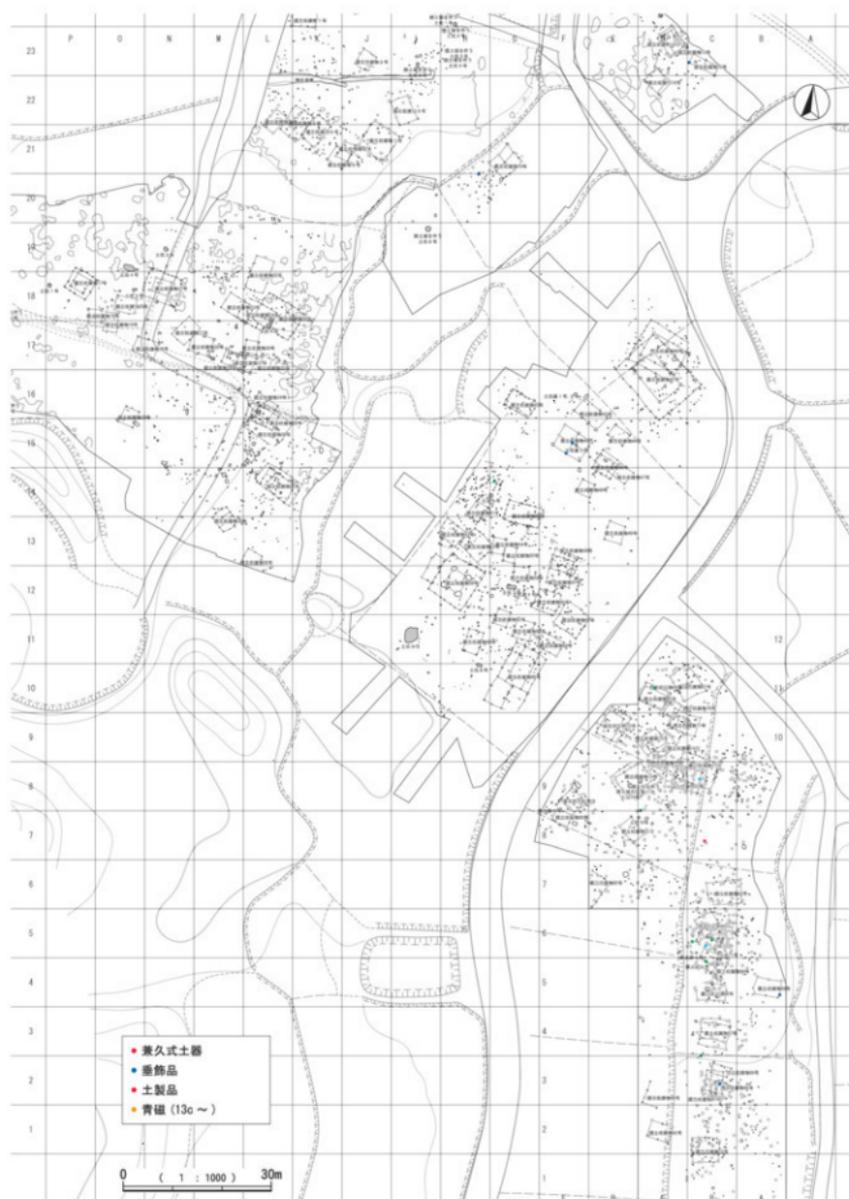
第230図 ビット内遺物出土状況図 (15)



第231図 ピット内遺物出土状況図(16)



第232図 ビット内遺物出土状況図 (17)



第233図 ビット内遺物出土状況図 (18)

## 第四章 総括

山田半田遺跡は県営畑地帯総合整備事業に伴い平成14年から平成20年まで調査を行った。平成17年に調査を行ったB・C地区では大型掘立柱建物跡が検出され、特に重要と見られるB地区の一部とC地区は盛土保存されることとなった。

本遺跡の調査成果については前章までに詳細を述べたが、本章では遺構・遺物などについて若干の考察を加え、まとめとしたい。

### 1 遺構について

#### (1) 各地区の掘立柱建物跡群について

遺構の集中部は石灰岩の露頭が少ない、微高地に遺構群が集中して見られる。各掘立柱建物跡は基盤層である石灰岩が露出する面を避けて構築されており（各詳細図参照）、建物を建てる際に土地の利用に制限があったことを窺わせる。そこでまず、遺構面や石灰岩露出部分、削平部から復元される旧地形を想定し、これらを考慮して地点を設定した（第215図）。なお、A1・B1・B2区は遺物包含層が残存していた範囲である。

また、柱穴内からは古代と中世の遺物が出土しているが、得られた遺物では古代の建物跡は検出できず、区分は困難であった。しかしながら、主軸方向が異なる建物跡が見られることから、区分した地区内においても微妙な時期差・空間差・機能差などがあると予測される。以下、建物跡のまとまりを中心に概観していく。

#### A地区

建物跡が集中していたのはA2、A3地区である。

A2地区では3×2間の建物跡を主体とし、掘立柱建物跡7号のような方形状で比較的大きな建物跡と、1×1間の小型建物跡、3×2間の中型建物跡がセットになると考えられる。3×2間の中型建物跡の梁行は若干張り出している。掘立柱建物跡1号と3号は主軸方向が異なる。

A3地区では2×1間・1×1間の小型建物跡を主体とする。ほぼ同一の主軸方向を持つ。面積の狭さなどから倉庫群であると考えられる。

#### B地区

B地区では掘立柱建物跡17～21号、掘立柱建物跡22～25号・28～32号の2か所にまとまりがある。双方とも北側に面積の広い建物跡を構築。その南側には1×1間・2×1間を中心とした小型の建物跡が見られる。遺物包含層の広がりにはB1、B2地区の2面が確認できた。出土遺物からB2区は中世の時期に比定できる。

#### C地区

C地区では古代相当と考えられる須置器や布目瓦痕土器の出土が少なく、白磁の出土が目立つ。

C1地区では城久遺跡群内で最大規模の建物跡群を検出した。掘立柱建物跡40～49号が該当する。主軸方向は北西-南

東で統一されている。3×2間の大型建物跡に2×2間、3×1間、1×1間などの建物跡が付随する。城久遺跡群の中心施設と考えられる。遺構群は遺物から考えて11世紀後半～12世紀頃に構築された可能性が高い。掘立柱建物跡41号は3×2間の建物跡で周囲を33基の柱穴で取り囲む特徴的な建物跡である。周囲の柱穴は内部の構造柱と柱筋が通らないため、目隠しの塀や欄などを取り付けた建物跡であったと想定している。

C2地区は柱穴が密集し、建物跡群にもばらつきがみられ、C1地区とは様相を異にする。こちらでも3×2間の建物跡が主体である。その中でも特徴的なのは掘立柱建物跡58号である。1×1間の建物跡の周囲に柱穴が32基囲む、特徴的な構造をしている。B地区でも同様の建物跡が見られるが、こちらの方が規模が大きい。柱穴内から遺物は得られなかったため、遺構の性格は定かではないが、柱穴の大きさや平面形状から一般的な建物跡ではなく、神社や塔などの特殊な用途・機能が想定される。

#### D地区

D地区では白磁の出土量が少なく、滑石製石鍋の出土が目立つ。D1地区では庇がつく比較的大きな建物跡と3×2間の建物跡及び2×2間程度の小型建物跡が見られる。これらは主軸方向が異なるため、若干の時期差があると考えられる。D2地区でも庇がつく建物跡と3×2間の建物跡がセットになると見られる。1×1間の建物跡はほとんど見られない。

#### E地区

E1区では3×2間の建物跡を中心とし、大型の方形状建物跡が見られる。主軸方向は北西-南東方向でほぼ統一されている。E2でも3×2間を主体とするが、遺構群の主軸方向は北東-南西方向である。

#### F地区

F地区では建物跡は検出出来なかったが、試掘調査の状況から溝状遺構が周囲に広がる事が確認できており、区画や道跡などの可能性があることから、注意が必要である。また、周辺で実施した確認調査では土層断面に竝柱の痕跡を確認している。今回科学分析を行った結果では十分ではないため、今後周囲を確認する際には注意が必要である。

#### 小結

山田半田遺跡においては3×2間の建物跡が普遍的な建物跡である。その周囲には面積の広い大型建物跡や1×1間の面積の狭い建物跡が組み合わさって建物跡群が展開している。その中で主軸方向には2通り存在し、北西-南東に主軸方向をもつ建物跡群と北東-南西方向に主軸をもつ建物跡群がある。遺物からは両者に明確な時期差は認められないが、若干の時期差を含む可能性がある。C1地区は他の地区とは様相が異なり、周囲より若干高い微高地に立地しており、建物跡の密集が認められず、規格性の高い建物跡が整然と並んでい

る。当道跡で中心的な役割を果たした地区であると考えられる。特に掘立田柱建物跡41号周辺と掘立柱建物跡58号は一般的な住居としての建物跡ではなく、城入道跡群を形成した集団・集落の中心的施設ではないかと推察している。

また、本道跡群では1×1間の建物が数多く検出されている。これらの建物跡は奄美・沖縄地域に現存する高倉と類似しており、同様の機能・性格を有していると推察している。柱間隔等に見られる規格のばらつきは、建物の性格や使用した柱の大きさ、調達できた材木の規格などに規制されている可能性が高い。まっすぐな材木を調達しにくい当地域の地域性とも考えられるが、建物の性格や時期差を示す可能性も考えられる。

今回掘立柱建物跡を113棟検出したが、その機能・性格などについては今後道跡群全体を通じた分析が必要である。

## (2) 土坑墓

土坑墓は7基検出された。火を受けている人骨(焼骨)と受けていない土葬人骨が検出されている。

焼骨は総じて炭化物が混入した塊で検出される場合が多く、壺の外側から検出されている。円形状に見えることから袋や木器など有機質の容器に入れられていた可能性がある。土坑墓5号は他の土坑墓と異なり、副葬されているカムイヤキ壺が小型ではなく、やや大きめであり、焼骨塊は壺の下から出土した。

壺の中に焼骨がみられる事例は古代の鹿児島県本土では広く見られ、それには主に須恵器壺が使用されている(松田・上床2005)。本道跡出土のカムイヤキ壺は中世に属し、壺の内部から焼骨が出土することはない。そのため、蔵骨器というより副葬品としての様相が強い。

土葬墓は土坑墓6号のみで、幅約40cmとかなり窮屈な状態である。伸展葬で埋葬されており、首元には無文銭とガラス玉が副葬されていた。

本道跡の土坑墓の形態は山田中西道跡で分類した円形状土坑墓で焼骨を伴うAタイプがほとんどであり、長方形土坑墓で焼骨を伴うBタイプは確認できなかった。

火葬墓に共通するのは焼骨・副葬品の下に炭化物層を確認できるものがあることである。炭化物層の周辺では被熱部分が検出できていないことから、人為的に敷かれている可能性が高い。また、副葬品はカムイヤキ壺・白磁・ガラス玉等が共通して出土しているが、形状・出土量の違いが被葬者の出自によるものなのか、時間差なのかは現段階では結論を得られない。

火葬墓の年代は白磁の年代観と炭化物や焼骨の科学分析結果を考慮すると11世紀～12世紀頃に比定される。なお、カムイヤキ壺はすべてA群に該当する(新里2003)。

## (3) 焼土跡

焼土跡は5基検出した。焼土跡は以下のように整理できる。

①直径20cm程の小型の円形状を呈し、内部に鉄滓や焼土粒などを含むもの

②不定形な焼土のみを残すもの

①に関してはその形状などから鍛冶炉の可能性が非常に高いと考えている。焼土跡2～4号が該当する。

### (4) 焼土城を伴う土坑

焼土城を伴う土坑は15基検出した。直径1m程の円形状プランを有するものと、やや小型の50-60cm程のプランを有するものがある。埋土は双方とも褐色を呈し、判別がつかないほどである。しかしながら、小型土坑に関しては土坑内から得られた炭化材で年代測定を行った結果、樹種はヤクシマサルズベリで180±30BPが得られ、大型のものに関しては考古地磁気測定によって12世紀終わり頃の年代が与えられている。年代を示す資料が出土していないが、科学分析の結果を考慮すると、大型の焼土城を伴う土坑は中世相当、小型のものは近世の遺構である可能性がある。今後、注意深く検討していきたい。

## 2 遺物について

### (1) 縄文時代相当の遺物

縄文土器がわずかに出土している。蓋徳式土器と縄文時代晩期系の土器と見られるがいずれも中世の包含層中から一括で取り上げられている。縄文時代の遺構は確認できなかった。

### (2) 古代相当の遺物

#### 土師器

土師器は壺がほとんどであり、埴・坏類は少量しか出土していない。埴・坏に関しては胎土が精製されたものが使用されていることなどから、本土からの搬入品であると考えられる。また、70に関しては、器壁が薄く胎土も精製されたものを使用しており、他の土師壺とは様相を異にする。本土から持ち込まれた土器と考えられる。

本道跡出土の土師器壺について整理すると、大きく5つに分類可能である。

①口縁部を舌状に長く外反させ、口唇部分はやや丸味を帯びる。内面に明瞭なケズリをもつもの。

②口縁部がやや立ち上がり、長さは短く、口唇部分は平坦に成形されるもの。内面にケズリを施す。

③口縁部が内傾し、胴部に最大径をもつもの。

④逆L字形口縁をもつもの。

⑤小型土器の一群。

鹿児島県内の土師壺を集成・分類した松田氏の成果を援用すると、口縁部が長いものから短いものへ変遷するとされる。それらはおおむね松田分類Ⅱ～Ⅳ期に比定でき、9～10世紀頃の年代観が与えられている(松田2004)。本道跡から出土した土師壺は柱穴内遺物がほとんどであり、層位的に検証できていないが、上記の傾向が喜界島まで当てはまるとすれば、

①→②へと変遷していく可能性がある。今後、良好な一括資料を通じた検討を行ってきたい。

また、当該期の奄美諸島の在土器である兼久式土器は4点出土した。出土量はごくわずかであり、普遍的ではない。

#### 須恵器

須恵器は壺・甕を主体とし、ごくわずかに碗が見られた。蓋が埋立柱建物跡81号から1点出土した。8世紀中葉頃のものと考えられ、城久遺跡群内では最古の資料である。その他、須恵器片は産地不明のものがほとんどであるが、一部は金峰町中岳山麓古宮跡群の須恵器に類似していることが指摘されている。現段階では9世紀以降のものであると考えている。

須恵器の破片を加工した転用品も多く出土している。砥石の代わりに使用されたのか破断面や器面が磨かれているものがほとんどであった。視として使用されている可能性もある。

#### 初期貿易陶磁器

初期貿易陶磁器は越州窯系青磁Ⅰ・Ⅲ類が相当する。そのなかでも越州窯系青磁Ⅲ類は日本本土でも出土量は多くなく、大宰府・大宰府鴻臚館・平安京など限られた地域でしか出土しないとされる(註1)。現在まで山田半田遺跡で13点・山田中西遺跡でも6点計19点確認している。

#### 広域流通品

東美濃産灰釉陶器が出土している。型式は虎渓山1号窯式で10世紀後半頃の製品であるとされる(註2)。現在までの城久遺跡群の調査では本品以外に灰釉陶器は確認できておらず、今後他の広域流通品も含めた確認作業が必要である。

### (3) 中世相当の遺物

#### 中世前期の貿易陶磁器

出土した中世前期の陶磁器には白磁・青磁が認められる。白磁は大宰府分類Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ類、ⅧⅠ類、龍泉窯系青磁はⅠ・Ⅱ類、初期高麗青磁はⅢ類が出土している。出土した中で白磁Ⅳ・Ⅴ類がほとんどであり、11世紀後半～12世紀頃を主体とする。

初期高麗青磁については集積が行われており、これまでの出土例では熊本県阿蘇地域が南限とされていた(山本2001、降矢2002)が、城久遺跡群での出土により南限を大きく広げる事例となった。

#### 無釉陶器

朝鮮系無釉陶器については、北部九州を中心に研究がなされ、本土系須恵器と胎土や焼成、調整等が異なる点を手がかりに分類されている(山本2003、山崎1993、赤司1991)。

南西諸島出土の朝鮮系無釉陶器は新里氏により、カムイヤキ窯産以外の製品として3点紹介されている(新里2003)。カムイヤキと朝鮮系無釉陶器は非常に類似しているが、胎土・調整方法から判別は可能であると見られ、本報告ではA～C群として捉えた(註3)。朝鮮系無釉陶器の特徴を列記すると以下の通りである。総じて焼成が良く、胎土は精良で

非常に緻密である。割れ口の断面を観察すると、胎土が緻密であるため破面は凹凸が少なく滑らかな印象を受ける。色調はアズキ色を基調とするが、乳白色の筋が堆積状に入る。そのため、胎土の色調は薄茶または桃色がかったアズキ色を呈する。混和材をほとんど含まないものと、砂粒が混ざるもの両者があり、両者は精製・粗製の差であるとみられる。また、内外面ともに丁寧なナデが施されているため、当て具痕・叩き具痕はほとんど消されているが、網格子目状の叩き具痕が残るもの、幅広の平行線状の当て具痕が残るものがある。

カムイヤキは総数327点出土した。朝鮮系無釉陶器と比べ胎土は粗く、混和される砂粒の量も多い。割れ口の破面は凹凸が認められ、隙間も多い。ナデ調整が徹底されていないため、内外面ともに成形痕を多く残している。表面には波状沈線文、綾形状の叩き痕、内面に格子目、扇子状の当て具痕が認められる。これらの特徴はカムイヤキA群に分類される(伊仙町教育委員会2005)。年代的には11世紀後半代から13世紀前半代頃に位置付けられる資料群である。

#### 滑石製品

滑石製石鍋は403点出土している。出土した総重量は約16kgである。山田中西遺跡とも含めると約29kgと卓越した出土量である。出土した滑石製石鍋は椀形を有するもののみであり、木戸福年Ⅱ類(11世紀頃)に、山本・山村の福年中世Ⅰ期(11世紀後半～12世紀前半)に該当する(木戸1995、山本・山村1997)。なお、現在までに鈔のある石鍋は出土していない。

滑石製石鍋に対しては様々な加工が施されており、すり切り技法を用いた痕跡や穿孔が施されていた。穿孔部には鉄が混入したままの状態のものがあり、その使用法や搬入方法などについては今後の検討課題である。

二次加工品に関しては、バレン状(スタンプ状)・棒状・鎌状など様々な形がある。バレン状製品は平面を方形状もしくは円形に加工し、つまみ部分に横位貫通穿孔が施されているのが特徴である。つまみ部分の穿孔が所の上部から破損しているものが多い。宮崎県八尾遺跡では補修具としての利用方法が発見されており、つまみ部分上部が破損していることは補修具として使用されていた可能性がある。

また、南西諸島では滑石粉を混入した土器が出土する。本報告では椀形の滑石製石鍋を忠実に模倣した製品と、逆L字状の口縁を持つ土器の壺を模倣したと考えられる製品と、ベタ底の底部が出土している。滑石混入土器はいわゆるグスタク土器との関連性をも含めて検討を行う必要がある。

### 3 まとめ

山田半田遺跡は出土遺物から見ると、土師器・須恵器・越州窯系青磁などの出土から、9・10世紀頃から展開し始め11世紀後半～12世紀頃に最盛期を迎えると考えられる。龍泉窯

系青磁などがほとんど見られないことから、13世紀代には衰退していくと見られる。

遺跡の主体は、11世紀後半～12世紀頃であり、遺構もほとんどがこの時期に比定される。調査でも明確な古代の遺構を捉えることができなかったが、古代相当遺物が見られることなどから、古代の建物跡が混在している可能性がある。

C1区では規格性を有する大型建物跡群が検出されており、城入遺跡群内において中心的な役割を果たした建物跡群であると考えられる。なお、この地点では柱痕跡のある柱穴から白磁が出土しており、11世紀後半～12世紀頃の建物跡であると推定している。建物跡に関してはいくつかグルーピングが可能で、主軸方向の異なる建物跡が見られた。建物跡から出土した遺物は11世紀後半～12世紀頃が中心である。本報告の建物跡は柱痕跡が確認できた建物跡は少なく、廃棄後に混入したものが多いと見られる。建物跡が建てられた際に混入した遺物なのか、廃棄された後混入したものなのか今後精査をしていくことにより、主軸方向の違い建物跡群が同時多発的に存在するのか、時間差を持って展開するのか、検討を深めていきたい。

墓制には火葬と土葬がある。火葬は円形状土坑墓を検出した。本稿では土坑墓の変遷などについて言及できなかったが、城入遺跡群全体では40例を超える検出割合がすでに蓄積されており、改めて論じていきたい。

出土遺物はほとんどが島外産のもので占められていることが特徴である。中でも、南西諸島では出土例の少ない越州窯系青磁・初期高麗青磁・朝鮮系無軸陶器などがまとまって出土した。鹿児島県内でもセットで出土した事例はなく、特に越州窯系青磁の出土量の多さは注目される。土師器・須恵器は古代相当であると考えているが、柱穴内から白磁やカムイヤキ・滑石製石鍋等と混入した状況で検出されることもあることから、中世段階で残る可能性があり、注意が必要である。土師器に関しては細分が可能であると見られ、今後検討を深めていきたい。

山田半田遺跡は本土系の遺物を主体とする、当該期の奄美諸島ではみられない遺物組成をもつ遺跡である。今後城入遺跡群全体の資料整理を通して各遺跡の評価・性格などを論じていきたい。

## 註)

- 1) 太宰府市教育委員会中島恒次郎氏の御教示による
- 2) 広島県立博物館鈴木康之氏、静岡大学柴垣勇夫氏、愛知学院大学藤澤良祐氏の御教示による
- 3) 伊仙町教育委員会新里亮人氏の御教示による

## 引用・参考文献

- 赤司善彦 1991「朝鮮系無軸陶器の流入－高麗期を中心として－」『九州歴史資料館研究論集』16
- 池田榮史 2007「律令体制の南進問題」『季刊考古学』第100号
- 伊仙町教育委員会 2005「カムイヤキ古窯跡Ⅳ」伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書12
- 池畑耕一 1998「考古資料から見た古代の奄美諸島と南九州」『渡辺誠先生還暦記念論集列島の考古学』
- 亀井明徳 1993「南西諸島における貿易陶磁器の流通経路」『上智アジア学』第11号
- 喜界町教育委員会 2006「城入遺跡群山田中西遺跡Ⅰ」喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(8)
- 喜界町教育委員会 2008「城入遺跡群山田中西遺跡Ⅱ」喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)
- 木戸雅博 1993「石鍋の生産と流通について」『中近世土器の基礎研究Ⅸ』
- 新里亮人 2003「琉球列島における商業生産の成立と展開」『考古学研究』第49巻第4号
- 狭川真一 2008「城入遺跡群の中世墓」『古代中世の境界領域－キカイガシマの世界－』高志書院
- 高梨修 2007「第5章第4節9交易・10古代の南島」『先史・古代の鹿児島通史編』
- 太宰府市教育委員会 2000「大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－」太宰府市の文化財第49集
- 中村和美 1997「鹿児島県内における古代の在地土器」『鹿児島考古』第31号
- 中島恒次郎 2008「大宰府と南島社会」『古代中世の境界領域－キカイガシマの世界－』高志書院
- 降矢哲男 2002「韓半島産陶磁器の流通－高麗時代の青磁を中心に－」『貿易陶磁研究』22
- 松田朝由 2004「高麗遺跡 第Ⅲ章 まとめ 第1節 土器の製作技術と土器様相」『九葉岡・甕塚・高麗遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター(71)
- 松田朝由・上床真 2005「鹿児島県内の蔵骨器について」『財部城ヶ尾遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター(90)
- 山崎純男 1993「鴻臚館跡Ⅲ」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第355集』
- 山本信夫・山村信榮 1997「中世食器の地域性－九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』71
- 山本信夫 2003「東南アジア海域における無軸陶器」『貿易陶磁研究』23
- 大和書房 2007「東アジアの古代文化」130号

# 写真図版





道路周辺風景（奄美大島を望む）

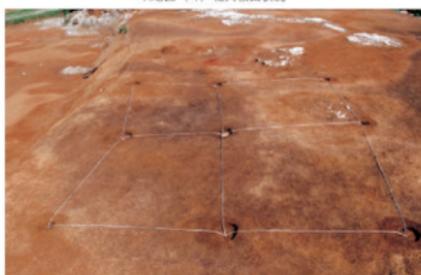
図版2



A地区調査前風景



A地区(4)柱穴検出状況



掘立柱建物跡10号検出状況



土層断面



焼土域を伴う土坑2号検出状況



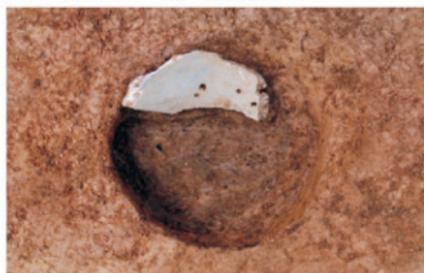
焼土跡1号検出状況



溝状遺構検出状況



溝状遺構完掘状況



柱穴内遺物出土状況 (1)



柱穴内遺物出土状況 (2)



L-16区付近遺構検出状況



掘立柱建物跡17号検出状況

图版 4



土坑 4 号 検出状況



土坑 4 号 完掘状況



土坑 5 号 完掘状況 (1)



土坑 5 号 完掘状況 (2)



土坑 1 号 半掘状況



土坑 2 号 半掘状況



土坑 2 号 検出状況



C地区独立柱建物跡検出状況



独立柱建物跡41号検出状況

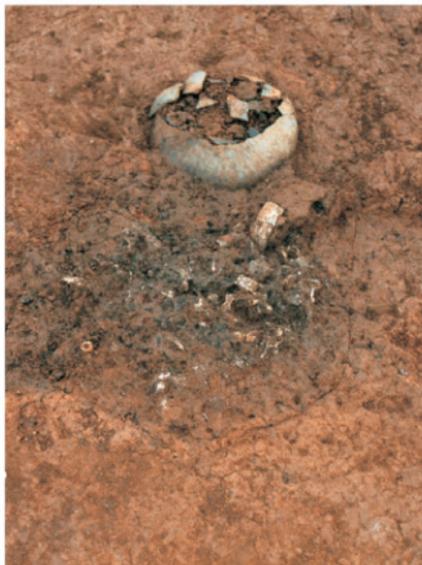


独立柱建物跡58号検出状況

图版6



掘立柱建物跡43号検出状況



土坑基3号副葬品出土状況



土坑基3号検出状況



土坑基1号検出状況



土坑基2号副葬品出土状況(2)



土坑基2号副葬品出土状況(1)



土坑基2号半截状況



土坑 9 号 坑出状况



土坑 9 号 堆積状况



土坑 6 号 坑出状况



土坑 7 号 半截状况



D 地区 柱穴 坑出状况



土坑基 5 号 坑出状况



土坑基 5 号 剖群品出土状况

图版 8



土坑基12号遺物出土状况



燒土跡3号半截状况



柱穴内遺物出土状况



土坑基6号人骨出土状况



土坑基6号副葬品出土状况



土坑15号検出状况



土坑15号完掘状况



土坑17号検出状況(1)



土坑17号検出状況(2)



F地区道横検出状況



F地区土層断面



平成18年調査 2トレンチ検出状況



平成18年調査 2トレンチ土層断面



文化庁坂井調査官 現地指導



熊本大学甲元先生 現地指導



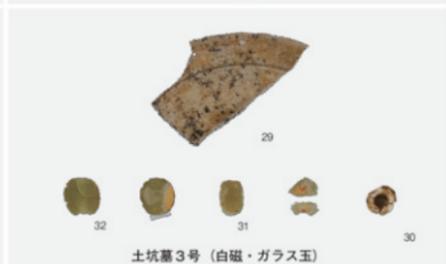
土坑墓1号



土坑墓2号



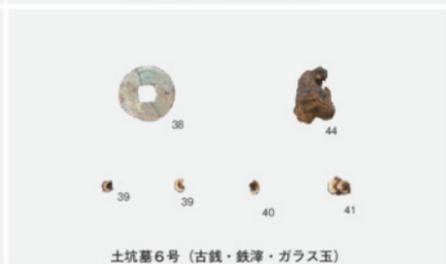
土坑墓3号 (カムイヤキ)



土坑墓3号 (白磁・ガラス玉)



土坑墓5号 (カムイヤキ)



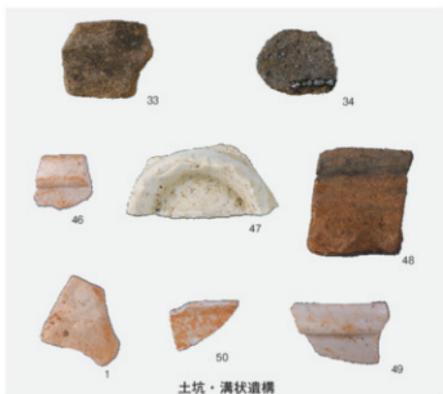
土坑墓6号 (古銭・鉄滓・ガラス玉)



土坑11号 (カムイヤキ)



ガラス玉



土坑・溝状遺構

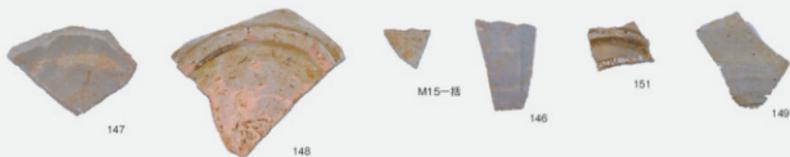


土師器甕



土師器・黒色土器





越州窯系青磁 (1)



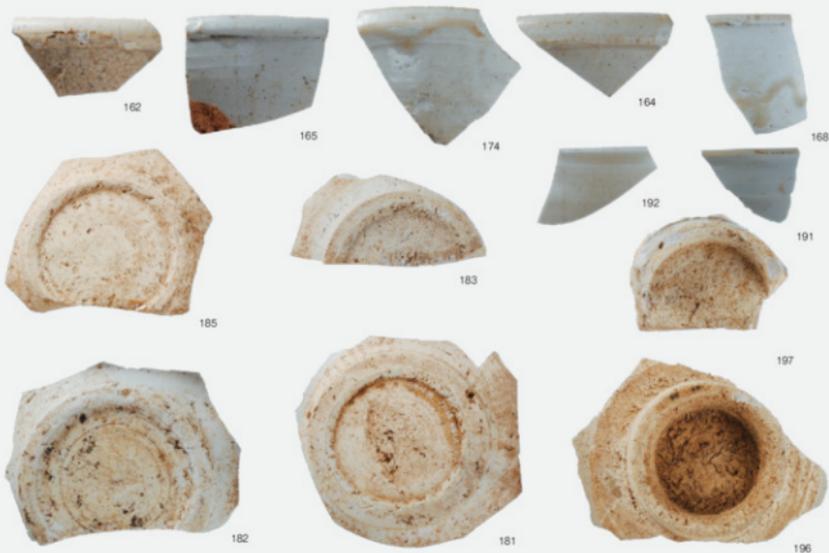
布目庄灰土器



越州窯系青磁 (2)



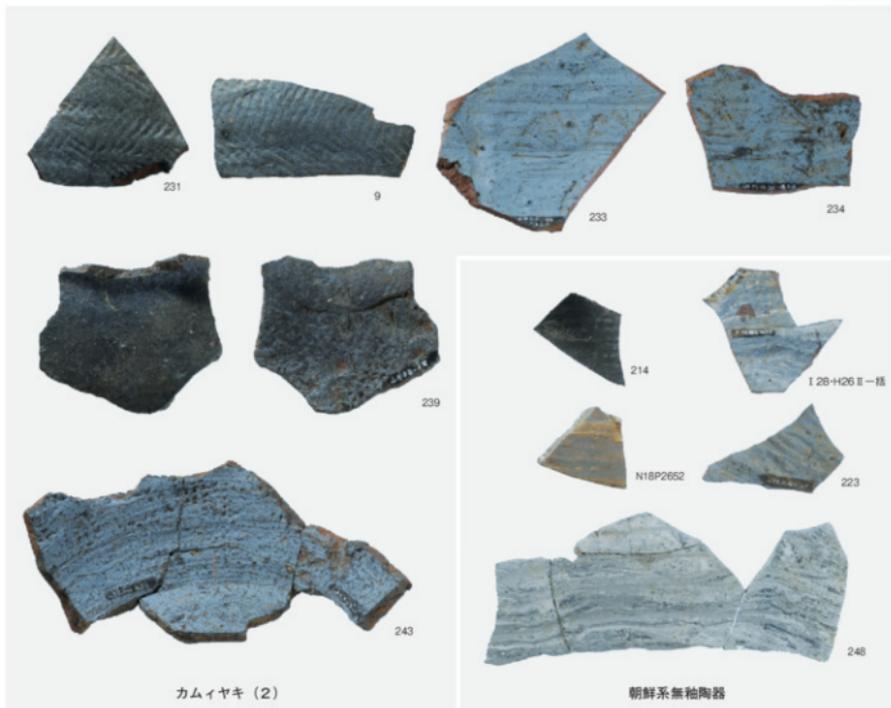
初期高麗青磁



白磁



カムイヤキ (1)



カムイヤキ (2)

朝鮮系無釉陶器



滑石混入土器



298

滑石製石鍋 (1)



299



316



308

滑石製石鍋 (2)



滑石製二次加工品



灰袖陶器





452



451



450



458



454



457



449



455



462



459

石器

## あとがき

平成14年から開始された城久遺跡群の調査では様々な発掘調査成果が得られてきた。そのなかで平成17年に調査をした山田半田遺跡は初めて担当した現場であった。現場に追われ、行政職の難しさを感じた年であった。重要な調査成果が得られた部分は集落の皆様の同意を得ることができ、なんとか盛土で保存することができた。盛土保存した場所の一部分は町が購入し、今年町指定文化財に指定された。今後活用を図っていきたい。

報告書作成にあたっては県文化財課、県立埋蔵文化財センターなど関係機関のご協力・ご指導を賜った。また、発掘調査にご協力をいただいた地元の皆様、ともに発掘作業や整理作業を行った作業員、いつも叱咤激励してくれる上司や同僚の支えがなければ刊行することは難しかったと思う。記して感謝の意を示したい。

(野崎)

### 発掘調査作業員

東和子・稲崎明和・生田英一・伊藤勝啓・井上惺・井上多美子・上岡洋子・一渡章  
勝田志津夫・川村洋子・菊永秀子・木村タミエ・久保元子・具志堅亮・幸得西寛  
裕光子・近藤時義・榮基治・坂元小百合・相良比佐子・佐倉茂久・佐藤正喜・芝山静男  
下田一夫・澄田勝敏・園田義久・竹田一典・玉利トヨ子・田村三津子・田畑武臣  
大喜慶隆・大喜義隆・輝富剛・徳勝夫・萬利一・萬田善男・知久初・豊田スエ子  
土岐和貴・土岐宏大・土岐豊和・中山とき子・成田喜代美・西原光則・西村義一  
元基治・濱上行正・馬場繁蔵・関えり子・福島誠・藤井明廣・藤田昌宏・藤山次男  
籠真利子・舞島照代・増田好明・三浦輝久・南薫輔・嶺啓一・宮広和・宮城光雄  
村上一夫・基井安野・本山浩倫・安原アヤ子・山元つね子・行島浩子・吉久美子  
吉岡光則・吉川義造・吉崎義一・吉田節子・吉野義昭・吉山信夫

### 整理作業員

大野行枝・坂元辰明・坂元ちえみ・竹本里子・長島純子・成田喜代美・登早苗  
浜崎節代・林田園美・秀島博己・肥後直美・藤岡明日香・政井由美子・米田真由美  
(五十音順・敬称略)

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)

一 領地帯総合整備事業(担い手育成型)城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

## 城久遺跡群

### 山田半田遺跡

(山田半田A遺跡・山田半田B遺跡)

発行日 2009年3月19日

編集・発行 喜界町教育委員会

〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746

印刷 潤上印刷株式会社

〒892-0845 鹿児島市樋之口町6-6